第二輯

帝國議會

第二輯

帝國議會

第二輯　帝國議會

第一章　議院法

○議院法（明治二二、法律二）……一

第二章　貴族院

○貴族院令（明治二二、勅令一一）……三
○貴族院令中直接國税種目（明治二二、勅令四一）……四
○貴族院伯子男爵議員選擧規則（明治二二、勅令七八）……四
○貴族院帝國學士院會員議員互選規則（大正一四、勅令二三三）……四
○貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル件（大正一四、閣令五）……五
○貴族院令第六條ノ規定ニ依ル貴族院多額納税者議員ノ北海道各府縣ニ於ケル定數（大正一四、六、一九、詔書）……五
○貴族院多額納税者議員互選規則（大正一四、勅令二三四）……五
○貴族院多額納税者議員互選規則施行細則（大正一四、内令一二）……七
○貴族院多額納税者議員互選規則取扱方（明治二三、内訓七）……一一
○貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律（大正一四、法律四八）……一一
○貴族院多額納税者議員選擧立會人ニ對スル費用辨償及互選ニ關スル費用ノ件（大正一四、内令一三）……一一
○貴族院議員資格及選擧爭訟判決規則（明治二三、勅令二二一）……一一
○貴族院議員ノ選擧ニ應シタル者ノ兼務スルヲ得サル宮内官職（明治二三、宮達一二）……一二

第三章　衆議院

○衆議院議員選擧法（大正一四、法律四七）……一二
○衆議院議員選擧法施行令（大正一五、勅令三）……二二
○衆議院議員選擧法施行規則（大正一五、内令四）……二九
○選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件（大正一五、内令五）……三六
○衆議院議員選擧法施行令第二十六條第四號ニ掲クル事由ニ關スル證明ノ件（大正一五、陸令一）……三六
○衆議院議員選擧法施行令第二十八條第一項第四號ノ部隊等ニ關スル件（大正一五、海令一）……三六
○選擧無料郵便規則（大正一五、遞令四）……三六
○衆議院議員選擧法（明治三三、法律七三）……三七
○衆議院議員選擧法施行令（明治三四、勅令一八六）……四六
○衆議院議員ノ選擧權ニ關スル法律（大正一五、法律五五）……四七
○市町村境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル衆議院議員選擧ノ施行ニ關スル件（大正一五、勅令二六六）……四七
○北海道ノ區以外ノ地ニ衆議院議員選擧法施行ノ件（明治三六、勅令一〇五）……四七
○北海道衆議院議員選擧特例（大正九、勅令三八）……四七
○沖繩縣ニ衆議院議員選擧法施行（明治四五、勅令五八）……四七
○衆議院議員選擧法ニ依リ市町村外ニ於テ納ムル直接國税證明ニ關スル件（大正九、内令二）……四八
○衆議院議員選擧法第二十七條ノ選擧人名簿ニ關スル件（明治三四、内令二八）……四八
○衆議院議員選擧法ニ依ル選擧人名簿投票用紙封筒及投票函樣式（明治三四、内令二九）……四八
○衆議院議員選擧法及同施行令ニ就テノ事務及書式等取扱方（明治三四、内訓一四）……四九

第二輯

帝國議會

第二輯　帝國議會

第一章　議院法

●議院法（明治二十二年二月十一日法律第二號）

改正　明治三三年第一〇〇號、三九年第四九號
大正五年第四〇號、九年第八號、一四年第三二號
昭和二年第五三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各〻本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス（各大臣、樞密院議長副署）

議院法

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會

第一條　帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條　衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各〻三名ノ候補者ヲ選擧セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルヽマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條　各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ毎部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條　兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章　議長書記官及經費

第七條　各議院ノ議長副議長ハ各〻一員トス

第八條　衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條　衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條　各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條　議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條　議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條　各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條　各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條　各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルヽマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條　各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

第十七條　書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事錄及其ノ他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員中判任官以下ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條　兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章　議長副議長及議員歲費

第十九條　各議院ノ議長ハ歲費トシテ七千五百圓副議長ハ四千五百圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ三千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歲費ヲ辭スルコトヲ得

官吏ニシテ議員タル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歲費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第十九條ノ二　各議院ノ議長副議長及議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無賃ニテ國有鐵道ニ乘車スルコトヲ得

第四章　委員

第二十條　各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條　全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選擧ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條　全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條　各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條　各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章　會議

第二十六條　各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條　政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條　凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條　兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルヽモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章　停會閉會

第三十三條　政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條　衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條　帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ擧行スヘシ

第七章　祕密會議

第三十七條　各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一　議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二　政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條　議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヰスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條　祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章　豫算案ノ議定

第四十條　政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

豫算案カ貴族院ニ移サレタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

各議院ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ議決ヲ以テ審査期間ヲ延長スルコトヲ得但

シ其ノ期間ハ通シテ五日ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十一條　豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章　國務大臣及政府委員

第四十二條　國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條　議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條　委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條　國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條　常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條　議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章　質問

第四十八條　兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

第四十九條　質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サヽルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條　國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章　上奏及建議

第五十一條　各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條　各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章　兩議院關係

第五十三條　豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ內何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條　甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條　乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條　兩院協議會ハ兩議院ヨリ各〻十人以下同數ノ委員ヲ選擧シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條　國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條　兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條　兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ヰ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條　兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各〻一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　本章ニ定ムル所ノ外兩議院交涉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章　請願

第六十二條　各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條　請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審查セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條　請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條　各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條　法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條　各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條　請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條　請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヰ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヰルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條　各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條　各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章　議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條　各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條　各議院ハ審查ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條　各議院ヨリ審查ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條　各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章　退職及議員資格ノ異議

第七十六條　衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條　衆議院ノ議員ニシテ選擧法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條　衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審查セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條　裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審查スルコトヲ得ス

第八十條　議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルヽニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審查ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章　請暇辭職及補闕

第八十一條　各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條　各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ屆出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條　衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條　何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選擧ヲ求ムヘシ

第十七章　紀律及警察

第八十五條　各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲內部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條　各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條　會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會

議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條　議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條　傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條　議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條　各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條　各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條　議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章　懲罰

第九十四條　各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條　各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審查スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審查セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條　懲罰ハ左ノ如シ

一　公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二　公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三　一定ノ時間出席ヲ停止ス

四　除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條　衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條　議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條　議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間內ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間內ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

第二章　貴族院

●貴族院令（明治二十二年二月十一日勅令第十一號）

改正　明治三八年第五八號、四二年第九二號　大正七年第二二號、一四年第一七四號

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

（各大臣、樞密院議長副署）

貴族院令

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各〻其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　帝國學士院ノ互選ニ由リ勅任セラレタル者

六　北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿三十歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

前項ノ議員ハ勅許ヲ得テ議員タルコトヲ辭スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ議員タルコトヲ辭シタル者ハ勅命ニ依リ再ヒ議員トナルコトヲ得

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歲ニ達シ各〻其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人、子爵六十六人、男爵六十六人トス

第五條　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス

第一項ノ議員身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ貴族院ニ於テ其ノ旨ヲ議決シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

前項ノ議決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第五條ノ二　滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　滿三十歲以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以內トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選擧每ニ人口ニ應シ勅命ヲ以テ之ヲ指定ス

第七條　削除

第八條　貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條　貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條　議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ確定シタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條　此ノ勅令ニ定ムルモノヽ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條　將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

附　則（大正十四年勅令第百七十四號）

本令中第四條ノ改正規定竝第一條第六號及第六條ノ改正規定ハ各大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ改正規定ハ其ノ最初ニ行フ通常選擧ノ期日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ改正規定施行ノ際現ニ第一條第二號ノ規定ニ依リ議員タル者ハ第三條第一項ノ改正規定ニ拘ラス議員タルヘシ

從前ノ第一條第五號ノ規定ニ依リ勅任セラレタル議員ニシテ大正十四年ニ於テ任期終了スヘキ者ノ任期ハ仍從前ノ規定ニ依ル其ノ任期ノ終了カ同年ニ於テ行フ同條第六號ノ改正規定ニ依ル議員ノ通常選擧ノ期日ヨリ前ナル場合ニ於テハ其ノ期日ノ前日迄任期ヲ延長ス

明治二十三年二月二十八日勅令

朕曩ニ公布セシムル所ノ貴族院令竝ニ貴族院伯子男爵議員選擧規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未タ一般ノ地方制度ヲ準行セサル【北海道沖繩縣及】小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ效力ヲ及ホサス

【貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選擧期ニ於テ各〻左ノ員數ヲ選擧スヘシ】

【伯爵】【十五人】

【子爵】【七十人】

【男爵】【二十人】（總理、內務大臣副署）

●貴族院令中直接國稅種目

明治二十二年三月二十七日勅令第四十一號
改正　明治二九年第二六三號　昭和二年第一六號

朕衆議院議員選擧法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副署）

貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租

所得稅

營業稅及營業收益稅

●貴族院伯子男爵議員選擧規則

明治二十二年六月五日勅令第七十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選擧規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ（總理大臣副署）

貴族院伯子男爵議員選擧規則

第一條　伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各〻其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選擧ス

第二條　神官及諸宗ノ僧侶又ハ敎師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條　左ノ項ノ一ニ觸ルヽ者ハ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

一　瘋癲白癡ノ者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條　貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選擧ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條　【爵位局長官】ハ選擧ノ期日ヨリ五十日前ニ選擧資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選擧資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選擧管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條　選擧ハ伯子男爵ノ選擧資格ヲ有スル者ヨリ各〻一人ノ選擧管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選擧管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル每ニ之ヲ改選スヘシ

選擧管理者ハ選擧及被選ノ權ヲ妨ケラルヽコトナシ

第八條　各選擧管理者ハ選擧人ノ中ヨリ各〻其ノ同爵ノ選擧立會人三人以上ヲ指定シテ選擧會場ニ參會セシムヘシ

第九條　選擧ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條　選擧人ハ自ラ選擧會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條　選擧人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選擧會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選擧人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條　投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條　前數條ニ揭ケタル者ノ外選擧ニ關ル一切ノ規程ハ選擧資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條　當選人確定シタルトキハ選擧管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條　選擧管理者ハ選擧明細書ヲ作リ選擧ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選擧ヲ行フノ手續ハ通常選擧ノ例ニ同シ

第十七條　補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條　貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以內トス

第十九條　選擧ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

●貴族院帝國學士院會員議員互選規則

大正十四年六月十九日勅令第二百三十三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院帝國學士院會員議員互選規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

第一條　貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選擧ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス

第二條　貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ選擧ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ

第三條　選擧ニ關スル事項ハ內閣總理大臣之ヲ管理ス

第四條　選擧ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第六條　帝國學士院長ハ選擧管理者ト爲リ選擧ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條　帝國學士院長ハ選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發スヘシ

第八條　互選人ハ選擧會場ニ於テ選擧管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選擧人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條　互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若ハ疾病傷痍ニ因リ選擧ノ當日選擧會場ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得

第十條　前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選擧管理者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ屆出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間內ニ屆出ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ選擧ノ期日ノ前日迄ニ屆出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ選擧管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付スヘシ

第十一條　前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選擧人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ノ終了スル時迄ニ到達スル樣書留郵便ヲ以テ選擧管理者ニ之ヲ送付スヘシ

投票用紙及投票用封筒ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十二條　選擧管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選擧會場ニ於テ投票ノ時間內ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ

第十三條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ選擧ノ期日、選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第十四條　投票終ルノ後選擧管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢スヘシ

第十五條　投票ノ拒否及效力ハ選擧管理者之ヲ決定ス

第十六條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七　貴族院帝國學士院會員議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當スル部分ノミヲ無效トス

第十七條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ以テ總被選擧人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會場ニ於テ選擧管理者互選人ノ面前ニ於テ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條　第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條　貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選擧ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧管理者之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ選擧管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選擧管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧管理者ニ屆出ツヘシ

當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十一條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人ノ氏名ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條　選擧管理者ハ選擧錄ヲ作リ選擧ニ關スル顚末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ內閣總理大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ內閣總理大臣ハ選擧錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條　投票ハ有效無效ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒、選擧錄其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條　當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第十九條ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選擧ノ期日、選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

第二十五條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條　前二條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第二十八條　貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以內トス但シ閉院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以內ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以內ニ出訴スルコトヲ得

附　則

本令ハ貴族院令第五條ノ二ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル件

大正十四年八月二十一日閣令第五號

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル件左ノ通定ム

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ樣式ハ帝國學士院長之ヲ定メ內閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●貴族院令第六條ノ規定ニ依ル貴族院多額納稅者議員ノ北海道各府縣ニ於ケル定數

大正十四年六月十九日詔書

朕貴族院令第六條ノ規定ニ依リ貴族院多額納稅者議員ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ヲ左ノ通指定ス

北海道	二人
東京府	二人
京都府	二人
大阪府	二人
神奈川縣	二人
兵庫縣	二人
長崎縣	一人
新潟縣	二人
埼玉縣	二人
群馬縣	一人
千葉縣	二人
茨城縣	二人
栃木縣	一人
奈良縣	一人
三重縣	一人
愛知縣	二人
靜岡縣	二人
山梨縣	一人
滋賀縣	一人
岐阜縣	一人
長野縣	二人
宮城縣	一人
福島縣	二人
岩手縣	一人
青森縣	一人
山形縣	一人
秋田縣	一人
福井縣	一人
石川縣	一人
富山縣	一人
鳥取縣	一人
島根縣	一人
岡山縣	二人
廣島縣	二人
山口縣	一人
和歌山縣	一人
德島縣	一人
香川縣	一人
愛媛縣	一人
高知縣	一人
福岡縣	二人
大分縣	一人
佐賀縣	一人
熊本縣	二人
宮崎縣	一人
鹿兒島縣	二人
沖繩縣	一人

（總理大臣副署）

●貴族院多額納稅者議員互選規則

大正十四年六月十九日勅令第二百三十四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、司法大臣副署）

貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條　貴族院令第六條ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ互選人名簿調製ノ期日迄引續キ一年以上北海道又ハ各府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス

互選人ヲ定ムルニ當リ納稅額同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ地方長官抽籤シテ之ヲ定ム

第二條　左ニ掲クル者ハ互選人タルコトヲ得ス

一　禁治産者及準禁治産者

二　破産者ニシテ復權ヲ得サル者

三　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

五　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第三條　陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ互選人タルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

前項ノ規定ハ陸軍各部依託學生生徒、海軍軍醫學生、藥劑學生、主計學生、造船學生、造機學生、造兵學生竝海軍豫備生徒及海軍豫備練習生ニハ之ヲ適用セス

第四條　地方長官ハ選擧ヲ行フ年ノ六月一日ノ現在ニ依リ北海道又ハ各府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選人名簿ニハ互選人ノ氏名、職業、本籍、住居、生年月日、土地或ハ工業商業ニ付納ムル直接國税ノ細別及總額竝納税地等ヲ記載スヘシ

第五條　地方長官ハ七月二十日ヨリ十五日間北海道廳又ハ各府縣廳ニ於テ互選人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

地方長官ハ互選人名簿ノ縱覽開始ノ後直ニ其ノ寫ヲ公示スヘシ

第六條　互選人名簿ニ脫漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ互選人ハ理由書及證憑ヲ具ヘ其ノ修正ヲ地方長官ニ申立ツルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　地方長官前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ互選人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

第八條　互選人名簿ハ八月三十一日ヲ以テ確定ス

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ互選人名簿ヲ調製スヘシ

前項互選人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條　選擧ハ九月十日之ヲ行フ

第十條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第十一條　地方長官ハ選擧長ト爲リ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選擧會ハ北海道廳又ハ各府縣廳ニ之ヲ開ク

第十二條　地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ投票ノ爲區劃ヲ定メテ選擧分會ヲ設クルコトヲ得

選擧分會長ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ命ス

選擧分會長ハ選擧分會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十三條　地方長官ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ七日前ニ投票ノ時間ヲ告示スヘシ選擧分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃、選擧分會長及選擧分會場ヲ告示スヘシ

第十四條　選擧分會ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃每ニ名簿記載ノ住居ニ基キ名簿ノ副本ヲ調製シ選擧前之ヲ選擧分會長ニ送付スヘシ

第十五條　地方長官ハ互選人中ヨリ三人ノ選擧立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ニ立會ハシムヘシ但シ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各分會ニ付更ニ其ノ區劃内ニ於ケル互選人中ヨリ選擧立會人ヲ選任スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ互選人中ヨリ選擧立會人ヲ選任シ難キトキハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ選任スヘシ

選擧立會人ニシテ參會スル者選擧會又ハ選擧分會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ又ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ前二項ノ例ニ依リ三人ニ達スル迄ノ選擧立會人ヲ選任シ選擧ニ立會ハシムヘシ

選擧立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十六條　互選人ハ選擧ノ當日自ラ選擧會場又ハ選擧分會場ニ到リ互選人名簿又ハ其ノ副本ノ對照ヲ經選擧長又ハ選擧分會長ノ交付シタル投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　互選人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス互選人名簿ニ登錄セラレタル者互選人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキ又ハ選擧ノ當日互選資格ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　投票ノ拒否ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長又ハ選擧分會長之ヲ決定スヘシ

前項選擧分會長ノ決定ヲ受ケタル互選人不服アルトキハ選擧分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ互選人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

選擧分會ニ於ケル選擧立會人ニ於テ異議アル互選人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第十九條　投票ノ時間ヲ經過シタルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧會場又ハ選擧分會場ニ在ル互選人ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

選擧分會ニ在リテハ選擧分會長ハ投票函閉鎖後遲滯ナク一人又ハ數人ノ選擧立會人ト共ニ投票函ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第二十條　選擧分會ノ區劃カ島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ開票ノ期日迄ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十一條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ地方長官ハ期日ヲ定メテ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二十二條　第三十八條又ハ第三十九條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十三條　選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧會場又ハ選擧分會場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　互選人、選擧會場又ハ選擧分會場ノ事務ニ從事スル者、選擧會場又ハ選擧分會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ニ非サレハ選擧會場又ハ選擧分會場ニ入ルコトヲ得ス

第二十五條　選擧會場又ハ選擧分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場又ハ選擧分會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧會場又ハ選擧分會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第二十六條　選擧長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十七條　選擧長ハ投票ノ當日（選擧分會ヲ設ケタルトキハ總テノ選擧分會ヨリ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選擧會場ニ於テ選擧立會人立會ノ上投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

選擧分會ヲ設ケタル場合ニ於テ前項ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ先ツ第十八條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選擧長ハ前項ノ規定ニ依リ受理スヘキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十八條　互選人ハ選擧會場ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　投票ノ效力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第三十條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七　貴族院多額納税者議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第三十一條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選擧ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者選擧ノ期日後ニ於テ互選人タルコトヲ得サルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス

第三十二條　當選人選擧ノ期日後ニ於テ互選人タルコトヲ得サルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第三十三條　第二十一條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

第三十四條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選人前項ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

當選人第一項ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十五條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ當選人ノ氏名ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第三十六條　選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧錄又ハ投票錄ヲ作リ選擧ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名スヘシ

選擧分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄及互選人名簿ノ副本ヲ選擧長ニ送致スヘシ

選擧長ハ選擧錄及投票錄ノ寫ヲ内務大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ内務大臣ハ選擧錄及投票錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第三十七條　投票ハ有效無效ヲ區別シ選擧錄、投票錄、互選人名簿及其ノ副本其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間選擧長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十八條　當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第三十一條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ地方長官ハ選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

此ノ場合ニ於テハ最近ノ調製ニ係ル互選人名簿ヲ用フヘシ

第三十九條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ

前項ノ勅命アリタルトキハ地方長官ハ其ノ日ノ現在ニ依リ互選資格ヲ有スル者ノ名簿ヲ調製シ其ノ期日ヨリ起算シ五十日目ヨリ十五日間北海道廳又ハ各府縣廳ニ於テ之ヲ縱覽ニ供スヘシ

前項ノ互選人名簿ハ縱覽開始ノ日ヨリ四十日ヲ經過スルニ依リ確定ス

補闕選擧ハ互選人名簿確定ノ日ヨリ起算シ十日目ニ之ヲ行フヘシ

第四十條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第四十一條　貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尚次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第四十二條　選擧立會人ニハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

第四十三條　本令ノ選擧ニ關シテハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法第百十一條乃至第百二十八條、第百三十七條、第百三十八條、第百四十八條及第百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條　當選人其ノ選擧ニ關シ大正十四年法律第四十七號及前條ノ規定ニ依ル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

附　則

本令ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第五十七號及大正七年勅令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

●貴族院多額納税者議員互選規則施行細則

（大正十四年六月十九日 内務省令第十二號）（改正 昭和二年第八號）

貴族院多額納税者議員互選規則施行細則左ノ通定ム

貴族院多額納税者議員互選規則施行細則

第一條　貴族院多額納税者議員互選資格ニ算入スヘキ所得税ハ土地或ハ工業商業ヨリ生スル所得ニ付納ムルモノニ限ル

山林ノ所得ニ付納ムル所得税ハ前項土地ニ付納ムル所得税ニ包含ス

鑛業、漁業、貸家業等工業商業ニシテ營業税及營業收益税ノ賦課ヲ受ケサルモノヨリ生スル所得ニ付納ムル所得税ハ第一項工業商業ニ付納ムル所得税ニ包含ス

公債社債ノ利子、法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配、俸給、給料、年金、手當、賞與ノ類ニ付納ムル所得税ハ第一項ノ工業商業ニ付納ムル所得税ニ包含セス

所得税ヲ納ムル者ノ土地或ハ工業商業ニ付納ムル税額ハ總所得額ト土地或ハ工業商業ヨリ生スル所得額トニ基キ總税額ヲ按分シテ算出スヘシ

第二條　貴族院多額納税者議員互選規則第一條ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ行政區劃ノ變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第三條　貴族院多額納税者議員互選人名簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條　貴族院多額納税者議員互選規則第八條第三項ノ互選人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第五條　地方長官選擧分會ノ選擧立會人ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ氏名ヲ選擧分會長ニ通知スヘシ

第六條　投票用紙及貴族院多額納税者議員互選規則第十八條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條　投票記載ノ場所ハ互選人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第八條　投票函ハ別記樣式ニ依リ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第九條　選擧長又ハ選擧分會長ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ選擧會場又ハ選擧分會場ニ參會シタル互選人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖スヘシ

第十條　選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧立會人ノ面前ニ於テ互選人ヲ互選人名簿又ハ其ノ副本ニ對照シタル後投票用紙ヲ交付スヘシ

第十一條　互選人誤テ投票用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　投票ハ選擧長又ハ選擧分會長及選擧立會人ノ面前ニ於テ互選人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十三條　互選人ニシテ投票前選擧會場又ハ選擧分會場ノ外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ投票用紙ヲ返付セシムヘシ

第十四條　投票ヲ終リタルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ選擧會ニ在リテハ其ノ鑰ハ選擧長之ヲ保管シ選擧分會ニ在リテハ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ選擧立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ選擧分會長之ヲ保管スヘシ

第十五條　地方長官貴族院多額納税者議員互選規則第二十條ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ告示シ併セテ選擧分會長ニ通知スヘシ

第十六條　地方長官貴族院多額納税者議員互選規則第二十一條ノ規定ニ依リ選擧分會ノ區劃ニ於ケル投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ選擧分會長ニ通知スヘシ

第十七條　投票ヲ點檢スルトキハ選擧長ニ於

テ選舉事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一被選舉人ノ得票數ヲ計算セシムヘシ

第十八條　投票ノ點檢終リタルトキハ選舉長ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十九條　選舉長ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ

不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ヲ開披セス前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ

第二十條　選舉録及投票録ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

附　則

本令ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選舉ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

互選人名簿樣式　（用紙美濃紙）

第　號	
本籍	何郡（市）町（村）
住居	何郡（市）町（村）
職業	何業
氏名	氏　名
生年月日	何年何月何日

直接國税總額金何圓、、、

	納税細別	納税年間	納税地
地租	金何圓、、、	自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日	何郡何町（村） 何市
	金何圓、、、	自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日 但シ昭和何年何月何日家督相續	何郡何町（村） 何市
	金何圓、、、	、、、	、、、
	計金何圓、、、		
營業税	金何圓、、、 但シ工業ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	金何圓、、、 但シ商業ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	、、、	、、、	、、、
	計金何圓、、、		
營業收益税	金何圓、、、 但シ工業ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	金何圓、、、 但シ商業ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	、、、	、、、	、、、
	計金何圓、、、		
所得税	金何圓、、、 但シ土地ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	金何圓、、、 但シ工業ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	金何圓、、、 但シ商業ニ付納ムルモノ	昭和何年分	何郡何町（村） 何市
	計金何圓、、、		

備考

一、決定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ旨及修正ノ年月日ヲ欄外ニ記シ官印ヲ押捺スヘシ

一、名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

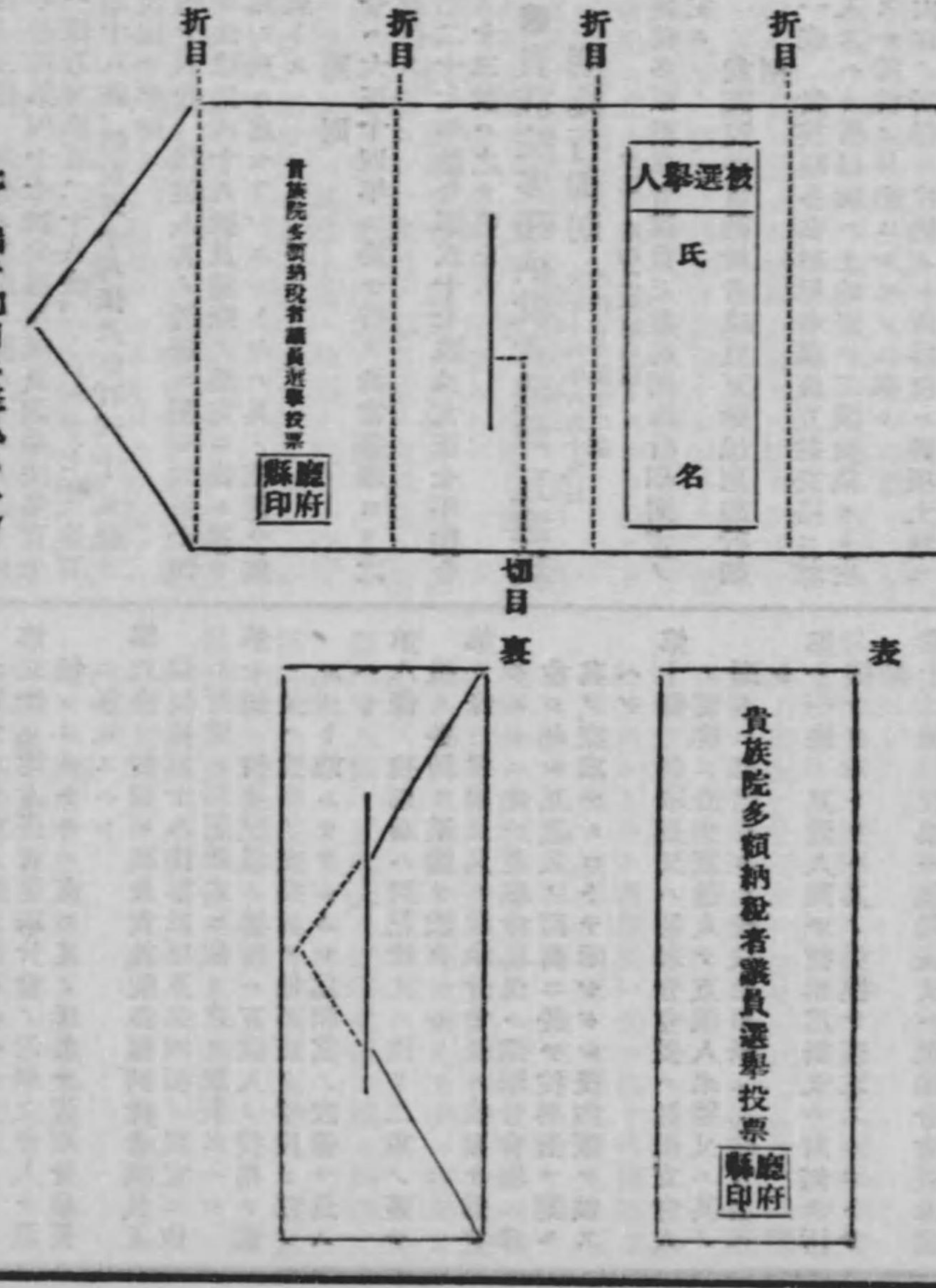
昭和何年何月何日現在調
貴族院多額納税者議員互選人名簿
何府縣（北海道廳）

（卷末）

此ノ互選人名簿ハ昭和何年何月何日ヨリ何日間何府縣廳（北海道廳）ニ於テ縱覽セシメ昭和何年何月何日確定セリ

何府縣知事（北海道廳長官）　氏　名　印

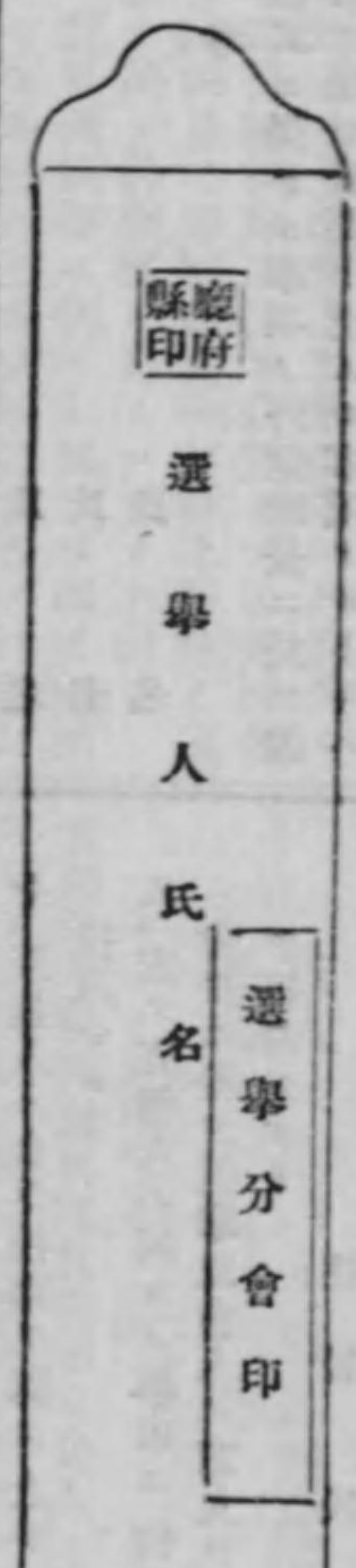
投票用紙樣式



備考

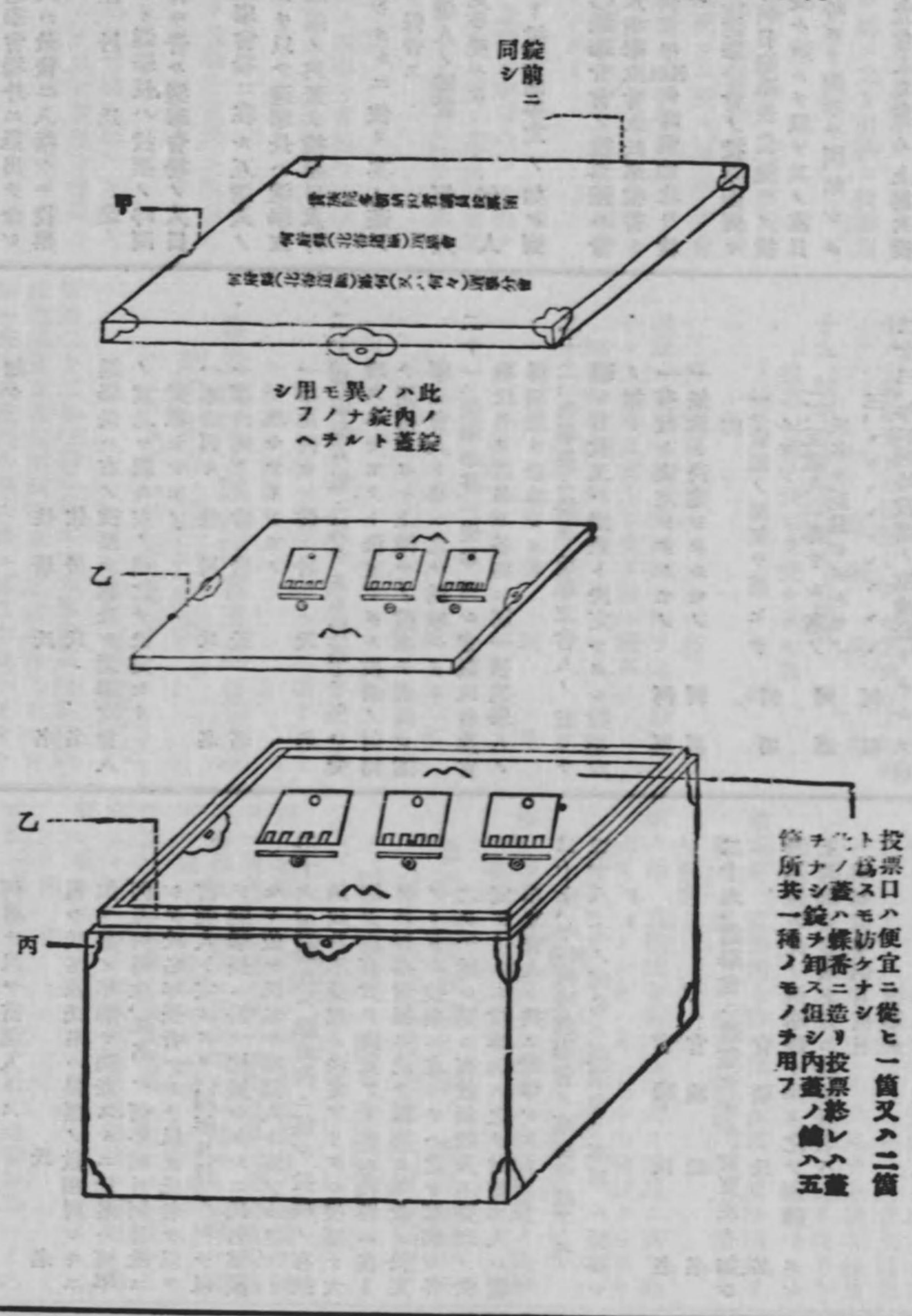
用紙ハ折疊ミタル場合ニ於テ外部ヨリ被選舉人ノ氏名ヲ透視シ得サル紙質ノモノヲ用フヘシ

貴族院多額納税者議員互選規則第十八條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒樣式



投票函樣式

厚仕上凡八歩
高凡一尺二寸
幅凡一尺五寸
横凡一尺
但シ大小ハ互選人ノ多寡ニ應シ適宜ニ之ヲ造ルヘシ



投票口ハ便宜ニ從ヒ一箇又ハ二箇ト爲スモ妨ケナシ
外ノ蓋ハ蝶番ニ造リ投票終レハ蓋ヲナシ錠ヲ卸ス但シ内蓋ノ鑰ハ五箇所共一種ノモノヲ用フ

選舉録樣式

何府縣（北海道廳）貴族院多額納税者議員互選會選舉録

一、選舉會場ハ何府縣廳（北海道廳）ニ之ヲ設ケタリ

二、左ノ選舉立會人ハ何レモ選舉會ヲ開クヘキ時刻迄ニ選舉會場ニ參會シタリ

住居　氏　名

選舉會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ選舉立會人中何名參會セサルニ依リ選舉長ハ臨時ニ互選人中ヨリ左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

三、選舉會ハ昭和何年何月何日午（前後）何時ニ之ヲ開キタリ

四、選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ昭和何年何月何日午（前後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ依リ選舉長ハ臨時ニ互選人中ヨリ午（前後）何時左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

五、選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ニ先チ選舉會場ニ參會シタル互選人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ選舉長及選舉立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六、選舉長及選舉立會人ノ面前ニ於テ互選人ヲ互選人名簿ニ對照シタル後投票用紙ヲ交付シタリ

七、互選人ハ自ラ投票ヲ認メ之ヲ投票函ニ投入シタリ

八、左ノ互選人ハ何々ノ事由ニ依リ選舉長ニ於テ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ

住居　氏　名

九、左ノ互選人ハ誤テ投票用紙ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙ヲ交付シタリ

住居　氏　名

十、左ノ互選人ハ選舉會場ニ於テ演説討論ヲ爲シ（喧騷ニ渉リ）（投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ）（何々ニ因リ）選舉會場ノ秩序ヲ紊リタルニ依リ選舉長ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙ヲ返付セシメ之ヲ選舉會場外ニ退

出セシメタリ
　住居　氏名

十一、選擧長ハ選擧會場外ニ退出ヲ命シタル左ノ互選人ニ對シ選擧會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ
　住居　氏名

選擧長ニ於テ選擧會場外ニ退出ヲ命シタル左ノ互選人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ
　住居　氏名

十二、午（前後）何時ニ至リ選擧長ハ投票ノ時間ヲ經過シタル旨ヲ告ケ選擧會場ノ入口ヲ鎖シタリ

十三、午（前後）何時ニ選擧會場ニ在ル互選人ノ投票結了シタルヲ以テ選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十四、投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ蓋ノ鑰ハ選擧長之ヲ保管ス

十五、投票シタル互選人ノ總數　何人
投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人

十六、各選擧分會ヨリ投票函等左ノ如ク到達セリ
第一（又ハ何々）選擧分會ノ投票函ハ分會長官職氏名及選擧立會人氏名攜帶シ昭和何年何月何日午（前後）何時到達之ヲ檢スルニ異狀ナシ
第二（又ハ何々）選擧分會ノ投票函何々

十七、昭和何年何月何日選擧長ハ（總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日（翌日））午（前後）何時ヨリ開票ヲ開始シタリ

十八、選擧長ハ選擧立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ
投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人
投票總數ト投票人總數ト符合ス
（投票總數ト投票人總數ト符合セス卽チ投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多シ（少シ）（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スヘシ））

十九、選擧分會長ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ
　住居　氏名
　住居　氏名
選擧長ハ右ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ左ノ通之ヲ決定セリ
受理セシモノ
一事由何々　住居　氏名
一事由何々　住居　氏名
受理セサリシモノ
一事由何々　住居　氏名

二十、選擧長ハ假ニ爲シタル投票ニシテ受理スヘキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

二十一、選擧事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二名ハ各別ニ同一被選擧人ノ得票數ヲ計算シタリ

二十二、選擧長ニ於テ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
內
一、成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ　何票
二、互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三、、、、、、、、、、　何票

二十三、午（前後）何時投票ノ點檢終リタルヲ以テ選擧長ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シタリ

二十四、各被選擧人ノ得票數左ノ如シ
何票　氏名
何票　氏名
何票　氏名

二十五、議員定數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ四分ノ一ノ數ハ何票ナリ得票者中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者ヲ擧クレハ左ノ如シ
何票　氏名
何票　氏名
右ノ內有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何名ヲ以テ當選人トス
　氏名
但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同シキニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ（同年月日ナルヲ以テ選擧長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ當選人ト定メタリ）

二十六、選擧長ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效及不受理ノ決定アリタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者每ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無效及不受理ノ決定アリタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ選擧立會人ト共ニ封印シタリ

二十七、午（前後）何時選擧會ノ事務ヲ結了ス

二十八、左ノ何名ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ
官職　氏名
官職　氏名

二十九、選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職　氏名

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ玆ニ署名ス
昭和何年何月何日
選擧長　官職　氏名
選擧立會人　氏名
　氏名
　氏名

備考
樣式ニ揭クル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

投票錄樣式

何府縣（北海道廳）第何（又ハ何々）貴族院多額納稅者議員選擧分會投票錄

一、選擧會分場ハ何ノ場所ニ之ヲ設ケタリ

二、左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧分會ヲ開クヘキ時刻迄ニ選擧分會場ニ參會シタリ
　住居　氏名
　住居（又ハ官職）　氏名
選擧分會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ選擧立會人中何名參會セサルニ依リ選擧分會長ハ臨時ニ互選人中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ
　住居　氏名
選擧分會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ選擧立會人何名參會セサルニ依リ選擧分會長ハ互選人中ヨリ選擧立會人ヲ選任セムトシタルモ何々ノ事由ニ依リ左ノ者ヲ臨時ニ選擧立會人ニ選任シタリ
　官職　氏名

三、選擧分會ハ昭和何年何月何日午（前後）何時ニ之ヲ開キタリ

四、選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ依リ選擧分會長ハ臨時ニ互選人中ヨリ午（前後）何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ
　住居　氏名

五、選擧分會長ハ選擧立會人ト共ニ投票ニ先チ選擧分會長ニ參會シタル互選人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖シ選擧分會長及選擧立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六、選擧分會長及選擧立會人ノ面前ニ於テ互選人ヲ互選人名簿ノ副本ニ對照シタル後投票用紙ヲ交付シタリ

七、互選人ハ自ラ投票ヲ認メ之ヲ投票函ニ投入シタリ

八、左ノ互選人ハ何々ノ事由ニ依リ選擧分會長ニ於テ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ
　住居　氏名

左ノ互選人ハ何々ノ事由ニ依リ選擧分會長ニ於テ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否スヘキ旨決定シタルモ同互選人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ（選擧立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ）假ニ投票ヲ爲サシメタリ
　住居　氏名

九、左ノ互選人ハ誤テ投票用紙、封筒ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙、封筒ヲ交付シタリ
　住居　氏名

十、左ノ互選人ハ選擧分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ（喧騷ニ涉リ）（投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ）（何々ニ因リ）選擧分會場ノ秩序ヲ紊リタルニ依リ選擧分會長ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙ヲ返付セシメ之ヲ選擧分會場外ニ退出セシメタリ
　住居　氏名

十一、選擧分會長ハ選擧分會場外ニ退出ヲ命シタル左ノ互選人ニ對シ選擧分會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ
　住居　氏名
選擧分會長ニ於テ選擧分會場外ニ退出ヲ命シタル左ノ互選人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ
　住居　氏名

十二、午（前後）何時ニ至リ選擧分會長ハ投票ノ時間ヲ經過シタル旨ヲ告ケ選擧分會場ノ入口ヲ鎖シタリ

十三、午（前後）何時ニ選擧分會場ニ在ル互選人ノ投票結了シタルヲ以テ選擧分會長ハ選擧立會人ト共ニ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十四、投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ左ノ選擧立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ選擧分會長之ヲ保管ス
　氏名

十五、投票函、投票錄及互選人名簿ノ副本ヲ選擧長ニ送致スヘキ選擧立會人左ノ如シ
　氏名

十六、午（前後）何時選擧分會ノ事務ヲ結了ス

十七、左ノ何名ハ選擧分會ノ事務ニ從事シタリ
官職　氏名
官職　氏名

十八、選擧分會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職　氏名

十九、投票シタル互選人ノ總數　何人
投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人
內
假ニ投票ヲ爲サシメタル者　何人

選擧分會長ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ玆ニ署名ス
昭和何年何月何日
選擧分會長　官職　氏名
選擧立會人　氏名
　氏名
　氏名

備考
樣式ニ揭クル事項ノ外選擧分會長ニ於テ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

●貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

（明治二十三年三月十日內務省訓令第七號）
改正　明治三七年第五號

府縣【沖繩縣ヲ除ク】

明治二十二年（六月）勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ラルヘシ

第一條　貴族院令第六條ニ滿三十歲トアルハ其選擧期日（【六月十日】）前滿三十歲ニ達スル者ヲ指ス

第二條　互選規則第一條ニ其府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選擧法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第三條　互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日（【四月一日】）前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云フ

第四條　賣買讓與等ニ依リ土地所有權ノ移轉スルアルモ地租ハ土地臺帳記名者ノ納稅資格ニ算入シ又質入地ノ地租ハ質權者ノ納稅資格ニ算入ス數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ敎師トアルハ凡テ衆議院議員選擧法施行規則第五條第九條ノ例ニ異ナラス

第五條　貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族（公侯爵ヲ除ク）ノ當主ヲモ包含ス

第六條　貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

第七條　互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

●貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律

（大正十四年五月五日法律第四十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、司法大臣副署）

貴族院令第六條ノ議員選擧ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選擧法中罰則ノ規定ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選擧法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

●貴族院多額納稅者議員選擧立會人ニ對スル費用辨償及互選ニ關スル費用ノ件

（大正十四年八月二十二日內務省令第十三號）

貴族院多額納稅者議員選擧立會人ニ對スル費用辨償及互選ニ關スル費用ノ件左ノ通定ム

第一條　選擧立會人（官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ選任スル者ヲ除ク）ニハ職務ノ爲要スル費用ヲ給ス
前項費用ノ額ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　地方長官ハ前條費用ノ額ヲ減スルコトヲ得

第三條　第一條費用ノ支給方法ニ關シテハ內國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

第四條　互選ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

附則

本令ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

選擧立會人ニ給スヘキ費用ノ額

區分	費用ノ額
鐵道賃 船賃	大正九年大藏省令第十六號ノ規定ニ依リ高等官ニ支給スヘキ額ニ相當スル額
車馬賃	一里ニ付九十錢
日當	一日ニ付六圓
宿泊料	一夜ニ付八圓

●貴族院議員資格及選擧爭訟判決規則

（明治二十三年十月十一日勅令第二百二十一號）

朕貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ緊要ニ屬シ而シテ時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ玆ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選擧爭訟判決規則ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間效力ヲ有スヘシ（各大臣副署）

貴族院議員資格及選擧爭訟判決規則

第一條　貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議

員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ常任委員ヲ選擧スヘシ

第二條　伯子男爵議員ノ各選擧人又ハ多額納税者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條　原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作リ之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第四條　訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條　資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六條　原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス

第七條　資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選擧ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第八條　審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルヽノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス

第九條　被告人期日内ニ答辯書ヲ差出サヽルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條　資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十一條　議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事錄ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條　貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條　被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十四條　補闕議員ノ選擧開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納税者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條　議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選擧規則第十八條及貴族院多額納税者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

●貴族院議員ノ選擧ニ應シタル者ノ兼務スルヲ得サル宮内官職

（明治二十三年七月八日宮内省達第十二號）

貴族院議員ノ選擧ニ應シタル者ハ宮内省中左ノ部局ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得ス

侍從職
式部職
皇太后宮職
皇后宮職
【東宮職】
大膳【職】
【主殿寮】
主馬寮
【主獵局】
帝室會計審査局
皇族【家職】

第三章　衆議院

●衆議院議員選擧法

（大正十四年五月五日法律第四十七號　改正　大正一五年第八二號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル衆議院議員選擧法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

衆議院議員選擧法

第一章　選擧ニ關スル區域

第一條　衆議院議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル投票區ノ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ郡市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル開票區ノ開票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　行政區畫ノ變更ニ因リ選擧區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章　選擧權及被選擧權

第五條　帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選擧權ヲ有ス

帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選擧權ヲ有ス

第六條　左ニ掲クル者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　禁治産者及準禁治産者
二　破産者ニシテ復權ヲ得サル者
三　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者
四　一定ノ住居ヲ有セサル者
五　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
六　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス
七　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條　華族ノ戸主ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第八條　選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選擧權ヲ有セス

第九條　在職ノ宮内官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢事、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢査官、收税官吏及警察官吏ハ被選擧權ヲ有セス

第十條　官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

一　國務大臣
二　内閣書記官長
三　法制局長官
四　各省政務次官
五　各省參與官

六　内閣總理大臣秘書官
七　各省秘書官

第十一條　北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章　選擧人名簿

第十二條　市町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ一年以上其ノ市町村内ニ住居ヲ有スル者ノ選擧資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ住居ニ關スル要件ヲ具備セサル選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得ス

選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名、住居及生年月日等ヲ記載スヘシ

第一項ノ住居ニ關スル期間ハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十三條　市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

市町村長ハ縱覽開始ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ縱覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十四條　選擧人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ選擧人ハ理由書及證憑ヲ具ヘ其ノ修正ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　市町村長ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

第十六條　前條市町村長ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ市町村長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ得ス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第十七條　選擧人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ次年ノ十二月十九日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ市町村長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

前項選擧人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章　選擧、投票及投票所

第十八條　總選擧ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フヲ例トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行フコトヲ妨ケス

議會開會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總選擧ハ議會閉會ノ日ヨリ二十六日以後三十日以内ニ之ヲ行フ

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選擧ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ

總選擧ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス

第十九條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十條　市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第二十一條　投票所ハ市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第二十二條　投票管理者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ告示スヘシ

第二十三條　投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第二十四條　議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選擧ノ期日ノ前日迄ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十五條　選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選擧人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付スヘシ

第二十七條　選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第二十八條　投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

第二十九條　選擧人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシムヘシ

第三十條　選擧人名簿ニ登錄セラレタル者選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選擧ノ當日選擧權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選擧人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第三十二條　投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ旨ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了スルヲ待チテ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條　選擧人ニシテ勅令ノ定ムル事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキコトヲ證スル者ノ投票ニ關シテハ第二十五條、第二十六條、第二十七條第一項、第二十九條但書及第三十一條ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十四條　投票管理者ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第三十五條　投票管理者ハ一人又ハ數人ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第三十六條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第三十七條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選擧長ヲ經テ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示セシムヘシ

第三十八條　第七十五條又ハ第七十九條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第三十九條　何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第四十條　投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條　選擧人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ニ非サレハ投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十二條　投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ投票所外ニ退出セシムヘシ

第四十三條　前條ノ規定ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第五章　開票及開票所

第四十四條　支廳長、市長又ハ地方長官ノ指定シタル官吏ハ開票管理者ト爲リ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第四十五條　開票所ハ支廳、市役所又ハ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第四十六條　開票管理者ハ豫メ開票ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第四十七條　第二十四條ノ規定ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第四十八條　開票管理者ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日開票所ニ於テ開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第四十九條　前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ先ツ第三十一條第二項及第四項ノ投票ヲ調查シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

開票管理者ハ開票立會人ト共ニ投票區每ニ投票ヲ點檢スヘシ

投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スヘシ

第五十條　選擧人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條　投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スヘシ

第五十二條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
二　議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三　一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四　被選擧權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
五　議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
六　議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ
七　議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ
八　衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第七十五條又ハ第七十九條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十三條　投票ハ有效無效ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ之ヲ保存スヘシ但シ第四十四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏開票管理者タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第五十四條　開票管理者ハ開票錄ヲ作リ開票ニ關スル顚末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ署名シ投票錄ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ前條但書ノ規定ハ開票錄及投票錄ノ保存ニ之ヲ準用ス

第五十五條　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ノ開票ニ於テハ其ノ投票ノ效力ヲ決定スヘシ

第五十六條　第三十七條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

第五十七條　開票所ノ取締ニ付テハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第六章　選擧會

第五十八條　左ニ揭クル者ヲ以テ選擧長トス

一　一縣又ハ一市一選擧區タル場合ニ於テハ其ノ地方長官又ハ市長
二　一選擧區數市又ハ支廳管內及市ニ涉ル場合ニ於テハ關係支廳長又ハ市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者
三　其ノ他ノ選擧區ニ於テハ官吏又ハ關係市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

第五十九條　選擧會ハ選擧長ノ屬スル縣廳、支廳若ハ市役所又ハ選擧長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第六十條　選擧長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第六十一條　第二十四條ノ規定ハ選擧立會人ニ之ヲ準用ス

第六十二條　選擧長ハ總テノ開票管理者ヨリ第四十九條第三項ノ報告ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日選擧會ヲ開キ選擧立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調查スヘシ

選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於テ第四十九條第三項ノ報告ヲ受ケタルトキハ選擧長ハ前項ノ例ニ依リ選擧會ヲ開キ他ノ部分ノ報告ト共ニ更ニ之ヲ調查スヘシ

第六十三條　選擧人ハ其ノ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十四條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名シ第四十九條第三項ノ報告ニ關スル書類ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ第五十八條第一項第三號ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ選擧錄及第四十九條第三項ノ報告ニ關スル書類ヲ保存スヘシ

第六十五條　第三十七條ノ規定ハ但書ヲ除キ選擧會ニ之ヲ準用ス

第六十六條　選擧會場ノ取締ニ付テハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第七章　議員候補者及當選人

第六十七條　議員候補者タラムトスル者ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

選擧人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間內ニ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ期間內ニ屆出アリタル議員候補者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選擧ノ期日ノ前日迄議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選擧長ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ屆出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第六十八條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二千圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セサルトキハ前項ノ供託物ハ政府ニ歸屬ス

議員候補者選擧ノ期日前十日以內ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果又ハ第百三十六條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタルトキハ選擧會ヲ開キ其ノ第七十四條ノ規定ニ依ル當選承諾屆出期限前ナル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依リ其ノ屆出期限經過後ナル場合ニ於テハ第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前三項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス

第七十條　當選人選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第七十一條　第六十七條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル屆出アリタル議員候補者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選擧區ニ於テハ投票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知シ併セテ之ヲ告示シ且地方長官ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選擧長ハ選擧ノ期日ヨリ五日以內ニ選擧會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選擧權ノ有無ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第七十二條　當選人定リタルトキハ選擧長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選人ノ氏名ヲ告示シ且當選人ノ氏名、得票數其ノ他選擧ノ顚末ヲ地方長官ニ報告スヘシ

當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十三條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

選擧長第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十四條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十五條　左ニ揭クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキヲ除クノ外地方長官ハ選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ十四日前ニ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ但シ同一人ニ關シ左ニ揭クル其ノ他ノ事由ニ依リ又ハ第七十九條第六項ノ規定ニ依リ選擧ノ期日ヲ告示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ
二　當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ
三　當選人第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
四　第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選人ナキニ至リ又ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ
五　當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無效ト爲リタルトキ
六　當選人第百三十六條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタルトキ

第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依ル選擧ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第一項ノ選擧ノ期日ハ第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間滿了ノ日、其ノ出訴アリタル場合ニ於テハ地方長官第八十六條第一項ノ規定ニ依リ訴訟繫屬セサルニ至リタル旨ノ大審院長ノ通知ヲ受ケタル日又ハ第百四十三條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項各號ノ一ニ該當スル事由議員ノ任期ノ終ル前六月以內ニ生シタルトキハ第一項ノ選擧ハ之ヲ行ハス

第七十六條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ告示シ且之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

第七十七條　第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果選擧若ハ當選無效ト爲リタルトキ又ハ當選人第百三十六條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第八章　議員ノ任期及補闕

第七十八條　議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ期日ヨリ之ヲ起算ス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十九條　議員ニ闕員ヲ生スルモ其ノ闕員ノ數同一選擧區ニ於テ二人ニ達スル迄ハ補闕選擧ハ之ヲ行ハス

議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ內務大臣ハ議院法第八十四條ノ規定ニ依ル衆議院議長ノ通牒ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ地方長官ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ闕員ト爲リタル議員カ第七十四條ノ規定ニ依ル當選承諾屆出ノ期限前ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ議員闕員ト爲リタル旨ヲ選擧長ニ通知スヘシ

選擧長ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ第六十九條第四項乃至第六項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ

地方長官ハ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ第三項ノ規定ノ適用アルトキ及同一人ニ關シ第七十五條ノ規定ニ依リ選擧ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外其ノ闕員ノ數同一選擧區ニ於テ二人ニ達スルヲ待チ最後ニ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ補闕選擧ヲ行ハシムヘシ

補闕選擧ノ期日ハ地方長官少クトモ十四日前ニ之ヲ告示スヘシ

第七十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ補闕選擧ニ之ヲ準用ス

第八十條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九章　訴訟

第八十一條　選擧ノ效力ニ關シ異議アル選擧人又ハ議員候補者ハ選擧長ヲ被告トシ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限リ裁判所ハ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ニ於テモ其ノ選擧前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部又ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

第八十三條　當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十二條第一項及第二項ノ告示ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得但シ第六十九條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由、第六十九條第六項若ハ第七十條ノ規定ニ該當セストノ理由又ハ第七十一條第五項ノ決定違法ナリトノ理由ニ因リ出訴スル場合ニ於テハ選擧長ヲ被告トスヘシ

前項ノ規定ニ依ル訴訟ノ裁判確定前當選人死亡シタルトキハ檢事ヲ被告トス

第八十四條　第百十條ノ規定ニ依リ當選ヲ無

數ナリト認ムル選擧人又ハ議員候補者ハ當選人ヲ被告トシ第七十二條第一項ノ告示ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

第百三十六條ノ規定ニ依リ選擧事務長カ第百十二條又ハ第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルニ因リ當選ヲ無效ナリト認ムル選擧人又ハ議員候補者ハ當選人ヲ被告トシ其ノ裁判確定ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條　裁判所ハ本章ノ規定ニ依ル訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十六條　本章ノ規定ニ依ル訴訟ノ提起アリタルトキハ大審院長ハ其ノ旨ヲ內務大臣及關係地方長官ニ通知スヘシ訴訟ノ繫屬セサルニ至リタルトキ亦同シ

本章ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルトキハ大審院長ハ其ノ判決書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十七條　本章ノ規定ニ依ル訴訟ヲ提起セムトスル者ハ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

原告敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以內ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第十章　選擧運動

第八十八條　議員候補者ハ選擧事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ラ選擧事務長ト爲リ又ハ推薦屆出者（推薦屆出者數人アルトキハ其ノ代表者）議員候補者ノ承諾ヲ得テ選擧事務長ヲ選任シ若ハ自ラ選擧事務長ト爲ルコトヲ妨ケス

議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲シタル者ハ前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選擧事務長ヲ解任スルコトヲ得選擧事務長ヲ選任シタル推薦屆出者ニ於テ議員候補者ノ承諾ヲ得タルトキ亦同シ

選擧事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選擧事務長ノ選任者（自ラ選擧事務長ト爲リタル者ヲ含ム以下之ニ同シ）ハ直ニ其ノ旨ヲ選擧區內警察官署ノ一ニ屆出ツヘシ

選擧事務長ニ異動アリタルトキハ前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者直ニ其ノ屆出ヲ爲シタル警察官署ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第九十五條ノ規定ニ依リ選擧事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ屆出ツヘシ其ノ之ヲ罷メタルトキ亦同シ

第八十九條　選擧事務長ニ非サレハ選擧事務所ヲ設置シ又ハ選擧委員若ハ選擧事務員ヲ選任スルコトヲ得ス

選擧事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選擧委員又ハ選擧事務員ヲ解任スルコトヲ得

選擧委員又ハ選擧事務員ハ文書ヲ以テ選擧事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選擧事務長選擧事務所ヲ設置シ又ハ選擧委員若ハ選擧事務員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前條第五項ノ屆出アリタル警察官署ニ屆出ツヘシ選擧事務所又ハ選擧委員若ハ選擧事務員ニ異動アリタルトキ亦同シ

第九十條　選擧事務所ハ議員候補者一人ニ付七箇所ヲ超ユルコトヲ得ス

選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選擧事務所ハ前項ニ揭クル數ヲ超エサル範圍內ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ス

地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）前項ノ規定ニ依リ選擧事務所ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選擧ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スヘシ

第九十一條　選擧事務所ハ選擧ノ當日ニ限リ投票所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ三町以內ノ區域ニ之ヲ置クコトヲ得ス

第九十二條　休憩所其ノ他之ニ類似スル設備ハ選擧運動ノ爲之ヲ設クルコトヲ得ス

第九十三條　選擧委員及選擧事務員ハ議員候補者一人ニ付通シテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十條第二項及第三項ノ規定ハ選擧委員及選擧事務員ニ關シ之ヲ準用ス

第九十四條　選擧事務長選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ解任又ハ退任ヲ命スヘシ

第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ選擧事務所ノ設置アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ選擧事務所ノ閉鎖ヲ命スヘシ第九十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧事務所ノ設置アリト認ムルトキハ其ノ超過シタル數ノ選擧事務所ニ付亦同シ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧委員又ハ選擧事務員ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ選擧委員又ハ選擧事務員ノ解任ヲ命スヘシ選擧委員又ハ選擧事務員ニシテ選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキ其ノ選擧委員又ハ選擧事務員ニ付亦同シ

第九十五條　選擧事務長故障アルトキハ選任者代リテ其ノ職務ヲ行フ

推薦屆出者タル選任者モ亦故障アルトキハ議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外議員候補者代リテ其ノ職務ヲ行フ

第九十六條　議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サレハ選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條　選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ハ選擧運動ノ爲ニ要スル飮食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演說又ハ推薦狀ニ依リ選擧運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

選擧事務員ハ選擧運動ヲ爲スニ付報酬ヲ受クルコトヲ得

第九十八條　何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戶別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選擧人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス

第九十九條　選擧權ヲ有セサル者ハ選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ト爲ルコトヲ得ス

選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域內ニ於ケル選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス

第百條　內務大臣ハ選擧運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫ニ關シ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第十一章　選擧運動ノ費用

第百一條　立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選擧運動ノ費用ハ選擧事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者、選擧委員又ハ選擧事務員ハ選擧事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス

議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サル者ハ選擧運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第百二條　選擧運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

二　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

三　第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準シテ算出シタル額但シ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スヘシ

第百三條　選擧運動ノ爲財產上ノ義務ヲ負擔シ又ハ建物、船車馬、印刷物、飮食物其ノ他ノ金錢以外ノ財產上ノ利益ヲ使用シ若ハ費消シタル場合ニ於テハ其ノ義務又ハ利益ヲ時價ニ見積リタル金額ヲ以テ選擧運動ノ費用ト看做ス

第百四條　左ノ各號ニ揭クル費用ハ之ヲ選擧運動ノ費用ニ非サルモノト看做ス

一　議員候補者カ乘用スル船車馬等ノ爲ニ要シタル費用

二　選擧ノ期日後ニ於テ選擧運動ノ殘務整理ノ爲ニ要シタル費用

三　選擧委員又ハ選擧事務員ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選擧事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四　第六十七條第一項乃至第三項ノ屆出アリタル後議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サル者ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選擧事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

五　立候補準備ノ爲ニ要シタル費用ニシテ議員候補者若ハ選擧事務長ト爲リタル者ノ支出シタル費用又ハ其ノ者ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ

第百五條　選擧事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選擧運動ノ費用ヲ記載スヘシ

第百六條　選擧事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選擧運動ノ費用ヲ精算シ選擧ノ期日ヨリ十四日以內ニ第八十八條第五項ノ屆出アリタル警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ屆出ツヘシ

地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ前項ノ規定ニ依リ屆出アリタル選擧運動ノ費用ヲ告示スヘシ

第百七條　選擧事務長ハ前條第一項ノ屆出ヲ爲シタル日ヨリ一年間選擧運動ノ費用ニ關スル帳簿及書類ヲ保存スヘシ

前項ノ帳簿及書類ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八條　警察官吏ハ選擧ノ期日後何時ニテモ選擧事務長ニ對シ選擧運動ノ費用ニ關スル帳簿又ハ書類ノ提出ヲ命シ、之ヲ檢査シ又ハ之ニ關スル說明ヲ求ムルコトヲ得

第百九條　選擧事務長辭任シ又ハ解任セラレタル場合ニ於テハ遲滯ナク選擧運動ノ費用ノ計算ヲ爲シ新ニ選擧事務長ト爲リタル者ニ對シ、新ニ選擧事務長ト爲リタル者ナキトキハ第九十五條ノ規定ニ依リ選擧事務長ノ職務ヲ行フ者ニ對シ選擧事務所、選擧委員、選擧事務員其ノ他ニ關スル事務ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ第九十五條ノ規定ニ依リ選擧事務長ノ職務ヲ行フ者事務ノ引繼ヲ受ケタル後新ニ選擧事務長定リタルトキ亦同シ

第百十條　議員候補者ノ爲支出セラレタル選擧運動ノ費用カ第百二條第二項ノ規定ニ依リ告示セラレタル額ヲ超エタルトキハ其ノ議員候補者ノ當選ヲ無效トス但シ議員候補者及推薦屆出者カ選擧事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シ且選擧事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ選擧運動ノ費用ノ支出ニ付過失ナカリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二章　罰則

第百十一條　詐僞ノ方法ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第二十五條第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣言ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條　左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ饗應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

二　當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

三　投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選擧運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ第一號ニ揭クル行爲ヲ爲シタルトキ

四　第一號若ハ前號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五　前各號ニ揭クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

第百十三條　左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ前條第一號又ハ第二號ニ揭クル行爲ヲ爲シタルトキ

二　議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト、當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者、議員候補者タラムトシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ前條第一號ニ揭クル行爲ヲ爲シタルトキ

三　前二號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

四　前各號ニ揭クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

第百十四條　前二條ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第百十五條　選擧ニ關シ左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

二　交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキ

三　選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者若ハ當選人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ヲ威逼シタルトキ

第百十六條　選擧ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

官吏又ハ吏員選擧人ニ對シ其ノ投票セムトシ又ハ投票シタル被選擧人ノ氏名ノ表示ヲ求メタルトキハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十七條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛僞ナルトキ亦同シ

第百十八條　投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選擧人ノ投票ニ關渉シ又ハ被選擧人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ハ三年以下

ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十九條　投票管理者、開票管理者、選擧長、立會人若ハ選擧監視者ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ、選擧會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞若ハ奪取シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百二十條　多衆聚合シテ第百十五條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百十五條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百二十一條　選擧ニ關シ銃砲、刀劍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第百二十二條　前條ノ物件ヲ携帶シテ選擧會場、開票所又ハ投票所ニ入リタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條　前二條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第百二十四條　選擧ニ關シ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、松明ノ類ヲ用ヒ若ハ鐘鼓、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用フル等氣勢ヲ張ルノ行爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十五條　演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス第百十二條、第百十三條、第百十五條、第百十八條乃至第百二十二條及前條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ新聞紙及雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ罰ス

第百二十六條　演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス新聞紙及雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

一　當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ノ身分、職業又ハ經歷ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタルトキ

二　當選ヲ得シメサル目的ヲ以テ議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタルトキ

第百二十七條　選擧人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ僞造シ又ハ其ノ數ヲ增減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十八條　立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十九條　第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十條　第九十條第一項第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エ若ハ第九十一條ノ規定ニ違反シテ選擧事務所ヲ設置シタル者又ハ第九十二條ノ規定ニ違反シテ休憩所其ノ他之ニ類似スル設備ヲ設ケタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧委員又ハ選擧事務員ノ選任ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第百三十一條　第八十九條第一項、第九十九條又ハ第百九條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十二條　第八十八條第五項乃至第七項又ハ第八十九條第四項ノ屆出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者亦前項ニ同シ

第百三十三條　選擧事務長又ハ選擧事務長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者第百二條第二項ノ規定ニ依リ告示セラレタル額ヲ超エ選擧運動ノ費用ヲ支出シ又ハ第百一條第一項但書ノ規定ニ依ル承諾ヲ與ヘテ支出セシメタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　第百一條ノ規定ニ違反シテ選擧運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三十五條　左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第百五條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ニ記載ヲ爲サス若ハ之ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタルトキ

二　第百六條第一項ノ屆出ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタルトキ

三　第百七條第一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ保存セサルトキ

四　第百七條第一項ノ規定ニ依リ保存スヘキ帳簿又ハ書類ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタルトキ

五　第百八條ノ規定ニ依ル帳簿若ハ書類ノ提出若ハ檢査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ說明ノ求ニ應セサルトキ

第百三十六條　當選人其ノ選擧ニ關シ本章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス選擧事務長第百十二條又ハ第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同シ但シ選擧事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百三十七條　本章ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ニシテ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後五年間、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ終ル迄又ハ刑ノ時效ニ因ル場合ヲ除クノ外刑ノ執行ノ免除ヲ受クル迄ノ間及其ノ後五年間衆議院議員及選擧ニ付本章ノ規定ヲ準用スル議會ノ議員ノ選擧權及被選擧權ヲ有セス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

前項ニ規定スル者ト雖情狀ニ因リ裁判所ハ刑ノ言渡ト同時ニ前項ノ規定ヲ適用セス又ハ其ノ期間ヲ短縮スル旨ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ第六條第五號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セス

第百三十八條　第百二十七條第三項及第四項ノ罪ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前項ニ掲クル罪以外ノ本章ノ罪ノ時效ハ六月ヲ經過スルニ因リテ完成ス但シ犯人逃亡シタルトキハ其ノ期間ハ一年トス

第十三章　補則

第百三十九條　選擧ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百四十條　議員候補者又ハ推薦屆出者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ選擧區內ニ在ル選擧人ニ對シ選擧運動ノ爲ニスル通常郵便物ヲ選擧人一人ニ付一通ヲ限リ無料ヲ以テ差出スコトヲ得

公立學校其ノ他勅令ヲ以テ定ムル營造物ノ設備ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ演說ニ依ル選擧運動ノ爲其ノ使用ヲ許可スヘシ

第百四十一條　選擧ニ關スル訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外民事訴訟ノ例ニ依ル選擧ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第百四十二條　第十二章ニ掲クル罪ニ關スル刑事訴訟ニ付テハ上告裁判所ハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラサルコトヲ得

第百四十三條　當選人其ノ選擧ニ關シ第十二章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ選擧事務長第百十二條若ハ第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ裁判所ノ長ハ其ノ旨ヲ內務大臣及關係地方長官ニ通知スヘシ

第百四十四條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第百四十四條ノ二　本法中郡又ハ島廳管內トアルハ從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ヲ謂フ

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域內ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ渉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ渉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第百四十四條ノ三　北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アルモ選擧區ニ關シテハ仍從前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ境界ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル選擧ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十五條　第百四十四條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本法中郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區域ニ之ヲ適用ス

市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第百四十六條　交通至難ノ島嶼其ノ他ノ地ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十七條　第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ付テハ其ノ投票ヲ管理スヘキ者ハ之ヲ投票管理者、其ノ投票ヲ記載スヘキ場所ハ之ヲ投票所、其ノ投票ニ立會フヘキ者ハ之ヲ投票立會人ト看做シ第十二章ノ規定ヲ適用ス

第百四十八條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第百四十九條　明治十三年第三十六號布告刑法第二編第四章第九節ノ規定ハ衆議院議員ノ選擧ニ關シテハ之ヲ適用セス

第百五十條　本法ハ東京府小笠原島竝北海道廳根室支廳管內占守郡、新知郡、得撫郡及色丹郡ニハ當分ノ內之ヲ施行セス

附　則

本法ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ第十八條ノ規定ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ總選擧ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル總選擧ニ必要ナル選擧人名簿ニ關シ第十二條、第十三條、第十五條又ハ第十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

別表

選擧區		議員數
東京府		
第一區	麴町區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 牛込區	五人
第二區	神田區 小石川區 本鄕區 下谷區	五人
第三區	日本橋區 京橋區 淺草區	四人
第四區	本所區 深川區	四人
第五區	荏原郡 豐多摩郡 大島島廳管內 八丈島島廳管內	五人
第六區	北豐島郡 南足立郡 南葛飾郡	五人
第七區	八王子市 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡	三人
京都府		
第一區	上京區 下京區	五人
第二區	愛宕郡 葛野郡 乙訓郡 紀伊郡 宇治郡 久世郡 綴喜郡 相樂郡 南桑田郡 北桑田郡 船井郡	三人
第三區	天田郡 何鹿郡 加佐郡 與謝郡 中郡 竹野郡 熊野郡	三人
大阪府		
第一區	西區	三人
第二區	南區	三人
第三區	東區 北區	四人
第四區	西成郡 東成郡	四人
第五區	三島郡 豐能郡 南河內郡 中河內郡 北河內郡	四人
第六區	堺市 岸和田市 泉北郡 泉南郡	三人
神奈川縣		
第一區	橫濱市	三人
第二區	橫須賀市 川崎市 久良岐郡 橘樹郡 都筑郡 三浦郡 鎌倉郡	四人
第三區	高座郡 中郡 足柄上郡 足柄下郡 愛甲郡 津久井郡	四人
兵庫縣		
第一區	神戶市	五人
第二區	尼崎市 武庫郡 川邊郡 有馬郡 津名郡 三原郡	四人
第三區	明石市 美囊郡 加東郡 多可郡 加西郡 加古郡 印南郡	三人
第四區	姫路市 飾磨郡 神崎郡 揖保郡 赤穗郡 佐用郡 宍粟郡	四人

	第五區	城崎郡 出石郡 養父郡 朝來郡 美方郡 氷上郡 多紀郡	三人
長崎縣	第一區	長崎市 西彼杵郡 北高來郡 南高來郡 對馬島廳管內	五人
	第二區	佐世保市 東彼杵郡 北松浦郡 南松浦郡 壹岐郡	四人
新潟縣	第一區	新潟市 西蒲原郡 佐渡郡	三人
	第二區	北蒲原郡 中蒲原郡 東蒲原郡 岩船郡	四人
	第三區	長岡市 南蒲原郡 三島郡 古志郡 北魚沼郡 南魚沼郡 刈羽郡	五人
	第四區	高田市 中魚沼郡 東頸城郡 中頸城郡 西頸城郡	三人
埼玉縣	第一區	川越市 北足立郡 入間郡	四人
	第二區	比企郡 秩父郡 兒玉郡 大里郡	四人
	第三區	北埼玉郡 南埼玉郡 北葛飾郡	三人
群馬縣	第一區	前橋市 桐生市 勢多郡 利根郡 佐波郡 新田郡 山田郡 邑樂郡	五人
	第二區	高崎市 群馬郡 多野郡 北甘樂郡 碓氷郡 吾妻郡	四人
千葉縣	第一區	千葉市 千葉郡 市原郡 東葛飾郡 君津郡	四人
	第二區	印旛郡 海上郡 匝瑳郡 香取郡	三人
	第三區	長生郡 山武郡 夷隅郡 安房郡	四人
茨城縣	第一區	水戸市 東茨城郡 西茨城郡 鹿島郡 行方郡 稻敷郡 北相馬郡	四人
	第二區	那珂郡 久慈郡 多賀郡	三人
	第三區	新治郡 筑波郡 眞壁郡 猿島郡 結城郡	四人
栃木縣	第一區	宇都宮市 河內郡 上都賀郡 鹽谷郡 那須郡	五人
	第二區	足利市 芳賀郡 下都賀郡 安蘇郡 足利郡	四人
奈良縣			五人
三重縣	第一區	津市 四日市市 桑名郡 員辨郡 三重郡 鈴鹿郡 河藝郡 安濃郡 一志郡 阿山郡 名賀郡	五人
	第二區	宇治山田市 飯南郡 多氣郡 度會郡 志摩郡 北牟婁郡 南牟婁郡	四人
愛知縣	第一區	名古屋市	五人
	第二區	愛知郡 東春日井郡 西春日井郡 知多郡	三人
	第三區	一宮市 丹羽郡 葉栗郡 中島郡 海部郡	三人
	第四區	岡崎市 碧海郡 幡豆郡 額田郡 西加茂郡 東加茂郡	三人
	第五區	豐橋市 北設樂郡 南設樂郡 寶飯郡 渥美郡 八名郡	三人
静岡縣	第一區	静岡市 清水市 庵原郡 安倍郡 志太郡 榛原郡 小笠郡	五人
	第二區	沼津市 賀茂郡 田方郡 駿東郡 富士郡	四人
	第三區	濱松市 磐田郡 周智郡 濱名郡 引佐郡	四人
山梨縣			五人
滋賀縣			五人
岐阜縣	第一區	岐阜市 稻葉郡 山縣郡 武儀郡 郡上郡	三人
	第二區	大垣市 羽島郡 海津郡 養老郡 不破郡 安八郡 揖斐郡 本巣郡	三人
	第三區	加茂郡 可兒郡 土岐郡 惠那郡 益田郡 大野郡 吉城郡	三人
長野縣	第一區	長野市 更級郡 上高井郡 下高井郡 上水內郡 下水內郡	三人
	第二區	上田市 南佐久郡 北佐久郡	三人

		小縣郡 埴科郡	
	第三區	諏訪郡 上伊那郡 下伊那郡	四人
	第四區	松本市 西筑摩郡 東筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡	三人
宮城縣	第一區	仙臺市 刈田郡 柴田郡 伊具郡 亘理郡 名取郡 宮城郡 黑川郡 加美郡 志田郡 遠田郡	五人
	第二區	玉造郡 栗原郡 登米郡 桃生郡 牡鹿郡 本吉郡	三人
福島縣	第一區	福島市 郡山市 信夫郡 伊達郡 安達郡 安積郡	三人
	第二區	若松市 岩瀬郡 南會津郡 北會津郡 耶麻郡 河沼郡 大沼郡 東白川郡 西白河郡 石川郡 田村郡	五人
	第三區	石城郡 雙葉郡 相馬郡	三人
岩手縣	第一區	盛岡市 巖手郡 紫波郡 下閉伊郡 九戸郡 二戸郡	三人
	第二區	稗貫郡 和賀郡 膽澤郡 江刺郡 西磐井郡 東磐井郡 氣仙郡 上閉伊郡	四人
青森縣	第一區	青森市 東津輕郡 上北郡 下北郡 三戸郡	三人
	第二區	弘前市 西津輕郡 中津輕郡 南津輕郡 北津輕郡	三人
山形縣	第一區	山形市 米澤市 南村山郡 東村山郡 西村山郡 南置賜郡 東置賜郡 西置賜郡	四人
	第二區	鶴岡市 北村山郡 最上郡 東田川郡 西田川郡 飽海郡	四人
秋田縣	第一區	秋田市 鹿角郡 北秋田郡 山本郡 南秋田郡 河邊郡	四人
	第二區	由利郡 仙北郡 平鹿郡 雄勝郡	三人
福井縣			五人
石川縣	第一區	金澤市 江沼郡 能美郡 石川郡	三人
	第二區	河北郡 羽咋郡 鹿島郡 鳳至郡 珠洲郡	三人
富山縣	第一區	富山市 上新川郡 中新川郡 下新川郡 婦負郡	三人
	第二區	高岡市 射水郡 氷見郡 東礪波郡 西礪波郡	三人
鳥取縣			四人
島根縣	第一區	松江市 八束郡 能義郡 仁多郡 大原郡 簸川郡 隱岐島廳管內	三人
	第二區	飯石郡 安濃郡 邇摩郡 邑智郡 那賀郡 美濃郡 鹿足郡	三人
岡山縣	第一區	岡山市 御津郡 赤磐郡 和氣郡 邑久郡 上道郡 眞庭郡 苫田郡 勝田郡 英田郡 久米郡	五人
	第二區	兒島郡 都窪郡 淺口郡 小田郡 後月郡 吉備郡 上房郡 川上郡 阿哲郡	五人
廣島縣	第一區	廣島市 佐伯郡 安佐郡 山縣郡 高田郡	四人
	第二區	吳市 安藝郡 賀茂郡 豐田郡	四人
	第三區	尾道市 福山市 御調郡 世羅郡 沼隈郡 深安郡 蘆品郡 神石郡 甲奴郡 雙三郡 比婆郡	五人
山口縣	第一區	下關市 宇部市 厚狹郡 豐浦郡 美禰郡 大津郡 阿武郡	四人
	第二區	大島郡 玖珂郡 熊毛郡 都濃郡 佐波郡 吉敷郡	五人
和歌山縣	第一區	和歌山市 海草郡 那賀郡 伊都郡	三人
	第二區	有田郡 日高郡	三人

		西牟婁郡 東牟婁郡	
德島縣	第一區	德島市 名東郡 勝浦郡 那賀郡 海部郡 名西郡	三人
	第二區	板野郡 阿波郡 麻植郡 美馬郡 三好郡	三人
香川縣	第一區	高松市 大川郡 木田郡 小豆郡 香川郡	三人
	第二區	丸龜市 綾歌郡 仲多度郡 三豐郡	三人
愛媛縣	第一區	松山市 溫泉郡 伊豫郡 上浮穴郡 喜多郡	三人
	第二區	今治市 越智郡 周桑郡 新居郡 宇摩郡	三人
	第三區	宇和島市 西宇和郡 東宇和郡 北宇和郡 南宇和郡	三人
高知縣	第一區	高知市 安藝郡 香美郡 長岡郡 土佐郡	三人
	第二區	吾川郡 高岡郡 幡多郡	三人
福岡縣	第一區	福岡市 糟屋郡 宗像郡 朝倉郡 筑紫郡 早良郡 糸島郡	四人
	第二區	若松市 八幡市 戸畑市 遠賀郡 鞍手郡 嘉穗郡	五人
	第三區	久留米市 大牟田市 浮羽郡 三井郡 三潴郡 八女郡 山門郡 三池郡	五人
	第四區	小倉市 門司市 企救郡 田川郡 京都郡 築上郡	四人
大分縣	第一區	大分市 大分郡 北海部郡 南海部郡 大野郡 直入郡 玖珠郡 日田郡	四人
	第二區	別府市 西國東郡 東國東郡 速見郡 下毛郡 宇佐郡	三人
佐賀縣	第一區	佐賀市 佐賀郡 神埼郡 三養基郡 小城郡	三人
	第二區	東松浦郡 西松浦郡 杵島郡 藤津郡	三人
熊本縣	第一區	熊本市 飽託郡 玉名郡 鹿本郡 菊池郡 阿蘇郡	五人
	第二區	宇土郡 上益城郡 下益城郡 八代郡 葦北郡 球磨郡 天草郡	五人
宮崎縣			五人
鹿兒島縣	第一區	鹿兒島市 鹿兒島郡 揖宿郡 川邊郡 熊毛郡 日置郡	五人
	第二區	薩摩郡 出水郡 伊佐郡 姶良郡 囎唹郡	四人
	第三區	肝屬郡 大島島廳管內	三人
沖繩縣			五人
北海道	第一區	札幌市 小樽市 石狩支廳管內 後志支廳管內	四人
	第二區	旭川市 上川支廳管內 宗谷支廳管內 留萌支廳管內	四人
	第三區	函館市 檜山支廳管內 渡島支廳管內	三人
	第四區	室蘭市 空知支廳管內 膽振支廳管內 浦河支廳管內	五人
	第五區	釧路市 河西支廳管內 釧路國支廳管內 根室支廳管內 網走支廳管內	四人

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス

●衆議院議員選擧法施行令

（大正十五年一月三十日勅令第三號）
改正　大正一五年第二三八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選擧法施行令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務大臣副署）

衆議院議員選擧法施行令

第一章　選擧區、選擧權及被選擧權

第一條　衆議院議員選擧法ノ別表ニ揭クル以外ノ市ハ其ノ設置前區域ノ屬シタル郡市ノ屬スル選擧區ニ包含スルモノトス

第二條　選擧人ノ年齡ハ選擧人名簿調製ノ期日ニ依リ、被選擧人ノ年齡ハ選擧ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第三條　衆議院議員選擧法第七條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ學生生徒左ノ如シ

一　陸軍各部依託學生生徒

二　海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造機學生造兵學生並海軍豫備生徒及海軍豫備練習生

第二章　選擧人名簿

第四條　市町村ノ境界變更アリタル爲選擧人名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ハ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選擧人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依ル

第五條　削除

第六條　選擧人名簿ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三章　投票

第七條　市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　選擧人名簿ハ投票區毎ニ之ヲ調製スヘシ

二　各投票區ニ於ケル投票管理者ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ內一人ハ市町村長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

三　市町村長ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ

第八條　數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　投票管理者ハ地方長官ニ於テ關係町村長ノ中ニ就キ之ヲ定ム

二　町村長ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第九條　投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ監督官廳ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第十條　投票立會人ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ投票立會人ノ氏名、住居及生年月日ヲ記載シ且本人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第十一條　選擧人選擧人名簿調製期日後其ノ投票區域外ニ住居ヲ移シタル場合ニ於テハ名簿調製期日ニ於テ住居ヲ有シタル地ノ投票區ノ投票所ニ到リ投票ヲ爲スヘシ

第十二條　投票管理者必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到著番號札ヲ選擧人ニ交付スルコトヲ得

第十三條　投票記載ノ場所ハ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十四條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十五條　投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖スヘシ

第十六條　投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿ニ對照シタル後投票用紙ヲ交付スヘシ

第十七條　選擧人誤リテ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十九條　投票ヲ爲サムトスル選擧人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選擧人ヲシテ之ヲ讀聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名セシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル宣言書ハ之ヲ投票錄ニ添附スヘシ

第二十條　選擧人投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者ハ投票用紙ヲ返付セシムヘシ

第二十一條　衆議院議員選擧法第二十八條ノ規定ニ依リ盲人カ投票ニ關スル記載ニ使用スルコトヲ得ル點字ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル選擧人ハ投票管理者ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツヘシ此ノ場合ニ於テハ投票管理者ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スヘシ

點字ニ依ル投票ノ拒否ニ付テハ衆議院議員選擧法第三十一條ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テハ封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ假ニ爲サシメタル投票ハ衆議院議員選擧法第四十九條ノ規定ノ適用ニ付テハ同法第三十一條第二項及第四項ノ投票ト看做ス

第二十二條　投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十三條　投票ニ關スル書類ハ投票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ市町村長タル投票管理者ハ其ノ他ノ投票管理者ノ保存スヘキ書類ヲ併セテ保存スヘシ

第二十四條　地方長官衆議院議員選擧法第三十六條ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ告示シ併セテ投票管理者及開票管理者ニ通知スヘシ

第二十五條　地方長官衆議院議員選擧法第三十七條ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ投票管理者、開票管理者及選擧長ニ通知スヘシ

第四章　衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票

第二十六條　衆議院議員選擧法第三十三條ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶、總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ヲ除クノ外日本船舶（內地以外ニ船籍港ヲ定ムルモノヲ含ム以下之ニ同シ）ノ船員又ハ其ノ船舶ニ乘務スルノ常況ニ在ル者船內從業中ナルヘキコト

二　前號ノ船舶ヲ除クノ外日本船舶ニシテ總噸數五噸以上又ハ積石數五十石以上ノモノノ船員又ハ其ノ船舶ニ乘務スルノ常況ニ在ル者船內從業中ナルヘキコト

三　鐵道列車ニ乘務スルノ常況ニ在ル鐵道係員、郵便取扱員其ノ他ノ者鐵道列車ニ乘務中ナルヘキコト

四　陸海軍軍人演習召集中又ハ敎育召集中ナルヘキコト

五　艦船乘員タル軍屬海上勤務中ナルヘキコト

第二十七條　選擧人前條第一號、第四號又ハ第五號ニ揭クル事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキトキハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日ノ前日迄ニ自ラ其ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ就キ又ハ之ニ對シ郵便ヲ以テ其ノ旨ヲ證シテ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

選擧人前條第二號又ハ第三號ニ揭クル事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキトキハ選擧ノ期日前十日ヨリ選擧ノ期日ノ前日迄ニ自ラ其ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ就キ其ノ旨ヲ證シテ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル選擧人ハ前二項ノ請求ト同時ニ投票管理者ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツヘシ

第二十八條　選擧人前條ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ併セテ左ニ揭クル者ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ第二十六條第四號[illegible]選擧ノ期[illegible]擧人自ラ[illegible]就キ請求[illegible]ヲ以テ證[illegible]

一　第二十六條第一號[illegible]テハ船[illegible]ニ準ス[illegible]シ）、其[illegible]（船長[illegible]ノ長又[illegible]

二　第二十六條第二號ニ揭クル事由ニ關シテハ各其ノ所屬ノ官署ノ長又ハ其ノ業務主

三　第二十六條第三號ニ揭クル事由ニ關シテハ鐵道係員ニ在リテハ各所屬ノ車掌監督機關庫主任電車庫主任（地方鐵道ニ在リテハ各所屬ノ之ニ該當スル者）、郵便取扱員ニ在リテハ各所屬ノ郵便局長、其ノ他ノ者ニ在リテハ各其ノ所屬ノ官署ノ長又ハ其ノ業務主

四　第二十六條第四號ニ揭クル事由ニ關シテハ其ノ者ノ所屬部（陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル以下之ニ同シ）ノ長

五　第二十六條第五號ニ揭クル事由ニ關シテハ其ノ者ノ所屬ノ艦船ノ長

前項ノ規定ニ依リ證明書ノ交付ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ請求ノ事由アリト認ムルトキハ直ニ證明書ヲ交付スヘシ

選擧人正當ノ事由ニ因リ第一項ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ投票管理者ニ疏明スヘシ

第二十九條　投票管理者第二十七條及前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ投票用紙及投票用封筒ノ交付ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ直ニ其ノ選擧ニ用フヘキ選擧人名簿ニ對照シ當該選擧人カ第二十六條ニ掲クル事由ノ一ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハスト認ムルトキハ投票用紙及投票用封筒ヲ直ニ選擧人ニ直接ニ交付シ又ハ郵便ヲ以テ發送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二十七條第三項ノ申立ヲ爲シタル選擧人ニ交付シ又ハ發送スル投票用紙ニハ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺スヘシ

第三十條　衆議院議員選擧法第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ付テハ當該選擧人カ第二十六條ニ掲クル事由ノ何レニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタルカニ依リ各左ニ掲クル者之ヲ管理ス（之ヲ特別投票管理者ト稱ス）

一　第二十六條第一號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者又ハ其ノ乘務スル船舶ノ船長

二　第二十六條第二號又ハ第三號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者

三　第二十六條第四號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者、其ノ所屬ノ部隊若ハ陸上海軍各部ノ所在地ノ投票管理者（當該所在地二以上ノ投票區ニ渉ルトキハ關係投票管理者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者）又ハ所屬ノ艦船ノ長

四　第二十六條第五號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者又ハ其ノ所屬ノ艦船ノ長

第三十一條　第二十六條第一號、第四號又ハ第五號ニ掲クル事由ニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタル選擧人ハ選擧ノ期日迄ニ其ノ投票用紙及投票用封筒ヲ特別投票管理者ニ提示シ點檢ヲ受ケ當該管理者ノ管理スル投票記載ノ場所ニ於テ自ラ投票用紙ニ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ投票用封筒ノ表面ニ其ノ氏名ヲ記載シ直ニ之ヲ當該管理者ニ提出スヘシ

第二十六條第二號又ハ第三號ニ掲クル事由ニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタル選擧人ハ其ノ交付ヲ受ケタル後直ニ特別投票管理者ノ管理スル投票記載ノ場所ニ於テ自ラ投票用紙ニ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ投票用封筒ノ表面ニ其ノ氏名ヲ記載シ直ニ之ヲ當該管理者ニ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ特別投票管理者ハ各關係市町村吏員、船員若ハ海軍軍人又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十三條ノ規定ハ第一項及第二項ノ投票記載ノ場所ニ之ヲ準用ス

第三十二條　特別投票管理者前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル投票ヲ受領シタルトキハ投票用封筒ノ裏面ニ投票ノ年月日及場所ヲ記載シ前條第三項ノ規定ニ依ル立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

前項ノ特別投票管理者選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者ナルトキハ其ノ投票ヲ其ノ儘保管スヘシ

第一項ノ特別投票管理者選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者以外ノ者ナルトキハ更ニ其ノ投票ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ投票在中ノ旨ヲ明記シ其ノ裏面ニ署名捺印シ之ヲ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ送致スヘシ

投票用紙及投票用封筒ヲ交付シタル後投票區ニ異動アリタルニ因リ投票管理者ノ管理ニ係ル投票區ニ屬スルコトナキニ至リタル選擧人ノ投票ハ投票管理者ニ於テ直ニ之ヲ新ニ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ送致スヘシ

投票管理者投票所ヲ閉ツヘキ時刻迄ニ前二項ノ規定ニ依ル投票ノ送致ヲ受ケタルトキハ送致ニ用ヒラレタル封筒ヲ開披シ投票ハ其ノ儘之ヲ保管スヘシ

第三十三條　投票管理者ハ第二十七條乃至第二十九條及前二條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顛末書ヲ作成シ之ニ署名シ投票錄ニ添附スヘシ

第三十四條　投票管理者ハ投票函閉鎖前投票立會人ノ意見ヲ聽キ第三十二條第二項又ハ第五項ノ規定ニ依リ保管スル投票ノ受理如何ヲ決定スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ投票管理者ハ直ニ投票用封筒ヲ開披シ其ノ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シタル投票用紙ヲ用ヒタル投票ニ付衆議院議員選擧法第三十一條ノ例ニ依リ其ノ拒否ヲ決定スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ受理スヘシト決定セラレ且前項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定ヲ受ケサル投票ハ投票管理者ニ於テ直ニ之ヲ投函シ第一項ノ規定ニ依リ受理スヘカラスト決定セラレタル投票又ハ前項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定ヲ受ケタル投票ハ投票管理者ニ於テ更ニ之ヲ其ノ投票用封筒ニ入レ假ニ封緘ヲ施シ其ノ表面ニ第一項ノ規定ニ依ル不受理ノ決定又ハ前項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定アリタル旨ヲ記載シテ之ヲ投函スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル不受理ノ決定又ハ第二項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定アリタル投票ハ衆議院議員選擧法第四十九條ノ規定ノ適用ニ付テハ同法第三十一條第二項及第四項ノ投票ト看做ス

第三十五條　第二十九條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル投票用紙及投票用封筒ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

選擧人第二十九條ノ規定ニ依リ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ投票管理者ニ返還スルニ非サレハ衆議院議員選擧法第二十五條第一項ノ規定ニ依ル投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條　投票管理者投票所ヲ閉ツヘキ時刻後第三十二條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル投票ノ送致ヲ受ケタルトキハ送致ニ用ヒラレタル封筒ヲ開披シ投票用封筒ノ裏面ニ受領ノ年月日時ヲ記載シ之ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第五章　開票

第三十七條　郡市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ各開票區ニ於ケル開票管理者ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ定ム但シ支廳長ノ管轄區域又ハ市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ開票管理者ノ内一人ハ支廳長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

第三十八條　第九條ノ規定ハ開票管理者及其ノ代理者ニ、第十條ノ規定ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第三十九條　投票ヲ點檢スルトキハ開票管理者ハ開票事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算セシムヘシ

第四十條　前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ投票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第四十一條　開票管理者衆議院議員選擧法第四十九條第三項ノ報告ヲ爲ストキハ同時ニ開票錄ノ謄本ヲ送付スヘシ

開票管理者ハ前項ノ報告ヲ爲シタル後直ニ投票管理者ヨリ送付シタル選擧人名簿ヲ關係市町村長ニ返付スヘシ

第四十二條　開票管理者ハ投票區毎ニ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シ之ヲ保存スヘシ

受理スヘカラスト決定シタル投票ハ其ノ封筒ヲ開披セス前項ノ例ニ依リ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十六條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル投票ハ開票管理者ニ於テ其ノ封筒ヲ開披セス議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）又ハ吏員（市長ヲ除ク）開票管理者タル場合ニ於テハ開票管理者ノ保存スヘキ投票ハ地方長官若ハ支廳長又ハ市長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第四十三條　開票ニ關スル書類ハ開票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ前條第四項ノ規定ヲ準用ス

第四十四條　地方長官衆議院議員選擧法第五十六條ノ規定ニ依リ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ開票管理者及選擧長ニ通知スヘシ

第六章　選擧會

第四十五條　第九條ノ規定ハ選擧長及其ノ代理者ニ、第十條ノ規定ハ選擧立會人ニ之ヲ準用ス

第四十六條　開票管理者ノ報告ヲ調査スルトキハ選擧長ハ開票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第四十七條　選擧會ニ關スル書類ハ選擧長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第四十八條　地方長官衆議院議員選擧法第六十五條ノ規定ニ依リ選擧會ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ選擧長ニ通知スヘシ

第七章　議員候補者及當選人

第四十九條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ議員候補者タルヘキ者ノ氏名、職業、住居及生年月日（推薦屆出ノ場合ニ於テハ併セテ推薦屆出者ノ氏名、住居及生年月日）ヲ記載シ且衆議院議員選擧法第六十八條第一項ノ供託ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル爲選擧ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第五十條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出アリタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ議員候補者ノ住居ヲ有スル地ノ市町村長ニ通知シ同時ニ議員候補者ノ氏名、職業、住居、生年月日其ノ他必要ナル事項ヲ開票管理者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ當該議員候補者死亡シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選擧長ニ通知スヘシ

選擧長ハ議員候補者ノ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ開票管理者ニ通知スヘシ

第五十一條　議員候補者選擧ノ期日前十一日迄ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ、選擧ノ期日ニ於ケル投票所ヲ開クヘキ時刻迄ニ死亡シタルトキ若ハ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ選擧ノ全部無效ト爲リタルトキハ直ニ衆議院議員選擧法第六十八條第一項ノ供託物ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

議員候補者ノ得票數衆議院議員選擧法第六十八條第二項ノ規定ニ該當セサルモノナルトキ又ハ議員候補者同法第七十一條ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ選擧及當選ノ效力確定後直ニ同法第六十八條第一項ノ供託物ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條　當選人衆議院議員選擧法第七十四條ノ期間内ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲ササルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八章　選擧運動

第五十三條　選擧事務長ノ選任（議員候補者又ハ推薦屆出者自ラ選擧事務長ト爲リタル場合ヲ含ム以下之ニ同シ）ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選擧事務長ノ氏名、職業、住居、生年月日及選任年月日竝議員候補者ノ氏名ヲ記載シ且選擧事務長カ選擧權ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

推薦屆出者選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ屆出ニハ推薦屆出者數人アルトキハ其ノ代表者タルコトヲ證スヘキ書面ヲ、其ノ選任ニ付議員候補者ノ承諾ヲ要スルトキハ其ノ承諾ヲ得タルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十四條　選擧事務員又ハ選擧委員ノ選任ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選擧事務員又ハ選擧委員ノ氏名、職業、住居、生年月日及選任年月日ヲ記載シ且選擧委員又ハ選擧事務員カ選擧權ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十五條　選擧事務所ノ設置ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選擧事務所ノ所在地及設置年月日ヲ記載スヘシ

第五十六條　選擧事務長、選擧委員、選擧事務員又ハ選擧事務所ニ異動アリタルコトノ屆出ハ前三條ノ例ニ依リ之ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出ニシテ解任又ハ辭任ニ因ル異動ニ關スルモノニハ衆議院議員選擧法第八十八條第三項若ハ第四項又ハ第八十九條第二項若ハ第三項ノ通知アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ選擧事務長ヲ選任シタル推薦屆出者選擧事務長ヲ解任シタル場合ニ於テハ併セテ其ノ解任ニ付議員候補者ノ承諾アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十七條　選擧事務長故障アルトキ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選擧事務長ノ氏名（選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル推薦屆出者モ亦故障アルトキハ併セテ其ノ氏名）、故障ノ事實及其ノ職務代行ヲ始メタル年月日ヲ記載シ且故障ノ生シタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

選擧事務長故障アルトキ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者之ヲ罷メタルコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ故障ノ止ミタル事實及其ノ職務代行ヲ罷メタル年月日ヲ記載シ且故障ノ止ミタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第九章　選擧運動ノ費用

第五十八條　選擧事務長選擧運動ノ費用ノ支出ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テ承諾ニ係ル費用ノ支出終了シタルトキ又ハ選擧ノ期日經過シタルトキハ選擧事務長ハ遲滯ナク其ノ承諾ヲ受ケタル者ニ就キ支出金額（財産上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ノ使用若ハ費消ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ其ノ負擔シタル義務又ハ其ノ使用シ若ハ費消シタル利益）、其ノ用途ノ大要、支出先、支出年月日及支出者ノ氏名ヲ記載シタル精算書ヲ作成スヘシ

第五十九條　演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ノ費用ニシテ議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サル者カ議員候補者又ハ選擧事務長ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ選擧事務長ハ其ノ都度遲滯ナク議員候補者又ハ支出者ニ就キ前條ノ例ニ依リ精算書ヲ作成スヘシ

前項ノ費用ニシテ議員候補者ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ其ノ意思ヲ通シタル都度議員候補者ハ直ニ其ノ旨ヲ選擧事務長ニ通知スヘシ

第六十條　立候補準備ノ爲ニ要シタル費用ニシテ議員候補者若ハ選擧事務長ト爲リタル者カ支出シ又ハ他人カ其ノ者ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ選擧事務長ハ其ノ就任後遲滯ナク議員候補者又ハ支出者ニ就キ第五十八條ノ例ニ依リ精算書ヲ作成スヘシ

第六十一條　選擧事務長ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備フヘシ

一　承諾簿

二　評價簿

三　支出簿

第六十二條　選擧事務長選擧運動ノ費用ノ支出ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ直ニ承諾ニ係ル金額（財産上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ノ使用若ハ費消ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ承諾ニ係ル義務又ハ利益）、其ノ用途ノ大要、承諾年月日及承諾ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ承諾簿ニ記載スヘシ

選擧事務長選擧運動ノ費用ノ支出ノ承諾ヲ與ヘタル後未タ支出セラレサル費用ニ付テハ文書ヲ以テ其ノ承諾ノ取消ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ前項ノ例ニ依リ承諾簿ニ記載スヘシ

選擧事務長第五十八條ノ規定ニ依リ精算書ヲ作成シタルトキハ直ニ支出總金額（財産上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ノ使用若ハ費消ニ付テハ其ノ種類別總額）、其ノ用途ノ大要、精算年月日及承諾ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ承諾簿ニ記載スヘシ

第六十三條　左ニ掲クル場合ニ於テハ選擧事務長ハ直ニ財産上ノ義務又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ヲ時價ニ見積リタル金額、其ノ

用途ノ大要、支出先、支出年月日及見積リノ詳細ナル根據ヲ評價簿ニ記載スヘシ

一　選擧事務長選擧運動ノ費用トシテ財産上ノ義務ヲ負擔シ又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ヲ使用シ若ハ費消シタルトキ

二　選擧事務長第五十九條第一項又ハ第六十條ノ規定ニ依リ財産上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ノ使用若ハ費消ニ關スル精算書ヲ作成シタルトキ

三　選擧事務長前條ノ規定ニ依リ財産上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ノ使用若ハ費消ニ關スル承諾簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

第六十四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ選擧事務長ハ直ニ支出金額、其ノ用途ノ大要、支出先及支出年月日ヲ支出簿ニ記載スヘシ

一　選擧事務長金錢ヲ以テ選擧運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキ

二　選擧事務長第五十九條第一項又ハ第六十條ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル精算書ヲ作成シタルトキ

三　選擧事務長第六十二條第三項ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル承諾簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　選擧事務長前條ノ規定ニ依リ評價簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

第六十五條　衆議院議員選擧法第百九條ノ規定ニ依リ事務ノ引繼ヲ爲ス場合ニ於テハ第六十六條ニ定ムル精算屆書ノ樣式ニ準シ選擧運動ノ費用ノ計算書ヲ作成シテ引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者ニ於テ之ニ引繼ノ旨及引繼年月日ヲ記載シ共ニ署名捺印シ第六十八條ニ定ムル帳簿及書類ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ

第六十六條　衆議院議員選擧法第百六條第一項ノ規定ニ依ル選擧運動ノ費用ノ精算ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ內務大臣ノ定ムル精算屆書ノ樣式ニ依ルヘシ

第六十七條　選擧運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ都度領收書其ノ他ノ支出ヲ證スヘキ書面ヲ徴スヘシ但シ之ヲ徴シ難キ事情アルトキ又ハ一口五圓未滿ノ支出ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　衆議院議員選擧法第百七條第二項ノ規定ニ依リ帳簿及書類ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　第五十八條乃至第六十條ノ精算書

二　第六十一條ニ揭クル帳簿

三　第六十五條ノ計算書

四　前條ノ領收書其ノ他ノ支出ヲ證スヘキ書面

第十章　選擧ニ關スル費用

第六十九條　選擧人名簿、投票ノ用紙及封筒、投票函竝點字器ノ調製ニ要スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第七十條　選擧事務ノ爲地方長官、選擧長、開票管理者又ハ投票管理者ニ於テ要スル費用及選擧會場、開票所又ハ投票所ニ要スル費用ハ關係行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

衆議院議員選擧法第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ關スル選擧事務ノ爲投票管理者又ハ特別投票管理者ニ於テ要スル費用及其ノ投票記載ノ場所ニ要スル費用ハ選擧人ノ屬スル投票區ノ行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第七十一條　前條ノ關係行政廳二以上アル場合ニ於テハ其ノ支辨スヘキ費用ハ關係行政廳ニ之ヲ平分スヘシ此ノ場合ニ於テ關係行政廳ノ經費カ同一經濟ニ屬スルトキハ一行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第七十二條　投票立會人、開票立會人及選擧立會人ニハ職務ノ爲要スル費用ヲ給ス

前項ノ費用ノ額ハ地方長官之ヲ定ム

第一項ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第十一章　無料郵便物ノ差出

第七十三條　衆議院議員選擧法第百四十條第一項ノ選擧運動ノ爲ニスル通常郵便物ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　重量十匁迄ノ無封ノ書狀

二　私製葉書

前項ノ郵便物ハ之ヲ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第七十四條　前條ノ郵便物ハ選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル議員候補者又ハ推薦屆出者ニ限リ之ヲ差出スコトヲ得

選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル推薦屆出者死亡其ノ他ノ事由ニ因リ前條ノ郵便物ヲ差出スコトヲ得サルトキハ議員候補者之ヲ差出スコトヲ得

前項ノ議員候補者ハ前條ノ郵便物ヲ其ノ未タ差出サレサル選擧人ニ對シテノミ差出スコトヲ得選擧事務長ニ異動アリタル場合ニ於テ新ニ選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル者モ亦同シ

第七十五條　前二條ニ定ムルモノノ外第七十三條ノ郵便物ニ關シ必要ナル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十二章　公立學校等ノ設備ノ使用

第七十六條　衆議院議員選擧法第百四十條第二項ノ營造物ノ設備ハ左ニ揭クルモノニシテ道府縣、市町村、市町村組合、町村組合、商業會議所又ハ農會ノ管理ニ屬スルモノニ限ル

一　公會堂

二　議事堂

三　前各號ノ外地方長官ノ指定シタル營造物ノ設備

議事堂ニシテ國又ハ公共團體ノ他ノ營造物ノ設備ト同一ノ建物內ニ在リ又ハ之ニ接續シ若ハ近接シ其ノ使用ニ依リ國又ハ公共團體ノ事務ニ著シキ支障アリト認ムルモノニ付テハ地方長官ハ豫メ之ヲ指定シ其ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前二項ノ指定ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第七十七條　公立學校及前條ノ營造物ノ設備ノ使用ハ選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル議員候補者又ハ推薦屆出者ニ限リ之ヲ申請スルコトヲ得

第七十四條第二項ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第七十八條　公立學校ヲ使用セムトスルトキハ其ノ使用スヘキ學校ノ設備及日時ヲ記載シタル文書ヲ以テ當該公立學校管理者ニ之ヲ申請スヘシ

同一議員候補者ノ爲二回以上同一公立學校ヲ使用セムトスルトキハ先ノ申請ニ對シ許可セラレタル使用ノ日ヲ經過シタル後ニ非サレハ更ニ申請ヲ爲スコトヲ得ス

第七十九條　同一公立學校ヲ同一日時ニ使用スヘキ二以上ノ申請アリタルトキハ公立學校管理者ハ先ニ到達シタル申請書ノ申請ニ對シ、其ノ到達同時ナルトキハ既ニ使用ヲ許可セラレタル度數ノ少キ議員候補者ノ爲ノ申請ニ對シ其ノ使用ヲ許可スヘシ其ノ度數モ亦同シキトキハ申請者又ハ其ノ代人立會ノ上抽籤ニ依リ其ノ使用ヲ許可スヘキ者ヲ決定スヘシ

第八十條　第七十八條ノ規定ニ依ル申請書ノ到達アリタルトキハ公立學校管理者ハ當該公立學校長ノ意見ヲ徴シテ其ノ許否ヲ決定シ到達ノ日ヨリ二日以內ニ申請者又ハ其ノ代人及當該公立學校長ニ通知スヘシ

第八十一條　公立學校ノ使用ノ許可ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　公立學校長ニ於テ學校ノ授業又ハ諸行事ニ支障アリト認ムル場合ニ於テハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ス

二　職員室、事務室、宿直室、器械室、標本室其ノ他公立學校長ニ於テ著シキ支障アリト認ムル設備ニ付テハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ス

三　使用ヲ許可スヘキ期間ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日ノ前日迄トス

四　使用ノ時間ハ一回ニ付五時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八十二條　道廳府縣立學校管理者タル地方長官ハ前四條ニ規定スル管理者ノ權限ヲ學校長ニ委任スルコトヲ得

地方長官前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第八十三條　前五條ノ規定ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ之ヲ準用ス但シ公立學校長ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ第八十一條中公立學校長トアルハ管理者トス

第八十四條　第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ付一般ニ使用ニ關スル料金徴收ノ定アルモノニ關シテハ其ノ料金ヲ徴收スルコトヲ妨ケス

第八十五條　公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ノ準備及其ノ後片付等ニ要スル費用ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ因リ其ノ設備ヲ損傷シタルトキハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ賠償シ又ハ原狀ニ復スヘシ

第八十六條　地方長官ハ公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者カ本章ノ規定ニ違反シテ又ハ不當ニ使用ノ許可ヲ爲シ又ハ爲ササルトキハ使用ノ許可ヲ取消シ又ハ使用ノ許可ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　地方長官ハ選擧運動ノ爲ニスル公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ關シ本章ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三章　交通至難ノ島嶼ニ於ケル特例

第八十八條　北海道廳根室支廳管內國後郡、紗那郡、擇捉郡及蘂取郡ニ於ケル選擧ニ關シテハ第八十九條乃至第百七條ノ規定ニ依ル

第八十九條　削除

第九十條　削除

第九十一條　削除

第九十二條　削除

第九十三條　衆議院議員選擧法第十六條第一項ニ定ムル出訴期間ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內トス

第九十四條　衆議院議員選擧法第三十一條第二項乃至第四項ノ規定及第三十四條中投票ヲ受理スヘカラスト決定シタル場合ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス

第九十五條　投票管理者ハ投票ノ翌日投票所ニ於テ衆議院議員選擧法第四十八條、第四十九條第二項及第五十一條ノ例ニ依リ開票管理者ニ屬スル職務ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ投票立會人ハ其ノ例ニ依リ開票立會人ニ屬スル職務ヲ行フ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ投票ヲ點檢スル場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條　各議員候補者ノ得票數ノ計算終リタルトキハ投票管理者ハ其ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第九十七條　投票ノ點檢終リタルトキハ投票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ開票管理者ニ報告スヘシ

第九十八條　投票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第三十四條ノ規定ニ依リ受理スヘカラスト決定シタル投票ハ投票管理者之ヲ其ノ儘他ノ封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第九十九條　投票管理者ハ前四條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顚末書ヲ作成シ投票立會人ト共ニ署名シ投票錄及前條ノ投票ト併セテ開票管理者ニ之ヲ送致スヘシ

第百條　投票管理者ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第百一條　選擧人ハ其ノ投票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第百二條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ之ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ

前項ノ規定ハ開票ニ之ヲ準用ス

投票管理者第一項ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示シ前項ノ規定ニ依リ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ豫メ之ヲ告示スヘシ

投票管理者第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ投票又ハ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ開票管理者、選擧長及地方長官ニ報告スヘシ

第百三條　開票管理者ハ第九十七條ノ報告及衆議院議員選擧法第三十五條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ送致セラレタル投票函ノ總テ到達シタル翌日開票ヲ行フヘシ

開票管理者ハ前項ノ投票函ノ投票ニ付衆議院議員選擧法第四十九條第一項及第二項ノ規定ニ依ル手續ヲ終リタルトキハ前項ノ報告ヲ調査シ投票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第九十七條ノ報告遲著ノ虞アルトキハ其ノ報告總テ到達セサルモ投票函ノ總テ到達シタル翌日以後ハ開票管理者ハ其ノ投票函ノ投票及前日迄ニ到達シタル報告ニ付前項ノ例ニ依リ開票ノ手續ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票ヲ行ヒタル場合ニ於テハ開票管理者ハ報告ノ總テ到達シタル日又ハ其ノ翌日更ニ開票所ニ於テ調査未濟ノ報告ヲ調査シ該報告ニ付投票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ前項ノ規定ニ依ル得票總數ニ通算シタル各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二項及前項ノ場合ニ於テハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スヘシ

第百四條　第九十七條ノ報告ニ關スル書類及第九十九條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル顚末書ハ開票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第百五條　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ノ開票ニ於テハ其ノ選擧ニ係ル第九十七條ノ報告ヲ調査スヘシ

第百六條　衆議院議員選擧法第百六條ノ規定ニ依リ屆出ツヘキ事項ニ付同條ノ定ムル期間內ニ屆出ツルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ第八十八條ノ地域ニ關スル部分ニ限リ分別シテ適宜ニ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ屆出期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第八十八條ノ地域ニ關スル當選人ニ對スル衆議院議員選擧法第八十四條第一項ニ定ムル出訴期間ハ第一項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ト同一ノ期間之ヲ延長ス

第百七條　衆議院議員選擧法第百二十八條ノ規定ハ投票立會人正當ノ事故ナクシテ第九十五條又ハ第九十九條ニ定メタル義務ヲ缺キタル場合ニ之ヲ適用ス

第百八條　東京府青ケ島ニ於テハ名主ハ其ノ年十二月十九日迄ニ選擧人名簿ヲ支廳長ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選擧人名簿ハ支廳長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ選擧人名簿ヲ支廳長ニ發送シタル後確定判決ニ依リ之ヲ修正スヘキトキハ名主ハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ報告スヘシ

支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘシ

選擧人名簿ヲ其ノ年十二月十九日迄ニ支廳長ニ送付スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ選擧人名簿ノ調製、縱覽、修正ノ申立及修正ノ申立ノ決定ニ關スル期日又ハ期間ヲ定メ併セテ之ヲ告示シ其ノ年十二月十九日迄ニ選擧人名簿ヲ送付セシムルコトヲ得

第一項ノ區域ニ於ケル選擧ニ關シテハ第九十三條及第百六條ノ規定ヲ準用ス但シ地方長官トアルハ警視總監トス

投票所ハ支廳ニ之ヲ設ケ投票管理者ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

衆議院議員選擧法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ投票立會人ノ選任ヲ爲ス場合ニ於テハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ選任スルコトヲ得

第百九條　沖繩縣大東島ニ於ケル選擧人名簿ニ關スル町村長ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

前項ノ區域ニ於ケル選擧ニ關シテハ第九十三條乃至第百七條ノ規定ヲ準用ス但シ投票管理者ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

第十四章　補則

第百十條　地方長官衆議院議員選擧法第百四十三條ノ規定ニ依リ選擧事務長カ同法第百十二條又ハ第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル旨ノ裁判所ノ長ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係選擧長ニ通知スヘシ

選擧長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第百十一條　衆議院議員選擧法第百四十四條、第百四十四條ノ二及第百四十五條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス

附　則

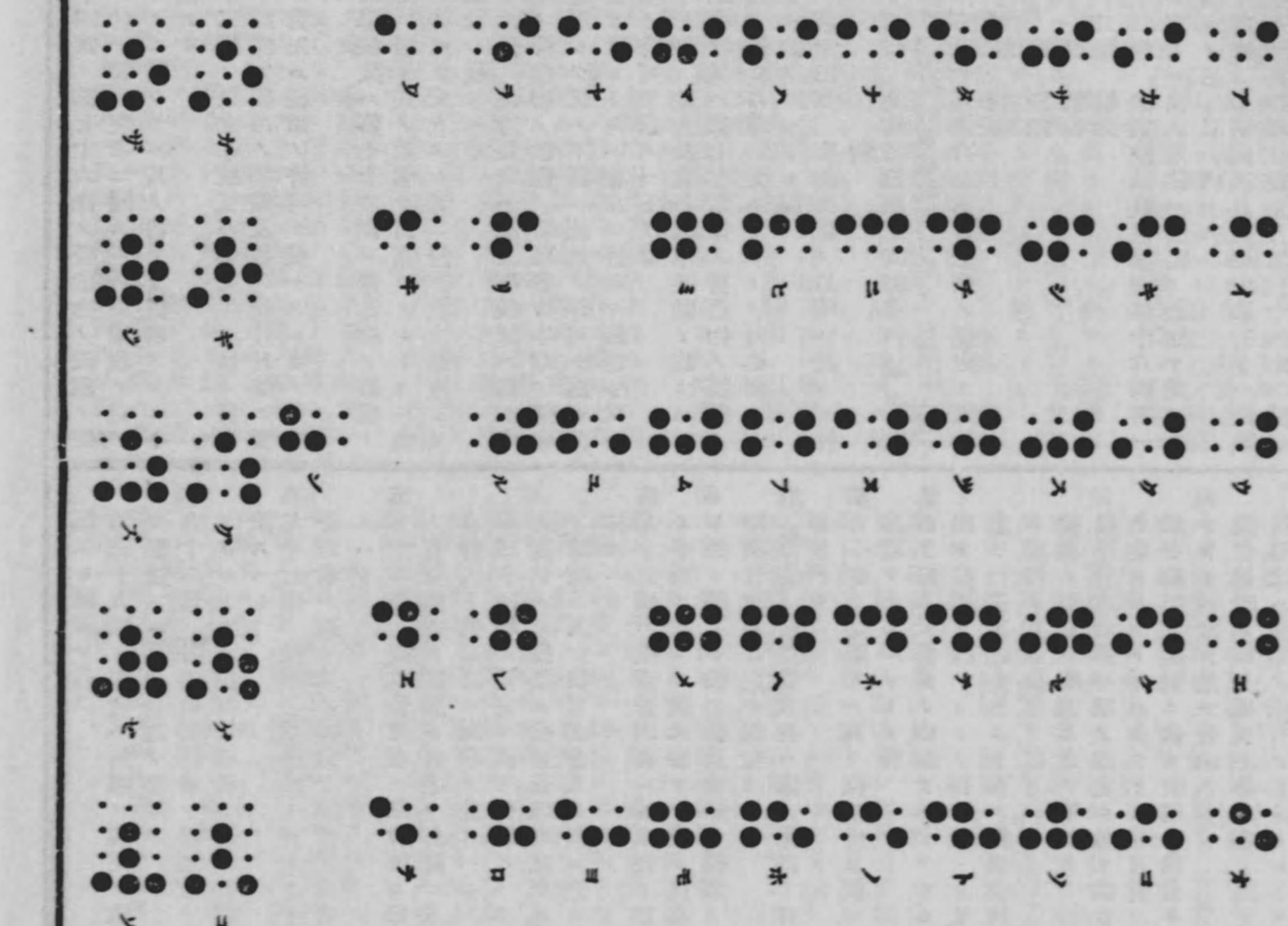
本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

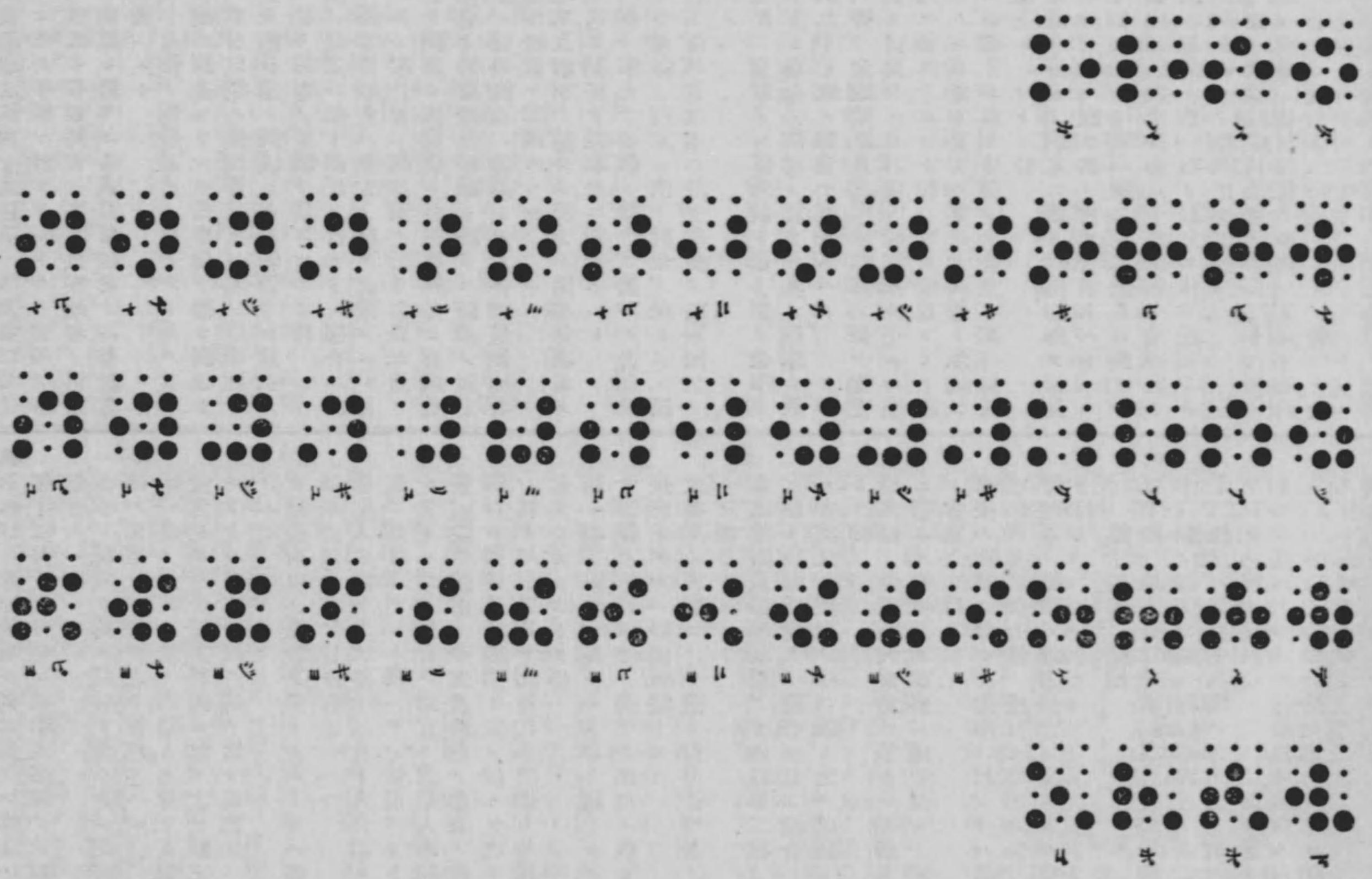
北海道衆議院議員選擧特例ハ之ヲ廢止ス

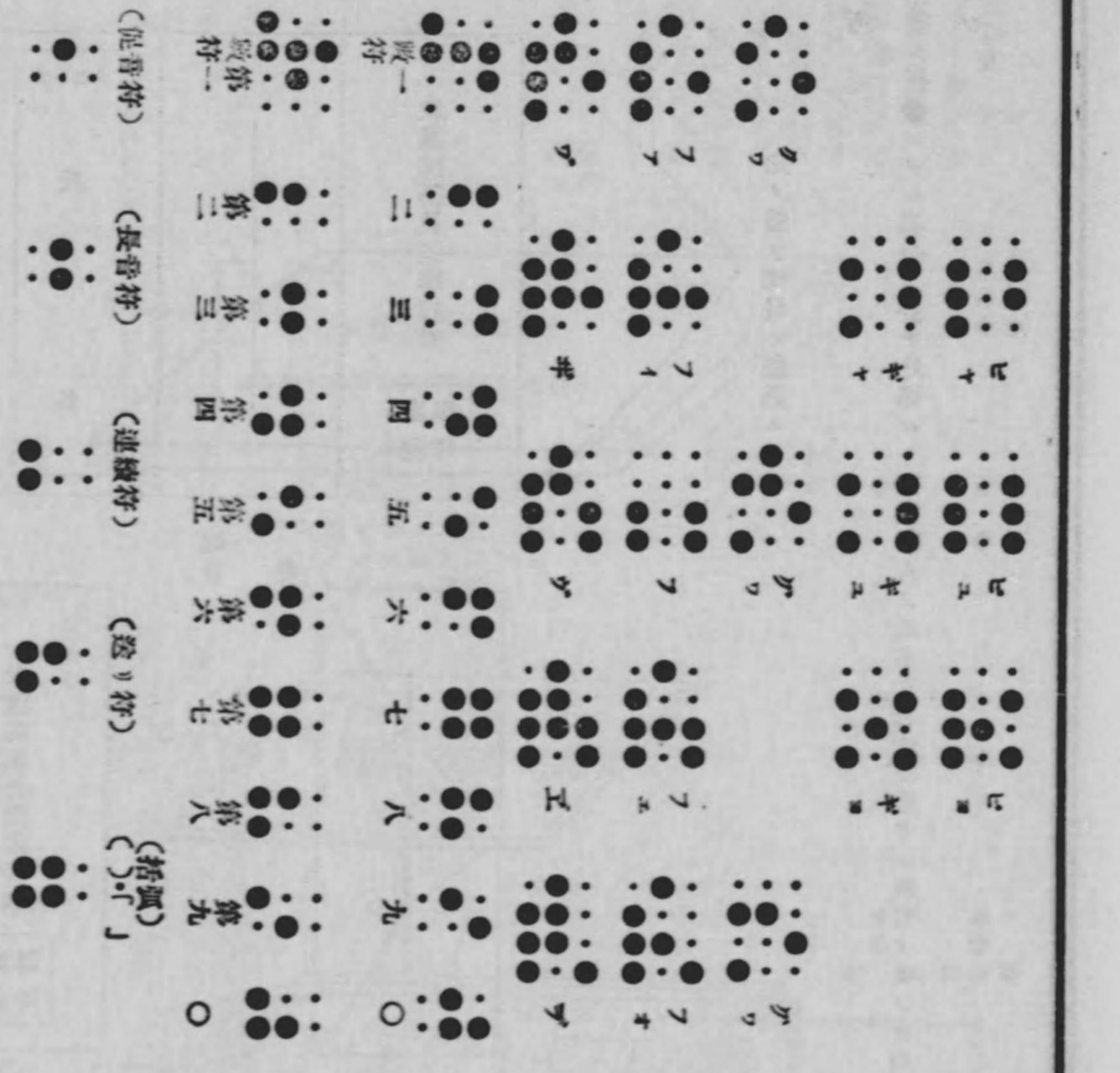
別表

點字

（右側ノ記載ハ各點字ノ發音ヲ示スモノトス）


ア
イ
ウ
エ
オ
カ
キ
ク
ケ
コ
サ
シ
ス
セ
ソ
タ
チ
ツ
テ
ト
ナ
ニ
ヌ
ネ
ノ
ハ
ヒ
フ
ヘ
ホ
マ
ミ
ム
メ
モ
ヤ
ユ
ヨ
ラ
リ
ル
レ
ロ
ワ
ヰ
ヱ
ヲ
ン
ガ
ギ
グ
ゲ
ゴ
ザ
ジ
ズ
ゼ
ゾ


ダ
ヂ
ヅ
デ
ド
バ
ビ
ブ
ベ
ボ
パ
ピ
プ
ペ
ポ
キャ
キュ
キョ
シャ
シュ
ショ
チャ
チュ
チョ
ニャ
ニュ
ニョ
ヒャ
ヒュ
ヒョ
ミャ
ミュ
ミョ
リャ
リュ
リョ
ギャ
ギュ
ギョ
ジャ
ジュ
ジョ
ヂャ
ヂュ
ヂョ
ビャ
ビュ
ビョ


ピャ
ピュ
ピョ
クヮ
グヮ
ファ
フィ
フ
フェ
フォ
ヷ
ヸ
ヴ
ヹ
ヺ
數符
一
二
三
四
五
六
七
八
九
〇
數符
第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
〇
（促音符）
（長音符）
（連續符）
（踊リ符）
（括弧）
（）「」

●衆議院議員選擧法施行規則

（大正十五年二月三日内務省令第四號）

（改正　大正一五年第三五號）

衆議院議員選擧法施行規則左ノ通定ム

衆議院議員選擧法施行規則

第一條　衆議院議員選擧人名簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　衆議院議員選擧法第十七條第六項ノ選擧人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第三條　投票用紙竝衆議院議員選擧法第三十一條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒及衆議院議員選擧法施行令第二十九條ノ規定ニ依ル投票用封筒ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條　衆議院議員選擧法施行令第二十一條第二項及第三項竝第二十九條第二項ノ規定ニ依リ投票用紙又ハ封筒ニ押捺スヘキ點字投票ナル旨ノ印ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

點字投票ナル旨ノ印ハ投票用紙及封筒ノ表面ニ之ヲ押捺スヘシ

第五條　投票函ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條　立會人ノ届出書及之ニ添附スヘキ承諾書、議員候補者ノ届出書又ハ推薦届出書竝議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書ハ別記樣式ニ準シ之ヲ作成スヘシ

第七條　衆議院議員選擧法施行令第二十八條第一項ノ規定ニ依ル證明書ハ別記樣式ニ準シ之ヲ作成スヘシ

第八條　投票函ハ其ノ閉鎖後開票管理者ニ送致ノ爲ノ外之ヲ投票所外ニ搬出スルコトヲ得ス

第九條　投票錄、衆議院議員選擧法施行令第三十三條ノ顚末書、開票錄及選擧錄ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　議員候補者ノ届出若ハ推薦届出又ハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出ヲ受理シタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ受理ノ年月日時ヲ届出書ノ餘白ニ記載スヘシ

第十一條　當選證書ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條　選擧運動ノ費用ノ精算届書ハ別記樣式ニ準シ之ヲ作成スヘシ

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年内務省令第二十八號及第二十九號竝大正九年内務省令第二號ハ之ヲ廢止ス

別記

衆議院議員選擧人名簿樣式（用紙美濃紙）

番號	住　居	生年月日	氏　名
一	何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地	何年何月何日	氏　名
番號	住　居	生年月日	氏　名

備　考

一　名簿ハ大字若ハ小字毎ニ區別シテ調製スヘシ但シ一字若ハ數字毎ニ分綴スルモ妨ナシ

一　決定、判決等ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ旨及修正ノ年月日ヲ欄外ニ記シ官印又ハ職印ヲ押捺スヘシ

一　名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

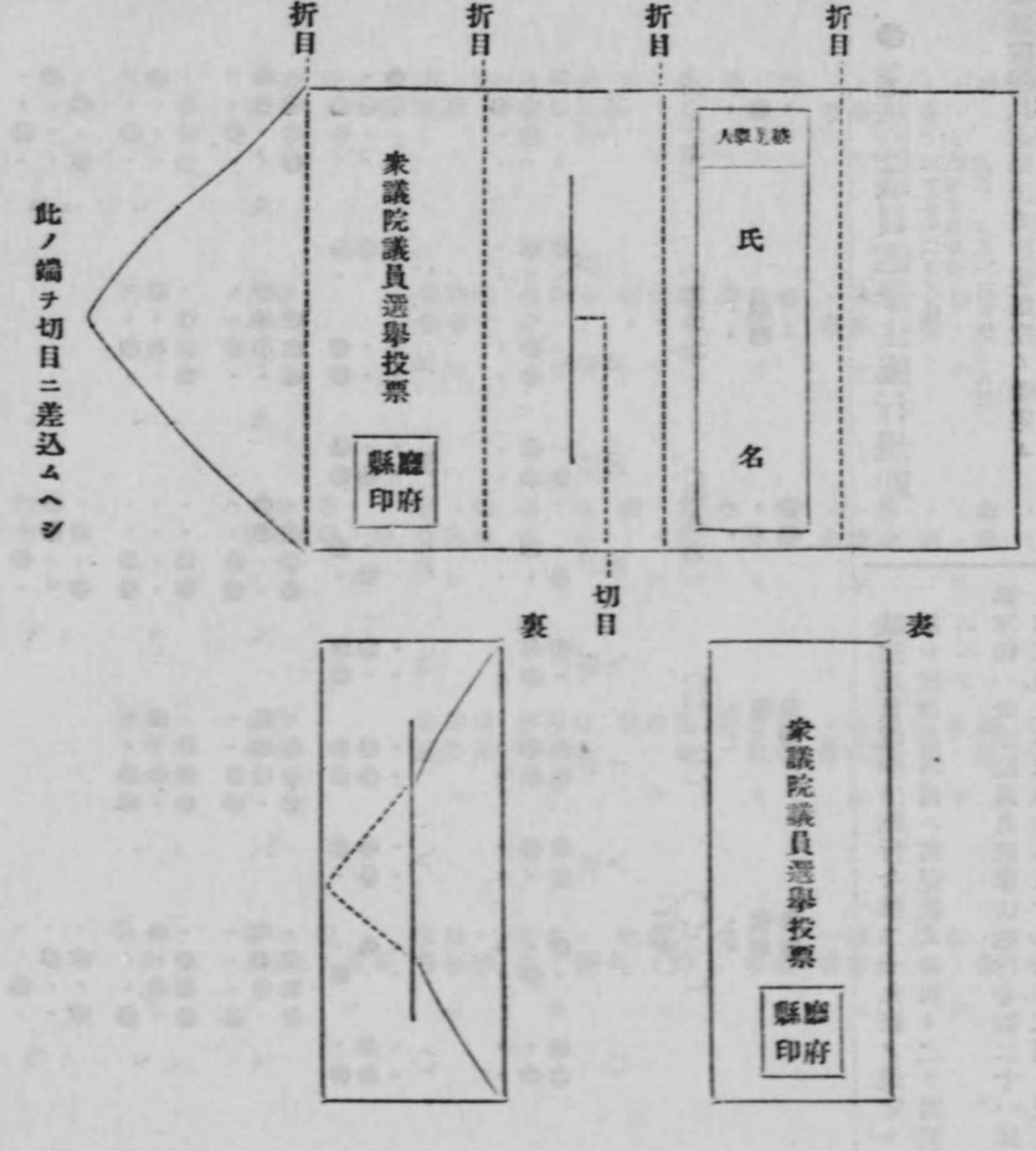
大正何年何月何日現在調
衆議院議員選擧人名簿
何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）（大字若ハ小字何々）

（卷末）

此ノ選擧人名簿ハ大正何年何月何日ヨリ何日間何市役所何町村役場（何ノ場所）ニ於テ縱覽セシメ大正何年何月何日ヲ以テ確定セリ

官職　氏　名印

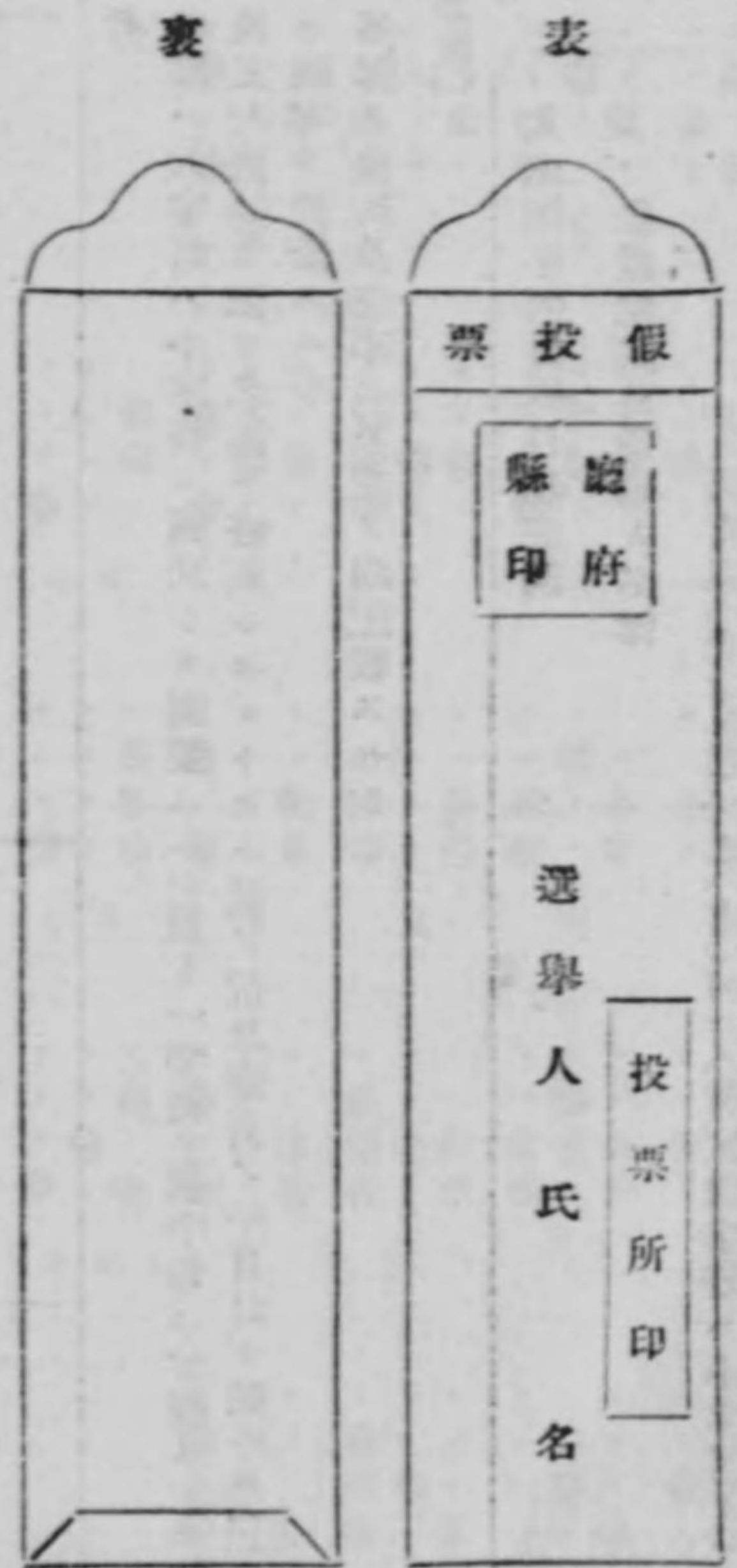
投票用紙様式



備考

用紙ハ折疊ミタル場合ニ於テ外部ヨリ被選擧人ノ氏名ヲ透視シ得サル紙質ノモノヲ用フヘシ

衆議院議員選擧法第三十一條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒様式

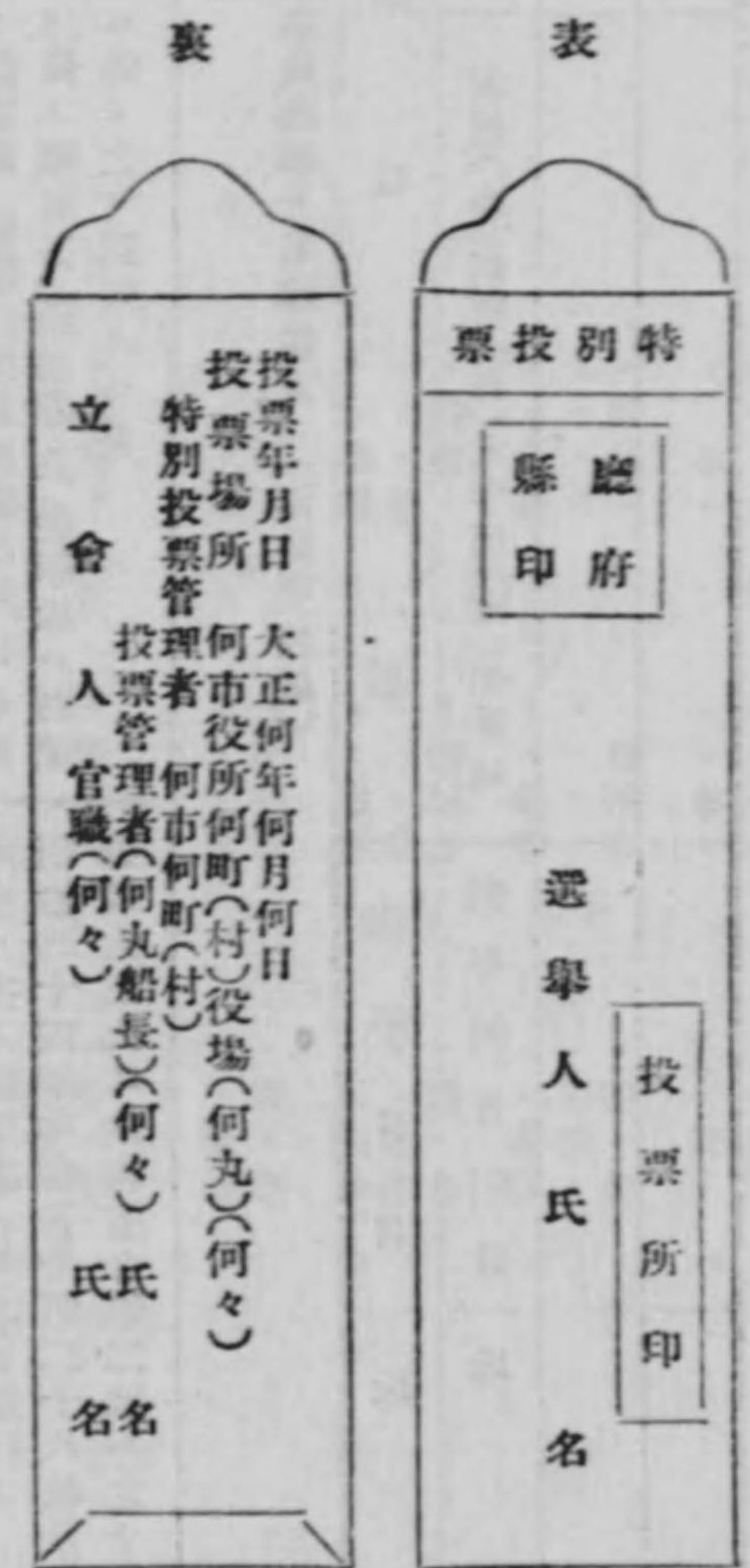


備考

投票所印ハ豫メ封筒ニ左ノ印章ヲ押捺シ置キ各投票所ニ於テ投票所名ヲ記入シ之ニ代フルモ妨ナシ

投票所

衆議院議員選擧法施行令第二十九條ノ規定ニ依ル投票用封筒様式



投票年月日　大正何年何月何日

投票場所　何市役所何町（村）役場（何丸）（何々）

特別投票管理者　何市何町（村）

投票管理者（何丸船長）（何々）　氏名

立會人　官職（何々）　氏名

備考

投票所印ハ豫メ封筒ニ左ノ印章ヲ押捺シ置キ各投票所ニ於テ投票所名ヲ記入シ之ニ代フルモ妨ナシ

投票所

衆議院議員選擧法施行令第二十一條第二項及第三項竝第二十九條第二項ノ規定ニ依リ投票用紙又ハ封筒ニ押捺スヘキ點字投票ナル旨ノ印様式

點字投票

投票函様式

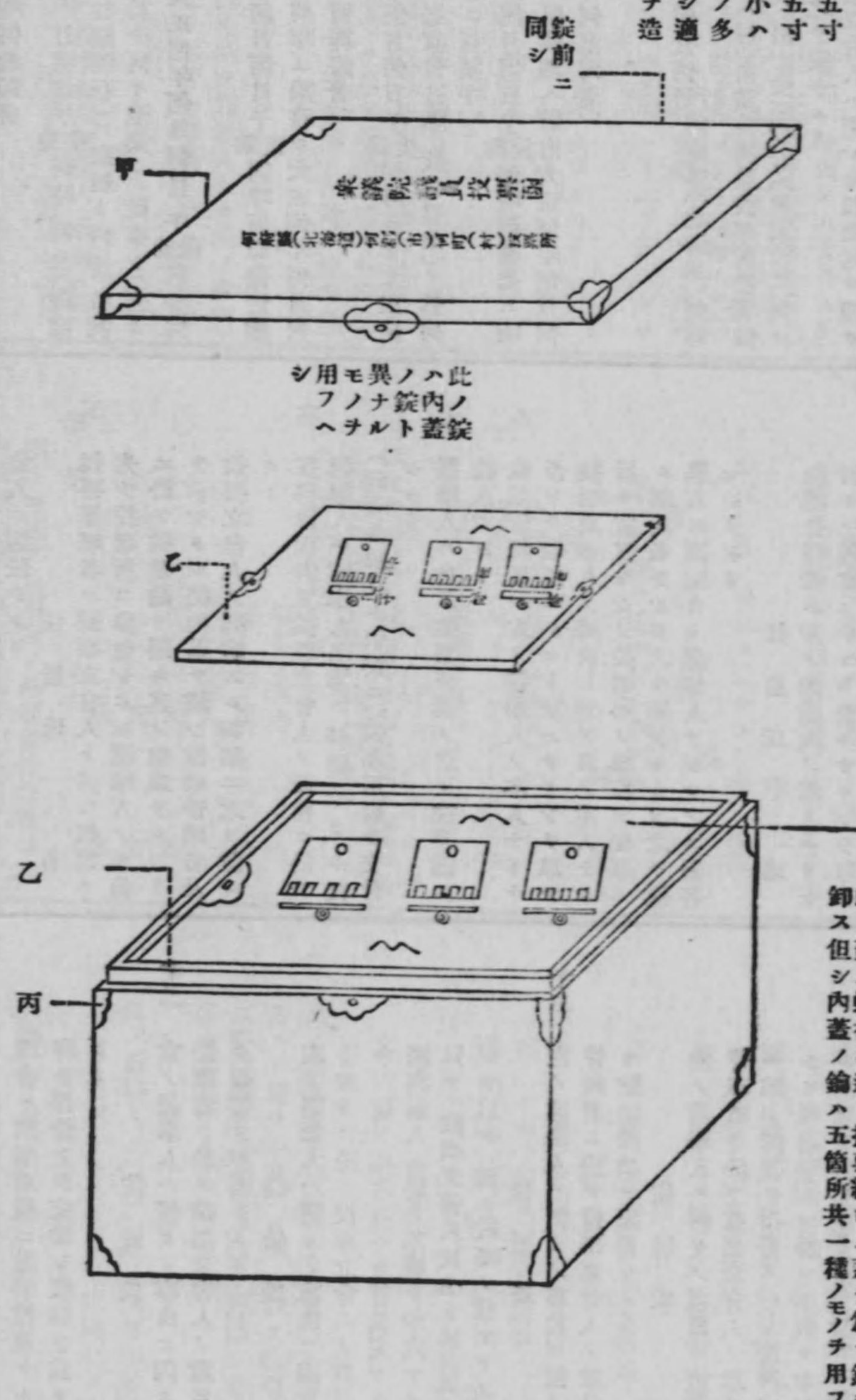
厚仕上凡八歩

高凡二尺

幅凡二尺五寸

横凡一尺五寸

但シ大小ハ選擧人ノ多寡ニ應シ適宜ニ之ヲ造ルヘシ



投票口ハ便宜ニ從ヒ一箇又ハ二箇ト爲スモ妨ナシ

此ノ蓋ハ蝶番ニ造リ投票終レハ蓋ヲ爲シ錠ヲ卸ス但シ内蓋ノ鑰ハ五箇所共一種ノモノヲ用フ

立會人ノ届出書様式

投票立會人（開票立會人）（選擧立會人）届

立會人　氏　名

住居　何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地

生年月日　何年何月何日

選擧　大正何年何月何日執行ノ衆議院議員選擧

右別紙本人ノ承諾書相添届出候也

大正何年何月何日

議員候補者　氏　名印

投票管理者（開票管理者）（選擧長）　氏　名宛

立會人ノ届出書ニ添付スヘキ承諾書様式

投票立會人（開票立會人）（選擧立會人）承諾書

大正何年何月何日執行ノ衆議院議員選擧ニ於ケル投票立會人（開票立會人）（選擧立會人）タルコトヲ承諾候也

大正何年何月何日

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地

氏　名印

議員候補者　氏　名宛

議員候補者ノ届出書様式

衆議院議員候補者届

議員候補者　氏　名

職業　何々（官公吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト）

住居　何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地

生年月日　何年何月何日

選擧　大正何年何月何日執行ノ衆議院議員選擧

右別紙供託ヲ證スヘキ書面相添立候補届出候也

大正何年何月何日

氏　名印

選擧長　氏　名宛

議員候補者ノ推薦届出書様式

衆議院議員候補者推薦届

議員候補者　氏　名

職業　何々（官公吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ルヘク明細ニ記載スルコト）

住居　何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地

生年月日　何年何月何日

選擧　大正何年何月何日執行ノ衆議院議員選擧

推薦届出者　氏　名

住居　何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地

生年月日　何年何月何日

（推薦届出者）（氏　名）

（住　居）（何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地）

（生年月日）（何年何月何日）

右別紙供託ヲ證スヘキ書面相添推薦届出候也

大正何年何月何日

氏　名印

（氏　名印）

選擧長　氏　名宛

議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書様式

衆議院議員候補者辭退届

議員候補者　氏　名

事由　大正何年何月何日華族ノ戸主ト爲リタル爲（何々ノ爲）被選擧權ヲ有セサルニ至リタリ

右辭退届出候也

大正何年何月何日

議員候補者　氏　名印

選擧長　氏　名宛

備考

事由ハ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭スル場合ニ限リ記載スヘシ

衆議院議員選擧法施行令第二十八條第一項ノ規定ニ依ル證明書様式

證明書

住居　何府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何(町)何番地

職業　何々(成ル可ク明細ニ記載スルコト)

選擧人　氏　名

右ハ左ノ事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ至リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキ者ナルコトヲ證明ス

大正何年何月何日

官職　(何丸船長)(何業務主)　氏　名　印

一　大正何年何月何日午（前後）何時何丸(總噸數何噸)(積石數何石)ニ乘組ミ何港出帆何航路ヲ何地ヘ航海大正何年何月何日午（前後）何時何港歸著

〔一　大正何年何月何日午（前後）何時何丸(總噸數何噸)(積石數何石)ニ乘組ミ何港出帆何地沖合ニ於テ何々漁業ニ從事シ(何々ニ從事シ)大正何年何月何日午（前後）何時何港歸著〕

〔一　大正何年何月何日午（前後）何時何驛發何鐵道何線鐵道列車ニ乘務シ大正何年何月何日午（前後）何時何驛歸著〕

〔一　大正何年何月何日午（前後）何時ヨリ大正何年何月何日迄演習召集(教育召集)ノ爲何部隊(何々)ニ召集中〕

〔一　大正何年何月何日午（前後）何時何艦船ニ乘組ミ何港出帆何地ヘ航海大正何年何月何日午（前後）何時何港歸著〕

投票錄樣式

大正何年何月何日執行何府縣(北海道)何郡(市)何町(村)衆議院議員投票所投票錄

一　投票所ハ何市役所何町(村)役場(何ノ場所)ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ投票立會人ハ何レモ投票所ヲ開クヘキ時刻迄ニ投票所ニ參會シタリ

住居　氏　名
住居　氏　名

投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ投票立會人中參會スル者三人ニ達セサルニ依リ投票管理者ハ臨時ニ投票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

三　投票所ハ大正何年何月何日午前七時ニ之ヲ開キタリ

四　投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セサルニ至リタルニ依リ投票管理者ハ臨時ニ投票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ午（前後）何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

五　投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票所ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖シ投票管理者及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六　投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿ニ對照シタル後(到著番號札ト引換ニ)投票用紙ヲ交付シタリ

七　選擧人ハ自ラ投票ヲ認メ之ヲ投票函ニ投入シタリ

八　投票管理者ハ左ノ選擧人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル職氏名ヲシテ之ヲ筆記セシメ之ヲ選擧人ニ讀聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名セシメタリ

住居　氏　名

投票管理者ハ左ノ選擧人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ノ宣言ヲ命シタルモ其ノ宣言ヲ爲ササルニ依リ本人ニ非スト認メ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住居　氏　名

九　左ノ選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄ナキモ之ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ投票所ニ到リタルニ依リ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシメタリ

住居　氏　名

十　左ノ選擧人ハ衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票ノ爲交付ヲ受ケタル投票用紙及投票用封筒ヲ返還シタルニ依リ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシメタリ

住居　氏　名

十一　左ノ選擧人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル旨ヲ申立タルヲ以テ投票管理者ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタリ

住居　氏　名

十二　左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ

住居　氏　名

左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否スヘキ旨決定シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ(投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ)假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住居　氏　名

十三　左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ點字投票ヲ拒否シタリ

住居　氏　名

左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ點字投票ヲ拒否スヘキ旨決定シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ(投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ)假ニ點字投票ヲ爲サシメタリ

住居　氏　名

十四　左ノ選擧人ハ誤リテ投票用紙(封筒)ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙(封筒)ヲ交付シタリ

住居　氏　名

十五　左ノ選擧人ハ投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ(喧騷ニ涉リ)(投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ)(何々ニ因リ)投票所ノ秩序ヲ紊リタルニ依リ投票管理者ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙(到著番號札)ヲ返付セシメ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住居　氏　名

十六　投票管理者ハ投票所外ニ退出ヲ命シタル左ノ選擧人ニ對シ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ

住居　氏　名

投票管理者ニ於テ投票所外ニ退出ヲ命シタル左ノ選擧人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ

住居　氏　名

十七　午後六時ニ至リ投票管理者ハ投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタル旨ヲ告ケ投票所ノ入口ヲ鎖シタリ

十八　投票所閉鎖ノ時刻迄ニ投票管理者ノ受ケタル衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票左ノ如シ

投票管理者自ラ特別投票管理者トシテ受ケタルモノ　何票
他ノ特別投票管理者ヨリ送致ヲ受ケタルモノ　何票
衆議院議員選擧法施行令第三十二條第四項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタルモノ　何票
計　何票

投票管理者ハ投票函閉鎖前投票立會人ノ意見ヲ聽キ前記ノ投票ノ受理如何ヲ決定シ更ニ投票用封筒ヲ開披シテ點字投票ニ付其ノ拒否ヲ決定シタリ

投票ヲ受理スヘシト決定シ且點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケサル何票ハ之ヲ直ニ投函シタリ

左ノ何人ノ投票ハ受理スヘカラスト決定シ又ハ點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルヲ以テ各其ノ投票用封筒ニ入レ假ニ封緘ヲ施シ其ノ表面ニ不受理ノ決定又ハ點字投票ノ拒否ノ決定アリタル旨ヲ記載シテ之ヲ投函シタリ

不受理ノ決定ヲ受ケタルモノ
住居　氏　名

點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルモノ
住居　氏　名

十九　午後何時投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了シタルヲ以テ投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

二十　投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管ス

氏　名

二十一　投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘキ投票立會人左ノ如シ

氏　名

二十二　左ノ何人ハ投票所ノ事務ニ從事シタリ

職　氏　名
職　氏　名

二十三　投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官　職　氏　名

二十四　選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數　何人

二十五　投票ヲ爲シタル選擧人ノ總數　何人

內　選擧人名簿ニ記載セラレタル選擧人ニシテ投票ヲ爲シタル者　何人

內　衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票ヲ爲シタル者　何人
確定判決書ニ依リ投票ヲ爲シタル者

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人

內　假ニ投票ヲ爲サシメタル者　何人

內　衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票中受理スヘカラスト決定セラレタル投票ヲ爲シタル者　何人

投票管理者ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日

投票管理者　職　氏　名
投票立會人　氏　名
　　　　　　氏　名
　　　　　　氏　名

備考

樣式ニ揭クル事項ノ外投票管理者ニ於テ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

衆議院議員選擧法施行令第三十三條ノ顚末書樣式

何府縣(北海道)何郡(市)何町(村)衆議院議員投票區衆議院議員選擧法施行令第三十三條ノ顚末書

一　左ノ選擧人ハ衆議院議員選擧法施行令第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ依リ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求シタルニ依リ該當事項アリト認メ之ヲ交付シタリ

住居　氏　名
請求　大正何年何月何日
事由　何丸船內從業中(何鐵道何線鐵道列車乘務中)(何々)
證明書　官職氏名ノ證明書
交付　大正何年何月何日

住居　氏　名
請求　大正何年何月何日
事由　演習召集中
證明書　召集令狀ヲ提示シ證明書ノ提出ニ代フ
交付　大正何年何月何日

住居　氏　名
請求　大正何年何月何日
事由　何丸船內從業中
證明書　何々ノ事由ニ因リ證明書ヲ提出スルコト能ハサル旨ヲ疏明ス
交付　大正何年何月何日

計　何人

二　左ノ選擧人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル旨ヲ申立テタルヲ以テ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付又ハ發送シタリ

計　何人

三　左ノ選擧人ハ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求シタルモ之ヲ拒絶シタリ

住居　氏　名
請求　大正何年何月何日
事由　何鐵道何線鐵道列車乘務中
證明書　提出セス
拒絶　大正何年何月何日
拒絶事由　正當ノ事由ナク證明書ヲ提出セス

住居　氏　名
請求　大正何年何月何日
事由　何々
證明書　官職氏名ノ證明書
拒絶　大正何年何月何日
拒絶事由　選擧人名簿ニ登錄セラレス(何々)

計　何人

四　投票管理者ニ於テ自ラ特別投票管理者トシテ受ケタル投票左ノ如シ

住居　氏　名
大正何年何月何日受

住居　氏　名
大正何年何月何日受

計　何票

五　投票管理者ニ於テ投票所ヲ閉ツヘキ時刻迄ニ送致ヲ受ケタル投票左ノ如シ

特別投票管理者何府縣(北海道)何郡(市)何町(村)投票管理者送致
大正何年何月何日受
住居　氏　名

特別投票管理者何丸船長送致
大正何年何月何日受
住居　氏　名

何府縣(北海道)何郡(市)何町(村)投票管理者送致
大正何年何月何日受
住居　氏　名

計　何票

六　左ノ選擧人ハ交付ヲ受ケタル投票用紙及投票用封筒ヲ返還シタリ

住居　氏　名
大正何年何月何日返還

住居　氏　名
大正何年何月何日返還

計　何人

投票管理者ハ此ノ顚末書ヲ作リ茲ニ署名ス

大正何年何月何日

投票管理者　職　氏　名

備考

樣式ニ揭クル事項ノ外投票管理者ニ於テ衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

開票錄樣式

大正何年何月何日執行何府縣(北海道)何郡(市)衆議院議員開票所開票錄

一　開票所ハ何市役所(何ノ場所)ニ之ヲ設

ケタリ

二　左ノ開票立會人ハ何レモ開票所ヲ開クヘキ時刻迄ニ開票所ニ參會シタリ

住居　氏　名
住居　氏　名

開票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ開票立會人中參會スル者三人ニ達セサルニ依リ開票管理者ハ臨時ニ開票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

三　大正何年何月何日開票管理者ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ翌何日午（前後）何時ニ開票所ヲ開キタリ

四　開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セサルニ至リタルニ依リ開票管理者ハ臨時ニ開票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ午（前後）何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

五　開票管理者ハ開票立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

右投票區別內譯左ノ如シ

何町（村）投票區（何市何々投票區）
投票數　何票
投票人數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

（投票數ト投票人數ト符合セス卽チ投票數ハ投票人數ニ比シ何票多シ（少シ）（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スヘシ））

何町（村）投票區（何市何々投票區）
、、、、
、、、、

六　投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住居　氏　名
住居　氏　名

開票管理者ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ左ノ通之ヲ決定セリ

受理セシモノ
一事由何々　住居　氏　名
一事由何々　住居　氏　名
受理セサリシモノ
一事由何々　住居　氏　名

七　開票管理者ハ投票區毎ニ假ニ爲シタル投票ニシテ受理スヘキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

八　開票事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二人ハ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算シタリ

九　開票管理者ニ於テ開票立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ

一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
內
一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ　何票
二　議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、、、、　何票
總計　何票

右投票區別內譯左ノ如シ

何町（村）投票區（何市何々投票區）
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
內
一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ　何票
二　議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、、、　何票
計　何票
何町（村）投票區（何市何々投票區）
一、、、、、、、、、、
一、、、、、、、、、、

十　午（前後）何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ開票管理者ハ投票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ其ノ得票總數ヲ朗讀シタリ

十一　各議員候補者ノ得票數左ノ如シ

何票　氏　名
內
何町（村）投票區（何市何々投票區）　何票
何町（村）投票區（何市何々投票區）　何票
何票　氏　名
內
何町（村）投票區（何市何々投票區）　何票
何町（村）投票區（何市何々投票區）　何票

十二　開票管理者ハ投票區毎ニ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效及受理スヘカラスト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無效及受理スヘカラスト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

十三　午（前後）何時開票ノ事務ヲ結了ス

十四　左ノ何人ハ開票所ノ事務ニ從事シタリ

官職　氏　名
官職　氏　名

十五　開票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏　名

開票管理者ハ此ノ開票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日
開票管理者　官職　氏　名
開票立會人　氏　名
氏　名
氏　名

備考
樣式ニ揭クル事項ノ外開票管理者ニ於テ開票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

選擧錄樣式ノ一

大正何年何月何日
開
會何府縣（北海道）（第何區）衆議院議員選擧會選擧錄

一　選擧會場ハ何府縣廳何市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會ヲ開クヘキ時刻迄ニ選擧會ニ參會シタリ

住居　氏　名
住居　氏　名

選擧會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ選擧立會人中參會スル者三人ニ達セサルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

三　大正何年何月何日選擧長ハ總テノ開票管理者ヨリ報告ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日（翌何日）午（前後）何時ニ選擧會ヲ開キタリ

四　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セサルニ至リタルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ

於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ午（前後）何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

五　選擧長ハ選擧立會人立會ノ上逐次開票管理者ノ報告ヲ調査シ開票區毎ニ議員候補者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀シタリ

六　各議員候補者ノ得票數左ノ如シ

何票　氏　名
何票　氏　名
何票　氏　名

七　議員定數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ四分ノ一ノ數ハ何票ナリ

議員候補者中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者左ノ如シ

何票　氏　名
何票　氏　名

右ノ內有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何人ヲ以テ當選人トス

氏　名
氏　名

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同シキニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ（同年月日ナルヲ以テ選擧長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ）

八　議員定數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ十分ノ一ノ數ハ何票ナリ

議員候補者中其ノ得票數此ノ數ニ達セサル者左ノ如シ

何票　氏　名
何票　氏　名

九　午（前後）何時選擧會ノ事務ヲ結了ス

十　左ノ何人ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ

官職　氏　名
官職　氏　名

十一　選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏　名

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日
選擧長　官職　氏　名
選擧立會人　氏　名
氏　名
氏　名

備考
樣式ニ揭クル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧會ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

選擧錄樣式ノ二

大正何年何月何日
開
會何府縣（北海道）（第何區）衆議院議員選擧會選擧錄

一　選擧會場ハ何府縣廳何市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會ヲ開クヘキ時刻迄ニ選擧會ニ參會シタリ

住居　氏　名
住居　氏　名

選擧會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ選擧立會人中參會スル者三人ニ達セサルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

三　屆出アリタル議員候補者ノ數何人ニシテ選擧スヘキ議員ノ數何人ヲ超エサル爲投票ヲ行ハサルコト大正何年何月何日確定シタルヲ以テ大正何年何月何日午（前後）何時ニ選擧會ヲ開キタリ

四　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セサルニ至リタルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ午（前後）何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住居　氏　名

五　屆出アリタル議員候補者ノ氏名左ノ如シ

氏　名
氏　名
氏　名

六　選擧長ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ議員候補者ノ被選擧權ノ有無ヲ決定シタリ

有リト決定シタル者
氏　名
氏　名
無シト決定シタル者
一事由何々　氏　名

七　選擧スヘキ議員ノ數何人ニシテ被選擧權有リト決定シタル議員候補者ノ數何人ナリ依テ左ノ何人ヲ以テ當選人ト定ム

氏　名
氏　名

八　午（前後）何時選擧會ノ事務ヲ結了ス

九　左ノ何人ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ

官職　氏　名
官職　氏　名

十　選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏　名

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日
選擧長　官職　氏　名
選擧立會人　氏　名
氏　名
氏　名

備考
樣式ニ揭クル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧會ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

當選證書樣式（用紙鳥ノ子四ツ切）

衆議院議員當選證書
住居
氏　名
右何府縣（北海道）（第何區）ニ於テ衆議院議員ニ當選シタルコトヲ證ス
大正何年何月何日
地方長官　氏　名印

選擧運動ノ費用ノ精算屆書樣式

選擧運動費用精算屆
何府縣（北海道）（第何區）
議員候補者　氏　名

前記議員候補者ノ大正何年何月何日執行衆議院議員選擧（衆議院議員選擧再投票）ニ於ケル選擧運動ノ費用精算ノ結果左記ノ通相違無之依テ衆議院議員選擧法第百六條ニ依リ屆出候也

大正何年何月何日
選擧事務長　氏　名印
地方長官（警視總監）宛

記

一支出總額　金何圓何錢
（一）選擧事務長ノ支出シタル額　金何圓何錢
（二）選擧事務長ノ承諾ヲ得テ支出シタル額　金何圓何錢
內
議員候補者ノ支出シタル額　金何圓何錢
選擧委員ノ支出シタル額　金何圓何錢
選擧事務員ノ支出シタル額　金何圓何錢
（三）議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サル者ノ支出シタル額　金何圓何錢
內
議員候補者ト意思ヲ通シテ支出シタル額　金何圓何錢

選舉事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル額　金何圓何錢
(四)立候補準備ノ爲ニ支出シタル額　金何圓何錢
一　支出明細
(一)報酬　金何圓何錢
選舉事務員　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
傭人　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
(二)家屋費　金何圓何錢
選舉事務所　金何圓何錢
何選舉事務所　金何圓何錢
何選舉事務所　金何圓何錢
集會會場　金何圓何錢
何集會會場　金何圓何錢
何集會會場　金何圓何錢
(三)通信費　金何圓何錢
郵便料　金何圓何錢
電報料　金何圓何錢
電話料　金何圓何錢
其ノ他　金何圓何錢
(四)船車馬費　金何圓何錢
汽車賃　金何圓何錢
電車賃　金何圓何錢
自動車賃　金何圓何錢
馬車賃　金何圓何錢
人力車賃　金何圓何錢
船賃　金何圓何錢
其ノ他　金何圓何錢
(五)印刷費　金何圓何錢
(六)廣告費　金何圓何錢
(七)筆墨紙費　金何圓何錢
(八)休泊費　金何圓何錢
(九)飲食物費　金何圓何錢
(十)雜費　金何圓何錢

計　金何圓何錢
一　實費辨償　金何圓何錢
(一)選舉事務長　金何圓何錢
(二)選舉委員　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
(三)選舉事務員　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
(四)傭人　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢
何某へ　金何圓何錢

備考

一　衆議院議員選舉法第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ別ニ精算屆書ヲ作成スヘシ

二　精算ノ屆出ハ最後ニ選舉事務長ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ爲スヘシ

三　實費辨償ノ項ニハ支出明細ノ項ニ記載シタルモノノ中實費辨償ニ係ルモノヲ重ネテ記載スヘシ

●選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件（大正十五年二月三日內務省令第五號）

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法第百條ニ依リ選舉運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫ノ制限ニ關スル件左ノ通定ム

選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件

第一條　選舉運動ノ爲文書圖畫(信書ヲ除ク以下之ニ同シ)ヲ頒布シ又ハ揭示スル者ハ表面ニ其ノ氏名及住居ヲ記載スヘシ但シ名刺及選舉事務所ニ揭示スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　選舉運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル引札、張札ノ類ハ二度刷又ハ二色以下トシ長三尺一寸幅二尺一寸ヲ超ユルコトヲ得ス

選舉運動ノ爲使用スル名刺ノ用紙ハ白色ノモノニ限ル

第三條　選舉運動ノ爲使用スル立札、看板ノ類ハ議員候補者一人ニ付通シテ百箇以內トシ白色ニ黑色ヲ用ヒタルモノニ限リ且縱九尺橫二尺ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　選舉運動ノ爲使用スル立札、看板ノ類ハ選舉事務所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ一町以內ノ區域ニ於テハ選舉事務所一箇所ニ付通シテ二箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ハ選舉ノ當日ニ限リ投票所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ三町以內ノ區域ニ於テ之ヲ頒布シ又ハ揭示スルコトヲ得ス

第六條　選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ハ航空機ニ依リ之ヲ頒布スルコトヲ得ス

第七條　選舉運動ノ爲ニスル張札、立札、看板ノ類ハ承諾ヲ得スシテ他人ノ土地又ハ工作物ニ之ヲ揭示スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

●衆議院議員選舉法施行令第二十六條第四號ニ揭クル事由ニ關スル證明ノ件（大正十五年二月三日陸軍省令第一號）

衆議院議員選舉法施行令第二十六條第四號ニ揭クル事由ニ關スル證明ハ當該聯隊長又ハ獨立隊長(分屯スル步兵大隊ノ長ヲ含ム)ニ於テ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

●衆議院議員選舉法施行令第二十八條第一項第四號ノ部隊等ニ關スル件（大正十五年二月十五日海軍省令第一號）

勅令又ハ軍令ヲ以テ各別ニ設置セラレタル部隊、官衙及學校並左ニ揭クルモノハ之ヲ衆議院議員選舉法施行令第二十八條第一項第四號ノ部隊又ハ陸上海軍各部トス

海軍機關學校練習科
海軍技術研究所出張所
海軍火藥廠爆藥部
海軍燃料廠採炭部
海軍燃料廠平壤鑛業部
海軍軍需支部
海軍建築部出張所
橫須賀海兵團練習部
佐世保海軍航空隊廣分遣隊
東京海軍無線電信所船橋送信所

附　則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

●選舉無料郵便規則（大正十五年二月三日遞信省令第四號）

選舉無料郵便規則左ノ通相定ム

選舉無料郵便規則

第一條　衆議院議員選舉法施行令第七十三條ノ通常郵便物(以下選舉無料郵便物ト稱ス)ノ差出人ハ選舉區內ニ在ル集配事務ヲ取扱フ郵便官署中一局ヲ差出郵便官署ト定メ最初ノ差出期日ノ前日迄(衆議院議員選舉法第六十七條第三項ノ事由ニ該當スル場合ハ當日迄)ニ選舉事務長ト連署シ左ノ事項ヲ記載シタル屆書ヲ當該差出郵便官署ニ提出スヘシ

一　差出郵便官署名
二　郵便物ノ種類及其ノ通數
三　差出期日
四　議員候補者ノ氏名

前項ノ場合ニ於テ衆議院議員選舉法第九十九條第二項等ノ事由ニ該當シ差出人二人アルトキト雖同一郵便官署ヲ差出郵便官署ト定メ連署ヲ以テ其ノ屆書ヲ提出スヘシ

第一項第二號及第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ前二項ノ例ニ依リ其ノ旨差出郵便官署ニ屆出ツヘシ

差出郵便官署ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第二條　前條ノ場合ニ於テ選舉無料郵便物ノ差出人ハ選舉事務長ノ選任(議員候補者又ハ推薦屆出者自ラ選舉事務長ト爲リタル場合ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ爲シタル者ナル旨ヲ證明シタル文書ヲ屆書ニ添附スヘシ但シ選舉事務長ノ選任ヲ爲シタル推薦屆出者死亡其ノ他ノ事由ニ因リ選舉無料郵便物ヲ差出スコトヲ得サル爲議員候補者差出人ト爲リタルモノナルトキハ其ノ旨屆書ニ附記シ且該推薦屆出者カ選舉事務長ノ選任ヲ爲シタル者ナル旨ヲ證明シタル文書ヲ添附スヘシ

第三條　第一條ノ屆出ヲ爲シタル後差出人ニ異動アリタルトキハ新ニ差出人ト爲リタル者ハ選舉事務長ト連署シ直ニ差出郵便官署ニ其ノ旨屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ前ノ差出人ノ提出シタル屆出ハ新ニ差出人ト爲リタル者ノ提出シタルモノト看做ス第七條第一項但書ノ規定ニ依リ受ケタル承認ニ付テモ亦同シ

第四條　選舉無料郵便物ニハ其ノ表面左方上部ニ「選舉」ト表示スヘシ

前項ノ表示ナキ郵便物ハ之ヲ有料郵便物トシテ取扱フ

第五條　選舉無料郵便物ニハ其ノ差出人カ第一條ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル議員候補者ニ非サル者ノ選舉運動ノ爲ニスル事項ヲ記載スルコトヲ得ス

第六條　選舉無料郵便物ハ市(東京、大阪、京都及名古屋ノ各地ニ在リテハ區以下之ニ同シ)町村每ニ同文タルコトヲ要ス

第七條　同一市町村內ニ配達スヘキ選舉無料郵便物ハ之ヲ取纏メ一回ニ差出スコトヲ要ス但シ別ニ告示スル市町村內ニ配達スヘキモノニ付テハ差出郵便官署ノ承認ヲ受ケ之ヲ小區域ニ分チ各區域每ニ差出スコトヲ妨ケス

前項ノ規定ニ依リ選舉無料郵便物ヲ差出シタルトキハ該市町村(小區域ニ分チタルモノナルトキハ其ノ區域以下之ニ同シ)內ニ在ル各選舉人ニ付之ヲ差出シタルモノト看做ス

第八條　選舉無料郵便物ハ郵便官署ノ指示ニ從ヒ其ノ種類、通數等ヲ記載シタル郵送票ヲ添ヘ市町村別ニ把束シ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出郵便物ノ內容ヲ異ニスルモノ每ニ其ノ見本一箇ヲ提出スヘシ

第九條　選舉無料郵便物ニハ通信日附印ヲ押捺セス

第十條　衆議院議員選舉法第百四十條第一項又ハ衆議院議員選舉法施行令第七十三條若ハ第七十四條ニ規定スル條件ヲ具備セサル郵便物ヲ選舉無料郵便物トシテ差出シタルトキハ之ヲ差出人ニ還付シ差出人ヨリ不納額ノ二倍ヲ徵收ス本規則第五條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタルトキモ亦同シ

第十一條　選舉無料郵便物ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外一般ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ大正十五年勅令第三號衆議院議員選舉法施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

選舉無料郵便規則第七條第一項但書ニ依リ選舉無料郵便物ヲ小區域ニ分チ差出スコトヲ得ル市町村ハ左ノ如シ（大正十五年二月三日遞信省告示第百九十七號）

一、各市

二、左ノ町村

東京府	荏原郡	品川町　大崎町　目黑町　世田ヶ谷町　平塚村　駒澤町　入新井町　大井町　大森町　蒲田町
	豐多摩郡	中野町　野方町　杉並町　大久保町　戶塚町　落合町　淀橋町　代々幡町　千駄ヶ谷町　澁谷町
	北豐島郡	板橋町　巢鴨町　瀧野川町　日暮里町　三河島町　南千住町　尾久町　王子町　岩淵町　高田町　西巢鴨町
	南足立郡	千住町
	南葛飾郡	小松川町　吾嬬町　隅田町　寺島町　龜戶町　大島町　砂町
京都府	紀井郡	伏見町　深草町
	天田郡	福知山町
神奈川縣	橘樹郡	保土ヶ谷町　鶴見町　田島町
	鎌倉郡	鎌倉町
	高座郡	藤澤町　茅ヶ崎町
	中郡	平塚町
	足柄下郡	小田原町
兵庫縣	武庫郡	西灘村
	川邊郡	小田村
	津名郡	洲本町
新潟縣	北蒲原郡	新發田町
	南蒲原郡	三條町
埼玉縣	北足立郡	大宮町
	大里郡	熊谷町
茨城縣	多賀郡	日立町
栃木縣	上都賀郡	鹿沼町　足尾町
	下都賀郡	栃木町
三重縣	桑名郡	桑名町
	飯南郡	松阪町
愛知縣	東春日井郡	瀨戶町
	碧海郡	安城町
靜岡縣	田方郡	三島町
	富士郡	大宮町
	志太郡	島田町
滋賀縣	犬上郡	彥根町
長野縣	諏訪郡	上諏訪町　平野村
宮城縣	牡鹿郡	石卷町
福島縣	西白河郡	白河町
	石城郡	平町　內鄉村
岩手縣	上閉伊郡	釜石町
青森縣	三戶郡	八戶町
山形縣	飽海郡	酒田町
秋田縣	山本郡	能代港町
福井縣	敦賀郡	敦賀町
富山縣	射水郡	新湊町
鳥取縣	西伯郡	米子町
岡山縣	淺口郡	玉島町
山口縣	都濃郡	德山町
	佐波郡	防府町
	吉敷郡	山口町
	阿武郡	萩町
和歌山縣	西牟婁郡	田邊町
	東牟婁郡	新宮町
福岡縣	鞍手郡	宮田村
	嘉穗郡	稻築村　穗波村　飯塚町
	筑紫郡	堅粕町
	企救郡	足立村
	田川郡	伊田町　後藤寺町
大分縣	下毛郡	中津町
佐賀縣	東松浦郡	相知村
熊本縣	葦北郡	水俣町
宮崎縣	西諸縣郡	小林町
鹿兒島縣	鹿兒島郡	谷山町
	揖宿郡	穎娃村
	川邊郡	枕崎町
	日置郡	串木野村
	出水郡	阿久根町
沖繩縣	國頭郡	本部村
	宮古郡	平良町
北海道	空知郡	岩見澤町　沼貝町　砂川町
	夕張郡	夕張町
	河西郡	帶廣町
	網走郡	網走町
	常呂郡	野付牛町

●衆議院議員選舉法（明治三十三年二月二十九日法律第七十三號）

改正　明治三五年第三八號、第三九號、四

一年第五八號、四三年第六五號
大正八年第六〇號、一五年第八一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル衆議院議員選擧法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（各大臣副署）

衆議院議員選擧法

第一章　選擧ニ關スル區域

第一條　衆議院議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

第四條　市町村長ハ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第五條　削除

第六條　左ニ掲クル者ヲ以テ選擧長トス

一　一支廳管內又ハ一市一選擧區タル場合ニ於テハ其ノ支廳長又ハ市長

二　一選擧區數支廳管內、數市又ハ支廳管內及市ニ涉ル場合ニ於テハ關係支廳長又ハ市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

三　其ノ他ノ選擧區ニ於テハ官吏又ハ關係市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

選擧長ハ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條　行政區畫ノ變更ニ因リ選擧區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ數ヲ失フコトナシ

第二章　選擧權及被選擧權

第八條　左ノ要件ヲ具備スル者ハ選擧權ヲ有ス

一　帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿二十五年以上ノ者

二　選擧人名簿調製ノ期日迄引續キ滿六箇月以上同一選擧區內ニ住所ヲ有スル者

三　選擧人名簿調製ノ期日迄引續キ滿一年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムル者

（家督相續ニ因リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス）

第九條　前條ノ要件中其ノ期間ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十條　帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ被選擧權ヲ有ス

第十一條　左ニ掲クル者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　禁治產者及準禁治產者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第十二條　華族ノ戶主ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ

第十三條　神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校敎員ハ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

政府ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選擧權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者竝淸算人ヲ謂フ

第十四條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員ハ其ノ關係郡市內ニ於テ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

第十五條　宮內官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選擧權ヲ有セス

第十六條　前條ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ナキ限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十七條　府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章　選擧人名簿

第十八條　市町村長ハ每年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市町村內ニ住所ヲ有スル者ノ選擧資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月日、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十九條　選擧人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ十月五日迄ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ屆出ツヘシ其ノ期日迄ニ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第二十條　市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

第二十一條　選擧人選擧人名簿ニ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第二十二條　選擧人正當ノ事故ニ因リ第十九條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選擧人名簿ニ登錄セラレサルトキ亦前條ノ例ニ依ル

第二十三條　縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條　市町村長ニ於テ第二十一條第二十二條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ修正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

第二十五條　前條市町村長ノ決定ニ不服アル申立人及關係人ハ市町村長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十六條　削除

第二十七條　選擧人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ次年ノ選擧人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ市町村長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

前項選擧人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章　選擧、投票及投票所

第二十八條　總選擧ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布ス

第二十九條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第三十條　投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十一條　投票管理者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ其ノ投票區內ニ告示スヘシ

第三十二條　市町村長ハ其ノ投票區內ニ於ケル選擧人中ヨリ三名以上五名以下ノ投票立會人ヲ選任シ選擧ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十三條　投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第三十四條　選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選擧人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條　投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付スヘシ

第三十六條　選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第三十七條　選擧人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシムヘシ

第三十八條　選擧人名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者亦前項ニ同シ

第三十九條　投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル町村ノ選擧人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

第一項ニ掲クル者ニ於テ異議アル町村ノ選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第四十條　投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

第四十一條　投票管理者ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四十二條　投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區又ハ郡ト合セテ選擧區ヲ爲ス市ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、其ノ他ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第四十三條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選擧會ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十四條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選擧長ヲ經テ地方長官ニ其ノ由ヲ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ投票區內ニ告示セシムヘシ

第四十五條　同一選擧區ニ於テ同時ニ二人以上ノ議員ヲ選擧スルトキハ選擧ノ種類如何ニ拘ラス第二十九條及第三十六條ノ例ニ依ル

第四十六條　何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第五章　投票所取締

第四十七條　投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條　選擧人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十九條　投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

第五十條　前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第六章　選擧會

第五十一條　選擧會ハ選擧長ノ屬スル支廳若ハ市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ選擧長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第五十二條　選擧長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第五十三條　地方長官ハ各選擧區內ニ於ケル選擧人中ヨリ三名以上七名以下ノ選擧立會人ヲ選任シ選擧會ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧會ニ參會セシムヘシ

選擧立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條　選擧長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日選擧會ヲ開キ選擧立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第五十五條　前條ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ先ツ第三十九條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選擧長ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

一選擧區數郡市ニ涉ルトキハ各郡市別ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十六條　選擧人ハ其ノ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　投票ノ效力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第五十八條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七　衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第七十四條又ハ第七十八條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條　投票ハ有效無效ヲ區別シ議員ノ任期間選擧長ニ於テ之ヲ保存スヘシ但シ第六條第一項第三號ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

一選擧區數郡市ニ涉ルトキハ各郡市別ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名シ投票錄ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ前條第一項但書ノ規定ハ選擧錄及投票錄ノ保存ニ之ヲ準用ス

第六十一條　選擧ノ一部無效トナリ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於ケル選擧會ニ於テハ其ノ投票ノ效力ヲ決定スヘシ

第六十二條　第四十四條ノ規定ハ但書ヲ除キ選擧會ニ之ヲ準用ス

第六十三條　選擧會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第七章　削除

第六十四條乃至第六十九條　削除

第八章　當選人

第七十條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧區內ノ議員定數ヲ以テ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

選擧訴訟若ハ當選訴訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ選擧會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無效トナリタルトキ其ノ當選人ニ付第二項ノ規定ニ依リ當選人トナリタル者ナル場合ニ於テハ選擧會ヲ開キ其ノ規定ノ適用ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第五十四條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條ノ規定ヲ適用セス

第七十一條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選人ノ氏名、得票數及選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數其ノ他選擧ノ顚末ヲ地方長官ニ報告スヘシ

當選人ナキトキ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十二條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

選擧長第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十三條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十四條　左ニ揭クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキ又ハ左ニ揭クル其ノ他ノ事由ニ依リ若ハ第七十八條第四項ノ規定ニ依リ選擧ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外地方長官ハ選擧ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

一　當選人ナキトキ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルトキ

二　當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

三　選擧訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ當選人ナキニ至リ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ

四　當選人選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無效トナリタルトキ

選擧訴訟若ハ當選訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依ル選擧ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第七十五條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管內ニ告示シ且之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

第七十六條　選擧訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選擧若ハ當選無效トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選擧ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無效トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管內ニ告示スヘシ

第九章　議員ノ任期及補闕選擧

第七十七條　議員ノ任期ハ總選擧ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十八條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ內務大臣ハ地方長官ニ其ノ補闕ノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ命スヘシ

地方長官ハ第七十四條ノ規定ニ依リ選擧ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外前項ノ規定ニ依ル命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ補闕選擧ヲ行ハシムヘシ但シ第七十條第二項ノ規定ニ依リ當選人トナリタル議員闕員トナリタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選擧長ニ通知スヘシ

選擧長ハ前項但書ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ第七十條第四項及第五項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ

補闕選擧ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

第七十四條第二項ノ規定ハ補闕選擧ニ之ヲ準用ス

第七十九條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十章　選擧訴訟及當選訴訟

第八十條　選擧ノ效力ニ關シ異議アル選擧人ハ選擧長ヲ被告トシ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十一條　選擧ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限リ裁判所ハ其ノ選擧ノ全部若ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

當選訴訟ニ於テモ其ノ選擧前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部若ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

第八十二條　當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十五條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但シ第七十條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由ニ由リ出訴スル場合ニ於テハ選擧長ヲ被告トシ第七十四條ノ告示ノ日ヨリ三十日以內ニ出訴スヘシ

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

當選訴訟ノ裁判確定前當選人死亡シタルトキハ檢事ヲ被告トス

第八十三條　裁判所ハ選擧訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十四條　選擧訴訟ノ出訴アリタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ內務大臣ニ通知スヘシ訴訟ノ繫屬セサルニ至リタルトキ亦同シ

裁判所ニ於テ選擧訴訟若ハ當選訴訟ヲ判決シタルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十五條　原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ

原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以內ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第十一章　罰則

第八十六條　詐僞ノ方法ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第三十四條第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣言ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條　左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ金錢、物品、手形其ノ他ノ財產上ノ利益又ハ公私ノ職務ノ供與若ハ其ノ供與ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ

二　議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス饗應接待若ハ其ノ饗應接待ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ饗應接待ノ申込ヲ爲シタルトキ

三　議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選擧人ニ對シ投票所ニ往復スル爲ノ船車馬ノ類ノ供給旅費休泊料ノ類ノ代辨若ハ其ノ供給代辨ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供給代辨ノ申込ヲ爲シタルトキ

四　議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ選擧人若ハ選擧運動者又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

五　議員候補者若ハ選擧運動者カ投票ヲ爲サシメサル目的ヲ以テ又ハ選擧運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ爲サシムル目的ヲ以テ第一號乃至第三號ノ供與饗應接待供給代辨若ハ其ノ約束ヲ爲シ又ハ第一號乃至第三號ノ申込若ハ前號ノ誘導ヲ爲シタルトキ

六　議員候補者又ハ選擧運動者カ議員候補者ヲシテ議員候補者タルコトヲ止メシメ又ハ選擧運動者ヲシテ選擧運動ヲ止メシムル目的ヲ以テ其ノ者ニ對シ第一號ノ供與其ノ供與ノ約束若ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ者若ハ其ノ者ニ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

七　投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト議員候補者タルコトヲ止メタルコト選擧運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ

以テ議員候補者又ハ選擧運動者カ選擧人、議員候補者又ハ選擧運動者ニ對シ第一號ノ供與若ハ第二號ノ饗應接待、其ノ供與若ハ饗應接待ノ約束又ハ其ノ供與若ハ饗應接待ノ申込ヲ爲シタルトキ

八　第一號乃至第三號前三號ノ供與饗應接待供給代辨ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ第一號乃至第三號前三號ノ申込ヲ承諾シ若ハ第四號乃至第六號ノ誘導ニ應シタルトキ

九　第一號乃至前號ニ揭クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第八十八條　選擧ニ關シ左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　選擧人、議員候補者又ハ選擧運動者ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

二　選擧人、議員候補者若ハ選擧運動者ノ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ方法ヲ以テ投票若ハ選擧運動ヲ妨ケ、爲サシメ若ハ止メシメタルトキ

三　選擧人、議員候補者若ハ選擧運動者又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ選擧人、議員候補者又ハ選擧運動者ヲ威逼シタルトキ

第八十九條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛僞ナルトキ亦同シ

選擧ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

官吏又ハ吏員選擧人ニ對シ其ノ投票セムトシ又ハ投票シタル被選擧人ノ氏名ノ表示ヲ強要シタルトキハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　投票所又ハ選擧會場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選擧人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選擧人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條　投票管理者、選擧長、立會人若ハ選擧監視者ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ選擧會場若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十二條　多衆聚合シテ第八十八條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十八條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十三條　選擧ニ關シ銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第九十四條　前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選擧會場若ハ投票所ニ入リタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條　選擧ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用ヰ若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條　演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス第八十七條第八十八條第九十條乃至前條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ罰ス

第九十七條　當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第九十八條　選擧人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者又ハ投票ヲ僞造シ若ハ其ノ數ヲ增減シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條　立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條　第九十三條及第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第百一條　當選人其ノ選擧ニ關シ本章ニ揭クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第百二條　本章ニ揭クル罪ヲ犯シタル者ニシテ罰金ノ刑ニ處セラレタルモノニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後五年間、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ終ル迄又ハ刑ノ時效ニ因ル場合ヲ除クノ外刑ノ執行ノ免除ヲ受クル迄ノ間及其ノ後五年間選擧權及被選擧權ヲ有セス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

前項ノ規定ハ第十一條第三號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セス

第百三條　本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時效ニ罹ル

第十二章　補則

第百四條　選擧ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百五條　選擧ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第百五條ノ二　本法中郡トアルハ從前郡長ノ管轄シタル區域ヲ謂フ

前項ノ規定ハ島ニ之ヲ準用ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域內ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第百五條ノ三　北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アルモ選擧區ニ關シテハ仍從前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ境界ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル選擧ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百六條　第百五條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本法中郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區域ニ之ヲ適用ス

市制第六條ノ市又ハ沖繩縣若ハ北海道ノ區ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第百七條　立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者、選擧長ハ臨時ニ選擧人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

第百八條　選擧人名簿ニ關スル訴訟、選擧訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

第百九條　本法ニ於ケル直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百十條　北海道及沖繩縣ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三章　附則

第百十一條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第百十二條　明治十三年第三十六號布告刑法第二編第四章第九節ハ衆議院議員ノ選擧ニ關シテハ之ヲ適用セス

第百十三條　本法ハ東京府小笠原島竝北海道廳根室支廳管內占守郡、新知郡、得撫郡及色丹郡ニハ當分ノ內之ヲ施行セス

別表

選擧區		議員數
東京府		
第一區	麴町區 四谷區	一人
第二區	麻布區 赤坂區	一人
第三區	芝區	一人
第四區	京橋區	一人
第五區	日本橋區	一人
第六區	本所區 深川區	三人
第七區	淺草區	二人
第八區	神田區 下谷區	三人
第九區	本郷區	一人
第十區	小石川區	一人
第十一區	牛込區	一人
第十二區	八王子市	一人
第十三區	豐多摩郡 荏原郡 伊豆七島	三人
第十四區	北豐島郡 南足立郡	二人
第十五區	南葛飾郡	一人
第十六區	南多摩郡 西多摩郡 北多摩郡	二人
京都府		
第一區	上京區	二人
第二區	下京區	二人
第三區	愛宕郡 葛野郡 乙訓郡 紀伊郡	一人
第四區	宇治郡 久世郡 綴喜郡 相樂郡	一人
第五區	南桑田郡 北桑田郡 船井郡	一人
第六區	天田郡 何鹿郡 加佐郡	一人
第七區	與謝郡 中郡 竹野郡 熊野郡	一人
大阪府		
第一區	西區	三人
第二區	東區	二人
第三區	北區	三人
第四區	南區	三人
第五區	堺市	一人
第六區	西成郡 東成郡	二人
第七區	三島郡 豐能郡 北河內郡	二人
第八區	中河內郡	一人
第九區	南河內郡	一人
第十區	泉北郡	一人
第十一區	泉南郡	一人
神奈川縣		
第一區	橫濱市	三人
第二區	橫須賀市	一人
第三區	久良岐郡 橘樹郡 都筑郡	一人
第四區	三浦郡 鎌倉郡	一人
第五區	高座郡 愛甲郡 津久井郡	二人
第六區	中郡	一人
第七區	足柄上郡 足柄下郡	一人
兵庫縣		
第一區	神戶市	三人
第二區	姬路市	一人
第三區	尼崎市	一人
第四區	武庫郡	一人
第五區	川邊郡 有馬郡	一人
第六區	多紀郡 氷上郡	一人
第七區	明石郡 美嚢郡	一人
第八區	加古郡 印南郡	一人
第九區	加東郡 多可郡 加西郡	一人
第十區	飾磨郡 神崎郡	一人
第十一區	揖保郡 宍粟郡 赤穗郡 佐用郡	二人
第十二區	城崎郡 美方郡	一人
第十三區	出石郡 養父郡 朝來郡	一人
第十四區	津名郡 三原郡	二人
長崎縣		
第一區	長崎市	一人
第二區	佐世保市	一人
第三區	西彼杵郡 東彼杵郡	二人
第四區	北高來郡 南高來郡	二人
第五區	北松浦郡	一人
第六區	南松浦郡 壹岐郡	一人
第七區	對馬	一人
新潟縣		
第一區	新潟市	一人
第二區	長岡市	一人
第三區	高田市	一人
第四區	西蒲原郡	一人
第五區	北蒲原郡 岩船郡	二人
第六區	東蒲原郡 中蒲原郡	二人
第七區	南蒲原郡 古志郡	二人
第八區	三島郡	一人
第九區	刈羽郡	一人
第十區	北魚沼郡 南魚沼郡	一人
第十一區	中魚沼郡 東頸城郡	一人
第十二區	中頸城郡 西頸城郡	二人
第十三區	佐渡	一人
埼玉縣		
第一區	北足立郡	二人
第二區	入間郡	二人
第三區	比企郡 大里郡	二人
第四區	南埼玉郡 北葛飾郡	二人
第五區	北埼玉郡	一人
第六區	兒玉郡 秩父郡	一人
群馬縣		
第一區	前橋市	一人
第二區	高崎市	一人
第三區	新田郡 山田郡 邑樂郡	二人
第四區	群馬郡 吾妻郡 碓氷郡	二人
第五區	佐波郡 利根郡 勢多郡	二人
第六區	北甘樂郡 多野郡	一人
千葉縣		
第一區	千葉郡	一人
第二區	印旛郡	一人
第三區	東葛飾郡	一人
第四區	香取郡	一人
第五區	海上郡 匝瑳郡	一人
第六區	山武郡 長生郡	二人
第七區	夷隅郡	一人
第八區	市原郡 君津郡	二人
第九區	安房郡	一人
茨城縣		
第一區	水戶市	一人
第二區	東茨城郡	一人
第三區	那珂郡	一人
第四區	久慈郡 多賀郡	二人
第五區	鹿島郡 行方郡	一人
第六區	新治郡	一人
第七區	西茨城郡 眞壁郡	一人
第八區	結城郡 筑波郡	一人
第九區	稻敷郡 北相馬郡	一人
第十區	猿島郡	一人
栃木縣		
第一區	宇都宮市	一人
第二區	河內郡	一人
第三區	芳賀郡	一人
第四區	下都賀郡	二人
第五區	上都賀郡	一人
第六區	安蘇郡 足利郡	一人
第七區	鹽谷郡 那須郡	二人
奈良縣		
第一區	奈良市	一人
第二區	添上郡 山邊郡 生駒郡	一人
第三區	磯城郡 宇陀郡	一人
第四區	北葛城郡 南葛城郡 高市郡	一人
第五區	宇智郡 吉野郡	一人
三重縣		
第一區	津市	一人
第二區	四日市市	一人
第三區	宇治山田市	一人
第四區	安濃郡 一志郡	一人
第五區	鈴鹿郡 河藝郡 三重郡	二人
第六區	員辨郡 桑名郡	一人
第七區	飯南郡 多氣郡	一人
第八區	度會郡 志摩郡	一人
第九區	北牟婁郡 南牟婁郡	一人
第十區	阿山郡 名賀郡	一人
愛知縣		
第一區	名古屋市	三人
第二區	豐橋市	一人
第三區	岡崎市	一人
第四區	愛知郡 西春日井郡	二人
第五區	東春日井郡	一人
第六區	丹羽郡 葉栗郡	一人
第七區	中島郡	一人
第八區	海部郡	一人
第九區	知多郡	一人
第十區	碧海郡	一人
第十一區	幡豆郡 額田郡 西加茂郡 東加茂郡	二人
第十二區	北設樂郡 南設樂郡 寶飯郡	一人
第十三區	渥美郡 八名郡	一人
靜岡縣		
第一區	靜岡市	一人
第二區	濱松市	一人
第三區	安倍郡	一人
第四區	富士郡 庵原郡	一人
第五區	駿東郡	一人
第六區	志太郡	一人
第七區	榛原郡 小笠郡	二人
第八區	周智郡 磐田郡	一人
第九區	濱名郡 引佐郡	二人
第十區	賀茂郡 田方郡	二人
山梨縣		
第一區	甲府市	一人
第二區	西山梨郡 東山梨郡	一人
第三區	北巨摩郡 中巨摩郡	一人
第四區	東八代郡 西八代郡 南巨摩郡	一人
第五區	南都留郡 北都留郡	一人
滋賀縣		
第一區	大津市	一人
第二區	滋賀郡 高島郡	一人
第三區	甲賀郡 野洲郡 栗太郡	一人
第四區	蒲生郡 神崎郡	一人
第五區	愛知郡 犬上郡	一人
第六區	坂田郡 東淺井郡 伊香郡	一人
岐阜縣		
第一區	岐阜市	一人
第二區	大垣市	一人
第三區	稻葉郡 山縣郡	一人
第四區	羽島郡 海津郡 養老郡 不破郡 安八郡	二人
第五區	揖斐郡 本巢郡	一人
第六區	武儀郡 郡上郡	一人
第七區	加茂郡 可兒郡	一人
第八區	土岐郡 惠那郡	一人
第九區	大野郡 益田郡 吉城郡	一人
長野縣		
第一區	長野市	一人
第二區	松本市	一人
第三區	上水內郡	一人
第四區	下水內郡 上高井郡 下高井郡	一人
第五區	更級郡 埴科郡	一人
第六區	小縣郡	一人
第七區	東筑摩郡 西筑摩郡	二人
第八區	南安曇郡 北安曇郡	一人
第九區	南佐久郡 北佐久郡	一人
第十區	諏訪郡	一人
第十一區	上伊那郡	一人
第十二區	下伊那郡	一人
宮城縣		
第一區	仙臺市	一人

第二區	宮城郡 名取郡	一人
第三區	柴田郡 刈田郡 伊具郡 亘理郡	一人
第四區	黒川郡 加美郡 志田郡 遠田郡	一人
第五區	玉造郡 栗原郡	一人
第六區	登米郡 本吉郡	一人
第七區	桃生郡 牡鹿郡	一人
福島縣		
第一區	福島市	一人
第二區	若松市	一人
第三區	信夫郡 伊達郡	二人
第四區	安達郡 安積郡	一人
第五區	田村郡 石川郡	一人
第六區	岩瀬郡 東白川郡 西白河郡	一人
第七區	南會津郡 北會津郡 大沼郡	一人
第八區	河沼郡 耶麻郡	一人
第九區	石城郡	一人
第十區	雙葉郡 相馬郡	一人
巖手縣		
第一區	盛岡市	一人
第二區	巖手郡 紫波郡	一人
第三區	二戸郡 九戸郡	一人
第四區	下閉伊郡 上閉伊郡	一人
第五區	稗貫郡 和賀郡	一人
第六區	膽澤郡 江刺郡 氣仙郡	一人
第七區	西磐井郡 東磐井郡	一人
青森縣		
第一區	青森市	一人
第二區	弘前市	一人
第三區	南津輕郡	一人
第四區	中津輕郡 西津輕郡	一人
第五區	東津輕郡 北津輕郡	一人
第六區	上北郡 下北郡	一人
第七區	三戸郡	一人
山形縣		
第一區	山形市	一人
第二區	米澤市	一人
第三區	南村山郡 東村山郡 西村山郡	二人
第四區	東置賜郡 南置賜郡 西置賜郡	一人
第五區	東田川郡 西田川郡 飽海郡	三人
第六區	最上郡 北村山郡	一人
秋田縣		
第一區	秋田市	一人
第二區	南秋田郡	一人
第三區	山本郡	一人
第四區	北秋田郡 鹿角郡	一人
第五區	河邊郡 由利郡	一人
第六區	仙北郡	一人
第七區	平鹿郡 雄勝郡	二人
福井縣		
第一區	福井市	一人
第二區	足羽郡 大野郡 吉田郡 今立郡	二人
第三區	坂井郡	一人
第四區	丹生郡 南條郡	一人
第五區	敦賀郡 三方郡 遠敷郡 大飯郡	一人
石川縣		
第一區	金澤市	一人
第二區	石川郡	一人
第三區	能美郡 江沼郡	一人
第四區	河北郡 羽咋郡 鹿島郡	二人
第五區	鳳至郡 珠洲郡	一人
富山縣		
第一區	富山市	一人
第二區	高岡市	一人
第三區	上新川郡 中新川郡	一人
第四區	下新川郡	一人
第五區	婦負郡 東礪波郡 西礪波郡	二人
第六區	射水郡 氷見郡	一人
鳥取縣		
第一區	鳥取市	一人
第二區	岩美郡 八頭郡	一人
第三區	氣高郡 東伯郡	一人
第四區	西伯郡 日野郡	一人
島根縣		
第一區	松江市	一人
第二區	八束郡 能義郡	一人
第三區	仁多郡 大原郡 飯石郡 簸川郡	二人
第四區	安濃郡 邇摩郡 邑智郡	一人
第五區	那賀郡 美濃郡 鹿足郡	一人
第六區	隱岐	一人
岡山縣		
第一區	岡山市	一人
第二區	御津郡 兒島郡	一人
第三區	上道郡 赤磐郡 和氣郡 邑久郡	二人
第四區	都窪郡 吉備郡	一人
第五區	淺口郡 小田郡 後月郡	二人
第六區	川上郡 上房郡 阿哲郡	一人
第七區	眞庭郡 久米郡	一人
第八區	苫田郡 勝田郡 英田郡	一人
廣島縣		
第一區	廣島市	一人
第二區	呉市	一人
第三區	尾道市	一人
第四區	福山市	一人
第五區	安藝郡	一人
第六區	佐伯郡	一人
第七區	安佐郡 山縣郡 高田郡	二人
第八區	賀茂郡	一人
第九區	豐田郡	一人
第十區	御調郡 世羅郡	一人
第十一區	雙三郡 比婆郡	一人
第十二區	神石郡 甲奴郡 蘆品郡	一人
第十三區	深安郡 沼隈郡	一人
山口縣		

第一區	下關市	一人
第二區	吉敷郡	一人
第三區	佐波郡	一人
第四區	美禰郡 厚狹郡	一人
第五區	阿武郡 大津郡	一人
第六區	豐浦郡	一人
第七區	都濃郡	一人
第八區	熊毛郡 大島郡	一人
第九區	玖珂郡	一人
和歌山縣		
第一區	和歌山市	一人
第二區	海草郡	一人
第三區	伊都郡 那賀郡 有田郡	二人
第四區	日高郡 西牟婁郡 東牟婁郡	二人
德島縣		
第一區	德島市	一人
第二區	名東郡 勝浦郡	一人
第三區	那賀郡 海部郡	一人
第四區	名西郡 阿波郡 麻植郡	一人
第五區	板野郡	一人
第六區	美馬郡 三好郡	一人
香川縣		
第一區	高松市	一人
第二區	丸龜市	一人
第三區	香川郡 小豆郡	一人
第四區	大川郡 木田郡	一人
第五區	綾歌郡 仲多度郡	二人
第六區	三豐郡	一人
愛媛縣		
第一區	松山市	一人
第二區	溫泉郡 伊豫郡	二人
第三區	越智郡 周桑郡	二人
第四區	新居郡 宇摩郡	一人
第五區	上浮穴郡 喜多郡	一人
第六區	東宇和郡 西宇和郡	一人
第七區	北宇和郡 南宇和郡	一人
高知縣		
第一區	高知市	一人
第二區	土佐郡 吾川郡 長岡郡	二人
第三區	香美郡 安藝郡	一人
第四區	高岡郡	一人
第五區	幡多郡	一人
福岡縣		
第一區	福岡市	一人
第二區	久留米市	一人
第三區	門司市	一人
第四區	小倉市	一人
第五區	若松市	一人
第六區	八幡市	一人
第七區	大牟田市	一人
第八區	早良郡 糸島郡	一人
第九區	糟屋郡 宗像郡	一人
第十區	遠賀郡 鞍手郡 嘉穗郡	三人
第十一區	筑紫郡 朝倉郡	一人
第十二區	三井郡 浮羽郡	一人
第十三區	三潴郡	一人
第十四區	八女郡	一人
第十五區	山門郡 三池郡	一人
第十六區	企救郡 田川郡	一人
第十七區	京都郡 築上郡	一人
大分縣		
第一區	大分市	一人
第二區	大分郡	一人
第三區	北海部郡 南海部郡	一人
第四區	大野郡 直入郡	一人
第五區	玖珠郡 日田郡	一人
第六區	西國東郡 東國東郡	一人
第七區	下毛郡 宇佐郡 速見郡	二人
佐賀縣		
第一區	佐賀市	一人
第二區	佐賀郡	一人
第三區	神埼郡 三養基郡	一人
第四區	小城郡 杵島郡 藤津郡	二人
第五區	東松浦郡 西松浦郡	一人
熊本縣		
第一區	熊本市	一人
第二區	飽託郡	一人
第三區	玉名郡	一人
第四區	鹿本郡 菊池郡 阿蘇郡	二人
第五區	上益城郡 下益城郡 宇土郡	二人
第六區	八代郡 葦北郡 球磨郡	二人
第七區	天草郡	一人
宮崎縣		
第一區	宮崎郡 兒湯郡 南那珂郡	二人
第二區	北諸縣郡 西諸縣郡 東諸縣郡	二人
第三區	東臼杵郡 西臼杵郡	一人
鹿兒島縣		
第一區	鹿兒島市	一人
第二區	鹿兒島郡	一人
第三區	揖宿郡 川邊郡	二人
第四區	日置郡	一人
第五區	薩摩郡 出水郡	二人
第六區	熊毛郡 肝屬郡	一人
第七區	伊佐郡 姶良郡 噌唹郡	二人
第八區	大島	一人
沖繩縣		
第一區	那覇【區】	一人
第二區	島尻郡 宮古郡 八重山郡	二人
第三區	首里【區】 中頭郡	一人
第四區	國頭郡	一人
北海道廳		
第一區	札幌【區】	一人
第二區	小樽【區】	一人
第三區	函館【區】	一人
第四區	旭川【區】	一人
第五區	室蘭【區】	一人
第六區	【札幌】支廳管內	二人
第七區	空知支廳管內	一人
第八區	留萌支廳管內 上川支廳管內 宗谷支廳管內	二人
第九區	網走支廳管內 根室支廳管內 【釧路】支廳管內 河西支廳管內	二人
第十區	浦河支廳管內 【室蘭】支廳管內	一人
第十一區	【函館】支廳管內	一人
第十二區	檜山支廳管內 後志支廳管內	二人

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス

「參考」

大正十三年二月八日詔

朕帝國憲法第四十五條及衆議院議員選擧法第二十八條ニ依リ大正十三年五月十日ヲ以テ衆議院議員ノ總選擧ヲ行フコトヲ命ス（國務各大臣副署）

●衆議院議員選擧法施行令

（明治三十四年十月四日勅令第百八十六號）
（改正　明治四四年第一三五號　大正九年第三七號、一五年第二三六號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務、大藏大臣副署）

衆議院議員選擧法施行令

第一條　衆議院議員選擧法第二條ニ依リ市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ管內ニ告示スヘシ

第二條　二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　選擧人名簿ハ每投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ

二　各投票區ニ於ケル投票管理者ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ指名ス此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ內一名ハ市町村長、市町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

三　市町村長ハ選擧前選擧人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ

第三條　數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　投票管理者ハ地方長官ニ於テ關係町村長、町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ就キ之ヲ指名ス

二　町村長ハ選擧前選擧人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第四條　選擧人ノ年齡ハ選擧人名簿調製ノ期日ニ依リ被選擧人ノ年齡ハ選擧ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第四條ノ二　選擧人名簿調製期日後選擧人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テハ前住所地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第五條　市町村ノ境界變更アリタル爲選擧人名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ハ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選擧人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依ル

第六條　削除

第七條　選擧人名簿縱覽ノ場所ハ市町村長ニ於テ縱覽期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告示スヘシ

第八條　選擧人名簿其ノ他選擧ニ關スル書類ハ使用ノ時期ヲ經過スルモ選擧若ハ當選ノ效力確定セサル間ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ投票管理者ノ保存スヘキ書類ハ市町村長ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ選擧長ノ保存スヘキ書類ハ地方長官ニ於テ第一項ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第九條　市町村長ニ於テ投票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第十條　投票管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到著番號札ヲ選擧人ニ交付スルコトヲ得

第十一條　投票記載ノ場所ハ選擧人ヲシテ他ノ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用ウルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十三條　投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ參集シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖スヘシ

第十四條　投票用紙ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲシテ其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選擧人名簿ニ對照シタル後之ヲ交付スヘシ

第十五條　選擧人誤テ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十七條　投票ヲ爲サムトスル選擧人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選擧人ニ讀聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名セシムヘシ

前項ノ宣言書ハ之ヲ投票錄ニ添附スヘシ

第十八條　選擧人ニシテ投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者ハ投票用紙ヲ取上クヘシ

第十九條　削除

第二十條　投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十一條　地方長官ハ衆議院議員選擧法第四十四條ニ依リ投票期日ヲ定メタルトキハ直ニ選擧長及關係市町村長ニ之ヲ通知スヘシ

第二十二條　地方長官ニ於テ選擧立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ選擧長ニ通知スヘシ

市町村長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ衆議院議員選擧法第三十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　投票ヲ點檢スルトキハ選擧長又ハ選擧事務ニ從事スル者ニ於テ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シ選擧事務ニ從事スル者二名ヲシテ各別ニ同一被選擧人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條　投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ選擧長ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ但シ一選擧區數郡市ニ涉ル場合ニ於テハ各被選擧人ノ各郡市別得票數ヲ朗讀シ終ニ其ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條　選擧長ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ選擧立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ

不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ト共ニ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ

第二十六條　選擧長ハ衆議院議員選擧法第七十一條ノ報告ヲ爲シタルトキハ投票管理者ヨリ送付シタル選擧人名簿ヲ關係市町村長ニ返付スヘシ

第二十七條　削除

第二十八條　地方長官ハ衆議院議員選擧法第六十二條ニ依リ選擧會ノ期日ヲ定メタルトキハ更ニ同法第五十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ二　當選人衆議院議員選擧法第七十三條ノ期間內ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲ササルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第二十九條　選擧人名簿、投票ノ用紙及封筒竝投票函ノ調製ニ要スル費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十條　地方長官、選擧長又ハ投票管理者ニ於テ選擧事務ノ爲要スル費用及選擧會場又ハ投票所ニ要スル費用ハ當該行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十一條　前條ノ當該行政廳二以上アル場合ニ於テハ其ノ支辨スヘキ費用ハ當該行政廳ニ之ヲ平分スヘシ此ノ場合ニ於テ當該行政廳ノ經費カ同一經濟ニ屬スルトキハ一行政廳ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

第三十二條　投票立會人及選擧立會人ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

前項ノ費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十三條　衆議院議員選擧法ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一　地租

二　所得稅（所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債劵ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）

三　營業稅及營業收益稅

四　資本利子稅（資本利子稅法第二條甲種ノ資本利子中無記名債劵ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク）

五　鑛業稅

六　砂鑛區稅

第三十四條　衆議院議員選擧法第一條ノ別表ニ於テ獨立ノ選擧區ト爲シタルモノヲ除クノ外市ハ從前屬シタル選擧區ニ包含スルモノトス

第三十五條　削除

第三十六條　選擧長、投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ上級官廳ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第三十七條　衆議院議員選擧法第三條、第百五條ノ二及第百六條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

附　則（大正十五年勅令第二百三十六號）

本令ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ資本利子稅ニ關スル規定ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際選擧人名簿ニ關シ郡長、島司又ハ北海道廳支廳長ニ對シ爲シタル申立又ハ之ヲ被告トシタル訴訟アルトキハ郡長、島司又ハ北海道廳支廳長ハ其ノ關係書類ヲ町村長又ハ町村長ニ準スヘキ者ニ送付スヘシ

本令施行ノ際郡長、島司又ハ北海道廳支廳長ノ保存ニ係ル選擧人名簿其ノ他選擧ニ關スル書類ハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

●衆議院議員ノ選擧權ニ關スル法律

（大正十五年四月八日法律第五十五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル衆議院議員ノ選擧權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレタル最近ノ衆議院議員選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ハ次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間納稅要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖之カ爲其ノ選擧權ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ調製セラルル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル衆議院議員選擧ノ施行ニ關スル件

（大正十五年七月三十一日勅令第二百六十六號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ市町村境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル衆議院議員選擧ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　選擧區ノ境界ニ涉リテ境界ノ變更アリタル市町村ニ於テ行フ明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第七十四條及第七十八條ノ選擧ニ付テハ同法第二條ノ市町村ノ區域ハ最近ニ總選擧ノ行ハレタル市町村ノ區域トシ選擧ニ關スル事務ヲ管理スヘキ市町村長ハ關係市町村長ノ中ニ就キ地方長官ノ指名スル者トス

府縣ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル前項ノ選擧ニ付テハ選擧ニ關スル事務ヲ管理スヘキ地方長官ハ其ノ異動アリタル區域カ最近ノ總選擧ノ際屬シタル府縣ノ地方長官トス

第二條　前條第一項ノ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ關係市町村長ハ選擧前選擧人名簿中市町村ノ境界ノ變更ニ因リ異動アリタル區域ニ係ル部分ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第三條　第一條第一項ノ選擧ニ付テハ明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第五十五條第三項及第五十九條第二項ノ郡市ハ最近ニ總選擧ノ行ハレタル郡市ノ區域トス

第四條　第一條第一項ノ選擧ニ關スル費用ニシテ明治三十四年勅令第百八十六號衆議院議員選擧法施行令第二十九條乃至第三十二條ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第三條及第百六條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第六條　左ノ場合ニ於テ選擧又ハ投票ヲ行フヘキ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ選擧又ハ投票ニ付テハ前五條ノ規定ヲ準用ス

一　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フトキ（市町村ノ境界ノ變更カ選擧區ノ境界ニ涉ル場合ヲ除ク）

二　明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第四十四條ノ投票ヲ行フトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以前ニ於テ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選擧又ハ投票ニ付テモ亦之ヲ適用ス

●北海道ノ區以外ノ地ニ衆議院議員選擧法施行ノ件

（明治三十六年六月三十日勅令第百五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ北海道ノ札幌區函館區小樽區以外ノ地ニ衆議院議員選擧法施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

第一條　北海道ノ札幌區函館區小樽區以外ノ地ニ衆議院議員選擧法ヲ次ノ總選擧ヨリ施行ス

第二條　北海道ニ於テハ衆議院議員選擧法及其ノ附屬法令ニ關シテハ支廳ノ所轄區域ヲ一郡ノ區域、役場事務ヲ共同處理スル町村ノ組合ヲ一町村ト看做シ支廳長ハ郡長、役場事務ヲ共同處理スル組合ノ管理者ハ町村長、支廳ハ郡役所、役場事務ヲ共同處理スル組合役場ハ町村役場ニ該當ス

●北海道衆議院議員選擧特例

（大正九年三月五日勅令第三十八號）
（改正　大正一三年第七九號、一五年第二三七號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ北海道衆議院議員選擧特例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

北海道衆議院議員選擧特例

第一條　衆議院議員選擧法第百十條ノ規定ニ依リ北海道廳根室支廳管內國後郡、紗那郡、擇捉郡及蘂取郡ニ於ケル選擧ニ關シ第二條以下ノ特例ヲ設ク

第二條　削除

第三條　削除

第四條　削除

第五條　削除

第六條　衆議院議員選擧法第二十五條第一項ニ定ムル出訴期間ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內トス

第七條　衆議院議員選擧法第三十九條第二項乃至第四項ノ規定ハ之ヲ適用セス

第八條　投票管理者ハ投票ノ翌日投票所ニ於テ衆議院議員選擧法第五十四條、第五十五條第二項及第五十七條ノ例ニ依リ選擧長ニ屬スル職務ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ投票立會人ハ其ノ例ニ依リ選擧立會人ニ屬スル職務ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ點檢スル場合ニ於テハ衆議院議員選擧法施行令第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第九條　前條ノ規定ニ依リ投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十條　投票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第十一條　投票ノ點檢終リタルトキハ投票管理者ハ直ニ各被選擧人ノ得票數ヲ選擧長ニ報告スヘシ

第十二條　投票管理者ハ前四條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顚末書ヲ作製シ投票立會人ト共ニ署名シ投票錄及投票ト併セテ選擧長ニ之ヲ送致スヘシ

第十三條　衆議院議員選擧法第五十六條ノ規定ハ前五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　投票管理者ハ豫メ第八條乃至第十二條ノ規定ニ依ル手續ヲ行フ日時ヲ告示スヘシ

第十五條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ第八條乃至第十二條若ハ前條ノ規定ニ依ル手續ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ之ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ北海道廳支廳長ニ其ノ由ヲ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ北海道廳支廳長ハ更ニ期日ヲ定

メ其ノ手續ヲ行ハシムヘシ

第十六條　選擧長ハ第十一條ノ規定ニ依ル報告及衆議院議員選擧法第四十二條又ハ第四十三條ノ規定ニ依リ送致セラレタル投票函ノ總テ到達シタル翌日選擧會ヲ開クヘシ

選擧長ハ前項ノ投票函ノ投票ニ付衆議院議員選擧法第五十五條ノ規定ニ依ル手續ヲ終リタルトキハ前項ノ報告ヲ調査シ毎投票區ノ得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十一條ノ規定ニ依ル報告遲著ノ虞アルトキハ其ノ報告總テ到達セサルモ投票函ノ總テ到達シタル翌日以後ハ選擧長ハ選擧會ヲ開キ其ノ投票函ノ投票及前日迄ニ到達シタル報告ニ付前項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ選擧長ハ報告ノ總テ到達シタル翌日更ニ選擧會ヲ開キ調査未濟ノ報告ヲ調査シ該報告ニ係ル毎投票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十七條　第一條ノ郡ニ於ケル選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於ケル選擧會ニ於テハ其ノ選擧ニ係ル第十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ調査スヘシ

第十八條　第十一條ノ規定ニ依ル報告ノ書類及第十二條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル顚末書ハ選擧長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第十二條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル投票ノ保存ハ封印ノ儘之ヲ爲スヘシ

第十九條　衆議院議員選擧法第九十九條ノ規定ハ投票立會人正當ノ事故ナクシテ第十條ヲ除クノ外本令ニ定メタル義務ヲ缺キタル場合ニ付之ヲ適用ス

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

●沖繩縣ニ衆議院議員選擧法施行

（明治四十五年三月三十日勅令第五十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ沖繩縣ニ衆議院議員選擧法施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務大臣副署）

第一條　沖繩縣ニ衆議院議員選擧法ヲ施行ス

第二條　【沖繩縣ノ那覇區、首里區ニ於テハ衆議院議員選擧法其ノ他之ニ關スル法令中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス】

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●衆議院議員選擧法ニ依リ市町村外ニ於テ納ムル直接國稅證明ニ關スル件

（大正九年三月五日內務省令第二號）

明治三十四年十月內務省令第二十七號衆議院議員選擧法ニ依リ市町村外ニ於テ納ムル直接國稅證明ニ關スル件左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

衆議院議員選擧法第十九條ニ依リ選擧人ニ於テ納稅ノ屆出ヲ爲ストキハ其ノ稅ヲ徵收スル行政廳、公共ノ團體若ハ組合又ハ銀行會社ノ證明ヲ得ルコトヲ要ス

前項證明ノ請求ヲ受ケタル行政廳、公共ノ團體若ハ組合又ハ銀行會社ハ遲滯ナク證明ヲ爲スヘシ

●衆議院議員選擧法第二十七條ノ選擧人名簿ニ關スル件

（明治三十四年十月七日內務省令第二十八號）

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第二十七條ニ依リ更ニ調製スル選擧人名簿ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第二十七條末項ノ選擧人名簿ノ調製及其ノ期日縱覽確定ニ關スル期日期間等ハ地方長官之ヲ定ム

●衆議院議員選擧法ニ依ル選擧人名簿投票用紙封筒及投票函樣式

（明治三十四年十月七日內務省令第二十九號　改正　明治四〇年第一〇號　大正一五年第三四號）

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法ニ依リ衆議院議員ノ選擧ニ要スル選擧人名簿投票用紙封筒及投票函ノ樣式左ノ通之ヲ定ム

衆議院議員選擧人名簿樣式　美濃紙

番號	第一號		
直接國稅納額	金何圓		
納稅額區別及納稅年間納稅地	地租	所得稅	營業稅
	金何圓、、、 金何圓、、、 但何年何月何日家督相續 自何年何月何日以降 至何年何月何日 自何年何月何日以前 ：：： 何府縣何郡（市）何町村 何府縣何郡（市）何町村、、、	金何圓、、、 何年分、、、 何府縣何郡（市）町村、、、	金何圓、、、 何年分、、、 何府縣何郡（市）町村、、、
身分 官位 職業	族	官位	何業
住所 氏名 生年月	何郡（市）何町村	何　某	何年何月

一　名簿ハ大字若ハ小字毎ニ區別シテ調製スヘシ但シ一字若ハ數字毎ニ分綴スルモ妨ナシ

一　異議ノ決定裁判ノ判決等ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ旨竝修正ノ年月日ヲ欄外ニ記シ官印又ハ職印ヲ押捺スヘシ

一　大正十五年法律第五十五號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ直接國稅納額ノ欄ニ記載スヘシ

一　名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

何年何月何日現在調

衆議院議員選擧人名簿

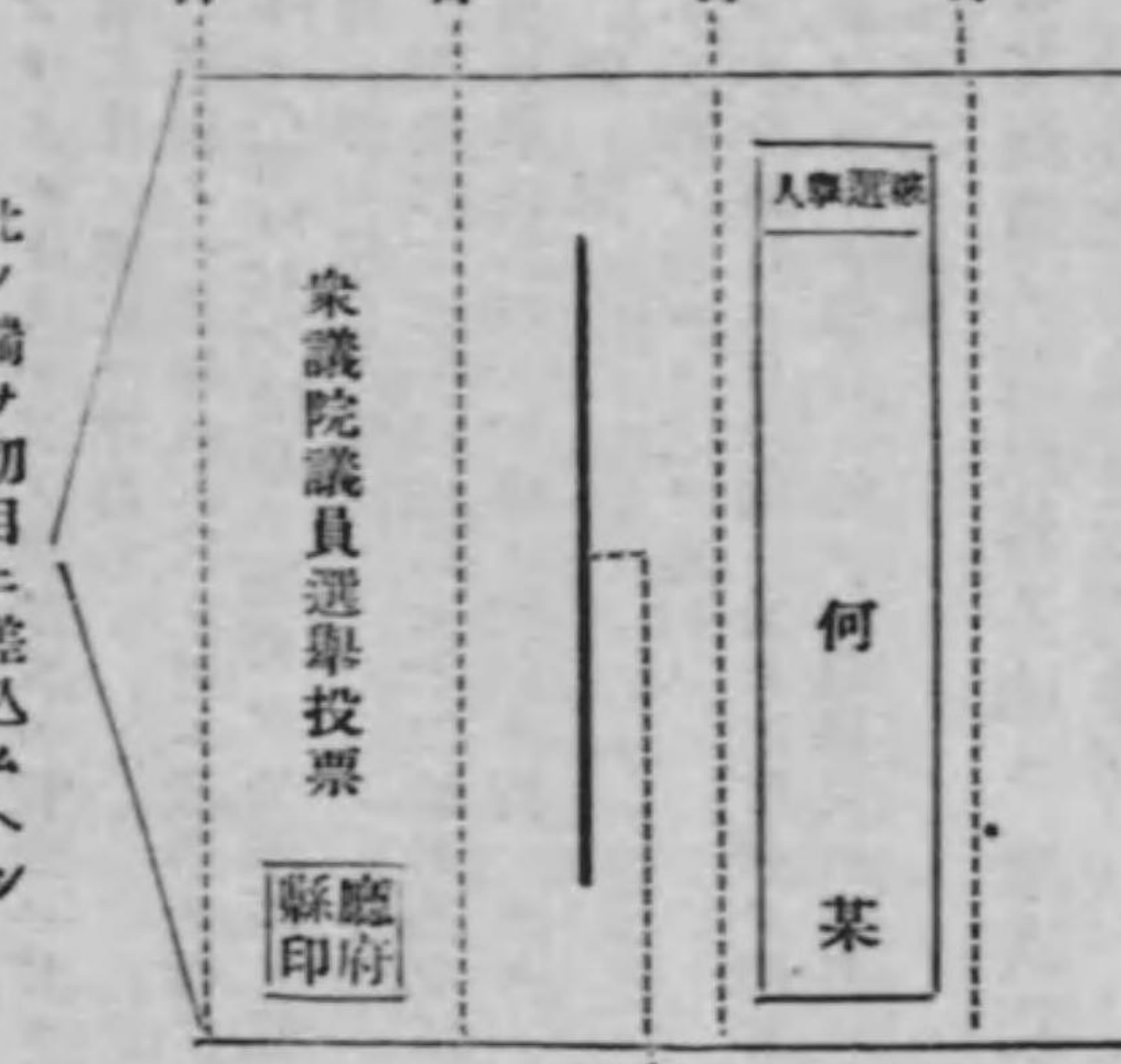
何府縣何郡（市）何町村（大字若ハ小字何々）

（卷末）

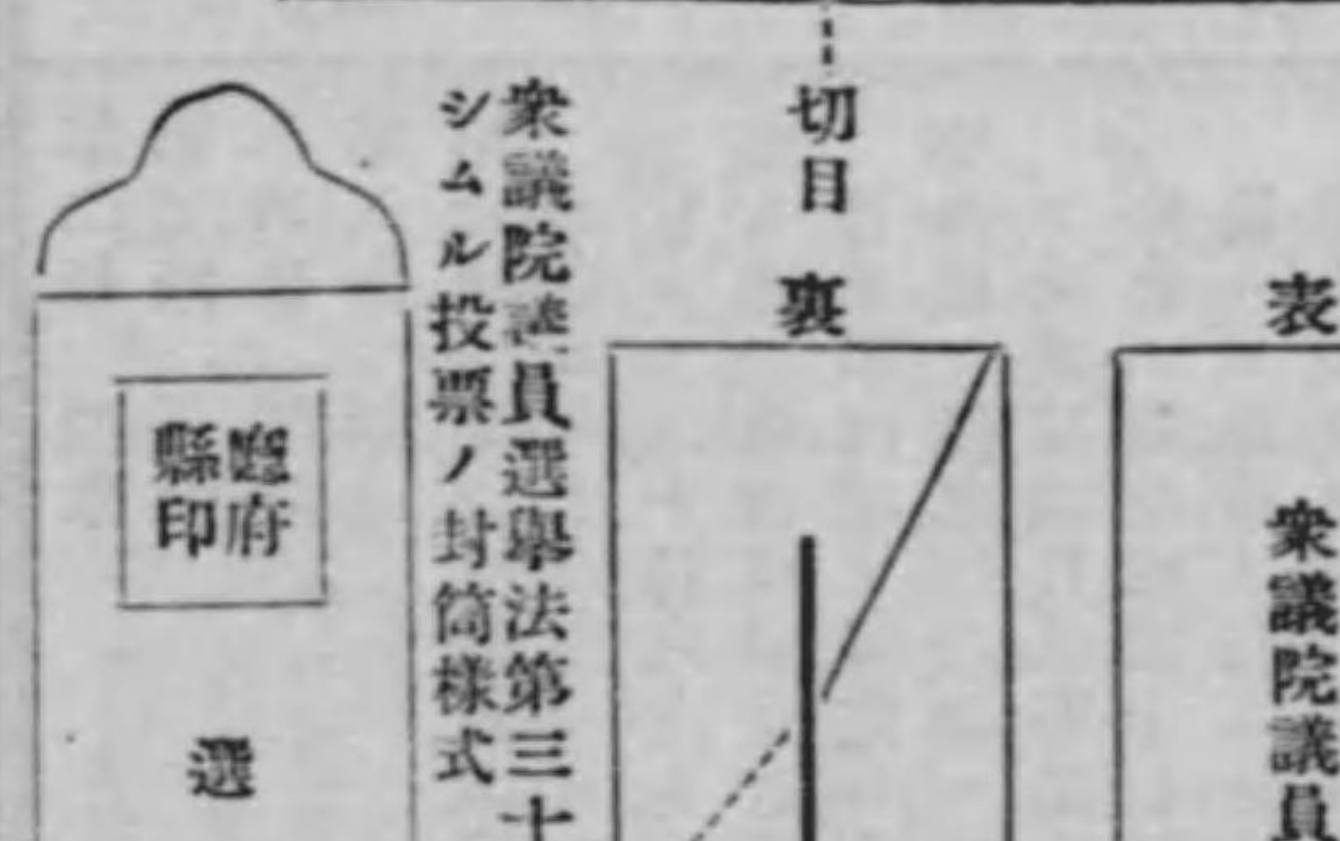
此ノ選擧人名簿ハ【明治】何年何月何日ヨリ何日間何役所（何役場）ニ於テ縱覽セシメ何年何月何日ヲ以テ確定セリ

市町村長　氏　名印

投票用紙樣式　用紙程村又ハ西ノ内



衆議院議員選擧法第三十九條ニ依リ假ニ爲サシムル投票ノ封筒樣式



投票函樣式

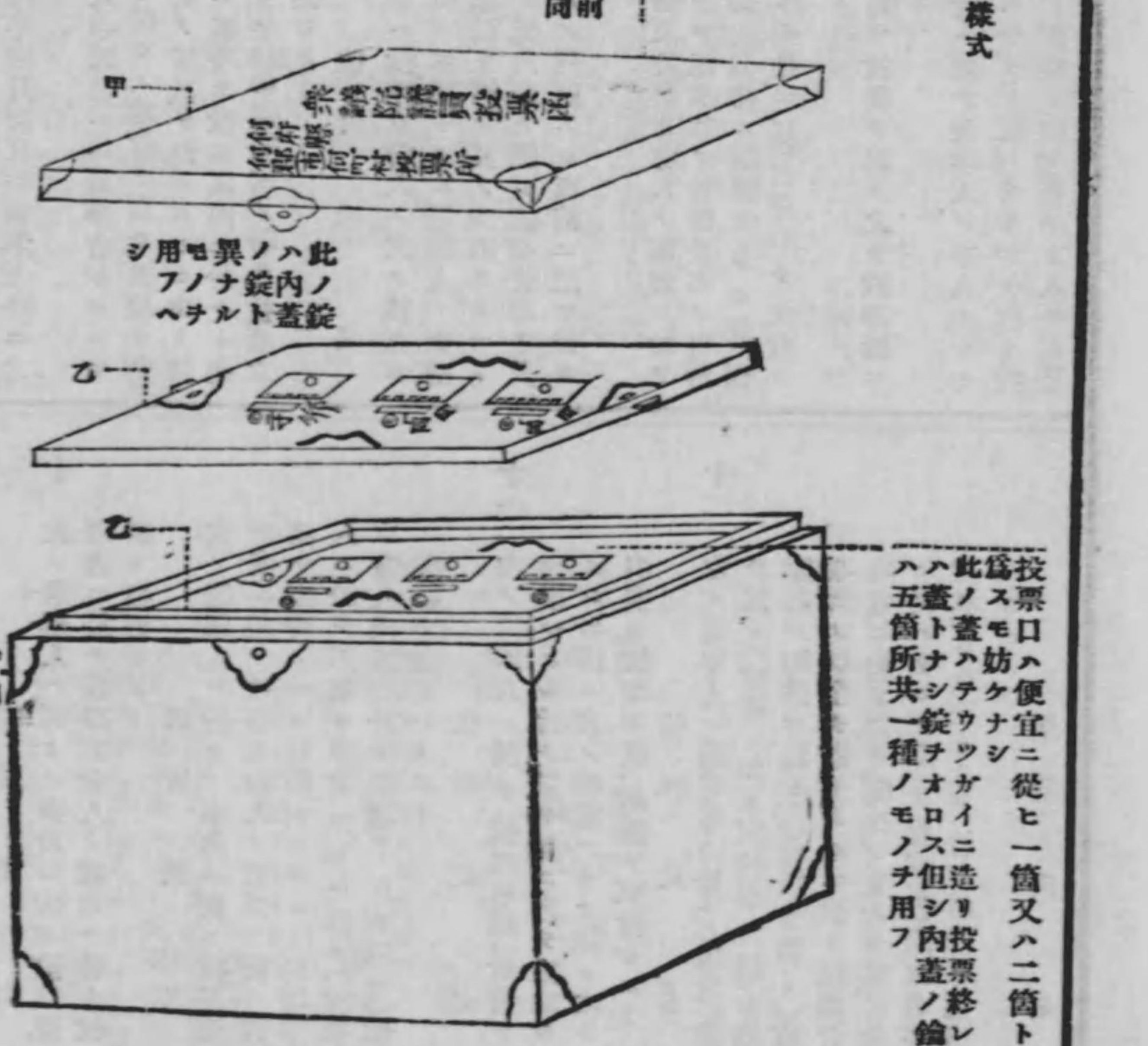
厚仕上凡八歩

高凡一尺二寸

幅凡一尺五寸

横凡一尺

但シ大小ハ選擧人ノ多寡ニ應シ適宜ニ之ヲ造ルヘシ


錠前ニ同シ
甲
衆議院議員投票函
何府縣何郡（市）何町村投票所
此ノ內蓋ノ錠ト外蓋ノ錠ハ異ナルモノヲ用フヘシ
乙
乙
丙
投票口ハ便宜ニ從ヒ一箇又ハ二箇トスルモ妨ケナシ
此ノ蓋ハテウツガイニ造リ投票終レハ蓋ヲナシ錠ヲオロス但シ內蓋ノ鑰ハ五箇所共一種ノモノヲ用フ

附則（大正十五年內務省令第三十四號）

本令ハ公布ノ日以後ニ調製スル選擧人名簿ニ之ヲ適用ス但シ表紙及卷末ノ記載ニ關スル改正規定ハ郡長及島司廢止ノ日以後ニ調製スル選擧人名簿ニ之ヲ適用ス

（大正元年十一月十六日內務省訓令第十八號）北海道廳府縣

衆議院議員選擧法第三十九條ニ依リ假ニ爲サシムル投票ノ封筒ニハ特ニ投票所ノ印章ヲ押捺セシメ豫メ封筒ニ左ノ印章ヲ押捺シ置キ各投票所ニ於テハ單ニ投票所名ノミヲ記入スルコトヽシ妨ケナシ

投票所

●衆議院議員選擧法及同施行令ニ就テノ事務及書式等取扱方

（明治三十四年十月七日內務省訓令第十四號　改正　大正九年第六號、一五年第一〇號）廳府縣

衆議院議員選擧法及同施行令ニ就テハ其ノ事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ

第一條　衆議院議員選擧法第三十二條ニ依リ選任シタル投票立會人其ノ職ヲ辭シタル場合ニ於テ選擧ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存スルトキハ同條ニ依リ更ニ投票立會人ヲ選任スヘシ

第二條　市役所町村役場以外ニ投票所ヲ設クル場合ニ於テハ可成門戸アル場處ヲ指定スヘシ

第三條　投票用紙及封筒ヲ各投票所ニ配付スルトキハ投票所毎ニ各其ノ數ヲ明記シ投票終了ノ後直ニ其ノ使用ノ數ヲ報告セシメ殘餘及汚損ノ投票用紙及封筒ハ同時ニ之ヲ返還セシムヘシ

第四條　投票所ハ概略別記樣式ニ從ヒ選擧人ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所選擧人控所選擧人名簿對照及投票用紙交付所投票記載所投票ノ場所等ヲ設備スヘシ

第五條　投票ハ投票記載ノ爲設ケタル卓上ニ於テ之ヲ記載セシメ其ノ記載終リタルトキハ直ニ投函セシムヘシ

投票記載ノ爲設ケタル卓上ニハ筆硯墨ヲ備ヘ置キ投票記載ニ支障ナカラシムヘシ

第六條　選擧人出入ノ門戸及投票所出入口等ニハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ヲ配置シ取締ヲ爲サシムヘシ

第七條　衆議院議員選擧法第四十條ニ依リ投票函閉鎖ノ後ハ選擧長ニ送致スル迄ノ間投票函ハ之ヲ投票所外ニ轉送スルコトヲ得ス

第八條　衆議院議員選擧法第五十三條ニ依リ選任シタル選擧立會人其ノ職ヲ辭シタル場合ニ於テ選擧會開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存スルトキハ同條ニ依リ更ニ選擧立會人ヲ選任スヘシ

第九條　衆議院議員選擧法第七十條ノ手續ハ選擧會ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十條　投票錄選擧錄點數簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

投票錄選擧錄ハ謄本ヲ調製シ選擧人又ハ被選擧人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閲覽セシムヘシ

第十一條　當選證書ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

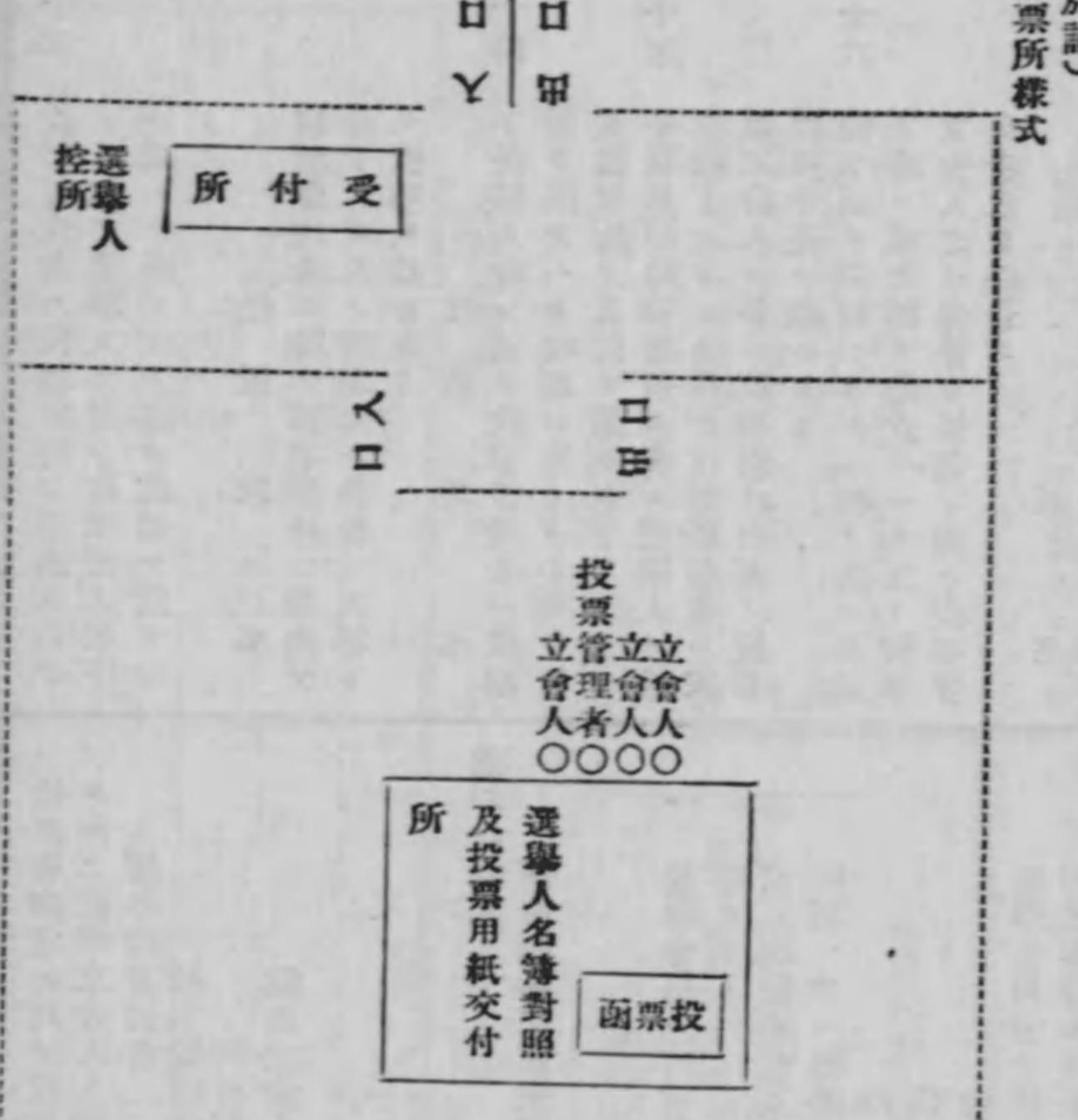
第十二條　投票所選擧會場ニハ各其ノ門戸ニ標札ヲ揭クヘシ

附　則（大正十五年內務省訓令第十號）

本令ハ郡長及島司廢止ノ日以後ニ於テ調製スル選擧錄ニ之ヲ適用ス

（別記）

投票所樣式



投票錄樣式

何府縣郡市町村衆議院議員投票所投票錄（欄上何年何月何日投票執行）

一　投票所ハ何町村役場（何市役所）（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ投票立會人ハ何レモ投票時刻マテニ投票所ニ參會シタリ

住所　氏名
住所　氏名
住所　氏名

投票時刻ニ至リ投票立會人中何名參會セサルニ由リ投票管理者ハ臨時ニ投票區内ニ於ケル選擧人中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

三　投票場ハ何年何月何日午前第七時ニ之ヲ開キタリ

四　投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）第何時何々ノ事故ヲ以テ其職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ投票管理者ハ臨時ニ投票區内ニ於ケル選擧人中ヨリ午（前後）第何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

五　投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票所ニ參集シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ投票管理者及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六　投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲシテ逐次其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選擧人名簿ニ對照シタル後（到著番號札ト引換ニ）投票用紙ヲ交付シタリ

七　選擧人ハ自ラ投票ヲ認メ之ヲ投票函ニ投入シタリ

八　投票管理者ハ左ノ選擧人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル職氏名ヲシテ之ヲ筆記セシメ之ヲ選擧人ニ讀ミ聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名セシメタリ

住所　氏名

投票管理者ハ左ノ選擧人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ノ宣言ヲ命シタルモ其ノ宣言ヲ爲サヽルニ依リ本人ニアラスト認メ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住所　氏名

九　左ノ選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄ナキモ之ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ投票所ニ到著シタルニ依リ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシメタリ

住所　氏名

十　左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ依リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ

住所　氏名

左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ依リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否スヘキ旨決定シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立ツルヲ以テ（投票立會人氏名ニ於テ異議アルヲ以テ）假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

十一　左ノ選擧人ハ誤テ投票用紙、封筒ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙、封筒ヲ交付シタリ

住所　氏名

十二　左ノ選擧人ハ投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ（喧騷ニ渉リ）（投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ）（何何ニ因リ）投票所ノ秩序ヲ紊リタルニ依リ投票管理者ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙（到著番號札）ヲ取上ケ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住所　氏名

十三　投票管理者ハ投票所外ニ退出ヲ命シタル左ノ選擧人ニ對シ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

投票管理者ニ於テ投票所外ニ退出ヲ命シタル左ノ選擧人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ

住所　氏名

十四　午後第六時ニ至リ投票管理者ハ投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタル由ヲ告ケ投票所ノ入口ヲ鎖シタリ

十五　午後第何時投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了シタルヲ以テ投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十六　投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管ス

十七　投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ選擧長ニ送致スヘキ投票立會人左ノ如シ

氏名

十八　左ノ何名ハ投票所ノ事務ニ從事シタリ

職　氏名
職　氏名

十九　投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏名

二十　選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數　何人

投票シタル選擧人ノ總數　何人

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人

內

假ニ投票ヲ爲サシメタル者　何人

二十一　以上ノ外投票ニ關シ投票管理者ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

投票管理者ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

投票管理者
何市町村長　氏名

投票立會人　氏名
氏名
氏名

選擧錄樣式

何府縣第何區衆議院議員選擧會選擧錄（欄上何年何月何日選擧會開會）

一　選擧會場ハ何市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會開會ノ時刻マテニ選擧會ニ參會シタリ

住所　氏名
住所　氏名
住所　氏名

選擧會開會ノ時刻ニ至リ選擧立會人中何名參會セサルニ由リ選擧長ハ臨時ニ選擧區内ニ於ケル選擧人中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

三　何年何月何日選擧長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ翌何日午前第何時ヨリ選擧會ヲ開キ其ノ事務ヲ開始シタリ

四　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午（前後）第何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ選擧長ハ臨時ニ選擧區内ニ於ケル選擧人中ヨリ午（前後）第何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

五　選擧長ハ選擧立會人立會ノ上（各郡市別ニ）逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人
（右各郡市別內譯左ノ如シ）
（何郡市）
（投票數）　（何票）
（投票人數）　（何人）
（外）
（假ニ爲シタル投票數）　（何票）
（假ニ爲シタル投票人數）　（何人）

投票總數ト投票人總數ト符合セリ

（何郡市ハ）投票總數ト投票人總數ト符合セス即チ投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多ク又ハ少シ（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スヘシ）

六　投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニ於テ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住所　氏名
住所　氏名

選擧長ハ右ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ左ノ通之ヲ決定シタリ

受理セシモノ
一　事由何々　住所　氏名
一　事由何々　住所　氏名
受理セサリシモノ
一　事由何々　住所　氏名
一　事由何々　住所　氏名

七　選擧長ハ（各郡市別ニ）各投票所ノ投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢シ選擧長（選擧事務ニ從事スル官職氏名）ハ毎票記載ノ氏名ヲ朗讀シタリ

八　選擧事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二名ハ投票記載ノ氏名ノ朗讀ニ應シ各別ニ同一被選擧人ノ得票ヲ點數簿ニ記入シ且其ノ一名ニ於テ各被選擧人ノ得票ヲ記入スル毎ニ其ノ得票數ヲ呼ヒ他ノ一名ト共ニ其ノ得票數ヲ校合シタリ

九　選擧長ニ於テ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ

一　有效ト決定シタルモノ　何票
一　無效ト決定シタルモノ　何票
內
一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ　何票
二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ　何票
三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ　何票
、　、、、、、、、、、、
、　、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、

總計　何票

（右各郡市別內譯左ノ如シ）
（何郡市）
（一　有效ト決定シタルモノ）　（何票）
（一　無效ト決定シタルモノ）　（何票）
內
（一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ）　（何票）
（二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ）（何票）
（三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ）　（何票）
（、、、、、、、、、、（、、））
（、、、、、、、、、、、）
（、、、、、、、、、（、、））
、、、、、、、（、、）
（計　何票）

十　午（前後）第何時投票ノ點檢ヲ了リタルヲ以テ選擧長ハ各被選擧人ノ得票數（ヲ各郡市別ニ朗讀シ終リニ其ノ總數）ヲ朗讀シタリ

十一　各被選擧人ノ得票數左ノ如シ

何票　氏名
（內）
（何郡何票）
（何市何票）
何票　氏名
內
（何郡何票）
（何市何票）

十二　選擧區内ノ議員定數何人ヲ以テ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數何人ヲ除シテ得タル數ハ何人ニシテ此ノ五分ノ一ノ數ハ何票ナリ

得票者中此ノ數ニ達スルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

何票　氏名
何票　氏名

右ノ內有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何名ヲ以テ當選人トス

氏名
氏名

（但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同キニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名ハ何年何月何日生ナルヲ以テ年長者ナル氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ
同年月日ナルヲ以テ選擧長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當選セリ依テ氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ）

十三　選擧長ハ（各郡市別ニ）點檢濟投票ノ有效無效及不受理ノ決定アリタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在テハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在テハ之ヲ類別シテ各別ニ之ヲ封筒ニ入レ選擧立會人ト共ニ之ニ封印シタリ

十四　午（前後）第何時選擧會ノ事務ヲ結了ス

十五　左ノ何名ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ

官職　氏名
官職　氏名

十六　選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏名

十七　以上ノ外選擧ニ關シ選擧長ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

選擧長　官職　氏名

選擧立會人　氏名
氏名
氏名

衆議院議員當選證書樣式　用紙鳥ノ子四ツ切

衆議院議員當選證書

住所　氏名

右ノ者何府縣第何區ニ於テ衆議院議員ニ當選シタルコトヲ證ス

年　月　日

地方長官　氏名印

點數簿樣式　用紙美濃紙

（何郡市）得票數　　氏名

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇		一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
	○	○	○	○	○						一〇										
二〇											三〇										
四〇											五〇										

六〇	
七〇	
八〇	
九〇	
一〇〇	
一一〇	
一二〇	
一三〇	
一四〇	
一五〇	
一六〇	
一七〇	
一八〇	
一九〇	

第三輯

官規

第三輯

官規

三

第三輯

官規

第三輯　官規

第一章　官制

第一款　内閣及其所管

○内閣官制（明治二二、勅令一三五）……一
○内閣所屬部局及職員官制（大正一三、勅令三〇七）……一
○内閣所屬職員臨時增置ニ關スル件（大正一三、勅令三〇八）……一
○法制局官制（明治二六、勅令一一八）……二
○賞勳局官制（明治二六、勅令一一六）……二
○賞勳局ニ臨時職員增置ノ件（大正一四、勅令一九〇）……二
○賞勳會議規程（明治二六、勅令一一七）……二
○資源局官制（昭和二、勅令一三九）……二
○大喪費官制（昭和元、勅令一）……三
○恩給審査會官制（大正一二、勅令三六八）……三
○中央統計委員會官制（大正九、勅令五一四）……三
○臨時法制審議會官制（大正八、勅令三三二）……三
○行政制度審議會官制（昭和二、勅令一六八）……四
○文政審議會官制（大正一三、勅令八五）……四
○高等試驗委員及普通試驗委員官制（大正七、勅令九）……四
○南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事務主管ノ件（明治四一、勅令一七九）……四

第二款　樞密院

○樞密院官制及事務規程（明治二一、勅令二二）……五
○丁年以上ノ各親王ハ樞密院會議ニ班列ノ權ヲ有セシメラル（明治二一、五、一八、勅旨）……五
○樞密院屬設置（明治二一、勅令四一）……五
○樞密院屬定員（明治二六、勅令一二一）……五

第三款　宮内省及其所管

○宮内省官制（大正一〇、皇室令七）……六
○内大臣府官制（明治四〇、皇室令四）……七
○皇后宮職官制（大正一〇、皇室令八）……七
○皇太后宮職官制（昭和元、皇室令一）……八
○皇族附職員官制（大正三、皇室令五）……八
○親王ニ非サル皇族ニ宮務監督ヲ附屬セシムルノ件（明治四五、宮令八）……八
○帝室會計審査局官制（大正一〇、皇室令一〇）……八
○帝室林野局官制（大正一〇、皇室令一一）……八
○帝室林野局臨時職員官制（大正一四、皇室令六）……九
○御歌所官制（大正一〇、皇室令一三）……九
○學習院官制（大正一二、皇室令五）……九
○女子學習院官制（大正一二、皇室令六）……九
○帝室博物館官制（大正一〇、皇室令一四）……九
○李王職官制（明治四三、皇室令三四）……九
○李王職判任官定員（明治四三、宮令一六）……一〇
○故李王妃及公族ニ分屬スル李王職判任官定員（大正九、宮令四）……一〇
○朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ニ關スル件（明治四三、皇室令三九）……一〇
○臨時帝室編修局設置（大正三、皇室令二二）……一〇
○宮内判任官定員（大正一一、宮令一九）……一〇
○震災復舊事務ニ從事セシムル爲宮内技手及宮内技手補臨時增置ノ件（大正一四、宮令三）……一一
○勅任待遇奏任待遇宮内職員職制（大正一〇、宮令一〇）……一一
○判任待遇宮内職員職制（大正一〇、宮令一一）……一一
○皇宮警察部及同出張所設置（大正一〇、宮令一二）……一一
○内匠寮出張所設置（大正一〇、宮令一三）……一一
○宮内官考査委員會官制（大正一〇、皇室令一六）……一一
○宗秩寮審議會官制（大正一〇、皇室令一七）……一二
○宗秩寮審議會規則（明治四三、宮令一一）……一二
○學習院評議會規程（大正五、宮令一）……一二
○宮内省恩給審査會規則（大正一二、宮令一三）……一二

第四款　各省官制通則

○各省官制通則（明治二六、勅令一二二）……一三
○二省以上交涉ノ事項ニ關スル件（明治四一、勅令二六六）……一三
○獨逸國等トノ平和條約ニ依ル國際機關ノ事務處理ノ爲派遣スル官吏等ニ關スル件（大正九、勅令一八六）……一三
○戰時事變ノ際臨時特設部局又ハ陸海軍部隊配屬文官補闕ノ件（明治三八、勅令四三）……一四
○官廳公務上在外公使領事ヘ交涉手續（明治二五、閣令四）……一四

第五款　外務省及其所管

○外務省官制（明治三一、勅令二五八）……一四
○外務部内臨時職員設置ノ件（昭和二、勅令一八九）……一四
○對支文化事業調査會官制（大正一二、勅令五二七）……一四
○外交官及領事官官制（明治三二、勅令二八〇）……一五
○特命全權大使又ハ特命全權公使臨時設置（大正六、勅令六四）……一五
○特命全權大使著任前ニ於ケル大使館ニ關スル件（明治三九、勅令三）……一五
○在外公館職員定員令（明治三二、勅令二八一）……一五
○外交官領事官貿易事務官及外務書記生外務通譯生更代ノ際臨時增員（明治二八、勅令一五〇）……一五
○戰時ニ於ケル待命在外公館職員等ノ身分及給與ニ關スル件（大正三、勅令二〇二）……一六
○領事官ノ職務ニ關スル法律（明治三二、法律七〇）……一六
○領事官職務規則（明治三三、勅令一五三）……一六
○外國在勤ノ外務省警察官ニ關スル件（大正五、勅令一九六）……一七
○在南滿洲帝國領事館附警察官ニ關スル件（明治四一、勅令五）……一七
○國際聯盟帝國事務局官制（大正一〇、勅令三八四）……一七

第六款　内務省及其所管

○内務省官制（明治三一、勅令二五九）……一八
○内務部内臨時職員設置制（大正九、勅令三六九）……一八
○特殊財產管理局官制廢止ノ件（昭和二、勅令五〇）……一九
○【特殊財產管理局】ニ屬スル事務ノ一部ヲ地方長官ニ掌ラシムルヲ得ルコトニ關スル件（大正八、勅令三〇八）……一九
○防疫職員官制（明治四五、勅令一〇二）……一九
○復興局官制（大正一三、勅令二六）……一九
○社會局官制（大正一一、勅令四六〇）……二〇
○健康保險署官制（大正一五、勅令二七二）……二〇

○職業紹介事務局官制（大正一二、勅令一〇七）……二〇
○神宮司廳官制（明治二九、勅令三七一）……二一
○神宮皇學館官制（明治三六、勅令一三〇）……二一
○神宮遷宮ニ際シ臨時職員設置（明治四二、勅令二一〇）……二二
○造神宮使廳官制（明治三一、勅令一〇二）……二二
○神宮神部署官制（明治四五、勅令八五）……二二
○衞士長、衞士副長、衞士服務規則（明治三二、內令五三）……二二
○國立感化院令（大正六、勅令一〇八）……二三
○癈兵院官制（大正一二、勅令一〇九）……二三
○警察講習所官制（大正七、勅令一五五）……二三
○衞生試驗所官制（明治二三、勅令一五五）……二三
○榮養研究所官制（大正九、勅令四〇七）……二三
○國際勞働機關帝國事務所官制（大正一二、勅令五）……二三
○中央衞生會官制（明治二八、勅令五七）……二四
○保健衞生調查會官制（大正五、勅令一七二）……二四
○日本藥局方調查會官制（明治三九、勅令五三）……二四
○都市計畫委員會官制（大正八、勅令四八三）……二四
○特別都市計畫委員會官制（大正一三、勅令一四）……二五
○勞働保險調查會官制（大正一〇、勅令四五八）……二六
○職業紹介委員會官制（大正一三、勅令二〇）……二六
○明治神宮外苑管理職員制（大正一五、勅令三二六）……二六

第七款　大藏省及其所管

○大藏省官制（明治三一、勅令二六九）……二六
○大藏部內臨時職員設置制（大正一三、勅令三二七）……二七
○海外ニ於ケル財務處理ノ爲大藏省ニ臨時職員增置（明治四三、勅令二三六）……二七
○營繕管財局官制（大正一四、勅令二〇五）……二八
○造幣局官制（明治四三、勅令四〇）……二八
○專賣局官制（大正一〇、勅令三〇〇）……二八
○專賣局見習員ニ關スル件（明治四〇、勅令三〇九）……二九
○稅關官制（大正一三、勅令三三）……二九
○稅關管轄區域（大正六、勅令五八）……三〇
○稅關支署ノ名稱位置及管轄區域（大正六、勅令五九）……三〇
○稅務監督局官制（明治三五、勅令二四一）……三二
○稅務監督局見習員ニ關スル件（明治三二、勅令五五）……三三
○稅務署官制（明治三五、勅令二四二）……三三
○釀造試驗所官制（明治三七、勅令一三六）……四〇
○國有財產調查會官制（大正一一、勅令一三九）……四〇
○中央諸官衙建築準備委員會官制（大正一四、勅令三〇五）……四一
○寺院境內地讓與審查會官制（大正一四、勅令二八五）……四一
○關稅調查委員會官制（大正一五、勅令一二五）……四一
○關稅訴願審查委員會規則（明治三二、勅令二四九）……四一
○臨時秩祿處分調查會官制（大正八、勅令一八七）……四一
○震災手形處理委員會官制（昭和二、勅令一五五）……四一
○臺灣銀行調查會官制（昭和二、勅令六九）……四二
○特別融通審查會規則（昭和二、勅令一〇六）……四二
○臺灣ニ於ケル貨幣銀行擔保附社債信託關稅及粗製樟腦樟腦油專賣ニ關スル事務主管（明治三〇、勅令九）……四二

第八款　元帥府　大本營　軍事參議院

○元帥府設置ノ詔（明治三一、一、二〇、詔）……四二
○元帥府條例（明治三一、勅令五）……四二
○戰時大本營條例（明治三六、勅令二九三）……四二
○軍事參議院條例（明治三六、勅令二九四）……四二

第九款　侍從武官府　皇族附武官

○侍從武官府官制（明治四一、勅令三一九）……四三
○皇族附陸軍武官官制（明治二九、勅令二八一）……四三
○皇族附海軍武官官制（明治三〇、勅令三六一）……四三

第十款　陸軍省及陸軍所管

○陸軍省官制（明治四一、勅令三一四）……四三
○陸軍ニ陸軍司法事務官ヲ置クノ件（大正一一、勅令八四）……四五
○陸軍法務官及陸軍錄事ノ定員ニ關スル件（大正一一、勅令九四）……四五
○陸軍高等官衙副官條例（明治二一、勅令三三）……四五
○陸軍參謀及高等官衙副官補職ノ件（明治四〇、軍令陸一一）……四五
○陸軍部內ノ技師ノ平時定員ニ關スル件（大正八、勅令一六五）……四六
○陸軍通譯生ニ關スル件（明治二九、勅令三〇六）……四六
○鐵道聯隊所屬將校以下ヲシテ鐵道省所管鐵道業務ニ從事セシムルノ件（明治四一、勅令三一〇）……四六
○鐵道聯隊所屬將校以下鐵道省所管鐵道ニ於ケル業務施行規程（明治四一、陸達八七）……四六
○鐵道聯隊所屬ノ將校以下ヲシテ公共團體ノ經營スル輕便鐵道業務ニ從事セシムル場合ニ關スル件（明治四三、勅令三一七）……四六
○勅令中陸軍野戰砲兵射擊學校、陸軍重砲兵射擊學校、航空隊等ノ名稱改正ニ關スル件（大正一一、勅令三七〇）……四六
○陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法施行前ヨリ施行セラルル勅令中理事、主理等ノ名稱ニ關スル件（大正一一、勅令八六）……四七
○軍令中法官部、法官部長、理事ノ名稱等ニ關スル件（大正一一、軍令陸二）……四七
○陸軍代理規則（明治四一、軍令陸一六）……四七
○軍馬補充部令（明治四一、勅令一七）……四七
○築城部條例（明治三六、勅令七七）……四七
○陸軍運輸部令（大正一二、勅令八一）……四八
○陸軍航空本部令（大正一四、勅令一四九）……四八
○陸軍技術本部令（大正八、勅令一〇六）……四八
○陸軍技術將校令（大正八、勅令三六八）……四九
○陸軍技術會議令（大正八、勅令一〇七）……四九
○陸軍科學研究所令（大正八、勅令一一〇）……四九
○陸軍造兵廠令（大正二、勅令三〇）……四九
○陸軍兵器廠令（大正一二、勅令八三）……五〇
○陸軍被服廠條例（明治四一、勅令二三）……五〇
○陸軍糧秣廠條例（明治四一、勅令二四）……五〇
○陸軍倉庫條例（明治四〇、勅令二九〇）……五〇
○千住製絨所官制（明治四一、勅令一〇七）……五一
○陸軍衞生材料廠條例（明治三二、勅令四一六）……五一
○臨時陸軍檢疫所官制（大正三、勅令二五七）……五一
○陸地測量部條例（明治二四、勅令一七五）……五一
○陸地測量官官制（明治二二、勅令三四）……五二
○靖國神社附屬遊就館ニ關スル件（明治四三、勅令一九二）……五二
○參謀本部條例（明治四一、軍令陸一九）……五二

○陸軍參謀條例（明治三一、勅令二〇）……五二
○教育總監部條例（明治四一、軍令陸二〇）……五二
○陸軍將校生徒試驗委員條例（明治四一、軍令陸一〇）……五三
○陸軍及海軍文官教官制（明治一九、勅令六八）……五三
○陸軍大學校令（大正一二、軍令陸七）……五三
○陸軍士官學校令（大正九、勅令二三六）……五四
○陸軍幼年學校令（大正九、勅令二三七）……五五
○陸軍戶山學校令（大正一四、勅令一五六）……五五
○陸軍教導學校令（昭和二、勅令二一二）……五六
○陸軍步兵學校令（大正一四、軍令陸三）……五七
○陸軍騎兵學校條例（大正六、軍令陸五）……五七
○陸軍野戰砲兵學校令（大正一四、軍令陸四）……五八
○陸軍重砲兵學校令（大正一四、軍令陸五）……五九
○陸軍工兵學校條例（大正八、軍令陸七）……五九
○陸軍砲工學校條例（明治三一、勅令二二五）……六〇
○陸軍工科學校令（大正九、勅令二三八）……六〇
○陸軍飛行學校令（大正一四、軍令陸七）……六一
○陸軍飛行學校ニ於テ民間ノ希望者ニ對シ航空術ヲ教授シ得ルノ件（大正八、勅令一五三）……六二
○陸軍通信學校令（大正一四、勅令一五八）……六二
○陸軍自動車學校令（大正一四、勅令一五九）……六三
○陸軍軍醫學校令（大正一一、勅令五七）……六四
○陸軍獸醫學校令（大正一二、勅令八四）……六四
○陸軍經理學校令（大正九、勅令二三九）……六五
○衞戍條例（明治四三、軍令陸三）……六五
○衞戍勤務令（明治四三、勅令二六）……六六
○東京警備司令部令（大正一二、勅令四八〇）……六八
○東京警備司令官及第一師團長ノ職務ノ權限ニ關スル件（大正一二、軍令陸一〇）……六八
○師團司令部條例（大正七、軍令陸三）……六八
○旅團司令部條例（明治四一、軍令陸一）……六八
○聯隊區司令部令（大正一二、勅令二六七）……六八
○朝鮮軍司令部條例（大正七、軍令陸四）……六九
○臺灣軍司令部條例（大正八、軍令陸二一）……六九
○臺灣守備隊司令部條例（明治四〇、軍令陸二）……六九
○關東軍司令部條例（大正八、軍令陸一二）……七〇
○要塞司令部條例（明治四一、軍令陸二）……七〇
○陸軍兵器部令（大正七、勅令一七六）……七〇
○陸軍經理部條例（明治四一、勅令二六）……七〇
○陸軍軍醫部條例（明治四一、勅令二七）……七一
○陸軍獸醫部條例（明治四一、勅令二八）……七一
○陸軍法務部令（大正一一、勅令八三）……七二
○衞戍病院令（大正一一、勅令五八）……七二
○憲兵條例（明治三一、勅令三三七）……七二
○憲兵練習所令（大正九、勅令二四〇）……七三
○各兵科ノ者ヲシテ憲兵ノ勤務ヲ補助セシムルノ件（大正一二、勅令四四一）……七三
○憲兵補規程（大正八、陸令二六）……七四
○陸軍教化隊令（大正一二、軍令陸一一）……七五
○陸軍監獄官制（明治四一、勅令二三七）……七五
○俘虜收容所條例（明治三八、勅令二八）……七六
○朝鮮軍人ニ關スル件（明治四四、勅令三六）……七六

第十一款　海軍省及海軍所管

○海軍省官制（大正五、勅令三七）……七七
○補償審查會ニ關スル規程（大正一五、勅令九三）……七八
○海軍ニ海軍司法事務官ヲ置クノ件（大正一一、勅令八五）……七八
○海軍法務官及海軍錄事ノ定員ニ關スル件（大正一一、勅令九五）……七九
○海軍所屬ノ編修書記竝陸海軍ノ審查ニ關スル件（大正一一、勅令八九）……七九
○海軍所屬技師ノ官等及定員ニ關スル件（大正一〇、勅令一二二）……七九
○海軍將官會議條例（明治二二、勅令七五）……七九
○海軍艦政本部令（大正九、勅令四四一）……七九
○海軍技術研究所令（大正一一、勅令五二）……七九
○海軍火藥廠令（大正八、勅令三三）……八〇
○造船造兵監督官令（明治三一、勅令六四）……八〇
○造船造機造兵又ハ土木建築ノ事務ニ從事セシムル爲海軍艦政本部等ニ臨時職員設置（大正九、勅令五五六）……八一
○艤裝員令（大正五、勅令四一）……八一
○海軍航空本部令（昭和二、勅令六一）……八一
○水路部令（大正九、勅令四四四）……八一
○陸軍及海軍文官教官制（本章第十款ニ收ム）
○海軍大學校令（大正七、勅令三一七）……八二
○海軍兵學校令（大正七、勅令三一八）……八二
○海軍機關學校令（大正七、勅令三一九）……八三
○海軍軍醫學校令（大正七、勅令三二〇）……八四
○海軍經理學校令（大正七、勅令三二三）……八五
○海軍砲術學校令（大正七、勅令三二一）……八六
○海軍水雷學校令（大正七、勅令三二二）……八六
○海軍潛水學校令（大正九、勅令三六三）……八七
○海軍軍令部條例（大正三、軍令海七）……八八
○鎮守府令（大正一二、軍令海五）……八八
○要港部令（大正一二、軍令海一）……八九
○海軍港務部條例（大正二、軍令海一三）……八九
○防備隊令（大正九、軍令海三）……九〇
○海兵團令（大正九、軍令海二）……九〇
○海兵團練習部令（大正九、勅令一八八）……九一
○海軍航空隊令（大正一〇、軍令海一）……九一
○海軍航空隊練習部令（大正一〇、勅令一七九）……九二
○海軍望樓條例（大正二、軍令海一四）……九二
○海軍無線電信所條例（大正二、軍令海一五）……九三
○海軍用通信所令（大正五、軍令海一〇）……九三
○海軍艦船部令（大正一三、勅令三四七）……九三
○海軍人事部條例（明治四二、勅令三二五）……九四
○運用術練習艦令（大正二、勅令二八）……九四
○海軍軍需部令（大正一二、勅令五四）……九四
○海軍工廠令（大正一二、勅令五一）……九五
○海軍技手養成所令（大正八、勅令三四）……九五
○海軍燃料廠令（大正一〇、勅令四一）……九五
○海軍病院令（大正一〇、勅令二六四）……九六
○海軍經理部令（大正一二、勅令一二八）……九六
○海軍建築部令（大正九、勅令四四三）……九六
○海軍監獄官制（明治三二、勅令三三五）……九七
○艦隊令（大正三、軍令海一〇）……九七
○驅逐隊潛水隊掃海隊令（大正八、軍令海三）……九八
○艦船令（大正八、軍令海一）……九九
○特務艦ノ乘員及取扱ニ關スル件（大正七、軍令海三）……一〇二
○海軍兵轉科ニ關スル件（大正一四、勅令二五六）……一〇二

第十二款　司法省及其所管

○司法省官制（明治二六、勅令一四三）……一〇二
○司法部內臨時職員設置制（大正九、勅令五一）……一〇二
○裁判所職員定員令（大正九、勅令五六六）……一〇二
○東京區裁判所及橫濱區裁判所ニ臨時職員增置ノ件（大正一二、勅令五一七）……一〇三
○供託局官制（大正一一、勅令六八）……一〇三
○監獄官制（大正一一、勅令四三四）……一〇三
○東京府、神奈川縣及埼玉縣所在ノ監獄ニ職員

增置ノ件〔大正一二、勅令四五三〕……一〇四
○保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師、作業技手、看守及女監取締ノ定員〔大正一一、司令二五〕……一〇四
○矯正院官制〔大正一一、勅令四八九〕……一〇四
○喪失國債證券審査會官制〔大正一三、勅令二〇九〕……一〇四
○喪失國債證券審査會審査規則〔大正一三、勅令二一〇〕……一〇四

第十三款　文部省及其所管

○文部省官制〔明治三一、勅令二七九〕……一〇四
○文部部內臨時職員設置制〔大正九、勅令二九三〕……一〇五
○東京帝國大學官制〔明治三〇、勅令二一〇〕……一〇五
○傳染病研究所官制〔大正五、勅令四七〕……一〇六
○航空研究所官制〔大正一〇、勅令三一〇〕……一〇六
○地震研究所官制〔大正一四、勅令三一一〕……一〇七
○東京天文臺官制〔大正一〇、勅令四五〇〕……一〇七
○史料編纂ニ關スル職員ノ件〔明治三八、勅令九五〕……一〇七
○京都帝國大學官制〔明治三〇、勅令二一一〕……一〇七
○化學研究所官制〔大正一五、勅令三一三〕……一〇八
○東北帝國大學官制〔明治四三、勅令四四七〕……一〇八
○金屬材料研究所官制〔大正一一、勅令三六一〕……一〇九
○九州帝國大學官制〔明治四四、勅令四三〕……一〇九
○北海道帝國大學官制〔大正七、勅令四四〕……一〇九
○東京商科大學官制〔大正九、勅令七一〕……一一〇
○官立醫科大學官制〔大正一一、勅令一四三〕……一一一
○文部省直轄諸學校官制〔明治二六、勅令八六〕……一一二
○文部省直轄諸學校職員定員令〔明治三五、勅令九九〕……一一三
○文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル件〔大正三、勅令一二四〕……一一四
○臨時教員養成所官制〔明治三五、勅令一〇〇〕……一一五
○帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件〔明治二六、勅令九六〕……一一五
○維新史料編纂會官制〔明治四四、勅令一四五〕……一一五
○氣象臺官制〔大正九、勅令二九四〕……一一五
○氣象臺職員ニ在支那帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得ルノ件〔大正九、勅令二九五〕……一一五
○緯度觀測所官制〔大正九、勅令四八二〕……一一六
○體育研究所官制〔大正一三、勅令二五〇〕……一一六
○帝國圖書館官制〔明治三〇、勅令一一〇〕……一一六
○東京博物館官制〔大正一〇、勅令二八六〕……一一六
○測地學委員會官制〔明治三一、勅令八四〕……一一六
○理學文書目錄委員會官制〔明治三三、勅令四一三〕……一一七
○航空評議會官制〔大正一〇、勅令三一一〕……一一七
○震災豫防評議會官制〔大正一四、勅令三一二〕……一一七
○學術研究會議官制〔大正九、勅令二九七〕……一一七
○教科書調査會官制〔大正九、勅令一二二〕……一一八
○臨時國語調査會官制〔大正一〇、勅令二八八〕……一一八
○宗教制度調査會官制〔大正一五、勅令一一六〕……一一八
○古社寺保存會規則〔明治三〇、勅令四〇六〕……一一八
○學校衞生調査會官制〔大正一一、勅令二四八〕……一一九
○教員檢定委員會官制〔明治三三、勅令一三五〕……一一九
○醫師試驗委員官制　大正五、勅令二一五〕……一一九
○齒科醫師試驗委員官制〔大正五、勅令二一六〕……一一九
○藥劑師試驗委員官制〔明治二九、勅令一一九〕……一二〇
○在外指定學校職員名稱待遇及任用解職ニ關スル件〔明治三八、勅令二三〇〕……一二〇

第十四款　農林省及其所管

○農林省官制〔大正一四、勅令三六〕……一二〇
○農林部內臨時職員設置制〔大正一四、勅令三九〕……一二一
○農事試驗場官制〔明治二六、勅令一八〕……一二二
○蠶業試驗場官制〔大正三、勅令一三〕……一二二
○生絲檢査所官制〔明治四〇、勅令一七〇〕……一二三
○園藝試驗場官制〔大正一〇、勅令一〇三〕……一二三
○茶業試驗場官制〔大正八、勅令五八〕……一二三
○營林局署官制〔大正一三、勅令三六六〕……一二三
○林業試驗場官制〔大正一一、勅令一五〇〕……一二四
○水產講習所官制〔明治三〇、勅令四七〕……一二四
○畜產試驗場官制〔大正五、勅令九一〕……一二四
○獸疫調査所官制〔大正一〇、勅令一〇五〕……一二五
○獸疫調査所ニ臨時職員增置〔大正一二、勅令三〇九〕……一二五
○種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制〔大正一二、勅令一一九〕……一二五
○種羊場官制〔大正七、勅令八三〕……一二五
○小作調査會官制〔大正一五、勅令一三五〕……一二五
○米穀委員會官制〔大正一〇、勅令二〇八〕……一二五
○地方森林會規則〔明治四〇、勅令三四七〕……一二六
○戰役中召集セラレタル林區署判任官ノ補闕ニ關スル件〔明治三七、勅令一四三〕……一二七

第十五款　商工省及其所管

○商工省官制〔大正一四、勅令三七〕……一二七
○商工部內臨時職員設置制〔大正一四、勅令四〇〕……一二七
○製鐵所官制〔明治四四、勅令二〇五〕……一二八
○特許局官制〔大正一一、勅令二〕……一二八
○工業試驗所官制〔大正七、勅令一四〇〕……一二九
○絹業試驗所官制〔大正七、勅令四六〕……一二九
○臨時窯業研究所官制〔大正七、勅令一四一〕……一二九
○陶磁器試驗所官制〔大正八、勅令八三〕……一二九
○花莚檢査所官制〔明治三八、勅令七四〕……一二九
○鑛山監督局官制〔大正一三、勅令三六七〕……一三〇
○燃料研究所官制〔大正九、勅令三〇三〕……一三〇
○商工審議會官制〔昭和二、勅令一二一〕……一三〇
○國產振興委員會官制〔大正一五、勅令一六〇〕……一三一
○瓦斯事業委員會官制〔大正一四、勅令三二九〕……一三一
○工藝審査委員會官制〔大正八、勅令二三〇〕……一三一
○工業品規格統一調査會官制〔大正一〇、勅令一六四〕……一三一
○不當廉賣審査委員會ニ關スル件〔大正九、勅令五四九〕……一三一

第十六款　遞信省及其所管

○遞信省官制〔明治三一、勅令二九五〕……一三二
○遞信部內臨時職員設置制〔大正九、勅令一二七〕……一三二
○遞信省部內官吏臨時陸海軍特設事務又ハ戰地若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信事務ニ從事スル者ノ補闕ノ件〔明治三四、勅令七〕……一三三
○遞信省部內官吏臨時陸海軍特設ノ事務又ハ戰時ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信事務ニ從事シタル者ノ復歸ニ關スル件〔大正三、勅令二六〇〕……一三三
○電氣試驗所官制〔大正七、勅令二一九〕……一三三
○貯金局官制〔大正九、勅令四五六〕……一三四
○簡易保險局官制〔大正九、勅令四五七〕……一三四
○遞信局官制〔大正一三、勅令二七二〕……一三四

○遞信局職員ニ在支那、香港又ハ新嘉坡帝國領事館附ヲ命スル件〔大正六、勅令一六八〕……一三五
○通信官署官制〔大正一三、勅令二七三〕……一三五
○三等郵便局及三等電信局通信手ニ關スル件〔大正六、勅令二一五〕……一三五
○燈臺局官制〔大正一四、勅令二八二〕……一三五
○海員審判所職員定員及任用令〔明治三〇、勅令七八〕……一三六
○海員審判所事務章程〔明治三〇、勅令一八九〕……一三六
○地方海員審判所名稱位置及管轄區域ニ關スル件〔明治四三、勅令九四〕……一三六
○簡易生命保險審査會規程〔大正五、勅令二〇七〕……一三六
○簡易生命保險審査會規程施行細則〔大正七、遞令二一〕……一三七
○船員職業紹介委員會官制〔大正一二、勅令三七四〕……一三七
○臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務監督ノ件〔明治二九、勅令八六〕……一三七

第十七款　鐵道省及其所管

○鐵道省官制〔大正九、勅令一四四〕……一三七
○鐵道省鐵道醫ニ關スル件〔大正八、勅令二五七〕……一三八
○鐵道醫ノ定員〔大正一〇、鐵告五九〕……一三八
○鐵道局官制〔大正九、勅令一四五〕……一三八
○鐵道會議官制〔大正一一、勅令三四四〕……一三八
○南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ノ監督ニ關スル件〔大正九、勅令一五〇〕……一三九

第十八款　朝鮮總督府及其所管

○朝鮮總督府官制〔明治四三、勅令三五四〕……一三九
○朝鮮總督臨時代理ニ關スル件〔昭和二、勅令八二〕……一三九
○朝鮮總督府部內臨時職員設置制〔大正九、勅令四九七〕……一三九
○朝鮮總督府ニ土地改良部設置及臨時職員增置ノ件〔昭和二、勅令一二七〕……一四〇
○朝鮮總督府中樞院官制〔明治四三、勅令三五五〕……一四〇
○朝鮮總督府遞信官署官制〔明治四五、勅令三〇〕……一四〇
○朝鮮總督府海員審判所官制〔大正三、勅令五〇〕……一四一
○朝鮮總督府鐵道局官制〔大正一四、勅令八四〕……一四一
○朝鮮總督府鐵道局鐵道醫及鐵道藥劑師ニ關スル件〔大正一五、勅令二二三〕……一四一
○朝鮮總督府鐵道局鐵道醫及鐵道藥劑師ノ加俸及定員ニ關スル件〔大正一五、朝令五八〕……一四二
○朝鮮總督府專賣局官制〔大正一〇、勅令五三〕……一四二
○朝鮮總督府稅關官制〔明治四三、勅令三六二〕……一四三
○朝鮮總督府營林署官制〔大正一五、勅令一六三〕……一四三
○朝鮮總督府醫院官制〔明治四三、勅令三六八〕……一四三
○朝鮮總督府濟生院官制〔明治四五、勅令四三〕……一四四
○朝鮮總督府感化院官制〔大正一二、勅令三八二〕……一四四
○朝鮮總督府警察官講習所官制〔大正八、勅令三八八〕……一四四
○朝鮮總督府中央試驗所官制〔明治四五、勅令三六〕……一四四
○朝鮮總督府勸業模範場官制〔明治四三、勅令三七〇〕……一四四
○朝鮮總督府林業試驗場官制〔大正一一、勅令三八七〕……一四四
○朝鮮總督府水產試驗場官制〔大正一〇、勅令二〇〇〕……一四五
○朝鮮總督府獸疫血淸製造所官制〔大正七、勅令三一〕……一四五
○朝鮮總督府地方官官制〔明治四三、勅令三五七〕……一四五
○朝鮮地方待遇職員令〔大正九、勅令五四一〕……一四七
○朝鮮地方待遇職員ノ加俸及定員ニ關スル件〔大正一一、朝令一三二〕……一四七
○朝鮮道立醫院官制〔大正一四、勅令八六〕……一四八
○道立醫院規程〔大正一四、朝令二九〕……一四八
○朝鮮總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件〔大正一一、勅令二三五〕……一四八
○朝鮮總督府裁判所職員定員令〔大正九、勅令五六七〕……一四九
○朝鮮總督府監獄官制〔明治四二、勅令二四三〕……一四九
○奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員定員〔大正一三、朝令八六〕……一四九
○朝鮮總督府供託局官制〔大正一一、勅令六九〕……一四九
○京城帝國大學官制〔大正一三、勅令一〇三〕……一四九
○朝鮮總督府諸學校官制〔大正一一、勅令一五一〕……一五〇
○朝鮮公立學校官制〔大正一一、勅令一五二〕……一五一
○朝鮮公立學校職員定員規程〔大正一一、朝令五四〕……一五一
○官、公立學校ノ囑託教員及講師ニ關スル件〔大正六、朝令四九〕……一五二
○朝鮮總督府圖書館官制〔大正一二、勅令四九三〕……一五二
○朝鮮史編修會官制〔大正一四、勅令二一八〕……一五二
○朝鮮總督府土木會議官制〔明治四三、勅令三七五〕……一五二
○朝鮮總督府林野調査委員會官制〔大正七、勅令一一〇〕……一五二
○朝鮮關稅訴願審査委員會官制〔明治四五、勅令八四〕……一五三
○公立學校職員恩給審査規程〔明治四五、朝令八三〕……一五三
○朝鮮人タル奏任官及判任官增置ニ關スル件〔明治四三、勅令三七四〕……一五三
○朝鮮總督府警務費俸給豫算定額內ニ於テ囑託醫設置〔明治四四、勅令一九一〕……一五三
○朝鮮總督府及所屬官署雇員規程〔大正一一、朝令一四一〕……一五三
○朝鮮總督府及所屬官署ノ囑託員ニ關スル件〔大正一一、朝令一四二〕……一五四
○地方文廟職員ニ關スル件〔大正一二、朝令六八〕……一五四
○朝鮮總督府ノ府尹郡守島司等ノ朝鮮煙草專賣令犯則處分ニ關スル職權ノ件〔大正一三、勅令一六〕……一五四

第十九款　臺灣總督府及其所管

○臺灣總督府官制〔明治三〇、勅令三六二〕……一五四
○臺灣總督府部內臨時職員設置制〔大正一三、勅令四二八〕……一五五
○臺灣總督府評議會官制〔大正一〇、勅令二四一〕……一五六
○臺灣總督府醫院官制〔明治三一、勅令一一一〕……一五六
○臺灣總督府結核療養所官制〔大正一四、勅令二一〕……一五六

○臺灣總督府感化院官制〔大正一一、勅令二三四〕……一五六
○臺灣總督府交通局官制〔大正一三、勅令四二九〕……一五六
○臺灣總督府官吏戰時事變ノ際臨時事務ニ從事者補闕ノ件〔明治三七、勅令一三五〕……一五七
○【臺灣總督府鐵道部】工場ニ於テ機械其ノ他ノ製作及修理ヲ引受ケ得ルノ件〔明治三九、勅令二二四〕……一五七
○臺灣總督府專賣局官制〔明治三四、勅令一一六〕……一五七
○臺灣總督府稅關官制〔明治三四、勅令四九〕……一五七
○臺灣總督府中央研究所官制〔大正一〇、勅令三六二〕……一五八
○臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制〔明治三一、勅令一一二〕……一五八
○臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニ巡査及看守ヲ置クヲ得ルノ件〔明治三二、勅令四〇〇〕……一五九
○臺灣總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件〔大正九、勅令五五三〕……一五九
○臺灣總督府法院職員定員令〔大正九、勅令五六八〕……一五九
○臺灣總督府供託局官制〔大正一一、勅令七一〕……一五九
○臺灣總督府監獄官制〔明治三三、勅令三五九〕……一五九
○臺灣總督府諸學校官制〔大正一一、勅令一五七〕……一六〇
○臺灣公立學校官制〔大正一一、勅令一五八〕……一六〇
○臺灣公立盲啞學校官制〔大正一一、勅令二二四〕……一六一
○臺灣公立幼稚園官制〔大正一二、勅令四九〕……一六一
○臺灣總督府圖書館官制〔大正三、勅令六二〕……一六一
○臺灣總督府地方官官制〔大正九、勅令二一八〕……一六一
○臺灣總督府廳管內ニ區ヲ置クノ件〔大正九、勅令三六一〕……一六三
○臺灣廳長取扱事項〔明治三六、臺令八二〕……一六三
○檢疫員及檢疫醫員ノ服務、任免及俸給等ニ關スル件〔大正一三、臺令九三〕……一六四
○臺灣地方待遇職員令〔大正一〇、勅令四〇六〕……一六四
○臺灣關稅訴願審査委員會規則〔明治三二、勅令三八七〕……一六四
○臺灣總督府ニ學校職員恩給審査委員設置〔大正一〇、勅令四五四〕……一六四
○臺灣中央衞生會規則〔明治三〇、臺令八〕……一六四
○官設埤圳補償審査委員會規則〔明治四二、臺令一二〕……一六五
○臺灣總督府河川調査委員會規則〔明治四五、臺令六九〕……一六五

第二十款　關東廳及其所管

○關東廳官制〔大正八、勅令九四〕……一六五
○關東廳部內臨時職員設置制〔大正九、勅令五〇一〕……一六六
○關東廳醫院官制〔明治四一、勅令二七一〕……一六六
○關東廳觀測所官制〔明治四一、勅令二七三〕……一六七
○關東廳遞信官署官制〔大正九、勅令五〇二〕……一六七
○關東廳海務局官制〔明治四一、勅令二七二〕……一六七
○關東廳監獄官制〔明治四一、勅令二七四〕……一六七
○關東廳中學校官制〔明治四二、勅令三六〕……一六八
○關東廳高等女學校官制〔明治四三、勅令一〇八〕……一六八
○旅順師範學堂官制〔大正七、勅令五一〕……一六八
○旅順工科大學官制〔大正一五、勅令一一九〕……一六八
○旅順工科大學商議員規則〔大正一二、關令三二〕……一六九
○關東州小學校官制〔明治四〇、勅令四九〕……一六九
○關東州公學堂官制〔明治四〇、勅令五〇〕……一六九
○關東州公立學校官制〔大正一五、勅令一九四〕……一六九
○關東州地方待遇職員令〔大正一三、勅令二四九〕……一六九
○關東廳體育研究所規程〔昭和二、關令一〇〕……一七〇
○關東廳農事試驗場規程〔明治三九、關令三〇〕……一七〇
○關東廳種畜場規程〔大正一五、關令二九〕……一七〇
○關東廳種馬所規程〔大正一五、關令一六〕……一七〇
○關東廳土地審査委員會規則〔大正三、勅令八九〕……一七〇
○關東廳土地審査委員會規則施行細則〔大正三、關令一五〕……一七一
○經濟調査會規則〔大正一一、關令八五〕……一七一
○建築技術者檢定委員會規則〔大正八、關廳令二二〕……一七一
○看護婦試驗委員規程〔大正九、關令六九〕……一七一
○關東廳補助會社團體監督規程〔大正一三、關令三〕……一七一

第二十一款　樺太廳及其所管

○樺太廳官制〔大正七、勅令一九八〕……一七二
○樺太廳部內臨時職員設置制〔大正九、勅令一三三〕……一七二
○樺太廳支廳長委任事項〔大正一二、樺令四四〕……一七三
○樺太廳支廳出張所長取扱事項〔大正一三、樺令四〇〕……一七三
○樺太廳醫院官制〔大正七、勅令一八八〕……一七四
○樺太廳觀測所官制〔大正七、勅令一八九〕……一七四
○樺太廳中學校官制〔明治四五、勅令八一〕……一七四
○樺太廳高等女學校官制〔大正五、勅令九三〕……一七四
○樺太公立高等女學校官制〔大正一三、勅令六六〕……一七四
○樺太公立高等女學校職員定員規程〔大正一三、樺令一三〕……一七四
○樺太廳農事試驗場官制〔大正七、勅令一九〇〕……一七五
○樺太廳水產試驗場官制〔大正七、勅令一九一〕……一七五
○樺太廳森林作業所官制〔大正一一、勅令二五一〕……一七五
○樺太廳郵便局官制〔明治四二、勅令一四八〕……一七五
○樺太廳鐵道事務所官制〔大正七、勅令一九九〕……一七五
○樺太廳臨時築港事務所官制〔大正七、勅令一七〕……一七六
○樺太町村吏員懲戒審査會規程〔大正一一、閣令七〕……一七六
○檢疫委員及豫防委員設置規程〔大正一四、樺令二四〕……一七六

第二十二款　南洋廳及其所管

○南洋廳官制〔大正一一、勅令一〇七〕……一七六
○南洋廳部內臨時職員設置制〔大正一一、勅令一〇八〕……一七七
○南洋廳醫院官制〔大正一一、勅令一一一〕……一七七
○南洋廳小學校官制〔大正一一、勅令一一三〕……一七七
○南洋廳公學校官制〔大正一一、勅令一一四〕……一七七
○南洋廳產業試驗場官制〔大正一一、勅令一一〇〕……一七七
○南洋廳採鑛所官制〔大正一一、勅令一〇九〕……一七八
○南洋廳郵便局官制〔大正一一、勅令一一二〕……一七八

第二十三款　會計檢査院

○會計檢査院法〔明治二二、法律一五〕……一七八

○會計檢査院事務章程〔明治三二、勅令四五七〕……一七九
○會計檢査院勅任檢査官及書記定員〔明治四三、勅令一一三〕……一八〇

第二十四款　行政裁判所

○行政裁判所令〔大正二、勅令一三三〕……一八〇
○行政裁判所評定官及書記員數及職務ノ件〔明治二三、勅令一一一〕……一八〇

第二十五款　貴族院事務局及衆議院事務局

○貴族院事務局官制〔明治二三、勅令一二一〕……一八一
○貴族院事務局技手設置〔明治三〇、勅令四一三〕……一八一
○衆議院事務局官制〔明治二三、勅令一二二〕……一八一
○衆議院事務局技手設置〔明治三〇、勅令四一四〕……一八一
○貴族院衆議院守衞定員及給與令〔明治四〇、勅令六二〕……一八一

第二十六款　廳府縣

○警視廳官制〔大正二、勅令一四九〕……一八一
○北海道廳官制〔大正二、勅令一五〇〕……一八三
○北海道廳支廳名稱位置及管轄區域〔明治三〇、勅令三九五〕……一八四
○拓殖及森林事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時職員增置等ノ件〔大正六、勅令二二一〕……一八五
○北海道廳事業手設置〔明治三〇、勅令一三三〕……一八五
○地方官官制〔大正一五、勅令一四七〕……一八五
○沖繩縣郡編制〔明治二九、勅令一三〕……一八七
○警察官吏職務應援ニ關スル件〔明治四三、勅令四二七〕……一八七
○內地及樺太ニ於テ警察事務ヲ取扱フ官廳間ノ警察官吏職務應援ニ關スル件〔大正一四、勅令二五八〕……一八七
○海港檢疫並輸入獸類檢疫及檢査上管轄外ニ於ケル地方長官ノ職權ニ關スル件〔明治四〇、勅令一〇〇〕……一八七
○地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件〔明治二三、勅令八八〕……一八七
○社寺取扱方府縣ヘ委任事項〔明治一八、內達甲一六〕……一八七
○府縣事務中稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ條件〔明治一九、內令一〕……一八八
○東京府小笠原島水產事務ニ關スル臨時職員設置〔明治三九、勅令一〇六〕……一八八
○震災地警備ノ事務ニ從事セシムル爲臨時職員設置〔大正一二、勅令四一三〕……一八八
○京都府臨時職員設置ニ關スル件〔昭和二、勅令一〇一〕……一八八
○廳府縣巡査定員令〔大正一五、勅令一四一〕……一八八
○特設消防署規程〔大正八、勅令三五〇〕……一八八
○臨時海港檢疫所官制〔明治三三、勅令七五〕……一八九
○道路管理職員制〔大正九、勅令二四五〕……一八九
○地方土木職員制〔大正九、勅令二四六〕……一八九
○地方產業職員制〔大正一四、勅令四三〕……一八九
○地方測候所職員制〔大正九、勅令五七〇〕……一九〇
○地方學校衞生職員制〔大正一三、勅令一四八〕……一九〇
○地方社會教育職員制〔大正一四、勅令三二四〕……一九〇
○地方社會事業職員制〔大正一四、勅令三二三〕……一九〇
○廳府縣衞生職員制〔大正一〇、勅令四三五〕……一九〇
○癩療養所職員制〔大正一〇、勅令一五二〕……一九一
○家畜防疫職員制〔大正一五、勅令一三二〕……一九一
○地方待遇職員令〔大正九、勅令二四八〕……一九一
○道府縣立感化院職員令〔大正九、勅令一八一〕……一九二
○公立學校職員制〔大正六、勅令五〕……一九三
○公立圖書館職員令〔大正一〇、勅令三三六〕……一九四
○實業補習學校教員養成所令　大正九、勅令五二一〕……一九五

第二十七款　雜

○市町村立小學校教員恩給審査規程〔大正一〇、勅令一〇九〕……一九五
○北海道廳府縣恩給顧問醫醫術上事項審査ノ件〔明治三三、勅令二六九〕……一九五
○行政廳ヲシテ委囑ニ依リ（恩賜財團）濟生會ノ事務ヲ施行セシムルノ件〔大正三、勅令一八〕……一九五

第二章　官等等級及俸給

第一款　通則

○高等官官等俸給令〔明治四三、勅令一三四〕……一九五
○初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ニ關スル件〔明治三六、勅令二八五〕……二一一
○宮內高等官ヨリ高等文官ニ任用セラルル者ニ關スル件〔明治四一、勅令一八二〕……二一一
○判任官俸給令〔明治四三、勅令一三五〕……二一一
○文武判任官等級令〔明治四三、勅令二六七〕……二一二
○文官俸給支給細則〔明治二五、大令一一〕……二一二
○敎官及技術官ノ俸給ニ關スル件〔大正九、勅令二六二〕……二一三
○朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令〔明治四三、勅令一三七〕……二一三
○外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時增給ニ關スル件〔大正一四、勅令四五〕……二一三
○月俸七十五圓未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件〔明治四〇、勅令二四四〕……二一三
○巡査、看守、女監取締、憲兵上等兵、陸軍警査、海軍警査、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、貴族院守衞、衆議院守衞及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ待遇相當等級ニ關スル件〔大正一一、勅令三一五〕……二一三
○文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給ニ關スル件〔明治三七、勅令二〇六〕……二一三
○陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給支給方〔明治三三、勅令一三二〕……二一三
○准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル諸給與及納金計算方〔明治三三、勅令二七三〕……二一四
○朝鮮臺灣關東州ニ於ケル官立公立學校敎官ニシテ一年現役ニ服スル者ノ給與ニ關スル件〔大正一〇、勅令八九〕……二一四
○傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手當支給方〔明治二六、勅令七〕……二一四
○各廳雇等日給ノ者休暇日ニモ給額支給〔明治八、達一一四〕……二一四

第二款　宮內省

○宮內官官等俸給令〔大正一〇、皇室令一八〕……二一四
○初敍官等ノ制限ヲ受ケサル宮內高等官他ノ宮內高等官トナリ又ハ初敍官等ノ制限ヲ受ケサ

ル高等文官初敍官等ノ制限ヲ受クル宮内高等官トナル場合ノ官等ニ關スル件（大正二、皇室令五）……二一八
○宮内判任官等級令（大正一〇、宮令一六）……二一八

第三款　外務省

○在外公館費用條例（明治二六、勅令一七一）……二一九
○在外公館費用條例施行細則（大正一四、外令三）……二二四
○特命外交官ニシテ他ノ外交官ヲ兼ヌル者ノ俸給ニ關スル件（大正五、勅令一七五）……二二四
○大使館通譯官ニ關スル件（明治三八、勅令二四九）……二二四
○公使館一等通譯官公使館二等通譯官及外務通譯生ノ在勤俸加俸旅費等ニ關スル件（大正七、勅令二二六）……二二四
○外務省警視ノ在勤俸及加俸ニ關スル件（大正七、勅令一九三）……二二四
○外國在勤警部巡查任用及支給規則（第四章第三款ニ收ム）
○外國在勤警部巡查任用及支給規則施行細則（第四章第三款ニ收ム）

第四款　內務省

○國際勞働機關帝國事務所職員給與令（昭和二、勅令二〇六）……二二四
○神宮司廳職員官等俸給令（大正一〇、勅令四六九）……二二四
○神宮大宮司及小宮司ノ初敍及陞敍ノ官等ニ關スル件（明治三五、勅令三一）……二二五
○神宮司廳職員及神宮皇學館職員ノ支給俸給額ニ關スル件（大正一〇、內令二六）……二二五
○奏任及判任待遇神宮職員俸給規則（大正一〇、內令二八）……二二五
○明治神宮外苑管理署職員俸給規則（大正一五、內令五〇）……二二六

第五款　陸軍省

○陸軍武官官等表（明治三五、勅令一一）……二二六
○陸軍兵卒等級表（明治四〇、軍令陸五）……二二七
○陸軍給與令（明治三二、勅令二二二）……二二八
○樺太ニ在勤スル陸軍現役將校ノ給與ニ關スル件（大正一四、勅令三一八）……二三四
○在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令（明治二六、勅令二一二）……二三四
○在外國公使館附陸軍武官ノ在勤俸ニ關スル件（大正五、勅令一六九）……二三四
○外國駐在陸軍武官給與令（明治三〇、勅令二一六）……二三四
○外國駐箚陸軍武官在勤俸ニ關スル件（明治三六、勅令二〇三）……二三五
○陸軍戰時給與規則（明治二七、勅令一三三）……二三五
○陸軍軍人軍屬ノ戰時增給等ニ關スル件（大正七、勅令三九四）……二三六
○國民軍ノ給與ニ關スル件（明治三七、勅令二一六）……二三六
○陸軍軍人軍艦若クハ水雷艇ニ乘組ムトキ航海加俸給與（明治二八、勅令五八）……二三六
○航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル軍人軍屬ニ航空加俸給與ノ件（大正九、勅令二七九）……二三七
○朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令（明治三九、勅令二七九）……二三七
○臺灣駐箚陸軍部隊給與規則（明治二九、勅令七〇）……二三八
○支那駐箚陸軍部隊給與令（明治三五、勅令三）……二三八
○臺灣及澎湖島竝海外駐箚陸軍各部隊所屬陸軍下士判任文官定員補缺雇員給料支辨ノ件（明治二九、勅令二四八）……二三九
○陸海軍所屬待遇官吏俸給令（大正一一、勅令九六）……二四〇

第六款　海軍省

○海軍武官官階（大正九、勅令一〇）……二四〇
○海軍兵職階（大正九、勅令一一）……二四一
○海軍給與令（明治三七、勅令六）……二四一
○海軍戰時給與規則（明治二七、勅令一三六）……二五〇
○海軍軍人軍屬ノ戰時增給等ニ關スル件（大正七、勅令三九五）……二五一
○支那騷亂地方ニ在ル海軍軍人軍屬ニ增給ノ件（昭和二、勅令三二）……二五一

第七款　司法省

○司法官試補及朝鮮總督府司法官試補ニ關スル件（大正九、勅令五六九）……二五二
○司法官試補有給者兵役服役中俸給支給セス（大正五、司令七）……二五二
○保健技師、保健技手、敎誨師、敎師、作業技師及作業技手ノ官等等級配當ノ件（大正七、勅令三四七）……二五二
○奏任及判任待遇監獄職員給與令（大正一一、勅令四三八）……二五二
○矯正院補導給與令（大正一一、勅令四九一）……二五三
○矯正院補導ノ等級配當ニ關スル件（大正一一、勅令四九二）……二五三
○辯護士タル者ヲ判事檢事ニ任用スル場合ニ於ケル官等ニ關スル件（大正九、勅令一五八）……二五三

第八款　文部省

○帝國大學高等官官等俸給令（明治三〇、勅令二一二）……二五三
○官立大學敎官ノ職務俸ニ關スル件（大正一二、勅令三九二）……二五四
○帝國大學、官立大學又ハ文部省直轄諸學校高等官ノ官等ニ關スル件（明治四〇、勅令二五二）……二五四

第九款　遞信省

○兼任海員審判所高等官ノ官等ニ關スル件（明治三九、勅令三二二）……二五四
○地方遞信官署官制ニ依ル官ニ付定メタル勅令ノ規定ニ關スル件（大正一三、勅令二七七）……二五四

第十款　朝鮮總督府

○朝鮮總督府及所屬官署職員ノ加俸ニ關スル件（大正二、朝令三六）……二五四
○京城帝國大學高等官俸給令（大正一五、勅令五一）……二五五
○司法官試補及朝鮮總督府司法官試補ニ關スル件（本章第七款ニ收ム）
○朝鮮總督府保健技師、保健技手、敎誨師、敎師、作業技手及藥劑師ノ官等等級配當ノ件（大正八、勅令二一三）……二五五
○奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員給與令（明治四二、勅令二五一）……二五五
○朝鮮地方待遇職員令ニ依ル判任官待遇職員ノ待遇相當等級ニ關スル件（大正一〇、朝令一〇）……二五六
○朝鮮總督府巡查ノ給與ニ關スル件（大正一四、勅令三〇三）……二五六
○大正十四年勅令第三百三號施行ニ關スル件（大正一四、朝令一〇三）……二五六
○消防手給與規則（大正一一、朝令六七）……二五六
○公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一年現役ニ服スル者ノ俸給補助ニ關スル件（大正一二、朝令八六）……二五六

第十一款　臺灣總督府

○臺灣總督府保健技師、保健技手、敎誨師、敎師及作業技手ノ官等等級配當ニ關スル件（大正一二、勅令四九七）……二五六
○臺灣總督府監獄待遇職員給與令（大正一二、勅令四九八）……二五七
○臺灣總督府警察醫官等等級給與令（大正一四、勅令一一九）……二五七
○臺灣總督府巡查ノ給與ニ關スル件（大正六、勅令二三五）……二五七
○臺灣總督府警察官及司獄官練習生ノ俸給ニ關スル件（明治三二、勅令四〇一）……二五八
○待遇職員俸給支給規則（大正一三、台令三五）……二五八
○臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導俸給規則（明治三九、臺令一〇）……二五八
○臺灣公立幼稚園保姆ノ俸給ニ關スル件（大正一二、臺令三七）……二五八
○臺灣廳地方費吏員俸給支給規則（大正一五、臺令四八）……二五九
○街庄長及助役俸給支給規則（大正九、臺令一一三）……二五九
○州市街庄吏員俸給支給規則（大正九、臺令一一四）……二五九

第十二款　關東廳

○關東廳保健技師、保健技手及敎誨師ノ官等等級配當ノ件（大正一二、勅令二九二）……二五九
○關東廳警部補ノ給與ニ關スル件（大正九、勅令二八一）……二六〇

第十三款　樺太廳

○樺太公立小學校職員俸給及諸給與規程（大正一一、樺令三四）……二六〇
○町村長ノ給料額及其ノ支給規程（大正一一、樺令二二）……二六〇

第十四款　南洋廳

○南洋廳警部補給與令（大正一一、勅令一二二）……二六一

第十五款　貴族院事務局及衆議院事務局

○貴族院衆議院守衛定員及給與令（第一章第二十五款ニ收ム）

第十六款　廳府縣

○府縣知事加俸ニ關スル件（大正九、勅令二六三）……二六一
○警部補ノ俸給及給與ニ關スル件（明治四三、勅令一七）……二六一
○巡查給與令（明治三九、勅令二五九）……二六一
○巡查俸給支給規則（大正元、內令一三）……二六二
○消防手給與規則（大正七、內令二）……二六二
○公立學校職員待遇官等等級令（大正六、勅令七）……二六二
○公立大學職員俸給令（大正八、勅令三七八）……二六三
○公立學校職員俸給令（明治三六、勅令六六）……二六四
○公立學校職員年功加俸令（大正九、勅令五一九）……二六五
○公立學校職員年功加俸國庫補助法（大正九、法律三二）……二六六
○道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件（大正一二、勅令四三〇）……二六六
○師範學校長勤續加俸令（大正九、勅令五二〇）……二六六
○市町村立小學校敎員俸給ニ關スル件（明治三〇、勅令二二）……二六六
○市町村立小學校敎員加俸令（明治三三、勅令一三三）……二六七
○市町村立小學校敎員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件（大正八、勅令三四〇）……二六七
○一年現役小學校敎員俸給費國庫負擔法（大正一〇、法律一七）……二六七
○一年現役小學校敎員俸給費國庫負擔法施行ニ關スル規程（大正一〇、文訓一〇）……二六七

第三章　諸給

第一款　手當

○勤勉手當給與令（大正九、勅令五四五）……二六八
○交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件（大正九、勅令四〇五）……二六九
○朝鮮陸接國境地方在勤官吏、官吏待遇者、憲兵補等ノ臨時特別手當給與ニ關スル件（大正一〇、勅令六二）……二六九
○三等郵便局長等ノ給與ニ關スル件（大正九、勅令四八三）……二六九
○海外在勤外交官領事官等戰時事變ノ際臨時手當給與ノ件（明治三一、勅令一七七）……二七〇
○帝國領事館附防疫官手當給與令（大正一〇、勅令四二）……二七〇
○帝國領事館附防疫官在勤手當支給細則（大正一〇、內令九）……二七〇
○海外駐箚財務官ノ經費ニ關スル件（明治四三、勅令二三八）……二七〇
○海外駐箚財務官經費支給規程（明治四三、大令二八）……二七〇
○島嶼在勤者月手當給與細則（大正一〇、大令八）……二七〇
○租稅ニ關スル委員、其ノ選擧會立會人又ハ選擧立會人及織物鑑定人ノ手當旅費支給方竝織物消費稅法ニ依ル異議申立人ノ負擔費用（大正二、大令二五）……二七一
○所得調查委員又ハ所得審查委員戰時利得ノ調查又ハ審查ニ從事シタル場合ノ手當及旅費支給方（大正七、大令二九）……二七一
○宅地賃貸價格調查委員手當及旅費支給規程（明治四三、大令三四）……二七一
○北海道地價調查ニ關スル委員ノ手當旅費竝其ノ選擧立會人ノ日當支給方（大正七、大令二四）……二七二
○煙草專賣法及鹽專賣法施行細則ニ依リ選定スル鑑定人ニ支給スヘキ手當旅費及異議申立人ノ負擔スヘキ費用（大正九、大令四六）……二七二
○製鹽地整理ニ關スル鑑定人ノ手當及旅費（明治四三、大令三六）……二七二
○化學兵器手當給與ノ件（大正一四、勅令三一

四）……二七二
○政府ヨリ恩給ヲ受クル者召集中手當支給ノ件（明治三八、勅令一七九）……二七三
○政府ヨリ恩給ヲ受クル者陸軍ニ召集中手當支給方（明治三八、陸令一一）……二七三
○戰時ニ際シ陸軍准士官以上及軍屬乘組船舶破壞又ハ沈沒ノ爲メ被服裝具亡失ノトキ手當支給ノ件（明治三七、勅令一七五）……二七三
○豫備役後備役各兵科尉官及各部士官ニ服裝手當支給ノ件（明治三三、勅令三五〇）……二七三
○僻地在勤者手當支給細則（大正一〇、司令九）……二七三
○官立醫科大學附屬專門部敎官ニシテ官立醫科大學附屬醫院ノ醫員ヲ命セラレタル者ニ手當給與ノ件（大正一一、勅令一四六）……二七四
○氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則（大正一〇、文令三一）……二七四
○在支那帝國領事館附氣象臺職員手當支給規程（大正一一、文令二五）……二七四
○支那駐在製鐵所官吏給與ニ關スル件（大正一一、勅令二六九）……二七五
○支那駐在製鐵所官吏給與細則（明治三六、農令二）……二七五
○船舶內設置ノ郵便、電信及電話官署在勤職員手當給與ノ件（明治四二、勅令二一五）……二七五
○在外國電信局職員手當給與規則（明治三四、勅令二二）……二七五
○在外國電信局職員手當給與細則（明治三四、遞令一九）……二七六
○帝國領事館附遞信局職員ニ手當給與ノ件（大正一〇、勅令三二〇）……二七七
○帝國領事館附遞信局職員手當給與額（大正一〇、遞令三四）……二七七
○三等郵便局長、三等電信局長手當金支給方（明治三六、遞令一四）……二七七
○在外國航路標識在勤官吏手當給與ノ件（明治三九、勅令一）……二七七
○在外國航路標識在勤官吏手當給與細則（明治三九、遞令一）……二七七
○戰時事變ニ際シ之ニ起因スル電線工事ノ從事者ニ手當給與ノ件（明治三七、勅令一九六）……二七八
○朝鮮、臺灣ニ於ケル官立、公立ノ學校、樺太廳中學校、同高等女學校又ハ南洋廳公學校ノ敎員ニシテ舍監事務ニ從事スル者ノ手當給與ニ關スル件（大正一一、勅令三七九）……二七八
○朝鮮總督府職員ノ交際手當ニ關スル件（明治四三、勅令三八五）……二七八
○朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ朝鮮語獎勵手當ニ關スル件（大正一〇、勅令三四）……二七八
○朝鮮總督府郵便所長手當金年額（大正九、朝令一五三）……二七八
○檢疫委員及獸疫檢疫委員手當及旅費支給規程（大正一一、朝令一三一）……二七八
○官公立學校ノ敎諭ニシテ舍監事務ニ從事スル者及公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一週三十二時ヲ超エ敎授ヲ擔任スル者ニ給スヘキ手當ノ額及支給方法ニ關スル件（大正一三、朝令六八）……二七九
○臺灣總督府部內ノ判任文官通譯兼掌者特別手當支給ノ件（明治三一、勅令六八）……二七九
○臺灣總督府部內ノ職員ニシテ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル者ニ航空手當ヲ給スルノ件（大正一二、勅令三八）……二七九
○臺灣總督府警察官及司獄官練習生手當及旅費支給ノ件（明治三一、勅令一一八）……二七九
○交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル臺灣總督府交通局電信局、燈臺職員手當給與細則（大正一〇、臺令九七）……二七九
○州市街庄名譽職員費用辨償支給規程（大正九、臺令一四二）……二八〇
○船舶內設置ノ無線電信局在勤關東廳遞信官署職員ニ手當給與ノ件（明治四五、勅令七五）……二八〇
○關東廳郵便所長手當金年額（明治四三、關令一五）……二八〇
○樺太廳巡査ノ在勤手當、給與品及貸與品ニ關スル件（明治四〇、勅令一二四）……二八〇
○樺太廳特定郵便局長年手當金額（大正九、樺令四二）……二八〇
○所得調査委員手當及旅費支給規程（大正一一、樺令四三）……二八一
○南洋廳所屬船舶乘組員ノ手當給與ニ關スル件（大正一一、勅令一二六）……二八一
○貴族院及衆議院ノ議事速記ニ從事スル職員ニ特別手當ヲ給スルコトヲ得ルノ件（大正一二、勅令六一）……二八一
○島嶼其他在勤者手當支給細則（大正一〇、內令一〇）……二八一
○傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員月手當支給ノ件（明治二八、勅令七一）……二八二

第二款　諸給

○宿直又ハ徹夜勤務者食料給與及特別用文具使用ノ件（明治二四、勅令二七）……二八二
○俘虜及拿捕船舶ノ乘員竝之ニ準スヘキ者ノ給與ニ關スル件（明治三七、勅令五〇）……二八二
○戰役中陸軍部隊ノ賄料增加ノ件（大正七、勅令三一二）……二八二
○陸軍監獄看守宿料給與ノ件（明治三一、勅令一三〇）……二八二
○戰役中諸學校校馬馬糧增加ノ件（明治三八、勅令四七）……二八二
○看守給與品及貸與品規則（明治三一、勅令三三二）……二八二
○製鐵所所屬農林省所屬竝水產講習所所屬船舶乘組員ニ食卓料及航海日當支給ノ件（明治四〇、勅令一一五）……二八三
○【農商務省】製鐵所又ハ水產講習所所屬船舶ノ乘組員ニ食卓料及航海日當臨時增給ノ件（大正七、勅令三三三）……二八三
○航路標識視察船及海底電線布設船乘組員食卓料及航海日當支給ノ件（明治三一、勅令一）……二八三
○航路標識視察船及海底電線布設船乘組員ニ食卓料及航海日當臨時增給ノ件（大正七、勅令三三四）……二八三
○官設鐵道職員ニ宿舍料支給ノ件（明治三九、勅令二九四）……二八三
○朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍料ニ關スル件（明治四三、勅令三九二）……二八三
○朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶乘組員ニ食卓料支給ノ件（大正三、勅令八〇）……二八三
○朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶ノ乘組員ニ支給スル食卓料臨時增給ニ關スル件（大正八、勅令一六九）……二八四
○朝鮮總督府看守朝鮮總督府女監取締給與品及貸與品規則（明治四二、統令五三）……二八四
○朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査給與品及貸與品規則（明治四四、朝令八）……二八四

○朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則（大正一二、朝令三一）……二八五
○臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則（明治三一、臺令六五）……二八六
○臺灣總督府州、廳警部補ニ被服支給ノ件（大正一一、臺令一一三）……二八六
○臺灣廳地方費吏員宿舍料支給規則（大正一五、臺令四七）……二八六
○州市有給吏員宿舍料支給規則（大正一〇、臺令一〇八）……二八六
○關東廳職員宿舍料ノ件（明治三九、勅令二四一）……二八六
○樺太廳及所屬官署職員ノ宿舍料ニ關スル件（大正七、勅令一九三）……二八六
○貴族院又ハ衆議院ノ守衞長又ハ守衞副長ニ宿舍料ヲ給スルコトヲ得ルノ件（大正一〇、勅令三）……二八七
○北海道廳森林主事給與品及貸付品規則（大正七、勅令二八一）……二八七
○北海道廳河川監守給與品及貸付品規則（大正一二、勅令三三六）……二八七
○巡査給與品及貸與品規則（明治三〇、勅令三三九）……二八七
○巡査給與品及貸與品規則ヲ警部補ニ準用ノ件（明治四三、勅令二一）……二八八

第三款　旅費及歲費

○內國旅費規則（明治四三、勅令二七四）……二八八
○內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃及船賃（大正九、大令一六）……二九〇
○外國旅費規則（大正一〇、勅令四〇一）……二九〇
○外國旅費規則施行細則（大正一〇、大令三一）……二九二
○南洋群島關東州南滿洲旅費規則（大正一〇、勅令四〇二）……二九二
○南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則（大正一〇、大令三二）……二九五
○諸調査會等ノ職員旅費支給規則（大正一〇、勅令一三）……二九五
○大喪使旅費規程（昭和二、大令一）……二九五
○人違又ハ人名誤寫等ニテ呼出シタル者ニ旅費日當支給方（明治九、布告六三）……二九六
○宮內官內國旅費令（明治四三、皇室令一三）……二九六
○宮內官內國旅費令施行規則（明治四三、宮令五）……二九七
○宮內官朝鮮臺灣樺太及千島國旅費規則（大正九、宮令一五）……二九八
○外國ニ出張ヲ命セラレタル者ノ渡切旅費ニ關スル件（大正一二、皇室令一二）……二九八
○宮內省外國旅費臨時增賜等ノ件（大正九、宮令六）……二九八
○在外公館職員等ニ支給スル旅費ノ特例（大正一四、外令二）……二九九
○外務省警視、警部、警部補、巡査及巡査ニ代用スル傭員ニ支給スル旅費ノ特例（大正一三、外令七）……三〇〇
○外務省待遇官吏以下外國旅費規則（大正一三、外令二）……三〇一
○外務省待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則（大正一三、外令三）……三〇二
○大藏省所管旅費支給規則（明治四三、大令三三）……三〇三
○大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮臺灣及樺太內旅費支給規則（明治四三、大令三五）……三〇四
○大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則（大正一二、大令一）……三〇四
○大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則（大正一二、大令二）……三〇五
○陸軍旅費規則（明治四三、陸令六）……三〇六
○朝鮮又ハ支那駐箚ノ諸部隊附ト爲リ內地又ハ臺灣ヨリ赴任スル者支度料支給方（大正四、陸令二）……三一八
○海軍內國旅費規則（明治三一、海令二）……三一八
○海軍內國旅費規則ノ鐵道賃及船賃支給方（大正九、海令一八）……三二三
○海軍外國旅費規則（大正一一、海令一）……三二三
○海軍南洋群島關東州南滿洲旅費規則（大正一一、海令二）……三二五
○鐵道省所管內國旅費規程（大正一〇、鐵令四）……三二七
○鐵道會議議長議員及臨時議員旅費規則（大正一〇、勅令一四）……三三一
○朝鮮總督府旅費規則（明治四三、朝令二四）……三三一
○朝鮮總督府及所屬官署職員旅費臨時增給ニ關スル件（大正七、朝令八八）……三三三
○朝鮮總督府鐵道局職員旅費規則（大正一四、朝令五四）……三三三
○朝鮮總督府警察官旅費規則（大正九、朝令一八七）……三三五
○朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員及傭人外國旅費規程（大正一二、朝令二〇）……三三五
○朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員及傭人南洋群島關東州南滿洲旅費規程（大正一二、朝令二一）……三三六
○土木會議委員旅費支給ノ件（大正一〇、朝令五六）……三三七
○朝鮮林野調査令第十二條ニ依リ召喚スル利害關係人、證人、鑑定人ノ旅費及鑑定人ノ手當支給方（大正八、朝令一九五）……三三八
○臺灣總督府職員旅費規則（大正九、臺令四四）……三三八
○臺灣總督府交通局鐵道職員旅費規則（大正九、臺令一七六）……三三九
○臺灣總督府警察官吏旅費規則（大正九、臺令一八五）……三四〇
○地方職員旅費支給規程（大正一四、臺令八〇）……三四一
○市職員旅費支給規程（大正一五、臺令八一）……三四二
○街庄職員旅費支給規程（大正一五、臺令八二）……三四二
○關東廳判任官以上ノ待遇ヲ受クル者及囑託員以下內國旅費規則（大正一一、關令三一）……三四三
○關東廳判任官以上ノ待遇ヲ受クル者及囑託員以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則（大正一一、關令三二）……三四三
○關東廳判任官以上ノ待遇ヲ受クル者及囑託員以下外國旅費規則（大正一一、關令三三）……三四三
○有給町村長ノ旅費額及其ノ支給規程（大正一一、樺令九）……三四四
○警察官吏內國旅費規則（大正九、內訓二五）……三四五
○帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則（明治二三、勅令二六三）……三四六
○市制町村制ニ依ル懲戒審査會及鑑定人ノ費用負擔ニ關スル件（明治四四、勅令二九三）……三四六
○徵兵旅費規則（大正九、內令三八）……三四七
○徵兵旅費支給規則（大正一一、臺令二六）……三四七
○樺太徵兵旅費規則（大正一五、閣令一）……三四九

第四章　任用及採用

第一款　通則

○文官任用令（大正二、勅令二六一）……三四九
○奏任文官特別任用令（大正九、勅令一六〇）……三四九
○判任文官特別任用令（大正九、勅令三五七）……三五〇
○陸軍准士官下士チ判任文官ニ任用ノ件（大正一一、勅令四三一）……三五一
○海軍准士官及下士官チ判任文官ニ任用ノ件（大正一一、勅令四三二）……三五一
○任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定チ適用セサル文官ニ關スル件（大正二、勅令二六二）……三五一
○文官試補及見習ニ關スル件（明治四三、勅令二七五）……三五一
○警視廳、北海道廳、府縣、監獄、稅務監督局、稅務署及專賣局判任官中月俸四十圓未滿ノ者特別任用ニ關スル件（明治四三、勅令二一七）……三五一

第二款　宮內省

○宮內官任用令（大正一〇、皇室令一九）……三五二

第三款　外務省

○外交官領事官及書記生任用令（明治二六、勅令一八七）……三五二
○外交官領事官及貿易事務官特別任用ニ關スル件（明治三〇、勅令二九〇）……三五三
○通譯官チ外交官又ハ領事官ニ任用ノ件（明治二九、勅令一八二）……三五三
○通譯官及通譯生任用ノ件（明治二八、勅令八六）……三五三
○大使館商務書記官、公使館商務書記官又ハ主トシテ商務ニ從事スル奏任總領事、領事若ハ副領事ノ任用ニ關スル件（大正一四、勅令一〇二）……三五三
○大使館理事官、公使館理事官、副領事、貿易事務官等ノ特別任用ニ關スル件（大正一〇、勅令三九一）……三五三
○領事官及外務書記生ノ特別任用ニ關スル件（大正一二、勅令三八七）……三五四
○滿洲ニ於ケル領事館職員ノ特別任用ニ關スル件（大正六、勅令八八）……三五四
○朝鮮人ノ多數在留スル地方チ管轄スル領事館職員ノ特別任用ニ關スル件（大正一〇、勅令五）……三五四
○外國在勤警部巡査任用及支給規則（明治二五、勅令一四）……三五四
○外國在勤警部巡査任用及支給規則施行細則（明治二九、外令六）……三五四
○外國在勤巡査採用規則（大正四、外令二）……三五五

第四款　內務省

○健康保險署書記補特別任用規則（大正一五、內令四一）……三五五

第五款　大藏省

○稅關港務官及稅關港吏特別任用令（大正一三、勅令四〇五）……三五六
○稅關監吏特別任用規程（大正一一、大令六〇）……三五六

第六款　陸軍省及海軍省

○陸海軍將校相當官交互轉任ニ關スル件（明治二六、勅令五〇）……三五六
○陸軍司法事務官及海軍司法事務官特別任用令（大正一一、勅令九七）……三五六
○陸軍法務官及海軍法務官任用令（大正一一、勅令九八）……三五七
○陸海軍監獄官特別任用令（大正一一、勅令九九）……三五七
○陸軍修事任用令（明治二九、勅令二九五）……三五七
○陸地測量官任用規則（明治二二、勅令三五）……三五七
○陸軍監獄看守採用規則（明治二七、陸令三）……三五八
○陸軍【警守】採用規程（明治三五、陸令一一）……三五八
○衞戍病院齒科醫採用規則（大正八、陸令一六）……三五八
○看護婦長及看護婦採用規則（大正一二、陸令二八）……三五九
○衞生部員代用員採用規則（大正一〇、陸令二〇）……三五九
○憲兵隊就職志願者タル豫備役後備役憲兵下士上等兵採用規程（明治四五、陸令四）……三六〇
○陸軍測數手採用規則（大正一〇、陸令一五）……三六〇
○朝鮮軍人チ陸軍將校同相當官ニ任用等ニ關スル件（大正九、朝令一一八）……三六〇
○海軍武官任用令（大正七、勅令三六五）……三六二
○海軍軍醫中尉海軍軍醫少尉海軍藥劑中尉海軍藥劑少尉任用規則（大正八、海令三）……三六三
○海軍主計中尉海軍主計少尉任用海軍主計少尉候補生採用規則（大正八、海令四）……三六四
○海軍造船中尉海軍造機中尉海軍造兵中尉任用海軍造船少尉候補生海軍造機少尉候補生海軍造兵少尉候補生採用規則（大正一〇、海令二一）……三六五
○海軍錄事特別任用令（明治四一、勅令二六〇）……三六五

第七款　司法省

○看守採用規則（明治二六、內訓二六）……三六六

第八款　文部省

○文部省督學官任用ノ件（大正二、勅令二三五）……三六六
○帝國大學事務官、官立大學事務官、帝國大學司書官及帝國大學司書特別任用令（明治四一、勅令一五四）……三六六
○帝國大學學生監特別任用ノ件（明治四〇、勅令二七九）……三六七
○帝國圖書館長司書官及司書任用ノ件（明治三三、勅令三三八）……三六七
○官立公立學校又ハ圖書館職員ト教官其他教育事務ニ從事スル文官相互間轉任ニ關スル件（明治三二、勅令四五六）……三六七

第九款　農林省

○產業組合事務官ノ特別任用ニ關スル件（大正一四、勅令一八二）……三六七
○森林主事特別任用規則（明治三六、農令一三）……三六七

第十款　遞信省

○遞信局及通信官署ノ職員ノ特別任用ニ關スル件（大正一三、勅令二七八）……三六八
○三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件（大正九、勅令三五八）……三六八
○三等郵便局長三等電信局長採用規則（大正五、遞令一七）……三六八
○通信手銓衡規程（大正六、遞令四六）……三六八

第十一款　鐵道省

○鐵道省官制及鐵道局官制施行ノ際ニ於ケル鐵道省及鐵道局職員ノ任用等ニ關スル件（大正九、勅令一六一）……三六九

第十二款　朝鮮總督府

○朝鮮總督府事務官及臺灣總督府地方理事官等ノ特別任用ニ關スル件（大正一〇、勅令二六）……三六九
○朝鮮總督府圖書館長及臺灣總督府圖書館長特別任用ニ關スル件（大正五、勅令一三四）……三六九
○朝鮮總督府視學官特別任用令（明治四四、勅令一三八）……三六九
○京城帝國大學事務官、京城帝國大學司書官及京城帝國大學司書特別任用令（大正一五、勅令五三）……三六九
○朝鮮總督府事務官ノ特別任用ニ關スル件（大正元、勅令四八）……三六九
○朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令（大正一四、勅令一〇三）……三七〇
○朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令ノ規定ニ依リ朝鮮總督府鐵道局ノ參事又ハ副參事ニ任用セラルル者ノ官等等ニ關スル件（大正一四、勅令九六）……三七〇
○朝鮮總督府鐵道局鐵道手任用及給與規程（大正一四、朝令一〇〇）……三七〇
○國境ニ於ケル朝鮮總督府稅關出張所在勤ノ監視監吏ノ特別任用ニ關スル件（大正二、勅令一九）……三七〇
○朝鮮總督府稅關監吏ノ特別任用ニ關スル件（大正一一、朝令一〇七）……三七〇
○朝鮮總督府判事及檢事ノ任用ニ關スル件（明治四三、制令六）……三七一
○朝鮮總督府判事ノ特別任用ニ關スル件（大正九、制令一二）……三七一
○朝鮮總督府營林署森林主事特別任用規程（大正八、朝令一一八）……三七一
○朝鮮總督府郵便所長任用規則（明治四三、朝令三二）……三七一
○朝鮮總督府看守採用規則（明治四四、朝令五八）……三七二
○朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査採用規則（大正一四、朝令一〇四）……三七二
○消防手採用規則（大正一一、朝令六八）……三七三
○朝鮮人タル官吏ノ特別任用ニ關スル件（明治四三、勅令三九六）……三七三
○朝鮮人ノ判任文官見習ニ關スル件（大正元、勅令五）……三七三
○朝鮮人タル朝鮮總督府裁判所職員ノ任用ニ關スル件（明治四三、制令七）……三七三

第十三款　臺灣總督府

○臺灣總督府法院檢察官任用ノ件（明治三二、勅令三〇〇）……三七三
○臺灣總督府視學官特別任用令（明治四二、勅令一三一）……三七三
○臺灣總督府州港務官特別任用令（明治四四、勅令一五三）……三七三
○臺灣總督府警視特別任用ノ件（大正九、勅令二一九）……三七四
○臺灣ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導ノ任用ニ關スル件（大正一二、勅令三四一）……三七四
○臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導任用ノ件（大正一二、臺令六五）……三七四
○臺灣總督府稅關監吏任用規則（大正九、臺令一七四）……三七四
○臺灣總督府三等郵便局長任用規則（大正一三、臺令六九）……三七四
○臺灣總督府交通主事特別任用規則（大正一〇、臺令一三五）……三七四
○區長及區書記任用規則（大正九、臺令一三八）……三七五
○臺灣總督府、其ノ所屬官署、法院、檢察局、州廳及其ノ所屬官署、官公立學校及地方公共團體ニ於ケル囑託員、雇員ノ採用竝職務ニ關スル件（昭和二、臺令一四）……三七五

第十四款　關東廳

○關東廳法院判官及檢察官任用令（明治三九、勅令二〇一）……三七五
○關東廳巡査竝奏任及判任待遇監獄職員ノ任用及給與ニ關スル件（大正一二、勅令二九四）……三七五
○關東廳巡査採用規則（明治三九、關令二〇）……三七六
○關東廳看守採用規則（明治三九、關令一六）……三七七
○關東廳女監取締採用規則（明治三九、關令一七）……三七七
○關東州學校職員任用ニ關スル件（明治四〇、勅令五一）……三七七
○關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教採用規則（明治四〇、關令二〇）……三七七
○關東廳稅務吏任用ニ關スル件（大正一一、關令四八）……三七八
○關東廳郵便所長採用規則（明治四三、關令一四）……三七八

第十五款　樺太廳

○樺太廳通信書記補特別任用規則（大正一五、樺令二五）……三七八
○特定郵便局長採用規則（大正一一、樺令五三）……三七九

第十六款　南洋廳

○南洋廳ノ判事及檢事任用ノ件（大正一一、勅令一一八）……三七九
○南洋廳巡査任用及給與令（大正一一、勅令一二三）……三七九
○巡査任用規程（大正一二、南令二〇）……三七九
○南洋廳郵便局通信書記補任用規程（大正一四、南令一四）……三八〇

第十七款　會計檢査院

○會計檢査官任用資格（明治二二、勅令八〇）……三八〇

第十八款　廳府縣

○視學特別任用令（明治三二、勅令二六〇）……三八〇
○北海道廳森林主事特別任用規程（大正七、內令一四）……三八〇
○北海道廳河川監守特別任用規程（大正一二、內令二〇）……三八一
○北海道廳事業手任用規程（大正一二、內令三一）……三八一
○巡査採用規則（明治二四、內訓二一）……三八一
○消防手採用規則（大正七、內訓二）……三八二

第五章　試驗　教習

第一款　試驗

○高等試驗令（大正七、勅令七）……三八二
○高等試驗令施行細則（大正七、閣令一）……三八三
○高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件（大正七、文令三）……三八四
○高等試驗ノ受驗資格ニ關スル件（大正一二、勅令一九七）……三八五

○普通試驗令〔大正七、勅令八〕……三八五
○外務書記生試驗規則〔大正七、外令一〕……三八五
○陸軍法務官試補採用竝實務修習及實務修習試驗規程〔大正一一、陸令七〕……三八六
○陸軍各兵科少尉候補者試驗規則〔大正九、陸達八三〕……三八六
○陸軍監獄看守長特別任用考試規程〔大正九、陸達一〇〇〕……三八七
○海軍法務官試補實務修習及實務修習試驗規則〔大正一一、海令九〕……三八七
○裁判所書記登用試驗規則〔明治二四、司令四〕……三八八
○看守長任用考試規則〔大正二、司訓四〕……三八八
○遞信部內書記補試驗規則〔明治二八、遞令二〕……三八九
○鐵道手任用試驗規則〔大正二、鐵告六一〕……三九〇
○朝鮮總督府判事特別任用考試規則〔大正九、朝令一〇八〕……三九〇
○朝鮮總督府司法官試補實務修習及試驗規則〔大正二、朝令四五〕……三九〇
○朝鮮總督府看守長特別任用學術試驗及實務考査規程〔大正九、朝令一六九〕……三九一
○朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ニ關スル考試規程〔大正九、朝令一九六〕……三九一
○朝鮮總督府遞信書記補試驗規則〔明治四三、朝令三四〕……三九二
○朝鮮人判任文官試驗規則〔明治四四、朝令七九〕……三九三
○臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程〔大正一四、臺令一四〕……三九三
○臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則〔明治四三、臺令四六〕……三九三
○臺灣總督府地方廳森林主事試驗規則〔大正八、臺令七一〕……三九四
○關東廳警部、警部補特別任用學術試驗及實務考査規程〔大正九、關令六三〕……三九五
○關東廳看守長特別任用學術試驗及實務考査規程〔大正九、關令六四〕……三九六
○關東廳遞信書記補特別任用ニ關スル試驗規則〔明治三九、關令一五〕……三九七
○警部、警部補特別任用學術試驗及實務考査規程〔大正一〇、樺令三二〕……三九八
○森林主事試驗規則〔大正八、樺令二一〕……三九八
○樺太廳鐵道事務所雇員採用試驗規則〔大正一三、樺令一一〕……三九九
○樺太廳鐵道事務所技術雇員採用試驗規則〔大正一三、樺令一二〕……三九九
○警部、警部補特別任用學術試驗及實務考査規程〔大正一二、南令一九〕……三九九
○警部、警部補又ハ消防士特別任用學術試驗及實務考査規程〔大正九、內令二一九〕……四〇〇

第二款　教習

○巡査教習概則〔明治三〇、內訓一五〕……四〇〇
○看守教習規則〔大正二、司訓六〕……四〇〇
○森林主事教練規則〔明治四三、農訓五〕……四〇一
○遞信官吏練習所規則〔明治四二、遞告一一五〕……四〇一
○朝鮮總督府警察官講習所規程〔大正九、朝訓七〇〕……四〇四
○朝鮮總督府刑務官練習所規程〔大正七、朝訓二三〕……四〇五
○臺灣總督府警察官及司獄官練習所規則〔明治三一、臺令四九〕……四〇五
○關東廳警察官練習所規則〔大正一三、關令二二〕……四〇六
○警察官練習所規程〔大正一五、樺訓一一九〕……四〇七
○森林主事教習規則〔大正八、樺訓七〇〕……四〇八

第六章　補充　進級

第一款　補充

○陸軍補充令〔明治四四、勅令二七〇〕……四〇八
○陸軍補充令施行規則〔明治四四、陸令九〕……四一四
○豫備役後備役憲兵科下士上等兵補充ノ件〔明治四一、勅令六〕……四一九
○軍隊官衙學校附衞生部員及獸醫ノ補充ニ關スル件〔明治四〇、勅令二六〇〕……四一九
○動員ノ際陸軍諸官衙學校及憲兵隊附職員補充ノ件〔明治三三、勅令三一二〕……四一九
○陸軍補充兵ヲ以テ下士ニ補充シ及雜卒ヲ兵卒ト爲スノ件〔明治三八、勅令一九八〕……四一九
○航空ニ關スル勤務ニ服セシムヘキ陸軍下士ノ特別補充及其ノ服役等ニ關スル件〔大正一〇、勅令四四二〕……四二〇
○航空ニ關スル勤務ニ服セシムヘキ陸軍下士ノ特別補充及其ノ服役等ニ關スル勅令施行ニ關スル件〔大正一〇、陸令二八〕……四二〇
○陸軍工科學校普通科學生ニシテ其ノ員外學生トシテノ課程ヲ終了シタル者ヲ以テ砲工兵科士官ヲ補充スルノ件〔大正一四、勅令二五四〕……四二一
○陸軍豫備役見習醫官同見習藥劑官同見習獸醫官ヲ曹長相當官ニ任スルノ件〔明治三七、勅令二三五〕……四二一
○鎭守府及艦船部隊定員外軍人軍屬臨時服務ノ件〔明治二七、勅令一二三〕……四二一
○戰時特設部隊附海軍軍人ヲ定員外ト爲スノ件〔明治二七、勅令一七二〕……四二一
○海軍豫備員令〔大正八、勅令二六七〕……四二一
○海軍豫備員令施行細則〔大正八、海令一一〕……四二二

第二款　進級

○陸軍武官進級令〔大正五、勅令一九九〕……四二四
○陸軍兵卒進級規則〔明治三六、陸達一〇三〕……四二五
○海軍武官進級令〔大正九、勅令五八〕……四二六
○陸海軍軍人ニシテ航空機搭乘中變故ニ因リ傷痍ヲ受ケ危篤ニ陷リタル者ノ進級ノ件〔大正八、勅令二九〕……四二七
○海軍軍人ニシテ潛水艦ニ在リテ潛航勤務中變故ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ危篤ニ陷リタルモノノ進級及任用ニ關スル件〔大正一三、勅令一一二〕……四二七

第七章　待遇　分限　服務

第一款　待遇

○錦鷄間祗候待遇〔明治二三、宮達二一〕……四二七
○親補ノ職ニ在ル者ノ待遇〔明治二九、勅令一六〇〕……四二七
○奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件〔大正一〇、勅令二二三〕……四二七
○宮內奏任官及同判任官ノ優遇ニ關スル件〔大正一〇、皇室令五〕……四二七
○憲兵上等兵待遇〔明治二八、勅令一一一〕……四二七
○陸軍ニ於テ通譯ニ從事スル者待遇〔明治二八、勅令一三九〕……四二七
○戰時事變ノ際官吏ニ非スシテ陸軍ノ事務ニ從事スル者待遇〔明治三七、勅令二三〕……四二七

○戰時事變ノ際官吏ニ非スシテ海軍ノ事務ニ從事スル者待遇〔明治三七、勅令五一〕……四二七
○執達吏ノ待遇ニ關スル件〔大正七、勅令三六一〕……四二八
○帝國大學名譽敎授、官立大學名譽敎授及文部省直轄諸學校名譽敎授待遇〔大正四、勅令一五二〕……四二八
○三等郵便局長等ノ優遇ニ關スル件〔大正一二、勅令三五九〕……四二八
○臺灣公立小學校及臺灣公立公學校ノ訓導ヲシテ奏任官ノ待遇ヲ受ケシムルノ件〔大正一二、勅令三四二〕……四二八
○貴族院及衆議院守衞待遇〔明治二四、勅令二〇八〕……四二八
○巡査看守待遇〔明治二四、勅令一七〇〕……四二八
○市町村立小學校長及敎員名稱及待遇〔明治二四、勅令二一八〕……四二八
○公立幼稚園ノ園長及保姆ノ待遇ニ關スル件〔大正一五、勅令七五〕……四二八
○戶長身分取扱及俸給定メ方〔明治一九、內令二一〕……四二八
○伊豆七島地役人及名主待遇〔明治二八、勅令六二〕……四二八

第二款　分限

○文官分限令〔明治三二、勅令六二〕……四二八
○官吏ノ勤續ニ關スル件〔明治二六、勅令一九八〕……四二九
○議員又ハ市町村吏員タルヲ得サル官吏ハ在職者ニ限ル〔明治二二、閣令一八〕……四二九
○聘用セラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件〔大正九、勅令三六七〕……四二九
○宮內官分限令〔明治四〇、皇室令一五〕……四二九
○皇宮警手ノ分限ニ關スル件〔大正七、宮令七〕……四三〇
○外國政府招聘ノ宮內官ニ關スル件〔明治三六、宮達甲二〕……四三〇
○陸軍將校分限令〔大正三、勅令六七〕……四三〇
○陸軍准士官ノ身分取扱ニ關スル件〔大正三、勅令六八〕……四三一
○陸軍諸部團隊官衙學校ニ豫備役後備役ノ者ヲ以テ補充セシ場合ニ於ケル身分取扱ノ件〔明治三四、勅令一四五〕……四三一
○海軍將校分限令〔明治二四、勅令七九〕……四三一
○海軍准士官分限ニ關スル件〔明治三二、勅令六七〕……四三一
○陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件〔大正八、勅令四〇二〕……四三一
○陸軍武官ニシテ關東長官ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件〔大正八、勅令九八〕……四三一
○公立學校職員分限令〔大正四、勅令三三〕……四三一
○市町村立小學校敎員勤續方〔明治二七、文令三〕……四三二
○臺灣ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導ノ失官ノ件〔大正一二、勅令三四三〕……四三二
○臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導退職、失職ニ關スル規則〔明治三九、臺令九〕……四三二
○臺灣公立幼稚園保姆ノ退職、失職ニ關スル件〔大正一二、臺令三八〕……四三二

第三款　休職

○神宮司廳、神宮神部署及官國幣社以下神社判任以上ノ待遇職員ノ休職ニ關スル件〔大正四、勅令一三〕……四三二
○【非職】及【豫備理事】戰時復職竝在鄕ニ關スル件〔明治三一、勅令八二〕……四三二
○裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ノ件〔明治二三、勅令二五四〕……四三二
○判事及檢事ノ休職竝判事ノ轉所ニ關スル法律〔大正二、法律七〕……四三三
○戰時事變ノ際保健技師、保健技手、敎誨師、敎師、作業技師及作業技手ノ休職ニ關スル件〔大正七、勅令三六六〕……四三三
○會計檢査官及行政裁判所高等官ノ休職ニ關スル法律〔大正二、法律一二〕……四三三
○大正二年法律第十二號ノ休職給ニ關スル件〔大正二、勅令一三〇〕……四三三
○朝鮮ニ於ケル官立公立學校ノ訓導又ハ副訓導ノ休職ニ關スル件〔大正四、勅令七二〕……四三三
○臺灣ニ於ケル官立公立學校敎員ノ休職ニ關スル件〔大正一〇、勅令四三七〕……四三三
○臺灣總督府ノ保健技師、保健技手、敎誨師、敎師及作業技手ノ休職ニ關スル件〔大正七、勅令三九二〕……四三三
○樺太廳立小學校竝樺太公立小學校准敎員ノ進退ニ關スル規程〔大正九、樺令二八〕……四三三
○戰時事變ノ際巡査看守休職ノ件〔明治三七、勅令三三〕……四三四
○過員看守休職及俸給ノ件〔明治二三、勅令二二八〕……四三四
○戰時事變ノ際外國在勤巡査ノ休職及休職給ニ關スル件〔明治三七、勅令七七〕……四三四
○戰時事變ノ際陸軍監獄看守海軍監獄看守陸軍警査及海軍警査休職ニ關スル件〔明治三七、勅令一二一〕……四三四
○戰時事變ノ際判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ休職ニ關スル件〔大正七、勅令六七〕……四三四
○戰時事變ノ際貴族院及衆議院守衞休職ノ件〔明治三七、勅令一二二〕……四三四

第四款　退官

○會計檢査官退官ニ關スル法律〔明治二九、法律九一〕……四三四

第五款　賞罰

○稅關監吏賞罰規則〔明治二三、勅令二一八〕……四三四
○文官懲戒令〔明治三二、勅令六三〕……四三四
○官吏待遇者懲戒ニ關スル件〔明治四〇、勅令一七七〕……四三五
○懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件〔昭和二、勅令一四〕……四三五
○宮內官懲戒令〔明治四〇、皇室令一六〕……四三五
○勅任待遇奏任待遇判任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件〔大正三、宮令一六〕……四三六
○宮內職員ノ懲戒免除ニ關スル件〔昭和二、皇室令三〕……四三六
○陸軍懲罰令〔明治四四、軍令陸四〕……四三六
○陸軍軍屬ノ懲戒ニ關スル件〔明治四一、勅令三一五〕……四三八
○陸軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件〕昭和二、軍令陸二〕……四三八
○海軍懲罰令〔明治四一、勅令二三九〕……四三八
○海軍兵ニシテ陸軍敎化隊ニ收容シタル者ノ懲罰ニ關スル件〔明治四一、勅令一八三〕……四三九
○海軍兵中敎化ヲ要スル者ヲ陸軍敎化隊ニ收容

スルノ件（大正一二、軍令一）……四三九
○陸軍法務官及海軍法務官懲戒令（大正一一、勅令一〇〇）……四三九
○判事懲戒法（明治二三、法律六八）……四四〇
○執達吏懲戒令（明治四一、勅令一五三）……四四二
○監獄奏任待遇職員懲戒規程（明治三六、司令六）……四四二
○監獄判任待遇職員懲戒規程（明治三六、司令七）……四四二
○朝鮮總督府稅關官吏ノ賞罰ニ關スル件（大正六、勅令七〇）……四四二
○朝鮮總督府判事懲戒令（明治四四、制令五）……四四二
○朝鮮總督府奏任待遇監獄職員懲戒方（明治四四、朝令六三）……四四二
○朝鮮總督府判任待遇監獄職員懲戒方（明治四二、統令四九）……四四三
○朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳及南洋廳部内ノ巡査等ノ懲戒ニ關スル件（大正九、勅令三六二）……四四三
○朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査懲戒規程（大正八、朝令一六八）……四四三
○判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道消防手ノ懲戒ニ關スル件（大正一一、朝令一一九）……四四三
○臺灣總督府稅關監吏賞罰ニ關スル件（明治三三、勅令一一二）……四四三
○臺灣總督府法院判官懲戒令（明治三一、律令一八）……四四三
○臺灣總督府奏任待遇刑務所職員懲戒方（明治四四、臺令三三）……四四三
○臺灣總督府巡査、判任待遇刑務所職員、判任待遇街庄長、區長及區書記懲戒規程（大正一〇、臺令七六）……四四三
○奏任待遇街長ノ懲戒方（大正一〇、臺令七七）……四四四
○關東廳監獄判任待遇職員懲戒規則（大正一三、關令五八）……四四四
○南洋廳巡査懲戒規程（大正一一、南令八）……四四四
○會計檢査官懲戒法（明治三三、法律二一）……四四四
○行政裁判所長官評定官懲戒令（明治三二、勅令三五四）……四四五
○貴族院衆議院守衞懲罰ノ件（明治二四、勅令二三九）……四四六
○巡査懲罰例（明治九、内達乙九二）……四四六
○巡査懲罰例巡査精勤證書授與規則巡査看守休暇概則巡査教習概則ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ準用（大正七、内訓四）……四四六
○戸長職務取扱上ノ過失處分方（明治一八、内達甲四）……四四六

第六款　服務

○官吏服務紀律（明治二〇、勅令三九）……四四六
○不用品拂下ノトキ其管廳所屬官吏ノ入札禁止（明治八、達一五二）……四四七
○官吏職務外ニ公衆ニ對シ演說又ハ敎達スルヲ得（明治二二、一、二四、閣訓）……四四七

第七款　執務時間　休暇

○官廳執務時間（大正一一、閣令六）……四四七
○宮内職員執務時間（大正一一、宮令八）……四四七
○朝鮮總督府及所屬官廳ノ執務時間ニ關スル件（明治四三、閣令一六）……四四七
○臺灣總督府及所屬各官廳ノ執務時間ニ關スル件（明治三一、閣令三）……四四八
○臺灣ニ於ケル稅關執務時間ニ關スル件（明治四二、勅令一二二）……四四八
○樺太廳及所屬官廳執務時間（大正一一、閣告三）……四四八
○樺太ニ於ケル專賣官署執務時間（大正一一、大告一二一）……四四八
○樺太所在司法省所管官廳執務時間（大正一一、司告三六）……四四八
○南洋廳及所屬官廳ノ執務時間ニ關スル件（大正一一、閣令三）……四四八
○休暇日（明治六、布告二）……四四八
○休日ニ關スル件（昭和二、勅令二五）……四四九
○官員父母祭日休暇（明治六、達三一八）……四四九
○宮内職員ノ休日ニ關スル件（昭和二、宮令四）……四四九
○在外公館職員休暇規程（明治三九、外令五）……四四九
○陸軍軍人休暇令（大正一五、軍令陸二）……四四九
○動員部隊ニ屬スル陸軍軍人休暇規則（大正一一、陸達一一）……四五〇
○陸軍下士兵卒ノ休暇ニ關スル取扱方（明治三四、陸令一二）……四五〇
○陸軍所屬ノ文官等ノ休暇ニ關スル件（大正一〇、勅令四四四）……四五〇
○陸軍文官雇員休暇規則（大正一〇、陸達六七）……四五〇
○在外遞信官吏賜暇歸朝ニ關スル件（大正一〇、勅令四三四）……四五一
○巡査看守休暇概則（明治一八、七、三〇、内達番外）……四五一

第八款　赴任　出張　旅行　婚姻

○外交官領事官赴任及賜暇規則（明治二六、勅令一七二）……四五一
○公使館通譯官及外務通譯生ノ赴任及賜暇ノ件（明治二八、勅令八四）……四五一
○府縣官吏出京歸任内務省ヘ屆出（明治八、内達乙一二）……四五一
○轉職就職者出發規程（大正四、軍令陸三）……四五二
○【農商務】部内職員受託出張規則（大正一〇、農令六）……四五二
○海軍下士官兵轉勤轉乘ノ旅行延著事故屆出方（明治三三、海令一〇）……四五二
○陸軍現役軍人ノ婚姻ニ關スル件（大正一〇、勅令四八一）……四五二
○陸軍現役軍人婚姻取扱規則（大正一〇、陸達七三）……四五二
○海軍現役士官現役特務士官候補生及現役准士官ノ婚姻ニ關スル件（大正一〇、勅令四八三）……四五三
○海軍現役士官、現役特務士官、候補生及現役准士官婚姻取扱規則（大正一〇、海令二一）……四五三

第九款　門規

○文官大禮服著用ノ節無印鑑ニテ諸御門通行ヲ許ス（明治七、達五五）……四五三
○御門鑑ヲ他人ニ貸與スルヲ禁ス（明治四、正、一〇、布告）……四五三
○諸御門通行カムリ笠差傘著帽ヲ許ス（明治五、布告一六九）……四五三
○陸軍將校下士兵卒宮城諸御門乘馬通行資格（明治一一、陸達乙三三）……四五三
○各官廳門内下馬下乘制限ヲ便宜ニ任ス（明治二一、一一、一六、閣訓）……四五三
○陸軍將校下士兵卒乘馬本分ノ者府縣廳諸門乘馬通行方（明治一一、陸達甲一一）……四五四

第十款　職工

○陸軍職工規則（大正九、陸令八）……四五四
○海軍定期職工條例（明治二九、勅令二一）……四五八
○海軍定期職工採用就業及滿期賜金給與規程（明治二九、海令四）……四五九

第八章　儀禮　忌服

第一款　禮式

○文官大禮服著用ノ場合ニ於ケル敬禮式ニ關スル件（昭和二、閣訓一）……四六〇
○陸軍禮式（明治四三、軍令陸五）……四六〇
○陸軍禮式附錄（明治四三、陸達三六）……四六五
○陸軍禮式ニ依ル軍樂及喇叭ノ吹奏並禮砲式停止ニ關スル件（大正元、軍令陸一）……四六六
○海軍禮式令（大正三、勅令一五）……四六六
○海軍訪問規則（大正三、海令一）……四七三
○海軍禮砲令（大正三、勅令一二）……四七四
○行幸啓ノ節學生生徒敬禮方（明治四三、文訓一八）……四七七
○警察禮式（明治四三、内訓一〇）……四七七
○【港務部】及臨時海港檢疫所職員並船舶ニ警察禮式準用（明治三五、内訓一二）……四七九
○監獄禮式（明治四三、司訓六）……四七九
○朝鮮總督府及所屬官署文官禮式（明治四四、朝訓八七）……四八〇

第二款　國葬

○國葬令（大正一五、勅令三二四）……四八〇
○廢朝中服役特免等並歌舞音曲停止ノ件（大正元、勅令二一）……四八〇

第三款　忌服

○服忌令京家ノ制及産穢混穢ノ制廢止（明治七、布告一〇八）……四八〇
○僧尼服忌ノ制（明治五、布告一七六）……四八二
○忌濟ノ節除服出仕宜下ヲ止メ忌服屆出及忌濟日出仕方（明治三、正、二九、布告）……四八二
○各省奏任官除服出仕方（明治六、布告五二）……四八二
○遠地出張在勤官吏忌服中出仕方（明治六、布告三四七）……四八二
○地方官除服出仕方（明治八、達一〇）……四八二

第三輯　官規

第一章　官制

第一款　内閣及其所管

●内閣官制　（明治二十二年十二月二十四日勅令第百三十五號）

改正　明治四〇年第七號

朕玆ニ内閣官制ヲ裁可ス（各大臣副署（外務、農商務缺））

内閣官制

第一條　内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス

第二條　内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス

第三條　内閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得

第四條　内閣總理大臣ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ閣令ヲ發スルコトヲ得

第四條ノ二　内閣總理大臣ハ所管ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ指揮監督ス若シ其ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第五條　左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ

一　法律案及豫算決算案

二　外國條約及重要ナル國際條件

三　官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令

四　諸省ノ間主管權限ノ爭議

五　天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願

六　豫算外ノ支出

七　勅任官及地方長官ノ任命及進退

其ノ他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

第六條　主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス内閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條　事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セラル、ノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條　内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條　各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條　各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメラル、コトアルヘシ

●内閣所屬部局及職員官制　（大正十三年十二月二十日勅令第三百七號）

改正　大正一四年第一〇九號　昭和二年第一〇五號

朕内閣所屬職員官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

内閣所屬部局及職員官制

第一條　内閣ニ内閣官房及左ノ所屬四局ヲ置ク

恩給局

拓殖局

統計局

印刷局

第二條　内閣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　詔書、勅書、法律、命令等ノ公布ニ關スル事項

二　大日本帝國憲法、詔書、勅書、法律、命令等ノ原本ノ保存ニ關スル事項

三　公文書類ノ査閲、起草及接受發送ニ關スル事項

四　官吏ノ進退身分ニ關スル事項

五　各廳高等官ノ履歴ニ關スル事項

六　官印ノ管守ニ關スル事項

七　公文書類ノ編纂及保存ニ關スル事項

八　内閣所管圖書ノ類別、購買、保存、出納及目錄調製ニ關スル事項

九　内閣所用圖書ノ出版ニ關スル事項

十　内閣ノ會計ニ關スル事項

前項第八號ノ事務ヲ掌ル爲内閣ニ内閣文庫ヲ置ク

第三條　恩給局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　恩給ヲ受クルノ權利ノ裁定ニ關スル事項

二　恩給ニ關スル具申ノ裁決ニ關スル事項

三　恩給ノ支給及負擔ニ關スル事項

第四條　拓殖局ニ於テハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、關東廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　統計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　行政各部統計ノ統一ニ關スル事項

二　國際統計事務ニ關スル統轄事項

三　人口統計、勞働統計其ノ他國勢ノ基本ニ關スル統計ニシテ行政各部ニ專屬セサルモノニ關スル事項

四　統計ニ關スル圖書ノ刊行及内外統計書ノ交換ニ關スル事項

五　統計職員ノ養成竝各官廳統計主任者ノ招集及會議ニ關スル事項

統計局ニ於テハ前項ノ外各廳ノ委託ヲ受ケ其ノ統計ノ製表ヲ爲スコトヲ得

第六條　印刷局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官報、法令全書、職員錄其ノ他ノ刊行物ノ編輯及發賣ニ關スル事項

二　官報其ノ他ノ印刷ニ關スル事項

三　印紙、郵便切手、諸證劵類及諸印刷物ノ製造ニ關スル事項

四　抄紙ニ關スル事項

第七條　内閣ニ左ノ所屬職員ヲ置ク

書記官長		勅任
恩給局長		勅任
拓殖局長		勅任
統計局長		勅任
印刷局長		勅任
書記官	專任三人	奏任
内閣總理大臣秘書官	專任二人	奏任
恩給局書記官	專任一人	奏任
拓殖局書記官	專任六人	奏任
統計局書記官	專任二人	奏任
統計局統計官	專任二人	奏任
印刷局書記官	專任一人	奏任
印刷局技師	專任十二人	奏任（内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
統計局統計官補	專任八人	判任
屬	專任百十四人	判任
技手	專任七十五人	判任

恩給局長ハ内閣部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシムルモノトス

第八條　前條職員ノ外恩給局ニ顧問醫ヲ置ク其ノ定員ヲ三人トシ内一人ヲ常任顧問醫トス

顧問醫ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

顧問醫ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇ニ依ル

第九條　書記官長ハ内閣總理大臣ヲ佐ケ機密文書ヲ管掌シ内閣ノ庶務ヲ統理シ所部ノ職員ヲ監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第十條　各局長ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十一條　書記官ハ上官ノ命ヲ承ケ内閣官房ノ事務ヲ掌ル

第十二條　内閣總理大臣秘書官ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　各局書記官ハ上官ノ命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ掌ル

第十四條　恩給局顧問醫ハ恩給局長ノ諮問ニ應シ恩給ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第十五條　統計局統計官ハ上官ノ命ヲ承ケ統計ヲ掌ル

第十六條　印刷局技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十七條　統計局統計官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ統計ニ從事ス

第十八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

拓殖事務局官制、統計局官制、印刷局官制及明治二十七年勅令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

●内閣所屬職員臨時增置ニ關スル件　（大正十三年十二月二十日勅令第三百八號）

改正　大正一四年第一一〇號、一五年第四一號
昭和二年第四七號

朕內閣所屬職員臨時增置ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　第一回國勢調查ノ事務ニ從事セシムル爲內閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ統計局ニ屬セシム

統計局書記官　專任一人
統計局統計官　專任二人
統計局統計官補　專任九人
屬　專任八人

第二條　家計調查ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ統計局ニ屬セシム

統計局統計官　專任一人
統計局統計官補　專任四人
屬　專任二人

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第六十八號及大正十一年勅令第四百六十五號ハ之ヲ廢止ス

●法制局官制

明治二十六年十月三十一日
勅令第百十八號

改正　明治三一年第二五四號、三五年第五七號、三六年第二一號、第二〇六號、四三年第三二號
大正二年第一一〇號、七年第一七二號、一〇年第九五號、一三年第三〇九號

朕法制局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

法制局官制

第一條　法制局ハ內閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

一　內閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申スルコト
二　法律命令ノ制定、廢止、改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ內閣ニ上申スルコト
三　各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審查シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ內閣ニ上申スルコト
四　前諸項ニ揭クルモノヽ外內閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申スルコト

第二條　法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　一人　勅任
參事官　專任八人　奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
書記官　一人　奏任（書記官ハ參事官ヲ以テ之ニ兼ネシム）
屬　專任四人　判任

法制局ニ左ノ二部ヲ置ク其ノ事務分掌ハ長官之ヲ定ム

第一部
第二部

部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　長官ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條　奏任官ノ進退ハ長官之ヲ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條　長官事故アルトキハ上席參事官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

第七條　書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

第九條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●賞勳局官制

明治二十六年十月三十一日
勅令第百十六號

改正　明治三一年第二五二號、四三年第三一號
大正二年第一〇八號、五年第二四號、七年第三五二號、九年第四二九號、一三年第三一〇號

朕賞勳局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

賞勳局官制

第一條　賞勳局ハ內閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

一　勳位、勳章及年金ニ關スル事項
二　記章、褒章其ノ他賞件ニ關スル事項
三　外國ノ勳章、記章ノ受領及佩用ニ關スル事項

第二條　賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁　一人　勅任
書記官　專任一人　奏任
屬　專任五人　判任

第三條　總裁ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條　削除

第五條　奏任官ノ進退ハ總裁之ヲ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第六條　書記官ハ總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●賞勳局ニ臨時職員增置ノ件

大正十四年五月十八日
勅令第百九十號

朕賞勳局ニ臨時職員增置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

賞勳局ニ臨時左ノ職員ヲ增置ス

屬　專任一人

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●賞勳會議規程

明治二十六年十月三十一日
勅令第百十七號

改正　明治三一年第二五三號

朕賞勳會議規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

賞勳會議規程

第一條　勳位、勳章及年金ノ敍賜又ハ褫奪ノ當否ヲ議定スル爲賞勳局ニ賞勳會議ヲ設ク

第二條　賞勳會議ハ賞勳局總裁及議定官ヲ以テ組織ス

第三條　賞勳會議ノ議長ハ賞勳局總裁ヲ以テ之ニ充ツ總裁事故アルトキハ上席議定官之ヲ代理ス

第四條　議定官ハ十五人以內トシ勅任官ニシテ勳一等以上ノ者ノ中ヨリ之ニ補ス

第五條　前條ノ外特ニ皇族ヲ以テ議定官ニ補セラルヽコトアルヘシ

第六條　勳位、勳章及年金ノ敍賜又ハ褫奪ハ議定官八人以上ノ議ヲ經ルニアラサレハ之ヲ上奏スルコトヲ得ス

第七條　議定官ノ議ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第八條　賞勳會議ノ事務ハ賞勳局總裁之ヲ管掌ス

附　則

第九條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●資源局官制

昭和二年五月二十七日
勅令第百三十九號

朕資源局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

資源局官制

第一條　資源局ハ內閣總理大臣ノ管理ニ屬シ左ニ揭グル事務ヲ掌ル

一　人的及物的資源ノ統制運用計畫ニ關スル事項ノ統轄ノ事務
二　前號ノ計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル調查及施設ニ關スル事項ノ統轄ノ事務
三　前二號ノ統轄ノ爲ニ必要ナル事項ノ執行ノ事務

第二條　資源局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　勅任
書記官　專任四人　奏任
事務官　二人
統計官　專任一人　奏任
技師　專任二人　奏任
屬　專任十二人　判任
統計官補　專任二人　判任
技手　專任四人　判任

前項ノ事務官ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ陸軍佐尉官同相當官又ハ海軍佐尉官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ニ補ス

第一項ノ職員ノ外內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得

第三條　資源局ニ局務ニ參與セシムル爲參與ヲ置ク

參與ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條　長官ハ內閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ統理シ所部ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第五條　書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第六條　統計官ハ上官ノ命ヲ承ケ統計ヲ掌ル

第七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　統計官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ統計ニ從事ス

第十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十一條　現役ノ陸軍佐尉官同相當官又ハ海軍佐尉官ニシテ第二條第二項ノ規定ニ依リ事務官ニ補セラレタル者ハ陸軍又ハ海軍ノ定員外トシ在職者ニ關スル規定ヲ適用ス

第二條第二項ノ規定ニ依リ事務官ニ補セラレタル者ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ資源局費ヨリ之ヲ支辨ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大喪使官制

昭和元年十二月二十五日
勅令第一號

朕大喪使官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

大喪使官制

第一條　大喪使ハ內閣總理大臣ノ管理ニ屬シ大行天皇ノ大喪ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　大喪使ニ總裁ヲ置ク

總裁ハ皇族ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第三條　大喪使ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
次官　二人
事務官　若干人
書記　若干人

第四條　長官ハ之ヲ勅命ス

次官及事務官ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ長官之ヲ命ズ

第五條　長官ハ所部ノ職員ヲ統督シ使務ヲ總理ス

長官事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル次官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　次官ハ長官ヲ補ケ使務ヲ掌理ス

第七條　事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第八條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　祭事ヲ掌ラシムル爲大喪使ニ左ノ職員ヲ置ク

祭官長
祭官副長　二人
祭官　若干人
祭官補　若干人

第十條　祭官長、祭官副長及祭官ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

祭官補ハ長官之ヲ命ズ

第十一條　官職ヲ有スルニ因リ大喪使職員ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ其ノ官職ニ付受クル待遇ニ依リ其ノ他ハ長官ハ親任官、次官祭官長及祭官副長ハ勅任官、事務官ハ勅任官又ハ奏任官、祭官ハ奏任官、書記及祭官補ハ判任官ノ待遇トス

第十二條　官職ヲ有スルニ因リ大喪使職員ヲ命セラレタル者其ノ官職ヲ退キタルトキハ退職ス

第十三條　使務ノ處理ニ關スル規程ハ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給審查會官制

大正十二年八月二十二日
勅令第三百六十八號

朕恩給審查會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

恩給審查會官制

第一條　恩給審查會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ恩給法第十五條、第四十六條及第四十八條ノ規定ニ依リ恩給ニ關スル事項ヲ審查ス

第二條　審查會ハ會長一人、委員十七人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ審查スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ法制局長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ各官廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　審查會ノ會議ハ委員及臨時委員ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

審查會ノ議決ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條　審查會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　審查會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●中央統計委員會官制

大正九年十月二十七日
勅令第五百十四號

改正　大正一一年第四七〇號

朕中央統計委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

中央統計委員會官制

第一條　中央統計委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ統計ニ關スル重要ノ事項ヲ調查審議ス

第二條　中央統計委員會ハ內閣總理大臣又ハ各省大臣ノ諮問ニ應シテ意見ヲ開申ス

第三條　中央統計委員會ハ內閣總理大臣又ハ各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第四條　中央統計委員會ハ會長一人、副會長一人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第五條　會長、副會長、委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ佐ケ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第七條　會長及副會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第八條　中央統計委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　中央統計委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時法制審議會官制

大正八年七月九日
勅令第三百三十二號

朕臨時法制審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

臨時法制審議會官制

第一條　臨時法制審議會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ法律制度ヲ調查審議ス

第二條　臨時法制審議會ハ總裁一人、副總裁一人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調查審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

總裁、副總裁、委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條　總裁ハ會務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁ヲ佐ケ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四條　臨時法制審議會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ總裁及副總裁ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ法令ノ調查ニ從事ス

第五條　臨時法制審議會ニ書記ヲ置ク關係各廳判任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ總裁、副總裁及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶

務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法律取調委員會規則ハ之ヲ廢止ス

●行政制度審議會官制

（昭和二年六月十五日勅令第百六十八號）

朕行政制度審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

行政制度審議會官制

第一條　行政制度審議會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ行政制度ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

審議會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　審議會ハ會長一人及委員十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ國務大臣、內閣書記官長、法制局長官及學識經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　委員ノ待遇ハ官職ニ在ルトキハ其ノ官職ニ付受クル待遇ニ依リ、其ノ他ハ親任官ノ待遇トス

第六條　審議會ニ幹事長及幹事ヲ置ク、幹事長及幹事ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　審議會ニ書記ヲ置ク、內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●文政審議會官制

（大正十三年四月十五日勅令第八十五號）

朕文政審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

文政審議會官制

第一條　文政審議會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ國民精神ノ作興、敎育ノ方針其ノ他文政ニ關スル重要ノ事項ヲ調査審議ス

文政審議會ハ前項ノ事項ニ付內閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　文政審議會ハ總裁一人、副總裁二人及委員五十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　總裁ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副總裁ノ中一人ハ文部大臣ヲ以テ之ニ充テ一人ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ委員ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　總裁ハ會務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁ヲ補佐シ總裁事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル副總裁其ノ職務ヲ代理ス

第五條　總裁及副總裁ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條　國務大臣ハ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第七條　文政審議會ノ議事ニ關スル規則ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

第八條　文政審議會ニ幹事長及幹事ヲ置ク

幹事長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充ツ總裁及副總裁ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　文政審議會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●高等試驗委員及普通試驗委員官制

（大正七年一月十八日勅令第九號）

（改正　大正一一年第二八三號、一二年第一九五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等試驗委員及普通試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

高等試驗委員及普通試驗委員官制

第一章　高等試驗委員

第一條　高等試驗委員ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ高等試驗ニ關スル事務、高等文官任用ノ銓衡ニ關スル事務及普通試驗令ニ依ル事務ヲ管掌ス

第二條　高等試驗委員ハ委員長、部長、常任委員及臨時委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　高等試驗委員ハ之ヲ三部ニ分ツ

第一部ハ高等試驗行政科試驗及他ノ部ニ屬セサル試驗其ノ他ノ事務ヲ掌ル

第二部ハ高等試驗外交科試驗並外交官及領事官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第三部ハ高等試驗司法科試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　委員長ハ法制局長官ヲ以テ之ニ充ツ

第一部ノ部長ハ委員長之ヲ兼ヌ第二部ノ部長ハ外務次官、第三部ノ部長ハ司法次官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　委員長ハ職員ヲ監督シ高等試驗委員ニ屬スル一切ノ事務ヲ統理ス部長ハ其ノ部ニ屬スル事務ヲ掌理ス

第六條　常任委員ハ八人トス各官廳高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

常任委員ハ各部ニ分屬シ高等試驗委員ニ屬スル事務ヲ分掌ス

第七條　臨時委員ハ各官廳高等官ノ中ヨリ試驗施行每ニ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時委員ハ各部ニ分屬シ試驗ノ事ヲ掌ル

第八條　高等試驗委員ノ事務ニ關シ常任書記及臨時書記ヲ置ク

常任書記ハ十人內二人ハ專任常任書記判任トシ八人ハ各官廳判任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時書記ハ各官廳吏員ノ中ヨリ試驗施行ノ際必要ニ應シ內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二章　普通試驗委員

第九條　普通試驗委員ハ之ヲ各官廳ニ置ク長官ノ監督ニ屬シ普通試驗及判任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ管掌ス

第十條　普通試驗委員ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　委員長及委員ハ中央官廳ニ於テハ其ノ廳ノ高等官ノ中ヨリ、地方官廳ニ於テハ其ノ廳ノ官吏及官立公立ノ學校教員ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

第十二條　委員長ハ職員ヲ監督シ普通試驗委員ニ屬スル一切ノ事務ヲ統理ス

第十三條　普通試驗委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置ク各官廳判任官ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ高等試驗委員第三部ニ關スル規定ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

文官試驗委員官制並外交官及領事官試驗委員官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ文官普通試驗委員長、文官普通試驗委員又ハ文官普通試驗書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各普通試驗委員長、普通試驗委員又ハ普通試驗書記ヲ命セラレタルモノトス

●南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事務主管ノ件

（明治四十一年七月二十一日勅令第百七十九號）

（改正　明治四一年第三〇六號　大正六年第七三號、九年第一五一號）

朕南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事務主管ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、遞信大臣副署）

南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事項ハ內閣總理大臣ノ管理ニ屬セシム但シ同會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　樞密院

●樞密院官制及事務規程

（明治二十一年四月三十日勅令第二十二號）

（改正　明治二三年第二一六號、二六年第一二〇號、三六年第一一號、四二年第一八四號　大正二年第一三七號、七年第三五五號）

朕元勳及練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樞密院官制

第一章　組織

第一條　樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條　樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十四人書記官長一人及書記官ヲ以テ組織ス

第三條　樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

書記官ハ專任三人トス

第四條　何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條　樞密院ニ議長秘書官ヲ置ク專任一人奏任トス

第二章　職掌

第六條　樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス

一　皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二　憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義

三　憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令

四　列國交渉ノ條約及約束

五　樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項

六　前諸項ニ掲クルモノ、外臨時ニ諮詢セラレタル事項

第七條　削除

第八條　樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

第三章　會議及事務

第九條　樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條　樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條　各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及說明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス

第十二條　樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條　議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

副議長ハ議長ノ職務ヲ補佐ス

第十四條　書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ補佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十四條ノ二　議長秘書官ハ議長官房ノ事務ヲ掌ル

第十五條　特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條　樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述フ

第二條　樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條　樞密院ハ內閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條　議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條　審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條　議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

內閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條　審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條　件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條　樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條　樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリトモ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條　議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ践行スルコトヲ要セス

第十二條　樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條　前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ內閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條　樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

●丁年以上ノ各親王ハ樞密院會議ニ班列ノ權ヲ有セシメラル

（明治二十一年五月十八日勅旨）

各親王

朕丁年以上ノ各親王ノ朕カ重要ノ國務ニ參スルヲ欲シ命シテ樞密院會議ニ班列スルノ權ヲ有セシム（總理大臣副署）

●樞密院屬設置

（明治二十一年五月二十六日勅令第四十一號）

朕樞密院ニ屬ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樞密院ニ屬ヲ置ク判任トス

●樞密院屬定員

（明治二十六年十月三十一日勅令第百二十一號）

（改正　明治三五年第五九號　大正二年第一三八號）

朕樞密院屬定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

シム（總理大臣副署）

樞密院屬ハ八人ヲ以テ定員トス

附　則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第三款　宮内省及其所管

●宮内省官制

（大正十年十月七日皇室令第七號）

改正　大正一一年第五號、第一〇號、一二年第三號、一四年第一二號、一五年第一四號、昭和二年第二號、第五號

朕宮内省官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内、總理、内務大臣副署）

宮内省官制

第一條　宮内大臣ハ親任トス皇室一切ノ事務ニ付輔弼ノ責ニ任ス

第二條　宮内大臣ハ所部職員ヲ統督シ兼テ華族及朝鮮貴族ヲ監督ス

第三條　宮内大臣ハ皇室令ノ制定改正又ハ廢止ヲ要スルモノアルトキハ案ヲ具ヘテ上奏スヘシ其ノ國務大臣ノ職務ニ關連スルモノニ付テハ内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト倶ニ上奏スヘシ

第四條　宮内大臣ハ皇室令ノ施行其ノ他主管ノ事務ニ關シ必要ノ規程ヲ定ムルコトヲ得其ノ國務大臣ノ職務ニ關連スルモノニ付テハ内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト協定ヲ經ヘシ

第五條　宮内大臣ハ主管ノ事務ニ關シ省令ヲ發スルコトヲ得

第六條　宮内大臣ハ主管ノ事務ニ關シ警視總監及地方長官ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第七條　宮内大臣ハ勅旨ヲ奉シ褒賞賜與及救濟ノ事ヲ施行ス

第八條　宮内大臣ハ宮内奏任官及勅任待遇奏任待遇宮内職員ノ進退ハ之ヲ上奏シ宮内判任官及判任待遇宮内職員ノ進退ハ之ヲ專行ス

第九條　宮内大臣ハ宮内職員華族及朝鮮貴族ノ敍位ヲ上奏シ其ノ敍勳ハ内閣總理大臣ヲ經テ上奏ス

第十條　宮内省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　職員ノ進退身分ニ關スル事項
二　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
三　行幸啓ニ關スル事項
四　褒賞及賜與ニ關スル事項
五　救濟ニ關スル事項
六　進獻ニ關スル事項
七　恩給扶助料等ニ關スル事項
八　文書ノ接受發送ニ關スル事項
九　翻譯ニ關スル事項
十　統計報告ノ調製ニ關スル事項
十一　用度ニ關スル事項
十二　警察消防及衞生ニ關スル事項
十三　前各號ノ外他ノ主管ニ屬セサル事項

第十一條　宮内省ニ左ノ部局ヲ置ク

侍從職
式部職
宗秩寮
諸陵寮
圖書寮
侍醫寮
大膳寮
内藏寮
内匠寮
主馬寮

第十二條　侍從職ニ於テハ側近ノ事ヲ掌ル

第十三條　式部職ニ於テハ典式交際雅樂及狩獵ノ事ヲ掌ル

第十四條　式部職ニ掌典部及樂部ヲ置ク

掌典部ニ於テハ祭事ヲ掌リ樂部ニ於テハ樂事ヲ掌ル

第十五條　宗秩寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　皇族ニ關スル事項
二　皇族會議ニ關スル事項
三　王族及公族ニ關スル事項
四　爵位ニ關スル事項
五　華族ニ關スル事項
六　朝鮮貴族ニ關スル事項
七　有位者ニ關スル事項

第十六條　諸陵寮ニ於テハ陵墓ノ管理及調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　圖書寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　皇統譜ニ關スル事項
二　陵籍及墓籍ニ關スル事項
三　皇室典範詔書勅書皇室令其ノ他重要ナル文書ノ原本尙藏ニ關スル事項
四　世傳御料臺帳ニ關スル事項
五　天皇皇族王族及公族實錄ノ編修ニ關スル事項
六　王族譜公族譜及王公族ノ墓籍ニ關スル事項
七　圖書ノ保管出納ニ關スル事項
八　公文書類ノ編纂及保管ニ關スル事項

第十八條　侍醫寮ニ於テハ診候進藥及調劑ニ關スル事務ヲ掌ル

第十九條　大膳寮ニ於テハ供御及饗宴ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十條　内藏寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　御資會計及通常會計ニ關スル事項
二　特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
三　帝室經濟會議ニ關スル事項
四　金庫ニ關スル事項
五　前各號ノ外法令ノ規定ニ依リ特ニ主管ニ屬セシメラレタル會計ニ關スル事項

第二十一條　内匠寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　宮殿其ノ他建築物ノ保管監守ニ關スル事項
二　建築及土木ニ關スル事項
三　庭苑及園藝ニ關スル事項
四　電氣及寫眞ニ關スル事項

第二十二條　主馬寮ニ於テハ馬車馬匹自動車及牧場ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十三條　宮内省ニ左ノ職員ヲ置ク

次官
頭
參事官
祕書官
書記官
事務官
翻譯官
屬
技師
技手
皇宮警察長
皇宮警視
皇宮警部

第二十四條　次官ハ勅任トス大臣ヲ輔ケ省務ヲ整理ス

第二十五條　頭ハ宗秩寮ヲ除クノ外各寮ニ之ヲ置ク

頭ハ勅任トス寮務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第二十六條　參事官ハ專任三人内一人ヲ勅任二人ヲ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ庶般ノ調査及審議立案ヲ掌ル但シ特ニ大臣官房及各部局ノ事務ヲ助ケシムルコトヲ得

第二十七條　祕書官ハ專任一人奏任トス大臣ニ專屬シテ機密ニ屬スル事務ヲ掌ル但シ特ニ大臣官房ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十八條　書記官ハ專任四人奏任トス大臣官房ノ事務ヲ分掌ス

第二十九條　事務官ハ專任二十八人奏任トス内三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得各部局及宮號ヲ賜ハリタル皇族ニ分屬シテ事務ヲ分掌ス但シ特ニ大臣官房ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第三十條　翻譯官ハ專任二人奏任トス大臣官房ニ屬シ翻譯ノ事ヲ分掌ス

第三十一條　屬ハ判任トス大臣官房各部局及宮號ヲ賜ハリタル皇族ニ分屬シテ庶務ニ從事ス

第三十二條　技師ハ專任十六人奏任トス内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得技術ノ事ヲ分掌ス

第三十三條　技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十四條　皇宮警察長ハ奏任トス警察消防及衞生ノ事務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第三十五條　皇宮警視ハ專任三人奏任トス警察消防及衞生ノ事ヲ分掌ス

第三十六條　皇宮警部ハ判任トス警察消防及衞生ニ從事ス

第三十七條　侍從職ニ左ノ職員ヲ置ク

侍從長

侍從次長
侍從
内舍人

侍從長ハ親任又ハ勅任トス常侍奉仕シ便宜事ヲ奏シ旨ヲ宣ス

侍從長ハ職務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

侍從次長ハ勅任トス侍從長ヲ輔ケ侍從長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

侍從ハ專任十八人奏任トス内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得側近ノ事ヲ分掌ス

内舍人ハ判任トス内禁ノ雜務ニ從事ス

第三十八條　式部職ニ左ノ職員ヲ置ク

式部長官
式部次長
式部官
舍人
主獵官
獵場監守長
鷹師

式部長官ハ親任又ハ勅任トス典式ニ奉仕シ職務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

式部次長ハ勅任トス式部長官ヲ輔ケ式部長官事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

式部官ハ專任十八人勅任又ハ奏任トス内勅任ハ三人ヲ超ユルコトヲ得ス典式及接待ノ事ヲ分掌ス

式部官ハ之ヲ名譽官ト爲スコトヲ得

舍人ハ判任名譽官トス他ノ宮内判任官ヨリ兼任ス典式ニ關スル雜務ニ從事ス

主獵官ハ專任五人勅任又ハ奏任名譽官トス内勅任ハ二人ヲ超ユルコトヲ得ス狩獵ノ事ヲ掌ル

獵場監守長ハ判任トス獵場ノ管守ニ從事ス

鷹師ハ判任トス鷹隼ノ調習ニ從事ス

第三十九條　掌典部ニ左ノ職員ヲ置ク

掌典長
掌典次長
掌典
内掌典
掌典補

掌典長ハ勅任トス部務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

掌典次長ハ勅任又ハ奏任トス掌典長ヲ助ケ掌典長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

掌典ハ十二人奏任トシ名譽官ト爲スコトヲ得祭事ヲ分掌ス

内掌典及掌典補ハ判任トス内掌典ノ内一人ヲ奏任ト爲スコトヲ得共ニ祭典ニ從事ス

第四十條　樂部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
樂長
樂師

部長ハ奏任トス他ノ宮内奏任官ヨリ兼任ス部務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

樂長ハ專任二人奏任トス樂事ヲ分掌ス

樂師ハ判任トス奏樂ニ從事ス

第四十一條　宗秩寮ニ總裁ヲ置ク

總裁ハ親任又ハ勅任トス寮務ヲ統轄シ兼テ皇族王族及公族ニ附屬スル職員ヲ監督ス

第四十二條　諸陵寮ニ左ノ職員ヲ置ク

陵墓監
陵墓守長

陵墓監ハ專任六人奏任トス陵墓ノ管守ヲ分掌ス

陵墓守長ハ判任トス陵墓ノ管守ニ從事ス

第四十三條　圖書寮ニ左ノ職員ヲ置ク

編修官
編修官補

編修官ハ專任五人奏任トス編修ノ事ヲ分掌ス

編修官補ハ判任トス編修ニ從事ス

第四十四條　侍醫寮ニ左ノ職員ヲ置ク

侍醫
侍醫補
醫員
藥劑師長
藥劑師
藥劑員

侍醫ハ二十二人勅任又ハ奏任トス内勅任ハ八人ヲ超ユルコトヲ得ス診候及進藥ノ事ヲ分掌ス

侍醫補ハ奏任トス侍醫ノ定員内ヲ以テ之ヲ置ク侍醫ヲ助ク

醫員ハ判任トス醫務ニ從事ス

藥劑師長ハ一人奏任トス藥品ノ製造試驗及調劑ノ事ヲ掌ル

藥劑師ハ專任二人奏任トス藥劑師長ヲ助ク

藥劑員ハ判任トス藥品ノ製造試驗及調劑ニ從事ス

第四十五條　大膳寮ニ左ノ職員ヲ置ク

主膳監
主膳

主膳監ハ專任一人奏任トス膳羞ノ事ヲ掌ル

主膳ハ判任トス膳羞ニ從事ス

第四十六條　主馬寮ニ車馬監一人ヲ置ク奏任トス宮内技師ヨリ兼任ス車馬裝具ノ管守及馬匹ノ飼養調習ノ事ヲ掌ル

第四十七條　宮内省ニ宮中顧問官三十人ヲ置ク勅任名譽官トス大臣ノ諮詢ニ應シ又ハ臨時大臣ノ命ヲ承ケ省務ヲ輔ク

第四十八條　宮内判任官ノ定員ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第四十九條　大臣官房及各部局ノ分課ハ宮内大臣之ヲ定ム

第五十條　宮内大臣ハ主管ノ事務ニ關シ勅裁ヲ經テ顧問委員又ハ評議員ヲ置クコトヲ得

第五十一條　宮内大臣ハ須要ニ從ヒ勅任待遇奏任待遇及判任待遇ノ職ヲ置キ其ノ職制ヲ定ムルコトヲ得但シ奏任待遇以上ニ係ル者ノ職制ハ勅裁ヲ經ヘシ

第五十二條　宮内大臣事故アルトキハ臨時其ノ職務ヲ次官ニ代理セシムルコトヲ得但シ皇室典範又ハ皇室令ニ依リ公告ヲ爲シ公式令ニ依リ副署ヲ爲シ省令ヲ發シ及重要ノ省務ヲ敷奏スルハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　宮内大臣ハ部下ノ官吏ニ其ノ職務ノ一部ヲ委任スルコトヲ得

附　則

第五十四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●内大臣府官制

（明治四十年十一月一日皇室令第四號）

改正　明治四三年第三號、第五號、第二四號、大正三年第三號、六年第三號

朕内大臣府官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

内大臣府官制

第一條　内大臣府ニ於テハ御璽國璽ヲ尙藏シ及詔書勅書其ノ他内廷ノ文書ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　内大臣ハ親任トス常侍輔弼シ内大臣府ヲ統轄ス

第三條　内大臣ハ所部職員ノ敍位敍勳其ノ他進退ニ關スル事項ニ付テハ之ヲ宮内大臣ニ移牒スヘシ

第四條　内大臣府ニ左ノ職員ヲ置ク

祕書官長
祕書官
屬

第五條　祕書官長ハ一人勅任トス文書ノ事ヲ掌理ス

第六條　祕書官ハ專任二人奏任トス文書ノ事及庶務ヲ分掌ス

第七條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年太政官達第六十八號及明治二十三年宮内省達第二十三號ハ之ヲ廢止ス

●皇后宮職官制

（大正十年十月七日皇室令第八號）

朕皇后宮職官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

皇后宮職官制

第一條　宮内省ニ皇后宮職ヲ置ク

第二條　皇后宮職ハ皇后宮ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　皇后宮職ニ左ノ職員ヲ置ク

大夫
事務官
屬

第四條　大夫ハ勅任トス宮事ヲ掌理シ所部職員ヲ監督シ便宜事ヲ啓シ旨ヲ傳フ

第五條　事務官ハ專任二人奏任トス庶務ヲ分掌ス

第六條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第七條　皇后宮職ニ女官ヲ置ク

女官ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●皇太后宮職官制

（昭和元年十二月二十五日皇室令第一號）

朕皇太后宮職官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

皇太后宮職官制

第一條　宮内省ニ皇太后宮職ヲ置ク

第二條　皇太后宮職ハ皇太后宮ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　皇太后宮職ニ左ノ職員ヲ置ク

大夫
事務官
屬

第四條　大夫ハ勅任トス宮事ヲ掌理シ所部職員ヲ監督シ便宜事ヲ啓シ旨ヲ宣ス

第五條　事務官ハ專任二人奏任トス庶務ヲ分掌ス

第六條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第七條　皇太后宮職ニ女官ヲ置ク

女官ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ皇后宮大夫、皇后宮事務官又ハ皇后宮屬ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ皇太后宮大夫、皇太后宮事務官又ハ皇太后宮屬ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●皇族附職員官制

（大正三年七月二十日皇室令第五號）
改正　大正一一年第三號

朕皇族附職員官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

皇族附職員官制

第一條　宮號ヲ賜ハリタル皇族ニハ宮内事務官各一人及宮内屬ヲ分屬セシム

第二條　宮内事務官ハ所屬ノ皇族ニ關スル事務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第三條　宮内屬ハ所屬ノ皇族ニ關スル庶務ニ從事ス

第四條　宮號ヲ賜ハリタル親王ニハ特ニ別當ヲ附屬セシム

別當ハ各一人勅任トシ名譽官ト爲スコトヲ得所屬親王ヲ補翼シテ其ノ事務ヲ統理シ所部職員ヲ監督ス

第五條　皇族附職員ハ宮内大臣之ヲ統督ス

第六條　本令ハ宮號ヲ賜ハリタル未成年ノ皇子ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●親王ニ非サル皇族ニ宮務監督ヲ附屬セシムルノ件

（明治四十五年七月十日宮内省令第八號）
改正　大正三年第一三號、四年第九號、一一年第六號

親王ニ非サル皇族ニ【家務】監督ヲ附屬セシムルノ件勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

第一條　親王ニ非サル皇族ニハ宮務監督ヲ附屬セシムルコトヲ得

第二條　宮務監督ハ勅任待遇名譽職トス所屬ノ皇族ヲ補翼シ之ニ附屬スル職員ヲ監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝室會計審査局官制

（大正十年十月七日皇室令第十號）

朕帝室會計審査局官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

帝室會計審査局官制

第一條　宮内省ニ帝室會計審査局ヲ置ク

第二條　帝室會計審査局ハ會計審査ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
事務官
審査官
審査官補
屬

第四條　長官ハ勅任トス局務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第五條　事務官ハ一人奏任トス審査官ヲシテ之ヲ兼ネシム庶務ヲ掌ル

第六條　審査官ハ六人奏任トス會計審査ノ事ヲ分掌ス

第七條　審査官補ハ奏任トス審査官ノ定員内ヲ以テ之ヲ置ク審査官ヲ助ク

第八條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第九條　長官ハ主管ノ部局長官ニ會計ノ審査上必要ナル書類ノ提出ヲ求メ又ハ樣式ヲ示シテ必要ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第十條　長官ハ會計上不明瞭又ハ不合規ノ件アルコトヲ認メタルトキハ主管ノ部局長官ニ推問書ヲ發シ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第十一條　長官ハ審査官又ハ審査官補ヲシテ主管ノ部局ニ就キ書類帳簿計表現金物件及工事ノ實況等ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十二條　長官ハ毎年審査ノ成績ヲ上奏シ會計ニ關シ改正ヲ必要トスル事項アルコトヲ認メタルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十三條　會計ノ審査ニ付テハ宮内大臣ノ干渉ヲ受クルコトナシ

第十四條　會計ノ審査ニ關スル規程ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝室林野局官制

（大正十年十月七日皇室令第十一號）
改正　大正一三年第八號　昭和二年第四號

朕帝室林野管理局官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

帝室林野局官制

第一條　帝室林野局ハ宮内大臣ノ管理ニ屬シ土地及林野ノ管理經營ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　帝室林野局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
次長
事務官
事務官補
屬
技師
技手

第三條　長官ハ勅任トス局務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第四條　次長ハ勅任トス長官ヲ補ケ長官事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　事務官ハ專任十人奏任トス内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得庶務ヲ分掌ス

第五條ノ二　事務官補ハ奏任トス事務官ノ定員内ヲ以テ之ヲ置ク事務官ヲ助ク

第六條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第七條　技師ハ專任四十人奏任トス内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得技術ノ事ヲ分掌ス

第八條　技手ハ判任トス技術ニ從事ス

第九條　帝室林野局ニ支局ヲ置キ支局ニ出張所ヲ置ク其ノ名稱位置及管轄區域ハ宮内大臣之ヲ定ム

支局長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充テ出張所長ハ事務官補屬技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　帝室林野局ニ林業試驗場ヲ置ク

林業試驗場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　支局長出張所長及林業試驗場長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ廳務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十三年皇室令第八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ帝室林野管理局ノ長官、事務官、事務官補、屬、技師、技手及技手補ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各帝室林野局ノ長官、事務官、事務官補、屬、技師、技手及技手補ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

他ノ皇室令竝宮内省令及宮内省告示中「帝室林野管理局」ヲ「帝室林野局」ニ改ム

●帝室林野局臨時職員官制

（大正十四年五月六日皇室令第六號）

朕帝室林野局臨時職員官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

帝室林野局臨時職員官制

御料地ノ整理ニ關スル事務等ニ從事セシムル爲帝室林野局ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

一　御料地ノ整理ニ關スル事務ニ從事スル職員

事務官補	專任	二人	奏任
技師	專任	一人	奏任
屬 技手	專任	四十八人	判任

二　御料地ノ調査及測量ニ關スル事務ニ從事スル職員

技師	專任	一人	奏任
技手	專任	十九人	判任
技手補	專任	二人	判任待遇

三　森林鐵道ノ調査設計及工事ニ從事スル職員

技師	專任	二人	奏任
技手	專任	十二人	判任

四　臨時伐木事業ニ從事スル職員

技手	專任	九人	判任
技手補	專任	三人	判任待遇

五　臨時造林事業ニ從事スル職員

技手	專任	七人	判任

六　臨時砂防工事ニ從事スル職員

技手	專任	二人	判任

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●御歌所官制

（大正十年十月七日皇室令第十三號）

朕御歌所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

御歌所官制

第一條　宮内省ニ御歌所ヲ置ク

第二條　御歌所ハ御製御歌及歌御會ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　御歌所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
主事
錄事

第四條　所長ハ勅任トス他ノ宮内勅任官ヨリ兼任ス所務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第五條　主事ハ一人奏任トス他ノ宮内奏任官ヨリ兼任ス庶務ヲ掌ル

第六條　錄事ハ判任トス庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學習院官制

（大正十二年四月二日皇室令第五號）
改正　大正一四年第五號、一五年第五號

朕學習院官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

學習院官制

第一條　學習院ハ宮内大臣ノ管理ニ屬シ學習院學制ノ定ムル所ニ依リ學生教育ノ事ヲ掌ル

第二條　學習院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
教授
助教授
事務官
學生監
書記

第三條　院長ハ勅任トス院務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第四條　教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス學生ノ教育ヲ分掌ス

教授及助教授ハ通シテ專任七十一人トス内勅任教授ハ四人ヲ、勅任教授及奏任教授ハ合セテ五十一人ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　事務官ハ專任一人奏任トス院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條　學生監ハ一人奏任トス教授ヨリ兼任ス學生ノ紀律ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　學習院ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ニハ宮内大臣ノ奏薦ニ依リ學習院名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

學習院名譽教授ハ勅任官ノ待遇ヲ享ク

附　則

本令ハ大正十二年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

●女子學習院官制

（大正十二年四月二日皇室令第六號）

朕女子學習院官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

女子學習院官制

第一條　女子學習院ハ宮内大臣ノ管理ニ屬シ女子學習院學制ノ定ムル所ニ依リ學生教育ノ事ヲ掌ル

第二條　女子學習院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
教授
助教授
事務官
學生監
書記

第三條　院長ハ勅任トス院務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第四條　教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス學生ノ教育ヲ分掌ス但シ特ニ幼兒ノ保育ヲ分掌セシムルコトヲ得

教授及助教授ハ通シテ專任五十八人トス内勅任教授ハ一人ヲ、勅任教授及奏任教授ハ合セテ三十一人ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　事務官ハ一人奏任トス教授ヨリ兼任ス院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條　學生監ハ一人奏任トス教授ヨリ兼任ス學生ノ紀律ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十二年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

●帝室博物館官制

（大正十年十月七日皇室令第十四號）
改正　大正一三年第五號、一四年第一一號

朕帝室博物館官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

帝室博物館官制

第一條　宮内省ニ帝室博物館ヲ置ク

第二條　帝室博物館ハ古今ノ技藝品ヲ蒐集シ公衆ノ觀覽ニ供スル所トス

第三條　帝室博物館ハ之ヲ東京及奈良ニ置ク

第四條　帝室博物館ニ左ノ職員ヲ置ク

總長
事務官
鑑査官
鑑査官補
屬
技手

第五條　總長ハ勅任トス各帝室博物館及正倉院ニ關スル事務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第六條　事務官ハ專任二人奏任トス庶務ヲ分掌ス

第七條　鑑査官ハ專任五人奏任トス列品ノ鑑査解說陳列及保管ニ關スル事務ヲ分掌ス

第八條　鑑査官補ハ判任トス鑑査官ヲ助ク

第九條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第十條　技手ハ判任トス技術ニ從事ス

第十一條　奈良帝室博物館ニ館長ヲ置ク

館長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ館務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●李王職官制

（明治四十三年十二月三十日皇室令第三十四號）
改正　大正四年第五號、五年第一號、九年第三號、一〇年第三號、一一年第九號、一五年第三號

朕李王職官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

李王職官制

第一條　李王職ハ宮内大臣ノ管理ニ屬シ王族及公族ノ家務ヲ掌ル

第二條　李王職ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
次官
事務官
贊侍
典祀

典醫
技師
通譯官
屬
典祀補
典醫補
技手

第三條　長官ハ一人勅任トス李王職一切ノ事務ヲ總理シ所部職員ヲ指揮監督ス

第四條　次官ハ一人勅任トス長官ヲ輔ケ李王職ノ事務ヲ整理シ長官事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　事務官ハ專任十人奏任トス內三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得庶務ヲ分掌ス

第六條　贊侍ハ專任六人奏任トス內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得李王ニ近從シ身側ノ事ヲ分掌ス

第七條　典祀ハ專任四人奏任トス名譽官ト爲スコトヲ得祭祀及墳塋ニ關スル事務ヲ分掌ス

第八條　典醫ハ專任三人奏任トス診候及調藥ノ事ヲ分掌ス

第九條　技師ハ專任一人奏任トス技術ノ事ヲ掌ル

第九條ノ二　通譯官ハ專任一人奏任トス通譯ノ事ヲ掌ル

第十條　屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第十一條　典祀補ハ判任トス祭祀ニ從事ス

第十二條　典醫補ハ判任トス醫務ニ從事ス

第十三條　技手ハ判任トス技術ニ從事ス

第十四條　李王職ニ掌侍司ヲ置キ贊侍六人典醫二人屬及典醫補ヲ分屬セシム

掌侍司ニ掌侍司長ヲ置キ掌侍司ノ贊侍ヲ以テ之ニ充ツ

掌侍司長ハ上官ノ命ヲ承ケ李王ノ身側及其ノ典醫ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十五條　故李王妃ニハ事務官二人典醫一人屬及典醫補ヲ公族ニハ事務官各一人及屬ヲ分屬セシム

附　則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年皇室令第三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際李王職事務官ニ任セラルル者ニ付テハ宮內官官等俸給令第三條第一項乃至第三項ノ規定ヲ適用セス

●李王職判任官定員

（明治四十三年十二月三十日宮內省令第十六號）

改正　大正四年第三號、五年第三號、九年第三號、一〇年第四號、一一年第九號

李王職判任官ノ定員勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

李王職屬	三十六人
李王職典祀補	十四人
李王職典醫補	三人
李王職技手	八人

附　則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●故李王妃及公族ニ分屬スル李王職判任官定員

（大正九年四月八日宮內省令第四號）

改正　大正一一年第一〇號、一二年第六號、一五年第四號

故李王妃ニ分屬スル李王職屬ハ二人李王職典醫補ハ一人トシ公族ニ分屬スル李王職屬ハ通シテ八人トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年宮內省令第十七號ハ之ヲ廢止ス

●朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ニ關スル件

（明治四十三年十二月三十日皇室令第三十九號）

朕朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣及總理大臣副署）

第一條　朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

第二條　朝鮮總督ニ於テ朝鮮ニ在勤スル李王職職員宮內官懲戒令ニ依リ免官又ハ減俸ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ李王職職員懲戒委員ノ審査ニ付スヘシ

第三條　朝鮮ニ在勤スル李王職職員ノ免官及減俸ハ李王職職員懲戒委員ノ議決ヲ具シテ朝鮮總督之ヲ宮內大臣ニ移牒ス

第四條　朝鮮ニ在勤スル李王職職員ノ譴責ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第五條　李王職職員懲戒委員ハ五人トシ朝鮮總督府高等官及李王職高等官ノ內ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

附　則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時帝室編修局設置

（大正三年十二月一日皇室令第二十二號）

改正　大正五年第七號、七年第三號、一〇年第一五號

朕宮內省ニ臨時編修局ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

第一條　明治天皇紀ヲ編修セシムル爲宮內省ニ臨時帝室編修局ヲ置ク

第二條　臨時帝室編修局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁
副總裁
事務官
編修官長
編修官
編修官補
書記

第三條　總裁ハ親任待遇トス局務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

第四條　副總裁ハ一人勅任待遇トス本官アル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ享ク總裁ヲ補ク

第五條　事務官ハ一人奏任トス庶務ヲ掌ル

第六條　編修官長ハ一人勅任トス史料ノ蒐集及編纂ノ事ヲ掌ル

第七條　編修官ハ三人奏任トス內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得史料ノ蒐集及編纂ノ事ヲ分掌ス

第八條　編修官補ハ判任トス史料ノ蒐集及編纂ニ從事ス

第九條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　臨時帝室編修局ニ顧問ヲ置キ宮內大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

第十一條　總裁ハ編修規程及功程ヲ定メテ宮內大臣ノ承認ヲ經ヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宮內判任官定員

（大正十一年十二月一日宮內省令第十九號）

改正　大正一二年第二號、第一八號、一三年第一號、皇室令第八號、省令第五號、一四年第二號、第七號、第八號、昭和元年第一號、二年第二號、第七號、第八號

宮內判任官ノ定員勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

宮內屬	二百三十七人
宮內技手	百五十二人
皇宮警部	二十五人
內舍人	二十八人
獵場監守長	三人
鷹師	一人
內掌典	六人
掌典補	七人
樂師	五十人
陵墓守長	四十八人
圖書寮編修官補	六人
醫員	五人
藥劑員	十人
主膳	十六人
內大臣屬	三人
皇后宮屬	八人
皇太后宮屬	八人
帝室會計審査局屬	十二人
帝室林野局屬	七十七人
帝室林野局技手	三百五十人
御歌所錄事	三人
學習院書記	十一人
女子學習院書記	七人
帝室博物館鑑査官補	十四人
帝室博物館屬	八人
帝室博物館技手	三人
臨時帝室編修官補	十二人
臨時帝室編修局書記	一人

他官ヨリ兼任スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年宮內省令第十五號及大正七年宮內省令第二號ハ之ヲ廢止ス

●震災復舊事務ニ從事セシムル爲宮內技手及宮內技手補臨時增置ノ件

（大正十四年六月二十三日宮內省令第三號）

震災復舊事務ニ從事セシムル爲宮內技手及宮內技手補臨時增置ノ件勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

震災復舊事務ニ從事セシムル爲當分ノ間臨時左ノ職員ヲ增置シ內匠寮ニ分屬セシム

一　宮內技手　專任　五人　判任
二　宮內技手補　專任　六人　判任待遇

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●勅任待遇奏任待遇宮內職員職制

（大正十年十月七日宮內省令第十號）

改正　大正一一年第四號、一三年第二號

勅任待遇奏任待遇宮內職員職制勅裁ヲ經テ左ノ通改正ス

勅任待遇奏任待遇宮內職員職制

第一條　內匠寮ニ殿掌ヲ置ク

殿掌ハ十人奏任待遇トス京都所在ノ宮殿勤番ノ事ヲ分掌ス

第二條　御歌所ニ御歌所寄人及御歌所參候ヲ置ク

御歌所寄人ハ七人勅任待遇又ハ奏任待遇名譽職トス歌詠ニ關スル編纂選述ノ事ヲ分掌ス

御歌所參候ハ十人奏任待遇名譽職トス歌詠ノ事ヲ分掌ス

第三條　帝室博物館ニ帝室博物館評議員及帝室博物館學藝委員ヲ置ク

帝室博物館評議員ハ四人勅任待遇又ハ奏任待遇名譽職トス博物館ニ關スル事項ニ付宮內大臣又ハ帝室博物館總長ノ諮問ニ應ス

帝室博物館學藝委員ハ十人奏任待遇名譽職トス列品ノ鑑査解說及編纂著譯ヲ分掌ス

第三條ノ二　李王職ニ雅樂師長ヲ置ク

雅樂師長ハ一人奏任待遇トス樂事ヲ掌ル

第四條　事務ノ須要ニ從ヒ御用掛ヲ置クコトヲ得

御用掛ハ本官アル者ヲ除クノ外勅任待遇又ハ奏任待遇トシ名譽職ト爲スコトヲ得

本官アル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ享ク

第五條　奏任待遇宮內職員ノ中御歌所寄人及御用掛ノ待遇相當官等ハ高等官三等乃至七等トス

第六條　殿掌雅樂師長及御用掛ノ俸給ハ年俸トシ左ノ定限ニ依ル

殿掌	八百圓以下
雅樂師長	千八百圓以下
勅任待遇御用掛	五千圓以下
奏任待遇御用掛	三千五百圓以下

第七條　宮內官官等俸給令第十五條乃至第十九條及第二十二條乃至第二十四條中高等官ニ關スル規定ハ本令ノ職員ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●判任待遇宮內職員職制

（大正十年十月七日宮內省令第十一號）

改正　大正一一年第五號、第一七號、第二〇號、一二年第三號、第一六號、一三年皇室令第八號、一四年省令第四號、第九號、第一一號、一五年第一號、第三號、昭和二年第一號、第三號

判任待遇宮內職員職制左ノ通改正ス

判任待遇宮內職員職制

第一條　宮內省ニ技手補百二十八人ヲ置ク

技手補ハ大臣官房及各部局ニ分屬シテ技術ニ從事ス

第二條　皇宮警察部ニ皇宮警手ヲ置ク

皇宮警手ハ四百九十三人警察消防及衞生ニ從事ス

第三條　式部職ニ獵場監守鷹匠及鵜匠頭ヲ置ク

獵場監守ハ專任二十人獵場ノ管守ニ從事ス

獵場監守ハ名譽職ト爲スコトヲ得

鷹匠ハ九人鷹隼ノ調習ニ從事ス

鵜匠頭ハ二人漁獵ニ從事ス

第四條　諸陵寮ニ陵墓守部ヲ置ク

陵墓守部ハ二百三十二人陵墓ノ管守ニ從事ス

第五條　大膳寮ニ膳手及廚司長ヲ置ク

膳手ハ專任十六人膳羞ノ雜務ニ從事ス

廚司長ハ二人供御ノ調理ニ從事ス

第六條　內匠寮ニ殿部ヲ置ク

殿部ハ四十五人宮殿監守ノ雜務ニ從事ス

第七條　帝室林野局ニ技手補ヲ置ク

技手補ハ九十二人技術ニ從事ス

第八條　李王職ニ參奉雅樂師及雅樂手長ヲ置ク

參奉ハ六十五人墳塋ノ管守及祭祀ニ從事ス

參奉ハ名譽職ト爲スコトヲ得

雅樂師ハ二人雅樂手長ハ八人共ニ奏樂ニ從事ス

第九條　技手補皇宮警手獵場監守鷹匠鵜匠頭陵墓守部膳手廚司長殿部參奉雅樂師及雅樂手長ハ判任待遇トス

第十條　前條ノ職員ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル但シ獵場監守鵜匠頭及陵墓守部ノ俸給ハ特ニ年俸ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ獵場監守及鵜匠頭ノ俸給ハ年額六百圓陵墓守部ノ俸給ハ年額三百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

一　技手補獵場監守鷹匠及雅樂師　百二十圓以下
二　皇宮警手及雅樂手長　八十圓以下
三　鵜匠頭陵墓守部膳手及殿部　七十圓以下
四　廚司長　二百三十圓以下
五　參奉　五十圓以下

第十一條　宮內官官等俸給令第十五條乃至第二十四條ノ規定ハ本令ノ職員ニ之ヲ準用ス

本令ノ職員ニシテ月俸ヲ給スル者ニ在リテハ一月三十五圓以內ノ加俸ヲ給スルコトヲ得加俸ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

第十二條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本令施行ノ際現ニ電信手防疫員蹄鐵手及技手補ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ宮內技手補ニ同俸給ヲ以テ採用セラレタルモノトス

第十四條　本令施行ノ際第十條ニ定ムル定限ヲ超エタル俸給ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給ト同額ノ俸給ヲ受クルモノトス

第十五條　判任待遇職員ニシテ本令施行ノ際雇員ニ採用セラルル者ハ特ニ判任待遇トス

附　則（大正十二年宮內省令第十六號）

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年九月三十日現在ニ於テ官吏恩給、軍人恩給、學校職員退隱料及巡査看守退隱料ヲ受クル判任待遇宮內職員ノ俸給ノ支給ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●皇宮警察部及同出張所設置

（大正十年十月七日宮內省令第十二號）

改正　大正一四年第一〇號

皇宮警察部及同出張所設置ノ件左ノ通定ム

第一條　警察消防及衞生ノ事ヲ掌ラシムル爲宮內大臣官房ニ皇宮警察部ヲ置ク

第二條　皇宮警察部ニ部長ヲ置ク

部長ハ皇宮警察長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　京都ニ皇宮警察部出張所ヲ置ク

出張所ニ所長ヲ置キ皇宮警視ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●內匠寮出張所設置

（大正十年十月七日宮內省令第十三號）

內匠寮出張所設置ノ件左ノ通定ム

京都ニ內匠寮出張所ヲ置ク

出張所ニ所長ヲ置キ宮內事務官ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宮內官考査委員會官制

（大正十年十月七日皇室令第十六號）

朕宮內官考査委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

宮內官考査委員會官制

第一條　宮內省ニ宮內官考査委員會ヲ置ク

第二條　宮內官考査委員會ハ宮內官任用令宮內官懲戒令其ノ他皇室令又ハ宮內省令ヲ以

テ其ノ管掌ニ屬セシメタル事務ヲ掌ル

第三條　宮内官考査委員會ニ委員長一人委員九人ヲ置ク

委員長及委員六人ハ宮内勅任官委員三人ハ宮内奏任官ノ中ヨリ宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第四條　宮内官考査委員會ハ左ノ區別ニ從ヒ委員長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

一　勅任官ニ關スル事項ニ付テハ委員ノ全員ヲ勅任官トス

二　奏任官以下ニ關スル事項ニ付テハ委員三人ハ勅任官三人ハ奏任官トス

前項第二號ノ事項ニ付職務ヲ行フヘキ勅任官タル委員ハ宮内大臣豫メ之ヲ指定ス

第五條　第三條ノ外豫備委員四人ヲ置ク内二人ハ宮内勅任官二人ハ宮内奏任官ノ中ヨリ宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第六條　委員長ハ會務ヲ掌理シ會議ノ議長ト爲リ其ノ議決ヲ宮内大臣ニ具申ス

第七條　懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ委員會ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始リタルトキハ判決確定ニ至ル迄委員會ノ開會ヲ停止ス

第八條　委員會ハ懲戒事件ニ付必要ト認ムルトキハ本人ノ出頭ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本官相當ノ旅費ヲ給ス

第九條　委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事項ノ審議ニ參與スルコトヲ得ス

第十一條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員事故アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ之ヲ補充ス

第十二條　宮内官考査委員會ニ幹事一人及書記二人ヲ置ク

第十三條　幹事ハ宮内高等官書記ハ宮内判任官ノ中ヨリ宮内大臣之ヲ命ス

第十四條　幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

書記ハ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宗秩寮審議會官制

大正十年十月七日
皇室令第十七號
改正　大正一五年第一九號

朕宗秩寮審議會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内、總理大臣副署）

宗秩寮審議會官制

第一條　宗秩寮ニ審議會ヲ置ク

審議會ハ皇族ニ關スル重要ノ事項ニ付諮詢ニ應シ意見ヲ上奏ス

審議會ハ華族ノ懲戒及禮遇停止ノ解除ヲ審議シ幷テ華族及朝鮮貴族ニ關スル重要ノ事項ニ付宮内大臣ノ諮問ニ應ス

第二條　審議會ハ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　宗秩寮審議官ハ左ニ揭クル者ニ就キ宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

一　樞密顧問官　三人
二　宮内勅任官　四人
三　有爵者　五人（公侯伯子男各一人）

宗秩寮審議官ハ官吏ヨリ命セラレタル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ享ケ有爵者ヨリ命セラレタル者ハ勅任官ノ待遇ヲ享ク

第四條　審議會ノ議長ハ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ノ内上席者ヲ以テ之ニ充ツ

議長事故アルトキハ次席者之ヲ代理ス

第五條　審議會ハ審議官過半數ノ出席アルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宗秩寮審議會規則

明治四十三年九月十二日
宮内省令第十一號

宗秩寮審議會規則左ノ通定ム

宗秩寮審議會規則

第一條　審議會ハ議長之ヲ招集ス

第二條　審議會ヲ開クトキハ緊急ヲ要スル場合ヲ除クノ外會日ヨリ少クトモ三日前ニ議案ヲ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ニ配付スヘシ

第三條　審議會ノ議事ハ出席者ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四條　宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ニシテ審議ノ事項ニ付キ特別ノ關係ヲ有スルトキハ審議會ニ出席シ又ハ決議ニ加ハルコトヲ得ス

前項特別ノ關係ノ有無ニ付キ疑議アルトキハ審議會之ヲ決ス

第五條　宮内大臣ハ審議會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ又ハ宮内高等官ヲシテ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　審議會ハ其ノ決議ニ依リ宮内大臣ヲ經テ懲戒事件ノ本人ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第七條　審議會ノ決議ヲ上奏シタルトキハ其ノ書面ノ謄本ヲ宮内大臣ニ送付スヘシ

第八條　審議會ノ議事ハ祕密トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學習院評議會規程

大正五年一月二十二日
宮内省令第一號
改正　大正七年第五號、八年第一號

學習院評議會規程勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

學習院評議會規程

第一條　學習院ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲學習院評議會ヲ置ク

第二條　學習院評議會ハ宮内大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ述フルモノトス

第三條　學習院評議會ハ宮内大臣ニ建議スルコトヲ得

第四條　學習院評議會ノ會員ハ二十一人トシ左ノ區分ニ依ル

一　宮内高等官及同待遇職員　五人
二　有爵者　十人
三　教育ニ經驗アル者　六人

第五條　學習院評議會會員ハ勅任待遇トス官職アル者ハ其ノ官職ノ待遇ヲ享ク

第六條　學習院評議會ノ議長ハ學習院評議會會員中ヨリ之ヲ勅命ス

第七條　議長ハ會務ヲ總理シ學習院評議會ノ決議ヲ宮内大臣ニ具申ス

議長事故アルトキハ會員中ノ上席者其ノ事務ヲ代理ス

第八條　學習院評議會ニ幹事二人及書記若干人ヲ置ク

幹事ハ宮内高等官書記ハ宮内判任官ノ中ヨリ宮内大臣之ヲ命ス

幹事ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宮内省恩給審査會規則

大正十二年九月二十九日
宮内省令第十三號

宮内省恩給審査會規則勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

宮内省恩給審査會規則

第一條　宮内省恩給審査會ハ宮内大臣ノ監督ニ屬シ宮内省恩給令第十五條、第三十一條及第三十二條ノ規定ニ依リ又ハ臨時宮内大臣ノ諮問ニ應シ恩給ニ關スル事項ヲ審査ス

第二條　審査會ハ會長一人委員十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ審査スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長、委員及臨時委員ハ宮内高等官、同待遇職員及學識經驗アル者ノ中ヨリ宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ宮内大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　審査會ノ會議ハ委員及臨時委員ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

審査會ノ議決ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條　審査會ニ幹事及書記ヲ置ク

第七條　幹事ハ宮内高等官書記ハ宮内判任官ノ中ヨリ宮内大臣之ヲ命ス

第八條　幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル書記ハ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　各省官制通則

●各省官制通則

明治二十六年十月三十一日
勅令第百二十二號
改正　明治三一年第二五七號、三二年第二五四號、三三年第一六一號、三五年第六〇號、三六年第二〇八號、四一年第二二四號、大正三年第二〇七號、九年第一四三號、一三年第一七六號、第三一一號、一四年第三五號

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

各省官制通則

第一條　本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、遞信及鐵道ノ各省ニ適用ス

第二條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條　各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス

第八條　各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ敍位敍勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條　削除

第十條　各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項
二　官吏ノ進退身分ニ關スル事項
三　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
四　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
五　統計報告ノ調製ニ關スル事項
六　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
七　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算竝會計ニ關スル事項
八　會計ノ監査ニ關スル事項
九　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項
十　其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ハ各局ニ於テ又ハ特ニ局ヲ設ケテ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第十一條　削除

第十二條　各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條　大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條　各省ニ左ノ職員ヲ置ク

政務次官
次官
參與官
局長
祕書官
書記官
屬

第十四條ノ二　各省政務次官ハ一人勅任トス

第十四條ノ三　政務次官ハ大臣ヲ佐ケ政務ニ參畫シ帝國議會トノ交涉事項ヲ掌理ス

第十五條　各省次官ハ一人勅任トス

第十六條　次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

第十七條　各省參與官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ帝國議會トノ交涉事項其ノ他ノ政務ニ參與ス

第十八條　各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條　削除

第二十條　削除

第二十一條　祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密ノ事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク

第二十二條　書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

第二十三條　各省專任祕書官ハ一人トス

第二十四條　大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條　削除

第二十七條　本則ニ揭クルモノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

書記官、屬及前項ノ規定ニ依ル職員ノ定員ハ各省官制ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第二十八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●二省以上交涉ノ事項ニ關スル件

明治四十一年十月二十二日
勅令第二百六十六號
改正　明治四一年第三〇七號、大正元年第三五號、九年第一五二號、一〇年第四八〇號、一二年第一二四號

朕二省以上交涉ノ事項ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務、農商務、遞信、文部大臣副署）

第一條　軌道條例ニ依リ内務大臣ノ特許ヲ受ケ一般運輸ノ業ヲ營マムトスル者ハ鐵道大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　產業講習所ニ關スル規程ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更セムトスルトキハ農商務大臣ハ文部大臣ニ協議スヘシ

第三條　實業學校ニ關スル規程ヲ定メ又ハ廢止變更セムトスルトキハ文部大臣ハ農商務大臣ニ協議スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●獨逸國等トノ平和條約ニ依ル國際機關ノ事務處理ノ爲派遣スル官吏等ニ關スル件

大正九年六月二十二日
勅令第百八十六號
改正　大正九年第四一四號、一五年第三四一號、昭和二年第二〇二號

朕獨逸國等トノ平和條約ニ依ル國際機關ノ事務處理ノ爲派遣スル官吏等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、大藏大臣副署）

第一條　獨逸國等トノ平和條約ニ依ル國際機關ノ事務處理ノ爲在職官吏ヲ常時外國ニ滯在セシムルコトヲ得

前項ノ官吏ハ前項ノ事務ノ處理ニ付テハ外務大臣ノ指揮監督ヲ承ク但シ國際勞働理事會ニ於ケル帝國政府代表者ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第二條　前條ノ官吏ハ其ノ派遣中現役軍人又ハ在職ノ判事若ハ檢事ニ在リテハ定員外トシ其ノ他ノ在職官吏ニ在リテハ臨時其ノ官ヲ增置セラレタルモノトス但シ國際勞働理事會ニ於ケル帝國政府代表者タル國際勞働機關帝國事務所長ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　第一條ノ官吏ノ給與ニ關シテハ在外公館費用條例ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ親任官ハ特命全權大使ニ、高等官一等ノ者ハ特命全權公使ニ、高等官二等ノ者ハ大使館參事官ニ、高等官三等又ハ四等ノ者ハ大使館又ハ公使館ノ一等書記官ニ、高等官五等ノ者ハ大使館又ハ公使館ノ二等書記官ニ、高等官六等ノ者ハ大使館又ハ公使館ノ三等書記官ニ、高等官七等以下ノ奏任官ハ外交官補ニ、判任官ハ外務書記生ニ該當スルモノト看做ス

前項ノ官吏其ノ該當官ニ付在勤俸ノ定ナキ地ニ滯在スル場合ニ於テハ其ノ在勤俸ハ外務大臣ノ定ムル最寄國ニ於ケル該當官ノ在勤俸ニ依ル

第四條　前條ノ規定ノ適用ニ付テハ在勤俸ノ額及他ノ給與ノ規準タル在勤俸ノ額ハ外務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ在外公館費用條例別表第一號ニ揭クル金額ヨリ四分ノ一以內ヲ減シタル額ト爲スコトヲ得

第五條　第一條ノ事務處理ノ爲官吏ニ非サル者ヲ常時外國ニ滯在セシムル場合ニ於ケル其ノ者ノ給與ニ關シテハ前二條ノ規定ニ準シ外務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●戰時事變ノ際臨時特設部局又ハ陸海軍部隊配屬文官補闕ノ件

（明治三十八年二月二十八日勅令第四十三號）

朕戰時又ハ事變ニ際シ臨時特設ノ部局又ハ陸海軍ノ部隊ニ配屬セシメタル文官補闕ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

戰時又ハ事變ニ際シ臨時特設ノ部局又ハ陸海軍ノ部隊ニ配屬セシメタル文官ハ之ヲ所屬官廳ノ定員外トシ其ノ補闕ヲ爲スコトヲ得

●官廳公務上在外公使領事ヘ交涉手續

（明治二十五年五月二十六日閣令第四號）

各官廳ニ於テ公務上在外公使領事ヲ煩ハサヽルヲ得サルコトアル時ハ事ノ大小ヲ論セス總テ之ヲ外務大臣ヘ照會又ハ稟請スヘシ

但豫メ外務大臣ノ承諾ヲ經テ直接通信ヲ爲スハ此限ニアラス

第五款　外務省及其所管

●外務省官制

（明治三十一年十月二十二日勅令第二百五十八號）

改正　明治三三年第五九號、第一九〇號、三五年第六一號、三六年第二〇九號、三九年第一九五號、四一年第九四號、四四年第二〇八號

大正二年第一三九號、三年第二〇八號、六年第七六號、七年第二二一號、八年第三一九號、九年第二八四號、第四九二號、一〇年第三八三號、一一年第三三五號、一二年第一〇二號、一三年第一七七號、第三一二號、一五年第一一四號

昭和二年第一八八號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

外務省官制

第一條　外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ指揮監督ス

外務大臣ハ外交ニ關スル事項ニ付關東長官ヲ指揮監督ス

外務大臣ハ對支文化事業ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官、領事官、外國人叙勳、條約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　外務省專任書記官ハ十八人ヲ以テ定員トス

第四條　外務省ニ左ノ四局ヲ置ク

亞細亞局

歐米局

通商局

條約局

第五條　亞細亞局ニ於テハ支那國、香港、澳門及暹羅國ニ關スル外交事務ヲ掌ル

第六條　歐米局ニ於テハ亞細亞局ノ掌ラサル外交事務ヲ掌ル

第七條　通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　條約局ニ於テハ條約及涉外法規事項ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條　情報ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲外務省ニ情報部ヲ置ク

情報部ニ部長一人ヲ置ク勅任トス外務大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十條　對支文化事業ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲外務省ニ文化事業部ヲ置ク

文化事業部ニ部長一人ヲ置ク部長ハ外務部內ノ高等官ヲ以テ之ニ充ツ外務大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十一條　外務省ニ外務事務官專任四十二人及外務理事官專任七人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十二條　外務省ニ翻譯官專任七人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ文書翻譯ヲ掌ル

第十三條　外務省ニ電信官專任三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ電信符號ニ關スル事項ヲ掌ル

第十四條　外務省ニ技師專任一人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十五條　外務屬ノ定員ハ專任百三十八人トス

第十六條　外務省ニ翻譯官補專任三人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通譯ニ從事ス

第十七條　外務省ニ技手專任九人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ電信、建築其ノ他技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外務部內臨時職員設置ノ件

（昭和二年六月二十三日勅令第百八十九號）

朕外務部內臨時職員設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

記錄整理及編纂ニ關スル事務ニ從事セシムル爲外務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ大臣官房ニ屬セシム

事務官　專任一人

屬　專任三人

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●對支文化事業調査會官制

（大正十二年十二月二十八日勅令第五百二十七號）

改正　大正一三年第三一四號

昭和二年第一九〇號

朕對支文化事業調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

對支文化事業調査會官制

第一條　對支文化事業調査會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シ對支文化事業ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ對支文化事業ニ關スル事項ニ付外務大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　調査會ハ會長一人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　會長ハ外務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ノ任期ハ四年トス但シ任期中解任スルコトヲ妨ケス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ外務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　調査會ニ幹事長一人及幹事若干人ヲ置ク

幹事長ハ外務省文化事業部長ヲ以テ之ニ充ツ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス會長及幹事長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　調査會ニ書記ヲ置ク外務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外交官及領事官官制

（明治三十二年六月二十日勅令第二百八十號）

改正　明治三三年第二一九號、三六年第一五七號、第二八六號、三八年第二四四號、四一年第二六三號、四二年第二〇八號、四四年第二〇四號

大正二年第二九一號、四年第一三六號、七年第二二三號、九年第四〇一號、第四九四號、一〇年第三八五號、一四年第六〇號

昭和二年第一九一號

朕外交官及領事官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

外交官及領事官官制

第一條　外交官ハ特命全權大使、特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官、辨理公使、大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、大使館理事官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官、公使館商務書記官、公使館理事官及外交官補トス

第二條　特命全權大使ハ親任トシ特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辨理公使ハ勅任トシ其ノ他ノ外交官ハ奏任トス

第三條　領事官ハ總領事、領事、副領事及領事官補トス

第四條　總領事ハ勅任又ハ奏任トシ領事、副領事及領事官補ハ奏任トス但シ勅任總領事ハ九人ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條ノ二　外務大臣ハ須要ニ應シ在支那公使館ニ大使館參事官及大使館商務參事官各一人ヲ、大使館又ハ公使館ニ副領事ヲ配置スルコトヲ得

第五條　外交官ヲ置カサル地ニ於テハ外交事務官ヲ置クコトヲ得

外交事務官ハ領事官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第六條　領事官ヲ置カサル地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽總領事、名譽領事若ハ名譽副領事ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任トシ名譽總領事、名譽領事及名譽副領事ハ奏任待遇トス

第七條　大使館、公使館、領事館及貿易事務館ニ外務書記生ヲ置ク

外務書記生ハ判任トス

第八條　英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル大使館及公使館ニ大使館一等通譯官、大使館二等通譯官及公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ヲ置クコトヲ得

大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ奏任トス

第九條　英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル大使館、公使館、領事館及貿易事務館ニ外務通譯生ヲ置クコトヲ得

外務通譯生ハ判任トス

第十條　外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者ヲ待命トス

待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他本令及在外公館費用條例ニ特別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

待命ノ外交官及領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

待命ハ滿三箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス

待命ノ外交官ニシテ外務次官、外務省各局長又ハ外務省情報部長ヲ兼ヌル者ニ付テハ其ノ兼官在職中、待命ノ外交官ニシテ外務省文化事業部長ニ充テラルル者ニ付テハ其ノ外務省文化事業部長ニ在職中前項ノ規定ヲ適用セス

待命ノ外交官及領事官ニハ休職ヲ命スルコトヲ得ス

前各項ノ規定ハ貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニ之ヲ適用ス

附　則

第十一條　明治二十八年勅令第八十二號及同年勅令第八十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條　本令施行ノ際一等領事又ハ二等領事タル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ領事ニ任セラレタルモノトス

●特命全權大使又ハ特命全權公使臨時設置

（大正六年六月十三日勅令第六十四號）

朕特命全權大使又ハ特命全權公使臨時設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

特ニ重要ナル任務ヲ處辨スル爲外交官ヲ外國ニ派遣スルノ必要アルトキハ其ノ任務ノ終了ニ至ル迄ノ間臨時特命全權大使又ハ特命全權公使ヲ置クコトヲ得

在外公館費用條例ハ本俸ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ前項ノ特命全權大使及特命全權公使ニ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年勅令第百十六號ハ之ヲ廢止ス

●特命全權大使著任前ニ於ケル大使館ニ關スル件

（明治三十九年一月十二日勅令第三號）

朕特命全權大使著任前ニ於ケル大使館ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

特命全權大使著任前ニ於ケル大使館ニ付テハ總テ從前ノ公使館ニ關スル規定ヲ適用ス

●在外公館職員定員令

（明治三十二年六月二十日勅令第二百八十一號）

改正　明治三三年第二二〇號、三四年第一二四號、三五年第一九八號、三六年第二一〇號、三八年第八一號、第二四五號、三九年第一六八號、四一年第一五六號、四二年第二二七號、四三年第二五八號、四四年第二〇九號

大正二年第一四〇號、第二九二號、四年第一一〇號、五年第一〇六號、七年第一三二號、第二二四號、八年第二四八號、九年第四九五號、一〇年第三八七號、一一年第三三六號、第五〇六號、一二年第一〇三號、第三八六號、一四年第六一號、一五年第一二二號

昭和二年第一九二號

朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

在外公館職員定員令

第一條　外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、外務書記生及外務通譯生ノ定員左ノ如シ

一　特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辨理公使ハ通シテ二十八人

二　大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ七十八人

三　總領事、領事及貿易事務官ハ通シテ八十三人

四　大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ十六人

五　大使館理事官及公使館理事官ハ通シテ八人

六　副領事ハ六十八人

七　外交官補及領事官補ハ通シテ七十人

八　外務書記生及外務通譯生ハ通シテ三百六十三人

前項定員ノ外訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務竝登記事務ニ從事セシムル爲領事、副領事ヲ通シテ七人及外務書記生十四人ヲ置ク

外交官領事官ヲ兼任シ又ハ領事官外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼任ハ定員ノ內ニ算入セス

第二條　待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シテ十五人トシ前條定員ノ內ニ算入セス

附　則

外交官、領事官、通譯官、書記生、通譯生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●外交官領事官貿易事務官及外務書記生外務通譯生更代ノ際臨時增員

（明治二十八年十月三十日勅令第百五十號）

改正　明治三二年第二八四號、三八年第二

（四六號 大正一四年第六二號）

朕外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於テ臨時增員スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

外交官領事官貿易事務官及外務書記生外務通譯生ヲ更代セシムルトキハ定員ノ外ニ臨時增員スルコトヲ得但增員ノ日ヨリ六箇月以內ニ定員ニ復スヘシ

臨時增員ハ左ノ定限ニ超過スルコトヲ得ス

特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官、辨理公使ハ通シテ二人

大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官、公使館商務書記官ハ通シテ四人

總領事、領事、貿易事務官、副領事ハ通シテ五人

外務書記生、外務通譯生ハ通シテ四人

●戰時ニ於ケル待命在外公館職員等ノ身分及給與ニ關スル件

（大正三年九月二十六日勅令第二百二號）

朕戰時ニ於ケル待命在外公館職員等ノ身分及給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

待命外交官、待命領事官若ハ待命通譯官又ハ外務書記生若ハ外務通譯生ハ之ヲ戰時特設ノ職務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ定員外トス

戰時又ハ事變ニ際會シタル爲外國在勤ヲ免セラレ待命ト爲リタル外交官、領事官又ハ通譯官ハ之ヲ定員外トス

第一項ノ職務ニ從事スル待命職員又ハ前項ノ職員ニハ其ノ俸給全額以內ヲ給スルコトヲ得

前項ノ職員ニハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第百八十九號及同年勅令第百九十號ハ之ヲ廢止ス

●領事官ノ職務ニ關スル法律

（明治三十二年三月二十日法律第七十號　改正　大正一四年第三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル領事官ノ職務ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、司法大臣副署）

第一條　條約中特ニ領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ牴觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第一條ノ二　本法其ノ他ノ法律中領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ總領事館分館主任、領事館分館主任、總領事館出張所主任及領事館出張所主任ニ關スルモノニ限リ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條　條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條　領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件竝非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條　前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ牴觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條　領事官ハ死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ罪ノ裁判ニ付テハ領事官ハ豫審ヲ爲スヘシ

第一項ノ罪以外ノ罪ノ裁判ニ付テハ第一項ノ罪ト同時ニ取調ヲ爲ス場合ニ限リ領事官ハ豫審ヲ爲スコトヲ得

第九條　領事官ノ豫審ヲ爲シタル罪ノ公判ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十條　領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎地方裁判所檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條　前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第十八條第一項及第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告（大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク）ハ長崎控訴院、領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル上告又ハ上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ハ大審院之ヲ管轄ス

區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告（大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク）ハ長崎地方裁判所、領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル上告又ハ上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ハ大審院之ヲ管轄ス

第十三條　領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ檢事又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ

裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ前項ノ官吏ナキトキハ領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條　領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ

前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條　法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辯護人タラントスル者ハ領事官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條　通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ回避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用セス

第十七條　第十三條及第十四條ニ揭ケタル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國內ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條　領事館ノ設置ナキ地ニ限リ命令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十九條　本法其ノ他ノ法律中領事職務ニ關シ領事官トハ特ニ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除キ名譽總領事又ハ名譽領事ニ非サル總領事館又ハ領事館ノ長タル總領事及領事、總領事館分館主任、領事館分館主任、總領事館出張所主任、領事館出張所主任竝其ノ代理ヲ謂ヒ領事館トハ名譽總領事館又ハ名譽領事館ニ非サル總領事館、領事館、總領事館分館、領事館分館、總領事館出張所竝領事館出張所ヲ謂フ

第二十條　本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條　清國竝朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（大正十四年法律第三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十四年勅令第二百八十六號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●領事官職務規則

（明治三十三年四月十九日勅令第百五十三號　改正　明治四一年第二九三號　大正一四年第二八七號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ領事官職務規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（外務大臣副署）

領事官職務規則

第一條　領事官ハ外務大臣ノ指揮監督及其ノ駐在國ニ在ル帝國ノ大使又ハ公使ノ監督ヲ受クヘシ

外務大臣カ特定ノ事項ニ關シテ領事官ヲ指揮スルコトヲ其ノ駐在國ニ在ル帝國ノ大使又ハ公使ニ命シタルトキハ領事官ハ該事項ニ關シテ帝國ノ大使又ハ公使ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條　領事官ハ駐在國ニ於テ日本臣民ヲ保護シ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ維持增進スヘシ

第三條　領事官ハ駐在國カ條約又ハ國際法ニ依リ帝國ニ對シテ負フ所ノ義務ノ遵守ヲ視察シ日本臣民ノ利益又ハ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ害セラレタル場合ニ於テハ駐在國ノ官廳ニ對シテ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第四條　領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル帝國軍艦ニ對シテ必要ナル幇助ヲ爲スヘシ

第五條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在ル日本臣民ノ救助又ハ取締ノ爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

領事官ハ救助又ハ取締ノ爲必要ナルトキハ日本臣民ノ送還ヲ日本船舶ノ船長ニ命スルコトヲ得

第六條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ於テ日本臣民ノ財產又ハ遺產ノ保護管理ニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第七條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在ル日本臣民ノ名簿ヲ備ヘ居住及身分ニ關スル屆出ヲ受理シ屆出又ハ其ノ他ノ事實ニ依リテ確知シタル日本臣民ノ居住及身分ニ關スル事項ヲ該名簿ニ登錄スヘシ

第八條　領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル日本船舶及其ノ船員ニ對シテ必要ナル保護及取締ヲ爲スヘシ

第九條　領事官ハ帝國軍艦其ノ他日本船舶ノ乘組員カ脫船シタルトキハ艦長又ハ船長ノ請求ニ因リ脫船者ヲ復役セシムル爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第十條　領事官ハ其ノ駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ眞正ヲ證明スルコトヲ得

第十一條　領事官ハ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ其ノ職務上取扱フヘキ事項及職務ヲ行フ際知リ得タル事實ノ認證ヲ爲スコトヲ得

第十二條　領事官ハ日本臣民ニ旅券ヲ付與シ又ハ其ノ旅券ヲ查證スルコトヲ得

領事官ハ日本ニ旅行セムトスル外國人ノ申請ニ因リ其ノ旅券ヲ查證スルコトヲ得

第十三條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ於テ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ日本臣民又ハ日本ニ在ル土地ニ關スル法律行爲ニ付公證ヲ爲スコトヲ得

第十四條　領事官ハ日本臣民相互ノ間又ハ日本臣民及外國人ノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ和解ヲ爲サシメ又ハ仲裁ヲ爲スコトヲ得

第十五條　條約又ハ慣例ニ依リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル總領事館又ハ領事館ノ長タル總領事若ハ領事又ハ其ノ代理ハ其ノ所管事務ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

領事官ノ發スル命令ニハ五十圓以內ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

領事官ノ發スル命令ノ公布ニ關スル規程ハ領事官之ヲ定ム

第十五條ノ二　明治三十二年法律第七十號第六條ノ領事官ハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　總領事館又ハ領事館ノ長タル總領事及領事竝其ノ代理

二　總領事館又ハ領事館ノ長ニ非サル總領事、領事、副領事及領事官補ニシテ特ニ外務大臣ノ指定スルモノ

三　總領事館分館主任、領事館分館主任、總領事館出張所主任及領事館出張所主任ニシテ特ニ外務大臣ノ指定スルモノ

前項第三號ニ揭クル者以外ノ總領事館分館主任、領事館分館主任、總領事館出張所主任及領事館出張所主任ハ刑事ノ訴訟事件ニ關スル證據調ニ限リ明治三十二年法律第七十號第六條ニ規定スル事務ヲ行フコトヲ得

第十六條　外務大臣ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得

領事官ノ駐在國ニ在ル帝國ノ大使又ハ公使ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其ノ施行停止ヲ命スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ外務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ施行停止ハ三箇月ヲ經過スルトキハ其ノ效ヲ失フ

第十七條　領事官ハ其ノ職務上必要アルトキハ帝國軍艦ニ幇助ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　領事官ハ其ノ職務上ノ事項ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　領事官ハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ得タル場合ノ外帝國ノ他ノ官廳又ハ公署ト直接通信ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　領事官ノ徵收スル手數料及出張費用ニ關スル規程ハ外務大臣之ヲ定ム

第二十一條　總領事館分館主任、領事館分館主任、總領事館出張所主任及領事館出張所主任ハ特ニ外務大臣ノ指定スル者ヲ除クノ外明治二十九年法律第八十號ニ規定スル事務ヲ行フコトヲ得ス

第二十二條　本令ニ於テ領事官トハ明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事官ヲ謂フ

總領事館分館主任、領事館分館主任、總領事館出張所主任及領事館出張所主任ハ其ノ屬スル總領事館又ハ領事館ノ長タル總領事又ハ領事ノ監督ヲ受ク

第二十三條　名譽總領事、名譽領事、名譽副領事及貿易事務官ハ外務大臣ノ訓令ニ基キ本令其ノ他領事官ノ職務ニ關スル法令及條約ノ規定ニ準依シテ其ノ職務ヲ行フ

（明治三十三年外務省令第四號ヲ以テ明治三十四年一月一日ヨリ施行）

●外國在勤ノ外務省警察官ニ關スル件

（大正五年八月八日勅令第百九十六號　改正　大正七年第二九一號、八年第二四九號、一〇年第三八六號、一一年第五〇七號、一四年第六三號）

朕外國在勤ノ外務省警察官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

第一條　外國ニ於テ警察事務ニ從事セシムル爲外務省ニ警視、警部、警部補及巡查ヲ置キ領事館ニ分屬セシム

第二條　警視ハ專任五人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ警察事務ヲ掌リ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第三條　警部ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ從事シ警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第四條　警部補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ從事シ巡查ヲ指揮監督ス

第五條　巡查ハ判任官ノ待遇トス上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ從事ス

巡查ノ任用ニ關スル規定ハ外務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●在南滿洲帝國領事館附警察官ニ關スル件

（明治四十一年一月十一日勅令第五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ在南滿洲帝國領事館附警察官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

在南滿洲帝國領事館附警察官ハ關東【都督府】警察官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國際聯盟帝國事務局官制

（大正十年八月十三日勅令第三百八十四號　改正　大正一二年第一〇四號）

朕國際聯盟帝國事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

國際聯盟帝國事務局官制

第一條　海外ニ於テ國際聯盟ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲國際聯盟帝國事務局ヲ聯盟本部所在地ニ置ク

第二條　事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
次長　一人
事務官　三人
書記　二人

第三條　局長ハ特命全權公使ヲ以テ之ニ充ツ聯盟理事會ニ於ケル帝國代表者ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條　次長ハ大使館參事官ヲ以テ之ニ充ツ局長ヲ補佐ス

第五條　事務官ハ奏任外交官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第六條　書記ハ外務書記生ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　外務大臣必要ト認ムル場合ニ於テハ事務局職員ヲ國際聯盟本部所在地以外ノ地ニ在勤セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六款　內務省及其所管

●內務省官制

（明治三十一年十月二十二日勅令第二百五十九號）

改正　明治三三年第一六三號、第一六六號、第一九一號、三六年第二五號、第二一一號、三八年第八七號、三九年第六九號、四〇年第一六六號、四二年第一二四號、四三年第三七號、第二八〇號、四四年第九三號　大正二年第一四二號、三年第二〇九號、第二三二號、四年第一〇四號、六年第七七號、第一一四號、七年第一五一號、八年第二七九號、九年第二八五號、第三六八號、一〇年第九六號、第二四四號、一一年第二七〇號、第四六三號、一二年第一九八號、一三年第一七八號、第三一六號、一四年第一四〇號、一五年第九〇號

朕內務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

內務省官制

第一條　內務大臣ハ神社、地方行政、議員選擧、警察、土木、衞生、都市計畫、地理、出版、著作權及拓殖ニ關スル事務ヲ管理シ北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外褒賞及都市計畫ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　內務省專任書記官ハ十三人ヲ以テ定員トス

第四條　內務省ニ左ノ五局ヲ置ク

神社局
地方局
警保局
土木局
衞生局

第四條ノ二　神社局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　神宮、官國幣社、府縣鄕村社、招魂社其ノ他總テ神社ニ關スル事項
二　神官及神職ニ關スル事項

第五條　地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議員選擧ニ關スル事項
二　府縣市町村公共組合ノ制度其ノ他一般ノ行政ニ關スル事項
三　府縣市町村公共組合ノ財政其ノ他經濟ニ關スル事項
四　徵兵及徵發ニ關スル事項
五　北海道ニ於ケル林野及拓殖ニ關スル事項其ノ他北海道ニ關スル事項ニシテ他局ノ所掌ニ屬セサルモノ

第六條　警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　行政警察ニ關スル事項
二　高等警察ニ關スル事項
三　圖書出版及著作權ニ關スル事項

第七條　土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
二　府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
三　直轄工費及土木工費助補ニ關スル事項
四　軌道ノ特許及監督ニ關スル事項
五　河川、道路、港灣及砂防ニ關スル事項
六　公有ノ水面及水流ニ關スル事項
七　土地收用ニ關スル事項

第八條　衞生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　傳染病及地方病ノ豫防、種痘其ノ他總テ公衆衞生ニ關スル事項
二　檢疫停船ニ關スル事項
三　醫師及藥劑師ノ業務竝藥品賣藥取締ニ關スル事項
四　衞生會及地方病院ニ關スル事項

第九條　削除

第十條　內務省ニ專任內務事務官八人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十一條　內務省ニ專任考證官一人專任考證官補一人ヲ置ク

考證官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ神社ニ關スル考證ヲ掌ル

考證官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ神社ニ關スル考證ニ從事ス

第十二條　內務省ニ專任技師十五人ヲ置ク內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

內務省ニ專任屬及專任技手通シテ百三十七人ヲ置ク

第十二條ノ二　內務大臣ハ必要ニ應シ土木出張所又ハ土木試驗所ヲ置キ直轄土木工事竝河川、道路、港灣及砂防ノ調查試驗等ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

土木出張所又ハ土木試驗所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

第十三條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

臺灣事務局官制及明治二十七年勅令第六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●內務部內臨時職員設置制

（大正九年九月十日勅令第三百六十大號）

改正　大正九年勅四一五號、一〇年第一八一號、第二四五號、一一年第一七九號、第一八三號、第二七一號、第三二六號、第四五八號、第四六六號、一二年第一〇五號、第一八〇號、第二五七號、第三二六號、第四六二號、一三年第五六號、第一一三號、第二一一號、第三一七號、一四年第六五號、第二〇八號、一五年第二五號、第七一號、第九一號、第二六九號、第三五五號　昭和二年第一六六號

朕內務部內臨時職員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

內務部內臨時職員設置制

第一條　地方行政ニ關スル調查ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置ク

內務事務官　專任　一人
屬　專任　四人

第一條ノ二　神社ノ社殿修築及境內整理ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ神社局ニ屬セシム

技師　專任　一人
屬　專任　二人
技手　專任　六人

第一條ノ三　神社行政ニ關スル調查ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ神社局ニ屬セシム

內務事務官　專任　一人

第二條　內務省ニ左ノ職員ヲ置キ土木局、土木出張所又ハ土木試驗所ニ屬セシム

一　治水事業ニ關スル事務ニ從事スル者

技監　專任　一人　勅任
內務事務官　專任　二人
土木事務官　專任　五人　奏任
技師　專任　八十八人
屬　專任　八十八人
技手　專任　二百六十八人

二　道路改良及道路試驗ニ關スル事務ニ從事スル者

內務事務官　專任　一人
技師　專任　九人
屬　專任　七人
技手　專任　九人

三　港灣改良ニ關スル事務ニ從事スル者

土木事務官　專任　四人　奏任
技師　專任　三十八人
屬　專任　三十八人
技手　專任　百六人

四　道路港灣調查ニ關スル事務ニ從事スル者

屬　專任　三人
技手　專任　二人

前項職員中技師十人ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第三條　保健衞生調查ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ衞生局ニ屬セシム

技師　專任　二人
屬
技手　專任　三人

第三條ノ二　都市計畫ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ大臣官房ニ屬セシム

技師　專任　三人
屬
技手　專任　四人

第三條ノ三　外事警察ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ警保局ニ屬セシム

內務事務官　專任　二人
屬　專任　五人

第三條ノ四　高等警察ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ警保局ニ屬セシム

屬　專任　五人
通譯　專任　一人　判任

通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三條ノ五　國立癩療養所建築ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置キ大臣官房ニ屬セシム

技師　專任　一人
技手　專任　二人

第四條　醫藥品製造試驗及藥用植物栽培試驗ニ關スル事務ニ從事セシムル爲衞生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

技師　專任　六人
技手　專任　十一人
書記　專任　一人

第五條　工場ノ災害豫防調查竝工場及鑛業ノ衞生調查ニ關スル事務ニ從事セシムル爲社會局ニ左ノ職員ヲ置ク

技師　專任　四人
屬　專任　一人
技手　專任　四人

第六條　削除

第七條　削除

第八條　震災地ノ住宅ニ關スル事務ニ從事セシムル爲社會局ニ左ノ職員ヲ置ク

技師　專任　一人
屬　專任　三人
技手　專任　二人

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

大正六年勅令第百十五號
大正六年勅令第百七十二號
大正七年勅令第九十五號
大正七年勅令第百五十二號
大正七年勅令第百五十三號
大正七年勅令第三百九十六號

本令施行ノ際現ニ內務技監又ハ土木局書記官、地方局事務官若ハ衞生局事務官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各內務技監又ハ內務事務官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●特殊財產管理局官制廢止ノ件

（昭和二年四月一日勅令第五十號）

朕特殊財產管理局官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

特殊財產管理局官制ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特殊財產管理局ノ殘務ハ內務省ニ於テ之ヲ掌ル

●【特殊財產管理局】ニ屬スル事務ノ一部ヲ地方長官ニ掌ラシムルヲ得ルコトニ關スル件

（大正八年六月二十七日勅令第三百八號）

朕特殊財產管理局ニ屬スル事務ノ一部ヲ地方長官ニ掌ラシムルヲ得ルコトニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

內務大臣必要ト認ムルトキハ地方長官ヲシテ【特殊財產管理局】ニ屬スル事務ノ一部ヲ掌ラシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●防疫職員官制

（明治四十五年四月三十日勅令第百二號）

改正　大正二年第一四六號、九年第四八八號、一〇年第一五〇號、第二四六號、一二年第二五八號、一三年第三二三號、一四年第三〇九號、一五年第八八號

朕防疫職員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

防疫職員官制

第一條　傳染病豫防ノ事務ニ從事セシムル爲內務省ニ左ノ職員ヲ置ク

防疫官　專任　十人　奏任
防疫官補　專任　三人　判任

第二條　內務大臣ハ防疫官ニ帝國領事官附ヲ命シ傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事セシムルコトヲ得

第三條　內務大臣ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ臨時廳府縣ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

防疫監吏　判任官待遇
防疫醫　奏任官待遇又ハ判任官待遇

前項ノ規定ニ依ル奏任官待遇ノ防疫醫ノ數ハ通シテ八十人以內トス

防疫監吏ハ上官ノ命ヲ承ケ傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事シ防疫醫ハ上官ノ命ヲ承ケ傳染病豫防ニ關スル技術ニ從事ス

防疫監吏及防疫醫ヲ置クヘキ廳府縣及其ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治三十三年勅令第九十七號、明治三十六年勅令第二號、同年勅令第百七十八號、明治三十八年勅令第二百四十三號及同年勅令第二百八十二號ハ之ヲ廢止ス

●復興局官制

（大正十三年二月二十五日勅令第二十六號）

改正　大正一三年第二一二號、第三一八號、一四年第一四一號、第二八四號　昭和二年第八六號

朕復興局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

復興局官制

第一條　復興局ハ內務大臣ノ管理ニ屬シ東京及橫濱ニ於ケル都市計畫、都市計畫事業ノ執行、市街地建築物法ノ施行及都市計畫上建築改善ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　復興局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　勅任
部長　四人　勅任
書記官　專任　九人　奏任
事務官　專任　二十二人　奏任
技師　專任　百十四人　奏任（內七人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
屬　專任　二百七十二人　判任
技手　專任　五百七十五人　判任

第三條　復興局ニ長官官房及左ノ四部ヲ置ク

整地部
土木部
建築部
經理部

第四條　長官官房ニ於テハ人事、文書、都市計畫（技術ニ屬スルモノヲ除ク）、都市計畫事業ノ監理及各部ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ掌ル

整地部ニ於テハ都市計畫上土地ノ區劃整理其ノ他土地ノ整理ニ關スル事務ヲ掌ル

土木部ニ於テハ都市計畫事業ノ執行及都市計畫上土木技術ニ關スル事務ヲ掌ル

建築部ニ於テハ市街地建築物法ノ施行竝都市計畫上建築技術、建築改善及公園ニ關スル事務ヲ掌ル

經理部ニ於テハ豫算、決算及諸會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條ノ二　復興局ニ局務ヲ補ケシムル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

顧問ハ勅任官ノ待遇トス

第五條　長官ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第六條　削除

第七條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條　書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十二條　內務大臣ハ必要ニ應シ復興局ノ出張所及技術試驗所ヲ置キ復興局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

出張所及技術試驗所ニ所長ヲ置ク出張所ノ

所長ハ書記官、事務官又ハ技師ヲ以テ、技術試驗所ノ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ帝都復興院ノ書記官、事務官、技師、屬又ハ技手ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ交付セラレサルトキハ各局官等俸給ヲ以テ復興局ノ書記官、事務官、技師、屬又ハ技手ニ任セラレタルモノトス

復興局ニ於テハ第一條ニ規定スルモノノ外臨時物資供給令施行ニ關スル殘務ヲ掌ル經理部ヲシテ主掌セシム

●社會局官制

（大正十一年十一月一日勅令第四百六十號）

改正　大正一二年第四六三號、一三年第三一九號、一四年第六六號、一五年第七二號、第一一〇號、第三四九號、第三五六號
昭和二年第八九號

朕社會局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

社會局官制

第一條　社會局ハ內務大臣ノ管理ニ屬シ左ニ掲クル事務ヲ掌ル

一　勞働ニ關スル一般事項
二　工場法施行ニ關スル事項
三　鑛業法中鑛夫ニ關スル事項
四　工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項
五　勞働爭議調停ニ關スル事項
六　社會保險ニ關スル事項
七　失業ノ救濟及防止ニ關スル事項
八　國際勞働事務ニ關スル統轄事項
九　賑恤救濟ニ關スル事項
十　兒童保護ニ關スル事項
十一　軍事救護ニ關スル事項
十二　移植民ニ關スル事項
十三　其ノ他社會事業ニ關スル事項

第二條　社會局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　　勅任
部長　三人　勅任
書記官　專任八人　奏任
事務官　專任二十二人　奏任
技師　專任十二人　奏任
屬　專任六十四人　判任
技手　專任十二人　判任

第三條　社會局ニ庶務課及左ノ三部ヲ置ク

勞働部
保險部
社會部

庶務課ニ於テハ人事、文書及會計ニ關スル事務竝他ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ掌ル

勞働部ニ於テハ第一條第一號乃至第五號及第八號ニ掲クル事務ヲ掌ル

保險部ニ於テハ第一條第六號ニ掲クル事務ヲ掌ル但シ失業保險ニ關スル事務ハ此ノ限ニ在ラス

社會部ニ於テハ第一條第七號及第九號乃至第十三號ニ掲クル事務竝失業保險ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　社會局ニ局務ニ參與セシムル爲參與ヲ置ク

參與ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

參與ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇ニ依ル

第五條　長官ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第六條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第七條　書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第八條　削除

第九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條　社會局ニ工場監督官、鑛務監督官及調停官ヲ置キ書記官、事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

鑛務監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ鑛夫ニ關スル事務竝鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

調停官ハ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　削除

第十三條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十四條　社會局ニ工場監督官補、鑛務監督官補及調停官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

鑛務監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑛夫ニ關スル事務竝鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

調停官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第十五條　內務大臣ハ必要ニ應シ社會局ノ出張所ヲ置キ保險部ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

出張所ニ所長ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●健康保險署官制

（大正十五年八月七日勅令第二百七十二號）

朕健康保險署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

健康保險署官制

第一條　健康保險署ハ內務大臣ノ管理ニ屬シ健康保險法ニ依リ政府ノ管掌スル健康保險ノ事務ヲ掌ル

第二條　健康保險署ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官　專任十七人　奏任
書記　專任二百八十八人　判任
書記補　專任四百三十八人　判任

前項職員ノ各健康保險署ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條　健康保險署ニ屬スル判任官ノ進退ハ社會局長官之ヲ專行ス

第四條　健康保險署ニ署長ヲ置ク

署長ハ事務官又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ內務大臣及社會局長官ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條　事務官ニシテ署長タラサル者ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條　書記ニシテ署長タラサル者及書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七條　事務官、書記及書記補ハ臨時命ヲ承ケ健康保險ニ關スル社會局ノ事務ヲ助ク

第八條　健康保險署ノ名稱、位置及管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ニ規定スル健康保險署ノ職員ノ定員ハ大正十五年十二月三十一日迄ハ左表ノ定ムル所ニ依ル

名稱	事務官	書記	書記補
大正十五年十月一日ヨリ同年十一月三十日迄	十二人	九十五人	百三十人
大正十五年十二月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	十五人	二百六十二人	三百九十四人

●職業紹介事務局官制

（大正十二年三月三十一日勅令第百七號）

改正　大正一四年第一二七號
昭和二年第七一號

朕職業紹介事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

職業紹介事務局官制

第一條　職業紹介事務局ハ職業紹介所ノ事業ノ聯絡統一及職業紹介事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　職業紹介事務局ハ中央職業紹介事務局及地方職業紹介事務局トス

第三條　中央職業紹介事務局ハ東京ニ、地方職業紹介事務局ハ東京、大阪、名古屋及福岡ニ之ヲ置ク

第四條　地方職業紹介事務局ノ名稱及管轄區域ハ別表ニ依ル

第五條　中央職業紹介事務局及地方職業紹介事務局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長
事務官　專任五人　奏任
屬　專任三十四人　判任

第六條　中央職業紹介事務局長ハ社會局部長、地方職業紹介事務局長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　中央職業紹介事務局及地方職業紹介事務局ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

第八條　中央職業紹介事務局長ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

地方職業紹介事務局長ハ內務大臣及中央職業紹介事務局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第九條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

地方職業紹介事務局名稱及管轄區域表

名稱	管轄區域
東京地方職業紹介事務局	北海道　東京府　神奈川縣　埼玉縣　群馬縣　千葉縣　茨城縣　栃木縣　山梨縣　長野縣　新潟縣　宮城縣　福島縣　岩手縣　青森縣　山形縣　秋田縣
大阪地方職業紹介事務局	大阪府　京都府　兵庫縣　奈良縣　滋賀縣　鳥取縣　島根縣　岡山縣　廣島縣　和歌山縣　德島縣　香川縣　愛媛縣　高知縣
名古屋地方職業紹介事務局	愛知縣　靜岡縣　三重縣　岐阜縣　福井縣　石川縣　富山縣
福岡地方職業紹介事務局	山口縣　福岡縣　長崎縣　大分縣　佐賀縣　熊本縣　宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣

●神宮司廳官制

（明治二十九年十一月三十日勅令第三百七十一號）

改正　明治三三年第三七六號、四二年第二二一號、四五年第八七號、第九一號
大正二年第二九〇號、一〇年第四六七號、一一年第一三六號、一三年第二九二號
昭和二年第二六號

朕神宮司廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

神宮司廳官制

第一條　神宮司廳ニ左ノ職員ヲ置ク

祭主　一人　勅任
大宮司　一人　勅任
少宮司　一人　勅任又ハ奏任
禰宜　十一人　奏任
衞士長　一人　奏任
技師　專任二人　奏任
權禰宜　二十人　判任
宮掌　四十人　判任
衞士副長　二人　判任
技手　專任八人　判任

第二條　祭主ハ親任トシ皇族ヲ以テ之ニ任ス大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス但公爵ヲ以テ之ニ任スルコトアルヘシ

祭主故障アルトキハ臨時ニ祭主ヲ置クコトヲ得

第三條　大宮司ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ祭主ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ所部ノ職員ヲ統督シ廳中ノ事務ヲ管理ス

第四條　大宮司ハ廳中ノ事務ヲ分掌スル爲部課ヲ置キ及庶務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第五條　少宮司ハ大宮司ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ廳中ノ事務ヲ整理ス大宮司事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　禰宜ハ大宮司及少宮司ノ命ヲ承ケ祭祀ニ奉祀シ事務ヲ分掌ス

第七條　衞士長ハ大宮司及少宮司ノ命ヲ承ケ衞士副長及衞士ヲ指揮監督シ警衞事務ヲ掌理ス

第八條　技師ハ大宮司及少宮司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條　權禰宜又ハ宮掌ハ上官ノ指揮ヲ承ケ祭事及庶務ニ從事ス

第十條　衞士副長ハ衞士長ヲ佐ケ警衞事務ヲ分掌ス衞士長事故アルトキハ上席ノ衞士副長其ノ職務ヲ代理ス

第十一條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十二條　神宮司廳ニ伶人、衞士及森林監守ヲ置ク判任官ノ待遇トス

伶人、衞士及森林監守ノ定員ハ大宮司ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第十三條　伶人ハ上官ノ指揮ヲ承ケ奏樂ニ從事ス

第十四條　衞士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衞ニ從事ス

第十五條　森林監守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス

第十六條　大宮司ハ所部ノ判任官及判任官待遇職員竝神宮神部署ノ判任官待遇職員ノ進退竝懲戒ヲ內務大臣ニ具狀ス但シ衞士及森林監守ノ進退ハ之ヲ專行ス

（大正十年十二月十七日內務省告示第二百四十七號）
改正　大正一二年第二號、一三年第五九號

神宮司廳官制第十二條及神宮神部署官制第二條ニ依リ神宮伶人神宮衞士及神宮神部署伶人ノ定員左ノ通定ム

神宮伶人　專任　六人
神宮衞士　九十三人
神宮森林監守　五人
神宮神部署伶人　九人

●神宮皇學館官制

（明治三十六年八月三十一日勅令第百三十號）

改正　大正二年第二七六號、一五年第二一號

朕神宮皇學館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

神宮皇學館官制

第一條　神宮司廳ニ神宮皇學館ヲ置ク

第二條　神宮皇學館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　勅任又ハ奏任
教授　專任十四人　奏任
助教授　專任五人　判任
學生監　專任三人　奏任
教諭　三人
書記　專任四人　判任

第三條　館長ハ大宮司ノ指揮ヲ承ケ館務ヲ統理ス

第四條　教授及助教授ハ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ教育ヲ掌ル

第五條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ之ニ充ツ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　教諭ハ館長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ教育ヲ掌ル

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　內務大臣ハ館務ノ必要ニ依リ評議員

員會ヲ設ケシムルコトヲ得其ノ委員ハ神宮大宮司ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ命シ又ハ囑託ス

附　則

本令ハ明治三十六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●神宮遷宮ニ際シ臨時職員設置

（明治四十二年八月十四日勅令第二百十號）

朕神宮遷宮ニ際シ臨時職員設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

神宮遷宮ノ時ニ限リ神宮司廳ニ宮掌補ヲ置クコトヲ得

宮掌補ハ判任官ノ待遇トシ宮掌ヲ佐ケテ祭儀ニ從事ス

宮掌補ニハ俸給ヲ支給セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●造神宮使廳官制

（明治三十一年六月十七日勅令第百二號）

（改正　明治三三年第一六四號、三六年第二一二號、四三年第四二一號）

朕造神宮使廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

第一條　造神宮使廳ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ神宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ掌ル

第二條　造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

使
副使
主事
技師
屬
技手

第三條　使ハ一人神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ管理ス

第四條　使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條　副使ハ一人勅任トス内務省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム使ノ事務ヲ佐ケ使事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　主事ハ一人奏任トス使、副使ノ命ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ分掌ス

第七條　技師ハ使、副使ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

●神宮神部署官制

（明治四十五年四月二十二日勅令第八十五號）

（改正　大正一〇年第四六八號、一三年第二九三號、昭和二年第二七號）

朕神宮神部署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

神宮神部署官制

第一條　神宮神部署ハ神宮大宮司ノ管理ニ屬シ大麻及暦ノ製造頒布竝臣民ノ奉賽ニ關スル事ヲ掌ル

第二條　神宮神部署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長
神部　二人　奏任待遇
神部補　二十三人　判任待遇
伶人　判任待遇

伶人ノ定員ハ神宮大宮司ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第三條　署長ハ神宮禰宜ヲ以テ之ニ充ツ神宮大宮司ノ命ヲ承ケ署務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　署長事故アルトキハ神宮大宮司ハ神部ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

第五條　神部ハ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第六條　削除

第七條　神部補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　削除

第九條　伶人ハ上司ノ指揮ヲ承ケ奏樂ニ從事ス

第十條　神部ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ神部補及伶人ハ内務大臣之ヲ命ス

第十條ノ二　神宮大宮司ハ必要アルトキハ神宮司廳職員ヲシテ臨時神宮神部署ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第十一條　神宮神部署職員ノ俸給ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

神部署官制ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和二年勅令第二七號）

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ主事又ハ主事補ノ職ニ在リ休職中ナル者ニ付テハ其ノ休職滿期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ職ヲ置カレタルモノトス

●衞士長、衞士副長、衞士服務規則

（明治三十二年十月十八日内務省令第五十二號）

（改正　大正元年第五號、三年第二〇號）

衞士長、衞士副長、衞士服務規則左ノ通定ム

衞士長、衞士副長、衞士服務規則

第一條　衞士長、衞士副長ハ部下諸員ノ勤惰ヲ視察シ諸般ノ報告ヲ徴シ職務ニ關スル指揮ヲ行フ

第二條　衞士ハ神地又ハ其ノ接近地ニ駐在シ若ハ神地ヲ巡邏シ水火災、惡疫及流行病ノ豫防竝防止、犯罪及不良行爲ノ制止其ノ他神地ノ取締ニ從事ス

第二條ノ二　神宮大宮司ハ衞士長及衞士副長ノ職務ヲ補助セシムル爲衞士部長ノ職ヲ置クコトヲ得

衞士部長ハ衞士ノ首班トス衞士ノ中ニ就キ神宮大宮司之ヲ命ス

第三條　衞士ハ宮域内ニ於テ服裝、言語、擧動等敬意ヲ失シ又ハ火災ノ虞アル行爲ヲ爲ス者アルトキハ懇ニ之ヲ制止スヘシ

第四條　衞士ハ神地ニ於テ死亡人、病人、迷兒、發狂人等ヲ認知シタルトキハ相當ノ處置ヲ爲シ行旅病人、行旅死亡人、飢餓凍餒ニ迫リ歩行ニ堪ヘサル行旅者、行旅中ノ妊婦産婦ニシテ手當ヲ要スルモ其ノ途ヲ有セサルモノ及其ノ同伴者ニ付テハ其ノ所在地市町村長ニ其ノ他ニ付テハ警察官吏ニ引渡スヘシ

第五條　衞士ハ神地ニ於テ殿舍、橋梁、道路ノ破損、樹木ノ顚倒、溝渠ノ淤塞等ヲ認知シタルトキハ衞士長ニ報告シ衞士長ハ之ヲ宮司ニ報告スヘシ

第六條　衞士ハ其ノ職務ヲ行フ爲メ必要ナル場合ニ於テ制止ヲ肯セサル者ヲ神地外ニ退去セシメ妨害物又ハ不潔物ヲ神地内ニ存在セシムヘカラス

第七條　衞士ハ神地ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ現行犯人アルトキハ之ヲ逮捕シ司法警察官ニ引渡スヘシ罰金、拘留、科料ノ刑ニ該ルヘキ現行犯人アルトキハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ拘留、科料ノミノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ、其ノ他ノモノニ付テハ檢事ニ告發スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外其ノ措置前衞士長ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第八條　衞士ハ神地又ハ其ノ近傍ニ火災其ノ他ノ事變アルトキ臨機ノ處置ヲ行フノ外宮司、司廳、齋宿及衞士長ヘ急報スヘシ

第九條　衞士長、衞士副長及衞士ハ祭典等ニ際シ宮司ノ命ニ依リ其ノ警衞ニ從事ス

第十條　宮司及衞士長ハ事變其ノ他必要ノ場合ニ於テ衞士長以下衞士ヲ總テ召集スルコトヲ得

第十一條　衞士長ハ部下諸員ノ賞罰及願屆等ヲ審理シ宮司ヘ具狀スヘシ

警衞事務ニ關スル宮司ヘノ上申及報告ハ衞士長之ヲ行フ

第十二條　警衞事務中重大ナルモノハ衞士長ノ指揮ヲ請ヒ衞士之ヲ施行スヘシ其ノ急施ヲ要スルトキハ施行後直ニ衞士長ニ報告スヘシ

第十三條　衞士長、衞士副長及衞士ハ職務執行ノ際制服ヲ著用スヘシ

第十四條　衞士長、衞士副長及衞士ノ配置、駐在、巡邏、心得、勤務、監督其ノ他本令施行上必要ナル事項ニ關スル細則ハ宮司ニ於テ之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第十五條　衞士ノ職務ハ衞士長又ハ衞士副長ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十六條　本令ハ明治三十二年十月二十三日ヨリ施行ス

●國立感化院令

（大正六年八月二十日勅令第百八號）

（改正　大正七年第三八三號、一三年第四〇八號）

朕國立感化院令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

國立感化院令

第一條　國立感化院ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ第二條ノ規定ニ該當スル者ノ感化ヲ掌ル

第二條　感化法第五條第一號又ハ第二號ニ該當スル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ内務大臣之ヲ國立感化院ニ入院セシムルコトヲ得

一　年齡十四歳以上ニシテ性狀特ニ不良ナル者

二　前號ニ該當セスト雖内務大臣ニ於テ特ニ入院ノ必要アリト認メタル者

第三條　國立感化院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
教諭　專任八人内　二人　奏任　六人　判任
院醫　專任一人　奏任
書記　專任二人　判任

第四條　院長ハ奏任官タル教諭ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　教諭ハ在院者ノ感化ヲ掌ル

第五條ノ二　院醫ハ在院者ノ診療及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第六條　書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第七條　國立感化院ノ名稱ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條　内務大臣ハ國立感化院ニ於テ感化救濟事業ニ從事スル者ヲ養成セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ養成ヲ爲ス場合ニ於テ教諭及院醫ハ其ノ事務ヲ分掌ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癈兵院官制

（大正十二年三月三十一日勅令第百九號）

（改正　大正一三年第三二〇號）

朕癈兵院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍、内務大臣副署）

癈兵院官制

第一條　癈兵院ハ内務大臣ノ管理ニ屬ス

第二條　癈兵院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
事務官　專任一人　奏任
院醫　專任一人　奏任
書記　專任三人　判任

第三條　院長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　事務官ハ院務ヲ掌ル

第五條　院醫ハ癈兵院ニ收容シタル者ノ診療及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第六條　書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

癈兵院條例ハ之ヲ廢止ス

●警察講習所官制

（大正七年五月二十二日勅令第百五十五號）

（改正　大正一二年第二七八號、一三年第三二二號）

朕警察講習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

警察講習所官制

第一條　警察講習所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ警察官吏若ハ消防官吏又ハ警察官吏若ハ消防官吏タルヘキ者ニ警察及消防ニ關スル學術竝其ノ運用ヲ教授スル所トス

第二條　警察講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
教授　專任四人　奏任
助教授　專任二人　判任
書記　專任二人　判任

第三條　所長ハ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　教授及助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　警察講習所ニ所務ヲ補ケシムル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内務大臣之ヲ囑託ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●衞生試驗所官制

（明治二十三年八月四日勅令第百五十五號）

（改正　明治二六年第一三一號、二九年第三六一號、三三年第六二號、三九年第三五號、四〇年第七七號、四一年第七六號、四三年第三八號、大正二年第一四七號、三年第二三三號、九年第三六四號、一〇年第一八二號、一一年第一八四號、一二年第二五九號、一三年第三二四號）

朕衞生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

衞生試驗所官制

第一條　東京及大阪ニ衞生試驗所ヲ置ク

第二條　衞生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衞生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條　各衞生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
技手
書記

第四條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條　技師ハ奏任トシ專任八人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試驗ノ事務ヲ分掌ス

東京衞生試驗所長タル技師ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第六條　技手ハ判任トシ專任十九人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第七條　書記ハ判任トシ專任五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　各試驗所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

●榮養研究所官制

（大正九年九月十七日勅令第四百七號）

（改正　大正一〇年第一八三號、第四三九號、一一年第一九五號、一二年第二六〇號、一三年第三二五號、昭和二年第一六七號）

朕榮養研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

榮養研究所官制

第一條　榮養研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ國民ノ榮養ノ調査研究ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條　榮養研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任七人　奏任
書記　專任二人　判任
技手　專任十一人　判任

前項定員ノ外十人以内ノ無給技手ヲ置クコトヲ得

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國際勞働機關帝國事務所官制

（大正十二年一月十五日勅令第五號）

（改正　大正一四年第六四號、一五年第三四〇號、昭和二年第二〇一號）

朕國際勞働機關帝國事務所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

國際勞働機關帝國事務所官制

第一條　海外ニ於テ國際勞働機關ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲國際勞働機關帝國事務所ヲ國際勞働事務局所在地ニ置ク

國際勞働機關帝國事務所ハ内務大臣ノ管理

ニ屬ス

第二條　事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　勅任
事務官　專任一人　奏任
書記　專任一人　判任

第三條　所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所務ヲ掌理ス

第四條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　内務大臣必要ト認ムル場合ニ於テハ事務所職員ヲシテ國際勞働事務局所在地以外ノ地ニ在勤セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ勞働理事會ニ於ケル帝國政府代表者ノ隨員又ハ附タル者ハ當分ノ内第二條ノ規定ニ拘ラス同條ノ事務官又ハ書記トシテ引續キ在職セシムルコトヲ得

●中央衛生會官制

明治二十八年五月一日
勅令第五十七號
改正　明治三二年第二九六號、三五年第二三〇號
大正一〇年第九八號、一四年第二三九號

朕中央衛生會官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

中央衛生會官制

第一條　中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其ノ主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ニ關シ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問ヲ要シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ調査檢察ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ内務大臣ニ具申スヘシ

第四條　中央衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　中央衛生會ハ會長一人委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第七條　會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第八條　會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第九條　會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十條　中央衛生會ニ幹事一人ヲ置ク幹事ハ内務省高等官ヲ以テ之ニ充テ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十一條　削除

第十二條　中央衛生會ニ書記ヲ置キ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

●保健衛生調査會官制

大正五年六月二十八日
勅令第百七十二號
改正　大正一〇年第九九號

朕保健衛生調査會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

保健衛生調査會官制

第一條　保健衛生調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ國民ノ保健衛生ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ會長一人委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ調査審議ノ成績ヲ内務大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ内務大臣ノ指定スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　調査會ニ幹事ヲ置ク内務大臣ノ奏請ニ依リ内務省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　調査會ニ書記ヲ置ク内務省判任官ノ中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●日本藥局方調査會官制

明治三十九年三月三十一日
勅令第五十三號
改正　大正一〇年第一〇〇號

朕日本藥局方調査會官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

日本藥局方調査會官制

第一條　日本藥局方調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條　日本藥局方調査會ハ會長一人委員十六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

臨時必要ノ場合ニ於テハ前項定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第三條　會長、委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　日本藥局方調査會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　日本藥局方調査會ニ主査委員ヲ置クコトヲ得

主査委員ハ内務大臣委員中ヨリ之ヲ命ス

第六條　會長ハ會務及議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス

第七條　會長事故アルトキハ内務大臣ノ指定シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第八條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　日本藥局方調査會ハ議事規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　削除

第十一條　日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ會長、委員、幹事及書記タル者ハ別ニ辭令ヲ用ヰス其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●都市計畫委員會官制

大正八年十一月二十八日
勅令第四百八十三號
改正　大正一一年第二七二號、一二年第二七五號、第三五七號、第四七二號、一三年第一六四號

朕都市計畫委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

都市計畫委員會官制

第一條　都市計畫委員會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項其ノ他都市計畫上必要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　都市計畫委員會ハ都市計畫ニ關スル事項ニ付關係各大臣ノ諮問ニ應シ又ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　都市計畫委員會ハ都市計畫中央委員會及都市計畫地方委員會トス

第四條　都市計畫中央委員會ハ内務省ニ之ヲ置ク都市計畫地方委員會ハ都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定スル市ヲ包括スル道府縣毎ニ之ヲ置キ道府縣ノ名ヲ冠ス

第四條ノ二　都市計畫委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ハ内務大臣之ヲ都市計畫委員會ノ議ニ付ス但シ都市計畫地方委員會ニ對スル輕易ナル事項ノ付議ハ之ヲ地方長官又ハ市長ニ委任スルコトヲ得

第五條　都市計畫委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ專ラ一地方ニ關スルモノニ付テハ其ノ地方委員會ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決トシ其ノ他ノ事項ニ付テハ中央委員會ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決トス

但シ地方委員會ノ議決ヲ經タル事項ニシテ内務大臣更ニ審議ノ必要アリト認ムルモノニ付テハ之ヲ中央委員會ノ議ニ付シ其ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決ト看做ス

内務大臣ハ委員會ノ議決ヲ經タル事項ニ付必要アリト認ムルトキハ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

第六條　中央委員會及地方委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條　中央委員會ノ會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

地方委員會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　中央委員會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　關係各廳高等官　十六人以内
二　學識經驗アル者　十二人以内

地方委員會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定スル市ノ市長
二　關係各廳高等官　十人以内
三　第一號ノ市ノ市會議員　市會議員定數ノ六分ノ一以内
四　關係道府縣會議員　道府縣會議員定數ノ十分ノ一以内
五　市長以外ノ第一號ノ市ノ市吏員二人以内
六　學識經驗アル者　十人以内

同一道府縣内ニ於テ都市計畫法第二條ノ規定ニ依ル二以上ノ市ノ指定アリタルトキハ前項第一號第三號及第五號ニ掲クル者ハ其ノ市ニ關セサル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ會長ニ於テ必要ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一項及第二項ニ掲クル者ノ外臨時ニ必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シ議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハラシムルコトヲ得

第一項第一號及第二項第一號第二號ニ掲クル者事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理スル者議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

市會及道府縣會ハ第二項第三號及第四號ノ規定ニ依ル委員タルヘキ者ヲ選擧スヘシ

第九條　委員及臨時委員ハ前條第二項第一號ニ掲クル者ヲ除クノ外内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ中央委員會ニ在リテハ内務大臣ノ、地方委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條　委員會ハ都市計畫ニ關シ必要アル時ハ期間ヲ指定シ關係道府縣市町村ヲシテ特定ノ事項ニ付調査ヲ爲サシメ又ハ必要ナル圖書類ヲ提出セシムルコトヲ得

委員會ハ委員又ハ臨時委員ヲ派遣シテ都市計畫事業執行ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十二條　委員會ハ會長之ヲ招集ス

會長ハ委員會開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ招集及會議ノ事項ヲ委員及臨時委員ニ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　委員會ハ委員及臨時委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十四條　會長ハ會議ノ議長ト爲ル

委員會ノ議事ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十五條　地方委員會ニ常務委員會ヲ置ク地方委員會ノ委任ヲ受ケ其ノ權限ニ屬スル事項ニシテ輕易ナルモノヲ處理ス

常務委員會ハ第八條第二項第一號ノ委員及地方委員會ノ會長ノ指名シタル委員九人以内ヲ以テ之ヲ組織ス但シ同一道府縣内ニ於テ都市計畫法第二條ノ規定ニ依ル二以上ノ市ノ指定アリタルトキハ會長ハ一市ヲ增ス毎ニ委員二人以内ヲ增スコトヲ得

地方委員會ノ會長ハ常務委員會ヲシテ地方委員會ノ會議事項ヲ豫メ審査セシムルコトヲ得

第八條第三項第五項、第十二條第一項、第十三條及第十四條ノ規定ハ常務委員會ニ之ヲ準用ス

第十六條　委員會ニ幹事若干人ヲ置ク内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十七條　地方委員會ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官　專任六人以内　奏任
技師　專任三十七人以内　奏任
書記　專任五十六人以内　判任
技手　專任八十六人以内　判任

前項ニ掲クル職員ノ各地方委員會ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

書記及技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

第十七條ノ二　地方委員會ノ判任官ノ進退ハ地方長官之ヲ專行ス

附　則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

都市計畫調査會官制ハ之ヲ廢止ス

地方委員會ニ要スル費用ハ當分ノ内北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市ノ市區改正委員會ノ委員ニシテ東京市區改正委員會組織權限規程第一條第二項第五號ノ規定又ハ大正七年勅令第百八十三號第二條第四號ノ規定ニ依リ任命セラレタル者ハ第八條ノ規定ニ依リ任命セラレタル委員ト看做ス

附　則（大正一一年勅令第二七二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ都市計畫地方委員會ハ本令ニ依ル都市計畫地方委員會ト看做ス

本令施行ノ際現ニ臨時委員ノ職ニ在ル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルモノハ之ヲ本令ニ依ル臨時委員ト看做ス

●特別都市計畫委員會官制

大正十三年二月二日
勅令第十四號
改正　大正一三年第四八號

朕特別都市計畫委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

特別都市計畫委員會官制

第一條　東京及横濱ニ於ケル都市計畫ニ關シテハ特別都市計畫委員會ヲ以テ都市計畫委員會トス

特別都市計畫委員會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項其ノ他東京及横濱ニ於ケル都市計畫上必要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　特別都市計畫委員會ハ都市計畫ニ關スル事項ニ付關係各大臣ノ諮問ニ應シ又ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　東京及横濱ニ於ケル都市計畫ニ關シ都市計畫委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ハ内務大臣之ヲ特別都市計畫委員會ノ議ニ付ス

内務大臣ハ特別都市計畫委員會ノ議決ヲ經タル事項ニ付必要アリト認ムルトキハ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

第四條　委員會ハ會長一人委員六十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　關係各廳高等官
二　警視總監、東京府知事及神奈川縣知事
三　東京市長及横濱市長
四　東京府會議員、神奈川縣會議員、東京市會議員及横濱市會議員
五　貴族院議員及衆議院議員
六　學識經驗アル者

前項ノ委員ハ第二號及第三號ニ掲クル者ヲ除クノ外内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二項第二號乃至第四號ニ掲クル者ハ關係府縣市ニ關セサル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項第一號乃至第三號ニ掲クル者事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理スル者議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ命セラルル者ノ外臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四項ノ規定ハ前項ノ臨時委員ニ之ヲ準用ス

第六條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ內務大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第七條　委員會ハ東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ニ關シ必要アルトキハ期間ヲ指定シ關係府縣市町村ヲシテ特定ノ事項ニ付調査ヲ爲サシメ又ハ必要ナル圖書類ヲ提出セシムルコトヲ得

委員會ハ委員又ハ臨時委員ヲ派遣シテ東京及橫濱ニ於ケル都市計畫事業執行ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第八條　委員會ハ會長之ヲ招集ス

會長ハ委員會開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ招集及會議ノ事項ヲ委員及臨時委員ニ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　委員會ハ委員及臨時委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條　會長ハ會議ノ議長ト爲ル

委員會ノ議事ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條　委員會ニ常務委員會ヲ置ク委員會ノ委任ヲ受ケ其ノ權限ニ屬スル事項ニシテ輕易ナルモノヲ處理ス

常務委員會ハ會長ノ指名シタル委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員會ノ會長ハ常務委員會ヲシテ委員會ノ會議事項ヲ豫メ審査セシムルコトヲ得

第五條第四項第五項、第八條第一項、第九條及前條ノ規定ハ常務委員會ニ之ヲ準用ス

第十二條　委員會ニ幹事若干人ヲ置ク內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十三條　委員會ニ書記若干人ヲ置ク內務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●勞働保險調査會官制

大正十年十二月十日
勅令第四百五十八號

改正　大正一一年第四七五號

朕勞働保險調査會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

勞働保險調査會官制

第一條　勞働保險調査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ勞働保險ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ會長一人委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ內務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　調査會ニ幹事ヲ置ク內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　調査會ニ書記ヲ置ク內務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●職業紹介委員會官制

大正十三年二月二十一日
勅令第二十號

朕職業紹介委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

職業紹介委員會官制

第一條　職業紹介委員會ハ職業紹介所ノ事業ノ經營ニ關シ關係行政廳ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

職業紹介委員會ハ職業紹介所ノ事業ノ經營ニ關シ關係行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二條　職業紹介委員會ハ中央職業紹介委員會及地方職業紹介委員會トス

第三條　中央職業紹介委員會ハ中央職業紹介事務局ニ、地方職業紹介委員會ハ地方職業紹介事務局ニ之ヲ置ク

第四條　職業紹介委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　中央職業紹介委員會ノ會長ハ社會局長官ヲ以テ之ニ充ツ

地方職業紹介委員會ノ會長ハ當該委員會ノ委員中ヨリ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　中央職業紹介委員會ノ委員ハ二十人以內トス內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

地方職業紹介委員會ノ委員ハ二十人以內トス內務大臣之ヲ命ス

委員中ニハ使用者ノ利益ヲ代表シ得ル者及勞働者ノ利益ヲ代表シ得ル者ヲ各同數加フルコトヲ要ス

第七條　委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第八條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第九條　職業紹介委員會ニ幹事若干人ヲ置ク

中央職業紹介委員會ノ幹事ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命シ地方職業紹介委員會ノ幹事ハ內務大臣之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　委員會ニ書記若干人ヲ置ク會長之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治神宮外苑管理職員制

大正十五年十月二十一日
勅令第三百二十六號

朕明治神宮外苑管理職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

明治神宮外苑管理職員制

第一條　官幣大社明治神宮ニ明治神宮外苑管理署ヲ置ク

第二條　明治神宮外苑管理署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長		奏任待遇
主事	專任一人	奏任待遇
技師	一人	奏任待遇
主事補	專任五人	判任待遇
技手	四人	判任待遇

第三條　署長ハ宮司ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

主事ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

主事補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四條　署長、主事及技師ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命シ主事補及技手ハ東京府知事之ヲ命ス

第五條　明治神宮管理署職員ノ俸給及旅費ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　官幣大社明治神宮ニ明治神宮外苑管理評議委員會ヲ置ク

明治神宮外苑管理評議委員會ノ組織及事務ニ關スル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十五年十月二十二日ヨリ之ヲ施行ス

第七款　大藏省及其所管

●大藏省官制

明治三十一年十月二十二日
勅令第二百六十九號

改正　明治三五年第七八號、三六年第一三七號、第二一五號、三八年第五〇號、第八二號、第二三八號、四〇年第七八號、四一年第七二號、四二年第八一號、第二六一號、四四年第一六二號
大正二年第一五三號、三年第二一〇號、第二三四號、四年第一五一號、五年第九六號、第一一二號、六年第一二七號、七年第二三八號、九年第二八六號、第四〇二號、一〇年第二三〇號、第三〇六號、一二年第一八二號、第三六〇號、一三年第一七九號、第三二六號、一四年第五一號、一五年第二二一號
昭和二年第一二二號

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

大藏省官制

第一條　大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租税、國債、貨幣、預金、保管金、政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券、銀行、信託、無盡及有價證券割賦販賣ニ關スル事務ヲ管理シ北海道地方費府縣市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條　大藏省專任書記官ハ十一人ヲ以テ定員トス

第三條　大藏省ニ左ノ四局ヲ置ク

主計局
主税局
理財局
銀行局

第四條　主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　總豫算總決算ニ關スル事項
二　特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
三　金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
四　支拂豫算ニ關スル事項
五　出納官吏及出納員ノ監督ニ關スル事項
六　收入支出ノ科目ニ關スル事項
七　勅令ヲ以テ指定シタル費途ノ流用ニ關スル事項
八　豫備金支出ニ關スル事項
九　會計法第十一條ニ規定スル翌年度ニ亘ル契約ニ關スル事項
十　年度開始前支出及定額繰越ニ關スル事項
十一　主計簿ノ登記ニ關スル事項
十二　北海道地方費府縣市町村其ノ他公共組合ノ歳計ニ關スル事項

第五條　主税局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國税ノ賦課徵收ニ關スル事項
二　税務ノ管理監督ニ關スル事項
三　民有地地種目變換ニ關スル事項
四　土地臺帳ニ關スル事項
五　大藏省所管税外諸收入ニ關スル事項
六　北海道地方費府縣市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
七　關税噸税ノ賦課徵收及税關諸收入ニ關スル事項
八　關税行政ノ管理監督ニ關スル事項
九　外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
十　保税倉庫税關假置場及税關倉庫ノ管理監督ニ關スル事項
十一　外國貿易ノ狀況及關税率ノ調査ニ關スル事項

第六條　理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國資ノ運用出納ニ關スル事項
二　國庫金ノ出納管理ニ關スル事項
三　貨幣ニ關スル事項
四　一般金融ニ關スル事項
五　國債ニ關スル事項
六　罹災救助基金ニ關スル事項
七　保管金及政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ニ關スル事項
八　諸祿ニ關スル事項
九　北海道地方費府縣市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項

第六條ノ二　銀行局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　特別法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニ關スル事項
二　普通銀行ニ關スル事項
三　貯蓄銀行ニ關スル事項
四　信託ニ關スル事項
五　無盡ニ關スル事項
六　產業組合中央金庫及市街地信用組合ニ關スル事項
七　有價證券割賦販賣ニ關スル事項
八　紙幣類似證券ニ關スル事項
九　銀行ニ關係ヲ有スル公益法人ニ關スル事項
十　銀行債券ニ關スル事項
十一　銀行ニ對スル補助金及補給金ニ關スル事項

第六條ノ三　預金部預金ノ管理竝預金部資金ノ運用及經理ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲大藏省ニ預金部ヲ置ク

第六條ノ四　預金部ニ部長ヲ置ク大藏省勅任官ヲ以テ之ニ充ツ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第六條ノ五　大藏省ニ專任事務官八人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條ノ六　大藏省ニ專任銀行檢査官十八人ヲ置ク奏任トス但シ內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

銀行檢査官ハ上官ノ命ヲ承ケ金融機關ノ檢査監督ヲ掌ル

第七條　大藏省ニ專任技師一人ヲ置ク勅任又ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條　大藏省ニ專任技手十人ヲ置ク技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條　大藏省專任屬ハ百五十二人ヲ以テ定員トス

第九條ノ二　大藏省ニ專任銀行檢査官補五十四人ヲ置ク判任トス

銀行檢査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ金融機關ノ檢査監督ニ從事ス

附　則

第十條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第百九十八號ヲ廢止ス

●大藏部內臨時職員設置制

大正十三年十二月二十日
勅令第三百二十七號

改正　大正一四年第二〇四號、一五年第一〇一號
昭和二年第一四七號

朕大藏部內臨時職員設置制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

大藏部內臨時職員設置制

第一條　大藏省ニ左ノ職員ヲ增置シ理財局ニ屬セシム

家祿賞典祿處分ニ關スル事務ニ從事スル者
大藏事務官　專任一人
屬　專任七人
賠償金特別會計ニ關スル事務ニ從事スル者
大藏事務官　專任二人
屬　專任九人
技手　專任一人

第一條ノ二　土地賃貸價格ノ調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲大藏省ニ左ノ職員ヲ增置シ主税局ニ屬セシム

大藏事務官　專任一人
主税局事務官　專任一人　奏任
屬　專任十五人、

第一條ノ三　明治大正財政史編纂ニ關スル事務ニ從事セシムル爲大藏省ニ左ノ職員ヲ增置シ大臣官房ニ屬セシム

屬　專任四人

第二條　國有財產ニ關スル事務ニ從事セシムル爲税務監督局及税務署ニ通シテ左ノ職員ヲ增置ス

國有財產ニ關スル事務ニ從事スル者
屬　專任百七十七人
技手　專任五人

第三條　東京及橫濱ニ於ケル土地區劃整理ノ施行ニ伴フ地租ニ關スル事務ニ從事セシムル爲税務監督局及税務署ニ通シテ左ノ職員ヲ增置ス

屬　專任十七人

第四條　土地賃貸價格ノ調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲税務監督局及税務署ニ通シテ左ノ職員ヲ增置ス

屬　專任八百七十人

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ理財局書記官ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ大藏事務官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●海外ニ於ケル財務處理ノ爲大藏省ニ臨時職員增置

明治四十三年五月三十日
勅令第二百三十六號

改正　大正三年第二三五號、六年第一四九號、九年第四一六號、一二年第一八四號、一三年第三二八號

朕海外ニ於ケル財務處理ノ爲大藏省ニ臨時職員增置ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　海外ニ於ケル帝國ノ財務ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲大藏省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ外國ニ駐在セシム

海外駐劄財務官	一人	勅任
事務官	專任三人	奏任
財務書記	專任五人	判任

第二條　海外駐劄財務官ハ大藏大臣ノ命ヲ承

ケ英國、佛國又ハ米國ニ駐在シ海外ニ於ケル帝國ノ財務ニ關スル事項ヲ掌理ス

第三條　事務官ハ大藏大臣ノ命ヲ承ケ海外駐剳財務官ノ事務ヲ助ケ又ハ英國、佛國及米國以外ノ外國ニ駐在シ海外ニ於ケル帝國ノ財務ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條ノ二　財務書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四條　第一條ノ官吏ニハ在外帝國大使館附又ハ在外帝國公使館附ヲ命スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第二百三十五號ハ之ヲ廢止ス

●營繕管財局官制

（大正十四年五月二十六日勅令第二百五號）

改正　大正一五年第二九三號

朕營繕管財局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

營繕管財局官制

第一條　營繕管財局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ議院ノ建築其ノ他一般會計ノ支拂ニ屬スル建造物ノ營繕ニ關スル事務、國有財產ニ關スル總轄事務、雜種財產ノ管理處分ニ關スル事務及國有財產ノ整理ニ關スル事務ヲ掌ル

前項ニ規定スル營繕ニ關スル事務ハ大藏省所管ノ建造物及東京府又ハ神奈川縣ニ於テ營繕ヲ施行スル各省所管ノ建造物ニ係ルモノヲ除クノ外ハ大藏大臣建造物ノ所管大臣ト協議シテ定メタルモノニ限ル

東京府又ハ神奈川縣ニ於テ施行スル各省所管建造物ノ營繕ニ關スル事務ニシテ建造物ノ性質其ノ他ノ事由ニ因リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラス當該官廳ニ於テ之ヲ施行ス

第二條　營繕管財局ハ特別會計ノ支拂ニ屬スル建造物ノ營繕ニ關シ當該官廳ノ委託ヲ受ケ之カ設計又ハ施行ニ關スル事務ヲ行フコトヲ得

第三條　營繕管財局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官			
理事	專任一人	勅任	
書記官	專任四人	奏任	
事務官	專任四人	奏任	
技師	專任四十二人	奏任	內三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
屬	專任六十九人	判任	
技手	專任百六十二人	判任	

前項職員ノ外營繕ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ事務官ヲ命スルコトヲ得

第四條　長官ハ大藏次官ヲ以テ之ニ充ツ

長官ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ總理シ所屬ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條　理事ハ長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第六條　書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條　大藏大臣ハ必要ノ地ニ出張所ヲ置キ營繕ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十一條　營繕管財局ニ參與ヲ置ク

參與ハ貴族院書記官長及衆議院書記官長ヲ以テ之ニ充ツ議院ノ建築ニ關スル事務ニ參與ス

第十二條　營繕管財局ニ議院ノ建築ニ關シ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

顧問ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ受ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國有財產整理局官制及臨時議院建築局官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ左表ノ上欄ニ揭クル職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ニ揭クル官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

大藏大臣官房臨時建築課又ハ其ノ出張所勤務ノ大藏技師	營繕管財局技師
大藏大臣官房臨時建築課又ハ其ノ出張所勤務ノ大藏屬	營繕管財局屬
大藏大臣官房臨時建築課又ハ其ノ出張所勤務ノ大藏技手	營繕管財局技手
國有財產整理局屬	營繕管財局屬
國有財產整理局技手	營繕管財局技手
臨時議院建築局事務官	營繕管財局事務官
臨時議院建築局技師	營繕管財局技師
臨時議院建築局屬	營繕管財局屬
臨時議院建築局技手	營繕管財局技手

●造幣局官制

（明治四十三年三月二十八日勅令第四十號）

改正　大正二年第一五六號、三年第二三六號、八年第一八六號、九年第四二七號、一〇年第二三一號、一一年第三〇八號、一二年第一八七號、一三年第三三一號、一五年第九二號　昭和二年第一一四號

朕造幣局官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

造幣局官制

第一條　造幣局ハ大阪市ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ製造、舊貨幣ノ鑄潰、章牌記章極印ノ製造、地金銀ノ精製分析、合金ノ製造及諸鑛物ノ試驗ヲ掌ル

第二條　造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	勅任	
書記官	一人	奏任	
技師	六人	奏任	內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
屬	十九人	判任	
技手	二十四人		

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第三條ノ二　書記官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第四條　技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治四十三年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

●專賣局官制

（大正十年七月一日勅令第三百號）

改正　大正一一年第三二一號、一二年第一八八號、一三年第三二二號、一五年第一六九號

朕專賣局官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

專賣局官制

第一條　專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ煙草、鹽及粗製樟腦樟腦油ノ專賣ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　專賣局ハ之ヲ東京ニ置ク

專賣ノ事務ヲ分掌セシムル爲地方ニ地方專賣局ヲ置ク

地方專賣局ノ名稱及位置ハ別表ニ依リ其ノ管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條　專賣局ニ長官官房及左ノ三部ヲ置ク

事業部

製造部

經理部

長官官房及各部ノ事務ノ分掌ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官		勅任	
部長	三人	勅任	
理事	二人	勅任	
參事	專任二十四人	奏任	
副參事	專任五十二人	奏任	
技師	專任七十二人	奏任	內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
書記	專任千九百六人	判任	
技手	專任八百七十七人	判任	

第五條　長官ハ大藏大臣ノ監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル

理事ハ東京又ハ大阪ノ地方專賣局長ト爲ル

參事及副參事ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　地方專賣局ニ局長ヲ置キ理事又ハ參事ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第七條　大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣局又ハ地方專賣局ノ製作所、研究所及試驗場並地方專賣局ノ工場、出張所及專賣官吏派出所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

地方專賣局名稱位置

名稱	位置
東京地方專賣局	東京府東京市
水戶地方專賣局	茨城縣水戶市
宇都宮地方專賣局	栃木縣宇都宮市
高崎地方專賣局	群馬縣高崎市
郡山地方專賣局	福島縣郡山市
仙臺地方專賣局	宮城縣仙臺市
函館地方專賣局	北海道函館市
名古屋地方專賣局	愛知縣名古屋市
金澤地方專賣局	石川縣金澤市
大阪地方專賣局	大阪府大阪市
岡山地方專賣局	岡山縣岡山市
廣島地方專賣局	廣島縣廣島市
坂出地方專賣局	香川縣綾歌郡坂出町
德島地方專賣局	德島縣德島市
福岡地方專賣局	福岡縣筑紫郡千代町
熊本地方專賣局	熊本縣熊本市
鹿兒島地方專賣局	鹿兒島縣鹿兒島市

●專賣局見習員ニ關スル件

（明治四十年九月二十八日勅令第三百九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ專賣局見習員ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　煙草、鹽、樟腦ノ鑑定、保存及製造ヲ練習セシムル爲專賣局ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ二百五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　見習員ハ官立公立中學校ヲ卒業シタル者、之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者又ハ相當ノ教育ヲ受ケ煙草、鹽、樟腦ノ取扱ニ經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　二年以上見習員トシテ煙草、鹽、樟腦ノ鑑定、保存及製造ニ從事シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ專賣局技手ニ任用スルコトヲ得

第四條　見習員ニハ每月二十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百六十一號及明治三十八年勅令第百二十二號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行ノ際右勅令ニ依リ見習員タル者ハ本令ニ依ル見習員トシ其ノ期間ハ第三條ノ期間ニ通算ス

●稅關官制

（大正十三年十二月二十日勅令第三百三十三號）

改正　大正一五年第一二四號、第三四七號　昭和二年第一一五號

朕稅關官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、內務、大藏大臣副署）

稅關官制

第一條　稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　關稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二　保稅倉庫、假置場其ノ他ノ保稅地域ニ關スル事項

三　船舶及貨物ノ取締竝貨物ノ收容ニ關スル事項

四　關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項

五　輸出入貨物ノ戾稅及交付金ニ關スル事項

六　運送通路ノ取締ニ關スル事項

七　輸入ノ砂糖又ハ織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項

八　輸出入又ハ移出入ノ植物ニ關スル檢查、取締及病菌害蟲ノ研究調查ニ關スル事項

九　開港港則ニ關スル事項

十　開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港內ノ行政警察ニ關スル事項

十一　海港檢疫ニ關スル事項

十二　輸入又ハ移入ノ獸畜其ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病豫防法又ハ畜牛結核病豫防法ニ依ル檢疫檢查ニ關スル事項

稅關ハ內地產獸毛ノ消毒ニ關スル事務ヲ掌ルコトヲ得

第一項第八號乃至第十二號及前項ノ事務ヲ掌ル稅關ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第二條　左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

橫濱、神戶、大阪、長崎、門司、函館

第三條　稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

稅關長	六人　內四人 二人	勅任 奏任
事務官	專任九人	奏任
關稅官	專任十七人	奏任
鑑查官	專任十六人	奏任
植物檢查官	專任四人	奏任
港務官	專任九人	奏任
醫官	專任八人	奏任
獸醫官	專任六人	奏任
事務官補	專任二百九十九人	判任
監視	專任八十二人	判任
港吏	專任二十五人	判任
鑑查官補	專任百五十人	判任
植物檢查官補	專任二十五人	判任
獸醫官補	專任六人	判任
醫官補	專任十七人	判任
藥劑手	專任五人	判任
監吏	專任五百五十二人	判任
技手	專任六十九人	判任

手數料ヲ徵シテ保稅地域其ノ他關稅上特殊ノ取扱ヲ爲ス場所ニ常時派出スル稅關官吏ハ之ヲ定員外トス

第四條　稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ノ事務ヲ掌理ス但シ第一條第一項第八號乃至第十二號及同條第二項ノ事務ニ付テハ各其ノ主務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第五條　事務官ハ稅關ニ分屬シ稅關長ノ命ヲ承ケ稅關ノ事務ヲ掌ル

第六條　關稅官ハ稅關支署長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ稅關ニ於ケル經理ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　鑑查官ハ上官ノ命ヲ承ケ貨物ノ檢查鑑定ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　植物檢查官ハ上官ノ命ヲ承ケ植物ノ檢查及病菌害蟲ノ研究調查ヲ掌ル

第九條　港務官ハ上官ノ命ヲ承ケ開港港則及檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル

第十一條　獸醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ノ檢疫、檢查及醫務ヲ掌ル

第十二條　事務官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十三條　監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十四條　港吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ開港港則及檢疫ニ關スル事務ニ從事ス

第十五條　鑑查官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢查鑑定ニ從事ス

第十六條　植物檢查官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ植物ノ檢查及病菌害蟲ノ研究調查ニ從事ス

第十七條　醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス

第十八條　獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜

ノ検疫、検査及醫務ニ従事ス

第十九條　藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ従事ス

第二十條　監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關税警察、犯則處分、開港港則及検疫ニ關スル事務ニ従事ス

第二十一條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第二十二條　税關ニ監視部及港務部ヲ置ク

監視部ニ部長ヲ置キ事務官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ

監視部長ハ税關長ノ命ヲ承ケ關税警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌ル

港務部ニ部長ヲ置キ事務官又ハ港務官ヲ以テ之ニ充ツ

港務部長ハ税關長ノ命ヲ承ケ開港港則及検疫ニ關スル事務ヲ掌ル

港務部長ハ港長ノ事務ヲ行ヒ第一條第一項第十號ノ事務ニ關シテハ水上警察署長ヲ指揮監督ス

港務部長事故アルトキハ税關長ハ税關官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十三條　税關管轄區域内必要ナル場所ニ税關支署、税關出張所、税關支署出張所及税關監視署ヲ置クコトヲ得

税關出張所、税關支署出張所及税關監視署ノ位置竝第一條第一項第八號乃至第十二號及同條第二項ノ事務ヲ取扱フ税關支署、税關出張所、税關支署出張所及税關監視署ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第二十四條　税關支署長ハ關税官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ税關長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第二十五條　税關監視署長ハ監視又ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ税關長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第二十六條　税關ニハ海港検疫費豫算定額内ニ於テ臨時左ノ職員ヲ置クコトヲ得

検疫員　判任官待遇
検疫醫　奏任官待遇又ハ判任官待遇
検疫獸醫　判任官待遇

前項ノ規定ニ依ル奏任官待遇ノ検疫醫ノ數ハ通シテ十三人以内トス

検疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検疫ニ關スル事務ニ従事シ検疫醫及検疫獸醫ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検疫ニ關スル技術ニ従事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

函館税關ニハ當分ノ内港務部ヲ置カス

港務部設置制及植物検査所官制ハ之ヲ廢止ス

税關、府縣港務部又ハ植物検査所ノ職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ植物検査官ハ植物検査官ニ、税關技師及港務官ハ税關港務官ニ、港務醫官ハ税關醫官ニ、港務獸醫官ハ税關獸醫官ニ、港務部屬及植物検査所屬ハ税關事務官補ニ、港吏ハ税關港吏ニ、植物検査官補ハ植物検査官補ニ、港務醫官補ハ税關醫官補ニ、港務獸醫官補ハ税關獸醫官補ニ、港務藥劑手ハ税關藥劑手ニ、港務部技手ハ税關技手ニ各同官等等級俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

港務部設置制第十六條ノ規定ニ依ル職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ検疫員ハ検疫員ニ、検疫醫ハ検疫醫ニ、検疫獸醫ハ検疫獸醫ニ各同待遇官等等級俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

勤勉手當給與令第一條ノ二第一號中「港務部」ヲ「税關」ニ改メ同條第三號中「植物検査所」ヲ「税關」ニ改ム

大正十三年十二月二十日
大藏省告示第二百一號
改正　大正一四年第五三號、一五年第九五號

一、税關官制第一條第一項第八號乃至第十二號及同條第二項ノ事務ヲ掌ル税關左ノ如シ

税關	事項
横濱	税關官制第一條第一項第八號乃至第十二號及同條第二項ノ事務
神戸	同
大阪	同
長崎	同
門司	同
函館	税關官制第一條第一項第八號及第十二號ノ事務

一、税關官制第一條第一項第八號乃至第十二號及同條第二項ノ事務ヲ取扱フ税關支署、税關出張所、税關支署出張所及税關監視署左ノ如シ

税關	名稱	事項
横濱	東京税關支署	税關官制第一條第一項第八號ノ事務
	清水税關支署	同
神戸	宇品税關監視署	同
大阪	武豊税關支署	同
	名古屋税關支署	同
	四日市税關支署	同
	敦賀税關支署	税關官制第一條第一項第八號及第十二號竝同條第二項ノ事務
長崎	唐津税關支署	税關官制第一條第一項第八號ノ事務
	口ノ津税關支署	税關官制第一條第一項第十一號及同條第二項ノ事務
	三池税關支署	税關官制第一條第一項第八號及第十一號竝同條第二項ノ事務
	鹿兒島税關支署	税關官制第一條第一項第八號及第十二號ノ事務
	嚴原税關支署	税關官制第一條第一項第八號及第十二號竝同條第二項ノ事務
	松島税關監視署	税關官制第一條第一項第十一號ノ事務
門司	博多税關支署	税關官制第一條第一項第八號ノ事務
	門司税關下關出張所	同
	六連島税關監視署	同
函館	小樽税關支署	税關官制第一條第一項第八號及第十二號ノ事務

一、税關、税關支署、税關出張所、税關支署出張所及税關監視署ニ於テ取扱フ植物検査事務ノ範圍ハ大正三年勅令第二百二十號ノ定ムル所ニ依ル

●税關管轄區域

大正六年六月九日
勅令第五十八號

朕明治二十三年勅令第二百四號税關管轄區域ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

税關管轄區域左ノ通之ヲ定ム

横濱税關管轄區域
東京府　神奈川縣　埼玉縣　茨城縣　群馬縣
栃木縣　千葉縣　靜岡縣　山梨縣　長野縣
新潟縣　福島縣　宮城縣　山形縣

神戸税關管轄區域
兵庫縣　岡山縣　鳥取縣　島根縣　廣島縣
香川縣　德島縣　高知縣　愛媛縣

大阪税關管轄區域
大阪府　京都府　和歌山縣　奈良縣　三重縣
滋賀縣　福井縣　石川縣　富山縣　岐阜縣
愛知縣

長崎税關管轄區域
長崎縣　佐賀縣　福岡縣ノ内（久留米市　大牟田市　浮羽郡　三井郡　三瀦郡　八女郡　山門郡　三池郡）　熊本縣　宮崎縣　鹿兒島縣
沖繩縣

門司税關管轄區域
山口縣　大分縣　福岡縣（但シ久留米市　大牟田市　浮羽郡　三井郡　三瀦郡　八女郡　山門郡及三池郡ヲ除ク）

函館税關管轄區域
北海道　秋田縣　岩手縣　青森縣　樺太

●税關支署ノ名稱位置及管轄區域

大正六年六月九日
勅令第五十九號
改正　大正八年第三三四號、一〇年第四四六號、一一年第二二一號、一三年第二四三號

朕明治三十二年勅令第百六十九號税關支署ノ名稱位置及管轄區域ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

税關支署ノ名稱、位置及管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

（別表）

税關支署名稱位置及管轄區域表

所管税關名稱	税關支署 名稱	税關支署 位置	税關支署 管轄區域
横濱	東京	東京府東京市	東京府ノ内 東京市　南葛飾郡　南足立郡　北豊島郡 豊多摩郡　荏原郡
	新潟	新潟縣新潟市	新潟縣（但シ佐渡郡ヲ除ク） 山形縣
	清水	靜岡縣清水市	靜岡縣（但シ田方郡及賀茂郡ヲ除ク）
	夷港	新潟縣佐渡郡兩津町	新潟縣ノ内 佐渡郡
神戸	糸崎	廣島縣御調郡糸崎町	廣島縣ノ内 福山市　尾道市　深安郡　神石郡 比婆郡　甲奴郡　蘆品郡　雙三郡 世羅郡　御調郡　沼隈郡　豊田郡 高田郡　賀茂郡
	濱田	島根縣那賀郡濱田町	島根縣ノ内 安濃郡　邇摩郡　邑智郡　那賀郡 美濃郡　鹿足郡
	境	鳥取縣西伯郡境町	鳥取縣 島根縣ノ内 松江市　八東郡　簸川郡　大原郡 能義郡　仁多郡　飯石郡 兵庫縣ノ内 城崎郡　美方郡　出石郡　養父郡 朝來郡
	今治	愛媛縣今治市	愛媛縣
大阪	武豊	愛知縣知多郡成岩町	愛知縣ノ内 豊橋市　岡崎市　北設樂郡　南設樂郡 東加茂郡　西加茂郡　八名郡　渥美郡 寶飯郡　額田郡　幡豆郡　碧海郡 知多郡（但シ大高町　岡田町　三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿海各町村ヲ除ク）
	名古屋	愛知縣名古屋市	愛知縣ノ内 名古屋市　一宮市　愛知郡　東春日井郡 西春日井郡　丹羽郡　葉栗郡　中島郡　海部郡 知多郡ノ内（大高町　岡田町　三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿海各町村）
	四日市	三重縣四日市市	三重縣（但シ阿山郡　名賀郡　北牟婁郡及南牟婁郡ヲ除ク）
	宮津	京都府與謝郡宮津町	京都府ノ内 與謝郡　加佐郡　中郡　竹野郡 熊野郡
	敦賀	福井縣敦賀郡敦賀町	福井縣
	七尾	石川縣鹿島郡七尾町	石川縣
	伏木	富山縣射水郡伏木町	富山縣
長崎	唐津	佐賀縣東松浦郡唐津村	佐賀縣ノ内 東松浦郡　西松浦郡 長崎縣ノ内 北松浦郡
	住ノ江	佐賀縣杵島郡福富村	佐賀縣ノ内 佐賀市　佐賀郡　小城郡　杵島郡 藤津郡　神埼郡　三養基郡
	口ノ津	長崎縣南高來郡口ノ津村	長崎縣ノ内 南高來郡　北高來郡
	三池	福岡縣三池郡三川町	福岡縣ノ内 久留米市　大牟田市　浮羽郡　三井郡 三瀦郡　八女郡　山門郡　三池郡 熊本縣ノ内 玉名郡　鹿本郡　菊池郡　阿蘇郡
	三角	熊本縣宇土郡三角町	熊本縣ノ内 熊本市　宇土郡　飽託郡　下益城郡 上益城郡　八代郡　葦北郡　球磨郡 天草郡
	鹿兒島	鹿兒島縣鹿兒島市	鹿兒島縣 宮崎縣
	嚴原	長崎縣下縣郡嚴原町	長崎縣ノ内 下縣郡
	佐須奈	長崎縣上縣郡佐須奈村	長崎縣上縣郡ノ内 琴村　豊崎村　佐須奈村
	鹿見	長崎縣上縣郡仁田村	長崎縣上縣郡ノ内

			峯村　仁田村
	那覇	沖繩縣那覇市	沖繩縣
門司	若松	福岡縣若松市	福岡縣ノ内 若松市　八幡市　戸畑市　遠賀郡 鞍手郡　嘉穗郡　朝倉郡　宗像郡
	博多	福岡縣福岡市	福岡縣ノ内 福岡市　糟屋郡　筑紫郡　早良郡 糸島郡
	德山	山口縣都濃郡德山町	山口縣ノ内 大島郡　玖珂郡　熊毛郡　都濃郡 佐波郡　吉敷郡
函館	青森	青森縣青森市	青森縣 秋田縣 岩手縣
	小樽	北海道小樽市	北海道ノ内 札幌市　小樽市　旭川市　札幌郡 石狩郡　厚田郡　濱益郡　久遠郡 奥尻郡　太櫓郡　瀬棚郡　壽都郡 島牧郡　歌棄郡　磯谷郡　岩内郡 古宇郡　小樽郡　高島郡　忍路郡 余市郡　古平郡　美國郡　積丹郡 空知郡　夕張郡　雨龍郡　樺戸郡 上川郡（石狩國）　上川郡（天鹽國）　中川郡（天鹽國） 增毛郡　留萠郡　苫前郡　天鹽郡 宗谷郡　枝幸郡　利尻郡　禮文郡 網走郡　斜里郡　常呂郡　紋別郡
	根室	北海道根室郡根室町	北海道ノ内 根室郡　花咲郡　野付郡　標津郡 目梨郡　國後郡　色丹郡　得撫郡 新知郡　占守郡　紗那郡　振別郡 擇捉郡　蘂取郡
	釧路	北海道釧路市	北海道ノ内 釧路市　釧路郡　白糠郡　足寄郡 阿寒郡　川上郡　厚岸郡　河西郡　河東郡 上川郡（十勝國）中川郡（十勝國）十勝郡　廣尾郡
	室蘭	北海道室蘭市	北海道ノ内 室蘭市　室蘭郡　有珠郡　虻田郡 幌別郡　勇拂郡　白老郡　千歳郡 山越郡　浦河郡　沙流郡　新冠郡 靜内郡　三石郡　樣似郡　幌泉郡
	大泊	樺太大泊郡大泊町	樺太ノ内 大泊郡　留多加郡　富内郡　長濱郡 豐原郡　榮濱郡　元泊郡　敷香郡 新問郡　散江郡
	眞岡	樺太眞岡郡眞岡町	樺太ノ内 本斗郡　眞岡郡　野田寒郡　泊居郡 久春内郡　鵜城郡　名好郡

●税務監督局官制

（明治三十五年十一月一日勅令第二百四十一號）

改正　明治三八年第一八號、四一年第九八號、四二年第三三號、第二六五號
大正二年第一五九號、三年第二三九號、七年第二三九號、八年第二七七號、九年第四二二號、一〇年第三九九號、一一年第三一〇號、一二年第一九〇號、一三年第三三四號、一五年第九四號
昭和二年第一四八號

朕税務監督局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

税務監督局官制

第一條　税務監督局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ内國税ニ關スル事務ヲ監督ス

第二條　各税務監督局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長	七人	奏任
税務監督官	專任七人	奏任
事務官	專任十七人	奏任
技師	專任八人	奏任
屬	專任三百八十三人	判任
技手	專任七十九人	判任

東京、大阪、仙臺、名古屋、廣島及熊本ノ税務監督局長ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ管轄内ニ於ケル内國税事務ヲ管理シ税務署長ヲ指揮監督ス

第四條　局長ハ税務署長ノ處分法律命令ニ違犯スト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第五條　局長ハ部下ノ官吏ヲシテ間接國税ニ關スル檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條　局長ハ部下ノ官吏ヲ監督シ税務監督局及税務署判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス

第七條　税務監督官ハ各局ニ分屬シ局長ヲ補佐シ税務ノ監督ニ從事ス

第七條ノ二　事務官ハ各局ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第七條ノ三　技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　税務監督局ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

税務管理局官制及明治二十九年勅令第三百四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別表）

税務監督局名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京税務監督局	東京	東京府　神奈川縣　埼玉縣　千葉縣　山梨縣 栃木縣　茨城縣　群馬縣
大阪税務監督局	大阪	大阪府　京都府　兵庫縣　奈良縣　和歌山縣 滋賀縣　福井縣　石川縣　富山縣　香川縣 德島縣　高知縣
札幌税務監督局	札幌	北海道
仙臺税務監督局	仙臺	宮城縣　巖手縣　福島縣　秋田縣　青森縣 山形縣
名古屋税務監督局	名古屋	愛知縣　靜岡縣　三重縣　岐阜縣　長野縣 新潟縣
廣島税務監督局	廣島	廣島縣　山口縣　岡山縣　鳥取縣　島根縣 愛媛縣
熊本税務監督局	熊本	熊本縣　福岡縣　大分縣　長崎縣　佐賀縣 鹿兒島縣　宮崎縣　沖繩縣

●税務監督局見習員ニ關スル件

（明治三十二年三月二十二日勅令第五十五號）

改正　明治三五年第二五一號

朕税務管理局見習員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　酒類ノ鑑定事務ヲ練習セシムル爲税務監督局ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ各税務監督局ヲ通シテ百五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ又ハ【尋常】中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者及之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者ヨリ之ヲ採用ス

第三條　二箇年以上見習員トシテ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ税務監督局又ハ税務署ノ技手ニ任用スルコトヲ得

第四條　見習員ニハ月額十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

第五條　本令施行ノ後二箇年間ハ本令第三條ノ年限ニ拘ラス見習員ヨリ技手ニ任用スルコトヲ得

●税務署官制

（明治三十五年十一月一日勅令第二百四十二號）

改正　明治三六年第一一九號、三七年第九七號、三八年第一一九號、四〇年第九二號、四一年第九九號、四二年第三四號、第二六六號、四三年第四三號
大正二年第一六〇號、三年第九五號、第二四〇號、七年第三九七號、八年第二七八號、九年第四二三號、一〇年第四〇〇號、一一年第三一一號、一二年第一九一號、一三年第二九六號、第三三五號、一四年第一二〇號、一五年第九五號、第三〇五號
昭和二年第一四九號

朕税務署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

税務署官制

第一條　税務署ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ内國税ニ關スル事務ヲ執行ス

第二條　各税務署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

司税官	專任百八十六人	奏任
屬	專任五千八百九人	判任
技手	專任百人	判任

第三條　署長ハ司税官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　署長ハ税務監督局長ノ指揮監督ヲ承ケ内國税ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄内ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四條ノ二　司税官ハ署長タル者ヲ除クノ外署長ノ命ヲ承ケ署務ヲ掌ル

第五條　屬ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　税務署ノ名稱及管轄區域ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

税務署名稱及管轄區域表

税務監督局名	廳府縣	税務署名	管轄區域
東	東	神田橋	麹町區　神田區
		永代橋	日本橋區
		京橋	京橋區
		幸橋	芝區　麻布區　伊豆七島　小笠原島
		四谷	赤坂區　四谷區　牛込區
		水道橋	小石川區　本郷區
		厩橋	下谷區　淺草區
		兩國橋	本所區　深川區
	京	品川	荏原郡
		淀橋	豐多摩郡
		板橋	北豐島郡
		龜戶	南足立郡　南葛飾郡
		青梅	西多摩郡
		八王子	八王子市　南多摩郡　北多摩郡
	神	横濱	横濱市　久良岐郡
		川崎	川崎市　橘樹郡　都筑郡

奈川	横須賀	横須賀市　三浦郡
	藤澤	高座郡　鎌倉郡
	大磯	中郡　愛甲郡　津久井郡
	小田原	足柄上郡　足柄下郡
埼玉	浦和	北足立郡
	川越	川越市　入間郡　比企郡
	秩父	秩父郡
	熊谷	兒玉郡　大里郡
	忍	北埼玉郡
	粕壁	南埼玉郡　北葛飾郡
千葉	千葉	千葉市　千葉郡　市原郡　印旛郡
	松戸	東葛飾郡
	佐原	香取郡
	銚子	海上郡　匝瑳郡
	東金	山武郡
	茂原	長生郡　夷隅郡
	木更津	君津郡
	北條	安房郡
山梨	甲府	甲府市　東山梨郡　西山梨郡　東八代郡　中巨摩郡
	鰍澤	西八代郡　南巨摩郡
	韮崎	北巨摩郡
	都留	南都留郡　北都留郡
栃	宇都宮	宇都宮市　河内郡
	鹿沼	上都賀郡
	眞岡	芳賀郡
	栃木	下都賀郡

京	木	大田原	鹽谷郡　那須郡
		足利	足利市　安蘇郡　足利郡
	茨城	水戸	水戸市　東茨城郡　西茨城郡
		太田	那珂郡　久慈郡
		松原	多賀郡
		麻生	行方郡　鹿島郡
		龍ヶ崎	稻敷郡　北相馬郡
		土浦	新治郡　筑波郡
		下館	眞壁郡　結城郡
		境	猿島郡
	群馬	前橋	前橋市　勢多郡　佐波郡
		高崎	高崎市　群馬郡　多野郡　北甘樂郡　碓氷郡
		中之條	吾妻郡
		沼田	利根郡
		桐生	桐生市　山田郡
		館林	邑樂郡　新田郡
大	大阪	東	東區
		西	西區　港區
		南	南區　天王寺區　浪速區
		北	北區　此花區
		玉造	東成區　住吉區　西成區
		淀川	西淀川區　東淀川區
		茨木	三島郡　豐能郡
		堺	堺市　泉北郡
		岸和田	岸和田市　泉南郡
		富田林	南河内郡

	住道	中河内郡　北河内郡
京都	上京	上京區　愛宕郡
	下京	下京區　葛野郡
	伏見	乙訓郡　紀伊郡　宇治郡　久世郡　綴喜郡　相樂郡
	園部	船井郡　南桑田郡　北桑田郡
	福知山	何鹿郡　天田郡
	宮津	加佐郡　與謝郡
	峯山	中郡　竹野郡　熊野郡
兵庫	神戸	神戸市　武庫郡ノ内山田村
	西宮	西宮市　武庫郡(山田村ヲ除ク)
	伊丹	尼崎市　川邊郡　有馬郡
	明石	明石市　明石郡　美嚢郡
	社	加東郡　多可郡　加西郡
	加古川	加古郡　印南郡
	姫路	姫路市　飾磨郡　神崎郡
	龍野	揖保郡　宍粟郡
	上郡	赤穗郡　佐用郡
	豐岡	城崎郡　出石郡　美方郡
	和田山	養父郡　朝來郡
	柏原	氷上郡　多紀郡
	洲本	津名郡　三原郡
奈良	奈良	奈良市　添上郡　生駒郡　山邊郡
	葛城	磯城郡　宇陀郡　高市郡　北葛城郡　南葛城郡　宇智郡
	吉野	吉野郡
和	和歌山	和歌山市　海草郡

歌山	粉河	那賀郡　伊都郡
	湯淺	有田郡
	御坊	日高郡
	田邊	西牟婁郡
	新宮	東牟婁郡
滋賀	大津	大津市　滋賀郡　栗太郡　野洲郡
	水口	甲賀郡
	八幡	蒲生郡　神崎郡
	彦根	愛知郡　犬上郡
	長濱	阪田郡　東淺井郡　伊香郡
	今津	高島郡
福井	福井	福井市　足羽郡　吉田郡　坂井郡
	大野	大野郡
	武生	今立郡　丹生郡　南條郡
	敦賀	敦賀郡　三方郡
	小濱	遠敷郡　大飯郡
石川	金澤	金澤市　石川郡　河北郡
	小松	江沼郡　能美郡
	七尾	羽咋郡　鹿島郡
	輪島	鳳至郡　珠洲郡
富山	富山	富山市　上新川郡　婦負郡
	魚津	中新川郡　下新川郡
	高岡	高岡市　射水郡　氷見郡
	出町	東礪波郡　西礪波郡
香	丸龜	丸龜市　仲多度郡　綾歌郡　三豐郡
	長尾	大川郡

阪	川	土庄	小豆郡
		高松	高松市 香川郡 木田郡
	德島	德島	德島市 名東郡 勝浦郡 名西郡 阿波郡 麻植郡
		那賀	那賀郡 海部郡
		撫養	板野郡
		脇町	美馬郡
		池田	三好郡
	高知	高知	高知市 土佐郡 吾川郡 長岡郡
		中村	幡多郡
		須崎	高岡郡
		赤岡	香美郡
		安藝	安藝郡
札	北海	札幌	札幌市 札幌郡 千歲郡 石狩郡 厚田郡
		函館	函館市 龜田郡 上磯郡 茅部郡 山越郡 松前郡
		檜山	檜山郡 爾志郡 久遠郡 奥尻郡 太櫓郡 瀬棚郡
		壽都	壽都郡 島牧郡 歌棄郡 磯谷郡
		小樽	小樽市 小樽郡 高島郡 忍路郡 余市郡 古平郡 美國郡 積丹郡 岩内郡 古宇郡 虻田郡（虻田村、辨邊村ヲ除ク）
		空知	空知郡ノ内岩見澤町、幌向村、栗澤村、三笠山村、沼貝村、北村 夕張郡 樺戸郡（新十津川村ヲ除ク）
		瀧川	空知郡ノ内瀧川町、砂川村、音江村、歌志内村、蘆別村、江部乙村 雨龍郡 樺戸郡ノ内新十津川村 濱益郡
		上川	旭川市 上川郡（石狩國） 空知郡ノ内上富良野村、中富良野村、

幌	道		富良野町、山部村、南富良野村 勇拂郡ノ内占冠村
		名寄	上川郡（天鹽國） 中川郡（天鹽國）
		增毛	增毛郡 留萌郡 苫前郡 天鹽郡
		宗谷	宗谷郡 枝幸郡 利尻郡 禮文郡
		室蘭	室蘭市 室蘭郡 有珠郡 虻田郡ノ内虻田村 辨邊村 幌別郡 勇拂郡（占冠村ヲ除ク） 白老郡
		浦河	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡 三石郡 様似郡 幌泉郡
		網走	網走郡 斜里郡 常呂郡 紋別郡
		釧路	釧路市 釧路郡 白糠郡 足寄郡 阿寒郡 川上郡 厚岸郡
		河西	河西郡 河東郡 上川郡（十勝國） 中川郡（十勝國） 十勝郡 廣尾郡
		根室	根室郡 花咲郡 野付郡 標津郡 目梨郡 國後郡 色丹郡 得撫郡 新知郡 占守郡 紗那郡 振別郡 擇捉郡 蘂取郡
仙	宮城	仙臺	仙臺市 宮城郡 名取郡 黒川郡 亘理郡
		古川	加美郡 志田郡 玉造郡 遠田郡
		築館	栗原郡 登米郡
		石巻	桃生郡 牡鹿郡
		志津川	本吉郡
		大河原	柴田郡 刈田郡 伊具郡
	巖	盛岡	盛岡市 巖手郡 紫波郡
		花巻	稗貫郡 和賀郡
		水澤	膽澤郡 江刺郡
		一關	西磐井郡 東磐井郡
		盛	氣仙郡

	手	遠野	上閉伊郡
		下閉伊	下閉伊郡
		久慈	九戸郡
		二戸	二戸郡
	福島	福島	福島市 信夫郡 伊達郡
		二本松	安達郡
		郡山	郡山市 安積郡 田村郡
		須賀川	岩瀬郡 石川郡
		田島	南會津郡
		若松	若松市 北會津郡 耶麻郡
		坂下	河沼郡 大沼郡
		白河	東白川郡 西白河郡
		平	石城郡
		相馬	雙葉郡 相馬郡
	秋田	秋田	秋田市 南秋田郡 河邊郡
		大館	北秋田郡 鹿角郡
		能代	山本郡
		本荘	由利郡
		大曲	仙北郡
		横手	平鹿郡 雄勝郡
	青森	青森	青森市 東津輕郡
		鰺ヶ澤	西津輕郡
		弘前	弘前市 中津輕郡 南津輕郡
		五所川原	北津輕郡
		野邊地	上北郡 下北郡
		八戸	三戸郡

臺	山形	山形	山形市 南村山郡 東村山郡 西村山郡
		楯岡	北村山郡
		新庄	最上郡
		酒田	飽海郡
		鶴岡	鶴岡市 東田川郡 西田川郡
		長井	西置賜郡
		米澤	米澤市 南置賜郡 東置賜郡
名	愛知	名古屋	名古屋市 愛知郡 西春日井郡
		小牧	東春日井郡 丹羽郡
		一宮	一宮市 葉栗郡 中島郡
		津島	海東郡 海西郡
		半田	知多郡
		大濱	碧海郡 幡豆郡
		岡崎	岡崎市 額田郡 西加茂郡 東加茂郡
		田口	北設樂郡
		豐橋	豐橋市 南設樂郡 八名郡 渥美郡 寶飯郡
	靜岡	靜岡	靜岡市 淸水市 安倍郡 庵原郡
		下田	賀茂郡
		沼津	沼津市 田方郡 駿東郡 富士郡
		藤枝	志太郡 榛原郡
		見付	小笠郡 周智郡 磐田郡
		濱松	濱松市 濱名郡 引佐郡
	三	津	津市 安濃郡 河藝郡 一志郡
		桑名	桑名郡 員辨郡
		四日市	四日市市 三重郡 鈴鹿郡
		松坂	飯南郡 多氣郡

古	重	宇治山田	宇治山田市　度會郡　志摩郡
		上野	阿山郡　名賀郡
		尾鷲	北牟婁郡
		木本	南牟婁郡
	岐阜	岐阜	岐阜市　稻葉郡　羽島郡　本巣郡　山縣郡
		大垣	大垣市　揖斐郡　海津郡　養老郡　不破郡　安八郡
		關	武儀郡　加茂郡
		郡上	郡上郡
		多治見	可兒郡　土岐郡
		惠那	惠那郡
		高山	益田郡　大野郡　吉城郡
	長野	長野	長野市　上水內郡　更級郡
		岩村田	南佐久郡　北佐久郡
		上田	上田市　小縣郡　埴科郡
		上諏訪	諏訪郡
		伊那	上伊那郡
		飯田	下伊那郡
		西筑摩	西筑摩郡
		松本	松本市　東筑摩郡　南安曇郡
		大町	北安曇郡
		中野	上高井郡　下高井郡　下水內郡
	新	新潟	新潟市　中蒲原郡　東蒲原郡
		新發田	北蒲原郡
		卷	西蒲原郡
		三條	南蒲原郡
		長岡	長岡市　古志郡　三島郡

屋	湯	小千谷	北魚沼郡　南魚沼郡
		十日町	中魚沼郡
		柏崎	刈羽郡
		高田	高田市　東頸城郡　中頸城郡
		糸魚川	西頸城郡
		村上	岩船郡
		相川	佐渡郡
廣	廣島	廣島	廣島市　佐伯郡
		吳	吳市　安藝郡
		可部	安佐郡　山縣郡
		吉田	高田郡
		西條	賀茂郡
		忠海	豐田郡
		尾道	尾道市　御調郡　世羅郡
		福山	福山市　沼隈郡　深安郡
		府中	蘆品郡　神石郡　甲奴郡
		三次	雙三郡
		庄原	比婆郡
	山口	山口	吉敷郡
		岩國	大島郡　玖珂郡
		德山	熊毛郡　都濃郡
		三田尻	佐波郡
		厚狹	宇部市　厚狹郡　美禰郡
		下關	下關市　豐浦郡
		萩	大津郡　阿武郡
		岡山	岡山市　御津郡

島	岡山	瀨戶	赤磐郡　和氣郡
		西大寺	邑久郡　上道郡
		味野	兒島郡
		倉敷	都窪郡　吉備郡
		玉島	淺口郡
		笠岡	小田郡　後月郡
		高梁	上房郡　川上郡
		新見	阿哲郡
		久世	眞庭郡
		津山	苫田郡　久米郡
		英田	勝田郡　英田郡
	鳥取	鳥取	鳥取市　岩美郡　八頭郡　氣高郡
		倉吉	東伯郡
		米子	西伯郡　日野郡
	島根	松江	松江市　八束郡　能義郡
		大東	仁多郡　大原郡　飯石郡
		今市	簸川郡
		大森	安濃郡　邇摩郡
		川本	邑智郡
		濱田	那賀郡
		益田	美濃郡　鹿足郡
		西鄉	周吉郡　穩地郡　海士郡　知夫郡
	愛	松山	松山市　溫泉郡　上浮穴郡　伊豫郡
		今治	今治市　越智郡
		新居	宇摩郡　周桑郡　新居郡
		大洲	喜多郡

熊	媛	八幡濱	西宇和郡
		卯之町	東宇和郡
		宇和島	宇和島市　北宇和郡　南宇和郡
	熊本	熊本	熊本市　飽託郡　宇土郡　上益城郡　下益城郡
		高瀨	玉名郡
		山鹿	鹿本郡　菊池郡
		宮地	阿蘇郡
		八代	八代郡　葦北郡
		人吉	球磨郡
		天草	天草郡
	福岡	福岡	福岡市　糸島郡　筑紫郡　早良郡　糟屋郡　宗像郡
		遠賀	若松市　八幡市　戶畑市　遠賀郡
		直方	鞍手郡　田川郡　嘉穗郡
		久留米	久留米市　朝倉郡　三井郡　浮羽郡
		大川	三潴郡
		八女	八女郡
		大牟田	大牟田市　山門郡　三池郡
		小倉	小倉市　門司市　企救郡
		行橋	京都郡　築上郡
	大	大分	大分市　大分郡
		國東	東國東郡
		日出	別府市　速見郡
		臼杵	北海部郡　南海部郡
		三重	大野郡
		竹田	直入郡

分	日田	玖珠郡　日田郡
	中津	下毛郡
	四日市町	西國東郡　宇佐郡
長崎	長崎	長崎市　西彼杵郡　北高來郡
	佐世保	佐世保市　東彼杵郡
	島原	南高來郡
	平戶	北松浦郡
	福江	南松浦郡
	武生水	壹岐郡
	嚴原	上縣郡　下縣郡
佐賀	佐賀	佐賀市　佐賀郡　神埼郡　三養基郡　小城郡
	唐津	東松浦郡
	武雄	杵島郡　藤津郡　西松浦郡
鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島市　鹿兒島郡　日置郡
	知覽	揖宿郡　川邊郡
	隈之城	薩摩郡　出水郡
	加治木	伊佐郡　姶良郡
	岩川	囎唹郡
	鹿屋	肝屬郡
	種子島	熊毛郡
	大島	大島郡
宮崎	宮崎	宮崎市　宮崎郡　東諸縣郡
	飫肥	南那珂郡
	都城	都城市　北諸縣郡　西諸縣郡
	高鍋	兒湯郡
	延岡	東臼杵郡

本		
	高千穗	西臼杵郡
沖繩	那覇	那覇市　首里市　島尻郡　中頭郡
	國頭	國頭郡
	宮古	宮古郡
	八重山	八重山郡

●釀造試驗所官制

（明治三十七年五月九日勅令第百三十六號）
（改正　明治三八年第二八五號、四三年第四四號　大正二年第一六一號、五年第七七號、一二年第一九二號、一三年第三三六號）

朕釀造試驗所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

釀造試驗所官制

第一條　釀造試驗所ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ酒類及醬油釀造ノ試驗及講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　釀造試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人
事務官　專任　一人　奏任
技師　專任　四人
書記　專任　二人　判任
技手　專任　五人

第三條　所長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第四條　事務官ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條　技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第八條　釀造試驗所ニ三人以內ノ商議員ヲ置ク

商議員ハ大藏大臣之ヲ命ス

●國有財產調査會官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百三十九號）

朕國有財產調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理兼大藏大臣副署）

國有財產調査會官制

第一條　國有財產調査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ國有財產ノ整理ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ會長一人、委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　調査會ニ幹事長一人、幹事若干人ヲ置ク大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條　調査會ニ書記ヲ置ク大藏省判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

官有財產調査會官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ官有財產調査會ノ委員、幹事長、幹事又ハ書記タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各國有財產調査會ノ委員、幹事長、幹事又ハ書記ヲ命セラレタルモノトス

●中央諸官衙建築準備委員會官制

（大正十四年十月二十三日勅令第三百五號）

朕中央諸官衙建築準備委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

中央諸官衙建築準備委員會官制

第一條　中央諸官衙建築準備委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ中央諸官衙及其ノ附屬建造物ノ建築準備ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　委員會ハ會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　關係各廳高等官
二　東京市長
三　學識經驗アル者

前項ノ委員ハ第二號ニ揭クル者ヲ除クノ外大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　委員會ニ幹事若干人ヲ置ク大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　委員會ニ書記ヲ置ク大藏大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寺院境內地讓與審査會官制

（大正十四年九月二十二日勅令第二百八十五號）

朕寺院境內地讓與審査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

寺院境內地讓與審査會官制

第一條　寺院境內地讓與審査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大正十四年法律第四號第一條ノ規定ニ依リ特別都市計畫區域內ニ於ケル寺院若ハ佛堂ノ國有境內地又ハ寺院ノ管理スル國有墳墓地ノ換地及從前ノ土地ニ定著スル國有物件ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ讓與スルニ付必要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　審査會ハ會長一人及委員十六人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、關係公共團體吏員及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　審査會ニ幹事若干人ヲ置ク大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第六條　審査會ニ書記ヲ置ク大藏部內判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅調査委員會官制

（大正十五年五月十七日勅令第百二十五號）

朕關稅調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

關稅調査委員會官制

第一條　關稅調査委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ關稅率ニ關スル事項ヲ調査審議ス

關稅調査委員會ハ前項ノ事項ニ付大藏大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　關稅調査委員會ハ會長一人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　大藏部內高等官　六人
二　商工部內高等官　四人
三　農林部內高等官　三人
四　外務部內高等官　三人
五　內閣高等官　一人
六　內務部內高等官　一人
七　學識經驗アル者　十二人以內

第五條　委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

前條第七號ニ揭クル委員ノ任期ハ四年トス

第六條　第四條ニ揭クル委員ノ外臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第八條　關稅調査委員會ニ幹事若干人ヲ置ク大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　關稅調査委員會ニ書記若干人ヲ置ク大藏大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅訴願審査委員會規則

（明治三十二年六月十三日勅令第二百四十九號）
（改正　大正一四年第一六六號）

朕關稅訴願審査委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

關稅訴願審査委員會規則

第一條　關稅法第六十九條ニ依ル委員會ハ關稅訴願審査委員會ト稱シ會長一人委員九人ヲ以テ組織ス

第二條　會長ハ大藏次官委員ハ大藏省高等官三人帝國大學教授三人商工省高等官二人司法省高等官一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條　委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條　關稅訴願審査委員會ニ幹事一人ヲ置キ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　關稅訴願審査委員會ニ書記二人ヲ置キ大藏屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

●臨時秩祿處分調査會官制

（大正八年五月十二日勅令第百八十七號）

朕臨時秩祿處分調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

臨時秩祿處分調査會官制

第一條　臨時秩祿處分調査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大正八年法律第三十四號及同年法律第三十五號ニ依ル出願ノ處理ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　臨時秩祿處分調査會ハ會長一人委員五人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ大藏大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　臨時秩祿處分調査會ニ幹事一人ヲ置ク大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏省高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　臨時秩祿處分調査會ニ書記ヲ置ク理財局屬ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災手形處理委員會官制

（昭和二年六月四日勅令第百五十五號）

朕震災手形處理委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

震災手形處理委員會官制

第一條　震災手形處理委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シ震災手形善後處理及震災手形損失補償ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　震災手形處理委員會ハ會長一人及委員十二人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　大藏部內高等官
二　貴族院議員
三　衆議院議員
四　日本銀行總裁及副總裁
五　日本銀行理事

前項ノ委員ハ第四號ニ掲グル者ヲ除クノ外大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　震災手形處理委員會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部內高等官及日本銀行職員ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　震災手形處理委員會ニ書記ヲ置ク書記ハ大藏部內判任官及日本銀行職員ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ズ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣銀行調査會官制

昭和二年四月五日
勅令第六十九號

朕臺灣銀行調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

臺灣銀行調査會官制

第一條　臺灣銀行調査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ株式會社臺灣銀行ノ基礎ヲ鞏固ニスル方策ヲ調査審議ス

第二條　臺灣銀行調査會ハ會長一人及委員十四人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條　委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　關係各廳高等官
二　貴族院議員
三　衆議院議員
四　日本銀行總裁及副總裁
五　日本銀行理事

前項第一號乃至第三號及第五號ニ掲グル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　臺灣銀行調査會ニ幹事ヲ置ク大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部內高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　臺灣銀行調査會ニ書記ヲ置ク大藏部內判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ズ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特別融通審査會規則

昭和二年五月九日
勅令第百六號

朕特別融通審査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

特別融通審査會規則

第一條　特別融通審査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ日本銀行特別融通及損失補償法第一條ノ規定ニ依リ日本銀行ノ爲ス特別融通ニ付必要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　特別融通審査會ハ會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ日本銀行總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏省高等官、日本銀行副總裁及理事ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ズ

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　特別融通審査會ニ幹事若干人ヲ置ク大藏省高等官及日本銀行職員ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　本令ニ規定スルモノノ外議案ノ付議其ノ他特別融通審査會ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣ニ於ケル貨幣銀行擔保附社債信託關稅及粗製樟腦樟腦油專賣ニ關スル事務主管

明治三十年二月一日
勅令第九號
改正　明治三六年第一八號、第一二九號
大正二年第九五號

朕臺灣ニ於ケル貨幣及銀行ニ關スル事務主管ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、拓殖務大臣副署）

臺灣ニ於ケル貨幣、銀行、擔保附社債信託、關稅及粗製樟腦樟腦油專賣ニ關スル政務ハ大藏大臣ノ管理ニ屬セシム

前項ノ政務ニ就テハ臺灣總督ハ大藏大臣ノ監督ヲ承クルモノトス

第八款　元帥府　大本營　軍事參議院

●元帥府設置ノ詔

明治三十一年一月二十日

朕中興ノ盛運ニ膺リ開國ノ規謨ヲ定メ祖宗ノ遺業ヲ紹述シ臣民ノ幸福ヲ増進シ以テ國家ノ隆昌ヲ圖ラントス茲ニ朕カ軍務ヲ輔翼セシムル爲メ特ニ元帥府ヲ設ケ陸海軍大將ノ中ニ於テ老功卓拔ナル者ヲ簡選シ朕カ軍務ノ顧問タラシメントス其所掌ノ事項ハ朕カ別ニ定ムル所ニ依ラシム（總理大臣副署）

●元帥府條例

明治三十一年一月二十日
勅令第五號
改正　大正七年第三三〇號

朕元帥府條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

元帥府條例

第一條　元帥府ニ列セラルル陸海軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ

第二條　元帥府ハ軍事上ニ於テ最高顧問トス

第三條　元帥ハ勅ヲ奉シ陸海軍ノ檢閱ヲ行フコトアルヘシ

第四條　元帥ニハ別ニ定ムル所ニ依リ元帥佩刀及元帥徽章ヲ賜フ

第五條　元帥ニハ副官トシテ佐尉官各一人ヲ附屬セシム

●戰時大本營條例

明治三十六年十二月二十八日
勅令第二百九十三號

朕戰時大本營條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

戰時大本營條例

第一條　天皇ノ大纛下ニ最高ノ統帥部ヲ置キ之ヲ大本營ト稱ス

第二條　大本營ニ幕僚及各機關ノ高等部ヲ置ク其ノ編制ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　參謀總長及海軍軍令部長ハ各其ノ幕僚ニ長トシテ帷幄ノ機務ニ奉仕シ作戰ヲ參畫シ終局ノ目的ニ稽ヘ陸海兩軍ノ策應協同ヲ圖ルヲ任トス

第四條　陸海軍ノ幕僚ハ各其ノ幕僚長ノ指揮ヲ受ケ計畫及軍令ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　各機關ノ高等部ハ各其ノ幕僚長ノ指揮ヲ受ケテ當該事務ヲ統理ス

●軍事參議院條例

明治三十六年十二月二十八日
勅令第二百九十四號

朕軍事參議院條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

軍事參議院條例

第一條　軍事參議院ハ帷幄ノ下ニ在リテ重要軍務ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條　軍事參議院ハ諮詢ヲ待テ參議會ヲ開キ意見ヲ上奏ス

第三條　軍事參議院ニ議長、參議官、幹事長及幹事ヲ置ク

第四條　軍事參議官ハ左ノ如シ

元帥
陸軍大臣
海軍大臣
參謀總長
海軍軍令部長
特ニ軍事參議官ニ親補セラレタル陸海軍將官

第五條　軍事參議院議長ハ參議官中高級故參ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　必要アル場合ニ於テハ重要ノ職ニ在ル將官ヲ以テ臨時參議官ニ補シ參議會ニ列セシム但シ其ノ關係セル議事ヲ終リタルトキハ直ニ解職セラレタルモノトス

第七條　陸海兩軍ニ關スル事項ハ其ノ規畫ヲ査照シ國防用兵ノ目的ヲ主トシ相互ノ聯繫ヲ調理スルヲ要ス

第八條　陸海軍互ニ相關繫セサル事項ニ付テハ陸軍又ハ海軍ノミノ參議官ヲ以テ參議會ヲ開クコトヲ得

第九條　緊急ノ事件ニ付テハ議長ハ院議ヲ經スシテ諮詢ニ對フルコトヲ得

第十條　幹事長ハ侍從武官長又ハ他ノ將官ヲ以テ之ニ充テ軍事參議會ノ庶務ヲ整理セシム

幹事ハ侍從武官中陸海軍佐官各一人ヲ以テ之ニ充テ幹事長ノ職務ヲ補助セシム

第十一條　特ニ親補セラレタル軍事參議官ニハ副官トシテ佐尉官一人ヲ附ス

附　則

軍事參議官條例ハ之ヲ廢止ス

第九款　侍從武官府、皇族附武官

●侍從武官府官制

明治四十一年十二月二十九日
勅令第三百十九號
改正　大正八年第三〇號、九年第二四九號

朕侍從武官府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

侍從武官府官制

第一條　侍從武官府ニ侍從武官長及侍從武官ヲ置ク

第二條　侍從武官長ハ陸軍大中將又ハ海軍大中將ヲ以テ之ニ親補ス

第三條　侍從武官ハ陸軍將校及海軍將校ヲ以テ之ニ補ス其ノ定員左ノ如シ

一　陸軍中少將、佐官及大尉五人
二　海軍中少將、佐官及大尉三人

第四條　侍從武官長及侍從武官ハ　天皇ニ常侍奉仕シ軍事ニ關スル奏上奉答及命令ノ傳達ニ任シ觀兵演習行幸其ノ他祭儀禮典宴會謁見等ニ陪侍扈從ス

第五條　侍從武官長及侍從武官ハ演習其ノ他軍事上視察ノ爲差遣セラルルコトアルヘシ

第六條　侍從武官長ハ侍從武官ノ勤務ヲ規定シ且之ヲ監督ス

第七條　侍從武官長及侍從武官ハ參謀トス

第八條　侍從武官長及侍從武官ハ宮中ニ在リテハ宮內省ノ規定ヲ遵奉スヘシ

第九條　侍從武官府ニ陸軍屬四人及海軍屬三人ヲ附ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

侍從武官官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ侍從武官又ハ之ニ附屬スル陸海軍屬ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヰスシテ各侍從武官又ハ之ニ附屬スル陸海軍屬ニ補任セラレタルモノトス

●皇族附陸軍武官官制

明治二十九年八月十一日
勅令第二百八十一號
改正　明治三三年第四一號
大正四年第三一號

朕皇族附陸軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

皇族附陸軍武官官制左ノ通定ム

皇族附陸軍武官官制

第一條　陸軍武官タル皇族ニハ皇族附陸軍武官ヲ附屬シ各兵科佐尉官ヲ以テ之ニ補ス

武官ニ非サル皇子ニハ特ニ皇族附陸軍武官ヲ附屬スルコトアルヘシ

第二條　皇族附陸軍武官ハ其附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ奉助シ行軍、觀兵、演習其他ノ軍務及祭儀禮典宴會等ニ隨從スルヲ任トス

武官ニ非サル皇子ニ附屬スル皇族附陸軍武官ハ前項ノ外常侍奉仕スルモノトス

第三條　皇族附陸軍武官ハ祭儀禮典宴會等ノ事項ニ關シテハ宮內省ノ規定ヲ遵守スヘシ

●皇族附海軍武官官制

明治三十年十月二十日
勅令第三百六十一號
改正　明治三二年第四四〇號
大正五年第一九號

朕皇族附海軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

皇族附海軍武官官制

第一條　海軍武官タル皇族ニハ皇族附海軍武官ヲ附屬シ海軍佐尉官ヲ以テ之ニ充ツ

武官ニ非サル皇子ニハ特ニ皇族附海軍武官ヲ附屬スルコトアルヘシ

第二條　皇族附海軍武官ハ其ノ附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ奉助シ軍務祭儀禮典及宴會等ニ隨從スルヲ任トス

武官ニ非サル皇子ニ附屬スル皇族附海軍武官ハ前項ノ外常侍奉仕スルモノトス

第三條　皇族附海軍武官ハ祭儀禮典宴會等ノ事項ニ關シテハ宮內省ノ規定ヲ遵守スヘシ

第十款　陸軍省及陸軍所管

●陸軍省官制

明治四十一年十二月十九日
勅令第三百十四號
改正　明治四三年第四八號、四四年第一五五號
大正元年第二五號、第一六五號、三年第二一一號、七年第一九六號、八年第一〇五號、九年第二八七號、一一年第八一號、一二年第一一三號、第四五四號、一三年第一八〇號、第三三七號、一五年第三一二號

朕陸軍省官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍省官制

第一條　陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條　政務次官又ハ參與官ノ職務ハ軍機軍令ニ關スル事項ニ及ハサルモノトス

第三條　陸軍省ニ副官ヲ置ク

副官ハ陸軍大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌ル

第四條　陸軍省ニ事務官ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條　大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項
二　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
三　軍令ノ原本ノ保管ニ關スル事項
四　記錄ノ編修及翻譯ニ關スル事項
五　公文書類及成案文書ノ査閲接受發送及編纂保存ニ關スル事項
六　圖書保管ニ關スル事項
七　陸軍文庫ノ管理ニ關スル事項
八　軍旗及靖國神社ニ關スル事項
九　報告及統計ニ關スル事項
十　省屬判任文官ノ人事ニ關スル事項
十一　省內ノ風紀ニ關スル事項
十二　印刷ニ關スル事項
十三　例規ニ依リ取扱フヘキ庶務及各局ニ屬セサル事項

第六條　陸軍省ニ左ノ七局ヲ置ク

人事局
軍務局
整備局
兵器局
經理局
醫務局
法務局

第七條　人事局ニ補任課及恩賞課ヲ置ク

第八條　補任課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍武官及文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸及增給ニ關スル事項
二　各兵科將校ノ闕員調査ニ關スル事項
三　考科表、兵籍、戰時名簿、文官名簿及停

年名簿ニ關スル事項

四　將校、同相當官及文官ノ戰時職務ニ關スル事項

五　待命、休職、停職、豫備役、後備役將校、同相當官及准士官竝退役將官ノ人事ニ關スル事項

六　准士官、下士ノ文官採用ニ關スル事項

第九條　恩賞課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　恩給及賜金ニ關スル事項

二　敍位、敍勳、記章、褒章、旌表及賞與ニ關スル事項

三　休暇ニ關スル事項

四　結婚ニ關スル事項

五　陸軍共濟組合及扶助ニ關スル事項

第十條　軍務局ニ軍事課、兵務課、徵募課、防備課及馬政課ヲ置ク

第十一條　軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍建制及平時戰時ノ編制ニ關スル事項

二　戒嚴ニ關スル事項

三　演習及檢閱ニ關スル事項

四　團隊配置ニ關スル事項

五　戰時ノ諸規則ニ關スル事項

六　儀式、禮式、服制及徽章ニ關スル事項

七　外國駐在員、留學將校、同相當官及部隊附外國武官ニ關スル事項

八　國際的規約ニ關スル事項

九　參謀本部、教育總監部及陸軍大學校ニ關スル事項

第十二條　兵務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　各兵ノ本務ニ關スル事項

二　軍樂部ノ勤務及教育ニ關スル事項

三　軍紀、風紀ニ關スル事項

四　軍隊ノ內務、衞戍勤務及軍事警察ニ關スル事項

五　練兵場、小銃射擊場、演習場及飛行場ニ關スル事項（築設及管理ヲ除ク）

六　東京警備司令部、陸軍航空本部、陸軍諸學校（陸軍大學校、陸軍經理學校、陸軍軍醫學校及陸軍獸醫學校ヲ除ク）及陸軍教化隊ニ關スル事項

第十三條　徵募課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵役ニ關スル事項

二　將校、同相當官以下補充ノ規定ニ關スル事項

三　各兵科及軍樂部將校以下ノ補充ニ關スル事項

四　學校教練及青年訓練ニ關スル事項

五　在鄉軍人會ニ關スル事項

六　聯隊區司令部ニ關スル事項

第十四條　防備課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　要塞ノ築造、兵備及用地竝ニ要塞地帶ニ關スル事項

二　防空ニ關スル事項

三　運輸、通信、電氣、電燈及軍用鳩ニ關スル事項

四　水陸交通路及航空路ニ關スル事項

五　要塞司令部、築城部、陸軍運輸部及陸地測量部ニ關スル事項

第十五條　馬政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　獸醫部ノ勤務及教育ニ關スル事項

二　獸醫部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項

三　軍馬ノ供給、飼養、管理、檢查及衞生ニ關スル事項

四　蹄鐵術ノ教育及蹄鐵ニ關スル事項

五　獸醫材料ニ關スル事項

六　地方馬ノ調查、檢查及徵發ニ關スル事項

七　軍馬補充部及陸軍獸醫學校ニ關スル事項

第十六條　整備局ニ動員課及統制課ヲ置ク

第十七條　動員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　動員ニ關スル事項

二　召集及人員ノ徵用ニ關スル事項

三　徵發ニ關スル事項

四　軍需工業ノ指導及補助ニ關スル事項

第十八條　統制課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍需品ノ調查研究及調達ノ統制ニ關スル事項

二　軍需品ノ整備及戰時補給ノ統制ニ關スル事項

三　戰時軍事交通ノ統制ニ關スル事項

四　製造、補給及貯藏ノ設備ノ基本ニ關スル事項

第十九條　兵器局ニ銃砲課及器材課ヲ置ク

第二十條　銃砲課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵器（器材課所掌ノモノヲ除ク）ノ制式、支給、交換、整備、檢查及之ニ關スル一切ノ經理事項

二　要塞備砲工事ニ關スル事項

三　陸軍技術本部、陸軍兵器廠、陸軍造兵廠及陸軍科學研究所ニ關スル事項

四　兵器（器材課所掌ノモノヲ除ク）ノ拂下ニ關スル事項

第二十一條　器材課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　步兵工兵器具材料ノ制式、支給、交換及整備ニ關スル事項

二　通信用、鐵道用及航空用ノ器具材料ノ制式、支給、交換及整備ニ關スル事項

三　攻守城用工兵器具材料ノ整備ニ關スル事項

四　前各號ノ經理及檢查ニ關スル事項

五　器材課所掌ノ兵器ノ拂下ニ關スル事項

第二十二條　經理局ニ主計課、監査課、衣糧課及建築課ヲ置ク

第二十三條　主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍費運用ノ研究審議ニ關スル事項

二　經理部ノ勤務及教育ニ關スル事項

三　經理部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項

四　歲入歲出及特別會計豫算竝決算ニ關スル事項

五　支拂豫算ニ關スル事項

六　豫備金支出、定額繰越、過年度支出、定額戾入及年度開始前支出ニ關スル事項

七　動員豫算ニ關スル事項

八　經理部ノ戰時諸規則ニ關スル事項

九　俸給、雇員給、傭人料、諸手當及旅費ノ規定ニ關スル事項

十　金錢ニ係ル經理及出納官吏ニ關スル事項

十一　本省ノ諸給與及用度ニ關スル事項

十二　陸軍經理學校ニ關スル事項

第二十四條　監査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　會計ノ監査ニ關スル事項

二　陸軍經理部管轄外陸軍部隊ノ會計事務ノ監督ニ關スル事項

三　歲入徵收報告及支出報告ニ關スル事項

四　諸給與及經理規定ノ審査ニ關スル事項

第二十五條　衣糧課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　被服及糧秣ノ經理、檢查、試驗及調查ニ關スル事項

二　被服、糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項

三　平時戰時ノ被服、糧秣、炊具及馬匹手入具ノ支給及整備ニ關スル事項

四　陸軍被服廠、陸軍糧秣廠、陸軍倉庫及千住製絨所ニ關スル事項

第二十六條　建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍用地及諸建築（軍務局及兵器局所掌ニ屬スルモノヲ除ク）ニ關スル事項

二　陣營具及消耗品ノ經理竝諸調度ノ規定ニ關スル事項

三　物品會計及物品會計官吏ニ關スル事項

四　國有財產ニ關スル事項

五　職用金櫃、公用行李、天幕及雨覆ニ關スル事項

第二十七條　醫務局ニ衞生課及醫事課ヲ置ク

第二十八條　衞生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　衞生部ノ勤務及教育ニ關スル事項

二　衞生部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項

三　衞生部ノ戰時諸規則ニ關スル事項

四　衣食住、給水、排水等ノ衞生ニ關スル事項

五　防疫及治病上ノ審案ニ關スル事項

六　衞生報告、統計及衞生部員學術上ノ業績ニ關スル事項

七　陸軍軍醫學校ニ關スル事項

第二十九條　醫事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　病院及醫務室ニ關スル事項

二　衞生材料ニ關スル事項

三　身體檢查ニ關スル事項

四　恩給診斷及傷病ニ依ル除役ニ關スル事項

五　陸軍衞生材料廠及傷病者救恤團體ニ關スル事項

六　轉地療養ニ關スル事項

第三十條　法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍事司法ニ關スル事項

二　監獄ニ關スル事項

三　恩赦、假出獄及刑ノ執行ニ關スル事項

四　陸軍司法事務官、陸軍法務官、陸軍錄事及監獄職員ノ人事及補充ニ關スル事項

第三十一條　陸軍省職員ハ附表ノ如シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附表）

陸軍省職員表

大臣（大中將）

次官（中少將）

政務次官			一
參與官			一
書記官		專任	一
事務官		專任	五
大臣官房	秘書官	中少佐大尉	二
	副官	大中佐	一
		中少佐大尉	四
人事局	長	中少將	一
	補任課長	大中佐	一
	恩賞課長	大中佐	一
	課員	中少佐	二
		少佐大尉	二
軍務局	長	中少將	一
	軍事課長	大中佐	一
	兵務課長	大中佐	一
	徵募課長	大中佐	一
	防備課長	大中佐	一
	馬政課長	大中佐	一
	課員	中少佐	五
		二三等獸醫正	一
		少佐大尉	四
		大尉	一
整備局	長	中少將	一
	動員課長	大中佐	一
	統制課長	大中佐	一
	課員	中少佐	三
		少佐大尉	二
兵器局	長	中少將	一
	銃砲課長	大中佐	一
	器材課長	大中佐	一
	課員	中少佐	三
		少佐大尉	二
經理局	長	主計總監 主計監	一
	主計課長	一二等主計正	一
	監査課長	一二等主計正	一
	衣糧課長	一二等主計正	一
	建築課長	一二等主計正	一
	課員	二三等主計正	六
		一等主計	六
		技師	一
醫務局	長	軍醫總監 軍醫監	一
	衞生課長	一二等軍醫正	一
	課員	二三等軍醫正 三等軍醫正	二
	醫事課長	一二等軍醫正	一
		一等軍醫	二
法務局	長		一
	局員	司法事務官	三
屬			九七
技手			一〇

備考

一　秘書官ノ內一ハ副官ノ兼勤、副官ノ內一ハ祕書官ノ兼勤トス

二　法務局長ハ勅任ノ陸軍高等軍法會議法務官ノ兼任トス

三　佐尉官ハ佐尉官相當官ヲ以テ、佐尉官相當官ハ佐尉官ヲ以テ充ツルコトヲ得

四　各局課員ハ必要ニ應シ彼是兼勤セシムルコトヲ得

五　局定員內ニ於テ必要ニ應シ准士官及技手ヲ用フルコトヲ得

●陸軍ニ陸軍司法事務官ヲ置クノ件

（大正十一年三月三十一日勅令第八十四號）

改正　大正一三年第三四四號

朕陸軍ニ陸軍司法事務官ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

第一條　陸軍ニ陸軍司法事務官ヲ置ク

第二條　陸軍司法事務官ハ奏任トシ其ノ平時定員ハ專任三人トス但シ勅任ノ陸軍法務官ニシテ陸軍司法事務官ヲ兼任スルモノハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍法務官及陸軍錄事ノ定員ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日勅令第九十四號）

改正　大正一四年第一五三號

朕陸軍法務官及陸軍錄事ノ定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍法務官ノ平時定員ハ專任七十七人以內、陸軍錄事ノ平時定員ハ專任七十五人以內トス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍高等官衙副官條例

（明治二十一年五月十四日勅令第三十三號）

改正　明治二五年第八號、二八年第六六號

朕陸軍高等官衙副官條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍高等官衙副官條例

第一條　陸軍高等官衙副官ハ各所屬官衙ノ事務官トシ且ツ場合ニ依リ命令傳達ニ任スルモノトス

第二條　高等官衙副官ト稱スルモノ左ノ如シ

一　陸軍省副官

二　【陸軍】參謀本部副官

三　【監軍部副官】

四　【監軍部各監副官】

五　【近衞副官】

六　師團副官

七　要塞副官

八　旅團副官

九　【屯田兵副官】

第三條　高等官衙副官ハ陸軍大學校ヲ卒業シタル適任ノ將校ニシテ卒業後一箇年以上隊附服務ヲナシタルモノ及全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ其職務ニ適任ナル者ヨリ補充ス

第四條　各高等官衙副官ハ各其奉職スル官衙ノ條例ニ於テ定ムル所ニ據リ事務ニ服ス

●陸軍參謀及高等官衙副官補職ノ件

（明治四十年十月二十八日軍令陸第十一號）

朕陸軍參謀及高等官衙副官補職ノ件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍大學校ヲ卒業シタル將校ハ必要ニ應シ陸軍參謀條例第三條第一號及陸軍高等官衙副官條例第三條ニ定ムル年限ニ拘ラス參謀又ハ高

等官衙副官ノ職ニ補スルコトヲ得

●陸軍部內ノ技師ノ平時定員ニ關スル件

（大正八年四月二十八日 勅令第百六十五號）

改正 大正一二年第八六號、一四年第一六二號、一五年第二二二號

朕明治四十一年勅令第百十號陸軍所屬技師ノ官等ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍部內ノ技師ノ平時定員ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外百二十七人以內トス但シ技術ニ關スル事項ヲ掌ル將校同相當官ニ代ヘ技師ヲ充用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項定員ノ內陸軍造兵廠所屬ノ技師ハ二人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ルノ外陸軍部內ノ技師二人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍通譯生ニ關スル件

（明治二十九年九月十六日 勅令第三百六號）

改正 大正九年第三五七號

朕陸軍通譯生ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

第一條 外國語ヲ通譯スルノ必要アル陸軍官衙及各部ニ於テハ判任官定員以內ヲ以テ陸軍通譯生ヲ置クコトヲ得

第二條 陸軍通譯生ハ判任トス

●鐵道聯隊所屬將校以下ヲシテ鐵道省所管鐵道業務ニ從事セシムルノ件

（明治四十一年十二月七日 勅令第三百十號）

朕鐵道聯隊所屬ノ將校以下ヲシテ鐵道院所管ノ鐵道業務ニ從事セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

鐵道聯隊所屬ノ將校以下ハ【鐵道院】所管ノ鐵道業務ニ從事セシムルコトヲ得

前項ノ業務施行ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣【鐵道院總裁】協議ノ上之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鐵道聯隊所屬將校以下鐵道省所管鐵道ニ於ケル業務施行規程

（明治四十一年十二月二十五日 陸達第八十七號）

改正 大正八年第二二號

鐵道聯隊所屬將校以下鐵道院所管鐵道ニ於ケル業務施行規程左ノ通定ム

鐵道聯隊所屬將校以下【鐵道院】所管鐵道ニ於ケル業務施行規程

第一章 總則

第一條 將校以下ノ從事スヘキ鐵道業務槪ネ左ノ如シ

一 工事

二 運轉業務

三 工場業務

第二條 將校以下ノ從事スヘキ業務、線區竝其ノ配置、交代等ハ師團長【鐵道院總裁】ト協議シ之ヲ定ム

第三條 業務ニ從事スル人員ハ鐵道聯隊長ニ於テ其ノ業務ニ適當ノ者ヲ選拔スルモノトス

第四條 將校以下ハ其ノ從事スル鐵道業務ニ付テハ鐵道ニ關スル法規ニ遵ヒ【鐵道院】ノ指揮監督ヲ受ク但シ其ノ懲罰ハ陸軍懲罰令ニ依リ陸軍ニ於テ之ヲ行フモノトス

第五條 下士以下其ノ業務上規定ノ制服ヲ著用スヘキ場合ニハ其ノ業務ヲ表章スル腕章ヲ以テ之ニ代ユルモノトス

第六條 下士以下ノ軍紀風紀ヲ監守スル爲鐵道聯隊ヨリ監督官ヲ附スルコトヲ得

第七條 戰時若ハ事變ニ際シ必要アルトキハ師團長ハ將校以下ニ對シ臨時復歸ヲ命スルコトヲ得

第八條 本規程ノ實施ニ關スル細部ノ事項ハ師團長【鐵道院總裁】協議ノ上之ヲ定ム

第二章 工事

第九條 作業隊ヲ編成シ工事ニ從事スルハ直督工事ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ【鐵道院】ノ設計及其ノ指定ニ依リ特定區間若ハ特定ノ工事ヲ擔任スルモノトス

第十條 作業隊ヲ編成セス將校以下ノ人員及其ノ業務ヲ定メ工事ニ從事セシムル場合ニハ【鐵道院】職員ト共同シテ之ニ從事スルモノトス

第三章 運轉業務

第十一條 運轉業務ハ特定ノ場合ヲ除クノ外【鐵道院】職員ト共同シテ之ニ從事スルモノトス

第十二條 特種ノ技術ヲ要シ【鐵道院】所定ノ採用規則ニ合格シタル者ヲ以テ從事セシムヘキ業務ニ在リテハ其ノ詮衡ニ合格セル者ヲ以テ之ニ從事セシムルモノトス

第四章 工場業務

第十三條 工場業務ハ特ニ職工班ヲ編成シテ一定ノ作業ヲ擔任シ又ハ一定ノ人員ヲシテ【鐵道院】職員ト共同シテ之ニ從事セシムルモノトス

第十四條 特種ノ技術ヲ要スル業務ニ付テハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章 經費

第十五條 作業隊ヲ編成シ工事ニ從事スル場合ニ於テ准士官以上下士以下ハ屯營出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄陸軍旅費規則演習旅行ニ關スル規定ニ依リ給與シ其ノ經費ハ【鐵道院】ノ負擔トス但シ同費中營內居住ノ下士以下ノ糧米賄料ニ相當スル金額ハ鐵道聯隊ニ於テ之ヲ分擔ス

第十六條 作業隊ヲ編成セス所要人員ヲ各所ニ分遣シテ鐵道業務ニ從事セシムル場合ノ給與ハ前條ニ同シ但シ該經費ノ負擔區分ハ左ノ各號ニ依ル

一 准士官以上營外居住ノ下士以下ニ要スル諸費ハ鐵道聯隊演習費ノ支辨トス

二 營內居住下士以下ニ要スル諸費ハ【鐵道院】ノ支辨トス但シ同費中糧米賄料ニ相當スル金額ハ鐵道聯隊ニ於テ之ヲ分擔ス

第十七條 第十五條及第十六條ノ經費ハ鐵道聯隊ニ於テ之ヲ整理ス但シ【鐵道院】ノ負擔ニ屬スヘキモノハ毎月一回同院ニ請求シテ戾入ヲ受クルモノトス

●鐵道聯隊所屬ノ將校以下ヲシテ公共團體ノ經營スル輕便鐵道業務ニ從事セシムル場合ニ關スル件

（明治四十三年八月二十日 勅令第三百十七號）

朕鐵道聯隊所屬ノ將校以下ヲシテ公共團體ノ經營スル輕便鐵道業務ニ從事セシムル場合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、陸軍、內務大臣副署）

第一條 鐵道聯隊所屬ノ將校以下ハ技術練習ノ爲公共團體ノ經營スル輕便鐵道ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ鐵道聯隊所屬ノ輕便鐵道材料及附屬物件ヲ當該公共團體ニ貸付スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令中陸軍野戰砲兵射擊學校、陸軍重砲兵射擊學校、航空隊等ノ名稱改正ニ關スル件

（大正十一年八月十日 勅令第三百七十號）

朕勅令中陸軍野戰砲兵射擊學校、陸軍重砲兵射擊學校、航空隊等ノ名稱改正ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

他ノ勅令中陸軍野戰砲兵射擊學校トアルハ陸軍野戰砲兵學校、陸軍重砲兵射擊學校トアルハ陸軍重砲兵學校トス

他ノ勅令中陸軍ニ關シ航空隊トアルハ飛行隊、航空隊兵トアルハ飛行隊兵、航空大隊トアルハ飛行大隊トス

附 則

本令ハ大正十一年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際陸軍ニ於テ現ニ航空隊兵タル者ハ之ヲ飛行隊兵トシ、航空隊兵トシテ徵集セラルヘキ者ハ之ヲ飛行隊兵トシテ徵集セラルヘキ者トス

（大正十一年八月十日 陸軍省令第二十三號）

他ノ陸軍省令中航空隊トアルハ飛行隊、航空隊兵トアルハ飛行隊兵、航空大隊トアルハ飛行大隊トス

附 則

本令ハ大正十一年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法施行前ヨリ施行セラルル勅令中理事、主理等ノ名稱ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日 勅令第八十六號）

朕陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法施行前ヨリ施行セラルル勅令中理事、主理等ノ名稱ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法施行前ヨリ施行セラルル勅令中陸軍ノ理事トアルハ陸軍法務官、理事試補トアルハ陸軍法務官試補、錄事トアルハ陸軍錄事、警守トアルハ陸軍警查トシ海軍ノ主理トアルハ海軍法務官、主理試補トアルハ海軍法務官試補、錄事トアルハ海軍錄事トス

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十一年三月三十一日 陸軍省令第六號）

陸軍軍法會議法施行前ヨリ施行セラルル陸軍省令中別ニ定ムルモノヲ除クノ外陸軍ノ理事トアルハ陸軍法務官、理事試補トアルハ陸軍法務官試補、錄事トアルハ陸軍錄事、警守トアルハ陸軍警查、法官部トアルハ法務部トス

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●軍令中法官部、法官部長、理事ノ名稱等ニ關スル件

（大正十一年四月四日 軍令陸第二號）

朕軍令中法官部、法官部長、理事ノ名稱等ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

師團司令部條例第十二條第四項ヲ削ル

他ノ軍令中法官部トアルハ法務部、法官部長トアルハ法務部長、理事トアルハ陸軍法務官トス

●陸軍代理規則

（明治四十一年十月九日 軍令陸第十六號）

改正 大正八年第一七號、第二二號

朕陸軍代理規則ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍代理規則

第一條 陸軍部隊ノ長官職務ノ代理ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外本規則ニ依ル

第二條 長官缺員ノトキ又ハ事故ノ爲其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ代理者其ノ職務ヲ處理ス

第三條 親補職ニ在ル長官ノ代理ハ勅命ニ依ル但シ本規則ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 要塞司令官及衞戍司令官ノ代理者ハ其ノ要塞又ハ衞戍地ニ在ル高級故參ノ團隊長トシ衞戍病院長ノ代理者ハ其ノ病院附及其ノ病院ノ勤務ニ服スル部隊附衞生部將校相當官中ノ高級故參者トス

第五條 軍隊ニ在リテハ該長官ノ部下中高級故參ノ將校又前二條外ノ官衙學校ニ在リテハ該長官ノ廳內ニ在ル次級者ヲ以テ代理者トス

第六條 將校相當官ハ將校ノ職務ヲ、文官及下士ハ將校同相當官ノ職務ヲ代理スルコトヲ得ス

第七條 代理者ニシテ事故ノ爲其ノ職務ヲ執ルコト能ハサル場合ニ在リテハ前諸條ノ例ニ依リ所管長官更ニ代理者ヲ定ム

第八條 長官缺員ノ場合ニ於ケル代理者ハ某職代理某ト稱シ其ノ他ノ代理者ハ某職代理某ト稱ス

第九條 長官缺員ノ場合ニ於ケル代理者ハ長官ト同一ノ職權及責任ヲ有ス

前項以外ノ代理者ハ專ラ常務ヲ處理シ重要ナル事項ニ付テハ長官ノ指揮ヲ受ケ長官ノ名ヲ以テ執行スルモノトス

第十條 長官及其ノ部隊內ニ在ル次級者ハ通常同時ニ其ノ部隊ヲ離ルルコトヲ得ス

第十一條 代理者ハ代理ノ爲其ノ所在地ヲ離ルルコトヲ要セス

第十二條 臺灣軍司令官朝鮮軍司令官及關東軍司令官其ノ管內ニ在ラサルトキ又ハ事故ノ爲職務ヲ執ルコト能ハサル場合ニハ其ノ廳內ニ在ル高級故參ノ將校當該長官ノ名ヲ以テ其ノ權限ニ屬スル陸軍ニ關スル職務ヲ處理ス

第十三條 左ノ場合ニ在リテハ長官ノ廳內ニ在ル次級者（定員外ノ者ヲ除ク）ヲシテ該長官ノ名ヲ以テ常務ヲ處理セシムルコトヲ得但シ第三號ノ場合ニ在リテハ代理者ノ名ヲ用ウルモノトス

一 長官事故アルモ代理者ヲ要セサルトキ

二 長官更迭シテ新長官未タ著任セサルトキ

三 代理ヲ要スル場合ニ於テ代理者該長官ト所在地ヲ異ニスルトキ

第十四條 長官ノ廳內ニ在ル次級者代理ノ職務ヲ執ルコト能ハサル事情アルトキ又ハ第十三條第一號ノ場合ニ於テ次級者長官ノ名ヲ以テ處理シ難キ事務アルトキハ所管長官適宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第十五條 長官ニ非サル職員ニ在リテモ本規則ニ準シ其ノ代理者ヲ置クコトヲ得

●軍馬補充部令

（明治四十一年三月四日 勅令第十七號）

改正 明治四二年第一〇三號 大正二年第一六六號、一〇年第四八號、一四年第一五〇號

朕軍馬補充部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

軍馬補充部令

第一條 軍馬補充部ハ軍馬ノ供給、育成、購買及資源調查ヲ掌ル

第二條 軍馬補充部ハ本部及支部ヨリ成ル

本部ハ東京ニ之ヲ置ク支部ハ第二、第六、第七及第八師管內竝朝鮮ニ一箇乃至三箇ヲ置ク

第三條 軍馬補充部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部
  本部長
  部員
  下士及判任文官
支部
  支部長
  部員
  下士及判任文官

第四條 本部長ハ陸軍大臣ニ隷シ軍馬補充部ノ業務ヲ掌理ス

第五條 支部長ハ本部長ニ隷シ軍馬ノ供給及育成ニ關スル業務ヲ分擔シ特ニ牧場事業ノ整理ニ任ス

第六條 部員ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條 下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第八條 陸軍大臣ハ必要ニ應シ支部ニ派出部及出張所ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該支部ノ職員ヲシテ其ノ事務ニ從事セシム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●築城部條例

（明治三十六年四月十五日 勅令第七十七號）

改正 大正六年第二一三號、九年第二三〇號

朕築城部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

築城部條例

第一條 築城部ハ防禦營造物ノ建築檢查及防禦營造物ニ關スル砲兵事業ノ調查竝工兵事業ヲ掌リ工事中ノ防禦營造物及國防用ノ土地竝軍用鐵道及其ノ敷地ヲ管理ス

第二條 築城部ハ築城部本部及築城部支部ヨリ成ル

本部ハ之ヲ東京ニ置キ支部ハ之ヲ二等ニ分チ防禦營造物ノ建築上必要ノ場所ニ設置ス

支部ノ位置及等級ハ陸軍大臣之ヲ定ム

本部長ハ必要ニ應シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ本部又ハ支部ノ臨時派出所ヲ設クルコトヲ得

第三條 築城部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部
本部長
部員
主計
技師
支部
支部長
部員
主計
技師

右ニ揭クル職員ノ外本支部ニ准士官下士及判任文官ヲ置ク

支部ニ軍醫ヲ置クコトヲ得

第四條　本部長ハ陸軍大臣ニ隷シ築城部ノ事務ヲ總理ス

第五條　本部長防禦營造物ノ檢査ヲ行ヒタルトキハ其ノ狀況ヲ陸軍大臣ニ報告シ當該要塞司令官ニ通報スヘシ

第六條　支部長ハ本部長ニ隷シ支部ノ事務ヲ掌理ス

第七條　部員、主計、軍醫及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ部務ヲ掌ル

第八條　削除

第九條　准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十條　本部長ハ要塞ニ於ケル防禦營造物ノ新築改築增築及國防用土地ノ管理ニ關シテハ當該要塞司令部部員タル工兵科將校ヲ指揮ス

附　則

本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍運輸部令（大正十二年三月三十日 勅令第八十一號）

朕陸軍運輸部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍運輸部令

第一條　陸軍運輸部ハ陸軍ニ屬スル人馬物件ノ船舶輸送及之ト聯絡スル鐵道輸送ノ業務ヲ掌リ陸軍ニ於テ所有又ハ使用スル汽船ヲ管理シ船舶輸送用補助物件ヲ整備保管シ且必要ニ應シ其ノ管理スル船舶及搭載ノ人馬物件ニ對シ檢疫消毒ヲ施行ス

第二條　陸軍大臣ハ必要ニ應シ出張所ヲ設ケ又ハ病院船ヲ置クコトヲ得

第三條　陸軍運輸部長ハ必要ニ應シ臨時派出所ヲ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第四條　陸軍運輸部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
主計正、主計
軍醫
技師
准士官、下士、判任文官

出張所ヲ置キタル場合ニ於テハ出張所長ハ部員ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　部長ハ陸軍大臣ニ隷シ陸軍運輸部ノ業務ヲ掌理ス

第六條　部員、主計正、主計、軍醫及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍航空本部令（大正十四年四月二十八日 勅令第百四十九號）

朕陸軍航空本部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍航空本部令

第一條　陸軍航空本部ハ陸軍航空ニ關スル事項ノ調査、研究、試驗及立案、航空兵諸軍隊ノ航空兵科專門教育ノ齊一進步、航空ニ關スル器材ノ審査及其ノ制式ノ統一竝器材ノ修理、購買、貯藏、補給及檢査ヲ掌ル

第二條　陸軍航空本部ハ總務部、技術部、補給部及檢査部ヨリ成ル

陸軍大臣ハ必要ニ應シ補給部支部ヲ置クコトヲ得

第三條　總務部、技術部、補給部及檢査部ノ事務ノ分掌ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　陸軍航空本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長
部長
課長
副官
部員
准士官、下士及判任文官

補給部支部ヲ置キタル場合ニ於テハ補給部支部長ヲ置ク

第五條　本部長ハ陸軍大臣ニ隷シ航空本部ノ業務ヲ統理シ陸軍飛行學校ヲ管轄ス

第六條　本部長ハ航空兵科專門ノ事項ニ關シ航空兵諸軍隊ヲ檢閱シテ意見ヲ隊長ニ訓示シ檢閱ヲ終リタルトキハ實況ヲ陸軍大臣ニ報告シ關係長官ニ通報ス

第七條　本部長ハ陸軍士官學校ヲ巡閱シ當該兵科學生生徒ノ教育ニ付意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ通報ス

第八條　部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ各部ノ業務ヲ掌理ス

總務部長ハ前項ノ外特ニ本部長ノ命ヲ承ケ前二條ニ規定スル本部長ノ職務ヲ行フコトヲ得

第九條　課長及補給部支部長ハ上官ノ命ヲ承ケ各課及各支部ノ業務ヲ掌理ス

第十條　副官及部員ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十一條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　陸軍航空本部ニ於テ試驗又ハ研究ノ爲必要ト認ムルトキハ本部長ハ教育總監又ハ師團長ニ稟議シ學校又ハ軍隊ヲシテ試驗若ハ研究ヲ實施セシメ又ハ試驗若ハ研究ニ必要ナル人馬材料ヲ供用セシムルコトヲ得

第十三條　航空本部所管ノ倉庫ニ衞兵ヲ置クノ必要アルトキハ本部長、補給部長又ハ補給部支部長ハ東京警備司令官又ハ衞戍司令官ニ衞兵ノ派遣ヲ請求スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍航空部令ハ之ヲ廢止ス

●陸軍技術本部令（大正八年四月十四日 勅令第百六號 改正 大正九年第二三一號）

朕陸軍技術本部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍技術本部令

第一條　陸軍技術本部ハ兵器及兵器材料ノ審査、制式統一及檢査ヲ爲シ、陸軍技術ノ調査研究及試驗ヲ爲シ且其ノ改良進步ヲ圖リ竝之ニ關シ陸軍大臣ニ意見ヲ具申ス

第二條　陸軍技術本部ニ總務部、第一部、第二部及第三部ヲ置ク

第三條　總務部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　陸軍技術將校、陸軍工科學校ヲ卒業シタル砲工兵科將校及兵器技術ヲ掌ル陸軍技師ノ人事ニ關スル事項
二　科學研究所ニ關スル事項
三　陸軍技術會議ニ關スル事項
四　庶務及經理ニ關スル事項
五　他ノ部ノ主管ニ屬セサル事項

第四條　第一部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　兵器（第二部ノ主管ニ屬スルモノヲ除ク）ノ調査研究、審査及試驗ニ關スル事項
二　陸軍技術（第二部ノ主管ニ屬スルモノヲ除ク）ニ關スル事項
三　射表編纂ニ關スル事項

第五條　第二部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　工兵器材及交通器材ノ調査研究、審査及試驗ニ關スル事項
二　工兵及交通ノ技術ニ關スル事項

第六條　第三部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　兵器制式ノ統一及兵器制式圖ノ調製整理ニ關スル事項
二　部隊供用兵器ノ檢査ニ關スル事項
三　製作シ、修理シ又ハ購買シタル兵器及兵器材料ノ檢査ニ關スル事項

第七條　陸軍技術本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長
部長
部員

副官
主計
准士官、下士及判任文官

第八條　前條職員ノ外陸軍技術本部ニ參與ヲ置クコトヲ得

第九條　本部長ハ陸軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理シ陸軍技術將校、陸軍工科學校ヲ卒業シタル砲工兵科將校及兵器技術ヲ掌ル陸軍技師ヲ管轄シ陸軍科學研究所及陸軍工科學校ヲ統轄ス

本部長ハ兵器技術及其ノ設計ニ關シテハ砲兵工廠提理ニ對シ、築城技術ニ關シテハ築城部本部長ニ對シ區處ヲ爲スコトヲ得

第十條　本部長ハ陸軍砲工學校員外學生ノ教育及補充等ニ關シ意見ヲ教育總監ニ開陳ス

第十一條　本部長ハ軍隊、官衙及學校ニ於ケル兵器ノ檢査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ陸軍大臣ニ報告シ所管長官ニ通報ス

前項ノ檢査ハ部長ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十二條　本部長ハ兵器ノ檢査ニ付必要アルトキハ當該長官又ハ主任者ヲシテ兵器ニ關スル簿表又ハ報告ヲ提出セシメ其ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第十三條　部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十四條　部員、副官及主計ハ上官ノ命ヲ承ケ擔任ノ事務ヲ掌ル

第十五條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十六條　參與ハ他ニ本職ヲ有スル海軍士官又ハ高等文官ニシテ技術上ノ學識技能卓越ナル者ノ中ヨリ陸軍大臣之ヲ命ス

參與ハ部務ニ參與ス

第十七條　陸軍技術本部ニ於テ試驗ノ爲必要ト認ムルトキハ本部長ハ陸軍大臣ニ申請シ又ハ教育總監若ハ師團長ニ稟議シ學校又ハ軍隊ヲシテ之ヲ實施セシメ又ハ之ニ必要ナル人馬材料ヲ供用セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍技術審査部條例ハ之ヲ廢止ス

●陸軍技術將校令（大正八年八月七日 勅令第三百六十八號）

朕陸軍技術將校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍技術將校令

第一條　陸軍技術將校トハ中將以下ノ陸軍將校ニシテ編制ノ定ムル所ニ依リ服務シ陸軍技術ヲ掌ルモノヲ謂フ

第二條　陸軍技術將校ハ陸軍技術本部長之ヲ管轄ス

第三條　陸軍補充令第十四條ノ五乃至第十四條ノ八ノ規定ニ依リ將校ニ任セラレタル者ハ之ヲ陸軍技術將校ノ位置ニ在リテ服務セシムルヲ通常トス

第四條　陸軍大臣ハ陸軍砲工學校員外學生トシテ所定ノ學科ヲ終了シタル者又ハ技術上ノ學識才能卓越セル將校中ヨリ陸軍技術將校ヲ選拔ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍技術會議令（大正八年四月十四日 勅令第百七號）

朕陸軍技術會議令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍技術會議令

第一條　陸軍技術會議ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シ陸軍技術ニ關スル重要ナル事項ヲ審議シ意見ヲ開申ス

第二條　陸軍技術會議ハ議長一人、議員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ審議スル爲必要アルトキハ臨時議員ヲ置クコトヲ得

第三條　議長ハ他ニ本職アル陸軍將官、議員及臨時議員ハ他ニ本職アル陸軍將校ノ中ヨリ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　議長ハ會務ヲ統理シ會議ノ決議ヲ陸軍大臣ニ具申ス

議長事故アルトキハ陸軍大臣ノ指名シタル議員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　陸軍省軍務局長、陸軍省兵器局長、參謀本部部長、教育總監部本部長及兵監ハ其ノ關係事項ニ付臨時會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第六條　陸軍技術會議ニ幹事二人ヲ置キ陸軍省兵器局銃砲課長及器材課長ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　陸軍技術會議ニ書記ヲ置キ他ニ本職アル陸軍屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ議長及幹事ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ大正八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍科學研究所令（大正八年四月十四日 勅令第百十號 改正 大正一四年第一五二號）

朕陸軍科學研究所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍科學研究所令

第一條　陸軍科學研究所ハ兵器及兵器材料ニ關スル科學ヲ調査研究ス

第二條　科學研究所ニ第一部、第二部及第三部ヲ置ク

各部ノ事務ノ分掌ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　科學研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
部長
所員
所附
准士官、下士及判任文官

第四條　所長ハ陸軍技術本部長ニ隷シ事務ヲ統理ス

第五條　部長ハ所長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌理ス

第六條　所員ハ上官ノ命ヲ承ケ調査研究ヲ擔任ス

第七條　所附ハ所長ノ命ヲ承ケ擔任ノ事務ヲ掌ル

第八條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ大正八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍火藥研究所條例ハ之ヲ廢止ス

●陸軍兵器廠令（大正二年三月二十八日 勅令第三十號 改正 大正七年第一七五號、八年第一〇九號、一二年第八二號、一四年第一五一號）

朕陸軍兵器廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍兵器廠令

第一條　陸軍兵器廠ハ兵器（航空特殊器材ヲ除ク）ノ購買、貯藏、保存、修理、支給、交換、廢品處分及要塞ノ備砲工事ヲ掌ル

第二條　兵器廠ハ兵器本廠及兵器支廠ヨリ成ル

本廠ハ東京ニ、支廠ハ東京、千葉、大阪、名古屋、廣島及小倉ニ之ヲ置ク

陸軍大臣ハ必要ニ應シ本廠又ハ支廠ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條　兵器廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠
本廠長
廠員
准士官、下士及判任文官
支廠
支廠長
廠員
准士官、下士及判任文官

出張所ヲ置キタル場合ニ於テハ出張所長ハ廠員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　本廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ兵器廠ノ事務ヲ總理ス

第五條　支廠長ハ本廠長ノ命ヲ承ケ支廠ノ事務ヲ管理ス

第六條　廠員ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條　削除

第八條　准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第九條　削除

第十條　本廠長ハ要塞ノ備砲工事、要塞司令部所要兵器ノ支給交換及兵器ノ運搬ニ關シテハ當該要塞司令部部員タル砲兵科將校ヲ指揮ス

第十一條　兵器廠所管倉庫ニ衞兵ヲ置ク

ノ必要アルトキハ本廠長、支廠長又ハ出張所長ハ之ヲ東京警備司令官又ハ衞戍司令官ニ請求スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍造兵廠令

（大正十二年三月三十日勅令第八十三號）

朕陸軍造兵廠令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍造兵廠令

第一條　陸軍造兵廠ハ陸軍所要ノ兵器ノ考案設計ヲ爲シ、陸軍所要ノ兵器其ノ他ノ軍需品及一般火藥類ヲ製造修理シ且此等製品ノ檢査ヲ爲シ並海軍所要ノ火藥ヲ製造修理スル所トス

第二條　陸軍造兵廠ニ總務部、作業部、技術部、會計部、工廠及長官直轄ノ製造所ヲ置ク

工廠ハ東京、王子、名古屋及大阪ニ、直轄製造所ハ小倉及平壤ニ之ヲ置ク

第三條　總務部、作業部、技術部及會計部ノ事務ノ分掌ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　工廠ニ所要ノ課及製造所ヲ置ク

第五條　陸軍大臣ハ必要ニ應シ工廠又ハ直轄製造所ノ派出所ヲ置キ其ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第六條　陸軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
部長
工廠長
製造所長
課長
廠員
准士官、下士、判任文官

派出所ヲ置キタル場合ニ於テハ派出所長ハ廠員ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　長官ハ陸軍大臣ニ隷シ陸軍造兵廠ノ業務ヲ總理シ且所轄ノ土地及建造物ノ經營ヲ掌ル

第八條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌理ス

第九條　工廠長及直轄製造所長ハ長官ノ命ヲ承ケ各工廠及直轄製造所ノ業務ヲ掌理ス

第十條　課長ハ上官ノ命ヲ承ケ各課ノ業務ヲ掌理ス

第十一條　製造所長（直轄製造所長ヲ除ク）ハ上官ノ命ヲ承ケ製造ニ關スル業務ヲ掌理ス

第十二條　廠員ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ業務ニ服ス

第十四條　官廳又ハ民間ヨリ兵器其ノ他ノ物品ノ製造又ハ兵器其ノ他之ニ準スヘキ物品ノ試驗、製造ノ指導若ハ製造ノ技術ニ從事スル者ノ養成ノ依頼アルトキハ第一條ノ規定ニ依ル業務ニ妨ナキ限リ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ニ應スルコトヲ得

第十五條　衞戍地外ニ在ル製造所又ハ派出所ニ於テ警戒ヲ要スル場合ニ於テ急ナルトキハ工廠長、製造所長又ハ派出所長ハ直ニ所在地所管師團長ニ衞兵ノ派遣ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ順序ヲ經テ之ヲ長官ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

砲兵工廠條例ハ之ヲ廢止ス

●陸軍被服廠條令

（明治四十一年三月四日勅令第二十三號　改正　大正一一年第五〇〇號）

朕陸軍被服廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍被服廠條例

第一條　陸軍被服廠ハ陸軍被服品ノ調辨、製造、貯藏及補給ヲ掌リ陸軍縫靴工長ノ養成ニ任シ且被服ニ關スル試驗ヲ行フ

第二條　陸軍被服廠ハ被服本廠及被服支廠ヨリ成ル

本廠ハ東京ニ、支廠ハ大阪及廣島ニ置ク

陸軍大臣ハ必要ニ應シ被服廠ニ派出所ヲ設クルコトヲ得

第三條　陸軍被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠
- 本廠長
- 廠員
- 技師
- 下士、判任文官

支廠
- 支廠長
- 廠員
- 技師
- 下士、判任文官

前項職員ノ外必要ニ應シ軍醫ヲ置クコトヲ得

第四條　本廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ被服廠ノ業務ヲ掌理ス

第五條　支廠長ハ本廠長ノ命ヲ承ケ支廠ノ業務ヲ掌ル

第六條　廠員及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條　下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍糧秣廠條例

（明治四十一年三月四日勅令第二十四號）

朕陸軍糧秣廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍糧秣廠條例

第一條　陸軍糧秣廠ハ陸軍糧秣品ノ調辨、製造、貯藏及補給ヲ掌リ且糧秣ニ關スル試驗ヲ行フ

第二條　陸軍糧秣廠ハ糧秣本廠及糧秣支廠ヨリ成ル

本廠ハ東京ニ、支廠ハ大阪及宇品ニ置ク

陸軍大臣ハ必要ニ應シ糧秣廠ニ派出所ヲ設クルコトヲ得

第三條　陸軍糧秣廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠
- 本廠長
- 廠員
- 技師
- 下士、判任文官

支廠
- 支廠長
- 廠員
- 技師
- 下士、判任文官

前項職員ノ外必要ニ應シ軍醫ヲ置クコトヲ得

第四條　本廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ糧秣廠ノ業務ヲ掌理ス

第五條　支廠長ハ本廠長ノ命ヲ承ケ支廠ノ業務ヲ掌ル

第六條　廠員及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條　下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍倉庫條例

（明治四十年八月二十三日勅令第二百九十號　改正　大正八年第九九號、第三九六號、一〇年第四四〇號）

朕陸軍倉庫條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍倉庫條例

第一條　陸軍倉庫ハ朝鮮及滿洲駐劄陸軍諸部隊所要ノ糧秣、被服、陣營具、衞生材料、獸醫材料及蹄鐵ノ貯藏、調辨、製造及補給ヲ掌ル

第二條　陸軍倉庫ハ之ヲ朝鮮龍山及關東州大連ニ置ク

第三條　朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ハ必要ニ應シ支庫又ハ出張所ヲ設置スルコトヲ得

支庫又ハ出張所ノ位置ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第四條　陸軍倉庫ニ左ノ職員ヲ置ク

倉庫長
倉庫員
下士、判任文官

第五條　倉庫長ハ朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隷シ陸軍倉庫ノ事務ヲ掌理ス

第六條　倉庫員ハ倉庫長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第七條　下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●千住製絨所官制

（明治四十一年四月三十日勅令第百七號　改正　大正七年第一七四號、一二年第八〇號、一三年第三三九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ千住製絨所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

千住製絨所官制

第一條　千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要ノ絨類及毛絲ノ製造ヲ掌ル

前項ノ規定ニ依ル業務ニ妨ケナキ限リ陸軍ノ所要ニ應シ副産物ノ加工ヲ爲スコトヲ得

第一條ノ二　官廳又ハ民間ヨリ絨類又ハ毛絲ノ製造、試驗、製造指導又ハ製造技術者養成ノ依頼アルトキハ前條ノ規定ニ依ル業務ニ妨ケナキ限リ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ニ應スルコトヲ得

第二條　千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	
事務官	二人
技師	五人
屬	九人
技手	十五人

第三條　所長ハ勅任又ハ奏任、事務官ハ奏任トス

所長ハ現役、豫備役又ハ後備役ニ在ル陸軍經理部將官相當官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條　所長ハ陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ總理シ所屬土地建物ノ經營ヲ管掌ス

第五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第六條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條ノ二　千住製絨所ニ庶務課、會計課、作業課及製造課ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條ノ三　各課ニ課長ヲ置ク

課長ハ所長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

第七條　屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條　第二條ノ職員ノ外軍醫及看護長ヲ千住製絨所ニ附屬シ衞生事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

千住製絨所長特別任用令ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十三年勅令第三百三十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

當分ノ内事務官ハ現役陸軍經理部上長官又ハ士官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

大正十二年勅令第八十號附則第三項ヲ削ル

（大正七年六月一日陸軍省告示第十五號）

千住製絨所官制第一條ノ二ニ依リ官廳又ハ民間當業者ニ於テ絨類、毛絲其ノ他之ニ準スヘキ物品ノ試驗若ハ製造ノ指導ノ爲千住製絨所ノ職員、職工ノ派遣又ハ技術從業者ノ養成ヲ依頼セムトスルトキハ其ノ要件ヲ具シ千住製絨所ニ願出ヘシ派遣者ノ旅費、職工ノ給料其ノ他試驗、指導ニ要スル一切ノ費用ハ依頼者ニ於テ負擔スルモノトス

●陸軍衞生材料廠條例

（明治三十二年十月二十八日勅令第四百十六號　改正　明治三五年第一〇號、第一八九號、四一年第二二號）

朕陸軍衞生材料廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍衞生材料廠條例

第一條　陸軍衞生材料廠ハ衞生材料及獸醫材料ノ模範品、特種品及戰用品ノ製作、購買、貯藏、補給及品質審査ヲ行ヒ且外國駐屯ノ部隊ニ要スル材料ノ購買、補給ヲ掌ル

第二條　陸軍衞生材料廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長
廠員
主計

前項ノ外下士、判任文官ヲ置ク

第三條　廠長ハ陸軍省醫務局長ニ隷シ廠務ヲ掌理ス但シ獸醫材料ニ關シテハ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ク

第四條　廠員及主計ハ廠長ノ命ヲ承ケ廠務ニ服ス

●臨時陸軍檢疫所官制

（大正三年十一月二十一日勅令第二百五十七號）

朕臨時陸軍檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

臨時陸軍檢疫所官制

第一條　臨時陸軍檢疫所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ内地戰地間ヲ往復スル陸軍所轄ノ船舶及之ニ搭載スル人馬物件ニ對シ檢疫ヲ行フ

第二條　臨時陸軍檢疫所ノ位置及開閉ハ陸軍大臣之ヲ定ム

陸軍大臣ハ臨時陸軍檢疫所出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條　臨時陸軍檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	
所員	三十七人
下士、判任文官	六十一人

所長及所員ハ陸軍將校、同相當官又ハ陸軍部内ノ高等文官中ヨリ之ヲ命ス

所員及下士、判任文官ハ必要ニ應シ之ヲ増加スルコトヲ得

第四條　所長ハ陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ檢疫所ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第五條　所員ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫所ノ事務ヲ分掌ス

第六條　下士及判任文官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸地測量部條例

（明治二十四年八月十八日勅令第百七十五號　改正　明治二五年第一〇〇號、二八年第三六號、二九年第二〇三號）

朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸地測量部條例

第一條　陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造修正シ其他量地ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條　陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條　陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	少將或各兵科大佐
事務官	各兵科少佐及尉官
材料主管	各兵科大尉
【軍吏】	
科長	各兵科佐官
科條	各兵科中尉或少尉
班長	各兵科少佐或大尉
班員	各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手
修技所幹事	各兵科大尉
修技所教官	各兵科大中少尉或相當陸地測量師
修技所助教	陸地測量手

第四條　部長ハ參謀總長ニ隷シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條　事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條　材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條　【軍吏】ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ【書記】或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條　三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條　修技所ハ陸軍測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條　科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條　科條ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條　班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條　班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條　科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條　修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所內ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條　修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條　修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑托スルヲ得

●陸地測量官官制

（明治二十二年三月十五日勅令第三十四號）

朕陸地測量官官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸地測量官官制

第一條　陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ置ク

第二條　陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條　陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス

第四條　陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

●靖國神社附屬遊就館ニ關スル件

（明治四十三年四月二日勅令第百九十二號）

朕靖國神社附屬遊就館ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

第一條　靖國神社附屬遊就館ハ武器ノ沿革ヲ知ルヘキ物件ヲ蒐集保存シ軍事上ノ參考ニ供スル所トス

第二條　遊就館ハ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ得

第三條　遊就館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　一人

書記　二人

第四條　館長ハ陸軍大臣及海軍大臣ノ監督ヲ承ケ館務ヲ掌理ス

第五條　書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　館長ハ奏任官ノ待遇トシ陸軍大臣及海軍大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

但シ勅任官ニシテ館長タル者ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク

書記ハ判任官ノ待遇トシ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ命ス

第七條　遊就館職員ノ服務、俸給及旅費ニ關スル規程ハ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●參謀本部條例

（明治四十一年十二月十九日軍令陸第十九號）

朕參謀本部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

參謀本部條例

第一條　參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス

第二條　參謀總長ハ陸軍大將若ハ陸軍中將ヲ以テ親補シ　天皇ニ直隸シ帷幄ノ軍務ニ參畫シ國防及用兵ニ關スル計畫ヲ掌リ參謀本部ヲ統轄ス

第三條　參謀總長ハ參謀ノ職ニ在ル陸軍將校ヲ統督シ其ノ教育ニ任シ陸軍大學校及陸地測量部ヲ管轄ス

第四條　參謀次長ハ參謀總長ヲ補佐シ本部一切ノ事務整理ニ任ス

第五條　參謀本部部長ハ參謀總長ノ命ヲ承ケ課長以下ヲ指揮シ其ノ主務ヲ掌理ス

第六條　參謀本部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第七條　參謀本部ニ於ケル服務規則ハ參謀總長之ヲ定ム

●陸軍參謀條例

（明治三十一年二月八日勅令第二十號）

朕陸軍參謀條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍參謀條例

第一條　參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ補佐シ殊ニ國防及用兵ニ關スル機務ヲ參畫シ又軍隊練成ノ事務ヲ掌ル其ノ他特別ノ任務ハ各條規ノ定ムル所ニ依ル

第二條　參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ編制ノ定ムル所ニ於テ服務セシム

第三條　參謀ノ職ニ補スヘキ者ハ各兵科ノ大尉以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔スヘキモノトス

一　陸軍大學校卒業後一箇年以上隊附勤務ニ服シタル將校ニシテ參謀總長ノ適任ト認ムル者

二　學識才能卓越セル將校ニシテ參謀總長ノ適任ト認ムル者

第四條　參謀將校ハ進級スル每ニ少クモ一箇年間隊附職務ニ服セシムルヲ例トス

第五條　參謀將校ハ其ノ職務ニ熟達セシムル爲メ彼此交任セシムルモノトス

第六條　參謀將校ハ每年凡ソ二箇月間兵科ヲ選テ隊附勤務ニ服セシムルコトヲ得

附　則

第七條　本條例ハ明治三十一年二月十日ヨリ施行ス

第八條　明治二十一年五月勅令第二十五號參謀職制ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●教育總監部條例

（明治四十一年十二月十九日軍令陸第二十號　改正　大正元年第六號、八年第四號、九年第五號）

朕教育總監部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

教育總監部條例

第一條　教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍軍隊教育ノ齊一進步ヲ規畫シ所轄學校ノ教育ヲ掌ル

第二條　教育總監ハ陸軍大將若ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ　天皇ニ直隸ス

第三條　教育總監ハ教育總監部ヲ統轄シ陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍步兵學校、陸軍戶山學校竝陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス

第四條　教育總監部ニ本部及騎兵、砲兵、工兵、輜重兵監部ヲ置キ本部ニ庶務課、第一課及第二課ヲ置ク

第五條　本部長ハ教育總監ヲ補佐シ總監部一切ノ事務整理ノ責ニ任ス

第六條　庶務課長ハ本部長ノ命ヲ承ケ副官及主計ヲ指揮シ主トシテ庶務、人事及會計經理ニ關スル事務ヲ整理ス

第七條　第一課長ハ本部長ノ命ヲ承ケ課員ヲ指揮シ主トシテ軍隊教育、陸軍步兵學校及陸軍戶山學校ノ教育及各兵監ノ主管事項中教育ニ關スル事項竝之ニ關聯スル制度ニ付調査、審議等一切ノ事務ヲ整理ス

第八條　第二課長ハ本部長ノ命ヲ承ケ課員ヲ指揮シ主トシテ陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍幼年學校ノ教育及制度ニ關スル事項ニ付調査、審議等一切ノ事務ヲ整理シ又陸軍將校生徒ノ召募及試驗ニ關スルコトヲ掌ル

第九條　騎兵監、砲兵監、工兵監及輜重兵監ハ教育總監ニ隸シ當該兵科ノ團隊（工兵監ニ在リテハ鐵道隊、電信隊ヲ、輜重兵監ニ在リテハ自動車隊ヲ含ム以下同シ）ノ教育上本科專門ノ事項ニ付齊一進步ノ責ニ任シ又當該兵科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝立案スルコトヲ掌ル

第十條　騎兵監ハ陸軍騎兵學校、砲兵監ハ陸軍野戰砲兵射擊學校及陸軍重砲兵射擊學校、工兵監ハ陸軍工兵學校ヲ管轄ス

第十一條　砲兵監及工兵監ハ陸軍砲工學校、各兵監ハ陸軍士官學校ヲ巡閱シ各本科學生生徒ノ教育上ニ付意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ

第十二條　各兵監ハ主管ノ事項ニ付當該兵科ノ團隊ヲ檢閱シ之ニ關スル意見ヲ團隊長ニ訓示シ檢閱ヲ終リタルトキハ其ノ實況ヲ教育總監ニ報告シ關係長官ニ通報スヘシ

第十二條ノ二　兵監部附ハ兵監ヲ補佐シ部務ヲ分掌ス又兵監ノ命ヲ承ケ第十一條及前條ニ規定スル兵監ノ職務ヲ行フコトヲ得

第十三條　各兵監部部員ハ當該兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス

第十四條　下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十五條　教育總監部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ據ル

●陸軍將校生徒試驗委員條例

（明治四十一年一月二十九日軍令陸第十號　改正　大正九年第六號）

朕陸軍將校生徒試驗委員條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍將校生徒試驗委員條例

第一條　陸軍將校生徒試驗委員ハ將校生徒ノ召募試驗ニ任スルモノニシテ之ヲ分チテ常置委員及臨時委員ノ二トス

第二條　常置委員ハ之ヲ教育總監部ニ置キ陸軍士官學校豫科生徒及陸軍幼年學校生徒ノ召募試驗格竝試驗問題其ノ他試驗ニ關スル事項ヲ調査立案シ陸軍士官學校豫科生徒及陸軍幼年學校生徒ノ志願書類ヲ審査シ且陸軍士官學校豫科生徒及陸軍幼年學校生徒ノ召募試驗ノ成績ヲ調査スルモノニシテ其ノ組織左ノ如シ

常置委員長

常置委員

常置委員主事

第三條　前條ノ職員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス但シ主事ハ教育總監部ノ職員ヲ以テ兼補ス

第四條　常置委員長ハ教育總監ニ隸シ委員以下ヲ統督シ試驗ノ事項ニ關シテハ教育總監ニ對シ其ノ責ニ任ス

第五條　常置委員ハ試驗問題ノ起案竝試驗成績ノ調査ヲ分擔ス

第六條　常置委員主事ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ委員長ニ對シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　常置委員主事ノ下ニ書記トシテ判任文官ヲ置キ教育總監部ノ職員ヲシテ之ヲ兼務セシム

第八條　教育總監ハ常置委員長ノ具申ニ依リ常置委員ノ外所管ノ將校同相當官陸軍教授及判任文官ヲシテ試驗事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第九條　臨時委員ハ各檢查場ニ就キ試驗ヲ實施スルモノニシテ各師團長部下佐官中ヨリ所要ノ人員ヲ選テ之ヲ命ス但シ第一師團長ハ近衞師團長ニ協議シ近衞師團ノ佐官ヲ臨時委員ニ加フルコトヲ得

臨時委員ハ試驗實施ノ事項ニ關シ師團長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第十條　師團長ハ前條臨時委員ノ外必要ニ應シ其ノ部下大中尉ヲシテ試驗ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得但シ第一師團長ハ近衞師團長ニ協議シ近衞師團ノ大中尉ヲ補助員ニ加フルコトヲ得

第十一條　臨時委員ハ書記トシテ准士官下士ヲ使用スルコトヲ得

第十二條　師團長ハ試驗ノ實施ニ關シ教育總監ニ對シテ其ノ責ニ任ス

●陸軍及海軍文官教官制

（明治十九年十一月二日勅令第六十八號　改正　明治四〇年第一七八號、四三年第五六號、大正五年第二二七號、一五年第三四三號）

朕玆ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス（總理、陸軍、海軍大臣副署）

陸軍及海軍文官教官制

第一條　陸軍及海軍諸學校竝ニ運用術練習艦ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ

教授　奏任

助教　判任

第二條　陸軍大學校若クハ海軍大學校ニハ各一人ヲ限リ勅任ノ教授ヲ置クコトヲ得

第三條　教授助教ノ人員ハ其需要ニ從ヒ陸軍大臣若クハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

附　則（大正五年勅令第二百二十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海軍大學校教官タル海軍教授ニシテ現ニ勅任官タル者ハ之ヲ第二條ノ規定ニ依ル員數ノ外トス

●陸軍大學校令

（大正十二年十月二十七日軍令陸第七號）

朕陸軍大學校條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍大學校令

第一條　陸軍大學校ハ將校ヲシテ高等用兵ニ關スル學術ヲ修得シ併セテ軍事研究ニ須要ナル學識ヲ增進セシメ且高等用兵ニ關スル學術ノ研究ヲ行フ所トス

第二條　陸軍大學校ノ教育綱領ハ參謀總長之ヲ定ム

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

副官

主計正、主計

軍醫正、軍醫

獸醫正、獸醫

兵學教官

馬術教官

教官

下士、判任文官

第四條　校長ハ參謀總長ニ隸シ校務ヲ總理シ學生及專攻學生教育ノ責ニ任ス

第五條　幹事ハ校長ヲ補佐シ校務ヲ整理シ教育及研究ノ統一ヲ圖リ學生及專攻學生ヲ監督ス

第六條　副官、主計正、主計、軍醫正、軍醫、獸醫正及獸醫ハ校長及幹事ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第七條　兵學教官及教官ハ校長ノ命ヲ承ケ學術ノ教授及研究ニ任ス

馬術教官ハ學生及專攻學生ノ馬術調練ニ任シ並テ校廐ニ關スル一切ノ事項及馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條　下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ服ス

第九條　學生ハ各兵科（憲兵科ヲ除ク）中少尉ニシテ二年以上隊務ニ服シ學識ニ富ミ身體強健勤務精勵志操高尙將來發達ノ見込十分ニシテ且選拔試驗ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍諸學校ノ職員及同學校ニ派遣セラレタル者（陸軍砲工學校高等科ヲ除ク）ニ在リテハ在職又ハ派遣中ノ時日ヲ前項ノ隊附期間ニ算入スルコトヲ得

左ニ揭クル者ハ第一項中階級ニ關スル規定ニ拘ラス之ヲ學生ニ充ツルコトヲ得

一　入校ノ年ノ一月末日以後大尉ニ進級シタル者

二　陸軍飛行機操縱術修業者ニ在リテハ大尉任官後二年以內ノ者、同航空機偵察術修業者ニ在リテハ大尉任官後一年以內ノ者

第十條　專攻學生ハ各兵科（憲兵科ヲ除ク）中少佐ニシテ高等用兵ニ關スル學術ノ深厚ナル研究ヲ行フニ適當ナル者ヲ以テ之ニ充ツ但シ入校ノ年ノ四月末日以後大佐ニ進級シタル者ハ前記階級ニ關スル規定ニ拘ラス之ヲ專攻學生ニ充ツルコトヲ得

第十一條　學生ノ修學期間ハ概ネ三年トス

第十二條　專攻學生ノ修學期間ハ概ネ一年トス但シ必要ニ應シ其ノ期間ヲ延ハスコトヲ得

第十三條　學生及專攻學生ノ採用ニ關スル事項ハ陸軍大臣參謀總長協議シテ之ヲ定ム

第十四條　學生及專攻學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條　學生及專攻學生中不適當ト認ムル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ參謀總長ニ上申シ參謀總長ハ之ヲ查覈シ陸軍大臣ニ移シ陸軍大臣ハ之ニ退校ヲ命シ原所管ニ復歸セシム

學生及專攻學生中疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修學期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙成業ノ見込アルモノハ校長ノ上申ニ依リ參謀總長之ニ滯學ヲ命スルコトヲ得

第十六條　校長ハ每年教育上適當ノ時期ニ於テ學生ヲ必要ナル部隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

前項ノ隊附勤務間學生ハ當該部隊長ノ指揮

監督ヲ承ク

第十七條　學生隊附勤務ヲ終リタルトキハ當該部隊長ハ其ノ成績ヲ校長ニ通報ス

第十八條　校長ハ學生及專攻學生ノ修學期末ニ於テ其ノ伎倆證明書及成績列次名簿ヲ調製シ參謀總長ニ提出ス

第十九條　參謀總長ハ伎倆證明書及成績列次名簿ヲ參照シ卒業者ヲ定メ之ヲ陸軍大臣及校長ニ移ス

第二十條　校長ハ前條ノ規定ニ依リ卒業シタル學生ニ卒業證書及卒業ヲ表彰スヘキ徽章ヲ付與ス

第二十一條　校長ハ卒業シタル學生及專攻學生ヲ原所管ニ復歸セシム

第二十二條　校長ハ毎年夏期ニ於テ學生及專攻學生ニ二十日以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十三條　武官タル教官ニハ校務ニ差支ナキ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシメ又ハ演習ニ參加セシムルコトヲ得

附則

本令中專攻學生ニ關スル規定ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍士官學校令

（大正九年八月九日勅令第二百三十六號　改正　大正一三年第一一九號、一四年第一五五號）

朕陸軍士官學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍士官學校令

第一條　陸軍士官學校ハ陸軍各兵科（憲兵科ヲ除ク）士官ト爲スヘキ生徒及學生ヲ教育スル所トス

第二條　生徒及學生ノ教育ヲ分チテ教授及訓育トシ其ノ教育綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條　生徒及學生ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第四條　削除

第五條　陸軍士官學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
幹事
副官
學校附
教授部長
教官
生徒隊長
生徒隊副官
生徒隊中隊長
生徒隊附
學生部長
學生部副官
馬術教官
准士官、下士及判任文官

第六條　校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理ス

第六條ノ二　幹事ハ校長ヲ補佐シ校務ヲ整理シ教育ノ統一ヲ圖ル

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第八條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ業務ヲ掌ル

第九條　教授部長ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ヲ統理ス

第十條　削除

第十一條　教官ハ教授部長ノ命ヲ承ケ各科目ノ教育ヲ擔任ス

校長ハ教官タル陸軍教授ノ內一人ヲ教頭ト爲シ教授部長ノ命ヲ承ケ普通學ノ教授ヲ監理セシム

第十二條　生徒隊長ハ當該生徒隊ヲ統ヘ校長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ掌理ス

第十三條　生徒隊副官ハ當該生徒隊長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十四條　削除

第十五條　生徒隊中隊長ハ當該生徒隊長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ擔任ス

第十六條　生徒隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十六條ノ二　學生部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生ノ訓育ヲ擔任ス

第十六條ノ三　學生部副官ハ學生部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十七條　馬術教官ハ校長ノ命ヲ受ケ馬術訓練、校廐ニ關スル一切ノ事項及馬匹ノ調教ヲ擔任ス

第十八條　削除

第十九條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條　武官タル職員ニハ便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十一條　生徒ヲ分チテ豫科生徒及本科生徒トス

豫科生徒ハ陸軍幼年學校ヲ卒業シタル者又ハ陸軍將校タルコトヲ志願シ召募試驗ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ召募試驗其ノ他生徒ノ採用ニ關スル事項ニ付テハ陸軍大臣之ヲ定ム

本科生徒ハ士官候補生ニシテ所定ノ隊附勤務ヲ修得シタルモノヲ以テ之ニ充ツ

第二十二條　削除

第二十三條　學生ハ陸軍各兵科（憲兵科ヲ除ク）少尉候補者タル特務曹長、曹長又ハ軍曹ヲ以テ之ニ充ツ

第二十四條　豫科生徒ノ修業期間ハ二年トシ之ヲ二學年ニ分チ各學年ハ四月ヨリ翌年三月ニ至ル

本科生徒ノ修業期間ハ一年十月トシ十月ヨリ翌々年ノ七月ニ至ル

學生ノ修業期間ハ一年トシ十二月ヨリ翌年十一月ニ至ル

第二十五條　生徒ハ校內ニ、學生ハ校外ニ居住セシメ生徒及學生ノ修業ニ要スル兵器、圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第二十六條　生徒ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十七條　生徒及學生ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十八條　生徒及學生ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
四　傷痍疾病ニ因リ修業ニ堪ヘサル者
五　前各號ノ外陸軍將校タルニ適セスト認ムル者

前項第一號又ハ第四號ニ該當スル本科生徒ニシテ尙望アルモノハ其ノ次期ノ本科生徒ト共ニ修業シ得ヘシト認ムル者ニ在リテハ之ヲ退校セシメス次期ノ本科生徒ト爲スコトヲ得其ノ他ノ者ニ在リテハ退校後一回ヲ限リ更ニ入校セシムルコトヲ得

第二十九條　本科生徒又ハ學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙望アルモノハ若干日數間之ヲ滯學セシムルコトヲ得

第三十條　豫科生徒中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙望アルモノハ之ヲ一學年間延期修業セシメ又ハ若干日數間滯學セシムルコトヲ得

第三十一條　第二十八條ノ規定ニ依リ退校セシメ若ハ次期ノ本科生徒ト爲スヘキ者アルトキ又ハ第二十九條若ハ前條ノ規定ニ依リ滯學セシメ若ハ延期修業セシムヘキ者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第三十二條　生徒又ハ學生卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ本科生徒又ハ學生ニ在リテハ之ニ歸隊ヲ命シ豫科卒業者中士官候補生ヲ命セラレタル者ニ在リテハ教育總監著隊時日ヲ指定シテ所屬隊ニ之ヲ入隊セシム

第三十三條　滯學セシメラレタル生徒又ハ學生修業ヲ終リタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之ヲ取扱フモノトス

第三十四條　校長ハ生徒ニ毎年冬季二週間以內夏季四週間以內ノ休暇ヲ、學生ニ其ノ在校中三週間以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三十五條　教育總監ハ豫科卒業者中士官候補生ヲ命セラレタル者ニ其ノ入隊前ニ於テ一週間以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三十六條　生徒及學生ノ演習上必要アルトキハ校長ハ師團長ニ稟議シ其ノ師團各隊ヲ使用スルコトヲ得

附則

本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ陸軍士官學校生徒タル者ハ陸軍士官學校本科生徒、陸軍中央幼年學校本科生徒タル者ハ陸軍士官學校豫科生徒ト爲リタルモノトス

大正八年陸軍士官學校ニ入校シタル生徒ニシテ前項ノ規定ニ依リ本科生徒ト爲リタル者ニ限リ其ノ修學期間ヲ一年八月トス

●陸軍幼年學校令

（大正九年八月九日勅令第二百三十七號　改正　大正一〇年第三五〇號）

朕陸軍幼年學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍幼年學校令

第一條　陸軍幼年學校ハ陸軍將校タルコトヲ志願スル者ノ中ヨリ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ選拔セラレタル生徒ニ陸軍士官學校豫科生徒タルニ必要ナル素養ヲ與フル爲軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養スル所トス

第二條　陸軍幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京　仙臺　名古屋　大阪　廣島　熊本

第三條　生徒ノ教育ヲ分チテ教授及訓育トシ其ノ教育綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第四條　生徒ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定ス

第五條　陸軍幼年學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教官
生徒監主事
生徒監
主計
軍醫
下士、判任文官

前項ノ職員中將校同相當官及下士ヲ以テ之ニ充ツル者ニ在リテハ豫備役又ハ後備役ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條　校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理ス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第八條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各科目ノ教授ヲ擔任ス

校長ハ教官ノ內一人ヲ教頭ト爲シ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監理セシム

第九條　生徒監主事ハ校長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ監理ス

第十條　生徒監ハ生徒監主事ノ命ヲ承ケ訓育ヲ擔任ス

第十一條　主計及軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十二條　下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　武官タル職員ニハ便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十四條　生徒ノ修業期間ハ三年トシ之ヲ三學年ニ分チ各學年ハ四月ヨリ翌年三月ニ至ル

第十五條　生徒ハ校內ニ居住セシメ其ノ修學ニ要スル兵器、圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第十六條　生徒ハ在校中被服、糧食其ノ他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス

生徒中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ資產ヲ顧慮シ若干名ヲ限リ特ニ納金ノ全額又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

一　戰死シ又ハ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ爲死亡シタル軍人又ハ文官ノ子
二　軍人恩給法ニ依リ退職恩給、免除恩給又ハ增加恩給ノ權ヲ得タル軍人ノ子
三　現役中ノ陸海軍佐官同相當官以下ノ高等武官又ハ十一年以上軍務ニ精勵シタル陸海軍准士官以下ノ軍人ノ子
　十五年以上陸海軍部內ニ在リテ軍務ニ精勵シタル奏任又ハ判任ノ文官ノ子
四　特ニ國家ニ功勞アル軍人又ハ文官ニシテ死亡シタルモノノ子

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ子ハ父ト同一ノ家ニ在ルモノニ限リ養子ニ在リテハ前項ニ規定スル軍人又ハ文官ノ家督相續人タルモノニ限ル

第十七條　前條ノ規定ニ依リ納金ノ全額ヲ收ムル者ヲ自費生ト稱ス其ノ納金ノ全額ヲ免除セラレタル者ヲ特待生、其ノ一部ヲ免除セラレタル者ヲ半特待生ト稱ス

第十八條　特待生及半特待生ト爲スヘキ人員及其ノ區分ハ教育總監陸軍大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十九條　自費生及半特待生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十條　生徒中已ムヲ得サル事故ニ因リ退校ヲ願出ツル者アルトキハ其ノ事情ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十條ノ二　教育上必要アルトキハ校長ハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

前項ノ懲戒ニ關スル規程ハ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第二十一條　生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
二　屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
三　傷痍疾病ニ因リ修業ニ堪ヘサル者
四　前各號ノ外將來陸軍將校タルニ適セスト認ムル者

前項各號ノ外納金滯納ノ場合ニハ退校セシムルコトアルヘシ

第二十二條　生徒中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙望アルモノハ一學年間延期修學セシムルコトヲ得

第二十三條　前三條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十四條　生徒卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與ス

第二十五條　教育總監ハ校長ヲシテ卒業者ニ對シ陸軍士官學校ニ入校ヲ命セシム但シ卒業者中傷痍疾病ニ因リ陸軍士官學校豫科生徒ト爲スヲ得サル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　校長ハ生徒ニ毎年冬季二週間以內夏季五週間以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十七條　校長ハ卒業者ニ入校ノ日ヨリ陸軍士官學校入校ノ日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他ノ地ニ旅行セシムルコトヲ得此ノ期間ニ於ケル生徒ノ身分ハ陸軍幼年學校ニ屬ス

附則

本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ陸軍中央幼年學校豫科生徒及陸軍地方幼年學校生徒タル者ハ當該學校所在地ニ設置セラルル陸軍幼年學校ノ當該學年ノ生徒ト爲リタルモノトス

●陸軍戸山學校令

（大正十四年四月二十八日勅令第百五十六號）

朕陸軍戸山學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍戸山學校令

第一條　陸軍戸山學校ハ學生ニ體操、劍術及喇叭譜等ニ關スル學術ヲ修得セシメ且體操、劍術及喇叭譜等ニ關スル調査研究及試驗ヲ行ヒ並生徒ニ樂手タルニ必要ナル教育ヲ施シ且軍樂ニ關スル調査研究及試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ二種トス

甲種學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）中少尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ體操、劍術等ノ調練ヲ爲サシメ其ノ修學期間ハ概ネ五月トシ通常毎年二回入校セシム但シ修學ヲ終リタル者中若干名ヲ選拔シ教育總監ノ認可ヲ受ケ更ニ一學期間繼續シテ在學セシメ尙須要ノ學術ヲ修習セシムルコトヲ得

乙種學生　各隊（憲兵隊ヲ除ク）ノ喇叭長（喇叭長候補者タル兵卒ヲ含ム）ヲ以テ之ニ充ツ喇叭譜ノ調練ヲ爲サシム其ノ修學期間ハ概ネ二月トシ通常毎年二回入校セシム

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校ニ必要ノ學術ヲ修得セシムルコトヲ得

第四條　軍樂生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ之ニ充テ樂手補タルニ必要ナル學術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ一年トス

第五條　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第六條　體操、劍術、喇叭譜及軍樂等ニ關スル調査研究及試驗ヲ行ハシムル爲本校ニ研究部ヲ置ク

第七條　乙種學生ノ訓練、樂手補ノ養成竝軍樂ニ關スル研究及試驗ニ充ツル爲本校ニ軍樂隊ヲ置ク

第八條　學生隊ハ甲種下士學生及乙種學生ヲ以テ之ヲ編成ス

第九條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事
學生隊長
學生隊附
軍樂隊長
軍樂隊附
准士官、下士及判任文官

第十條　校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理ス

第十一條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十二條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十四條　教官ハ教育部長（軍樂隊附ノ教官ハ其ノ隊長）ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十五條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試驗ヲ分擔ス

第十六條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且調査研究及試驗ヲ分擔ス

第十七條　學生隊及軍樂隊職員ノ服務ニ付テハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十八條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十九條　學生及第三條ノ規定ニ依リ修學セシムル者ノ人員、入校期日及修學期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第二十條　前條ノ告達アリタルトキハ師團長（臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官以下同シ）ハ修學ニ適當ナル者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊及官等級氏名ヲ教育總監ニ報告スヘシ

第二十一條　士官學生ハ校外ニ、下士學生及軍樂生徒ハ校內ニ居住セシメ修學ニ要スル兵器、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

下士學生ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器及被服ヲ携行スルモノトス

第二十二條　學生及軍樂生徒ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十三條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ退校歸隊セシム

第二十四條　軍樂生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

軍樂生徒中左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ヲ退校セシム

一　學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者
二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
三　品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者
四　傷痍疾病ニ因リ修業ニ堪ヘサル者

第二十五條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ教育總監ノ認可ヲ受ケ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ且甲種下士學生ニハ學術修業證書ヲ付與ス

第二十六條　軍樂生徒卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ考科列序表ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與ス

第二十七條　軍樂生徒中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙望アルモノハ教育總監ノ認可ヲ受ケ若干日數間之ヲ滯學セシムルコトヲ得

第二十八條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條　研究又ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長ニ稟議シ其ノ軍隊ヲ使用スルコトヲ得

第三十條　官廳又ハ民間ヨリ體操、劍術等ノ指導ノ依賴アルトキハ第一條ノ規定ニ依ル業務ニ妨ナキ限リ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ニ應スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ陸軍戸山學校條例ニ依ル體操科學生又ハ諸調學生タル者ハ各本令ニ依ル甲種學生又ハ乙種學生ト爲リタルモノトス

●陸軍教導學校令（昭和二年七月一日勅令第二百十二號）

朕陸軍教導學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（御名御璽、陸軍大臣副署）

陸軍教導學校令

第一條　陸軍教導學校ハ現役步兵科下士ト爲スヘキ學生ヲ教育スル所トス

第二條　陸軍教導學校ハ左ノ三箇所ニ置ク

仙臺　豐橋　熊本

第三條　學生ノ教育綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第四條　學生ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第五條　學生ハ下士候補者タル現役步兵科兵卒ニシテ所定ノ期間在營シタル者ヲ以テ之ニ充テ其ノ修業期間ハ概ネ一年トシ毎年一回入校セシム但シ初年兵ヲ二期ニ分チ入營セシムヘキ部隊ニ屬スル者ニ在リテハ毎年二回ニ分チ入校セシムルコトヲ得

第六條　陸軍教導學校ニ學生隊ヲ置キ學生ヲ以テ之ヲ編成ス

第七條　陸軍教導學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
副官
學校附
學生隊長
學生隊副官
學生隊中隊長
學生隊機關銃隊長
學生隊附
准士官、下士及判任文官

第八條　校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理ス

第九條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ教育ヲ擔任シ其ノ他擔任ノ業務ヲ掌ル但シ教育ノ擔任ニ關シテハ學生隊長ノ區處ヲ受ク

第十一條　學生隊長ハ學生隊ヲ統ベ校長ノ命ヲ承ケ教育ヲ掌理ス

第十二條　學生隊副官ハ學生隊長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十三條　學生隊中隊長及學生隊機關銃隊長ハ學生隊長ノ命ヲ承ケ教育ヲ擔任ス

第十四條　學生隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十五條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十六條　武官タル職員ニハ便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條　學生ハ校內ニ居住セシメ其ノ修業ニ要スル兵器、圖書、器具及消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

學生ノ兵器及被服ハ其ノ所屬隊ヨリ携行セシム

第十八條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第十九條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ズ

第二十條　學生ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
二　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
三　學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
四　傷痍疾病ニ因リ修業ニ堪ヘザル者
五　前各號ノ外下士タルニ適セズト認ムル者

第二十一條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得ザル者ニシテ尙望ミアル者ハ所要ノ期間之ヲ滯學セシムルコトヲ得

第二十二條　前二條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ退校又ハ滯學セシム

第二十三條　學生卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ之ヲ歸隊セシム

第二十四條　滯學セシメラレタル學生修業ヲ終リタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之ヲ取扱フモノトス

第二十五條　學生ノ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長ニ稟議シ其ノ師團各隊ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍步兵學校令（大正十四年四月九日軍令陸第三號）

朕陸軍步兵學校條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍步兵學校令

第一條　陸軍步兵學校ハ學生ニ射擊、戰術及通信術等ヲ修得セシメ之ヲ各隊ニ普及シ且常ニ是等諸學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ步兵教育ノ進步ヲ圖リ竝携帶火兵機關銃戰車其ノ他步兵用兵器器具材料等ノ研究試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ二種トシ通常毎年二回入校セシム

甲種學生　步兵科大尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊及戰術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ四月トス

乙種學生　步兵科中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊又ハ通信術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ四月トス

必要ニ應シ他兵科（憲兵科ヲ除ク）ノ大尉又ハ中尉ヲ以テ學生ト爲スコトヲ得

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第五條　步兵ニ關スル諸般ノ調査研究竝試驗ヲ遂ケシムル爲本校ニ研究部ヲ置ク

第六條　學生ノ教育竝諸般ノ研究試驗ニ充ツル爲本校ニ教導隊ヲ置キ步兵隊ヨリ兵卒及所要ノ下士ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第七條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事
教導隊長
教導隊副官
教導隊大隊長
教導隊大隊副官
教導隊中隊長
教導隊機關銃隊長
教導隊步兵砲隊長
教導隊通信隊長
教導隊戰車隊長
教導隊附
准士官、下士、判任文官

第八條　校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第九條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十一條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十二條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十三條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十四條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究竝試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十五條　教導隊職員ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十六條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ服ス

第十七條　學生及第三條ニ依リ召集スル者ノ人員、入校若ハ召集期日竝召集期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十八條　學生分遣ノ告達アリタルトキハ師團長（臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官以下同シ）ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊號官等氏名ヲ教育總監ニ報告スヘシ

第十九條　學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ要スル兵器、彈藥、馬、馬具、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第二十條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十一條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ學術修得ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十二條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ヲ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付スヘシ

第二十三條　教導隊ニ分遣スヘキ兵卒ハ初年兵ヨリ選拔シ下士ハ尙一年以上現役ニ服スヘキ者ナルコトヲ要ス

第二十四條　教導隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器及被服ヲ携行スルモノトス

第二十五條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十六條　研究若ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長又ハ陸軍航空本部長ニ稟議シ又ハ協議シ其ノ軍隊又ハ學校ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍騎兵學校條例（大正六年九月十四日軍令陸第五號　改正　大正七年第六號、八年第一〇號、一二年第二號）

朕陸軍騎兵實施學校條例ヲ陸軍騎兵學校條例ニ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍騎兵學校條例

第一條　陸軍騎兵學校ハ學生ニ馬術、戰術、射擊及通信術等ヲ修得セシメ之ヲ各隊ニ普及シ且常ニ是等諸學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ騎兵教育ノ進步ヲ圖リ竝騎兵用兵器具材料等ノ研究試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ三種トス

甲種學生　騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ戰術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ八月トシ通常毎年一回入校セシム

乙種學生　騎兵中少尉及輜重兵科士官ヲ以テ之ニ充テ主トシテ馬術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ十一月トシ通常毎年一回入校セシム但シ修學ヲ終リタル乙種騎兵科學生中ヨリ若干名ヲ選拔シテ更ニ概ネ一年間在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

丙種學生　騎兵中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊又ハ通信術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ四月トシ通常毎年二回入校セシム

修學ヲ終リタル陸軍野戰砲兵學校馭法學生中ヨリ教育總監ノ選拔セル者ヲ入校セシメ乙種學生ニ準シ概ネ一年間須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

第三條　前條ノ外臨時ニ騎兵科佐官ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條ノ二　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第四條　學生ノ教育竝諸般ノ研究試驗ニ充ツル爲本校ニ教導隊ヲ置キ騎兵隊ヨリ兵卒及所要ノ下士ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
副官
教育部長
教官
教導隊長
教導隊副官
教導隊中隊長

教導隊機關銃隊長
教導隊附
主計
軍醫
獸醫正、獸醫
准士官、下士、判任文官

第六條　校長ハ騎兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條ノ二　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第八條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

教育部長ハ教官若干名ヲ指定シ校廠ニ關スル一切ノ業務ヲ掌ラシム

第八條ノ二　教育部長及教官ハ校長ノ命ヲ承ケ諸般ノ調査研究試驗ヲ分擔ス

第九條　教導隊職員ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十條　主計、軍醫、獸醫正及獸醫ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十一條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ業務ニ服ス

第十二條　削除

第十三條　學生及第三條ニ依リ召集スル者ノ人員、入校若ハ召集期日竝召集期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條　學生分遣ノ告達アリタルトキハ師團長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其ノ官等氏名ヲ騎兵監ニ通報スヘシ

第十五條　學生ハ校外ニ居住セシム

學生ノ修學ニ要スル兵器、馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ之ヲ貸與シ又ハ支給スルコトヲ得

第十六條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條　學生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學術修得ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ騎兵監ノ認可ヲ受ケ退校歸隊セシム

第十八條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ調査シ修業成績書ヲ調製シ騎兵監ノ認可ヲ受ケ師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ送付スヘシ

第十九條　教導隊ニ分遣ノ兵卒ハ初年兵ヨリ選拔シ分遣ノ下士ハ尚二年以上現役ニ服スヘキ者ナルコトヲ要ス

第二十條　教導隊ニ分遣ノ下士、兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器、被服ヲ携行スルモノトス

第二十一條　教官ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十二條　研究若ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長ニ稟議シ其ノ軍隊ヲ使用スルコトヲ得

附　則

學生ノ修學期ハ大正六年修業歸隊ノモノニ在リテハ甲種學生ハ約七箇月乙種學生ハ約九箇月トシ大正七年修業歸隊ノ乙種學生ニ在リテハ約十箇月トス

●陸軍野戰砲兵學校令

（大正十四年四月九日軍令陸第四號）

朕陸軍野戰砲兵學校令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍野戰砲兵學校令

第一條　陸軍野戰砲兵學校ハ學生ニ射擊、戰術、觀測通信術竝馭法等ヲ修得セシメ之ヲ各隊ニ普及シ且常ニ是等諸學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ野戰砲兵及高射砲兵（重砲兵ニ在リテハ高射砲）ノ教育ノ進歩ヲ圖リ竝野戰砲兵及高射砲兵用兵器器具材料等ノ研究試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ五種トシ通常每年一回入校セシム

甲種學生　砲兵科大尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊及戰術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ七月トス

乙種學生　砲兵科大中尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ五月トス

觀測通信學生　砲兵科中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ觀測通信術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ六月トス

馭法學生　砲兵科中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ馬術及馭法ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ十一月トス

高射砲學生　砲兵科中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ高射砲ニ關スル學術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ五月トス

必要ニ應シ他兵科（憲兵科ヲ除ク）ノ大尉又ハ中尉ヲ以テ學生ト爲スコトヲ得

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第五條　野戰砲兵及高射砲兵ニ關スル諸般ノ調査研究竝試驗ヲ遂ケシムル爲本校ニ研究部ヲ置ク

第六條　學生ノ教育竝諸般ノ研究試驗ニ充ツル爲本校ニ教導聯隊ヲ置キ野戰砲兵隊及高射砲隊ヨリ兵卒及所要ノ下士ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第七條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事
教導聯隊長
教導聯隊副官
教導聯隊大隊長
教導聯隊大隊副官
教導聯隊中隊長
教導聯隊高射砲隊長
教導聯隊隊附
准士官、下士、判任文官

第八條　校長ハ砲兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第九條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十一條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十二條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

校長ハ教官若干名ヲ指定シ教育部ニ屬スル校廠一切ノ業務ヲ掌ラシム

第十三條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十四條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究竝試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十五條　教導聯隊職員ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十六條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ服ス

第十七條　學生及第三條ニ依リ召集スル者ノ人員、入校若ハ召集期日竝召集期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十八條　學生分遣ノ告達アリタルトキハ師團長（臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官、滿洲ニ在リテハ關東軍司令官以下同シ）ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊號官等氏名ヲ砲兵監ニ通報スヘシ

第十九條　學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ要スル兵器、彈藥、馬、馬具、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第二十條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十一條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ學術修得ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ砲兵監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十二條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ砲兵監ノ認可ヲ受ケ之ヲ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付スヘシ

第二十三條　教導聯隊ニ分遣スヘキ兵卒ハ初年兵ヨリ選拔シ下士ハ尚一年以上現役ニ服スヘキ者ナルコトヲ要ス

第二十四條　教導聯隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器及被服ヲ携行スルモノトス

第二十五條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十六條　研究若ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長又ハ陸軍航空本部長ニ稟議シ又ハ協議シ其ノ軍隊又ハ學校ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍重砲兵學校令

（大正十四年四月九日軍令陸第五號）

朕陸軍重砲兵學校令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍重砲兵學校令

第一條　陸軍重砲兵學校ハ學生ニ射擊、戰術、觀測通信術、砲塔術及要塞電燈術等ヲ修得セシメ之ヲ各隊ニ普及シ且常ニ是等諸學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ重砲兵教育ノ進歩ヲ圖リ倂練習生ニ砲塔術、通信術及要塞電燈術等ヲ修得セシメ竝重砲兵用兵器器具材料等ノ研究試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ三種トシ通常每年一回入校セシム

甲種學生　砲兵科大中尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊及戰術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ七月トス

乙種學生　砲兵科中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ射擊及砲塔術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ六月トス

觀測通信學生　砲兵科中少尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ觀測通信術及要塞電燈術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ六月トス

必要ニ應シ他兵科（憲兵科ヲ除ク）ノ大尉又ハ中尉ヲ以テ學生ト爲スコトヲ得

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　練習生ヲ分チテ左ノ三種トシ砲塔術練習生ニ在リテハ通常每年二回、其ノ他ノ練習生ニ在リテハ通常每年一回重砲兵隊ヨリ入校セシム

砲塔術練習生　下士兵卒ヲ以テ之ニ充テ主トシテ砲塔術ヲ練習セシム其ノ修學期間ハ概ネ五月トス

通信術練習生　下士兵卒ヲ以テ之ニ充テ主トシテ通信術ヲ練習セシム其ノ修學期間ハ概ネ七月トス

電燈術練習生　下士兵卒ヲ以テ之ニ充テ主トシテ要塞電燈術ヲ練習セシム其ノ修習期間ハ概ネ五月トス

第五條　學生及練習生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第六條　重砲兵ニ關スル諸般ノ調査研究竝試驗ヲ遂ケシムル爲本校ニ研究部ヲ置ク

第七條　學生ノ教育竝諸般ノ研究試驗ニ充ツル爲本校ニ教導大隊ヲ置キ重砲兵隊ヨリ兵卒及所要ノ下士ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第八條　練習生隊ハ練習生ヲ以テ之ヲ編成ス

第九條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事
教導大隊長
教導大隊副官
教導大隊中隊長
教導大隊附
練習生隊長
練習生隊附
准士官、下士、判任文官

第十條　校長ハ砲兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第十一條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十二條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生及練習生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十四條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十五條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十六條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究竝試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十七條　教導大隊及練習生隊職員ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十八條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ服ス

第十九條　學生、練習生及第三條ニ依リ召集スル者ノ人員、入校若ハ召集期日竝召集期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第二十條　前條ノ告達アリタルトキ學生ニ在リテハ師團長（臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官、滿洲ニ在リテハ關東軍司令官以下同シ）練習生ニ在リテハ部隊長修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊號官等級氏名ヲ砲兵監ニ通報スヘシ

第二十一條　學生及營外居住者タル練習生ハ校外ニ、營內居住者タル練習生ハ校內ニ居住セシメ修學ニ要スル兵器、彈藥、馬、馬具、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

練習生ニ在リテハ兵器ヲ、營內居住者タル練習生ニ在リテハ被服ヲ其ノ所屬隊ヨリ携行セシム

第二十二條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十三條　學生及練習生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ學術修得ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ砲兵監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十四條　校長ハ學生及練習生ノ修學期末ニ於テ修學ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ砲兵監ノ認可ヲ受ケ之ヲ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付スヘシ

第二十五條　教導大隊ニ分遣スヘキ兵卒ハ初年兵ヨリ、練習生ハ初年兵若ハ二年兵ヨリ選拔シ下士ハ尚一年以上現役ニ服スヘキ者ナルコトヲ要ス

第二十六條　教導大隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器及被服ヲ携行スルモノトス

第二十七條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十八條　研究若ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長又ハ陸軍航空本部長ニ稟議シ又ハ協議シ其ノ軍隊又ハ學校ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ニ依ル砲塔術練習生教育ノ實施ハ一時之ヲ延期スルコトヲ得

●陸軍工兵學校條例

（大正八年四月十四日軍令陸第七號）

朕陸軍工兵學校條例ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍工兵學校條例

第一條　陸軍工兵學校ハ學生ニ工兵技術、戰術及交通術等ヲ修得セシメ之ヲ各隊ニ普及シ且常ニ是等諸學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ工兵教育ノ進歩ヲ圖リ又上等工長ニ必要ナル學術ヲ教育シ竝工兵用兵器器具材料等ノ研究試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ二種トス

甲種學生　工兵大（中）尉（時トシテ少尉）ヲ以テ之ニ充ツ

乙種學生　上等工長タルヘキ工兵下士ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科佐尉官、下士ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第五條　學生ノ教育竝諸般ノ研究試驗ニ充ツル爲本校ニ教導大隊ヲ置キ工兵隊ヨリ兵卒及所要ノ下士ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第六條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
主計
軍醫
教育部長
教官
技師
教導大隊長

教導大隊副官
教導大隊中隊長
教導大隊附
准士官、下士、判任文官

第七條　校長ハ工兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第八條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第九條　主計及軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十一條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十二條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌リ又學術ノ教授ヲ分擔ス

第十三條　教育部長及教官ハ校長ノ命ヲ承ケ諸般ノ調査研究試驗ヲ分擔ス

第十四條　教導大隊職員ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十五條　下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ服ス

第十六條　學生ノ修學期ハ甲種學生ニ在リテハ概ネ八月、乙種學生ニ在リテハ概ネ一年トス

第十七條　學生及第三條ニ依リ召集スル者ノ人員、入校若ハ召集期日竝召集期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十八條　學生分遣ノ告達アリタルトキハ所管長官ハ部隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其ノ官等氏名ヲ陸軍工兵學校長ニ通報セシムヘシ

第十九條　士官學生及營外居住下士學生ハ校外ニ、營內居住下士學生ハ校內ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、圖書及器具ハ之ヲ貸與又ハ支給スルコトヲ得

下士學生ノ兵器、營內居住下士學生ノ被服ハ所屬隊ヨリ之ヲ携行セシム

第二十條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十一條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

學生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ工兵監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十二條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ調査シ修業成績書ヲ調製シ工兵監ノ認可ヲ受ケ所管長官ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ部隊長ニ送付スヘシ

第二十三條　教導大隊ニ分遣ノ兵卒ハ前年入營ノ者ヨリ選拔スヘシ但シ伍長勤務上等兵及蹄鐵工卒ハ二年前入營ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十四條　教導大隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器、被服ヲ携行セシム

第二十五條　教官ニハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十六條　研究又ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長ニ稟議シ其ノ軍隊ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ甲種學生ハ大正九年ヨリ、乙種學生ハ大正十年ヨリ之ヲ入校セシム

●陸軍砲工學校條例

（明治三十一年十月一日勅令第二百二十五號）
改正　明治三三年第二一三號、三四年第三號、三五年第一七四號、三六年第一三四號
大正八年軍令陸第二六號

朕陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍砲工學校條例

第一條　陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生ト爲シ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生ト爲スコトヲ得

第二條　學生教育ノ綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條　學生教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教官
軍醫
獸醫
【副監督】
下士、判任文官

第五條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條　馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條　文官教官ハ數學物理學化學圖學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條　學生ノ修學期ハ概ネ一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス

第十一條　前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以內ヲ選拔シ更ニ一箇年在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修メシム之ヲ高等科ト稱ス

第十二條　學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條　削除

第十四條　學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十五條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條　學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條　普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命ス

一　疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者
二　卒業試驗ヲ受ケ得サル者
三　卒業試驗ニ落第セシ者

第十九條　高等科學生ニシテ前條第一第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十條　校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條　高等科卒業者又ハ各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官中技術將校トシテ適任ナル見込アル者ヲ選ヒ員外學生ト爲シ必要ナル學術ヲ研究セシムルコトヲ得其ノ採用竝修業等ニ關スル事項ハ教育總監陸軍大臣ト商議シテ之ヲ定ム

第二十二條　卒業證書ヲ付與シタル者ニシテ更ニ高等科若クハ員外學生トシテ在學シ又ハ野戰要塞各砲兵射擊學校乙種學生トシテ入校ヲ命セラレタル者ノ外ハ校長直ニ之ヲ歸隊セシム

第二十三條　普通科學生ニシテ退校セシメラレタル者ハ隊長ノ上申ニ依リ教育上便宜ノ時期ニ於テ再ヒ入學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條　滯學若クハ再ヒ入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條　普通科學生ニシテ卒業試驗ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更ニ試驗ヲ受ケシメ及第者ニ卒業證書ヲ附與シ尙落第シタル者ハ[illegible]ニ附ス

第二十六條　毎年學生ニ三週間以內ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十七條　教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

●陸軍工科學校令

（大正九年八月九日勅令第二百三十八號）
改正　大正一三年第一二〇號、一四年第一五七號

朕陸軍工科學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
▲（總理、陸軍大臣副署）

陸軍工科學校令

第一條　陸軍工科學校ハ陸軍砲工兵工長ト爲スヘキ生徒及兵器技術ヲ掌ル砲工兵科士官ト爲スヘキ學生ヲ教育シ砲工兵工長タル學生ニ陸軍技術ニ關スル學術ヲ修得セシメ且此等學術ノ調査研究及試驗ヲ行フ所トス

第二條　生徒及學生ノ教育ヲ分チテ教授及訓育トシ其ノ教育綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ陸軍技術本部長之ヲ定ム

第三條　生徒及學生ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ陸軍技術本部長ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第四條　陸軍工科學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教授部長
教官
生徒隊長
生徒隊副官
生徒隊中隊長
生徒隊附
准士官、下士、判任文官

第五條　校長ハ陸軍技術本部長ニ隷シ校務ヲ總理ス

第六條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條ノ二　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第七條　教授部長ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監理ス

第八條　教官ハ教授部長ノ命ヲ承ケ各科目ノ教授ヲ擔任ス

第九條　生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ校長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ監理ス

第十條　生徒隊副官ハ生徒隊長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十一條　生徒隊中隊長ハ生徒隊長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ擔任ス

第十二條　生徒隊附ハ生徒隊中隊長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ分擔ス

第十三條　削除

第十四條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　武官タル職員ニハ便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十六條　學生ハ左ノ二種ニ之ヲ區別ス

甲種學生　砲工兵上等工長又ハ一等工長ニシテ檢定試驗ニ合格シタルモノヲ以テ之ニ充テ其ノ修業期間ハ概ネ一年トシ十二月ヨリ翌年十一月ニ至ル

乙種學生　砲工兵工長ヲ以テ之ニ充テ其ノ修業期間ハ概ネ四月トシ各部隊ヨリ通常毎年二回分遣ス

第十七條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校以下ニ所要ノ學術ヲ修得セシムルコトヲ得

第十八條　生徒ハ左ノ者ヲ以テ之ニ充テ其ノ修業期間ハ概ネ二年トシ十二月ヨリ翌翌年十一月ニ至ル

一　現役各兵科（憲兵科ヲ除ク）兵卒ニシテ召募試驗ニ合格シタルモノ
二　陸海軍現役、豫備役又ハ後備役ニ在ラサル者ニシテ召募試驗ニ合格シタルモノ

第十九條　甲種學生ノ檢定試驗及生徒ノ召募試驗竝其ノ採用ニ關スル事項ニ付テハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條ノ二　乙種學生及第十七條ノ規定ニ依リ修學セシムル者ノ人員、入校期日及修學期間ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十九條ノ三　前條ノ告達アリタルトキハ所管長官ハ修學ニ適當ナル者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊及官等氏名ヲ陸軍工科學校長ニ通報スルモノトス

第二十條　學生中營外居住者ハ校外ニ、學生中營內居住者及生徒ハ校內ニ居住セシム

學生中營內居住者ノ兵器及被服ハ所屬部隊ヨリ之ヲ携行セシム

生徒及學生ノ修業ニ要スル兵器、圖書、器具、消耗品及修業用ノ原料ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第二十一條　生徒ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十二條　生徒及學生ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條　生徒及學生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
四　傷痍疾病ニ因リ修業ニ堪ヘサル者

前項ノ規定ニ依リ退校セシメラレタル生徒第十七條第一項第一號ノ規定ニ依ル者ナルトキハ原所管部隊ニ之ヲ歸還セシム

第二十四條　生徒及甲種學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙望アル者ハ所要ノ期間之ヲ滯學セシムルコトヲ得

第二十五條　前二條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍技術本部長ヲ經テ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ裁定處分ス

第二十六條　生徒及學生卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ考科列序ヲ定メ陸軍技術本部長ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書（乙種學生ニ在リテハ修業證書）ヲ付與シ且陸軍技術本部長ヲ經テ陸軍大臣ニ報告ス

第二十七條　甲種學生中成績優秀ノ者ハ少尉任官後ニ於テ之ヲ員外學生ト爲シ必要ノ學術ヲ研究セシムルコトヲ得其ノ修業等ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十八條　滯學セシメラレタル生徒又ハ甲種學生修業ヲ終リタルトキハ第二十六條ノ規定ニ準シ之ヲ取扱フモノトス

第二十九條　卒業證書又ハ修業證書ヲ付與セラレタル學生ハ校長直ニ原所管部隊ニ之ヲ歸還セシム

第三十條　校長ハ毎年生徒及甲種學生ニ三週間以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三十一條　生徒及學生ノ教育上必要アルトキハ校長ハ陸軍造兵廠長官ト協議シ其ノ所管ノ工場ノ一部ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年入校セシムヘキ學生ハ大正十年二月入校セシム

本令施行ノ際現ニ陸軍砲兵工科學校生徒タル者ハ陸軍工科學校生徒トシ砲兵工長候補者ニ在リテハ相當學年ニ之ヲ編入シ火工下士候補者ニ在リテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十四年勅令第百五十七號）

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ普通科學生タル者ノ修業迄又ハ其ノ者ノ員外學生ノ修業迄、現ニ員外學生タル者ハ其ノ修業迄仍從前ノ例ニ依ル

●陸軍飛行學校令

（大正十四年四月二十八日軍令陸第七號）

朕陸軍飛行學校令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍飛行學校令

第一條　陸軍飛行學校ハ學生ニ航空ニ關スル諸般ノ學術ヲ修得セシメ之ヲ各部隊ニ普及シ常ニ是等諸學術ノ調査研究ヲ爲シ以テ航空兵教育ノ進歩ヲ圖リ竝航空ニ關スル兵器器材ノ研究試驗ヲ行フ所トス

第二條　陸軍飛行學校ハ左ノ三箇所ニ置ク

所澤　下志津　明野

第三條　陸軍飛行學校ニ於テ教育及調査研究竝試驗ヲ爲スヘキ科目ノ區分概ネ左ノ如シ

所澤陸軍飛行學校　飛行機操縱及機關ニ關スル諸學術竝是等ニ關スル兵器器材

下志津陸軍飛行學校　戰術、偵察、偵察操縱、通信及寫眞等ニ關スル諸學術竝是等ニ關スル器材

明野陸軍飛行學校　空中戰鬪、射擊及火器ノ取扱等ニ關スル諸學術竝是等ニ關スル兵器及器材

第四條　學生ヲ分チテ左ノ六種トス

操縱學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官、准士官、下士及下士候補者タル兵卒ヲ以テ之ニ充テ飛行機操縱ニ關スル學術ヲ修得セシム

機關學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官、准士官、下士及下士候補者タル兵卒ヲ以テ之ニ充

テ機關ニ關スル學術ヲ修習セシム

戰術學生　航空兵科大中尉ヲ以テ之ニ充テ戰術ヲ修習セシム

偵察學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官ヲ以テ之ニ充テ偵察ニ關スル學術ヲ修習セシム

射擊學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官、准士官及下士ヲ以テ之ニ充テ空中戰鬪及空中射擊ニ關スル學術ヲ修習セシム

特種學生　航空兵科尉官、准士官及下士ヲ以テ之ニ充テ偵察操縱、通信、寫眞又ハ火器ノ取扱等ニ關スル學術ヲ修習セシム

第五條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校以下ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　學生ノ教育ニ任セシムル爲各學校ニ教育部ヲ置ク

第七條　航空兵ニ關スル諸般ノ調査研究竝試驗ヲ遂ケシムル爲各學校ニ研究部ヲ置ク

第八條　學生ノ教育竝諸般ノ研究試驗ニ充ツル爲下志津陸軍飛行學校ニ教導隊ヲ置キ飛行隊ヨリ兵卒及所要ノ下士ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第九條　器材ノ修理、研究竝學生ノ實習ニ供スル爲各學校ニ材料廠ヲ置ク

第十條　各學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事
材料廠長
材料廠附
准士官、下士、判任文官

前項ノ外下志津陸軍飛行學校ニ左ノ職員ヲ置ク

教導隊長
教導隊附

第十一條　校長ハ陸軍航空本部長ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第十二條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十三條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十四條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十五條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十六條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十七條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究竝試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且諸般ノ調査研究竝試驗ヲ分擔ス

第十八條　材料廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ廠內一般ノ業務ヲ掌ル

第十九條　材料廠附ハ材料廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ分擔ス

第二十條　教導隊職員ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第二十一條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ服ス

第二十二條　學生及第五條ニ依リ召集スル者ノ人員又ハ人名、入校又ハ召集期日、召集期間竝學校名ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第二十三條　學生分遣ノ告達アリタルトキハ所管長官（陸軍航空本部、陸軍飛行學校ニ在リテハ陸軍航空本部長以下同シ）ハ部隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校前ニ其ノ官等級氏名ヲ陸軍航空本部長ニ報告セシムヘシ

第二十四條　學生ノ修學期間及入校回數ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十五條　士官、准士官及營外居住者タル下士學生ハ校外ニ、營內居住者タル下士兵卒學生ハ校內ニ居住セシム

第二十六條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十七條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ學術修得ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍航空本部長ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十八條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修學期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尙成業ノ見込アル者ハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍航空本部長ノ認可ヲ受ケ滯學セシムルコトヲ得

第二十九條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生修學ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ陸軍航空本部長ノ認可ヲ受ケ之ヲ所管長官ヲ經テ本人所屬部隊長ニ送付スヘシ但シ准士官以下ニハ學術修業證書ヲ付與スルモノトス

第三十條　校長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ經テ修學ヲ終リタル學生中若干名ヲ選拔シ更ニ一年以內須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

第三十一條　教導隊ニ分遣スヘキ兵卒ハ初年兵ヨリ選拔シ下士ハ尙一年以上現役ニ服スヘキ者ナルコトヲ要ス

第三十二條　教導隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ其ノ兵器及被服ヲ携行スルモノトス

第三十三條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシメ又ハ他ノ飛行學校ニ派遣スルコトヲ得

第三十四條　研究若ハ教育上必要アルトキハ校長ハ教育總監又ハ師團長ニ稟議シ其ノ學校又ハ軍隊ヲ使用スルコトヲ得

所澤及明野陸軍飛行學校長ハ研究若ハ教育上必要アルトキハ下志津陸軍飛行學校長ト協議シ其ノ教導隊ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍飛行學校ニ於テ民間ノ希望者ニ對シ航空術ヲ教授シ得ルノ件（大正八年四月二十八日勅令第百五十三號）

朕陸軍航空學校ニ於テ民間ノ希望者ニ對シ航空術ヲ教授シ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

【陸軍航空學校】ニ於テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ民間ノ希望者ニ對シ航空術ヲ教授スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍通信學校令（大正十四年四月二十八日勅令第百五十八號）

朕陸軍通信學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍通信學校令

第一條　陸軍通信學校ハ學生ニ通信ニ關スル學理及技術ヲ修得セシメ且通信ニ關スル學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ通信技術ノ統一進歩ヲ圖リ竝通信器材ノ研究試驗、無線通信器材ノ審査檢査及固定無線所ノ建設補修等ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ二種トシ通常每年一回入校セシム

甲種學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期間ハ概ネ十月トス但シ修學ヲ終リタル學生ノ中ヨリ若干名ヲ選拔シ教育總監ノ認可ヲ受ケ更ニ一年以內在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

乙種學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）下士ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期間ハ概ネ六月トス

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科（憲兵科ヲ除ク）將校以下ニ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第五條　通信ニ關スル調査研究及試驗ヲ行ハシメ且無線通信器材ノ審査檢査及固定無線所ノ建設補修等ニ任セシムル爲本校ニ研究部ヲ置ク

第六條　器材ノ修理及研究竝學生ノ實習ニ供スル爲本校ニ材料廠ヲ置ク

第七條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事

材料廠長
材料廠附
准士官、下士及判任文官

第八條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理ス但シ無線通信器材ノ審査檢査及固定無線所ノ建設補修等ノ業務ニ關シテハ陸軍大臣ノ區處ヲ承クルモノトス

第九條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十一條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十二條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十三條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試驗竝無線通信器材ノ審査檢査及固定無線所ノ建設補修等ヲ分擔ス

第十四條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且調査研究及試驗竝無線通信器材ノ審査檢査及固定無線所ノ建設補修等ヲ分擔ス

第十五條　材料廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ掌ル

第十六條　材料廠附ハ材料廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ分擔ス

第十七條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十八條　學生及第三條ノ規定ニ依リ修學セシムル者ノ人員、入校期日及修學期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十九條　前條ノ告達アリタルトキハ所管長官ハ修學ニ適當ナル者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊及官等氏名ヲ教育總監ニ報告シ又ハ通牒スヘシ

第二十條　甲種學生及營外居住者タル下士ノ乙種學生ハ校外ニ、營內居住者タル下士ノ乙種學生ハ校內ニ居住セシメ修學ニ要スル兵器、被服、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

乙種學生ニ在リテハ兵器ヲ、營內居住者タル下士ノ乙種學生ニ在リテハ被服ヲ其ノ所屬部隊ヨリ携行スルモノトス

第二十一條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十二條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十三條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ教育總監ノ認可ヲ受ケ所管長官ヲ經テ本人所屬ノ部隊長ニ送付シ乙種學生ニハ學術修業證書ヲ付與ス

第二十四條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條　研究又ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長又ハ陸軍航空本部長ニ稟議シ又ハ協議シ其ノ軍隊又ハ學校ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍自動車學校令（大正十四年四月二十八日勅令第百五十九號）

朕陸軍自動車學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍自動車學校令

第一條　陸軍自動車學校ハ學生及兵卒ニ自動車ニ關スル學術ヲ修得セシメ且自動車ニ關スル學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ自動車ニ關スル學術ノ進歩ヲ圖リ竝自動車及之ニ關スル器材ノ研究及試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分チテ左ノ二種トシ通常每年二回入校セシム

甲種學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）尉官ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期間ハ輜重兵科ノ者ニ在リテハ概ネ八月、其ノ他ノ兵科ノ者ニ在リテハ概ネ五月トス但シ修學ヲ終リタル學生ノ中ヨリ若干名ヲ選拔シ教育總監ノ認可ヲ受ケ更ニ一年以內在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

乙種學生　各兵科（憲兵科ヲ除ク）下士ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期間ハ概ネ五月トス

第三條　前條ノ外臨時ニ各兵科將校以下ニ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第五條　自動車ニ關スル調査研究及試驗ヲ行ハシムル爲本校ニ研究部ヲ置ク

第六條　學生ノ教育及自動車ニ關スル研究試驗ニ充テ且兵卒ニ自動車ニ關スル學術ヲ教育スル爲本校ニ練習隊ヲ置キ各隊ヨリ所要ノ兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第七條　器材ノ修理及研究竝學生ノ實習ニ供スル爲本校ニ材料廠ヲ置ク

第八條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教育部長
教官
研究部部員
研究部主事
練習隊長
練習隊附
材料廠長
材料廠附
准士官、下士及判任文官

第九條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理ス但シ自動車及之ニ關スル器材ノ研究及試驗ニ關シテハ陸軍大臣ノ區處ヲ受クルモノトス

第十條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十一條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十二條　教育部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學生教育ノ計畫及其ノ實施ニ任ス

第十三條　教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十四條　研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試驗ヲ分擔ス

第十五條　研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試驗ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且調査研究及試驗ヲ分擔ス

第十六條　練習隊職員ノ服務ニ付テハ軍隊內務ノ定則ヲ準用ス

第十七條　材料廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ掌ル

第十八條　材料廠附ハ材料廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ分擔ス

第十九條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條　學生及第三條ノ規定ニ依リ修學セシムル者ノ人員、入校期日及修學期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第二十一條　前條ノ告達アリタルトキハ所管長官ハ修學ニ適當ナル者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊及官等氏名ヲ教育總監ニ報告シ又ハ通牒スヘシ

第二十二條　甲種學生及營外居住者タル下士ノ乙種學生ハ校外ニ、營內居住者タル下士ノ乙種學生ハ校內ニ居住セシメ修學ニ要スル兵器、被服、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

乙種學生ニ在リテハ兵器ヲ、營內居住者タル下士ノ乙種學生ニ在リテハ被服ヲ其ノ所屬部隊ヨリ携行スルモノトス

第二十三條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十四條　學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十五條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ學生ノ成績ヲ審査シ修業成績書ヲ調製シ教育總監ノ認可ヲ受ケ所管長官ヲ經テ本人所屬ノ部隊長ニ送付ス

第二十六條　練習隊ニ分遣スヘキ兵卒ハ初年兵ヨリ選拔ス

第二十七條　練習隊ニ分遣ノ兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ兵器及被服ヲ携行スルモノトス

第二十八條　職員ニハ校務上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條　研究又ハ教育上必要アルトキハ校長ハ師團長又ハ航空本部長ニ稟議シ又ハ協議シ其ノ軍隊又ハ學校ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍軍醫學校令

（大正十一年三月二十九日勅令第五十七號）
改正　大正一三年第一二一號

朕陸軍軍醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍醫學校令

第一條　陸軍軍醫學校ハ學生ヲシテ衛生部ニ必要ナル學術ヲ修得セシメ軍陣醫學及軍陣藥學ヲ研究シ軍事衛生ニ關スル試驗ヲ行ヒ併セテ陸軍衛生ニ關スル業務ニ從事スル者ノ教育ニ要スル圖書ノ編纂ヲ爲ス所トス

陸軍軍醫學校ハ前項ノ學術ノ教育竝軍陣醫學及軍陣藥學ノ研究ニ資スル爲一般患者ノ診療ヲ行ヒ且軍隊ニ要スル細菌學的豫防品及治療品ノ製造ヲ爲ス

第二條　學生ノ教育綱領ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　學生ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第四條　陸軍軍醫學校ニ教育部、研究部、診療部及防疫部ヲ置ク

第五條　陸軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教官
部員
主計
下士、判任文官

第六條　校長ハ陸軍大臣ニ隷シ校務ヲ總理ス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第八條　教官及部員ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條ニ揭クル事項ヲ分擔ス

第九條　主計ハ校長ノ命ヲ承ケ經理事務ヲ掌ル

第十條　下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條　學生ヲ分チテ上長官學生、甲種士官學生、乙種士官學生及准士官下士學生トス

上長官學生ハ軍醫正及藥劑正ヲ以テ、甲種士官學生ハ軍醫及藥劑官中ヨリ銓衡シタル者ヲ以テ、乙種士官學生ハ初任ノ軍醫及藥劑官ヲ以テ、准士官下士學生ハ三等看護官候補者ヲ以テ之ニ充ツ

甲種士官學生ハ研究ノ爲之ヲ大學令ニ依ル大學ノ醫學部又ハ傳染病研究所等ヘ派遣スルコトヲ得

第十二條　前條ノ學生ノ採用ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十三條　甲種士官學生、乙種士官學生及准士官下士學生ノ修業期間ハ概ネ一年トス

上長官學生ノ修業期間ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十四條　學生ハ校外ニ居住セシメ其ノ修業ニ要スル圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第十五條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第十七條　學生中學生タルニ適セサル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣ハ之ヲ退校セシムルコトヲ得

學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尚望ミアルモノハ校長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ滯學セシムルコトヲ得

第十八條　學生卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ學生ノ學術技倆ヲ審査シ其ノ成績其ノ他必要ノ事項ヲ陸軍大臣ニ報告シ且師團長ヲ經テ所管軍醫部長ニ通報ス

第十九條　校長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ患者診療ニ關スル規程ヲ定ム

第二十條　陸軍大臣ハ臨時ニ衛生部士官ヲ陸軍軍醫學校ニ召集シ所要ノ期間之ニ必要ナル學術ヲ修メシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學中ノ陸軍軍醫學校學生ノ教育ニ關シテハ仍從前ノ例ニ據ル

本令施行後當分ノ內乙種士官學生ハ其ノ修業期間ヲ六月ト爲シ初任ニ非サル二、三等軍醫及藥劑官ヲ以テ亦之ニ充ツルコトヲ得

●陸軍獸醫學校令

（大正十二年三月三十日勅令第八十四號）

朕陸軍獸醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍獸醫學校令

第一條　陸軍獸醫學校ハ學生ヲシテ獸醫部ニ必要ナル學術ヲ修得セシメ、蹄鐵工長候補者ニ對シ必要ナル教育ヲ施シ、獸醫部ニ必要ナル學術及材料ヲ研究調査シ軍用動物ノ衛生ニ關スル試驗ヲ行ヒ細菌學的豫防品及治療品ノ製造ヲ爲シ併セテ軍用動物衛生ニ關スル業務ニ從事スル者ノ教育ニ要スル圖書ノ編纂ヲ爲ス所トス

陸軍獸醫學校ニ病馬廠ヲ置ク病馬廠ハ東京衛戍地及其ノ附近ニ在ル陸軍部隊所屬ノ病馬ヲ收容治療ス

第二條　陸軍獸醫學校教育綱領ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　學生及蹄鐵工長候補者ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第四條　陸軍獸醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教官
病馬廠長
病馬廠廠員
主計
軍醫
准士官、下士、判任文官

第五條　校長ハ陸軍大臣ニ隷シ校務ヲ總理ス

第六條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第七條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條第一項ニ揭クル事項ヲ分擔ス

第八條　病馬廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ病馬廠ノ事務ヲ掌ル

第九條　病馬廠廠員ハ病馬廠長ノ命ヲ承ケ病馬廠ノ事項ヲ分擔ス

第十條　主計及軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ事項ヲ掌ル

第十一條　准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　學生ヲ分チテ專攻學生、甲種士官學生、乙種士官學生及下士學生トス

專攻學生ハ三等獸醫正及一等獸醫中ヨリ銓衡シタル者ヲ以テ、甲種士官學生ハ一、二等獸醫ヲ以テ、乙種士官學生ハ二、三等獸醫ヲ以テ、下士學生ハ蹄鐵工長ヲ以テ之ニ充ツ

專攻學生ハ研究ノ爲之ヲ大學令ニ依ル大學、獸疫調査所等ヘ派遣スルコトヲ得

第十三條　陸軍大臣ハ臨時ニ獸醫部上長官ヲ陸軍獸醫學校ニ召集シ所要ノ期間之ニ必要ナル學術ヲ修メシムルコトヲ得

第十四條　學生ノ採用ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十五條　修業期間ハ專攻學生ニ在リテハ概ネ一年、甲種士官學生ニ在リテハ概ネ五月、乙種士官學生ニ在リテハ概ネ八月、下士學生ニ在リテハ概ネ三月、蹄鐵工長候補者ニ在リテハ概ネ十月トス

第十六條　專攻學生、士官學生及營外居住下士學生ハ校外ニ、營內居住下士學生及蹄鐵工長候補者ハ校內ニ居住セシム

第十七條　學生及蹄鐵工長候補者ノ修業ニ要スル圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

營內居住下士學生及鐵蹄工長候補者ニ在リテハ兵器及被服ヲ其ノ所屬部隊ヨリ携行セシム

第十八條　學生及蹄鐵工長候補者ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第十九條　學生及蹄鐵工長候補者ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十條　學生中學生タルニ適セサル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣ハ之ヲ退校セシムルコトヲ得

第二十一條　蹄鐵工長候補者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ退校歸隊セシム

一　學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
四　傷痍疾病ニ因リ修業ニ堪ヘサル者

第二十二條　蹄鐵工長候補者中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尚望ミアルモノハ校長陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ滯學セシムルコトヲ得

第二十三條　校長ハ修業期末ニ於テ學生及蹄鐵工長候補者ノ學術技倆ヲ審査シ蹄鐵工長候補者ニ在リテハ其ノ考科列序ヲ定メ卒業證書ヲ付與ス

校長ハ前項ノ場合ニ於テ成績其ノ他必要ノ事項ヲ陸軍大臣ニ報告シ且師團長ヲ經テ所管獸醫部長ニ、尙蹄鐵工長候補者ニ在リテハ同時ニ所屬部隊長ニ通報ス

第二十四條　教育上必要ノ馬匹ハ入廠病馬又ハ東京衛戍地及其ノ附近ニ在ル部隊ノ保管馬中ヨリ之ヲ充用ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學中ノ專攻學生ノ教育ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●陸軍經理學校令

（大正九年八月九日勅令第二百三十九號）
改正　大正一五年第三三六號

朕陸軍經理學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍經理學校令

第一條　陸軍經理學校ハ學生ヲシテ經理部ニ必要ナル學術ヲ修得セシメ且陸軍經理ニ關スル學術ノ調査及研究ヲ行ヒ併セテ陸軍經理ニ關スル業務ニ從事スル者ノ教育ニ要スル圖書ノ編纂ヲ爲ス所トス

第二條　學生ノ教育綱領ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　學生ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第四條　陸軍經理學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
學校附
教官
下士、判任文官

第五條　校長ハ陸軍大臣ニ隷シ校務ヲ總理ス

第六條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第七條　學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第八條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條ニ揭クル事項ヲ分擔ス

第九條　下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　武官タル職員ニハ便宜ノ時期ニ於テ軍隊官衙附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條　學生ヲ分チテ左ノ四種トシ通常每年一回入校セシム

甲種學生　一、二等主計中身體強健勤務精勵志操確實將來發達ノ見込アリト認ムル者ニシテ檢定試驗ニ合格シタル者竝ニ經理部士官候補者中陸軍大學校ヲ卒業シタル者及陸軍參謀條例第三條第二號ニ該當スル者ヲ以テ之ニ充テ經理部ニ必要ナル高等ノ學術ヲ修得セシム其ノ修業期間ハ概ネ二年トス但シ陸軍大學校ヲ卒業シタル者及陸軍參謀條例第三條第二號ニ該當スル者ノ修業期間ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ニ應シ之ヲ短縮スルコトヲ得

乙種學生　陸軍補充令第二十三條ノ規定ニ基キ任官シタル二等主計ヲ以テ之ニ充テ經理部ニ必要ナル高等ノ學術ヲ修得セシム其ノ修業期間ハ概ネ八月トス

丙種學生　經理部士官候補者（甲種學生ニ充テラルル者ヲ除ク）ヲ以テ之ニ充テ經理部士官タルニ必要ナル學術ヲ修得セシム其ノ修業期間ハ概ネ一年トス

丁種學生　三等主計候補者ヲ以テ之ニ充テ經理部士官タルニ必要ナル學術ヲ修得セシム其ノ修業期間ハ概ネ一年六月トス

第十二條　陸軍大臣ハ前條ノ學生ノ外臨時ニ上長官以下ニ必要ノ學術ヲ修メシムルコトヲ得

第十三條　學生及前條ノ規定ニ依リ修業セシムル者ノ人員、入校期日及修業期間竝ニ學生ノ採用ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十四條　削除

第十五條　學生ハ校外ニ居住セシメ其ノ修業ニ要スル兵器、圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第十六條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第十八條　學生中學生タルニ適セサル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣ハ之ヲ退校セシムルコトヲ得

學生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業期間內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ニシテ尚望ミアルモノハ校長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ滯學セシムルコトヲ得

第十九條　學生卒業ノ期ニ至リタルトキハ校長ハ考科列序ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與ス

第二十條　滯學ヲ命セラレタル學生修業ヲ終リタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之ヲ取扱フモノトス

第二十一條　甲種學生中成績優秀ノ者ハ卒業ノ際陸軍大臣ニ於テ之ヲ員外學生ト爲シ更ニ一年間在學セシメ又ハ之ヲ大學令ニ依ル大學ノ學部ニ於テ必要ノ學術ヲ研究セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ大學ノ學部ニ於テ研究スル員外學生ノ修業ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十二條　卒業證書ヲ付與セラレタル者ハ校長直ニ原所管部隊ニ之ヲ歸還セシム但シ員外學生ト爲サレタル者ニ付テハ其ノ修業ヲ終リタル時トス

第二十三條　甲種學生ニハ其ノ修業期間內適當ノ時期ニ於テ軍隊官衙附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條　校長ハ學生ニ毎年夏季三週間以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

主計候補生及本令施行ノ際現ニ在學中ノ陸軍經理學校學生ノ教育ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

陸軍經理學校條例中生徒隊長及生徒隊附中少尉ニ關スル規定ハ前項ノ主計候補生ノ教育ニ必要ナル間仍效力ヲ有ス

附　則（大正十五年勅令第三百三十六號）

本令ハ大正十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學中ノ學生ノ教育ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●衛戍條例

（明治四十三年三月十九日勅令第二十六號）
改正　大正九年第二三三號、一二年第一五號

朕衛戍條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

衛戍條例

第一條　陸軍軍隊ノ永久一地ニ駐屯スルヲ衛戍ト稱シ當該軍隊ニ於テ其ノ地ノ警備及陸軍ノ秩序軍紀風紀ノ監視竝陸軍ニ屬スル建築物等ノ保護ニ任ス

第二條　衛戍勤務ハ東京ニ在リテハ先任師團長、要塞所在地（要塞司令部所在地ヲ除ク）ニ在リテハ要塞司令官、其ノ他ニ在リテハ其ノ地駐屯團隊（憲兵隊ヲ除ク）ノ高級團隊長（朝鮮軍司令官及臺灣軍司令官ヲ除ク）衛戍司令官ト爲リ之ヲ管轄スルモノトス

要塞所在地ニ於テ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ其ノ地所管ノ師團長便宜處置スルコトヲ得

第三條　衛戍勤務執行ノ區域ハ衛戍司令官之ヲ定メ其ノ區域ヲ衛戍地ト稱シ其ノ地名ヲ冠シテ某衛戍地ト謂フ

衛戍勤務ニ關シ師團長ハ師管內（朝鮮ニ在リテハ軍司令官ノ定ムル區域內）ノ各衛戍司令官（東京衛戍司令官ヲ除ク）ヲ、臺灣守備隊司令官ハ其ノ守備區域內ノ各衛戍司令官（要塞司令官ニシテ衛戍司令官タルモノヲ除ク）ヲ、臺灣軍司令官ハ臺灣ニ在ル各衛戍司令官（臺灣守備隊司令官ノ監督ヲ受クルモノヲ除ク）ヲ監督シ朝鮮軍司令官ハ第十九、第二十師團長ヲ、臺灣軍司令官ハ臺灣守備隊司令官ヲ統督ス

第四條　團隊長又ハ要塞司令官ニシテ衛戍司令官ナルトキハ其ノ部隊ノ副官ハ衛戍副官ヲ兼ヌルモノトス

第五條　衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シテハ其ノ地駐屯ノ軍隊（憲兵隊ヲ除ク）ヲ指揮シ衛兵ノ部署及其ノ編成ヲ定ム但シ衛戍勤務ハ近衛師團ノ禁闕守衛勤務ヲ妨クルコトナシ

第六條　衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムルトキハ其ノ管轄ニ屬セサル軍隊ト雖其ノ衛戍地ニ在ルモノニ對シ援助ヲ請求シ又ハ憲兵ヲシテ地方ノ狀況ヲ報告セシメ且緊急ノ場合ニハ直ニ之ニ命令スルコトヲ得

第七條　前條ノ請求ヲ受ケタル團隊長ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　衛戍地ニ在ル軍隊ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セサルモノト雖衛戍司令官ノ定メタル衛戍ニ關スル諸規則ヲ遵守スヘキモノトス

第九條　衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際治安維持ニ關スル處置ニ付テハ當該地方官ト協議スルモノトス

衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際地方官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得

其ノ事地方官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

第十條　衛戍司令官ハ豫メ災害又ハ非常ノ際陸軍ニ屬スル諸建築物其ノ他ノ物件ノ救防及警戒ニ關スル處置ヲ規定シ置クヘシ皇族邸宅、官衙、公署等ノ救防及警戒ニ關シ必要アルトキ亦同シ

東京衛戍司令官ハ前項ノ事項ニシテ宮闕ニ關聯スルモノハ近衛師團長ト協議スヘシ

第十一條　軍隊ハ衛戍地外ニ在ルトキト雖其ノ任務ニ妨ナキ限リ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

第十二條　關東州及南滿洲ニ在ル軍隊ハ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●衛戍勤務令（明治四十三年三月十九日軍令陸第三號）

改正　大正五年第五號、九年第一一號、一〇年第五號、一一年第四號

朕衛戍勤務令ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

衛戍勤務令

第一章　總則

第一　衛戍勤務ハ本令及衛戍條例ニ依リテ之ヲ行フ

第二　本令ニ於テ師團長ト稱スルハ臺灣軍司令官及臺灣守備隊司令官ヲ含ム

第二ノ二　朝鮮ニ在ル師團長若ハ臺灣守備隊司令官ノ統轄スル衛戍司令官ノ兵力ノ使用、衛戍勤務執行ノ區域及兵器ノ使用ニ關スル報告ハ第七、第八及第十二ニ依ルノ外朝鮮軍司令官若ハ臺灣軍司令官ニ報告シ又ハ同官ヲ經ヘキモノトス

第二章　衛戍司令官ノ職務

第三　衛戍司令官ハ衛兵ヲ以テ警備スヘキ官衙學校倉庫等並衛兵ニ充ツヘキ部隊、衛兵ノ編成、哨所ノ箇所、守則、服務時間及報告等ニ關スル事柄ヲ定ムヘシ

第四　衛戍司令官ハ巡察ヲ出スヘキ兵科、部隊、巡察ノ人員、日時及地域ニ關スル事柄ヲ定ムヘシ

第五　衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シ衛戍地ニ在ル諸部隊ノ長官ニ對シ移牒、命令、訓示ヲ發シ所要ノ通報、報告ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ內務ニ及フコトナシ

第六　衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關スル規定中必要ナル事柄ハ地方官及憲兵ニ通報スヘシ

第七　衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際ニ方リ兵力ヲ用キムトスルトキ若ハ用キタルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ之ト同時ニ當該師團長ニ報告スヘシ

第八　衛戍勤務執行ノ區域ハ衛戍司令官之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ當該師團長ヲ經ヘキモノトス

第九　衛戍司令官ハ衛兵所備付物品ノ品目員數ヲ定ムヘシ

第十　軍港又ハ要港所在地ノ衛戍司令官ハ職務ノ執行ニ關シ海軍ニ關聯スル事柄ハ豫メ海軍官憲ト協議スヘシ

第三章　衛戍勤務

第一款　通則

第十一　衛戍勤務ハ主トシテ衛戍衛兵及衛戍巡察ヲ以テ之ヲ行フ

衛戍勤務ニ服スル者ハ其必要ニ應シ步、騎、砲、工、輜重兵科ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第十二　衛戍勤務ニ服スル者ハ左ニ記スル場合ニ非サレハ兵器ヲ用ユルコトヲ得ス

一　暴行ヲ受ケ自衛ノ爲止ムヲ得サルトキ

一　多衆聚合シテ暴行ヲ爲スニ當リ兵器ヲ用ユルニ非サレハ鎭壓スルノ手段ナキトキ

一　人及土地其他ノ物件ヲ防衛スルニ兵器ヲ用ユルニ非サレハ他ニ手段ナキトキ

衛戍勤務ニ服スル者兵器ヲ用キタルトキハ直ニ衛戍司令官ニ報告シ衛戍司令官ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ之ト同時ニ當該師團長ニ報告スヘシ

第十三　衛戍勤務ニ服スル者ハ其任務ニ妨ナキ限リ左ニ掲クル者ヲ逮捕スルコトヲ得又軍人外ノ犯罪者ト雖之カ逮捕ノ爲憲兵又ハ警察官ヨリ援助ノ請求アルトキハ之ニ應スルコトヲ得但シ衛兵司令及其衛兵ノ約半數ハ何レノ場合ニ於テモ衛兵所ヲ離ルルコトヲ許サス

一　暴行、殺人、逃亡、放火、賭博、强盜、竊盜等ノ現行犯人

一　營內居住ノ下士兵卒勤務ニ依ラス又ハ規定ニ反シテ營外ニ在ル者

總テ逮捕シタル者ハ軍人軍屬又ハ常人タルトニ依リ成ルヘク速ニ憲兵、警察官又ハ所屬部隊ニ引渡スヘシ

第十四　衛兵司令及巡察勤務ニ服スル者ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ現行犯人ニ非スト雖所屬軍人軍屬ノ現行犯ヲ認ムルトキハ其氏名所屬部隊ヲ尋問シ必要アルトキハ憲兵又ハ所屬部隊ニ引渡スヘシ

第二款　衛戍衛兵

第十五　衛戍衛兵ハ其警備スル官衙等ノ名稱ヲ冠シ某衛戍衛兵ト稱ス

第十六　衛戍衛兵ノ服務ハ通常二十四時間トシ一哨所ニ兵卒三名ヲ充テ單哨ニシテ概ネ一時間每ニ交代スルモノトス但シ衛戍司令官ハ必要ニ應シ其兵數ヲ增加シ哨所ノ數ヲ增シ又ハ複哨、下士哨トナスコトヲ得

第十七　衛戍司令官ハ衛戍衛兵ヲ衛戍地外ニ在ル彈藥庫火藥庫等ニ備フルトキ（分遣衛兵ト稱ス）又ハ警備上其他必要ト認ムルトキハ衛戍衛兵ヲシテ約一週間若ハ必要期間連續服務セシムルコトヲ得

第十八　衛戍衛兵ノ服裝ハ陸軍服裝規則ノ定ムル所ニ依ル

第十九　衛戍衛兵衛兵所ニ在ル間ハ銃及背囊ヲ順序正シク整頓シ置クヘシ敬禮ノ爲整列スルトキ及巡察ノ際ハ背囊ヲ負ハサルモノトス

第二十　衛戍衛兵ハ衛戍司令官ノ指定セル書籍ノ外閲讀スヘカラス又許可ナクシテ衛兵所ヲ離ルヘカラス衛兵司令衛舍ヲ離ルルヲ要スルトキハ代理者ヲ命シ置クヘシ

第二十一　衛戍司令官ハ夜間衛兵ノ三分ノ一ニ衛兵所ニ於テ假眠ヲ許シ又毛布、蚊帳ノ使用ヲ許スコトヲ得

第二十二　衛戍司令官ハ數日間連續服務スル衛戍衛兵ニシテ必要ト認メタルモノニ限リ將校下士ノ內一名上等兵ノ內一名及一二等卒ノ內次回ノ上番タルヘキ者ヲ除クノ外夜間之ニ就眠ヲ、晝間之ニ假眠ヲ許スコトヲ得

前項ノ衛兵所ニ在リテハ寢具ヲ備付クルコトヲ得

第二十三　衛兵所ニハ非常用トシテ實包ヲ備フ但シ其彈藥函ノ鍵ハ衛兵司令之ヲ保管シ衛戍司令官ノ命令アルカ又ハ萬已ムヲ得サルニ非サレハ實包ヲ分配スヘカラス

第二十四　緊急ノ場合ニ備フル爲衛兵所ニハ衛戍司令官、最寄軍隊、憲兵隊、警察署、消防署等ノ所在及之ニ通スル道路ヲ示シタル要圖ヲ備ヘ必要ナル電話番號等ヲ記シ置クヘシ

第二十五　衛兵司令ハ勤務ノ輕重ニ應シ將校、准士官又ハ下士ヲ以テ之ニ充テ衛舍掛步哨掛ハ下士若ハ上等兵ヲ以テ之ニ充ツ

衛兵ノ人員少キトキハ一名ヲシテ衛舍掛步哨掛ヲ兼ネシメ又上等兵ヲ以テ衛兵司令ト爲スコトヲ得

第二十六　衛兵司令ハ衛戍司令官ノ命ヲ承ケ其任務ニ服シ且衛兵所及備付物品ノ清潔保存ノ責ニ任ス

第二十七　衛兵司令ハ步哨ヲ出スヘキ哨所ノ數、巡察若ハ斥候ノ規定、災害又ハ非常ノトキニ於ケル處置、門ノ出入ヲ許スヘキ者及物品持出ニ付テハ豫メ衛戍司令官ノ指示ヲ受クヘキモノトス

第二十八　衛兵交代ノ際下番衛兵ハ通常衛兵所ノ前ニ於テ其左方ニ上番衛兵ノ爲餘地ヲ置キ整列シ兩衛兵ハ部隊相互ノ敬禮ヲ行ヒ下番衛兵司令ハ必要ノ申送ヲ爲シ步哨ノ交代、物件ノ受渡ヲ了ヘタル後再ヒ部隊相互ノ敬禮ヲ行ヒ下番衛兵ハ退場ス

第二十九　衛兵司令ハ衛兵交代後直ニ各哨所ヲ巡視シ步哨ニ其守則ヲ試問スヘシ爾後屢巡察シ步哨ノ勤惰ヲ監視シ非違ヲ戒メ特ニ火災豫防ニ注意スヘシ

第三十　衛兵司令ハ門ノ出入若ハ倉庫ノ開扉等ヲ請フ者アルトキハ自ラ之ヲ檢シ疑ナキコトヲ確認スルニ非サレハ許スヘカラス但シ守衛若ハ守備ニ於テ之ヲ檢スルノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第三十一　衛兵司令ハ門ノ出入多キトキ又ハ倉庫開扉中等必要ト認ムルトキハ一時哨兵ヲ增スヘシ

第三十二　數日間連續服務スル衛戍衛兵ノ司令ハ警備ニ差支ナキ限リ衛兵ヲシテ教練ヲ行ハシムヘシ

第三十三　衛兵司令ハ衛兵中勤務ニ堪ヘ難キ病者ヲ生シ又ハ刑法ニ該ル犯人アリテ交代ヲ要スルトキハ直ニ當該所屬隊ニ交代者ヲ請求スヘシ

第三十四　衛兵司令ハ衛兵所備付物品中修理又ハ交換ヲ要スルモノ及消耗品ハ之ヲ衛兵所所屬ノ官廳ニ請求スヘシ但シ故意又ハ過失ニ依ル破損缺失ニ付テハ始末書ヲ徵シ衛戍司令官ニ差出スヘシ

第三十五　衛兵司令ハ火災及非常ノ際等至急ヲ要スルモノハ即時、其他服務中ノ出來事ハ衛兵交代ノトキ報告表ニ記入シ衛戍司令官ニ報告スヘシ

下番衛兵司令ハ服務中ノ狀態ヲ歸隊ノ後週番司令ニ報告スヘシ

第三十六　衛舍掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ當番卒ヲ指揮シ衛兵所並之ニ屬スル建物等內外ノ清潔保存ニ任シ備付物品ヲ監守シ特ニ火元取締ニ任スヘシ

第三十七　上番衛舍掛ハ衛兵交代ノトキ下番衛舍掛立合ニテ衛兵所哨舍其他諸物品ヲ檢シ之ヲ受領スヘシ若シ破損缺失アルトキハ下番衛舍掛ヨリ其證明書ヲ徵シ之ヲ衛兵司令ニ差出スヘシ

第三十八　步哨掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ步哨ノ交代ヲ掌リ哨舍ノ清潔保存ニ任シ步哨ヲシテ服裝ヲ正フシ守則ヲ熟知シ且嚴密ニ之ヲ實施セシムヘシ

第三十九　衛兵交代ノトキ步哨掛ハ上番步哨ヲ率キテ哨所ニ至リ下番步哨ニ向キ合ヒ又ハ之ニ竝ハシメ下番步哨掛立合ニテ守則ノ申繼及其服務中見聞セシ事件ノ傳告ヲ受ケシムヘシ

衛兵交代ノ場合ニ非サル步哨ノ交代モ亦之ニ準ス

第四十　步哨ハ嚴ニ守則ヲ守リ常ニ耳目ヲ働カシ警戒ヲ怠ルヘカラス

第四十一　步哨ハ常ニ姿勢動作ヲ正クシ用務ノ外他人ト談話スヘカラス又頭巾ヲ冠ルコトヲ禁ス

第四十二　步哨ハ雨雪ノトキ哨舍ニ入ルコトヲ得但シ特ニ警戒ヲ要スルトキ又ハ敬禮ヲ行フ際ハ哨舍ヨリ出ツヘシ

第四十三　步哨ハ衛戍勤務ニ關係アル上官及直屬系統ノ團隊長ニ非サレハ之ニ守則ヲ語ルヘカラス

第四十四　步哨ハ特ニ定メラレタル場合ノ外哨所ノ位置ヨリ三十步以外ノ地ニ行動スルコトヲ禁ス

第四十五　步哨ハ衛兵所又ハ鄰リ步哨ニ警報セムトスルトキハ「氣ヲ著ケ」ト呼フヘシ

第四十六　步哨ハ夜間又ハ別命アル場合ヲ除クノ外銃ニ劍ヲ著クヘカラス

第四十七　步哨ノ敬禮ハ哨所ノ位置ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ其位置ニ復スルノ遑ナキトキハ現位置ニ於テ行フモ妨ナシ

衛舍前ニ在ル步哨ハ陸軍禮式ニ依リ衛兵整列ノ敬禮ヲ受クヘキ者來ルトキハ「整列」ト呼フヘシ

第四十八　衛兵ノ勤務ニ關シテハ本款ノ外陣中要務令前哨勤務ノ規定ヲ準用ス

第三款　衛戍巡察

第四十九　衛戍巡察ハ衛兵ノ勤惰ヲ監察シ定メラレタル場所ヲ巡回シ軍人軍屬ノ非違ヲ戒メ又災害若ハ非常ノ際ニ方リテ治安維持ノ爲指定ノ地域ヲ巡視スルモノトス

第五十　衛戍巡察ハ將校又ハ准士官ヲ以テ之ニ充テ必要ニ應シ之ニ下士兵卒ヲ附屬ス

第五十一　衛戍司令官ハ巡察ノ數、種類、日時及巡察スヘキ場所又ハ區域ヲ定ム若シ巡察スヘキ區域廣キトキハ數箇ニ分チ巡察セシム

第五十二　衛戍巡察ヲ分チテ第一種巡察第二種巡察トス

第五十三　第一種巡察ハ主トシテ衛兵ノ勤惰ヲ監察シ兼テ軍人軍屬ノ非違ヲ戒ムルモノトス

第一種巡察ハ通常一週間服務スルモノニシテ每日少クモ一回定メラレタル箇所ヲ巡察ス

第五十四　第二種巡察ハ主トシテ軍人軍屬ノ非違ヲ戒ムルモノニシテ休日其他臨時ニ外出ヲ許シタル場合ニ於テ定メラレタル區域ヲ各隊ヨリ巡察セシムルモノトス

第五十五　衛戍巡察勤務ニ服スル者ノ服裝ハ第十八ニ同シ

第五十六　衛戍巡察ハ衛兵ヲ巡視シ若シ過誤懈怠等ノ所爲アリタルトキハ之ヲ矯正シ其狀況ヲ當該衛兵司令ニ通告スヘシ

衛戍巡察ハ衛兵ヲ整列セシメ之ヲ檢査スルコトヲ得但シ衛兵司令ニシテ衛戍巡察ヨリ上級ナルトキハ次級ノ者其整列ノ指揮ヲ執ルモノトス

第五十七　衛戍巡察ハ必要ト認メタルトキハ定メラレタル地域外ト雖巡視スヘキモノトス

第五十八　衛戍巡察ハ軍人軍屬ノ非違ヲ認メタルトキ下級者ニ在リテハ直ニ之ヲ矯正シ必要アルトキハ其違反者ヲ最寄憲兵若ハ所屬部隊ニ引渡シ上級者ニ在リテハ其非違ノ行爲ナルコトヲ進言シ官職氏名ヲ聞キ取リ其顚末ヲ衛戍司令官ニ報告スヘシ

第五十九　衛戍巡察ハ其巡察中ノ出來事ニシテ至急ヲ要スルモノハ即時其他ハ勤務ヲ終リタル後衛戍司令官ニ報告スヘシ

第六十　衛戍勤務ニ服スル者ノ直屬系統ノ團隊長ハ部下服務ノ狀態ヲ監視スル爲時々巡視スヘシ

前項ノ巡視ヲ爲シタルトキ必要ト認メタル事柄ハ之ヲ衛戍司令官ニ報告スヘシ

第六十一　軍隊內務書ノ規定ニ依リ各隊ヨリ出シタル巡察ハ第二種巡察ニ屬ス

第四款　暗號

第六十二　暗號ハ特別ノ場合ニ於テ夜間之ヲ用ユルモノトス

第六十三　衛戍司令官ハ暗號及之ヲ用ユルノ時機並其傳達方ヲ定ムヘシ

第六十四　暗號ヲ用ユルトキ步哨、巡察等ノ問查法ハ陣中要務令前哨勤務ノ規定ヲ準用スヘシ

第五款　削除

第六十五　削除

第六十六　削除

第四章　雜則

第六十七　現役軍人ハ當該衛戍地外ニ居住スルコトヲ得ス但シ衛戍司令官必要ニ應シ衛戍地外ノ居住ヲ許可スルコトヲ得

第六十八　衛戍司令官ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外儀式、禮式、祭典等ノ爲軍隊及軍人軍屬集合スルトキ其集合所ヲ指定シ且靜肅及秩序ヲ維持スル爲必要ノ處置ヲ爲スヘシ

第六十九　衛戍司令官ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外儀式、禮式、祭典等ノ爲出場スヘキ軍隊、軍人及制服ヲ著スヘキ軍屬ノ服裝ヲ定ムヘシ

第七十　衛戍司令官ハ儀式、禮式、祭典等ノ

際ニ於ケル儀仗兵、總代及禮砲ニ關シテハ各其規定ニ從ヒ之カ處置ヲ爲スヘシ

第七十一　衞戍司令官ハ必要ニ應シ街路ノ雜沓及危害ヲ避クル爲行軍隊形、行進速度等ヲ制限シ其他所要ノ方法ヲ定メ且風紀ニ害アリト認ムル場所及傳染病流行地域ニ軍人軍屬ノ出入ヲ禁スルコトヲ得

第七十二　衞戍司令官ハ衞戍地及其附近ニ於テ兵器、俘虜、囚人、刑事被告人ノ護送及法廷又ハ死刑執行ノ場所ヲ警衞スル等ノ爲護衞兵ノ請求ヲ受ケタルトキハ衞戍地ノ軍隊ヨリ所要ノ護衞兵ヲ出サシムヘシ

第七十三　衞戍司令官ハ命令及報告等ノ傳達ニ任スル爲衞戍地ノ軍隊ヨリ所要ノ人員ヲ出サシムルコトヲ得

第七十四　一時衞戍地ニ宿營スル軍隊ノ指揮官ハ其目的及豫定日時ヲ衞戍司令官ニ通報シ且衞戍上ニ關スル指示ヲ受クヘシ

第七十五　關東州及南滿洲ニ在ル軍隊ハ本令ニ準シ衞戍勤務ヲ行フヘシ

（附表略ス）

●東京警備司令部令

（大正十二年十一月十五日　勅令第四百八十號）

朕東京警備司令部令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

東京警備司令部令

第一條　東京警備司令官ハ陸軍大將又ハ中將ヲ以テ之ニ親補シ天皇ニ直隸シ帝都及其ノ附近ノ警備ニ任ス

前項警備ノ區域ハ東京市、荏原郡、豐多摩郡、北豐島郡、南足立郡、南葛飾郡、横濱市及橘樹郡トス

東京警備司令官ハ第一項ニ規定スルモノノ外東京衞戍司令官ノ職務ヲ行フ

第二條　東京警備司令官ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣ノ區處ヲ承ク

第三條　東京警備司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

參謀長
參謀
副官
下士、判任文官

第四條　參謀長ハ東京警備司令官ヲ補佐シ事務整理ニ任ス

第五條　參謀及副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第六條　下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ公布ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ施行ス

關東戒嚴司令部條例ハ之ヲ廢止ス

東京衞戍司令官ノ職務ハ之ヲ停止ス

●東京警備司令官及第一師團長ノ職務ノ權限ニ關スル件

（大正十二年十一月十五日　軍令陸第十號）

朕東京警備司令官及第一師團長ノ職務ノ權限ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

東京警備司令官ハ其ノ警備區域ノ警備ニ關シテハ同區域內ニ在ル軍隊ヲ指揮ス

師團司令部條例第四條ノ規定ニ依ル第一師團長ノ職務ハ東京警備司令官ノ警備區域內ニ限リ同司令官之ヲ行フ

附則

本令ハ大正十二年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

●師團司令部條例

（大正二年五月三十一日　軍令陸第三號）
改正　大正八年第五號、一一年第二號

朕師團司令部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

師團司令部條例

第一條　師團長ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ天皇ニ直隸シ部下陸軍諸部隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ統理ス

第二條　師團長ハ其ノ管理ニ係ル各部團隊ノ動員計畫ヲ掌ル

前項ノ外近衞師團長ハ宮闕守衞ノ事ニ任ス

第三條　師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ付其ノ責ニ任ス但シ騎兵、砲兵、工兵、鐵道、電信、航空、氣球、輜重兵隊及自動車隊ノ本科專門ノ事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第四條　師團長ハ防務條例又ハ衞戍條例ニ規定スルモノヲ除クノ外師管內ノ防禦及陸軍ニ屬スル諸建築物ノ保護ニ任ス

第五條　師團長ハ地方長官ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ノ請求ヲ受ケタルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得

其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ陸軍大臣及參謀總長ニ報告シ東京ニ在リテハ東京衞戍總督ニモ報告スヘシ

第六條　疫疾其ノ他非常ノ場合ニ際シ師團長一時其ノ部下軍隊ヲ移動セムトスルニ當リ急ヲ要スルトキハ之ヲ實行シタル後前條ニ準シ報告スヘシ

第七條　師團長ハ其ノ師管內ニ在ル陸軍諸部隊ノ軍紀風紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス但シ近衞師團諸部隊ニ於ケル軍紀風紀ハ近衞師團長之ヲ統監スルモノトス

第八條　師團長ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、動員計畫及作戰計畫ニ關シテハ參謀總長、教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク

第九條　師團長ハ騎兵、砲兵、工兵、鐵道、電信、航空、氣球、輜重兵隊及自動車隊ノ本科專門ノ事項ニ付意見アルトキハ之ヲ當該兵監又ハ陸軍航空部長ニ告知スルコトヲ得

第十條　師團長ハ隨時部下諸部隊ヲ檢閱シ每年概ネ軍隊教育期ノ終ニ於テ檢閱ノ實況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣、參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第十一條　前諸條中師管ニ係ル事項及第九條ハ近衞師團長ニ之ヲ適用セス

第十二條　師團司令部ニ左ノ各部ヲ置ク

一　參謀部
二　副官部
三　兵器部
四　經理部
五　軍醫部
六　獸醫部
七　【法官部】

參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス

兵器部、經理部、軍醫部、獸醫部及【法官部】ノ組織權限ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十三條　參謀長ハ師團長ヲ補佐シ師團長ニ對シテ事務整理ノ責ニ任ス

第十四條　幕僚ノ各將校ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ各自擔任ノ事務ヲ掌ル

第十五條　下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十六條　各部長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事項ハ豫メ參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ承クヘキモノトス

附則

本令ハ大正七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅團司令部條例

（明治四十一年一月二十九日　軍令陸第一號）
改正　大正四年第二號、一三年第四號

朕旅團司令部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

旅團司令部條例

第一條　旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下軍隊ヲ統率ス

第二條　旅團長ハ部下各隊ノ教育進步ノ齊一ヲ圖リ軍紀、風紀、內務、經理、衞生及動員計畫ヲ統監ス

第三條　削除

第四條　削除

第五條　副官ハ旅團長ノ命ヲ承ケ司令部一般ノ事務ニ從事シ且司令部ノ經理事務ヲ掌ル

第六條　書記ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

●聯隊區司令部令

（大正十二年五月二十四日　勅令第二百六十七號）

朕聯隊區司令部令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

聯隊區司令部令

第一條　各聯隊區ニ聯隊區司令部ヲ置ク

第二條　聯隊區司令部ハ師團長ノ管理ニ屬シ當該聯隊區內ニ於ケル左ニ揭クル事務ヲ掌ル

一　徵兵及召募ニ關スル事務
二　在鄉軍人ノ服役及召集ニ關スル事務
三　在鄉將校團ニ關スル事務
四　在鄉軍人會ニ關スル事務

第三條　聯隊區司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

司令官
部員
副官
下士、判任文官

前項職員中下士ハ豫備役又ハ後備役ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條　司令官ハ師團長ニ隸シ部務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條　部員及副官ハ司令官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條　下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮軍司令部條例

（大正七年五月三十一日　軍令陸第四號）
改正　大正八年第二〇號

朕朝鮮駐劄軍司令部條例ヲ朝鮮軍司令部條例ニ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

朝鮮軍司令部條例

第一條　朝鮮軍司令官ハ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ　天皇ニ直隸シ朝鮮ニ在ル陸軍諸部隊（朝鮮憲兵隊ヲ除ク）ヲ統率シ朝鮮ノ防衞ニ任ス

第二條　軍司令官ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ參謀總長、教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク

第三條　軍司令官ハ朝鮮總督ヨリ安寧秩序ヲ保持スル爲出兵ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ得但シ事急ニシテ朝鮮總督ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ陸軍大臣及參謀總長ニ報告スヘシ

第四條　軍司令官ハ隨時部下諸部隊ヲ檢閱シ每年概ネ軍隊教育期ノ終ニ於テ軍事一般ノ景況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣、參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第五條　朝鮮軍司令部ニ左ノ各部ヲ置ク

一　參謀部
二　副官部
三　經理部
四　軍醫部
五　獸醫部
六　法官部

參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス

經理部、軍醫部、獸醫部及法官部ノ組織權限ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六條　參謀長ハ軍司令官ヲ補佐シ機務ニ參畫シ命令ノ普及竝實施ヲ監督シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル

第八條　下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第九條　各部長ヨリ軍司令官ニ具申スヘキ事項ハ豫メ參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ承クヘキモノトス

附則

本令ハ大正七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣軍司令部條例

（大正八年八月二十日　軍令陸第二十一號）

朕臺灣軍司令部條例ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

臺灣軍司令部條例

第一條　臺灣軍司令官ハ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ　天皇ニ直隸シ臺灣（澎湖列島ヲ含ム以下同シ）ニ在ル陸軍諸部隊（憲兵隊ヲ除ク）ヲ統率シ臺灣ノ防衞ニ任ス

第二條　軍司令官ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ參謀總長、教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク

第三條　軍司令官ハ臺灣總督ヨリ安寧秩序ヲ保持スル爲出兵ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ得但シ事急ニシテ臺灣總督ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ陸軍大臣及參謀總長ニ報告スヘシ

第四條　軍司令官ハ隨時部下諸部隊ヲ檢閱シ每年概ネ軍隊教育期ノ終ニ於テ軍事一般ノ景況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣、參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第五條　臺灣軍司令部ニ左ノ各部ヲ置ク

一　參謀部
二　副官部
三　兵器部
四　經理部
五　軍醫部
六　獸醫部
七　法官部

參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス

兵器部、經理部、軍醫部、獸醫部及法官部ノ組織權限ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六條　參謀長ハ軍司令官ヲ補佐シ機務ニ參畫シ命令ノ普及竝實施ヲ監督シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル

第八條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第九條　各部長ヨリ軍司令官ニ具申スヘキ事項ハ豫メ參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ承クヘキモノトス

附則

本令ハ大正八年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府陸軍部條例ハ之ヲ廢止ス

●臺灣守備隊司令部條例

（明治四十年九月十七日　軍令陸第二號）
改正　大正七年第一四號、八年第二二號、一〇年第四號

朕臺灣守備混成旅團司令部條例ヲ臺灣守備隊司令部條例ニ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

臺灣守備隊司令部條例

第一條　臺灣守備隊司令官ハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ臺灣軍司令官ニ隸シ部下軍隊ヲ統率シ守備區域內ノ警戒及防備ニ任ス

前項守備區域ハ臺灣軍司令官之ヲ定ム

第二條　守備隊司令官ハ部下軍隊ノ動員計畫ヲ監督シ又部下軍隊ノ練成ニ就キ其ノ責ニ任ス

第三條　削除

第四條　削除

第五條　守備隊司令官ハ守備區域內ニ在ル陸軍各部各隊ノ軍紀風紀ヲ統監ス

第六條　守備隊司令官ハ守備區域內ノ靜謐ヲ維持シ陸軍諸建築物ノ保護ニ任ス

守備區域內ノ靜謐ヲ維持スルカ爲地方官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ヲ決行シテ後臺灣軍司令官ニ報告スヘシ其ノ事守備區域外ニ涉ルトキト雖鄰接地方ニシテ當該守備區域ノ團隊長又ハ地方官ヨリ援助ヲ請求スルトキ若ハ猶豫セハ危害ニ陷ルヘキコトヲ察スルトキ亦同シ

第七條　守備隊司令官ハ守備區域內ノ警戒及防備ニ關シ要スレハ其ノ守備區域內ニ駐在スル憲兵隊長及陸軍諸官衙ノ長官又ハ其ノ派出員ニ命令若ハ通報スルモノトス

第八條　守備隊司令官ハ疫疾其ノ他非常ノ場合ニ際シ一時部下軍隊ヲ移轉セシメムトスルトキ急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後臺灣軍司令官ニ報告スヘシ

第九條　守備隊司令官ハ守備區域內ニ在ル海軍官憲ト交通シ必要ニ際シテハ協議シテ事ヲ處スルコトヲ得但シ直ニ之ヲ臺灣軍司令官ニ報告スヘシ

第十條　守備隊司令部ニ司令官ノ外左ノ職員ヲ置ク

副官
下士

第十一條　副官ハ守備隊司令官ノ命ヲ承ケ司令部一般ノ事務ヲ掌ル

第十二條　下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

●關東軍司令部條例

（大正八年四月十二日 軍令陸第十二號）

朕關東軍司令部條例ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

關東軍司令部條例

第一條　關東軍司令官ハ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ　天皇ニ直隷シ關東州及南滿洲ニ在ル陸軍諸部隊ヲ統率シ且關東州ノ防備及南滿洲ニ在ル鐵道線路ノ保護ニ任ス

第二條　軍司令官ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ參謀總長、教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク

第三條　軍司令官ハ關東州ノ防備及鐵道線路ノ保護ヲ行フ爲必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得

軍司令官ハ關東長官ヨリ其ノ管轄區域內ノ安寧秩序ヲ保持スル爲及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル警務上ノ必要ヨリ出兵ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ得但シ事急ニシテ關東長官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

前各項ノ場合ニ於テハ直ニ陸軍大臣及參謀總長ニ報告スヘシ

第四條　軍司令官ハ隨時部下諸部隊ヲ檢閱シ每年概ネ軍隊教育期ノ終ニ於テ軍事一般ノ景況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣、參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第五條　關東軍司令部ニ左ノ各部ヲ置ク

一　參謀部
二　副官部
三　兵器部
四　經理部
五　軍醫部
六　獸醫部
七　法官部

參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス

兵器部、經理部、軍醫部、獸醫部及法官部ノ組織權限ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六條　參謀長ハ軍司令官ヲ補佐シ機務ニ參畫シ命令ノ普及竝實施ヲ監督シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル

第八條　下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第九條　各部長ヨリ軍司令官ニ具申スヘキ事項ハ豫メ參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ承クヘキモノトス

附　則

本令ハ大正八年四月十二日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府陸軍部條例ハ大正八年四月十二日限リ之ヲ廢止ス

●要塞司令部條例

（明治四十一年一月二十九日 軍令陸第二號）
（改正　大正七年第一一號、八年第一五號、第二二號）

朕要塞司令部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

要塞司令部條例

第一條　要塞司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

司令官
參謀
副官
部員
主計
軍醫正、軍醫
准士官、下士、判任文官

要塞ノ位置ニ依リ參謀以下ノ職員中之ヲ置カサルコトヲ得

第二條　司令官ハ要塞所管ノ師團長（臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官、朝鮮ニ在リテハ朝鮮軍司令官、關東州ニ在リテハ關東軍司令官以下同シ）ニ隸シ要塞ノ防禦計畫ヲ擔任シ要塞備附ノ兵器、器具材料及防禦營造物（築城部ノ管理ニ屬スルモノヲ除ク）ヲ管理シ軍需品ノ整備ニ任ス

第三條　司令官ハ重砲兵聯隊長ヲシテ防禦計畫上必要ナル事項ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　司令官ハ必要ニ應シ平時豫メ地方官ト協議シ臨戰若ハ合圍ノ場合ニ於テ軍隊ノ宿營給養及公共ノ保安ニ關シ必要ナル事項ヲ實行スルノ方法ヲ計畫スヘシ

第五條　司令官ハ必要ニ應シ郡市町村長ニ軍需品ニ關スル調査ヲ請求スルコトヲ得

第六條　司令官ハ演習若ハ試驗ノ爲要塞內ニ於テ備砲ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第七條　參謀ハ司令官ノ命ヲ承ケ要塞防禦計畫ニ關スル事項ヲ掌ル

第八條　副官ハ司令官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第九條　部員中砲兵科將校ハ司令官ノ命ヲ承ケ要塞ノ砲兵事業ノ調査ニ從事シ要塞備附ノ兵器、器具材料（守城工兵器具材料ヲ除ク）ノ保管ニ任ス

砲兵科將校ハ要塞ノ備砲工事、要塞司令部所要兵器ノ支給、交換及兵器ノ運搬ニ關シテハ兵器本廠長ノ指揮ヲ承ク

第十條　部員中工兵科將校ハ司令官ノ命ヲ承ケ要塞ノ工兵事業ノ調査ニ從事シ防禦營造物及守城工兵器具材料ノ保管ニ任ス

工兵科將校ハ防禦營造物ノ建築改造及國防用土地ノ管理ニ關シテハ築城部本部長ノ指揮ヲ承ク

第十一條　部員ハ司令官ノ命ヲ承ケ砲臺監守ノ教育ニ任シ又兵器、器具材料及防禦營造物ノ保存其ノ他砲工兵業務上必要ナル事項ヲ其ノ主任ニ從ヒ兵器本廠長若ハ築城部本部長ニ通報ス

第十二條　主計及軍醫正、軍醫ハ司令官ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條　准士官、下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

●陸軍兵器部令

（大正七年五月三十一日 勅令第百七十六號）
（改正　大正八年第九九號、第三九六號、九年第二三五號）

朕陸軍兵器部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍兵器部令

第一條　本令ニ於テ陸軍兵器部ト稱スルハ師團兵器部、臺灣軍兵器部及關東軍兵器部ヲ謂フ

第二條　陸軍兵器部ハ當該師管、臺灣又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊ノ兵器事務ヲ統理ス但シ滿洲駐箚師團ノ兵器事務ハ當該師團兵器部ノ管轄ニ屬ス

前項陸軍部隊ハ陸軍兵器廠、砲兵工廠及要塞司令部ヲ包含セス近衛、第一、第三、第四、第五、第十二、第十九及第二十師團ニ在リテハ當該師團長ニ隸屬スル部隊トス

第三條　陸軍大臣ハ必要ニ應シ前條ノ所管區域ヲ變更スルコトヲ得

第四條　關東軍司令官ハ必要ニ應シ兵器部出張所ヲ置キ兵器部ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五條　陸軍兵器部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
准士官、下士

第六條　兵器部長ハ當該師團長、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸シ部務ヲ掌理シ所管內陸軍部隊ノ兵器事務ヲ監督ス但シ滿洲ニ駐箚スル師團ノ兵器部長ハ駐箚ノ爲必要ナル事項ニ付テハ關東軍兵器部長ノ區處ヲ承ク

第七條　兵器部長ハ師團長、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ノ管理スル兵器（隊長及材料廠長保管ノモノヲ除ク）ノ保管出納ニ任ス

第八條　兵器部長ハ所管內砲工兵諸工長ノ教育ヲ掌理ス

第九條　兵器部長ハ所管長官ノ命ヲ承ケ所管內陸軍部隊ニ於ケル兵器事務、砲工兵諸工長以下ノ教育及保管兵器ヲ查閱ス

第十條　兵器部長ハ兵器ノ運搬竝兵器廠委託兵器及材料ノ貯藏ニ關シテハ兵器本廠長ノ區處ヲ承ク

第十一條　部員ハ兵器部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第十二條　准士官、下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ大正七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍經理部條例

（明治四十一年三月四日 勅令第二十六號）
（改正　大正五年第五八號、八年第九九號、第三九六號、第四一九號、一三年第三四〇號）

朕陸軍經理部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍經理部條例

第一條　本令ニ於テ陸軍經理部ト稱スルハ師團經理部、臺灣軍經理部、朝鮮軍經理部及關東軍經理部ヲ謂フ

第二條　陸軍經理部ハ當該師團長、臺灣軍司令官、朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸屬スル陸軍部隊ノ會計經理ヲ統理ス

第三條　陸軍經理部ハ當該師管、臺灣、朝鮮又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊（陸軍大臣ノ特ニ定ムル部隊ヲ除クモノトシ師管ヲ有セサル師團ノ陸軍經理部ニ在リテハ當該師團長ニ隸屬スル陸軍部隊トス）ノ會計事務ノ監督及陸軍所屬ノ土地建造物ノ經營（國防ニ關スルモノ竝陸軍造兵廠及千住製絨所ニ關スルモノヲ除クモノトシ師管ヲ有セサル師團ノ陸軍經理部ニ在リテハ當該師團長ニ隸屬スル陸軍部隊ニ關スルモノトス）ヲ掌ル

第四條　削除

第五條　削除

第六條　陸軍經理部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
技師
下士、判任文官

第七條　經理部長ハ當該師團長、臺灣軍司令官、朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸シ部務ヲ掌理ス但シ第三條ノ事項ニ關シテハ陸軍大臣ニ直隸ス

前項但書ノ場合ニ於テ其ノ事項所屬長官ニ直接關係ヲ有スルトキハ經理部長ハ之ヲ該長官ニ報告スヘシ

第八條　經理部長ハ必要ニ應シ陸軍經理部ニ派出所ヲ設クルコトヲ得

第九條　經理部長ハ陸軍省經理局長ノ區處ヲ受ケ當該師管、臺灣、朝鮮又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊（師管ヲ有セサル師團ノ陸軍經理部ニ在リテハ當該師團長ニ隸屬スル陸軍部隊）ニ屬スル經理部士官以下ノ人事及教育ヲ掌理ス

第九條ノ二　陸軍大臣ハ必要ニ應シ第二條、第三條又ハ前條ニ規定スル所管區分ヲ變更スルコトヲ得

第十條　朝鮮又ハ滿洲ニ駐箚スル師團ノ經理部長ハ駐箚ノ爲必要ナル事項ニ付テハ朝鮮軍經理部長又ハ關東軍經理部長ノ區處ヲ受ク

第十一條　經理部長ハ所管內陸軍部隊ニ於ケル會計經理ノ檢查ヲ行フ

第十二條　經理部長ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外所管內陸軍部隊ノ廢品處分ヲ承認ス但シ當該長官ニ之ヲ分任スルコトヲ得

第十三條　經理部長ハ必要アルトキハ當該部隊ノ長官又ハ主任官吏ヲシテ會計經理ニ關スル簿表及報告書ヲ提出セシメ又ハ其ノ辯明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　經理部長ハ會計經理ニ關シ必要アルトキハ所管內陸軍部隊ノ經理委員又ハ主任官吏ヲ會同セシムルコトヲ得

第十五條　部員ハ經理部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス

第十六條　技師ハ經理部長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十七條　下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

師團經理部條例及臺灣陸軍經理部條例ハ之ヲ廢止ス

（大正十三年十二月二十日 陸達第四十四號）

陸軍經理部條例第三條及第九條ノ二ニ依ル會計事務ノ監督、土地建造物ノ經營及人事教育ノ掌理ノ所管區分左ノ通定ム

所管	會計事務ノ監督	土地建造物ノ經營	人事教育ノ掌理
近衛師團經理部	第一師管內ニ在ル陸軍部隊（第一師團經理部所管部隊陸軍航空部陸軍補充部陸軍兵器廠陸軍造兵廠及千住製絨所ヲ除ク）所澤屯在部隊	第一師管內ニ在ル陸軍所屬ノ土地建造物（第一師團經理部所管ノモノヲ除ク）所澤屯在部隊使用ノモノ及前橋演習場	第一師管內ニ在ル陸軍部隊（第一師團經理部所管部隊ヲ除ク）所澤屯在部隊
第一師團經理部	當該師團長ニ隸屬スル陸軍部隊及第一師管內ニ在ル陸軍部隊中參謀總長、教育總監ニ隸屬スル部隊	同上部隊ノ使用ノモノ及第一師管內ニ在ル陸軍演習場、練兵場及各兵作業場、富士裾野演習場	當該師團長ニ隸屬スル陸軍部隊及第一師管內ニ在ル陸軍部隊中參謀總長、教育總監ニ隸屬スル部隊

●陸軍軍醫部條例

（明治四十一年三月四日 勅令第二十七號）
（改正　大正八年第九九號、第三九六號）

朕陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍醫部條例

第一條　本令ニ於テ陸軍軍醫部ト稱スルハ師團軍醫部、臺灣軍軍醫部、朝鮮軍軍醫部及關東軍軍醫部ヲ謂フ

第二條　陸軍軍醫部ハ當該師管、臺灣、朝鮮又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊ノ衞生及醫事ヲ統理ス

近衛師團長ニ隸屬スル部隊ノ衞生及醫事ハ當該師團軍醫部之ヲ統理ス

第三條　陸軍大臣ハ必要ニ應シ前條ノ所管區域ヲ變更スルコトヲ得

第四條　陸軍軍醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
下士

第五條　軍醫部長ハ當該師團長、臺灣軍司令官、朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸シ部務ヲ掌理シ所管內陸軍部隊ノ衞生勤務ヲ監督ス

第六條　軍醫部長ハ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ケ所管內衞生部士官以下ノ人事及教育竝衞生材料ニ關スル事項ヲ掌理ス

第七條　朝鮮又ハ滿洲ニ駐箚スル師團ノ軍醫部長ハ駐箚ノ爲必要ナル事項ニ付テハ朝鮮軍軍醫部長又ハ關東軍軍醫部長ノ區處ヲ受ク

第八條　軍醫部長ハ所管長官ノ命ヲ承ケ所管內陸軍部隊ニ於ケル衞生及之ニ關スル教育竝戰用衞生材料等ノ查閱ヲ行フ

第九條　軍醫部長ハ所管內陸軍部隊ノ勤務上必要アル場合ニ於テハ衞生部員ヲシテ其ノ所屬以外ノ部隊ニ就キ勤務ニ服セシムルコトヲ得

第十條　部員ハ軍醫部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス

第十一條　下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣陸軍軍醫部條例ハ之ヲ廢止ス

●陸軍獸醫部條例

（明治四十一年三月四日 勅令第二十八號）
（改正　大正八年第九九號、第三九六號）

朕陸軍獸醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍獸醫部條例

第一條　本令ニ於テ陸軍獸醫部ト稱スルハ師團獸醫部、臺灣軍獸醫部、朝鮮軍獸醫部及關東軍獸醫部ヲ謂フ

第二條　陸軍獸醫部ハ當該師管、臺灣、朝鮮又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊ノ軍馬衞生ヲ統理ス

近衛師團長ニ隸屬スル部隊ノ軍馬衞生ハ當該師團獸醫部之ヲ統理ス

第三條　陸軍大臣ハ必要ニ應シ前條ノ所管區域ヲ變更スルコトヲ得

第四條　陸軍獸醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
下士

第五條　獸醫部長ハ當該師團長、臺灣軍司令官、朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸シ部務ヲ掌理シ所管內陸軍部隊ノ軍馬衞生勤務ヲ監督ス

第六條　獸醫部長ハ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ

受ク所管內獸醫部士官以下ノ人事及敎育竝獸醫材料及蹄鐵ニ關スルコトヲ掌理ス

第七條　朝鮮又ハ滿洲ニ駐劄スル師團ノ獸醫部長ハ駐劄ノ爲必要ナル事項ニ付テハ朝鮮軍獸醫部長又ハ關東軍獸醫部長ノ區處ヲ受ク

第八條　獸醫部長ハ所屬長官ノ命ヲ承ケ所管內陸軍部隊ニ於ケル軍馬衞生及之ニ關スル敎育竝戰用獸醫材料及蹄鐵等ノ査閱ヲ行フ

第九條　獸醫部長ハ所管內陸軍部隊ノ勤務上必要アル場合ニ於テハ獸醫ヲシテ其ノ所屬以外ノ部隊ニ就キ勤務ニ服セシムルコトヲ得

第十條　部員ハ獸醫部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス

第十一條　下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣陸軍獸醫部條例ハ之ヲ廢止ス

●陸軍法務部令

大正十一年三月三十一日　勅令第八十三號

朕陸軍法務部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍法務部令

第一條　本令ニ於テ陸軍法務部ト稱スルハ師團法務部、朝鮮軍法務部、臺灣軍法務部及關東軍法務部ヲ謂フ

第二條　陸軍法務部ハ當該師團長、朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ノ權限ニ屬スル軍事司法ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條　陸軍法務部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員

判任文官

部長及部員ハ陸軍司法事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　法務部長ハ當該師團長、朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸シ部務ヲ掌理シ法律事項ニ付其ノ諮問ニ應ス

第五條　部員ハ法務部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス

第六條　判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍法官部條例ハ之ヲ廢止ス

●衞戍病院令

大正十一年三月二十九日　勅令第五十八號

改正　大正一二年第八五號

朕衞戍病院條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

衞戍病院令

第一條　衞戍病院ハ之ヲ衞戍地ニ置ク

衞戍病院ハ其ノ衞戍地名ヲ冠稱ス

第二條　衞戍病院ハ其ノ所在地ノ陸軍部隊ノ患者ヲ收容治療シ衞生材料ヲ保管供給シ衞生試驗ヲ爲シ衞生部下士以下ノ敎育ヲ掌ル

第三條　衞戍病院ハ前條ノ外陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ特ニ必要ト認ムル患者ヲ收容治療スルコトヲ得

第四條　東京衞戍地ニハ衞戍病院二箇ヲ置キ東京第一衞戍病院、東京第二衞戍病院ト稱ス其ノ各病院ノ患者收容區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五條　衞戍地ノ狀況及治療上ノ必要ニ依リ衞戍病院ニ分院又ハ轉地療養所ヲ設クルコトヲ得其ノ設置、位置、名稱及患者收容區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ朝鮮、臺灣又ハ滿洲ニ在リテハ朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官之ヲ定ム

第六條　衞戍病院（朝鮮、臺灣及滿洲所在ノモノヲ除ク）ハ之ヲ三等ニ區分ス

第七條　衞戍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

病院長

軍醫正、軍醫

藥劑正、藥劑官

看護官

主計

准士官、下士

看護婦長

前項ノ職員中軍醫正、藥劑正、藥劑官、看護官、主計、准士官又ハ看護婦長ハ之ヲ置カサルコトヲ得

衞戍病院ニ看護卒、補助看護卒及磨工卒ヲ置ク

第八條　衞戍病院所在地ノ部隊附衞生部員ハ之ヲシテ病院ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

第九條　病院長ハ衞戍病院所在地高級團隊長（東京ニ在リテハ第一師團長、習志野ニ在リテハ騎兵第二旅團長、要塞所在地ニ在リテハ要塞司令官、龍山ニ在リテハ第二十師團長、滿洲ニ在リテハ關東軍司令官）ニ隸シテ院務ヲ掌理シ院內ノ診斷、治療、衞生、軍紀、風紀、敎育、經理竝所在地各部隊ノ衞生材料ノ整理及衞生試驗ノ責ニ任ス但シ衞生勤務ニ關シテハ所管軍醫部長ノ監督ヲ受ク

第十條　軍醫正、軍醫、藥劑正、藥劑官、看護官及主計ハ病院長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル第八條ノ規定ニ依リ病院勤務ニ服スル者亦同シ

第十一條　准士官及下士ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　看護婦長ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ服務ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●憲兵條例

明治三十一年十一月三十日　勅令第三百三十七號

改正　明治三三年第二五〇號、三四年第二九號、三五年第二一三號、三六年第五八號、三八年第二一三號、三九年第二七八號、四〇年第三二二號、大正二年第二五七號、八年第一〇〇號、第三九七號、一一年第二五三號、一四年第一五號

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務、陸軍、海軍、司法大臣副署）

憲兵條例

第一章　總則

第一條　憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察、司法警察ヲ掌ル

第二條　憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ付軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣、行政警察ニ係ルモノハ內務大臣、司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ノ指揮ヲ承ク朝鮮ニ於ケル軍事警察ニ係ルモノハ朝鮮軍司令官、臺灣ニ於ケル軍事警察ニ係ルモノハ臺灣軍司令官、南滿洲ニ於ケル軍事警察ニ係ルモノハ關東軍司令官、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、南滿洲ニ在リテハ關東長官ノ指揮ヲ承ク

第三條　憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ警視總監、北海道廳長官、府縣知事（東京府知事ヲ除ク）檢事、朝鮮總督府道知事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府州知事、同廳長、同法院檢察官、關東廳民政署長及同法院檢察官ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ要塞地帶及關東州防禦營造物地帶ニ關スル法令ノ施行ニ付テハ要塞司令官又ハ其ノ職務ヲ行フ官廳、軍港要港規則及旅順港規則ノ施行ニ付テハ鎭守府司令長官若ハ要港部司令官又ハ鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ノ職務ヲ行フ官廳ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ朝鮮ニ在リテハ師團長（師團長アラサル地ニ在リテハ其ノ地所在ノ高級軍隊長）臺灣ニ在リテハ臺灣守備隊司令官（司令官アラサル地ニ在リテハ守備隊長）南滿洲ニ在リテハ師團長（師團長アラサル地ニ在リテハ其ノ地駐劄ノ高級軍隊長）ノ指示ヲ承ク

第四條　憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條　憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一　暴行ヲ受クルトキ

二　其ノ占守スル土地若ハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衞スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抵抗ニ勝ツ能ハサルトキ

第二章　配置、職員

第六條　憲兵司令部ハ之ヲ東京ニ置キ朝鮮憲兵隊司令部ハ之ヲ京城ニ置ク

各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

憲兵隊管區ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第七條　各憲兵隊ハ之ヲ本部及分隊ニ分ツ

各憲兵隊本部ノ位置竝分隊ノ配置及管區ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮軍司令官、臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官、南滿洲ニ在リテハ關東軍司令官之ヲ定ム

第八條　憲兵司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵司令官

憲兵司令部附佐尉官

憲兵副官

憲兵下士

朝鮮憲兵隊司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊司令官

憲兵隊副官

憲兵隊司令部附佐尉官

憲兵下士

憲兵隊ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊長

憲兵隊副官

憲兵分隊長

憲兵隊附尉官

憲兵准士官、下士、上等兵

憲兵司令部、朝鮮憲兵隊司令部及憲兵隊ニハ經理部衞生部獸醫部士官准士官下士及判任文官ヲ附スルコトヲ得

第九條　陸軍大臣、朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官及關東軍司令官ハ必要ニ際シ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得

第三章　職務

第十條　憲兵司令官ハ憲兵諸部隊ヲ統轄シ憲兵司令部ノ事務ヲ總理ス

第十一條　憲兵司令官ハ憲兵諸部隊ノ軍紀、風紀、訓練、敎育及職務履行ヲ檢閱スヘシ

第十一條ノ二　朝鮮憲兵隊司令官ハ憲兵司令官ニ隸シ朝鮮ニ於ケル憲兵隊ヲ統轄シ朝鮮憲兵隊司令部ノ事務ヲ總理ス

第十二條　憲兵隊長ハ部下分隊ヲ統轄シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ掌理ス

第十三條　憲兵司令部附佐尉官及朝鮮憲兵隊司令部附佐尉官ハ當該司令官ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス

第十四條　憲兵副官及朝鮮憲兵隊副官ハ當該司令官、憲兵隊副官ハ當該隊長ノ命ヲ承ケ各部內ノ事務ニ服ス

第十五條　憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス

第十六條　憲兵隊附尉官ハ隊長ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス

第十七條　憲兵准士官、下士及上等兵ハ上官ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス

第十八條　朝鮮ニ於ケル憲兵隊ニハ憲兵補ヲ附スルコトヲ得憲兵補ノ待遇ハ其ノ職務ニ應シ憲兵下士、上等兵又ハ陸軍一二等卒ニ準ス

第十九條　憲兵ノ服務ニ係ル規定ハ各主管大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ於ケル軍事警察ニ係ルモノハ朝鮮軍司令官、臺灣ニ於ケル軍事警察ニ係ルモノハ臺灣軍司令官、南滿洲ニ於ケル軍事警察ニ係ルモノハ關東軍司令官、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、南滿洲ニ在リテハ關東長官之ヲ定ム

第二十條　憲兵補ニ關スル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

第二十一條　當分ノ內憲兵准士官以下ハ豫備役、後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二十二條　削除

第二十三條　本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス

●憲兵練習所令

大正九年八月九日　勅令第二百四十號

改正　大正十四年第一六號

朕憲兵練習所條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

憲兵練習所令

第一條　憲兵練習所ハ憲兵科士官ト爲スヘキ學生ヲ敎育シ憲兵科下士及上等兵タル學生ニ憲兵ノ本務ニ關スル學術ヲ修得セシムル所トス

第二條　學生ノ敎育綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ憲兵司令官之ヲ定ム

第三條　憲兵練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

副官

敎官

主計

軍醫

下士、判任文官

第四條　所長ハ憲兵司令官ニ隸シ所務ヲ總理ス

第五條　副官ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條　敎官ハ所長ノ命ヲ承ケ各科目ノ敎授ヲ擔任ス

第七條　主計及軍醫ハ所長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第八條　下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條　學生ハ左ノ三種ニ之ヲ區別ス

甲種學生

乙種學生

丙種學生

第十條　甲種學生ハ陸軍補充令第十四條ニ規定スル憲兵科士官候補者ヲ以テ之ニ充ツ

乙種學生ハ陸軍補充令第十四條ノ二ニ規定スル憲兵科少尉候補者ヲ以テ之ニ充ツ

丙種學生ハ憲兵下士及憲兵下士ノ候補者タル憲兵上等兵ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　甲種及丙種學生ノ修業期間ハ十月トシ九月ヨリ翌年六月ニ至ル

乙種學生ノ修業期間ハ一年トシ七月ヨリ翌年六月ニ至ル

第十二條　丙種學生ノ人員及入學期日ハ憲兵司令官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮憲兵隊司令官又ハ憲兵隊長ニ之ヲ告達ス

第十三條　丙種學生分遣ノ告達アリタルトキハ朝鮮憲兵隊司令官又ハ憲兵隊長ハ修業ニ適當ナル者ヲ選定シ入學期日十五日前迄ニ其ノ官等級氏名表ニ其ノ考科表寫（上等兵ニ在リテハ身上明細書）ヲ添ヘ憲兵司令官ニ之ヲ送付スヘシ

第十四條　學生ハ所外ニ居住セシム但シ時宜ニ依リ所內ニ宿泊セシムルコトヲ得

下士上等兵ノ兵器及被服ハ所屬隊ヨリ之ヲ携行セシム

學生ノ修業ニ要スル兵器、圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第十五條　學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ所長ノ管理ニ屬ス

第十六條　學生ハ情願ヲ以テ退學スルコトヲ得ス

第十七條　學生中學生タルニ適セサル者アルトキハ所長其ノ事由ヲ具シ憲兵司令官ニ上申シ甲種及乙種學生ニ在リテハ憲兵司令官之ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ退學セシメ丙種學生ニ在リテハ憲兵司令官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ退學セシム

第十八條　學生卒業ノ期ニ至リタルトキハ所長ハ考科列序ヲ定メ憲兵司令官ヲ經テ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ所長原所管部隊ニ之ヲ歸還セシム

第十九條　憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ臨時ニ憲兵將校以下ヲ本所ニ召集シ所要ノ期間之ニ必要ナル學術ヲ修メシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年入學セシムヘキ乙種學生ニ在リテハ大正九年十二月入學セシム

●各兵科ノ者ヲシテ憲兵ノ勤務ヲ補助セシムルノ件

大正十二年十月十一日　勅令第四百四十一號

朕各兵科ノ者ヲシテ憲兵ノ勤務ヲ補助セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、海軍、陸軍、司法大臣副署）

第一條　陸軍大臣又ハ軍司令官ハ各兵科（憲兵科ヲ除ク）ノ者ニ補助憲兵ヲ命スルコトヲ得

師團長（交通斷絕等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ在リテハ最高部隊長）ハ憲兵司令官、朝鮮憲兵隊司令官、憲兵隊長、（交通斷絕等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ在リテハ憲兵分隊長）ヨリ請求ヲ受ケ之ヲ必要ト認ムルトキ亦前項ニ同シ

前項ノ場合ニ在リテハ直ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二條　補助憲兵ハ憲兵司令官、朝鮮憲兵隊司令官、憲兵隊長又ハ憲兵分隊長ノ指揮ニ屬シ憲兵ノ勤務ヲ補助スルモノトス

補助憲兵ニ付テハ憲兵條例ヲ準用ス

第三條　補助憲兵ノ服裝ハ當該兵科ノモノニ異ルコトナシ但シ白地ニ赤色ヲ以テ「憲兵」ノ二字ヲ記シタル腕章ヲ左腕ニ纏フ必要ニ應シ憲兵ノ携帶スル兵器ニ準スルモノヲ携帶セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年勅令第二百八號ハ之ヲ廢止ス

●憲兵補規程

（大正八年八月二十日陸軍省令第二十六號）
（改正　大正九年第二二號、一四年第二號）

憲兵補規程左ノ通定ム

憲兵補規程

第一章　總則

第一條　憲兵補ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ勤務ニ服ス

第二條　本規程施行ニ關スル細則ハ憲兵司令官之ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二章　採用、服務

第三條　憲兵補ハ朝鮮人ニシテ憲兵補志願者中左ノ各號ニ該當スル者ヨリ之ヲ採用ス

一　年齡二十歲以上三十五歲以下ナル者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
三　素行善良ニシテ志操確實ナル者
四　身長五尺一寸以上ニシテ身體强健ナル者
五　普通學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

第四條　憲兵補ハ採用後三月間勤務ニ必要ナル學術科ヲ修習セシメタル後實務ニ就カシムルモノトス但シ進步ノ程度ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

第五條　憲兵補ノ服務期間ハ採用ノ日ヨリ其ノ年ノ翌翌年三月三十一日迄トス但シ本人ノ志願ニ依リ滿期後更ニ年限ヲ定メ四十五歲ニ至ル迄繼續服務セシムルコトヲ得

第六條　憲兵補ハ服務年限內ト雖傷痍疾病非行其ノ他官ノ都合ニ因リ解免スルコトヲ得

第三章　身分、階級

第七條　憲兵補ノ身分ハ軍屬トス

第八條　憲兵補ノ階級竝身分取扱左ノ如シ

階級	身分取扱
監督憲兵補	憲兵曹長ニ準ス
上等憲兵補	憲兵軍曹ニ準ス
一等憲兵補	憲兵伍長ニ準ス
二等憲兵補	憲兵上等兵ニ準ス
三等憲兵補	陸軍一等卒ニ準ス
四等憲兵補	陸軍二等卒ニ準ス

第四章　進級

第九條　憲兵補ノ進級ハ總テ拔擢ニ依リ級ヲ追ヒ進級セシム

第十條　憲兵補ハ左ノ實務停年ヲ超エタル者ニ非サレハ進級セシムルコトヲ得ス但シ憲兵補教習中ノ期間ハ實務停年ニ算入セス

四等憲兵補	六月
三等憲兵補	六月
二等憲兵補	一年
一等憲兵補	一年
上等憲兵補	二年

第十一條　憲兵補ハ當初四等憲兵補ニ採用ス

但シ經歷及技能ニ依リ三等以上ノ憲兵補ニ採用スルコトヲ得

第十二條　憲兵補進級ノ手續ハ陸軍下士卒進級ノ手續ニ準ス

第五章　服制

第十三條　憲兵補ノ服制ハ其ノ階級ニ應シ憲兵下士以下ノ服制（三等憲兵補ハ陸軍一等卒、四等憲兵補ハ陸軍二等卒ノ肩章ヲ附ス）ニ準シ凡朝鮮軍人ト同樣ノ襟部徽章ヲ附ス

第六章　給與

第十四條　憲兵補ノ給與ハ本令ニ規定スルモノノ外左ノ區分ニ依リ陸軍軍人ニ係ル朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令及朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令細則ノ規定ヲ準用ス但シ初任手當及在勤加俸ハ之ヲ給セス又通譯加俸ハ國語及外國語ノ通譯ヲ命シタル者ニ限リ之ヲ給ス

監督憲兵補ハ	憲兵曹長
上等憲兵補ハ	憲兵軍曹
一等憲兵補ハ	憲兵伍長
二等憲兵補以下ハ	憲兵上等兵

三等憲兵補ノ給料ハ憲兵上等兵ノ給料（二等）ヨリ月額二圓ヲ、四等憲兵補ノ給料ハ同四圓ヲ、教習中ノ者ノ給料ハ同十圓ヲ減シタル額トス

第十五條　憲兵補ハ營外居住トス

憲兵補ニハ必要ニ應シ宿舍及家具ヲ貸與ス

此ノ場合ニハ宅料ヲ給セス

第十六條　憲兵補ニハ別表ノ區分ニ依リ被服ヲ支給シ又ハ貸與ス

第十七條　憲兵補公務旅行ノ場合ニハ旅費ヲ給ス其ノ定額ハ陸軍旅費規則ノ定額內ニ於テ憲兵司令官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ憲兵補助員ノ職ニ在ル者ニシテ憲兵補ニ採用セラレタル者ノ階級及給料等級區分左ノ如シ

	階級	給料等級區分
特別給監督補助員	上等憲兵補	憲兵軍曹三等給
一等給及二等給監督補助員特別給補助員	上等憲兵補	憲兵軍曹四等給
三等給監督補助員一等給及二等給補助員	一等憲兵補	憲兵伍長一等給
四等給以下監督補助員三等給補助員	一等憲兵補	憲兵伍長二等給
四等給補助員	二等憲兵補	
五等給補助員	三等憲兵補	
六等給、七等給補助員	四等憲兵補	

別表

憲兵補被服

區分 品目	員數 監督憲兵補 上等憲兵補 一等憲兵補 二等憲兵補	員數 三等憲兵補 四等憲兵補	給與期限
軍帽	一	一	二年六月
軍衣袴	一	一	四年
夏衣袴	一	一	二年
外套	一	一	八年
雨覆	一	一	十年
襟布	一	一	四月
冬襦袢袴下	一	一	一年
夏襦袢袴下	一	一	一年
手套	一	一	三月
靴下	一	一	三分ノ二月
編上靴		一	二年
長靴	一		二年
卷脚絆		一	一年六月
雜囊	一	一	六年
飯盒	一	一	二十年
水筒	一	一	二十三年
備考	一、軍衣袴及外套ニハ別ニ肩章一組ヲ添附ス 二、本表ノ外朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令細則第五表ノ特種被服ヲ貸與スルモノトス		

●陸軍教化隊令

（大正十二年十二月十七日軍令陸第十一號）

朕陸軍教化隊令ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

（陸軍大臣副署）

陸軍教化隊令

第一條　陸軍教化隊ハ陸軍兵卒ニシテ屢刑罰又ハ懲罰ニ處セラルルモ容易ニ改悛ノ狀ナキ者ヲ收容シ之ヲ教導感化スル所トス

前項ノ規定ニ依リ教化隊ニ收容セラレタル者ハ之ヲ教化卒ト稱ス

第二條　陸軍教化隊ハ之ヲ姬路ニ置キ第十師團長ノ管理ニ屬ス

第三條　陸軍教化隊ニ左ノ職員ヲ置ク

隊長
隊附士官
隊附下士

前項ノ職員ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條　陸軍教化隊ニハ隊附トシテ所要ノ兵卒ヲ置ク

第五條　隊附下士ノ槪ネ半數竝前條ノ兵卒ハ各師團ヨリ品行方正勤務勉勵ニシテ能ク其ノ任ニ堪フヘキ才幹アル者ヲ選ヒ派遣ス其ノ任期ハ下士ニ在リテハ一年六月內兵卒ニ在リテハ一年內トシ其ノ派遣ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條　教化卒ハ原隊ノ定員內トス

第七條　隊長ハ第十師團長ニ隸シ隊務ヲ掌理シ教化ノ責ニ任ス

第八條　隊附士官ハ隊長ノ命ヲ承ケ隊務ニ服ス

第九條　隊附下士ハ上官ノ命ヲ承ケ隊務ニ服ス

第十條　教化卒ハ隊長ノ定ムル所ニ依リ適宜之ヲ班ニ分チ各班ニハ隊附將校以下ヲ配屬ス

第十一條　教化卒ハ其ノ屬スル兵科部ニ拘ラス步兵ノ術科ヲ演習セシム但シ必要アル場合ニ於テハ本人ノ屬スル當該兵科部ノ術科ヲ演習セシムルコトヲ得

第十二條　教化卒ハ衛兵ノ勤務ニ服セシメサルモノトス

第十三條　教化卒ニハ兵器ヲ携帶セシメサルモノトス但シ隊長ニ於テ之ヲ携帶セシムルノ必要ヲ認メタル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　教化卒ノ中原隊ニ於テ二等卒又ハ之ト同等級ニ降等セラレタル者ニシテ改悛ノ狀アリ其ノ成績優良ナルモノハ教化隊ニ於テ除隊セシムル者ニ限リ教化隊長之ヲ一等卒又ハ之ト同等級ニ進級セシムルコトヲ得

第十五條　教化卒ノ携有スル金錢ハ教化隊ニ於テ之ヲ保管ス

教化卒ハ隊長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ前項ノ金錢ヲ使用スルコトヲ得ス

第十六條　教化卒ハ外出スルコトヲ許サス但シ隊長ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルトキハ幹部ノ引率ヲ以テ之ヲ外出セシムルコトヲ得

第十七條　教化卒ニハ陸軍軍人休暇規則ニ依ル休暇ヲ與ヘス但シ父母妻子ノ疾病危篤又ハ死亡等事情已ムヲ得サル場合ニ限リ隊長ニ於テ特ニ短期ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第十八條　隊長ハ教化卒中改悛ノ狀顯著ニシテ教化隊ニ置クノ必要ヲ認メサル者アルトキハ之ヲ原隊ニ復歸セシムヘシ

第十九條　教化隊ニ於テ教化スルノ必要アル者ヲ教化隊ニ編入スル場合及教化卒ヲ原隊ニ復歸セシメ又ハ之ヲ除隊セシムル場合ノ手續ニ付テハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十條　教化隊ニハ各教化卒ノ行狀錄ヲ備ヘ賞罰其ノ他ノ狀況ヲ詳錄スヘシ

第二十一條　教化卒ノ教化綱領ハ第十師團長陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第二十二條　教化卒ノ取締ニ關スル細則ハ師團長ノ認可ヲ受ケ隊長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十二年十二月十七日ヨリ之ヲ施行ス

他ノ軍令中懲治隊又ハ懲治卒トアルハ教化隊又ハ教化卒トス

陸軍懲治隊條例ハ之ヲ廢止ス（大正十二年十二月十七日勅令第五百七號）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

他ノ勅令中懲治隊トアルハ教化隊、懲治卒トアルハ教化卒トス

●陸軍監獄官制

（明治四十一年九月二十八日勅令第二百三十七號）
（改正　大正八年第九九號、第三九六號、一一年第九一號、一二年第四七號、一四年第一五四號）

朕陸軍監獄官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

陸軍監獄官制

第一條　陸軍監獄ハ軍法會議所在地（但シ第十二師管ニ在リテハ久留米衛戍地及小倉衛戍地）ニ之ヲ置キ其ノ名稱ハ別表ニ依ル

第一條ノ二　各陸軍監獄ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二條　陸軍監獄ハ師團長（東京ニ在リテハ第一師團長）臺灣軍司令官、朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官之ヲ管理ス

第三條　陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長
陸軍監獄看守長
陸軍監獄看守

第四條　監獄長ハ奏任トシ監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇トス

第五條　監獄長ハ師團長（東京ニ在リテハ第一師團長）臺灣軍司令官、朝鮮軍司令官又ハ關東軍司令官ニ隸シ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第六條　監獄長ハ陸軍懲罰令ノ規定ヲ準用シテ監獄ノ所屬員ヲ懲戒ス

第七條　監獄長事故アルトキハ上席監獄看守長其ノ事務ヲ代理ス

第八條　監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務及戒護ニ從事シ監獄看守ヲ指揮監督ス

第九條　監獄看守ハ上官ノ命ヲ承ケ看守、護送、門衛等ノ事務ニ服ス

監獄看守ノ採用ニ關スル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十條　監獄內ノ衛生事務ハ其ノ地所在ノ部隊附軍醫及看護長ヲシテ之ヲ管掌セシム

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍監獄官官制、明治三十二年勅令第十八號及明治四十年勅令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

陸軍監獄ノ名稱
東京衛戍刑務所
大阪衛戍刑務所
小倉衛戍刑務所
仙臺衛戍拘禁所
名古屋衛戍拘禁所
廣島衛戍拘禁所
熊本衛戍拘禁所
弘前衛戍拘禁所
金澤衛戍拘禁所

旭川衛戍刑務所
朝鮮衛戍刑務所
臺北衛戍刑務所
關東衛戍刑務所
姫路衛戍拘禁所
善通寺衛戍拘禁所
宇都宮衛戍拘禁所
京都衛戍拘禁所
久留米衛戍拘禁所

（大正十二年三月二十四日陸軍省令第八號）

陸軍監獄ノ種類左ノ通定ム

陸軍監獄中衛戍刑務所ニハ懲役監、禁錮監、拘留場及拘置監ヲ置キ衛戍拘禁所ニハ拘留場及拘置監ヲ置ク

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ施行ス

●俘虜收容所條例

（明治三十八年二月三日勅令第二十八號）

朕俘虜收容所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

俘虜收容所條例

第一條　俘虜收容所ハ陸軍ノ管轄ニ屬スル俘虜ノ收容及取締ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條　俘虜收容所ハ必要ニ應シ之ヲ設置ス其ノ位置及開閉ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　俘虜收容所ハ所在地衛戍司令官之ヲ管理シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス

俘虜收容所衛戍地外ニ在ルトキハ最寄衛戍地衛戍司令官之ヲ管理ス

第四條　俘虜收容所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　少將又ハ佐官
所員　佐尉官
下士判任文官

前項職員ノ外必要ニ應シ軍醫正、軍醫、主計ヲ配屬ス

所員以下ノ人員ハ收容所ノ大小ニ應シ陸軍大臣之ヲ定ム

第五條　所長ハ衛戍司令官ニ隷シ收容所一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條　所長ハ俘虜ノ取締ニ關シテハ收容所ニ派遣セラレタル衛兵ヲ指揮スルノ權ヲ有ス

第七條　所員、軍醫正、軍醫及主計ハ所長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第八條　下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第九條　俘虜收容所ノ事務繁劇ナル場合ニ於テハ衛戍司令官ハ部下ヲ派遣シ其ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

前項ニ依リ派遣セラレタル者ハ所長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス

●朝鮮軍人ニ關スル件

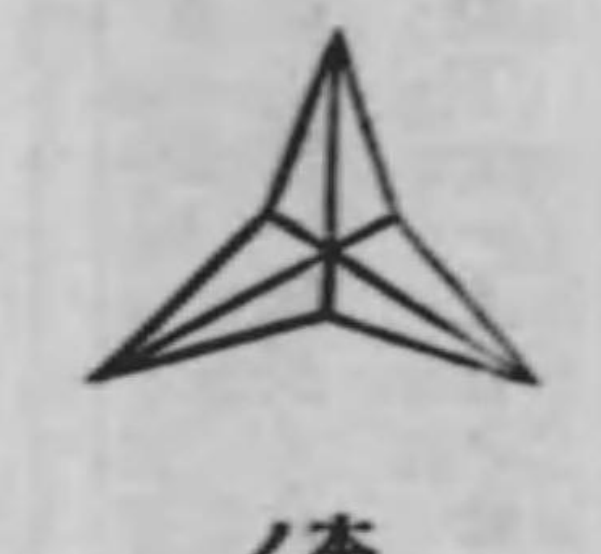
（明治四十四年三月三十一日勅令第三十六號）
改正　大正八年第四〇號、九年第二九號、第一一九號、第二七四號、一一年第四二七號、一四年第二四一號

朕朝鮮軍人ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

第一條　朝鮮軍人ハ第一表ニ依リ下欄ニ掲クル者ハ上欄ノ陸軍軍人ニ相當スルモノトス

第二條　朝鮮軍人ハ相當陸軍軍人ノ次席トス

第三條　朝鮮軍人ニハ相當陸軍軍人ノ制服ヲ著用セシム但シ襟ノ左右ニ金色金屬製徽章ヲ附ス其ノ製式形狀左ノ如シ



本圖ハ實物ノ大ヲ示ス

第四條　朝鮮軍人ニシテ現役ニ在ル者ニハ第二表ニ依リ俸給給料ヲ給ス

俸給給料ノ支給減額及停止ニ付テハ陸軍給與令ヲ準用ス

第五條　朝鮮歩兵隊ニ屬スル正校同相當官以下ニ對スル糧食ノ給與額ハ左ノ定額ニ依ル

精米　一人一日　六合
賄料　一人一日　十八錢

第六條　特務正校初任ノトキ給スル服裝手當ノ定額ハ三百七十五圓トス

第七條　朝鮮歩兵隊ニ屬スル正校同相當官以下死亡ノ場合ニ於ケル埋葬料ハ左ノ定額ニ依ル

正校同相當官、副校同相當官、參校同相當官　三十七圓五十錢
兵卒　三十圓

第八條　朝鮮軍人公務ニ依リ旅行スルトキハ相當陸軍軍人ニ準シ旅費ヲ給ス

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年勅令第二百四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ陸軍計手タル者ハ陸軍二等計手ニ、陸軍調護長タル者ハ陸軍二等看護長ニ相當スル者トス

（第一表）

陸軍歩兵特務曹長	陸軍歩兵特務正校
同　曹長	同　正校
同　軍曹	同　副校
同　伍長	同　參校
陸軍歩兵上等兵	陸軍歩兵上等兵
同　一等卒	同　一等卒
同　二等卒	同　二等卒
陸軍一、二、三等計手	陸軍計手
陸軍一、二、三等看護長	陸軍調護長
同　上等看護卒	同　調護手

（第二表）

區分		年額
特務正校	一等	九百三圓
	二等	八百四十圓
		月額
正校同相當官	一等	三十九圓六十錢
	二等	三十五圓十錢
副校同相當官	一等	二十五圓九十錢
	二等	二十一圓六十錢
參校同相當官	一等	十九圓五十錢
	二等	十八圓五十錢
上等兵 同級兵		十六圓
一等卒		十五圓
二等卒		十四圓
備考	一、二等給ノ給與區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム	

第十一款　海軍省及海軍所管

●海軍省官制

（大正五年三月三十一日勅令第三十七號）
改正　大正七年第一九七號、八年第四九號、九年第二八八號、第四四〇號、一〇年第二四〇號、一一年第八二號、一二年第一二六號、一三年第一八一號、第三四六號、一四年第三二〇號
昭和二年第六〇號

朕海軍省官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍省官制

第一條　海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條　政務次官又ハ參與官ノ職務ハ軍機軍令ニ關スル事項ニ及ハサルモノトス

第三條　海軍省ニ副官ヲ置ク海軍大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌ル

第四條　海軍省ニ海軍文庫主管ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ圖書保管ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　海軍省ニ事務官ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條　海軍省ニ左ノ八局ヲ置ク

軍務局
人事局
教育局
軍需局
醫務局
經理局
建築局
法務局

第七條　軍務局ニ第一課及第二課ヲ置ク

第八條　軍務局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　艦船、部隊、官衙及學校ノ建制及勤務ニ關スル事項
二　艦船及部隊ノ編制及役務ニ關スル事項
三　軍紀風紀ニ關スル事項
四　演習ニ關スル事項
五　檢閲ニ關スル事項
六　儀式、禮式、服制及旗章ニ關スル事項
七　艦船兵器（兵器ノ準備、保管及供給ニ關スル事項ヲ除ク）ニ關スル事項
八　機關ノ使用ニ關スル事項
九　國際的規約及遣外員ニ關スル事項
十　海軍軍備其ノ他一般海軍軍政ニ關スル事項

第九條　軍務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　出師準備ニ關スル事項
二　軍需工業動員法ニ關スル事項
三　戒嚴及徴發ニ關スル事項
四　港務ニ關スル事項
五　運輸通信ニ關スル事項
六　水路及海上保安ニ關スル事項
七　水陸諸設備ニ關スル事項
八　軍港、要港、要塞地帶及沿岸ノ取締ニ關スル事項

第十條　人事局ニ第一課及第二課ヲ置ク

第十一條　人事局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　士官、特務士官、候補生、准士官及文官ノ補充、服役、進退、任免、補職及俸給ニ關スル事項
二　下士官兵ノ補充、服役、任用、徴募及進級ニ關スル事項

第十二條　人事局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　敍位、敍勳、記章、褒章、賞與其ノ他身上ニ關スル事項
二　恩給ニ關スル事項
三　戰時充員ニ關スル事項
四　召集及簡閲點呼ニ關スル事項
五　軍需工業動員法ニ依ル召集及徴用ニ關スル事項

第十二條ノ二　教育局ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

第十二條ノ三　教育局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教育ノ統一及一般教育ニ關スル事項
二　兵學、航海術及運用術ノ教育ニ關スル事項
三　教育圖書ニ關スル事項

第十二條ノ四　教育局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　砲術、水雷術、潛航術及通信術ノ教育ニ關スル事項

第十二條ノ五　教育局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機關術ノ教育ニ關スル事項

第十三條　軍需局ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

第十四條　軍需局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　艦營需品（行動消耗品ヲ除ク）ニ關スル事項
二　港用品ニ關スル事項
三　兵器ノ準備、保管及供給ニ關スル事項

第十五條　軍需局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　燃料及行動消耗品ニ關スル事項
二　炭山及油田ニ關スル事項

第十六條　軍需局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　被服及糧食ニ關スル事項

第十七條　削除

第十八條　削除

第十九條　削除

第二十條　醫務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　醫務、衛生、恩給診斷及軍人體格ニ關スル事項
二　治療品ニ關スル事項
三　軍醫科及藥劑科士官以下ノ本務ニ關スル事項
四　醫務衛生ノ教育ニ關スル事項

第二十一條　經理局ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

第二十二條　經理局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　豫算及決算ニ關スル事項
二　主計科士官以下ノ本務ニ關スル事項
三　會計經理ノ教育ニ關スル事項

第二十三條　經理局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　給與、物品經理及契約ノ規定ニ關スル事項
二　會計ノ監査ニ關スル事項
三　國有財産ニ關スル事項

第二十四條　經理局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　出納及用度ニ關スル事項
二　艦船、兵器、艦營需品、港用品、燃料、被服、糧食其ノ他ノ物ノ製造、購買、賣却、貸付、借入及運送ノ契約竝建築工事ノ契約ニ關スル事項

第二十四條ノ二　建築局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　建築及土木工事ノ計畫、審査及實施ニ關スル事項
二　建築及土木ニ從事スル技師以下ノ本務ニ關スル事項

第二十五條　法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍事司法、懲罰及監獄ニ關スル事項
二　恩赦、假出獄及刑ノ執行ニ關スル事項
三　司法事務官、法務官、錄事及監獄官以下

ノ本務ニ關スル事項

第二十六條　各局ニ局長、課長及局員ヲ置ク但シ醫務局、建築局及法務局ニハ課長ヲ置カス

第二十七條　局長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理ス

第二十八條　課長及局員ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第二十九條　海軍省ニ技師ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第三十條　削除

第三十一條　海軍省ニ技手ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事セシム

第三十二條　削除

第三十三條　海軍省ノ定員ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

海軍省定員表

大臣（大中將）			
政務次官			一
參與官			一
次官（中少將）			
書記官		專任	一
事務官		專任	三
大臣官房	秘書官	中少佐（兼務）	二
	副官	大佐	一
		中少佐	二
	文庫主管	中少佐（兼務）	一
軍務局	長	中少將	一
	第一課長	大中佐	一
	第二課長	大中佐	一
	局員	中少佐	九（內兼務一）
		機關中少佐	二
人事局	長	中少將	一
	第一課長	大中佐	一
	第二課長	大中佐	一
	局員	中少佐	五
		機關中少佐	一
		軍醫中少佐（兼務）	一
		主計中少佐（兼務）	一
教育局	長	中少將	一
	第一課長	大中佐	一
	第二課長	大中佐	一
	第三課長	機關大中佐	一
	局員	中少佐	七（內兼務一）
		機關中少佐	二
		軍醫中少佐（兼務）	一
		主計中少佐（兼務）	一
軍需局	長	中少將 主計中少將	一
	第一課長	大中佐	一
	第二課長	機關大中佐	一
	第三課長	主計大中佐	一
	局員	中少佐	五（內兼務三）
		機關中少佐	二
		主計中少佐	二
醫務局	長	軍醫中少將	一
	局員	軍醫大中佐	一
		軍醫中少佐	二
		藥劑科佐官	一
經理局	長	主計中少將	一
	第一課長	主計大中佐	一
	第二課長	主計大中佐	一
	第三課長	主計大中佐	一
	局員	主計中少佐	六（內兼務二）
建築局	長	技師（勅任）	一
	局員	主計中少佐	一
		技師（奏任）	三
法務局	長		一
	局員	司法事務官　專任	一
屬			六七
技手			六
合計			百六十二人　內兼務　十三人

備　考

一　本表定員ノ外臨時必要ニ應シ兼務者ヲ置キ又ハ出仕トシテ士官五人以內ヲ置クコトヲ得

二　人事局定員中軍醫中少佐又ハ主計中少佐ハ必要ニ應シ各軍醫大佐又ハ主計大佐ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

三　軍需局ノ局員ハ其ノ定員ヲ超過セサル限リ各科士官ヲ彼是增減スルコトヲ得

四　法務局長ハ勅任ノ海軍高等軍法會議法務官ノ兼任、秘書官ハ副官ノ兼務、文庫主管ハ教育局局員ノ兼務、軍務局局員中ノ兼務局員ハ海軍航空本部部員ノ兼務、教育局局員中ノ兼務局員ハ醫務局局員及經理局局員竝ニ海軍航空本部部員ノ兼務、軍需局局員中ノ兼務局員ハ海軍艦政本部部員及海軍航空本部部員ノ兼務トス

五　課長缺員中ハ當該局ニ局員一人ヲ增加スルコトヲ得

●補償審査會ニ關スル規程

（大正十五年五月四日勅令第九十三號）

朕大正十五年法律第五十一號ニ依ル補償金ノ交付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、大藏大臣副署）

第一條　補償審査會ハ海軍大臣ノ監督ニ屬シ大正十五年法律第五十一號ニ規定スル補償金ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　審査會ハ會長一人審査員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ海軍大臣ヲ以テ之ニ充ツ審査員ハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官其ノ他審査ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ海軍大臣ノ指定スル審査員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　審査會ニ幹事若干人ヲ置ク海軍大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　審査會ニ書記若干人ヲ置ク海軍大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　補償金ノ交付ハ海軍大臣之ヲ決定ス

第八條　補償金ハ大藏大臣之ヲ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍ニ海軍司法事務官ヲ置クノ件

（大正十一年三月三十一日勅令第八十五號）

改正　大正一三年第三五〇號

朕海軍ニ海軍司法事務官ヲ置クノ件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

第一條　海軍ニ海軍司法事務官ヲ置ク

第二條　海軍司法事務官ハ專任一人奏任トス

但シ勅任ノ海軍法務官ニシテ海軍司法事務官ヲ兼任スルモノハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍法務官及海軍錄事ノ定員ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日勅令第九十五號）

朕海軍法務官及海軍錄事ノ定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍法務官ノ定員ハ專任三十二人以內、海軍錄事ノ定員ハ專任十九人以內トス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第百五號及明治三十七年勅令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

●海軍所屬ノ編修書記及書記竝陸海軍ノ警査ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日勅令第八十九號）

朕海軍所屬ノ編修書記及書記竝陸海軍ノ警査ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

海軍所屬ノ編修書記及書記ハ判任官トシ陸軍警査及海軍警査ハ判任官ノ待遇トス

陸軍警査ノ採用ニ關スル規程ハ陸軍大臣、海軍警査ノ採用ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第二百六十八號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際在職ノ陸軍警守ハ別ニ辭令ヲ用キス陸軍警査ニ採用セラレタルモノトス

●海軍所屬技師ノ官等及定員ニ關スル件

（大正十年四月二十三日勅令第百二十二號）

改正　大正一二年第一三一號

朕明治四十二年勅令第四號海軍所屬技師ノ官等ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍所屬ノ技師ノ平時定員ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外百四十五人以內トス但シ技術ニ關スル事項ヲ掌ル士官ニ代ヘ技師ヲ充用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

海軍所屬ノ技師ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外造船、造機、造兵及土木建築ニ從事スル者ノ內三人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ルノ外海軍所屬ノ技師二人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍將官會議條例

（明治二十二年五月二十九日勅令第七十五號）

改正　明治二四年第二三四號、三二年第二七號

朕海軍將官會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍將官會議條例

第一條　海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於ケル重要ノ事項ヲ審議スル所トス

第二條　海軍將官會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ海軍將官ヲ以テ之ニ補ス

第三條　海軍大臣ハ必要ニ依リ議員ニアラサル將官竝將官相當官ニ臨時議員ヲ命シ又上長官ヲシテ議事ニ參與セシムルコトヲ得

第四條　海軍大臣事故アルトキハ上席將官ヲ以テ議長トス

第五條　議案ハ議長ヨリ下付ス議員ニ於テ議案ヲ提出セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　海軍將官會議ノ事務ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ處理ス

●海軍艦政本部令

（大正九年十月一日勅令第四百四十一號）

改正　大正一二年第一二七號、一四年第三二一號、一五年第三一九號　昭和二年第六二號

朕海軍艦政本部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍艦政本部令

第一條　海軍艦政本部ハ左ノ事務ヲ掌ル所トス

一　艦船ノ船體機關ノ計畫、審査、造修及保存ニ關スル事項

二　兵器（航空兵器ヲ除ク）ノ計畫、審査及造修竝ニ兵器ノ備裝ニ關スル事項

三　海軍工作廳工場（航空兵器工場ヲ除ク）ノ設備ノ計畫及審査ニ關スル事項

四　艦船兵器ノ造修ニ要スル軍需品、工場等ノ軍需工業動員ニ關スル事項

五　造船科造機科造兵科士官以下（航空兵器ニ關スル技術ニ從事スル造兵科士官以下ヲ除ク）ノ教育及本務ニ關スル事項

六　海軍共濟組合ニ關スル事項

七　海軍ニ於ケル勞働ニ關スル事項

第二條　海軍艦政本部ニ總務部、第一部、第二部、第三部及第四部ヲ置キ總務部及第一部ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

各部課ノ事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍艦政本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

部長

課長

部員

附

前項職員ノ外必要ニ應シ出仕トシテ士官又ハ技師ヲ置ク

第四條　本部長ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理ス

第五條　本部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　本部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍大臣特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌ル

前項ノ外總務部長ハ本部長ヲ佐ケ海軍艦政本部ノ事務ヲ整理ス

第八條　課長ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌ル

第九條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　海軍艦政本部ニ判任文官ヲ置ク

第十一條　附ハ海軍特務士官、准士官又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第十二條　出仕ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　海軍艦政本部ニ技術會議ヲ置キ重要ナル事項ヲ研究調査セシム

第十四條　技術會議ニ議長及議員ヲ置ク

議長ハ本部長ヲ以テ之ニ充ツ會議ノ長ト爲リ議事ヲ整理ス

部長、課長及部員ハ之ヲ議員トス

議員ハ前項ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　技術會議ハ本部長必要ニ應シ議事ニ關係アル議員ヲ集メテ之ヲ開ク

第十六條　海軍省軍務局長及軍需局長ハ其ノ關係ノ事項ニ付臨時技術會議ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海軍技術本部令ハ之ヲ廢止ス

海軍技術本部ニ關スル從前ノ規定ハ海軍艦政本部ニ關スル規定トス

●海軍技術研究所令

（大正十二年三月二十六日勅令第五十二號）

改正　大正一四年第二一五號　昭和二年第六三號

朕海軍技術研究所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍技術研究所令

第一條　海軍技術研究所ハ海軍技術ノ研究、調査及諸種ノ技術的試驗ニ關スルコトヲ掌ル

海軍技術研究所ハ前項ノ外必要ニ應シ兵器及材料ノ製造及修理ヲ掌ル

第二條　海軍技術研究所ハ技術ノ研究又ハ技術從事者養成ノ依賴ヲ官廳又ハ民間ヨリ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ依ル業務ニ支障ナキ限リ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ應スルコトヲ得

第三條　海軍技術研究所ニ科學研究部、電氣研究部、航空研究部、造船研究部、庶務課、會計課及醫務課ヲ置ク

各部課事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條　海軍技術研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
部長
課長
所員
附

前項職員ノ外必要ニ應シ出仕トシテ士官又ハ技師ヲ置ク

第五條　所長ハ海軍艦政本部長ニ隷シ所務ヲ總理ス但シ航空兵器ニ關シテハ海軍航空本部長ノ區處ヲ受ク

第六條　所長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　所長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍艦政本部長特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　部長及課長ハ所長ノ命ヲ承ケ各部課ノ事務ヲ掌ル

第九條　所員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　海軍技術研究所ニ判任文官ヲ置ク

第十一條　附ハ海軍特務士官、准士官、下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　出仕ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　海軍技術研究所ニ必要ニ應シ實地研究又ハ練習ノ爲附トシテ海軍士官、特務士官、准士官、技師及技手ヲ置キ所長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十四條　海軍大臣ハ必要ニ應シ海軍技術研究所出張所ヲ置ク

出張所ハ其ノ所在地方ニ於ケル海軍各部ト連絡ヲ保チ第一條第一項ニ揭クルコトヲ掌ル

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍造兵廠令、海軍艦型試驗所條例及海軍航空機試驗所令ハ之ヲ廢止ス

●海軍火藥廠令

大正八年三月二十七日
勅令第三十三號

改正　大正九年第四四七號、一〇年第四四一號、一二年第三三九號

朕海軍火藥廠令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍火藥廠令

第一條　神奈川縣中郡平塚町ニ海軍火藥廠ヲ置ク

第二條　海軍火藥廠ハ火藥類及其ノ原料ノ製造、修理、審査及研究ニ關スルコトヲ掌ル所トス

第三條　海軍火藥廠ハ火藥類若ハ其ノ原料ノ製造若ハ修理、其ノ指導又ハ其ノ技術從事者養成ノ依賴ヲ官廳又ハ民間ヨリ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ依ル業務ニ支障ナキ限リ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ應スルコトヲ得

第四條　海軍火藥廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長
檢査官
部長
部員

第五條　廠長ハ海軍艦政本部長ニ隷シ廠務ヲ總理ス

第六條　廠長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　廠長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ職員席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　檢査官ハ廠長ノ命ヲ承ケ製造又ハ修理シタル火藥類及其ノ原料ノ檢査及運搬ニ關スルコト並庶務ヲ掌ル

前項ノ外廠長ハ必要アルトキハ檢査官ヲシテ臨時ニ研究部ノ事務ニ服セシムルコトヲ得

第九條　海軍火藥廠ニ火藥部、爆藥部、研究部、會計部及醫務部ヲ置ク

第十條　火藥部ハ火藥及其ノ原料ノ新造、改造及修理ニ關スルコトヲ掌ル

第十條ノ二　爆藥部ハ爆藥及爆藥火工品並其ノ原料ノ新造、改造及修理ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　研究部ハ火藥類及其ノ原料ノ審査及研究ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　會計部ハ會計、給與、工業用材料其ノ他物品ノ購買賣却貯藏出納並土地及工作物ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　醫務部ハ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十四條　部長ハ廠長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌理ス

第十五條　部員ハ其ノ所屬部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十六條　海軍火藥廠ニ特務士官、准士官及下士官兵並書記及技手ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事セシム

第十七條　海軍火藥廠ニ必要ニ應シ練習又ハ實地研究ノ爲海軍造兵科士官ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●造船造兵監督官令

明治三十一年三月三十日
勅令第六十四號

改正　明治三三年第二三七號、四二年第三一七號
大正四年第一六五號、五年第三八號、九年第一九四號、一〇年第四二九號
昭和二年第六四號

朕造船造兵監督官條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（海軍大臣副署）

造船造兵監督官令

第一條　海軍ニ於テ艦船兵器ノ製造ヲ外國ノ工場ニ委託シ及造船造兵用ノ材料物品其ノ他工場用器具機械ヲ外國ニテ購入スルトキハ左ノ職員ヲ置キ製造事業ノ監督及購入物品ノ檢査ニ從事セシメ又會計ノ事務ヲ整理セシム

造船監督官
造兵監督官
造船造兵監督會計官
造船監督助手
造兵監督助手
造船造兵監督書記

前項職員ノ外必要ニ應シ造船造兵監督長ヲ置クコトヲ得

第一條ノ二　艦船兵器及造船造兵用ノ材料物品ヲ內國ノ工場ニ委託シ製造セシムル場合ニ於テ必要アルトキハ造船監督官造兵監督官造船監督助手及造兵監督助手ヲ置キ製造事業ノ監督ニ從事セシム

第二條　造船造兵監督長造船監督官造兵監督官及造船造兵監督會計官ハ海軍士官ヲ以テ之ニ充ツ

造船監督官及造兵監督官ハ必要ニ應シ海軍特務士官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

監督助手ハ海軍准士官下士官又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ監督書記ハ海軍書記ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　造船造兵監督長ハ海軍艦政本部長ニ隷シ（航空兵器ニ關シテハ海軍航空本部長ノ區處ヲ受ケ）所管監督事務ヲ統理ス但シ會計ノ執行事務ニ關シテハ海軍大臣ニ直隸ス

第四條　造船監督官ハ海軍艦政本部長ノ命ヲ承ケ服務ス

造船造兵監督會計官ハ海軍艦政本部長ノ命ヲ承ケ（航空兵器ニ關シテハ海軍航空本部長ノ區處ヲ受ケ）服務ス但シ會計ノ執行事務ニ關シテハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ服務ス

造兵監督官ハ各其ノ所屬ニ從ヒ海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ノ命ヲ承ケ服務ス

造船造兵監督長ヲ置キタル場合ニ於テハ前三項ノ職員ハ造船造兵監督長ノ命ヲ承ケ服務ス

監督助手及監督書記ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五條　第一條及第一條ノ二ニ定ムル職員ハ海軍艦政本部ノ職員トス但シ專ラ航空兵器ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ海軍航空本部ノ職員トス

●造船造機造兵又ハ土木建築ノ事務ニ從事セシムル爲海軍艦政本部等ニ臨時職員設置

大正九年十二月六日
勅令第五百五十六號

改正　大正一〇年第四〇九號、一二年第一三〇號、一三年第三四八號、一五年第二三三號
昭和二年第六八號

朕大正六年勅令第百二號造船造機造兵又ハ土木建築ノ事務ニ從事セシムル爲海軍造兵廠等ニ臨時職員設置ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

造船、造機、造兵又ハ土木建築ノ事務ニ從事セシムル爲海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍工廠、舞鶴要港部、海軍省建築局及海軍建築部ヲ通シテ臨時左ノ職員ヲ置ク但シ海軍大臣ハ特ニ必要アルトキハ一時限リ第一號乃至第三號ニ揭クル職員ニ付其ノ總定員ヲ超過セサル範圍內ニ於テ一ノ事務ニ從事スル技師、書記又ハ技手ノ各員數ト他ノ事務ニ從事スル技師、書記又ハ技手ノ各員數トノ間ニ於テ增減ヲ爲スコトヲ得

一　造船ノ事務ニ從事スル者
　技師　專任七人　奏任
　書記　專任八人　判任
　技手　專任三十四人　判任
二　造機ノ事務ニ從事スル者
　技師　專任八人　奏任
　書記　專任七人　判任
　技手　專任三十七人　判任
三　造兵ノ事務ニ從事スル者
　技師　專任二十二人　奏任
　書記　專任十五人　判任
　技手　專任七十八人　判任
四　土木建築ノ事務ニ從事スル者
　技師　專任十八人　奏任
　書記　專任九人　判任
　技手　專任八十一人　判任

前項職員ノ俸給ハ各當該事業費ヨリ之ヲ支辨ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●艤裝員令

大正五年三月三十一日
勅令第四十一號

改正　大正五年第二三七號、一〇年第七八號、一二年第五〇號
昭和二年第六五號

朕艤裝員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

艤裝員令

第一條　新造艦船ニハ必要ニ應シ其ノ艤裝ニ關スル事務ニ從事セシムル爲左ノ職員ヲ置ク

艤裝員長
艤裝員

第二條　艤裝員長ハ海軍工廠ニ於テ製造スル艦船ニ在リテハ當該海軍工廠長ニ、要港部ニ於テ製造スル艦船ニ在リテハ當該要港部司令官ニ、其ノ他ノ艦船ニ在リテハ海軍艦政本部長ニ隷シ（航空兵器ニ關シテハ海軍航空本部長ノ區處ヲ受ケ）艤裝ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　艤裝員長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席兵科將校其ノ職務ヲ代理ス

第四條　艤裝員ハ艤裝員長ノ命ヲ承ケ服務ス

第四條ノ二　第一條ニ揭クル職員ノ外必要ニ應シ艤裝員附トシテ海軍准士官及下士官兵ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第五條　前數條ノ規定ハ既成艦船ノ大改造等ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍航空本部令

昭和二年四月四日
勅令第六十一號

朕海軍航空本部令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍航空本部令

第一條　海軍航空本部ハ左ノ事務ヲ掌ル所トス

一　航空兵器ノ計畫、審査及造修並ニ艦船ノ航空機搭載設備ノ計畫及審査ニ關スル事項
二　海軍工作廳航空兵器工場ノ設備ノ計畫及審査ニ關スル事項
三　航空術ノ教育ニ關スル事項
四　航空兵器ニ關スル技術ニ從事スル造兵科士官以下ノ教育及本務ニ關スル事項
五　前四號ニ揭グルモノノ外航空ニ關スル一般事項

第二條　海軍航空本部ニ總務部、教育部及技術部ヲ置ク

各部ノ事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍航空本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長
部長
部員
附

前項職員ノ外必要ニ應シ出仕トシテ士官又ハ技師ヲ置ク

第四條　本部長ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理ス

第五條　本部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　本部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍大臣特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌ル

前項ノ外總務部長ハ本部長ヲ佐ケ海軍航空本部ノ事務ヲ整理ス

第八條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條　海軍航空本部ニ判任文官ヲ置ク

第十條　附ハ海軍特務士官、准士官又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第十一條　出仕ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

附　則

本令ハ昭和二年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

●水路部令

大正九年十月一日
勅令第四百四十四號

朕水路部條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

水路部令

第一條　水路部ハ東京ニ之ヲ置ク

第二條　水路部ハ水路圖誌ノ調製、水路ノ測量、航海ノ保安及水路科士官以下ノ教育ニ關スルコトヲ掌ル

第三條　水路部ニ第一課、第二課、第三課、第四課及會計課ヲ置ク

各課ノ事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條　水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
副官
課長
部員
編修
附

第五條　部長ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理ス

第六條　部長ハ其ノ名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國水路部ト直接通信スルコトヲ得

第七條　部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條　部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍大臣特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　副官ハ部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十條　課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌ル

第十一條　部員及編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　水路部ニ判任文官ヲ置ク

第十三條　附ハ海軍特務士官准士官又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍大學校令

（大正七年八月十五日 勅令第三百十七號）
改正　大正一一年第四四四號、一二年第一三三號、一五年第三四四號

朕海軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍大學校令

第一條　海軍大學校ハ海軍士官ニ高等ノ學術ヲ教授シ兼テ其ノ研究ヲ行フ所トス

第二條　海軍大學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
主計長
附

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ兵科將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務ヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第九條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授及研究ヲ擔任ス

第十條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　海軍大學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十二條　海軍大學校ニ於テ修習スル海軍士官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

第十三條　海軍大學校學生ハ之ヲ左ノ三種ニ區別ス

一　甲種學生
二　機關學生
三　選科學生

第十四條　甲種學生ハ海軍少佐又ハ大尉ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ樞要職員又ハ高級指揮官ノ素養ニ必要ナル高等ノ兵學其ノ他ノ學術ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

一　身體强健實務ノ成績優等ニシテ高等ノ兵學ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル者
二　入學試驗ニ合格シタル者

第十五條　削除

第十六條　機關學生ハ海軍機關大尉又ハ機關中尉ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ要職ニ充ツルニ適スル素養ニ必要ナル高等ノ機關術其ノ他ノ學術ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

一　身體强健實務ノ成績優等ニシテ高等ノ機關術ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル者
二　入學試驗ニ合格シタル者

第十七條　選科學生ハ海軍士官ニシテ專門ノ學科ヲ研究スルコトヲ志願シ且實務ノ成績優等ニシテ之ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル者ニ就キ其ノ學科ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

海軍大臣必要ト認ムルトキハ海軍士官ニ其ノ專修スヘキ學科ヲ指定シテ選科學生ヲ命スルコトヲ得

第十八條　入學試驗ノ規程ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第十九條　海軍大學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十條　削除

第二十一條　削除

第二十二條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ實地研究ノ爲學生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生ハ其ノ研究ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第二十三條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ選科學生ヲ海軍部外ノ學校ニ委託シ修業セシムルコトヲ得

第二十四條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ海軍大臣ハ其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第二十五條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第十四條及第十六條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　海軍大臣ハ海軍大學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍將校ヲシテ必要ナル學術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍大學校ニ在學スル航海術專修學生ハ之ヲ航海學生、機關術專修學生ハ之ヲ選科學生ト看做ス

●海軍兵學校令

（大正七年八月十五日 勅令第三百十八號）
改正　大正九年第二〇一號、第五二四號、一一年第四四五號、一二年第一三四號、一五年第二五四號

朕海軍兵學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍兵學校令

第一條　海軍兵學校ハ海軍兵科將校ト爲スヘキ生徒ヲ教育シ海軍兵曹長ニ對シ兵科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施ス所トス

第二條　海軍兵學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
監事長
監事
軍醫長
主計長
附

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ兵科將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監理ス

第九條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第十一條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ訓育ヲ擔任ス

校長ハ監事ノ內一人ヲシテ監事長ノ命ヲ承ケ專ラ下士官兵ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練セシム

第十二條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十四條　海軍兵學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

第十五條　附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十六條　生徒ハ年齡十六年以上十九年以下ニシテ海軍兵科將校タラムコトヲ志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス但シ現役海軍下士官兵タル志願者ニ付テハ年齡ハ二十三年以下トス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ生徒ニ之ヲ採用セス

一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者又ハ破產者
四　品行不正其ノ他ノ事情ニ依リ將來海軍兵科將校タル體面ヲ保ツコト能ハスト認ムル者

第十八條　生徒ノ召募及檢查格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第十九條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ之ヲ編入ス

第二十條　生徒ノ修業期間ハ三年トス但シ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十一條　生徒所定ノ教程ヲ卒業シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス

第二十二條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條　生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　海軍兵科將校タルヘキ器量ニ乏シキ者
二　品行不正又ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
三　學業ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
四　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十四條　海軍兵學校ニ於テ修習スル海軍兵曹長ヲ海軍兵學校選修學生ト稱ス

第二十五條　選修學生ハ海軍兵曹長ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ將來兵科特務士官トシテ所要ノ勤務ニ服スルニ必要ナル素養ヲ與フル爲志願ニ基キ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

一　身體强健實務ノ成績優等ニシテ高等武官トシテ所要ノ勤務ニ服セシムルニ適當ナル識量ヲ有スト認ムル者
二　入學試驗ニ合格シタル者

第二十六條　選修學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十七條　削除

第二十八條　校長ハ選修學生中不適當ト認ムル者アルトキハ海軍大臣ニ之ヲ具申シ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第二十九條　鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ選修學生ヲ免スルコトヲ得

第三十條　鎭守府司令長官前條ノ規定ニ依リ選修學生ヲ免シタルトキハ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍兵學校ニ在學スル生徒ノ修業期間ハ從前ノ規定ニ依ル但シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ四月ヲ超エサル期間之ヲ短縮スルコトヲ得

●海軍機關學校令

（大正七年八月十五日 勅令第三百十九號）
改正　大正九年第二〇二號、第五二五號、一一年第四四六號、一二年第一三五號、一五年第二五五號

朕海軍機關學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍機關學校令

第一條　海軍機關學校ハ海軍機關科將校ト爲スヘキ生徒ヲ教育シ海軍機關兵曹長ニ對シ機關科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施シ海軍機關科將校特務士官准士官及海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル機關術ヲ教授スル所トス

海軍機關學校ニ於テハ前項ノ外海軍ニ必要ナル機關術ノ研究及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第二條　海軍機關學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
生徒科長
練習科長
教官
監事
分隊長
軍醫長
主計長
附

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　生徒科長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒及選修學生ノ教務及訓育ヲ監理ス

第九條　練習科長ハ校長ノ命ヲ承ケ選修學生ヲ除クノ外ノ學生及練習生ノ教務並教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第十條　教官ハ校長ノ指定ニ依リ生徒科長又ハ練習科長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任シ機關術ノ研究又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　監事ハ生徒科長ノ命ヲ承ケ生徒及選修學生ノ訓育ヲ擔任ス

第十二條　分隊長ハ練習科長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練ス

第十三條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十四條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十五條　海軍機關學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

第十六條　附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　海軍機關學校生徒ハ年齡十六年以上十九年以下ニシテ海軍機關科將校タラムコトヲ志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス但シ現役海軍下士官兵タル志願者ニ付テハ年齡ハ二十三年以下トス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ生徒ニ之ヲ採用セス

一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者又ハ破產者
四　品行不正其ノ他ノ事情ニ依リ將來海軍機關科將校タル體面ヲ保ツコト能ハスト認ムル者

第十九條　生徒ノ召募及檢查格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ之ヲ編入ス

第二十一條　生徒ノ修業期間ハ三年トス但シ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十二條　生徒所定ノ教程ヲ卒業シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス

第二十三條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十四條　生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　海軍機關科將校タルヘキ器量ニ乏シキ者
二　品行不正又ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
三　學業ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
四　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十五條　海軍機關學校ニ於テ修習スル海軍准士官以上ヲ海軍機關學校學生、海軍下士官兵ヲ海軍機關學校練習生ト稱ス

第二十六條　海軍機關學校學生ハ之ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　普通科學生
二　特修科學生
三　專攻科學生
四　選修學生

第二十七條　普通科學生ハ海軍機關中尉又ハ機關少尉ニ初級機關科將校ニ必要ナル機關術ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第二十八條　特修科學生ハ海軍機關科佐尉官特務士官准士官ニシテ志願スル者ニ就キ又ハ特ニ必要ト認ムル者ニ對シ必要ナル機關術ヲ修習セシムル爲海軍機關科佐尉官ニ在リテハ海軍大臣、海軍機關科特務士官准士官ニ在リテハ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

第二十九條　專攻科學生ハ海軍機關科將校ニ就キ機關術ニ關シ特ニ研究項目ヲ指定シ之ヲ專攻セシムル爲必要ニ應シ海軍大臣之ヲ命ス

第二十九條ノ二　選修學生ハ海軍機關兵曹長ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ將來機關科特務士官トシテ所要ノ勤務ニ服スルニ必要ナル素養ヲ與フル爲志願ニ基キ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

一　身體強健實務ノ成績優等ニシテ高等武官トシテ所要ノ勤務ニ服セシムルニ適當ナル識量ヲ有スト認ムル者

二　入學試驗ニ合格シタル者

第三十條　海軍機關學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三十一條　削除

第三十二條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ海軍士官ニ在リテハ海軍大臣、海軍特務士官准士官ニ在リテハ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第三十三條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍機關科特務士官准士官タル學生ヲ除クノ外學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第二十七條及第二十八條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍機關科特務士官准士官タル學生ヲ免スルコトヲ得

第三十三條ノ二　鎭守府司令長官前條ノ規定ニ依リ選修學生ヲ免シタルトキハ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第三十四條　海軍機關學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三十五條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ學生又ハ練習生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第三十六條　海軍大臣ハ海軍豫備員又ハ海軍豫備員志願者ヲシテ海軍機關學校ニ於テ必要ナル學術ノ教授ヲ受ケシムルコトヲ得

第三十七條　海軍大臣ハ海軍機關學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍士官特務士官准士官又ハ下士官兵ヲシテ必要ナル學術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍機關學校ニ在學スル生徒ノ修業期間ハ從前ノ規定ニ依ル但シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ四月ヲ超エサル期間之ヲ短縮スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ海軍機關學校ニ在學スル特修科學生ハ之ヲ專攻科學生ト看做ス

●海軍軍醫學校令

大正七年八月十五日
勅令第三百二十號

改正　大正一一年第四五〇號、一二年第一三六號

朕海軍軍醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍軍醫學校令

第一條　海軍軍醫學校ハ海軍軍醫科士官及藥劑科士官ニ對シ之ニ必要ナル學術ヲ教授シ兼テ之ヲシテ職務ヲ練習セシメ海軍看護兵曹長ニ對シ看護科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施ス所トス

海軍軍醫學校ニ於テハ前項ノ外海軍ニ必要ナル醫學ノ研究、衞生ノ試驗及醫務衞生ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行ヒ並海軍ノ防疫ニ關スル事務ヲ幇助ス

第一條ノ二　海軍軍醫學校ニ於テハ前條ニ規定スル教育及研究ニ資スル爲一般患者ノ診療ヲ行フコトヲ得

第二條　海軍軍醫學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
監事
主計長
附

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ軍醫科士官席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務及教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第九條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任シ醫學ノ研究、衞生ノ試驗、防疫又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　監事ハ教頭ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督ス

第十一條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　海軍軍醫學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

第十二條ノ二　附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　海軍軍醫學校ニ於テ修習スル海軍准士官以上ヲ海軍軍醫學校學生ト稱ス

第十四條　海軍軍醫學校學生ハ之ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　高等科學生
二　普通科學生
三　選科學生
四　選修學生

第十五條　高等科學生ハ身體強健實務ノ成績優等ニシテ高等ノ醫學ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル海軍軍醫大尉ニ就キ要職ニ充ツルニ適スル素養ニ必要ナル醫學ニ關スル高等ノ學術技能ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

第十六條　普通科學生ハ新ニ任用シタル海軍軍醫科尉官又ハ藥劑科尉官ニ初級軍醫科士官又ハ藥劑科士官ニ必要スル學術技能ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第十七條　選科學生ハ海軍軍醫科士官又ハ藥劑科士官ニシテ專門ノ學科ヲ研究スルコトヲ志願シ且實務ノ成績優等ニシテ之ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル者ニ就キ其ノ學科ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

海軍大臣必要ト認ムルトキハ海軍軍醫科士官又ハ藥劑科士官ニ其ノ專修スヘキ學科ヲ指定シ選科學生ヲ命スルコトヲ得

第十七條ノ二　選修學生ハ海軍看護兵曹長ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ將來看護科特務士官トシテ所要ノ勤務ニ服スルニ必要ナル素養ヲ與フル爲志願ニ基キ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

一　身體強健實務ノ成績優等ニシテ高等武官トシテ所要ノ勤務ニ服セシムルニ適當ナル識量ヲ有スト認ムル者

二　入學試驗ニ合格シタル者

第十八條　海軍軍醫學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十九條　削除

第二十條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ選科學生ヲ海軍部外ノ學校、研究所等ニ委託シ修業セシムルコトヲ得

第二十一條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ海軍士官ニ在リテハ海軍大臣、海軍准士官ニ在リテハ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第二十二條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ選修學生以外ノ學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第十五條及第十六條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ選修學生ヲ免スルコトヲ得

第二十三條　鎭守府司令長官前條ノ規定ニ依リ選修學生ヲ免シタルトキハ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十四條　海軍大臣ハ海軍軍醫學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍軍醫科藥劑科士官又ハ看護科特務士官准士官ヲシテ必要ナル學術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十五條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ患者診療ニ關スル規程ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍軍醫學校ニ在學スル甲種學生ハ之ヲ高等科學生、乙種學生ハ之ヲ普通科學生、研究科學生ハ之ヲ選科學生ト看做ス

●海軍經理學校令

大正七年八月十五日
勅令第三百二十三號

改正　大正九年第二〇五號、第五二六號、一一年第三一八號、第四五一號、一二年第一三七號

朕海軍經理學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍經理學校令

第一條　海軍經理學校ハ海軍主計科士官ト爲スヘキ生徒ヲ教育シ海軍主計兵曹長ニ對シ主計科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施シ海軍主計科士官ニ對シ之ニ必要ナル學術ヲ教授シ兼テ之ヲシテ職務ヲ練習セシメ海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス

海軍經理學校ニ於テハ前項ノ外海軍ニ必要ナル會計經理ノ研究及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第二條　海軍經理學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍經理學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
監事
軍醫長
主計長
附

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ主計科士官席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務及教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第九條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任シ會計經理ノ研究又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　監事ハ教頭ノ命ヲ承ケ學生、生徒及練習生ヲ監督ス

第十一條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　海軍經理學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　海軍經理學校生徒ハ年齡十六年以上二十一年以下ニシテ海軍主計科士官タラムコトヲ志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス但シ現役海軍下士官兵タル志願者ニ付テハ年齡ハ二十三年以下トス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ生徒ニ之ヲ採用セス

一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者又ハ破産者
四　品行不正其ノ他ノ事情ニ依リ將來海軍主計科士官タル體面ヲ保ツコト能ハスト認ムル者

第十六條　生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第十七條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ之ヲ編入ス

第十八條　生徒ノ修業期間ハ三年トス但シ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十九條　生徒所定ノ教程ヲ卒業シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス

第二十條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十一條　生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一　海軍主計科士官タルヘキ器量ニ乏シキ者
二　品行不正又ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
三　學業ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
四　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十二條　海軍經理學校ニ於テ修習スル海軍准士官以上ヲ海軍經理學校學生、海軍下士官兵ヲ海軍經理學校練習生ト稱ス

第二十三條　海軍經理學校學生ハ之ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　高等科學生
二　普通科學生
三　選科學生
四　選修學生

第二十四條　高等科學生ハ身體強健實務ノ成績優等ニシテ會計經理ニ關スル高等ノ學術ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル海軍主計少佐又ハ主計大尉ニ就キ要職ニ充ツルニ適スル素養ニ必要ナル會計經理ニ關スル學術ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

第二十五條　普通科學生ハ海軍主計中尉又ハ主計少尉ニ初級主計科士官ニ必要ナル學術ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第二十六條　選科學生ハ海軍主計科士官ニシテ專門ノ學科ヲ研究スルコトヲ志願シ且實務ノ成績優等ニシテ之ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル者ニ就キ其ノ學科ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

海軍大臣必要ト認ムルトキハ海軍主計科士官ニ其ノ專修スヘキ學科ヲ指定シ選科學生ヲ命スルコトヲ得

第二十七條　選修學生ハ海軍主計兵曹長ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ將來主計科特務士官トシテ所要ノ勤務ニ服スルニ必要ナル素養ヲ與フル爲志願ニ基キ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

一　身體強健實務ノ成績優等ニシテ高等武官トシテ所要ノ勤務ニ服セシムルニ適當ナル識量ヲ有スト認ムル者

二　入學試驗ニ合格シタル者

第二十八條　海軍經理學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十九條　削除

第三十條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ選科學生ヲ海軍部外ノ學校等ニ委託シ修業セシムルコトヲ得

第三十一條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ海軍士官ニ在リテハ海軍大臣、海軍准士官ニ在リテハ海軍大臣ノ指定ニ依リ在籍鎭守府司令長官其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第三十二條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ高等科學生、普通科學生又ハ選科學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第二十四條及第二十五條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ選修學生ヲ免スルコトヲ得

第三十二條ノ二　鎭守府司令長官前條ノ規定ニ依リ選修學生ヲ免シタルトキハ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第三十三條　海軍經理學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三十四條　海軍大臣ハ海軍經理學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍士官特務士官准士官下士官ヲシテ必要ナル學術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍經理學校ニ在學スル生徒ノ修業期間ハ從前ノ規定ニ依ル但シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ四月ヲ超エサル期間之ヲ短縮スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ海軍經理學校ニ在學スル甲種學生ハ之ヲ高等科學生、乙種學生ハ之ヲ普通科學生、丙種學生ハ之ヲ特修科學生ト看做ス

●海軍砲術學校令

大正七年八月十五日
勅令第三百二十一號

改正　大正八年第二七〇號、九年第二〇三號、一一年第四四七號、一二年第一三八號、一四年第七一號

朕海軍砲術學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍砲術學校令

第一條　海軍砲術學校ハ海軍兵科將校特務士官准士官及海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル砲術ヲ教授スル所トス

海軍砲術學校ニ於テハ前項ノ外海軍ニ必要ナル砲術ノ研究及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第二條　海軍砲術學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍砲術學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
分隊長
軍醫長
主計長
附

第四條　校長ハ横須賀鎭守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス但シ第一條第二項ニ掲クル事項ニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ承ク

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ兵科將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務及教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第九條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任シ砲術ノ研究又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　分隊長ハ教頭ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練ス

第十一條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　海軍砲術學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

第十四條　附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　海軍砲術學校ニ於テ修習スル海軍兵科准士官以上ヲ海軍砲術學校學生、海軍下士官兵ヲ海軍砲術學校練習生ト稱ス

第十六條　海軍砲術學校學生ハ之ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　高等科學生
二　普通科學生
三　特修科學生
四　專攻科學生

第十七條　高等科學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ高等ノ砲術ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル海軍大尉又ハ中尉ニ就キ砲術長ノ素養ニ必要ナル砲術ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

第十八條　普通科學生ハ海軍中尉又ハ少尉ニ初級兵科將校ニ必要ナル砲術ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第十九條　特修科學生ハ海軍兵科佐尉官特務士官准士官ニシテ志願スル者ニ就キ又ハ特ニ必要ト認ムル者ニ對シ必要ナル砲術ヲ修習セシムル爲海軍兵科佐尉官ニ在リテハ海軍大臣、海軍兵科特務士官准士官ニ在リテハ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

第二十條　專攻科學生ハ海軍砲術學校高等科學生教程ヲ終了シタル者ニ就キ砲術中特ニ研究項目ヲ指定シ之ヲ專攻セシムル爲必要ニ應シ海軍大臣之ヲ命ス

第二十一條　海軍砲術學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十二條　削除

第二十三條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ横須賀鎭守府司令長官ニ稟申シ横須賀鎭守府司令長官其ノ稟申ヲ至當ト認ムルトキハ海軍士官ニ在リテハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ他所管ノ海軍特務士官准士官ニ在リテハ之ヲ在籍鎭守府司令長官ニ移牒シ海軍大臣又ハ鎭守府司令長官ハ其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第二十四條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル特修科學生ヲ除クノ外學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第十七條乃至第十九條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル特修科學生ヲ免スルコトヲ得

第二十五條　海軍砲術學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十六條　校長ハ横須賀鎭守府司令長官ノ認可ヲ受ケ學生又ハ練習生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第二十七條　海軍大臣ハ文部省直轄商船專門學校生徒又ハ海軍豫備員ヲシテ海軍砲術學校ニ於テ必要ナル教育ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十八條　海軍大臣ハ海軍砲術學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍將校、軍醫科藥劑科造船科造機科及造兵科士官及候補生又ハ海軍特務士官准士官下士官兵ヲシテ必要ナル砲術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍水雷學校令

大正七年八月十五日
勅令第三百二十二號

改正　大正八年第二〇七號、九年第二〇四號、一一年第四四八號、一二年第一三九號

朕海軍水雷學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍水雷學校令

第一條　海軍水雷學校ハ海軍兵科將校特務士官准士官及海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル水雷術及電信術ヲ教授スル所トス

海軍水雷學校ニ於テハ前項ノ外海軍ニ必要ナル水雷術及電信術ノ研究竝其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第二條　海軍水雷學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍水雷學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
分隊長
軍醫長
主計長
附

第四條　校長ハ横須賀鎭守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス但シ第一條第二項ニ掲クル事項ニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ承ク

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ兵科將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務及教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第九條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任シ水雷術若ハ電信術ノ研究又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　分隊長ハ教頭ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練ス

第十一條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　海軍水雷學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

第十四條　附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　海軍水雷學校ニ於テ修習スル海軍兵科准士官以上ヲ海軍水雷學校學生、海軍下士官兵ヲ海軍水雷學校練習生ト稱ス

第十六條　海軍水雷學校學生ハ之ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　高等科學生
二　普通科學生
三　特修科學生
四　專攻科學生

第十七條　高等科學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ高等ノ水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル海軍大尉又ハ中尉ニ就キ水雷長又ハ通信長ノ素養ニ必要ナル水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

第十八條　普通科學生ハ海軍中尉又ハ少尉ニ初級兵科將校ニ必要ナル水雷術及電信術ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第十九條　特修科學生ハ海軍兵科佐尉官特務士官准士官ニシテ志願スル者ニ就キ又ハ特ニ必要ト認ムル者ニ對シ必要ナル水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムル爲海軍兵科佐尉官ニ在リテハ海軍大臣、海軍兵科特務士官准士官ニ在リテハ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

第二十條　專攻科學生ハ海軍水雷學校高等科學生教程ヲ終了シタル者ニ就キ水雷術又ハ電信術中特ニ研究項目ヲ指定シ之ヲ專攻セシムル爲必要ニ應シ海軍大臣之ヲ命ス

第二十一條　海軍水雷學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十二條　削除

第二十三條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ横須賀鎭守府司令長官ニ稟申シ横須賀鎭守府司令長官其ノ稟申ヲ至當ト認ムルトキハ海軍士官ニ在リテハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ他所管ノ海軍特務士官准士官ニ在リテハ之ヲ在籍鎭守府司令長官ニ移牒シ海軍大臣又ハ鎭守府司令長官ハ其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第二十四條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル特修科學生ヲ除クノ外學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第十七條乃至第十九條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル特修科學生ヲ免スルコトヲ得

第二十五條　海軍水雷學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十六條　校長ハ横須賀鎭守府司令長官ノ認可ヲ受ケ學生又ハ練習生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第二十七條　海軍大臣ハ海軍豫備員ヲシテ海軍水雷學校ニ於テ必要ナル水雷術又ハ電信術ノ教授ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十八條　海軍大臣ハ海軍水雷學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍將校造兵科士官又ハ海軍特務士官准士官下士官兵ヲシテ必要ナル水雷術又ハ電信術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍潜水學校令

大正九年九月四日
勅令第三百六十三號

改正　大正一一年第四四九號、一二年第一四〇號、一三年第二九七號

朕海軍潜水學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍潜水學校令

第一條　海軍潜水學校ハ海軍將校兵科及機關科特務士官准士官下士官兵ヲシテ潜水艦ニ關スル須要ナル實務ヲ練習セシメ之ニ對シ潜水艦ニ關スル學術ヲ教授スル所トス

海軍潜水學校ニ於テハ前項ノ外潜水艦ニ關スル研究及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第二條　海軍潜水學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海軍潜水學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
分隊長
軍醫長
主計長
附

第四條　校長ハ呉鎭守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス但シ第一條第二項ニ掲クル事項ニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ承ク

第五條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　校長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ兵科將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務及教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第九條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各科ノ教授ヲ擔任シ潜水艦ニ關スル研究又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　分隊長ハ校長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練ス

第十一條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　海軍潜水學校ニ附ニ充ツル爲判任文官ヲ置ク

第十四條　附ハ海軍士官特務士官准士官下士官兵及判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　海軍潜水學校ニ於テ修習スル海軍准士官以上ヲ海軍潜水學校學生、海軍下士官兵ヲ海軍潜水學校練習生ト稱ス

第十六條　海軍潜水學校學生ハ之ヲ左ノ五種ニ區別ス

一　甲種學生
二　乙種學生
三　機關學生
四　特修科學生
五　專攻科學生

第十七條　甲種學生ハ海軍潜水學校乙種學生教程ヲ修了シタル者又ハ之ニ準スヘキ經歷ヲ有スル海軍少佐若ハ大尉ニ就キ潜水艦長トシテ其ノ職務ヲ遂行スルニ必要ナル學術技能ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第十八條　乙種學生ハ海軍水雷學校高等科學生教程ヲ修了シタル者又ハ之ニ準スヘキ兵科尉官ニ就キ潜水艦乘組兵科將校トシテ其ノ職務ヲ遂行スルニ必要ナル事項ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第十九條　機關學生ハ海軍機關學校普通科學生教程ヲ終了シタル機關科尉官ニ就キ潜水艦乘組機關科將校トシテ其ノ職務ヲ遂行スルニ必要ナル事項ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ス

第二十條　特修科學生ハ海軍將校兵科及機關科特務士官准士官ニシテ志願スル者ニ就キ又ハ特ニ必要ト認ムル者ニ對シ潜水艦ノ職員トシテ必要ナル事項ヲ修習セシムル爲海軍將校ニ在リテハ海軍大臣、特務士官准士官ニ在リテハ在籍ノ鎭守府司令長官之ヲ命ス

第二十一條　專攻科學生ハ海軍將校ニ就キ潛水艦ニ關スル事項中特ニ研究項目ヲ指定シ之ヲ專攻セシムル爲必要ニ應シ海軍大臣之ヲ命ス

第二十二條　海軍潛水學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十三條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ吳鎭守府司令長官ニ稟申シ吳鎭守府司令長官其ノ稟申ヲ至當ト認ムルトキハ海軍將校ニ在リテハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ他所管ノ海軍特務士官准士官ニ在リテハ之ヲ在籍ノ鎭守府司令長官ニ移牒シ海軍大臣又ハ鎭守府司令長官ハ其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第二十四條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル特修科學生ヲ除クノ外學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第十七條乃至第二十一條ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル特修科學生ヲ免スルコトヲ得

第二十五條　海軍潛水學校練習生其ノ教程ヲ修了シタルトキハ海軍潛水學校練習生修業徽章ヲ授與ス

第二十六條　海軍潛水學校練習生及海軍潛水學校練習生修業徽章ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十七條　校長ハ吳鎭守府司令長官ノ認可ヲ受ケ學生又ハ練習生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該艦長ノ指揮ヲ受ク

第二十八條　海軍大臣ハ海軍潛水學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍軍人ニ對シ必要ナル講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍軍令部條例

大正三年八月二十五日軍令海第七號
改正　大正五年第八號、七年第二號

朕海軍軍令部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

海軍軍令部條例

第一條　海軍軍令部ハ國防用兵ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條　海軍軍令部ニ部長ヲ置ク

海軍軍令部長ハ天皇ニ直隷シ帷幄ノ機務ニ參シ又海軍軍令部ノ部務ヲ統理ス

第三條　海軍軍令部長ハ親補トス

海軍軍令部長ハ國防用兵ニ關スルコトヲ參畫シ親裁ノ後之ヲ海軍大臣ニ移ス但シ戰時ニ在リテ大本營ヲ置カレサル場合ニ於テハ作戰ニ關スルコトハ海軍軍令部長之ヲ傳達ス

第四條　海軍軍令部ニ次長ヲ置キ海軍軍令部長ヲ補佐シ部務ヲ整理セシム

第五條　海軍軍令部ニ副官ヲ置キ庶務ヲ掌理セシム

第六條　海軍軍令部ニ參謀ヲ置キ左ノ事項ヲ分掌セシム

一　出師及作戰ノ計畫、艦船ノ配備竝其ノ進退役務ニ關スルコト
二　艦隊、軍隊ノ編制、運動法、運輸通信、演習、檢閱ニ關スルコト
三　軍港要港防禦港其ノ他軍事上必要ナル地點ノ選定及其ノ防禦計畫ニ關スルコト
四　軍事諜報、翻譯及編纂ニ關スルコト

第七條　海軍軍令部ニ出仕トシテ【海軍將校同相當官】ヲ置キ海軍軍令部長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條　在外帝國大使館及公使館ニ大使館附武官、公使館附武官及同補佐官トシテ海軍將校ヲ置キ海軍軍令部長ヲシテ之ヲ管セシム

第九條　前諸條ニ揭クル職員ノ外海軍軍令部ニ海軍編修、海軍船匠長、船匠師、書記、編修書記及技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

●鎭守府令

大正十二年八月二十三日軍令海第五號

朕鎭守府條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

鎭守府令

第一條　各軍港ニ鎭守府ヲ置ク

鎭守府ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　鎭守府ハ所管海軍區（要港部所管ノ警備區ヲ除ク）ノ防禦及警備竝所管ノ出師準備ニ關スルコトヲ掌リ又所屬各部ヲ監督スル所トス

第三條　鎭守府ニ司令長官ヲ置ク

司令長官ハ親補トス

第四條　司令長官ハ天皇ニ直隷シ部下ノ艦船部隊ヲ統率シ又海軍大臣ノ命ヲ承ケ軍政ヲ掌ル

第五條　司令長官ハ府務ヲ總理シ部下ノ軍紀風紀及敎育訓練ヲ統監ス

第六條　司令長官ハ部下艦船部隊ヲ第一、第二、第三海軍區及其ノ他ノ所管海軍區ニ派遣スルコトヲ得

第七條　司令長官ハ其ノ軍港ニ於ケル守備、秩序ノ維持及齊一ヲ要スル重大ナル事項ニ關シ同所ニ在ル後任指揮官ノ率ヰル艦船部隊ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之カ爲當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルニ至リタルトキハ司令長官ハ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告シ且當該艦船部隊ノ所屬長官ニ通報スヘシ

第八條　司令長官ハ戰時、事變、演習等ニ際シ任務上必要アルトキハ一時部下艦船部隊ノ編制ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第九條　司令長官ハ所管海軍區ノ警備ニ關シテハ當該區警備ノ任務ヲ有スル艦隊司令長官ト氣脈ヲ通スヘシ

第十條　司令長官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ノ請求アリタルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得但シ地方長官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ便宜兵力ヲ用ヰルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第十一條　司令長官ハ要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第十二條　司令長官ハ部下雜役船ニ乘員ヲ要スルトキハ部下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第十三條　司令長官ハ疾病其ノ他已ムヲ得サル事情アルトキハ海軍大臣ノ承認ヲ經テ一時部下ノ人員ヲ移轉轉勤セシムルコトヲ得但シ事急ニシテ海軍大臣ノ承認ヲ經ルノ遑ナキトキハ便宜之ヲ處理シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條　司令長官ハ特務士官、准士官、下士官及兵ヲ所管各部ニ配員ス

第十五條　司令長官ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十六條　司令長官缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長
參謀
副官
人事長
機關長
軍醫長
主計長
法務長

前項幕僚ノ外鎭守府ニ文庫主管ヲ置キ又必要ニ應シ出仕（士官、特務士官、高等文官）及附（士官、特務士官、准士官、下士官、兵、高等文官、判任文官）ヲ置ク

第十八條　參謀長ハ司令長官ヲ佐ケ幕僚ノ事務ヲ統ヘ府務ヲ整理ス

第十九條　參謀及副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

機關科將校タル參謀ハ前項ノ規定ニ依ルノ外機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條　人事長、機關長、軍醫長、主計長及法務長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十一條　文庫主管ハ司令長官ノ命ヲ承ケ圖書ニ關スルコトヲ掌ル

第二十二條　出仕及附ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

●要港部令

大正十二年三月二十六日軍令海第一號
改正　大正一二年第一〇號

朕要港部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

要港部令

第一條　各要港ニ要港部ヲ置ク

要港部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　要港部ハ所管警備區ノ防禦及警備ヲ掌リ兼テ軍需品ノ配給ヲ爲ス所トス

第三條　要港部ニハ必要ニ應シ艦船部隊ヲ附屬セシム

第四條　要港部ニ港務部ヲ置キ海軍港務部ニ準シ要港ノ港務ニ關スルコトヲ掌ラシム

第五條　要港部ニ軍需部ヲ置キ軍需品ノ配給ニ關スルコトヲ掌ラシム

第六條　要港部ニ工作部ヲ置キ艦船及兵器ノ工作ニ關スルコトヲ掌ラシム

第七條　要港部ニ病院ヲ置キ海軍病院ニ準シ患者ノ診療及諸般ノ衞生的檢査ニ關スルコトヲ掌ラシム

第八條　要港部ニ司令官ヲ置ク

第九條　司令官ハ天皇ニ直隷シ部下ノ艦船部隊ヲ統率シ又海軍大臣ノ命ヲ承ケ軍政ヲ掌ル

第十條　司令官ハ部務ヲ總理シ部下ノ軍紀風紀及敎育訓練ヲ統監ス

第十一條　司令官ハ部下ノ艦船部隊ヲ第一、第二及第三海軍區ニ派遣スルコトヲ得

第十二條　司令官ハ其ノ要港ニ於ケル守備秩序ノ維持及齊一ヲ要スル重大ナル事項ニ關シ同所ニ在ル後任指揮官ノ率ヰル他所屬ノ艦船部隊ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之カ爲當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルニ至リタルトキハ司令官ハ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告シ且當該艦船部隊ノ所屬長官ニ通報スヘシ

第十二條ノ二　司令官ハ戰時、事變、演習等ニ際シ任務上必要アルトキハ一時部下艦船部隊ノ編制ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第十三條　司令官ハ所管警備區ノ警備ニ關シテハ當該區警備ノ任務ヲ有スル艦隊司令長官ト氣脈ヲ通スヘシ

第十四條　司令官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ノ請求アリタルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得但シ地方長官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ便宜兵力ヲ用ヰルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事後速ニ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第十五條　司令官ハ要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第十六條　司令官ハ軍政ニ關シテハ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎭守府司令長官ノ區處ヲ受ク但シ海軍大臣ハ必要ニ應シ司令官ヲシテ軍政ノ一部又ハ全部ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十七條　要港部及其ノ所屬陸上部隊ニ要スル特務士官准士官下士官兵ノ配員竝要港部及其ノ所屬各部ニ要スル軍需品ノ供給ハ所在海軍區ヲ管スル鎭守府ノ所掌トス

第十八條　司令官ハ部下雜役船ニ乘員ヲ要スルトキハ部下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第十九條　司令官ハ疾病其ノ他已ムヲ得サル事情アルトキハ海軍大臣ノ承認ヲ經テ一時部下人員ヲ移轉轉勤セシムルコトヲ得但シ事急ナルトキハ便宜之ヲ處理シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十條　司令官ハ部下ノ職員ノ一部ヲ置カサルトキ又ハ缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行又ハ代理セシムルコトヲ得

第二十一條　司令官缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　要港部ニ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長
參謀
副官
機關長
軍醫長
主計長
法務長

前項幕僚ノ外要港部ニ左ノ職員ヲ置ク

港務部長
軍需部長
工作部長
病院長
分隊長（兵科、機關科軍醫科主計科士官、兵科機關科特務士官）
部員（[illegible]）
附（[illegible]）

場合ニ依リ本條職員ノ一部ヲ置カス又必要ニ應シ軍[illegible]

第二十三條　參謀長ハ司令官ヲ佐ケ幕僚ノ事務ヲ統ヘ部務ヲ整理ス

第二十四條　參謀及副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十五條　機關長、軍醫長、主計長及法務長ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十六條　部長ハ司令官ノ命ヲ承ケ各部務ヲ掌ル

第二十七條　病院長ハ司令官ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌ル

第二十八條　分隊長ハ司令官ノ命ヲ承ケ司令官指定ノ分隊ヲ指揮統率シ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理ス

前項ノ外分隊長ハ司令官ノ指定ニ依リ參謀長其ノ他ノ職員ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十九條　部員及附ハ司令官ノ指定ニ依リ各上官ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

當分ノ間大湊要港部、鎭海要港部及馬公要港部ニ軍需部[illegible]

當分ノ間舞鶴要港部工作部ニ在リテハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ海軍工廠ノ規定ヲ準用セシムルコトヲ得

●海軍港務部條例

大正二年三月二十九日軍令海第十三號

朕海軍港務部條例ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

海軍港務部條例

第一條　各軍港ニ海軍港務部ヲ置ク

港務部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　港務部ハ軍港水域ノ警衞、艦船ノ繫留、出入渠、淺渫船ノ使用、海難、運輸、救難、海上防火等ノ事及海軍大臣ノ指定スル軍港防禦ノ一部ニ關スルコトヲ掌ル

第三條　港務部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
副官
部員
主計長

前項ノ外必要ニ應シ[illegible]

第四條　部長ハ鎭守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條　部長ハ[illegible]

第六條　部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　部長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第八條　副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ

掌ル

第九條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　前諸條ニ掲クル職員ノ外【海軍兵曹長同相當官】竝准士官【下士卒】ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●防備隊令（大正九年六月二十四日軍令海第三號）

改正　大正一二年第二號、一三年第三號

朕防備隊令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

防備隊令

第一條　各軍港要港ニ防備隊ヲ置ク

防備隊ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　防備隊ハ當該鎭守府又ハ要港部ニ屬ス但シ鎭守府又ハ要港部ヲ置カサル軍港又ハ要港ノ防備隊ハ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎭守府ニ屬ス

第三條　防備隊ハ海面防禦ニ關スルコトヲ掌リ又海兵團同所ニ在ラサルトキハ當該軍港又ハ要港ノ警備及陸上防火ヲ兼掌ス

第四條　防備隊ニハ必要ニ應シ艦船部隊ヲ附屬ス

第五條　防備隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令
副長
水雷長
機關長
軍醫長
主計長
分隊長（兵科機關科軍醫科主計科士官、兵科機關科特務士官）
隊附（兵科機關科軍醫科主計科士官、兵科機關科船匠科看護科主計科特務士官准士官下士官兵）

場合ニ依リ前項職員中其ノ一部ヲ置カス

第六條　司令ハ鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ニ隷シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス

第七條　司令ハ必要ニ應シ第五條ニ掲クル部下ノ職員ヲ附屬特務艇又ハ雜役船ニ配置スルコトヲ得

第八條　司令ハ必要ニ應シ第五條ニ掲クル部下ノ職員及附屬ノ艦船部隊ノ職員ヲ附屬ノ他ノ艦船部隊ニ臨時配置スルコトヲ得

第九條　司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十條　司令缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　副長ハ司令ヲ補佐シ隊務ヲ整理シ隊員ノ服務ヲ監督ス

第十二條　水雷長ハ司令ノ命ヲ承ケ機雷、掃海具及防材ニ關スルコトヲ擔任シ之ニ從事スル隊員ノ教育訓練ヲ掌リ且其ノ作業ヲ指揮シ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十三條　機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ機關科員ヲ監督シ機關ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十四條　軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ醫務科員ヲ監督シ醫務衞生ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十五條　主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ主計科員ヲ監督シ會計給與及厨業ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十六條　兵科分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ司令指定ノ分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ主管又ハ分擔ノ防備及諸物件ヲ整備ス

第十七條　機關科分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ司令指定ノ機關分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外機關科分隊長ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十八條　軍醫科分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ醫務分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外軍醫科分隊長ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十九條　主計科分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ主計分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外主計科分隊長ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條　隊附兵科士官特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ司令、副長、水雷長又ハ兵科分隊長ニ、隊附船匠科特務士官准士官ハ兵科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十一條　隊附機關科士官特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ機關長又ハ機關科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十二條　隊附軍醫科士官及看護科特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ軍醫長又ハ軍醫科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十三條　隊附主計科士官特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ主計長又ハ主計科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十四條　隊附下士官兵ハ分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十五條　戰時又ハ事變ニ際シ特ニ設置スル防備隊等ハ別ニ定ムル所ニ依リ常設ノ防備隊ヨリ隊員ノ一部ヲ分派シ之ヲ基礎トシテ編成スルモノトス

前項ノ特設ノ防備隊等ニ關スル事務ハ平時ニ在リテハ前項ノ常設ノ防備隊ニ於テ之ヲ處理ス

第二十六條　艦隊其ノ他ニ防備隊ヲ附屬セシムルトキハ本令ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ

第二十七條　防備隊職員服務ノ細項ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海兵團令（大正九年六月二十四日軍令海第二號）

朕海兵團令ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

海兵團令

第一條　各軍港ニ海兵團ヲ置ク

海兵團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海兵團ハ當該鎭守府ニ屬シ軍港ノ警衞及陸上ノ防火ヲ掌リ又補缺員ヲ統轄ス

第三條　海兵團ニハ必要ニ應シ艦船ヲ附屬ス

第四條　海兵團ハ艦船部隊其ノ他各部ノ勤務又ハ練習ヲ免セラレタル海軍下士官兵ヲ補缺員トシテ收容シ必要ニ應シ之ヲ艦船部隊其ノ他各部定員ノ補缺ニ充當ス

前項ノ補缺員ハ臨時ノ業務ニ服セシムルコトヲ得

第五條　海兵團ニハ左ノ職員ヲ置ク

團長
副長
機關長
軍醫長
主計長
分隊長（兵科機關科軍醫科主計科士官、兵科機關科特務士官）
團附（兵科機關科軍醫科主計科士官、各科特務士官准士官下士官兵）

場合ニ依リ前項職員中其ノ一部ヲ置カス

第六條　團長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ團務ヲ總理ス

第七條　團長ハ必要ニ應シ部下ノ職員ヲ附屬艦船ニ起臥セシムルコトヲ得

第八條　團長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第九條　團長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　副長ハ團長ヲ補佐シ團務ヲ整理シ團員ノ服務ヲ監督ス

第十一條　機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ機關科員ヲ監督シ機關ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十二條　軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務科員ヲ監督シ醫務衞生ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十三條　主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ主計科員ヲ監督シ會計給與及厨業ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十四條　兵科分隊長ハ團長ノ命ヲ承ケ團長指定ノ分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ主管又ハ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第十五條　機關科分隊長ハ團長ノ命ヲ承ケ團長指定ノ機關分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外機關科分隊長ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十六條　軍醫科分隊長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外軍醫科分隊長ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　主計科分隊長ハ團長ノ命ヲ承ケ主計分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長ト爲リ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外主計科分隊長ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十八條　團附兵科士官特務士官准士官ハ團長ノ指定ニ依リ團長、副長又ハ兵科分隊長ニ、團附軍樂科船匠科特務士官准士官ハ兵科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第十九條　團附機關科士官特務士官准士官ハ團長ノ指定ニ依リ機關長又ハ機關科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十條　團附軍醫科士官及看護科特務士官准士官ハ團長ノ指定ニ依リ軍醫長又ハ軍醫科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十一條　團附主計科士官特務士官准士官ハ團長ノ指定ニ依リ主計長又ハ主計科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十二條　團附下士官兵ハ分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ受ク

第二十三條　海兵團職員服務ノ細項ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

海兵團條例ハ之ヲ廢止ス

●海兵團練習部令（大正九年六月二十四日勅令第百八十八號）

朕海兵團練習部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海兵團練習部令

第一條　海兵團練習部ハ各海兵團ニ之ヲ置ク

練習部ハ海軍四等兵ノ教育ヲ掌リ必要ニ應シ海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵、特殊ノ技藝ヲ修得セシムヘキ海軍兵及海軍豫備練習生ヲ教育ス

第二條　練習部ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　海兵團ニ練習部ノ教育ヲ掌ラシムル爲左ノ職員ヲ置ク

教務副官
教官

第四條　海兵團長ハ鎭守府司令長官ノ指揮ヲ承ケ練習部ノ部務ヲ總理ス

第五條　教務副官ハ團長ノ命ヲ承ケ練習部ノ教務ヲ掌理ス

第六條　教官ハ團長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第七條　團長ハ必要ニ應シ第三條ニ掲クル職員以外ノ海兵團職員ヲシテ練習部ニ關スルコトヲ掌ラシムルコトヲ得

第八條　練習部ニ於テ教育スル海軍四等兵ヲ新兵、海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ヲ練習生、其ノ他ノ兵ヲ補習生ト稱ス

第九條　新兵、練習生及補習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍航空隊令（大正十年四月二十九日軍令海第一號）

朕海軍航空隊令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

海軍航空隊令

第一條　各軍港其ノ他要地ニ海軍航空隊ヲ置ク

海軍航空隊ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍航空隊ハ其ノ所在地ヲ管轄スル鎭守府ニ屬シ空中防禦ニ關スルコトヲ掌ル

軍港所在ノ海軍航空隊ハ前項ノ外海面防禦ニ關スルコトヲ分掌ス

第三條　海軍航空隊ニ若干ノ飛行隊、氣球隊及航空船隊ヲ置キ又必要ニ應シ艦船ヲ附屬ス

第四條　海軍航空隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令
副長
副官
飛行隊長
氣球隊長
航空船隊長
機關長
軍醫長
主計長
分隊長（兵科機關科士官特務士官、軍醫科主計科士官）
隊附（兵科機關科軍醫科主計科士官、兵科機關科船匠科看護科主計科特務士官准士官下士官兵）

場合ニ依リ前項職員ノ一部ヲ置カス又必要ニ應シ軍屬其ノ他ノ人員ヲ置ク

第五條　司令ハ鎭守府司令長官ニ隷シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス

第六條　司令ハ必要ニ應シ飛行隊、氣球隊若ハ其ノ一部又ハ部下職員ヲ一時附屬艦船ニ配置スルコトヲ得

第七條　司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條　司令缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　副長ハ司令ヲ補佐シ隊務ヲ整理シ隊員ノ服務ヲ監督ス

第十條　副官ハ司令ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十一條　飛行隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ司令指定ノ飛行隊ヲ指揮監督シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管又ハ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第十二條　氣球隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ氣球隊ヲ指揮監督シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管又ハ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第十三條　航空船隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ航空船隊ヲ指揮監督シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管又ハ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第十四條　機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ飛行機ノ修補竝機關及瓦斯ニ關スルコトヲ擔任シ且之ニ從事スル隊員ヲ監督シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ飛行隊長、氣球隊長又ハ航空船隊長ニ屬スル隊附機關科士官特務士官准士官竝兵科分隊長ニ屬スル隊附機關科特務士官准士官ノ職務及其ノ教育ヲ監督ス

第十五條　軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ醫務科員ヲ監督シ醫務衞生ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備ス

第十六條　主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ主計科員ヲ監督シ會計給與及厨業ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ諸物件ヲ整備シ又副官ヲ置カサルトキハ庶務ヲ掌理ス

第十七條　兵科分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ司令指定ノ分隊ヲ指揮統御シ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ主管又ハ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第十八條　機關科分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ司令指定ノ分隊ヲ指揮統御シ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ教育及人事ヲ掌理シ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外機關科分隊長ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十九條　軍醫科分隊長ハ司令ノ命チ承ケ醫務分隊チ指揮統御シ軍紀風紀チ維持シ隊員ノ教育及人事チ掌理シ分擔ノ諸物件チ整備ス

前項ノ外軍醫科分隊長ハ軍醫長ノ命チ承ケ服務ス

第二十條　主計科分隊長ハ司令ノ命チ承ケ主計分隊チ指揮統御シ軍紀風紀チ維持シ隊員ノ教育及人事チ掌理シ分擔ノ諸物件チ整備ス

前項ノ外主計科分隊長ハ主計長ノ命チ承ケ服務ス

第二十一條　隊附兵科士官特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ司令、副長、飛行隊長、氣球隊長、航空船隊長又ハ兵科分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

前項ノ外隊附兵科特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ機關長又ハ機關科分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

第二十二條　隊附機關科士官特務士官准士官、船匠科特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ飛行隊長、氣球隊長、航空船隊長、機關長又ハ機關科分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

前項ノ外隊附機關科船匠科特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ兵科分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

第二十三條　隊附軍醫科士官、看護科特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ軍醫長又ハ軍醫科分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

第二十四條　隊附主計科士官特務士官准士官ハ司令ノ指定ニ依リ主計長又ハ主計科分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

第二十五條　隊附下士官兵ハ分隊長ニ屬シ各其ノ命チ承ケ服務ス

第二十六條　航空隊職員服務ノ細項ニ關シテハ海軍大臣之チ定ム

●海軍航空隊練習部令

（大正十年四月二十九日勅令第百七十九號）
改正　大正一一年第四五三號、一二年第一四二號、一四年第二八號、第二五五號

朕海軍航空隊練習部令チ裁可シ茲ニ之チ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍航空隊練習部令

第一條　海軍航空隊練習部ハ必要ニ應シ海軍航空隊ニ之チ置ク

海軍航空隊練習部ハ海軍兵科機關科士官特務士官准士官及海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ニ對シ航空術チ教授シ且航空ニ關スル研究及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査チ行フ

第二條　練習部ノ教育綱領ハ海軍大臣之チ定ム

第三條　練習部チ置ク海軍航空隊ニ左ノ職員チ置ク

教務副官

教頭

教官

第四條　練習部チ置ク海軍航空隊ノ司令ハ鎭守府司令長官ノ指揮チ受ケ練習部ノ部務チ總理ス

第五條　教務副官ハ司令ノ命チ承ケ教務チ掌ル

第五條ノ二　教頭ハ司令チ佐ケ練習部ノ部務チ整理ス

第六條　教官ハ司令ノ命チ承ケ教授チ擔任シ且航空ニ關スル研究又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトチ掌ル

第七條　司令ハ必要ニ應シ第三條ニ掲クル職員以外ノ海軍航空隊職員チシテ練習部ニ關スルコトチ掌ラシムルコトチ得

第八條　練習部ニ於テ修習スル准士官以上チ學生、下士官兵チ練習生ト稱ス

第九條　海軍航空隊學生ハ之チ左ノ六種ニ區別ス

一　飛行學生
二　偵察學生
三　航空船學生
四　整備學生
五　特修科學生
六　專攻科學生

第十條　飛行學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ飛行機操縱將校トシテ必要ナル學術技能チ修習セシムルニ適スト認ムル海軍中尉又ハ少尉ニ就キ海軍大臣之チ命ス

第十條ノ二　偵察學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ偵察其ノ他ノ機上作業ニ關スル學術技能チ修習セシムルニ適スト認ムル海軍中尉又ハ少尉ニ就キ海軍大臣之チ命ス

第十條ノ三　航空船學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ航空船及氣球操縱將校トシテ必要ナル學術技能チ修習セシムルニ適スト認ムル海軍中尉又ハ少尉ニ就キ海軍大臣之チ命ス

第十條ノ四　整備學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ航空機ノ整備ニ關スル學術技能チ修習セシムルニ適スト認ムル海軍機關科尉官ニ就キ海軍大臣之チ命ス

第十條ノ五　特修科學生ハ海軍士官特務士官准士官ニシテ志願スルモノニ就キ又ハ特ニ必要ト認ムル者ニ對シ航空關係職員トシテ必要ナル事項チ修習セシムル爲士官ニ在リテハ海軍大臣、特務士官准士官ニ在リテハ在籍ノ鎭守府司令長官之チ命ス

第十條ノ六　專攻科學生ハ海軍將校ニ就キ航空術中特ニ研究項目チ指定シテ之チ專攻セシムル爲必要ニ應シ海軍大臣之チ命ス

第十條ノ七　海軍航空隊學生ノ修業期間ハ海軍大臣之チ定ム

第十一條　司令ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ鎭守府司令長官ニ之チ稟申シ鎭守府司令長官ハ其ノ稟申チ至當ト認ムルトキハ士官ニ在リテハ海軍大臣ニ之チ具申シ特務士官准士官ニ在リテハ在籍鎭守府司令長官ニ之チ移牒シ海軍大臣又ハ在籍鎭守府司令長官ハ其ノ學生チ免スルコトチ得

第十二條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ士官タル學生チ免スルコトチ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ特務士官准士官タル學生チ免スルコトチ得

第十三條　練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之チ定ム

第十四條　司令ハ鎭守府司令長官ノ認可チ受ケ學生又ハ練習生チ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトチ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該艦長ノ指揮チ受ク

第十五條　海軍大臣ハ必要ニ應シ海軍士官特務士官准士官下士官兵、技師又ハ技手チシテ練習部ニ於テ航空術ノ講習チ受ケシムルコトチ得

第十六條　海軍大臣ハ遞信大臣ノ請求アルトキハ第一條及前條ノ規定ニ依ル事務ニ支障ナキ限リ海軍部外ノ希望者ニ對シ練習部ニ於テ航空術チ教授セシムルコトチ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之チ施行ス

●海軍望樓條例

（大正二年三月二十九日軍令海第十四號）
改正　大正三年第一號、第五號、一二年第六號

朕海軍望樓條例チ改定シ之カ施行チ命ス（海軍大臣副署）

海軍望樓條例

第一條　沿岸要所ニ海軍望樓チ置ク

海軍望樓ハ其ノ所在ノ地名チ冠稱ス

第二條　海軍望樓ハ海上見張及通信チ掌リ又氣象觀測チ行フ所トス但シ時宜ニ依リ其ノ一部チ行ハシメサルコトチ得

第三條　海軍望樓ハ其ノ所在海軍區チ管スル鎭守府ノ所管トス但シ特殊ノ場合ニ於テハ海軍大臣臨時其ノ所管チ指定スルコトチ得

要港部警備區内ニ在ル海軍望樓ハ當該要港部ノ所屬トス但シ其ノ所管ハ前項ノ規定ニ依ル

第四條　海軍望樓ニ下士官及兵チ置ク

又必要ニ應シ海軍望樓長トシテ兵科士官特務士官又ハ准士官チ置クコトチ得

戰時事變等ニ際シテハ臨時海軍軍屬チ置クコトチ得

第五條　海軍望樓長又ハ海軍望樓勤務ノ首席兵曹ハ所屬鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ指定スル參謀ノ命チ承ケ望樓ノ事務チ掌理ス

第六條　海軍望樓勤務ノ下士官及兵ハ海軍望樓長又ハ首席兵曹ノ命チ承ケ服務ス

第七條　海軍望樓長又ハ首席兵曹事故アリテ其ノ職務チ執ルコト能ハサルトキハ兵曹又ハ水兵席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務チ代理ス

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之チ施行ス

●海軍無線電信所條例

（大正二年三月二十九日軍令海第十五號）
改正　大正三年第六號、四年第一號、一〇年第三號、一二年第七號

朕海軍無線電信所條例チ制定シ之カ施行チ命ス（海軍大臣副署）

海軍無線電信所條例

第一條　軍港要港其ノ他要所ニ海軍無線電信所チ置ク

第二條　海軍無線電信所ハ其ノ所在ノ地名チ冠稱ス

海軍無線電信所ハ無線電信ニ依ル通信チ掌ル所トス

第三條　海軍無線電信所ハ其ノ所在海軍區チ管スル鎭守府ノ所管及所屬トス但シ要港部警備區内ニ在ルモノハ當該要港部ノ所屬トス

特殊ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス特ニ海軍大臣無線電信所ノ所管及所屬チ指定スルコトチ得

第四條　海軍無線電信所ニ左ノ職員チ置ク

所長（士官）

附（士官、特務士官、准士官、下士官兵、技手）

場合ニ依リ前項職員中其ノ一部チ置カス

第五條　所長ハ所屬鎭守府司令長官又ハ要港部司令官若ハ特ニ指定スル所屬長ニ隸シ所務チ掌理ス

第六條　所長缺員中又ハ事故アルトキハ部下將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務チ代理ス但シ所屬長官特ニ代理者チ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　附ハ所長ノ命チ承ケ服務ス

所長又ハ代理者チ置カサル場合ニ在リテハ附タル首席職員ハ所屬鎭守府又ハ要港部ノ參謀若ハ特ニ指定スル所屬長ノ命チ承ケ所務チ掌理ス

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之チ施行ス

●海軍軍用通信所令

（大正五年十二月二十六日軍令海第十號）

朕海軍軍用通信所令チ制定シ之カ施行チ命ス（海軍大臣副署）

海軍軍用通信所令

第一條　海軍軍用通信所ハ作戰上必要ナル地點又ハ艦船内ニ之チ設置ス

第二條　海軍軍用通信所ハ之チ海軍軍用電信所及海軍軍用郵便所ニ種別ス

海軍軍用電信所ハ主トシテ軍用電信ニ關スルコトチ掌ル

海軍軍用郵便所ハ主トシテ軍事郵便ニ關スルコトチ掌ル

海軍軍用通信所ハ其ノ所在地名又ハ第一、第二等ノ名チ冠稱ス

第三條　海軍軍用通信所ハ其ノ所在海軍區チ管スル鎭守府又ハ其ノ設置艦船ノ屬スル鎭守府ノ所管及所屬トス

特殊ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス特ニ海軍大臣其ノ所管及所屬チ指定スルコトチ得

第四條　鎭守府望樓監督官ハ司令長官ノ命チ承ケ海軍軍用電信所ニ關スルコトチ掌ル

前條第二項ノ場合ニ於テハ當該所屬長官ハ參謀長又ハ之ニ準スヘキ部下將校チシテ前項ノ鎭守府望樓監督官ニ準シ海軍軍用電信所ニ關スルコトチ掌ラシム此ノ場合ニ於テハ之チ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五條　必要ニ應シ海軍港務部ニ海軍軍用郵便監督官チ置ク

海軍港務部長ハ司令長官ノ命チ承ケ海軍軍用郵便監督官チ指揮ス

海軍軍用郵便監督官ハ海軍港務部長ノ命チ承ケ海軍軍用郵便所ニ關スルコトチ掌ル

第六條　海軍軍用電信所及海軍軍用郵便所ニ所長チ置キ又必要ニ應シ所員チ置ク

第七條　海軍軍用電信所長及海軍軍用郵便所長ハ各其ノ所屬長ノ命チ承ケ所務チ掌理ス

[illegible]

第八條　[illegible]

第九條　艦船指揮官又ハ監督官ハ守備、秩序ノ維持及衞生ニ關シ [illegible]

第十條　[illegible]

第十一條　望樓監督官及海軍港務部長ハ海軍軍用電信所又ハ海軍軍用郵便所ノ内規チ定メ之チ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十二條　必要ニ應シ海軍大臣ハ遞信大臣ト協議シ海軍軍用通信所チシテ公衆用通信チ取扱ハシムルコトチ得

第十三條　海軍大臣ハ海軍軍用通信所ノ開廢チ命シ又之チ遞信大臣ニ通報ス

第十四條　海軍軍用郵便監督官海軍軍用電信所長及所員海軍軍用郵便所長及所員ハ海軍大臣之チ命ス

第十五條　海軍大臣ハ必要ニ應シ [illegible]

第十六條　前二條ノ [illegible]

第十七條　本令中望樓監督官ニ關スル規定ハ [illegible]

附　則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之チ施行ス

海軍軍用通信所條例ハ之チ廢止ス

●海軍艦船部令

（大正十二年十二月十日勅令第五百四十七號）

朕海軍艦船部令チ裁可シ茲ニ之チ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍艦船部令

第一條　各軍港ニ海軍艦船部チ置ク

海軍艦船部ハ其ノ所在地名チ冠稱ス

第二條　海軍艦船部ハ其ノ所在ノ鎭守府ニ隸シ鎭守府所屬艦船ノ保存及整備ニ關スルコトチ掌ル

第三條　海軍艦船部ニ左ノ職員チ置ク

部長

副官

部員

第四條　部長ハ鎭守府司令長官ニ隸シ部務チ總理ス

第五條　部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員チシテ其ノ職務チ代理セシムルコトチ得

第六條　部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務チ代理ス但シ鎭守府司令長官特ニ代理者チ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　副官ハ部長ノ命チ承ケ庶務チ掌ル

第八條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條　海軍艦船部ニ判任文官ヲ置ク

第十條　附ハ海軍士官、特務士官、准士官、下士官、兵又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍人事部條例

（明治四十二年十一月二十七日　勅令第三百二十五號）
（改正　大正八年第四二〇號）

朕海軍人事部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍人事部條例

第一條　横須賀、呉、佐世保及舞鶴軍港ニ海軍人事部ヲ置ク

海軍人事部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍人事部ハ當該鎭守府ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　所屬高等武官、候補生及文官同待遇者竝在籍特務士官、准士官、【下士卒】及豫備練習生ノ人事ニ關スル事項

二　特務士官准士官及【下士卒】ノ召集及充員、【下士卒】ノ簡閲點呼竝【卒】及豫備練習生ノ徵募及採用ニ關スル事項

第三條　海軍人事部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員

第四條　部長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ部務ヲ掌理ス

第五條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第六條　部長缺員中又ハ事故アルトキハ首席部員其ノ職務ヲ代理ス

第七條　第三條ニ揭クル職員ノ外特務士官、准士官、【下士】及書記ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

本令ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●運用術練習艦令

（大正二年三月二十七日　勅令第二十八號）
（改正　大正三年第三二號、一一年第四五二號、一二年第一四一號、一五年第三四五號）

朕運用術練習艦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

運用術練習艦令

第一條　運用術及航海術練習艦ハ海軍兵科士官特務士官准士官及海軍特修兵タルヘキ海軍下士官兵ニ運用術及航海術ヲ敎授スル所トス

練習艦ニ於テハ前項ノ外運用術及航海術ノ研究竝其ノ敎育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第二條　練習艦ノ敎育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　練習艦ニハ軍艦職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

副官

敎官

第四條　艦長ハ所屬鎭守府司令長官ノ指揮ヲ受ケ練習艦ノ艦務ヲ總理ス

第五條　副官ハ艦長ノ命ヲ承ケ敎務及敎育ノ規畫ニ關スル庶務ヲ掌理ス

第六條　敎官ハ艦長ノ命ヲ承ケ敎授ヲ擔任シ且研究調査又ハ敎育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

第七條　艦長ハ必要ニ應シ敎官以外ノ職員ヲシテ敎授其ノ他練習ノコトヲ掌ラシムルコトヲ得

第八條　練習艦ニ於テ修習スル海軍兵科准士官以上ヲ運用術練習艦學生、海軍下士官兵ヲ運用術練習生ト稱ス

第九條　運用術練習艦學生ハ之ヲ左ノ二種ニ區別ス

一　航海學生

二　運用學生

第十條　航海學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ高等ノ航海術ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル海軍大尉又ハ中尉ニ就キ航海長ノ素養ニ必要ナル學術技能ヲ修習セシムル爲海軍大臣銓衡ノ上之ヲ命ス

第十條ノ二　運用學生ハ海軍兵科佐尉官特務士官准士官ニシテ特ニ運用術ヲ修習セシムル必要アル者又ハ之ヲ志願スル者ニ付士官ニ在リテハ海軍大臣、特務士官准士官ニ在リテハ在籍鎭守府司令長官之ヲ命ス

第十條ノ三　學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十一條　艦長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ練習艦所屬鎭守府司令長官ニ具申シ練習艦所屬鎭守府司令長官其ノ具申ヲ至當ト認ムルトキハ士官ニ在リテハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ特務士官准士官ニ在リテハ之ヲ在籍鎭守府司令長官ニ移牒ス海軍大臣又ハ在籍鎭守府司令長官ハ各其ノ學生ヲ免スルコトヲ得

第十二條　練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十三條　艦長ハ練習艦所屬鎭守府司令長官ノ認可ヲ受ケ學生及練習生ヲ他ノ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修學セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生及練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第十四條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍士官タル學生ヲ免スルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ第十條及第十條ノ二ノ規定ニ拘ラス再ヒ學生ヲ命スルコトヲ得

鎭守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官准士官タル運用學生ヲ免スルコトヲ得

第十五條　海軍大臣ハ練習艦ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍兵科佐尉官、造船科士官、兵科特務士官准士官及下士官兵ニ必要ノ講習ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　練習艦二隻以上ナルトキハ首席艦長ハ練習ノコトニ關シ後任艦長ヲ指揮ス

前項ノ場合ニ於テハ首席艦長ノ艦ニノミ副官ヲ置ク

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令第四百五十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特務艦ヲ以テ運用術練習艦ニ充ツルトキハ本令ヲ準用ス

●海軍軍需部令

（大正十二年三月二十六日　勅令第五十四號）
（改正　昭和二年第六七號）

朕海軍軍需部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍軍需部令

第一條　各軍港ニ海軍軍需部ヲ置ク

海軍軍需部ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍軍需部ハ當該鎭守府ニ屬シ軍需品ノ準備、保管及供給ニ關スルコトヲ掌ル

第三條　海軍軍需部ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

各課事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條　海軍軍需部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

課長

部員

附

第五條　部長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ部務ヲ總理ス但シ兵器ニ關シテハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ノ區處ヲ受ク

第六條　部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ鎭守府司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌ル

第九號　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　海軍軍需部ニ判任文官ヲ置ク

第十一條　附ハ海軍士官、特務士官、准士官、下士官兵又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　軍港ノ外海軍大臣ノ指定スル地ニ軍需支部ヲ置キ軍需品ノ一部ヲ配備シ艦船部隊臨時ノ需用ニ供セシム

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍工廠令

（大正十二年三月二十六日　勅令第五十一號）
（改正　大正一五年第二四號　昭和二年第六六號）

朕海軍工廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍工廠令

第一條　各鎭守府所在地及廣島縣加茂郡廣村ニ海軍工廠ヲ置ク

海軍工廠ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍工廠ハ當該鎭守府ニ隷シ鎭守府所在地ニ置カレタル海軍工廠ハ艦船及兵器ノ製造、修理及艤裝竝兵器ノ購買ニ關スルコトヲ掌リ廣海軍工廠ハ航空機ノ製造及修理、機關ノ製造及修理、機關及其ノ材料ノ審査研究竝兵器ノ購買ニ關スルコトヲ掌ル

前項ノ外横須賀海軍工廠及呉海軍工廠ハ兵器ノ實驗ニ關スルコトヲ掌ル

第三條　海軍工廠ハ前條ノ規定ニ依ル工事若ハ實驗ト同種類ノモノ、其ノ指導又ハ其ノ技術從事者養成ノ依賴ヲ官廳又ハ民間ヨリ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ依ル業務ニ支障ナキ限リ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ應スルコトヲ得

第四條　海軍工廠ニ總務部、會計部及醫務部竝左ノ區分ニ從ヒ各部ヲ置ク

横須賀海軍工廠
　造兵部、造船部、造機部、機雷實驗部

呉海軍工廠
　砲熕部、水雷部、電氣部、造船部、造機部、製鋼部、砲熕實驗部、魚雷實驗部、電氣實驗部

佐世保海軍工廠
　造兵部、造船部、造機部

廣海軍工廠
　航空機部、造機部、機關研究部

會計部ニ計算課、購買課、材料庫及工場庫ヲ置ク

第五條　總務部ハ庶務、各部ノ連絡事務竝他ノ各部ノ所掌ニ屬セサル調査及檢査ニ關スルコトヲ掌ル

第六條　造兵部ハ兵器ニ關スルコトヲ掌ル

第七條　砲熕部ハ砲熕（砲熕實驗部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク）ニ關スルコトヲ掌ル

第八條　水雷部ハ水雷ニ關スルコトヲ掌ル

第八條ノ二　電氣部ハ電氣（電氣實驗部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク）ニ關スルコトヲ掌ル

第九條　航空機部ハ航空機ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　造船部ハ船體ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　造機部ハ機關ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　製鋼部ハ製鋼ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　機雷實驗部ハ機雷兵器及防禦兵器ノ實驗ニ關スルコトヲ掌ル

第十四條　砲熕實驗部ハ砲熕兵器、火藥及甲鈑ノ實驗ニ關スルコトヲ掌ル

第十五條　魚雷實驗部ハ魚雷兵器ノ實驗ニ關スルコトヲ掌ル

第十六條　電氣實驗部ハ電氣兵器其ノ他電氣器具ノ實驗ニ關スルコトヲ掌ル

第十七條　機關研究部ハ機關及其ノ材料ノ審査研究ニ關スルコトヲ掌ル

第十八條　會計部ハ會計及給與、兵器ノ購買竝事業ニ要スル材料物品ノ購買、賣却、貯藏及供給ニ關スルコトヲ掌ル

第十九條　醫務部ハ醫務及衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第二十條　海軍工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長

部長

檢査官

課長

庫主管

部員

附

第二十一條　廠長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ廠務ヲ總理ス但シ航空兵器ニ關スル技術上ノコトニ關シテハ海軍航空本部長、其ノ他ノ技術上ノコトニ關シテハ海軍艦政本部長ノ區處ヲ受ク

第二十二條　廠長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十三條　廠長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ鎭守府司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　部長ハ廠長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌ル

前項ノ外總務部長ハ廠長ヲ佐ケ廠務ヲ整理ス

第二十五條　檢査官ハ上官ノ命ヲ承ケ艦船、兵器及事業ニ要スル材料物品ノ檢査ニ關スルコトヲ掌ル

第二十六條　課長及庫主管ハ會計部長ノ命ヲ承ケ各課又ハ各庫ノ事務ヲ掌ル

第二十七條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十八條　海軍工廠ニ判任文官ヲ置ク

第二十九條　附ハ海軍士官、特務士官、准士官、下士官兵又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第三十條　海軍工廠ニ必要ニ應シ練習又ハ實地研究ノ爲附トシテ海軍造船科、造機科又ハ造兵科士官ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍技手養成所令

（大正八年三月二十七日　勅令第三十四號）

朕海軍技手養成所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍技手養成所令

第一條　横須賀ニ海軍技手養成所ヲ置ク

第二條　海軍技手養成所ハ海軍職工ニ海軍技手ノ素養ニ必要ナル造船造機ニ關スル學術技能ヲ敎授スル所トス

第三條　海軍技手養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

敎官

軍醫長

主計長

第四條　所長ハ横須賀海軍工廠長ニ隷シ所務ヲ掌理ス

第五條　敎官ハ所長ノ命ヲ承ケ敎授ヲ擔任ス

第六條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第七條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコト及庶務ヲ掌ル

第八條　海軍技手養成所ニ第三條ニ揭クル職員ノ外判任文官ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍燃料廠令

（大正十年三月二十八日　勅令第四十一號）
（改正　大正一一年第五九號）

朕海軍燃料廠令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍燃料廠令

第一條　海軍燃料廠ハ山口縣都濃郡ニ之ヲ置ク

第二條　海軍燃料廠ハ海軍所要燃料ノ生産、研究及調査ニ關スルコトヲ掌ル

第三條　海軍燃料廠ハ燃料ノ生産又ハ其ノ指導若ハ技術從事者養成ノ依賴ヲ官廳又ハ民間ヨリ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ依ル業務ニ支障ナキ限リ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ應スルコトヲ得

第四條　海軍燃料廠ニ煉炭部、製油部、採炭部、研究部、會計部、醫務部及平壤鑛業部ヲ置ク

海軍燃料廠ニ炭鑛ヲ附屬ス炭鑛ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス

炭鑛ノ位置及鑛區ハ海軍大臣之ヲ指定ス

第五條　煉炭部ハ平壤鑛業部ノ掌ルモノヲ除クノ外煉炭ノ生産ニ關スルコトヲ掌ル

第六條　製油部ハ液體燃料ノ生産ニ關スルコトヲ掌ル

第七條　採炭部ハ平壤鑛業部ノ掌ルモノヲ除クノ外石炭ノ生産ニ關スルコトヲ掌ル

第八條　研究部ハ燃料ノ研究及調査竝生産シタル燃料ノ檢査ニ關スルコトヲ掌ル

第九條　會計部ハ會計、給與、物件ノ購買賣却貯藏出納及運搬竝土地鑛區及工作物ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　醫務部ハ醫務衞生ニ關スルコトヲ掌ル

第十條ノ二　平壤鑛業部ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ煉炭及石炭ノ生産ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　海軍燃料廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長
副官
部長
部員
附

第十二條　廠長ハ吳鎭守府司令長官ニ隸シ廠務ヲ總理ス

第十三條　廠長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十四條　廠長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ吳鎭守府司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　副官ハ廠長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十六條　部長ハ廠長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌ル

第十七條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十八條　海軍燃料廠ニ判任文官ヲ置ク

第十九條　附ハ海軍特務士官、准士官、下士官兵又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第二十條　海軍燃料廠ニ必要ニ應シ練習又ハ實地研究ノ爲附トシテ海軍士官又ハ特務士官ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十一條　海軍大臣ハ必要ニ應シ採炭部長ヲシテ採炭部ニ關スル會計部所掌事務ノ全部又ハ一部ヲ、平壤鑛業部長ヲシテ平壤鑛業部ニ關スル會計部所掌事務ノ全部又ハ一部ヲ掌ラシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍採炭所官制及海軍煉炭製造所條例ハ之ヲ廢止ス

●海軍病院令（大正十年六月七日勅令第二百六十四號）

朕海軍病院條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍病院令

第一條　各軍港其ノ他海軍大臣ノ指定スル地ニ海軍病院ヲ置ク

海軍病院ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス

第二條　軍港ニ在ル海軍病院ハ當該鎭守府ニ、其ノ他ノ海軍病院ハ海軍大臣ノ定ムル鎭守府ニ屬ス

第三條　海軍病院ハ患者ノ診療、諸般ノ衞生的檢査及傳染病消毒ニ關スルコトヲ掌ル

軍港ニ在ル海軍病院ハ前項ニ掲クルモノノ外治療品ノ準備供給ニ關スルコトヲ掌ル

第四條　海軍病院ニ第一部、第二部、藥劑部及消毒部ヲ置ク各部ノ事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

海軍大臣ハ必要ニ依リ藥劑部又ハ消毒部ヲ置カサルコトヲ得

第五條　海軍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
副官
部長
部員
附

第六條　院長ハ鎭守府司令長官ニ隸シ院務ヲ總理シ軍紀風紀ヲ維持シ部下ヲ調練ス

第七條　院長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條　院長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ軍醫科士官席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ鎭守府司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　副官ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十條　部長ハ院長ノ命ヲ承ケ第四條ニ掲クル各部ノ事務ヲ掌ル

第十一條　部員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　海軍病院ニ判任文官ヲ置ク

附ハ海軍士官、特務士官、准士官、下士官兵又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　軍港ニ在ル海軍病院ニ練習部ヲ置ク

練習部ハ海軍看護科下士官兵ニシテ特修兵ト爲スヘキモノ及海軍四等看護兵ヲ教育ス

第十四條　院長ハ鎭守府司令長官ノ指揮ヲ承ケ練習部ノ部務ヲ總理ス

第十五條　練習部ヲ置ク海軍病院ニ練習部ノ教育ヲ掌ラシムル爲教官ヲ置ク

教官ハ院長ノ命ヲ承ケ教育ヲ擔任シ且教務ヲ掌理ス

第十六條　院長ハ必要ニ應シ教官以外ノ海軍病院職員ヲシテ練習部ニ關スルコトヲ掌ラシムルコトヲ得

第十七條　練習部ニ於テ教育スル海軍特修兵ト爲スヘキ海軍看護科下士官兵ヲ練習生、海軍四等看護兵ヲ新兵ト稱ス

第十八條　練習部ノ教育綱領竝練習生及新兵ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年勅令第二百三十六號第二條及大正七年勅令第三百九十三號第一條中「海軍病院條例第二條」ヲ「海軍病院令第三條」ニ改ム

●海軍經理部令（大正十二年三月三十一日勅令第百二十八號）

朕海軍經理部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍經理部令

第一條　各軍港ニ海軍經理部ヲ置ク

海軍經理部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍經理部ハ當該鎭守府ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　鎭守府所管各部ノ會計經理ニ關スル事項但シ海軍工廠資金及海軍燃料廠ノ作業會計ニ關スル事項ヲ除ク

二　通常物品（造船、造兵及建築ノ材料物件竝軍需品ノ保管運搬用物件ヲ除ク）及港用品ノ購買及供給ニ關スル事項

三　鎭守府所管各部及軍港境域内ニ在ル其ノ他ノ海軍各部ノ會計事務ノ監督ニ關スル事項

第三條　海軍經理部ニ第一課及第二課ヲ置ク

各課事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條　海軍經理部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
第一課長
第二課長
部員
附

第五條　部長ハ鎭守府司令長官ニ隸シ部務ヲ總理ス但シ會計事務ノ監督ニ關シテハ海軍大臣ノ命ヲ承ク

第六條　部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ鎭守府司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌ル

第九條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　海軍經理部ニ判任文官ヲ置ク

第十一條　附ハ海軍特務士官、准士官、下士官兵又ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍建築部令（大正九年十月一日勅令第四百四十三號）

（改正　大正一一年第三一七號、一二年第一二九號、一三年第四一號）

朕海軍建築部令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍建築部令

第一條　各軍港ニ海軍建築部ヲ置ク

海軍建築部ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍建築部ハ所在鎭守府ニ屬スル建築ノ及土木工事ノ實施ニ關スルコト竝國有財産ニ關スルコトヲ掌ル所トス

第三條　海軍建築部ニ第一課及第二課ヲ置ク

各課ノ事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條　海軍建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
課長
部員
附

第五條　部長ハ鎭守府司令長官ニ隸シ部務ヲ總理ス

第五條ノ二　部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第七條　課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌ル

第八條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條　海軍建築部ニ判任文官ヲ置ク

附ハ判任文官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第十條　海軍大臣ハ必要ニ應シ軍港以外ノ地ニ海軍建築部出張所ヲ置ク出張所ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ地方ニ於ケル工事ノ實施及國有財産ニ關スルコトヲ分掌ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍監獄官制（明治三十二年七月八日勅令第三百三十五號）

（改正　明治三八年第六〇號、四一年第二四〇號、四三年第五二一號　大正二年第二二三號、一一年第九一號、一二年第四八號）

朕海軍監獄官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍監獄官制

第一條　海軍監獄ハ各軍港ニ之ヲ置キ其ノ名稱ハ別表ニ依ル

第二條　削除

第三條　各海軍監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

海軍監獄長	專任三人	奏任
海軍監獄看守長	專任十二人	判任

第四條　監獄長ハ鎭守府司令長官ニ隸シ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第五條　削除

第六條　監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務及戒護ニ從事シ部下ノ監獄看守ヲ指揮監督ス

第七條　各海軍監獄ヲ通シテ監獄看守四十二人ヲ置ク判任ノ待遇トス上官ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衞等ノ事務ニ服ス

監獄看守ノ採用ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第八條　海軍監獄ノ醫務衞生ニ關スル事項ハ其ノ地所在ノ海軍病院附軍醫科士官ヲシテ管掌セシメ之ニ該病院附看護兵曹及看護兵ヲ附ス

附　則

第九條　本令ハ明治三十二年七月十一日ヨリ施行ス

（別表）

海軍監獄ノ名稱
橫須賀海軍刑務所
吳海軍刑務所
佐世保海軍刑務所

●艦隊令（大正三年十一月三十日軍令海第十號）

（改正　大正五年第五號、六年第一號、八年第二號、一二年第八號）

朕艦隊令ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

艦隊令

第一條　艦隊ハ軍艦二隻以上ヲ以テ編成シ必要ニ應シ之ニ驅逐隊、潛水隊、掃海隊又ハ驅逐艦、潛水艦、掃海艇ヲ編入シ港務部、防備隊、航空隊、特務艦等ヲ附屬ス

艦隊ハ必要ニ應シ軍艦及驅逐隊、潛水隊、掃海隊ヲ以テ編成ス

艦隊ハ編制若ハ任務ニ因ル名稱又ハ差遣スル海洋若ハ地方ノ名ヲ冠稱ス

第二條　艦隊ハ必要ニ應シ之ヲ戰隊ニ區分ス

戰隊ハ軍艦二隻以上又ハ軍艦及驅逐隊、潛水隊ヲ以テ編成ス但シ軍艦及驅逐隊、潛水隊ヲ以テ編成スルトキハ之ヲ水雷戰隊又ハ潛水戰隊ト稱スルヲ例トス

戰隊ニハ必要ニ應シ掃海隊ヲ編入ス

戰隊ハ編成ニ因リ第一戰隊、第二水雷戰隊又ハ第三潛水戰隊等ト稱ス

第三條　聯合艦隊ハ艦隊二個以上ヲ以テ編成シ必要ニ應シ之ニ艦船部隊ヲ編入シ又ハ附屬ス

第四條　聯合艦隊ニ司令長官ヲ置ク

艦隊ニ司令長官又ハ司令官ヲ置ク

戰隊ニ司令官ヲ置ク但シ第三十條ノ場合ニ於テハ之ヲ置カサルコトヲ得

聯合艦隊司令長官及艦隊司令長官ハ親補トス

第五條　聯合艦隊及艦隊ニ當該司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長
參謀
副官
機關長
軍醫長
主計長

艦隊ノ編制又ハ任務ニ應シ前項職員ノ一部ヲ置カサルコトヲ得

第六條　司令官ノ幕僚トシテ參謀ヲ置キ又必要ニ應シ副官及機關長ヲ置ク

獨立艦隊司令官ノ幕僚トシテ前項ノ外必要ニ應シ參謀長ヲ置ク

第七條　司令長官又ハ司令官ノ隊務ヲ掌ル所ヲ司令部ト稱ス

第八條　各司令部ニハ第五條及第六條ニ掲クル職員ノ外必要ニ應シ司令部附トシテ士官、司法事務官、通譯官、特務士官、准士官、下士官及兵ヲ置ク

第九條　聯合艦隊、艦隊、戰隊ノ編制竝各司令部ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　聯合艦隊司令長官ハ天皇ニ直隸シ聯合艦隊ヲ統率シ之ニ關スル隊務ヲ統督ス

聯合艦隊司令長官ハ軍政ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ク

第十一條　艦隊司令長官ハ天皇ニ直隸シ麾下ノ艦隊ヲ統率シ隊務ヲ總理ス

艦隊司令長官ハ軍政ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ク

第十二條　艦隊司令長官ハ麾下艦隊ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス

第十三條　艦隊司令長官ハ自己及司令官ノ旗艦ヲ定メ且必要ニ應シ[illegible]屬ヲ定ム但[illegible]シテ之ヲ定[illegible]

前項ノ場合[illegible]軍大臣及海[illegible]

第十四條　艦隊司令長官ハ[illegible]シ一時麾下[illegible]

前項ノ場合[illegible]軍大臣及海[illegible]

第十五條　艦隊司令長官ハ[illegible]艦隊又ハ其[illegible]スルトキハ[illegible]シ緊急ノ場[illegible]キトキハ直[illegible]ルコトヲ得[illegible]大臣及海軍[illegible]

第十六條　艦隊司令長官ハ[illegible]艦隊行動區[illegible]スルトキハ[illegible]ラシメ自己[illegible]トヲ得

第十七條　艦隊司令長官ハ[illegible]スルトキハ航路及泊地ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ[illegible]

第十八條　艦隊司令長官ハ[illegible]スル爲地方[illegible]ル場合ニ於[illegible]ナキトキハ[illegible]トヲ得

前項ノ場合[illegible]軍大臣及海[illegible]

第十九條　艦隊司令長官ハ[illegible]以[illegible]

官ナルトキハ其ノ港灣ニ於ケル守備、秩序ノ維持及齊一ヲ要スル重大ナル事項ニ關シ同所ニ在ル他所屬ノ艦船部隊ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之カ爲當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルニ至リタルトキハ艦隊司令長官ハ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告シ且當該艦船部隊ノ所屬長官ニ通報スヘシ

第二十條　艦隊司令長官ハ警備ニ關シテハ當該海軍區ヲ管スル鎭守府司令長官及當該警備區ヲ管スル要港部司令官ト氣脈ヲ通スヘシ

第二十一條　艦隊司令長官ハ疾病其ノ他緊急ノ際ニ當リ一時麾下人員ノ移轉ヲ必要ト認ムル場合ニ於テ海軍大臣ノ承認ヲ經ルノ遑ナキトキハ便宜之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事後之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十二條　艦隊司令長官ハ必要ニ應シ麾下ノ人員ヲ麾下艦船部隊ノ間ニ一時轉勤セシムルコトヲ得但シ士官ニ付テハ緊急已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ海軍大臣ノ承認ヲ經ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ士官及候補生ニ付テハ之ヲ海軍大臣ニ報告シ其ノ他ノ者ニ付テハ之ヲ本人在籍ノ鎭守府司令長官ニ通報スヘシ

第二十三條　艦隊司令長官ハ麾下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ士官及候補生ニ付テハ之ヲ海軍大臣ニ報告シ其ノ他ノ者ニ付テハ本人在籍ノ鎭守府司令長官ニ通報スヘシ

第二十四條　艦隊司令長官ハ麾下艦隊ノ內規、日課及週課ヲ制定シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十五條　艦隊司令長官ハ任務上必要アルトキハ一定ノ標準時ヲ指定シ麾下艦隊ニ限リ之ヲ用ヰシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第二十六條　艦隊司令長官ハ軍機保護上必要ト認ムルトキハ麾下諸員ニ對シテ他ト交通シ又ハ檢閲ヲ經スシテ一切ノ私信ヲ發送スルコトヲ禁スルコトヲ得

第二十七條　艦隊司令長官ハ事情已ムヲ得スト認ムルトキハ海軍部外ノ者ヲ麾下ノ艦船ニ便乘セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　艦隊司令長官ハ毎年十二月該教育年度間ニ於ケル麾下艦隊ノ行動豫定表ヲ調製シ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ提出スヘシ

第二十九條　聯合艦隊司令長官及艦隊司令長官缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ麾下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス此ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第三十條　聯合艦隊司令長官及艦隊司令長官ハ必要ニ應シ麾下艦隊ノ一部ヲ直率ス

第三十一條　聯合艦隊ニ屬スル艦隊司令長官又ハ獨立艦隊司令官ハ聯合艦隊司令長官ノ指揮ヲ承ク

第三十二條　艦隊司令長官ノ職責中統率ニ關スル事項ハ之ヲ聯合艦隊司令長官ニ準用ス

第三十三條　獨立艦隊司令官ハ天皇ニ直隷シ其ノ職權ニ付テハ艦隊司令長官ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十四條　戰隊司令官ハ艦隊司令長官ニ隷シ麾下戰隊又ハ其ノ一部ヲ指揮統率シ第十二條、第十六條乃至第十九條、第二十六條及第二十七條ノ規定ニ準シ服務ス

聯合艦隊司令長官又ハ艦隊司令長官ノ直率スル戰隊ノ司令官ハ司令長官ノ命スル所ニ依リ服務ス

第三十四條ノ二　潛水戰隊司令官ハ必要ニ應シ麾下艦船ノ人員ヲ一時麾下ノ他艦船ニ轉勤セシムルコトヲ得

第三十四條ノ三　分遣隊首席指揮官ハ分遣隊ヲ指揮シ戰隊司令官ニ關スル規定ニ準シ服務ス

第三十五條　司令長官ノ幕僚タル參謀長ハ司令長官ヲ佐ケ隊務ヲ整理シ幕僚其ノ他隊務ニ參與スル職員ノ職務ヲ監督ス

第三十六條　司令長官ノ幕僚タル參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ艦隊ノ軍紀、風紀、教育、訓練、作戰等ニ關スルコトヲ掌ル

機關科將校タル參謀ハ前項ノ規定ニ依ルノ外機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十七條　司令長官ノ幕僚タル副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ儀制、人事及庶務ニ關スルコトヲ掌ル

第三十八條　司令官ノ幕僚タル參謀及副官ハ司令官ノ命ヲ承ケ前二條ノ規定ニ準シ服務ス但シ其ノ首席參謀ノ職務ハ參謀長ニ關スル規定ニ準ス又副官ヲ置カサルトキハ其ノ職務ハ參謀ノ任トス

第三十九條　獨立艦隊司令官ノ幕僚ニ參謀長ヲ置クトキハ其ノ職務ハ第三十五條ノ規定ニ準ス

前項ノ場合ニ於テハ司令官ノ幕僚タル參謀及副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第四十條　機關長ハ司令長官又ハ司令官ノ命ヲ承ケ艦隊又ハ戰隊ノ機關ニ關スル事ヲ掌リ各艦船部隊機關長ノ職務及機關科員ノ教育訓練ヲ監視ス

第四十一條　軍醫長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ醫務、衞生ニ關スル事ヲ掌リ各艦船部隊軍醫長ノ職務及醫務科員ノ教育訓練ヲ監視ス

第四十二條　主計長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ各艦船部隊ノ會計事務ヲ監督シ之カ統一ヲ掌リ各艦船部隊主計長ノ職務及主計科員ノ教育訓練ヲ監視ス

第四十三條　旗艦又ハ分遣隊首席指揮官乘艦ノ航海長ハ司令長官又ハ司令官若ハ分遣隊首席指揮官ノ命ヲ承ケ隊務ニ參與シ艦隊ノ航路及泊地ニ關スル事ヲ掌ル

第四十四條　司令官旗艦ノ軍醫長及主計長又ハ分遣隊首席指揮官乘艦ノ機關長、軍醫長及主計長ハ司令官又ハ分遣隊首席指揮官ノ命ヲ承ケ隊務ニ參與ス但シ其ノ職務ハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ニ準ス

司令長官ノ幕僚ニ機關長、軍醫長、主計長又ハ司令官ノ幕僚ニ機關長ヲ置カサルトキ當該旗艦ノ機關長、軍醫長及主計長ノ職務ハ亦前項ニ準ス

第四十五條　司令長官、司令官又ハ分遣隊首席指揮官特ニ他ノ職員ヲシテ第四十三條及第四十四條ノ隊務ニ參與セシメタルトキハ該二條ヲ適用セス

第四十六條　司令部附士官ハ司令長官又ハ司令官ノ指定ニ依リ各幕僚ニ屬シ又ハ所屬艦船部隊ニ在リテ隊務ニ參與ス

司令部附特務士官、准士官、下士官及兵ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第四十七條　司法事務官ハ司令長官又ハ司令官ノ命ヲ受ケ艦隊ノ軍事司法及懲罰ニ關スル事ヲ掌ル

第四十八條　通譯官ハ參謀長（參謀長ヲ置カサルトキハ首席參謀）ノ命ヲ承ケ通譯ニ關スル事ヲ掌ル

第四十九條　幕僚其ノ他隊務ニ參與スル職員其ノ職務ニ關シ司令長官又ハ司令官ニ具申又ハ報告ヲ爲ストキハ總テ參謀長（參謀長ヲ置カサルトキハ首席參謀）ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ大正三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

艦隊條例ハ之ヲ廢止ス

●驅逐隊潛水隊掃海隊令

（大正八年三月二十五日軍令海第三號）

改正　大正一二年第四號

朕驅逐隊潛水隊艇隊令ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

驅逐隊潛水隊掃海隊令

第一條　驅逐隊ハ驅逐艦二隻以上、潛水隊ハ潛水艦二隻以上、掃海隊ハ掃海艇二隻以上ヲ以テ編成ス

驅逐隊、潛水隊、掃海隊ハ編制ニ因リ第一驅逐隊、第二潛水隊又ハ第三掃海隊等ト稱ス

第二條　驅逐隊、潛水隊、掃海隊ニ各左ノ職員ヲ置ク

司令

機關長

前項ノ外必要ニ應シ驅逐隊及掃海隊ニハ軍醫長、主計長ヲ置キ又驅逐隊附、潛水隊附又ハ掃海隊附トシテ士官、特務士官、准士官、下士官及兵ヲ置ク

第三條　驅逐隊、潛水隊、掃海隊ノ編制及定員ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　司令ハ直屬上官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス

第五條　司令ハ本邦ニ於ケル島嶼等通信不便ナル地方ニ在ルトキ急劇ノ事變アリ鎭定ノ爲兵力行使ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方長官ト合議シ便宜之ヲ處理スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ司令ハ之ヲ海軍大臣、海軍軍令部長及所屬長官ニ報告スヘシ

第六條　司令ハ軍港又ハ要港以外ノ港灣ニ在リテ所在首席指揮官ナルトキハ其ノ港灣ニ於ケル守備、秩序ノ維持及齊一ヲ要スル重大ナル事項ニ關シ同所ニ在ル艦船部隊ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之カ爲當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルニ至リタルトキハ司令ハ之ヲ海軍大臣、海軍軍令部長及當該艦船部隊ノ所屬長官ニ報告スヘシ

第七條　司令ハ第二條ニ掲クル職員及其ノ隊ニ配置セラレタル職員ノ乘組ムヘキ艦艇ヲ指定シ又必要ニ應シ部下艦艇ノ乘員ヲ臨時部下ノ他艦艇ニ乘組マシメ又ハ各艦艇ノ定員ヲ超過セサル限隊內ノ下士官及兵ヲ相互轉勤セシムルコトヲ得

第八條　司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第九條　司令缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　司令ノ乘ル所ノ驅逐艦、潛水艦又ハ掃海艇ヲ各司令驅逐艦、司令潛水艦又ハ司令艇ト稱ス

第十一條　機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ隊ノ機關ニ關スルコトヲ掌リ各艦艇機關長ノ職務及機關科員ノ教育訓練ヲ監督シ主管ノ兵備品ヲ整備ス

第十二條　軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ隊ノ醫務衞生ニ關スルコトヲ掌リ主管ノ兵備品ヲ整備ス

第十三條　主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ隊ノ會計、給與及廚業ニ關スルコト竝庶務ヲ掌リ主管ノ兵備品ヲ整備ス

第十四條　前二條ニ掲クルモノノ外第二條第二項ノ職員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス但シ軍醫長、主計長ヲ置カサル場合ニ於テハ其ノ隊附首席軍醫科士官、主計科士官ハ各軍醫長又ハ主計長ノ職務ヲ執行ス

第十五條　驅逐隊、潛水隊、掃海隊ニ編入中ノ驅逐艦、潛水艦、掃海艇ニハ各別ニ艦船令第五條第二號乃至第四號及第六條ニ掲クル職員ヲ置カス一隊ヲ通シ驅逐隊、潛水隊又ハ掃海隊職員トシテ之ヲ置クコトヲ得

第十六條　驅逐隊、潛水隊、掃海隊職員常務ノ細項ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

驅逐隊艇隊潛水艇隊條例ハ之ヲ廢止ス

●艦船令

（大正八年三月二十日軍令海第一號）

改正　大正九年第一號、一〇年第二號、第四號、一一年第一號、第三號、一二年第三號、第九號、一三年第一號、第四號、一四年第二號
昭和二年第一號

朕艦船令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

艦船令

第一條　艦船ハ之ヲ左ノ如ク種別ス

軍艦
驅逐艦
潛水艦
掃海艇
特務艦
特務艇
雜役船

軍艦、驅逐艦、潛水艦及掃海艇ヲ總稱シテ艦艇ト謂ヒ特務艦、特務艇ヲ總稱シテ特務艦艇ト謂フ

艦艇及特務艦艇ノ類別標準ハ別表ニ依ル

第二條　艦船ハ本籍ヲ鎭守府ニ置キ艦隊其ノ他ニ編入又ハ附屬スルモ其ノ本籍ヲ變更セス

第三條　艦船（特務艇及雜役船ヲ除ク）艦隊其ノ他ニ編入若ハ附屬シ又ハ警備、練習若ハ測量其ノ他ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦船ト稱シ其ノ他ハ之ヲ豫備艦船ト稱ス

製造中ノ艦船ハ之ヲ未成艦船ト稱ス

特務艦ノ役務ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條　警備、練習又ハ測量其ノ他ノ役務ニ服スル在役艦船ハ其ノ役務ニ因リ警備艦艇、練習艦艇又ハ測量艦船等ト呼稱スルコトヲ得

第五條　艦艇ニ左ノ職員ヲ置ク

一　軍艦
艦長
副長
航海長
砲術長
水雷長
通信長
運用長
航空長
機關長
軍醫長
主計長
副砲長
分隊長（兵科機關科軍醫科主計科士官、兵科機關科特務士官）
乘組（士官、特務士官、准士官、下士官、兵）

二　驅逐艦
驅逐艦長
航海長
砲術長
水雷長
機關長
分隊長（兵科機關科士官、兵科機關科特務士官）
乘組（士官、特務士官、准士官、下士官、兵）

三　潛水艦
潛水艦長
航海長
水雷長
機關長
分隊長（兵科機關科士官、兵科機關科特務士官）
乘組（士官、特務士官、准士官、下士官、兵）

四　掃海艇
掃海艇長
乘組（士官、特務士官、准士官、下士官、兵）

第六條　前條ニ掲クル職員ハ艦艇ノ類別、等級又ハ兵裝等ニ依リ其ノ一部ヲ置カス

豫備艦艇及未成艦艇ニハ適宜前條ニ掲クル職員ヲ置ク

警備、練習又ハ測量其ノ他特別ノ役務ニ服スル艦艇ニハ前條ニ掲クル職員ノ外其ノ役務ニ必要ナル職員ヲ置ク

第七條　特務艦ニ特務艦長ヲ置キ又軍艦ニ準シ其ノ他ノ職員ヲ置ク

第八條　工作艦ニハ前條ニ掲クル職員ノ外工作部長、工作部員及工作部附トシテ士官、軍屬及職工ヲ置ク

第九條　特務艇及雜役船ニハ其ノ所屬各廳ニ於テ隨時必要ノ乘員ヲ配置ス

特務艇及雜役船ニハ必要ニ應シ特務艇長又ハ船長及乘組ヲ置ク

第十條　艦船（雜役船ヲ除ク）ニハ前諸條ニ掲クル職員ノ外練習、研究其ノ他ノ必要ニ因リ士官、特務士官、候補生、准士官、下士官及兵ノ臨時乘組ヲ置ク

第十一條　艦長ハ所屬長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ艦ヲ整備シ且艦ノ保安ニ任シ艦務ヲ總理ス

第十二條　艦長ハ本邦ニ於ケル島嶼等通信不便ナル地方ニ在ルトキ急劇ノ事變アリ鎭定ノ爲兵力行使ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官憲ト合議シ便宜之ヲ處理スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ艦長ハ之ヲ海軍大臣、海軍軍令部長及所屬長官ニ報告スヘシ

第十三條　艦長ハ軍港又ハ要港以外ノ港灣ニ在リテ所在首席指揮官ナルトキハ其ノ港灣ニ於ケル守備、秩序ノ維持及齊一ヲ要スル重大ナル事項ニ關シ同所ニ在ル艦船部隊ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ緊急ノ必要アル場

合ヲ除クノ外之カ爲當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ當該艦船部隊ノ本務ヲ妨クルニ至リタルトキハ艦長ハ之ヲ海軍大臣、海軍軍令部長及當該艦船部隊ノ所屬長官ニ報告スヘシ

第十四條　艦長ハ副長ヲ置カサルトキ又ハ缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下將校ヲシテ軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ執行又ハ代理セシムヘシ

第十五條　艦長ハ前條ノ場合ノ外第五條ニ掲クル職員ノ一部ヲ置カサルトキ又ハ缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行又ハ代理セシムルコトヲ得

第十六條　艦長ヲ置カサルトキ又ハ缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ副長其ノ職務ヲ執行又ハ代理ス

前項ノ場合ニ於テ副長ヲ置カサルトキ又ハ缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ將校軍令承行ノ順序ニ從ヒ艦長ノ職務ヲ執行又ハ代理ス

前二項ノ規定ハ特ニ職務執行者又ハ代理者ヲ置キタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十七條　副長ハ艦長ヲ補佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦務ヲ整理シ乘員ノ服務ヲ監督ス

第十八條　航海長ハ艦長ノ命ヲ承ケ航海科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ水路嚮導、航海、信號及見張ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第十九條　砲術長ハ艦長ノ命ヲ承ケ砲術科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ砲術及電氣器具ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十條　水雷長ハ艦長ノ命ヲ承ケ水雷科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ水雷ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十一條　通信長ハ艦長ノ命ヲ承ケ通信科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ電信ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十二條　運用長ハ艦長ノ命ヲ承ケ運用科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ運用、應急、潛水及木具工業ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十二條ノ二　航空長ハ艦長ノ命ヲ承ケ航空科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ航空ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十三條　機關長ハ艦長ノ命ヲ承ケ機關科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ機關、電機及金屬工業ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品、機關、機關附屬物及兵備品ヲ整備ス

第二十四條　軍醫長ハ艦長ノ命ヲ承ケ醫務科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ醫務衛生ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十五條　主計長ハ艦長ノ命ヲ承ケ主計科員ヲ監督シ戰鬪ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ會計、給與、庶務及廚業ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主管ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十六條　副砲長ハ艦長ノ命ヲ承ケ砲術長ノ職務中副砲ニ關スルコトヲ分擔ス

第二十七條　兵科分隊長ハ艦長ノ命ヲ承ケ艦長指定ノ分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長トナリ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ人事ヲ掌理シ又主任者ノ指示ニ從ヒ教育ノ實施ニ任シ分擔ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

第二十八條　機關科分隊長ハ艦長ノ命ヲ承ケ艦長指定ノ機關分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長トナリ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ人事ヲ掌理シ又主任者ノ指示ニ從ヒ教育ノ實施ニ任シ分擔ノ船體、艦船艤裝品、機關、機關附屬物及兵備品ヲ整備ス

前項ノ外機關科分隊長ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十九條　軍醫科分隊長ハ艦長ノ命ヲ承ケ醫務分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長トナリ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ人事ヲ掌理シ又主任者ノ指示ニ從ヒ教育ノ實施ニ任シ分擔ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

前項ノ外軍醫科分隊長ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十條　主計科分隊長ハ艦長ノ命ヲ承ケ主計分隊ヲ指揮統御シ諸部署一部ノ長トナリ軍紀風紀ヲ維持シ隊員ノ人事ヲ掌理シ又主任者ノ指示ニ從ヒ教育ノ實施ニ任シ分擔ノ船體、艦船艤裝品及兵備品ヲ整備ス

前項ノ外主計科分隊長ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十一條　乘組兵科士官特務士官准士官ハ艦長ノ指定ニ依リ艦長、副長、航海長、砲術長、水雷長、通信長、運用長、航空長又ハ兵科分隊長ニ、乘組船匠科特務士官准士官ハ運用長又ハ航空長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ承ク

第三十二條　乘組機關科士官特務士官准士官ハ艦長ノ指定ニ依リ機關長又ハ機關科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ承ク

乘組機關科士官特務士官准士官ニシテ航空機ニ關スル業務ニ從事スル者ハ必要ニ應シ航空長（航空母艦ニ在リテハ航空長又ハ兵科分隊長）ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十三條　乘組軍醫科士官及看護科特務士官准士官ハ艦長ノ指定ニ依リ軍醫長又ハ軍醫科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ承ク

第三十四條　乘組主計科士官特務士官准士官ハ艦長ノ指定ニ依リ主計長又ハ主計科分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ承ク

第三十五條　航海長、砲術長、水雷長、通信長、運用長、航空長、副砲長、兵科分隊長及乘組少佐大尉特務大尉ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ之ヲ當直將校ト稱シ艦長ノ命ヲ承ケ直接艦ノ保安ニ任シ日常ノ艦務ヲ處理ス但シ時宜ニ依リ前掲職員中其ノ一部ノ者ニ當直勤務ヲ課セサルコトヲ得

第三十六條　機關科分隊長及乘組機關少佐機關大尉機關特務大尉ハ交番機關科當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ之ヲ機關科當直將校ト稱シ艦長、機關長ノ命ヲ承ケ機關ノ操縱ヲ掌リ機關科ニ關スル日常ノ事項ヲ處理シ又艦ノ保安、操縱其ノ他艦務遂行上必要ナル事項ニ關シ當直將校ノ指揮ヲ承ク但シ要スルトキハ前掲職員中其ノ一部ノ者ニ當直勤務ヲ課セサルコトヲ得

第三十七條　乘組中少尉、特務中少尉及兵曹長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ之ヲ副直將校ト稱シ當直將校ノ命ヲ承ケ服務ス但シ乘組中少尉又ハ特務中少尉ヲシテ適宜當直將校ノ勤務ヲ爲サシメ又ハ其ノ一部ノ者ニ當直勤務ヲ課セサルコトヲ得

第三十八條　乘組機關中少尉、機關特務中少尉及機關兵曹長ハ交番機關科當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ之ヲ機關科副直將校ト稱シ機關科當直將校ノ命ヲ承ケ服務ス但シ乘組機關中少尉又ハ機關特務中少尉ヲシテ適宜機關科當直將校ノ勤務ヲ爲サシメ又ハ其ノ一部ノ者ニ當直勤務ヲ課セサルコトヲ得

第三十九條　削除

第四十條　乘組下士官及兵ハ分隊長ニ屬シ各其ノ命ヲ承ケ服務シ又諸配置ニ在リテハ各上官ノ指揮ヲ承ク

第四十一條　驅逐艦長、潛水艦長及掃海艇長ハ各直屬上官ニ隸シ艦長ニ關スル前諸條ノ規定ニ準シ服務シ又別ニ定ムル所ニ依リ乘組士官ヲ指定シテ軍艦職員ニ關スル規定ニ準シ其ノ職務ヲ執行セシム

第四十二條　驅逐艦及潛水艦ノ航海長、砲術長、水雷長、機關長、兵科分隊長及機關科分隊長ハ驅逐艦長又ハ潛水艦長ノ命ヲ承ケ各第十八條乃至第二十條、第二十三條、第二十七條又ハ第二十八條ノ規定ニ準シ服務ス

驅逐艦、潛水艦及掃海艇ノ乘組職員ハ驅逐艦長、潛水艦長又ハ掃海艇長ノ命ヲ承ケ若ハ第三十一條第三十二條及第四十條ノ規定ニ準シ服務ス

第四十三條　驅逐艦、潛水艦及掃海艇ノ乘組兵科及機關科士官特務士官准士官ハ第三十五條乃至第三十八條ノ規定ニ準シ當直勤務ニ服ス

第四十四條　特務艦ニ在リテハ特務艦長ハ第十一條、第十二條、第十四條及第十五條ノ規定ニ準シ服務シ其ノ他ノ職員ハ第十六條乃至第四十條ノ規定ニ準シ服務ス

第四十五條　工作艦ニ在リテハ前條ノ外特務艦長ハ艦船、部隊ノ船體、兵器、機關等ノ工作及救難作業ヲ統理シ主計長ハ工作救難作業用ノ機械、器具及材料ノ保管、出納ヲ掌ル

工作部長ハ特務艦長ノ命ヲ承ケ工作部員、工作部附ヲ統轄シテ工作及救難作業竝備付機械、器具ノ整備ニ關スルコトヲ掌理シ工作部員ハ工作部長ノ命ヲ承ケ工作部附ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第四十六條　特務艇又ハ雜役船ニ在リテハ特務艇長又ハ船長又ハ首席乘員ハ直屬上官ニ隸シ第十一條ノ規定ニ準シ服務シ其ノ他ノ職員ハ第四十二條及第四十三條ノ規定ニ準シ服務ス

第四十七條　臨時乘組ハ艦長、驅逐艦長、潛水艦長、掃海艇長又ハ特務艦長ノ命ヲ承ケ艦船職員ニ準シ服務シ又臨時ノ職務及勤務ニ服ス

第四十八條　艦船ニ軍醫科士官、主計科士官ヲ置カサル場合ニハ所屬長官其ノ部下相當職員ヲ指定シテ其ノ職務ヲ行ハシム

第四十九條　特設艦船ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第五十條　艦船ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第五十一條　本令中ノ船體、兵備品等ノ主管及分擔ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

第五十二條　艦船職員常務ノ細項ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年軍令海第一號）

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ法令中「特務船」ニ關スル規定ハ之ヲ「特務艦」ニ、「特務船指揮官」ニ關スル規定ハ之ヲ「特務艦長」ニ適用ス

（別表）

艦艇特務艦艇類別標準

類別			等級	計畫排水量
艦艇	軍艦	戰艦		
		巡洋戰艦		
		巡洋艦	一等	七千噸以上
			二等	七千噸未滿
		航空母艦		
		潛水母艦		
		敷設艦		
		急設網艦		
		海防艦	一等	七千噸以上
			二等	七千噸未滿
		砲艦	一等	八百噸以上
			二等	八百噸未滿
	驅逐艦		一等	千噸以上
			二等	千噸未滿六百噸以上
			三等	六百噸未滿
	潛水艦		一等	水上千噸以上
			二等	水上千噸未滿五百噸以上
			三等	水上五百噸未滿
	掃海艇			
特務艦艇	特務艦	工作艦		
		運送艦		
		碎氷艦		
		測量艦		
		標的艦		
		練習特務艦		
	特務艇	敷設艇	一等	八百噸以上
			二等	八百噸未滿四百噸以上
			三等	四百噸未滿
		捕獲網艇		
		掃海特務艇	一等	五百噸以上
			二等	五百噸未滿
		潛水艦母艇		
備考	海軍大臣ハ本表ニ依リ艦艇及特務艦艇ノ類別及等級ヲ定ム			

●特務艦ノ乘員及取扱ニ關スル件

（大正七年七月二日 軍令海第三號）

朕特務船ノ乘員及取扱ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス（海軍大臣副署）

【特務船】ハ必要ニ應シ海軍軍屬ヲ以テ乘員ニ充ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特設艦船ニ關スル規定ヲ準用ス

●海軍兵轉科ニ關スル件

（大正十四年七月十五日 勅令第二百五十六號）

朕海軍兵轉科ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍水兵ニ非サル海軍兵ニシテ掌航空兵ト爲リタルモノハ海軍水兵ニ、海軍主計兵ニ非サル海軍兵ニシテ掌經理兵ト爲リタルモノハ海軍主計兵ニ之ヲ轉科セシム

鎭守府司令長官ハ海軍四等兵ニシテ特種ノ素質、學術又ハ技藝ヲ有スルモノニ就キ必要ニ應シ又ハ本人ノ志望ニ依リ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ入團後二月以内ニ其ノ科別ヲ變更スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第二百五十九號及同九年勅令第六十五號ハ之ヲ廢止ス

第十二款　司法省及其所管

●司法省官制

（明治二十六年十月三十一日 勅令第百四十三號）

（改正 明治三三年第一六七號、第二〇七號、三五年第九二號、三六年第二二四號、四二年第一五六號、四三年第五七號、四四年第一〇五號、大正二年第一六九號、三年第一〇九號、第二一三號、第二四一號、八年第一二二號、九年第二八九號、一〇年第二五五號、第四四五號、一一年第六七號、第二七七號、一二年第一九九號、一三年第一八二號、第二三六號、第三五一號 昭和二年第一九六號）

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

司法省官制

第一條　司法大臣ハ裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ民事、刑事、非訟事件、戸籍、供託、監獄、少年ノ審判、矯正及釋放者ノ保護ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外司法ニ關スル資料ノ調査事務、少年ノ審判、矯正及釋放者ノ保護ニ關スル事務竝裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　司法省專任書記官ハ十二人ヲ以テ定員トス

第四條　司法省ニ左ノ三局ヲ置ク

民事局
刑事局
行刑局

第五條　民事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　裁判所ノ設立、廢止及管轄區域ニ關スル事項
二　民事及非訟事件ニ關スル事項
三　民事及非訟事件ノ裁判事務ニ關スル事項
四　調停ニ關スル事項
五　登記ニ關スル事項
六　戸籍ニ關スル事項
七　公證ニ關スル事項
八　供託ニ關スル事項

第五條ノ二　刑事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　刑事ニ關スル事項
二　刑事ノ裁判事務及檢察事務ニ關スル事項
三　恩赦ニ關スル事項
四　犯罪人ノ引渡ニ關スル事項
五　辯護士會ニ關スル事項

第六條　行刑局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　刑ノ執行ニ關スル事項
二　監獄ニ關スル事項
三　假出獄ニ關スル事項
四　犯罪人異同識別ニ關スル事項

第七條　司法省ニ專任司法省事務官一人專任司法省衞生官一人ヲ置ク

司法省事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ供託ニ關スル事務ヲ掌ル

司法省衞生官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ衞生ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　司法省屬ハ專任五十九人ヲ以テ定員トス

第九條　司法省ニ專任技師一人專任技手一人ヲ置ク

附則

【第八條】本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●司法部内臨時職員設置制

（大正九年十月二十六日 勅令第五百十一號）

（改正 大正一一年第二七七號、一三年第二三七號、第三五二號）

朕司法部内臨時職員設置制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

司法部内臨時職員設置制

第一條　臨時建築ノ事務ニ從事セシムル爲司法省ニ左ノ職員ヲ增置ス

技師　專任十人（内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
技手　專任四十八人

前項職員ノ俸給ハ臨時建築費ヨリ之ヲ支辨ス

第一條ノ二　陪審法實施準備ニ關スル事務ニ從事セシムル爲司法省ニ左ノ職員ヲ置ク

書記官　專任二人
屬　專任四人

第二條　監獄作業ニ依リ建築ヲ直營スル爲必要アルトキハ臨時建築費豫算ノ範圍内ニ於テ監獄ニ看守長及看守ヲ增置スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年勅令第二百八十三號及大正八年勅令第二百二十七號ハ之ヲ廢止ス

●裁判所職員定員令

（大正九年十二月二十日 勅令第五百六十六號）

（改正 大正一〇年第二二五號、一一年第四一八號、一二年第一五〇號、第四八五號、一三年第二三八號、一四年第一一二號、一五年第一七〇號、第三五二號 昭和二年第八七號）

朕裁判所職員定員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

裁判所職員定員令

第一條　判事檢事各職ノ定員左ノ如シ

大審院		
長	親任	一人
部長	勅任	八人
判事	勅任又ハ奏任	三十八人
大審院檢事局		
檢事總長	親任	一人
檢事	勅任又ハ奏任	十三人
控訴院		
長	勅任	七人
部長	勅任又ハ奏任	二十一人
判事	奏任	六十二人
控訴院檢事局		
檢事長	勅任	七人
檢事	勅任又ハ奏任	三十人
地方裁判所及區裁判所		
地方裁判所長	勅任	五十一人
判事	奏任	九百四十八人
地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局		
檢事正	勅任	五十一人
檢事	奏任	四百六十二人

勅任タル控訴院部長及控訴院檢事ハ通シテ十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條　前條ニ掲クルモノヲ除クノ外裁判所職員ノ定員左ノ如シ

書記長		八人	
通譯官	專任	二人	
書記	專任	五千二百九十五人	判任

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第五十八號ハ之ヲ廢止ス

附則（昭和二年勅令第八十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ地方裁判所長ノ職ニ在ル奏任タル判事ニシテ高等官官等俸給令第五條第一項ノ規定ニ依リ本令施行ノ日迄ニ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得ザル者ニ付テハ第一條

ノ改正規定ニ拘ラズ當分ノ内奏任官トシテ引續キ當該地方裁判所長タルコトヲ得

●東京區裁判所及横濱區裁判所ニ臨時職員增置ノ件

（大正十二年十二月二十七日 勅令第五百十七號）

（改正 大正一三年第一〇八號、第二三九號、第三五五號）

朕東京區裁判所ニ臨時職員增置ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

震災地ニ於ケル借地借家調停、借地借家臨時處理、和解、證據保全、登記及戸籍ニ關スル事務ニ從事セシムル爲震災應急費ノ範圍内ニ於テ東京區裁判所及横濱區裁判所ニ裁判所書記七十五人以内ヲ臨時增置スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●供託局官制

（大正十一年三月三十日 勅令第六十八號）

（改正 大正一三年第三五三號）

朕供託局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

供託局官制

第一條　供託局ハ司法大臣ノ管理ニ屬シ法令ニ依リ爲ス供託事務ヲ掌ル

第二條　供託局ハ各地方裁判所ノ所在地ニ之ヲ置ク

第三條　供託局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官　專任七人　奏任
書記　專任二百五十九人　判任

第四條　事務官ハ局長ト爲ル事務官ヲ置カサル局ニ在リテハ書記ヲ以テ局長ニ充ツ

第五條　局長ハ供託局ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第六條　書記ハ局長タル者ヲ除クノ外局長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　司法大臣ハ區裁判所又ハ其ノ出張所ノ所在地ニ供託局出張所ヲ置キ供託局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●監獄官制

（大正十一年十月十四日 勅令第四百三十四號）

（改正 大正一二年第一四九號、第二一九號、一三年第五七號、第一二九號、第二〇〇號、第三五四號、一四年第一八九號、第二二七號、一五年第四三號、第一〇二號、第三〇九號 昭和二年第一號）

朕監獄官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

監獄官制

第一條　監獄ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス

第二條　司法大臣ハ必要ト認ムルトキハ分監ヲ置クコトヲ得

第三條　各監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

典獄　專任四十七人　奏任
典獄補　專任三十一人　奏任
看守長　專任四百二十人　判任
通譯　專任五人　判任

第四條　監獄ノ長ハ典獄又ハ典獄補ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

分監ノ長ハ典獄補又ハ看守長ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第五條　監獄ノ長ハ司法大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第六條　分監ノ長ハ監獄ノ長ノ指揮ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第七條　典獄又ハ典獄補ハ監獄又ハ分監ノ長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌ル

第八條　看守長ハ分監ノ長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ事務ニ從事ス

第九條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通辯翻譯ニ從事ス

第十條　第三條ニ掲ケタル職員ノ外監獄ニ保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師、作業技手、看守及女監取締ヲ置ク其ノ定員及職務ニ關スル規程ハ司法大臣之ヲ定ム

保健技師及作業技師ハ奏任官ノ待遇トシ教誨師ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ保健技手、教師、作業技手、看守及女監取締ハ判任官ノ待遇トス

第十一條　監獄職員ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ノ奏薦及宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ、判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ監獄ノ長之ヲ行フ

第十二條　事務ノ分課及處務ノ規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第十三條　監獄ノ名稱及位置ハ別表ニ依ル

各監獄ノ種類竝特設監獄ノ名稱及位置ハ司法大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ監獄醫ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ保健技師ニ、判任官ノ待遇ヲ受クル者ハ保健技手ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

（別表）

監獄ノ名稱及位置

名稱	位置
小菅刑務所	東京府南葛飾郡南綾瀬村
市谷刑務所	東京府東京市
豐多摩刑務所	東京府豐多摩郡野方町
巣鴨刑務所	東京府北豐島郡西巣鴨町
横濱刑務所	神奈川縣横濱市
千葉刑務所	千葉縣千葉郡都村
水戸刑務所	茨城縣水戸市
宇都宮刑務所	栃木縣宇都宮市
前橋刑務所	群馬縣前橋市
静岡刑務所	静岡縣静岡市
甲府刑務所	山梨縣西山梨郡里垣村
長野刑務所	長野縣長野市
新潟刑務所	新潟縣新潟市
京都刑務所	京都府宇治郡山科町
大阪刑務所	大阪府堺市
神戸刑務所	兵庫縣神戸市
奈良刑務所	奈良縣奈良市
滋賀刑務所	滋賀縣滋賀郡膳所町
德島刑務所	德島縣德島市
高松刑務所	香川縣高松市
高知刑務所	高知縣高知市
名古屋刑務所	愛知縣名古屋市
三重刑務所	三重縣津市
岐阜刑務所	岐阜縣稻葉郡長良村
金澤刑務所	石川縣金澤市
廣島刑務所	廣島縣廣島市
山口刑務所	山口縣吉敷郡山口町
岡山刑務所	岡山縣岡山市
松江刑務所	島根縣松江市
松山刑務所	愛媛縣松山市
長崎刑務所	長崎縣北高來郡諫早町
三池刑務所	福岡縣大牟田市
福岡刑務所	福岡縣福岡市
大分刑務所	大分縣大分市
熊本刑務所	熊本縣熊本市
鹿兒島刑務所	鹿兒島縣鹿兒島市
宮崎刑務所	宮崎縣宮崎市
沖繩刑務所	沖繩縣島尻郡眞和志村
宮城刑務所	宮城縣仙臺市

福島刑務所	福島縣福島市
山形刑務所	山形縣山形市
秋田刑務所	秋田縣秋田市
青森刑務所	青森縣東津輕郡荒川村
札幌刑務所	北海道札幌郡札幌村
函館刑務所	北海道函館市
網走刑務所	北海道網走郡網走町
釧路刑務所	北海道釧路市

●東京府、神奈川縣及埼玉縣所在ノ監獄ニ職員增置ノ件

（大正十二年十月二十五日 勅令第四百五十三號）

朕東京府、神奈川縣及埼玉縣所在ノ監獄ニ職員增置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

震災後ノ監獄ノ警備ノ爲必要アルトキハ震災應急費ノ範圍內ニ於テ東京府、神奈川縣及埼玉縣所在ノ監獄ニ通シテ看守長十一人以內及看守百二十人以內ヲ增置スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師、作業技手、看守及女監取締ノ定員

（大正十一年十月十四日 司法省令第二十五號 改正 大正一四年第一號、第一四號 昭和二年第七號）

監獄官制第十條第一項ニ依リ保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師、作業技手、看守及女監取締ノ定員左ノ通相定ム但シ教習中ノ看守ハ定員外トス

保健技師	九十八人
保健技手	三十六人
教誨師	百八十一人
教師	三十七人
作業技師	二十人
作業技手	四百三十九人
看守	七千二百五十四人
女監取締	二百九十三人

●矯正院官制

（大正十一年十一月十日 勅令第四百八十九號 改正 大正一四年第二九一號）

朕矯正院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

矯正院官制

第一條 矯正院ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

院長		
教官	專任十八人	判任（內八人ヲ奏任ト爲スコトヲ得）
醫官	專任四人	奏任
書記	專任十人	判任

前項職員ノ外補導ヲ置ク判任官ノ待遇トス

第二條 院長ハ奏任官タル教官ヲ以テ之ニ充ツ司法大臣ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所部ノ職員ヲ監督ス

第三條 院長事故アルトキハ上席ノ教官其ノ職務ヲ代理ス

第四條 教官ハ在院者ノ矯正ヲ掌ル

第五條 醫官ハ在院者ノ衞生及診療ヲ掌ル

第六條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 補導ハ教官又ハ醫官ノ職務ヲ助ク其ノ定員ハ司法大臣之ヲ定ム

第八條 矯正院ノ位置及名稱ハ司法大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●喪失國債證券審査會官制

（大正十三年九月十三日 勅令第二百九號 改正 大正一四年第一三八號）

朕喪失國債證券審査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

喪失國債證券審査會官制

第一條 喪失國債證券審査會ハ司法大臣ノ監督ニ屬シ大正十三年法律第十四號ニ規定スル査定ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 審査會ニ左ノ職員ヲ置ク

會長	一人
審査員	十八人以内
幹事	三人
書記	若干人

第三條 會長ハ司法次官ヲ以テ之ニ充ツ審査員及幹事ハ司法大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及判事ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ司法大臣之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ司法大臣ノ指定スル審査員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 審査會ノ査定ハ審査員三人出席シテ之ヲ爲ス但シ再査定ハ前査定ニ關與セサル審査員五人出席シテ之ヲ爲ス

第六條 審査會ノ査定ハ出席シタル審査員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第七條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ會長、審査員及幹事ノ指揮ヲ承ケ記錄ノ調製其ノ他庶務ニ從事ス

附則

本令ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●喪失國債證券審査會審査規則

（大正十三年九月十三日 勅令第二百十號）

朕喪失國債證券審査會審査規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

喪失國債證券審査會審査規則

第一條 喪失國債證券審査會ハ司法省ニ於テ之ヲ開ク

第二條 無記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ノ査定ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル査定請求書ヲ喪失國債證券審査會ニ差出スヘシ

一 國債ノ名稱及總金額

二 證券ノ記號及番號竝額面金額ノ種類及枚數但シ不明ナルモノニ付テハ其ノ旨

三 請求者カ證券ニ付其ノ滅失又ハ紛失ノ際有シタル權利

四 證券ノ滅失又ハ紛失ニ關スル詳細ノ事情

第三條 證據調ニ關シテハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定竝民事訴訟費用法第九條及第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス但シ裁判所外ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第四條 民事訴訟法第三百七條第一項及第三百八條ノ規定ハ當事者ノ宣誓ニ付之ヲ準用ス

第五條 審査會ハ審査員ヲ指名シ之ヲシテ證據調其ノ他必要ナル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 當事者ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

第七條 非訟事件手續法第十一條、第十二條及第十四條ノ規定ハ審査會ノ審査手續ニ付之ヲ準用ス

第八條 請求者ハ査定書ノ交付ヲ受ケタル後一月內ニ審査會ニ對シ再査定ノ請求ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第十三款 文部省及其所管

●文部省官制

（明治三十一年十月二十二日 勅令第二百七十九號）

（改正 明治三二年第一四一號、三三年第一〇六號、第二〇八號、三五年第九五號、三六年第五九號、第二二七號、三七年第一四九號、三八年第九二號、四一年第六七號、四三年第六〇號、四四年第一四四號
大正二年第一七三號、三年第一二二號、第二一四號、第二二二號、五年第一六七號、第二一四號、七年第一一九號、八年第一四六號、九年第一二一號、第二九〇號、一〇年第二七三號、一一年第二〇三號、一二年第二二〇號、一三年第一八三號、第二三〇號、第三五六號、一四年第三一〇號、一五年第一九號、第八二號）

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育、學藝及宗教ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 公立學校職員ニ關スル事項

二 建築營繕ニ關スル事項

三 博覽會ニ關スル事項

四 褒賞ニ關スル事項

五 學校衞生ニ關スル事項

第三條 文部省專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ五局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

實業學務局

圖書局

宗教局

第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 大學及高等學校ニ關スル事項

二 專門學校ニ關スル事項

三 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

四 在外研究員ノ海外派遣ニ關スル事項

五 傳染病研究所、航空研究所、金屬材料研究所及地震研究所ニ關スル事項

六 天文臺氣象臺、測候所及緯度觀測所ニ關スル事項

七 學術技藝ノ獎勵及調査ニ關スル事項

八 測地學委員會、理學文書目錄委員會、航空評議會及震災豫防評議會ニ關スル事項

九 帝國學士院及帝國美術院ニ關スル事項

十 學術研究會議其ノ他ノ學術會ニ關スル事項

十一 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

十二 醫師試驗、齒科醫師試驗及藥劑師試驗ニ關スル事項

第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 師範教育ニ關スル事項

二 中學校ニ關スル事項

三 小學校及幼稚園ニ關スル事項

四 高等女學校ニ關スル事項

五 盲啞學校ニ關スル事項

六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

七 青年訓練所ニ關スル事項

八 社會教育ニ關スル事項

九 教育會ニ關スル事項

十 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項

十一 圖書館及博物館ニ關スル事項

第六條ノ二 實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 工業學校ニ關スル事項

二 農業學校ニ關スル事項

三 商業學校ニ關スル事項

四 商船學校ニ關スル事項

四ノ二 水産學校及前各號以外ノ實業教育ヲ爲ス學校ニ關スル事項

五 實業補習學校ニ關スル事項

六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

七 實業教育費國庫補助ニ關スル事項

八 實業學校教員ノ養成ニ關スル事項

第六條ノ三 圖書局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 教科用圖書ノ編輯及發行ニ關スル事項

二 教科用圖書ノ調査、檢定及認可ニ關スル事項

三 國語ノ調査ニ關スル事項

第六條ノ四 宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他宗教ニ關スル事項

二 古社寺保存ニ關スル事項

三 僧侶及教師ニ關スル事項

第七條 文部省ニ專任督學官九人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察監督ヲ掌ル

第八條 文部省ニ圖書事務官專任一人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ圖書ノ編輯及發行ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條ノ二 文部省ニ圖書監修官專任十四人ヲ置ク奏任トス教科用圖書ノ編修及審査ヲ掌ル

第八條ノ三 文部省ニ圖書監修官補專任七人ヲ置ク判任トス圖書監修官ノ事務ヲ助ク

第九條 文部省ニ專任技師一人ヲ置ク建築又ハ古社寺保存ニ關スル事務ヲ掌ル

文部省ニ技手ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク

第十條 文部省ニ學校衞生官專任三人ヲ置ク奏任トス學校衞生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條ノ二 文部省ニ學校衞生官補專任二人ヲ置ク判任トス學校衞生官ノ事務ヲ助ク

第十一條 屬及技手ハ通シテ專任八十二人ヲ以テ定員トス

附則

第十二條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●文部部內臨時職員設置制

（大正九年八月二十六日 勅令第二百九十三號 改正 大正一〇年第二六二號、第四三一號、一一年第一四〇號、一二年第二二一號、第二七三號、一三年第二六四號、一四年第二〇三號、一五年第一一五號）

朕文部部內臨時職員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

文部部內臨時職員設置制

第一條 高等諸學校ノ創設及擴張ニ關スル事務ニ從事セシムル爲文部省ニ左ノ職員ヲ增置ス

文部事務官	專任二人	奏任
技師	專任二十一人	
屬	專任二十二人	
技手	專任四十七人	

第二條 臨時建築ノ事務ニ從事セシムル爲文部省及帝國大學ヲ通シテ左ノ職員ヲ增置ス

技師	專任十四人
技手	專任四十四人

前項職員ノ俸給ハ臨時建築費ヨリ之ヲ支辨ス

第三條 震災復舊ニ關スル事務ニ從事セシムル爲文部省ニ左ノ職員ヲ增置ス

文部事務官	專任二人
技師	專任九人（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
屬	專任二十人
技手	專任二十三人

第四條 宗教制度調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲文部省ニ左ノ職員ヲ增置ス

文部事務官	專任一人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十年勅令第二百十五號

大正八年勅令第三百二十三號

本令施行ノ際現ニ文部省事務官ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ用井ス同官等俸給ヲ以テ文部事務官ニ任セラレタルモノトス

●東京帝國大學官制

（明治三十年六月二十二日 勅令第二百十號）

（改正 明治三一年第一七一號、三四年第一一四號、三五年第九六號、三六年第二二八號、三九年第三九號、四〇年第二三〇號、四一年第一四二號、四二年第八三號、四三年第六一號、四四年第四〇號、四五年第一二號
大正三年第五號、第一六六號、四年第一九五號、五年第四八號、第二五七號、六年第九二號、第一六〇號、七年第二七〇號、八年第五〇號、第四〇九號、九年第四〇八號、一〇年第三一〇號、第四四九號、一一年第三七七號、第四八一號、一二年第三七一號、一三年第一五六號、一四年第一三三號、第七三號、第二二〇號、一五年第二四六號）

朕東京帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

東京帝國大學官制

第一條 東京帝國大學ニ左ノ職員ヲ置ク

總長

教授

助教授

書記官

事務官

學生監

司書官

助手

書記

司書

技手

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ東京帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第二條ノ二 教授ハ專任二百二十九人奏任又

ハ勅任トス各學部ニ分屬シテ其ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ學部長、醫學部附屬醫院長、農學部附屬演習林長又ハ傳染病研究所長ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

第二條ノ三　助教授ハ專任百四十二人奏任トス各學部ニ分屬シ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外トス

但シ講座ヲ分擔スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　書記官ハ專任三人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第三條ノ二　事務官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ分掌ス

第四條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ二　司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記錄及閲覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條ノ三　助手ハ專任二百六十六人判任トス各學部ニ分屬シ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第五條　書記ハ專任六十七人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第五條ノ二　司書ハ專任十三人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第五條ノ三　技手ハ專任二人判任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　各學部ニ學部長一人ヲ置キ其ノ學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第七條　醫學部ニ附屬醫院、附屬醫院分院及附屬醫院藥局ヲ置ク

醫院ニ醫院長、分院ニ分院長、醫院藥局ニ藥局長ヲ置ク

醫院長ハ醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ分院長及藥局長ハ醫學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長及藥局長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ、分院長ハ總長及醫院長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第七條ノ二　醫院及醫院分院ニ藥劑手ヲ置ク專任十三人判任トス

藥劑手ハ上官ノ命ヲ承ケテ醫院又ハ醫院分院ニ於ケル調劑ニ關スル職務ニ服ス

第八條　醫院及醫院分院ニ看護長ヲ置ク專任十七人判任トス

看護長ハ上官ノ命ヲ承ケテ醫院又ハ醫院分院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第九條　理學部ニ附屬臨海實驗所及附屬植物園ヲ置ク

臨海實驗所ニ臨海實驗所長、植物園ニ植物園長ヲ置ク

臨海實驗所長及植物園長ハ理學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

臨海實驗所長及植物園長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第十條　農學部ニ附屬演習林及附屬農場ヲ置ク

演習林ニ演習林長、農場ニ農場長ヲ置キ農學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

演習林長及農場長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第十一條　農學部ニ附屬農業教員養成所ヲ置ク

農業教員養成所ニ農業教員養成所主事ヲ置キ農學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

農業教員養成所主事ハ農學部長ノ監督ノ下ニ於テ農業教員養成所ノ事務ヲ掌理ス

第十二條　東京帝國大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授、助教授又ハ司書官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

●傳染病研究所官制

大正五年三月三十一日
勅令第四十七號

改正　大正八年第五二號、第四一〇號、一〇年第二三二號、一二年第三〇七號

朕傳染病研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、文部大臣副署）

傳染病研究所官制

第一條　東京帝國大學ニ傳染病研究所ヲ附置ス

第二條　傳染病研究所ハ傳染病其ノ他病原ノ檢索、豫防治療方法ノ研究、豫防消毒治療材料ノ檢査、傳染病研究方法ノ講習並痘苗血清其ノ他細菌學的豫防治療品ノ製造及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　東京帝國大學總長ハ傳染病研究所ノ事務中衛生行政ニ關スル事項ニ付テハ內務大臣ノ監督ヲ承ク

第四條　傳染病研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長			
技師	專任	十人	奏任
技手	專任	二十五人	判任
藥劑手	專任	三人	判任
書記	專任	五人	判任
看護長	專任	三人	判任

前項定員ノ外二十人以內ノ無給技手ヲ置クコトヲ得

第五條　所長ハ技師又ハ東京帝國大學醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ東京帝國大學總長監督ノ下ニ於テ傳染病研究所ノ事務ヲ掌理ス

第六條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ檢索、研究、檢査、講習、製造及檢定ニ關スル事務ヲ分掌ス

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢索、研究、檢査、講習、製造及檢定ニ關スル事務ニ從事ス

第七條ノ二　藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第八條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　看護長ハ上官ノ命ヲ承ケテ看護ニ關スル職務ニ服ス

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

傳染病研究所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ傳染病研究所ノ技師、技手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各傳染病研究所ノ技師、技手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●航空研究所官制

大正十年七月十一日
勅令第三百十號

改正　大正一一年第三六〇號、第四八二號、一二年第三〇八號、一四年第七二號

朕航空研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

航空研究所官制

第一條　東京帝國大學ニ航空研究所ヲ附置ス

第二條　航空研究所ハ航空機ノ基礎的學理ニ關スル研究ヲ掌ル

第三條　航空研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
所員
技師
書記
技手

第四條　所長ハ東京帝國大學教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ東京帝國大學總長ノ監督ノ下ニ於テ航空研究所ノ事務ヲ掌理ス

第五條　所員ハ帝國大學ノ教授及助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所員ハ陸軍佐尉官同相當官、海軍佐尉官、陸軍技師又ハ海軍技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

所員ハ所長ノ監督ノ下ニ於テ航空機ニ關スル研究ヲ掌ル

第六條　技師ハ專任二人奏任トス上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條　書記ハ專任六人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條　技手ハ專任四十人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條　帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ講座ヲ擔任セサル教授及所員ニ補セラレ專ラ所務ニ從事スル助教授ハ所屬帝國大學ノ定員外トス

現役ノ陸軍佐尉官同相當官又ハ海軍佐尉官ニシテ所員ニ補セラレタル者ハ陸軍又ハ海軍ノ定員外トシ在職者ニ關スル規定ヲ適用ス

陸軍技師又ハ海軍技師ニシテ所員ニ補セラレタル者ハ陸軍又ハ海軍ノ定員外トス

第十條　第五條第二項ノ規定ニ依リ所員ニ補セラレタル者ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ航空研究所費ヨリ之ヲ支辨ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

東京帝國大學官制中第十二條ヲ削リ第十三條ヲ第十二條トス

●地震研究所官制

大正十四年十一月十四日
勅令第三百十一號

改正　大正一五年第一一七號
昭和二年第一七〇號

朕地震研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

地震研究所官制

第一條　東京帝國大學ニ地震研究所ヲ附置ス

第二條　地震研究所ハ地震ノ學理及震災豫防ニ關スル事項ノ研究ヲ掌ル

第三條　地震研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
所員
助手
書記

第四條　所長ハ帝國大學教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ東京帝國大學總長ノ監督ノ下ニ於テ地震研究所ノ事務ヲ掌理ス

第五條　所員ハ帝國大學ノ教授及助教授其ノ他ノ關係各廳高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所員ハ所長ノ監督ノ下ニ於テ研究ヲ掌ル

第六條　助手ハ專任十三人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ研究ニ從事ス

第七條　書記ハ專任二人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條　帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ講座ヲ擔任セサル教授及所員ニ補セラレ專ラ所務ニ從事スル助教授ハ所屬帝國大學ノ定員外トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●東京天文臺官制

大正十年十一月二十四日
勅令第四百五十號

改正　大正一一年第二三一號、一二年第三〇六號
昭和二年第一六九號

朕東京天文臺官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

東京天文臺官制

第一條　東京帝國大學ニ東京天文臺ヲ附置ス

第二條　東京天文臺ハ天文學ニ關スル事項ヲ攻究シ天象觀測、曆書編製、時ノ測定、報時及時計ノ檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　東京天文臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長		
技師	專任六人	奏任
書記	專任二人	判任
技手	專任十人	判任

第四條　臺長ハ技師又ハ東京帝國大學理學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

臺長ハ東京帝國大學總長ノ監督ノ下ニ於テ天文臺ノ事務ヲ掌理ス

第五條　技師ハ臺長ノ命ヲ承ケ天文學ニ關スル事項ノ攻究及技術ヲ掌ル

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十一年勅令第八十一號ハ之ヲ廢止ス

●史料編纂ニ關スル職員ノ件

明治三十八年三月二十九日
勅令第九十五號

改正　明治四三年第六九號
大正八年第五一號、一一年第二三二號、一三年第二一八號

朕史料編纂ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

大日本史料、大日本古文書及之ニ附屬スル書類ノ編纂ヲ爲サシムル爲東京帝國大學文學部ニ左ノ職員ヲ置ク

史料編纂官	專任十二人	奏任	（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
史料編纂官補	專任二十四人	判任	
史料編纂書記	專任五人	判任	
史料編纂技手	專任五人	判任	

附　則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●京都帝國大學官制

明治三十年六月二十二日
勅令第二百十一號

改正　明治三四年第一三三號、三六年第五五號、第一〇二號、第二二九號、三八年第九四號、三九年第四〇號、四〇年第二三一號、四一年第一四三號、四二年第八四號、四三年第六二號、四四年第四一號、四五年第一三號

大正三年第六號、第一六七號、五年第四九號、第二二一號、第二五八號、六年第一六四號、七年第二五五號、八年第五三號、第三二〇號、九年第二五〇號、一〇年第八五號、一一年第二九九號、一二年第二六八號、第四八八號、一三年第一三二號、一四年第七四號、第一九三號、一五年第一七六號

朕京都帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

京都帝國大學官制

第一條　京都帝國大學ニ左ノ職員ヲ置ク

總長
教授
助教授
書記官
事務官
學生監
司書官
助手
書記
司書

前項職員ノ外技手ヲ置ク

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ京都帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第二條ノ二　教授ハ專任百七十九人奏任又ハ勅任トス各學部ニ分屬シテ其ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ學部長又ハ醫學部附屬醫院長ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

第三條　助教授ハ專任百三十一人奏任トス各學部ニ分屬シ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外トス

但シ講座ヲ分擔スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二　書記官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

事務官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ分掌ス

第四條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ二　司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記錄及閲覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條ノ三　助手ハ專任百二十一人判任トス各學部ニ分屬シ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第五條　書記ハ專任四十三人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第五條ノ二　司書ハ專任十一人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第五條ノ三　技手ハ專任八人判任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　各學部ニ學部長一人ヲ置キ其ノ學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第七條　醫學部ニ附屬醫院ヲ置ク

醫院ニ醫院長ヲ置キ醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第八條　醫院ニ藥局長ヲ置ク專任一人奏任トス

第九條　醫院ニ藥劑手ヲ置ク專任十一人判任トス

藥局長ハ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

藥劑手ハ藥局長ノ指揮ヲ承ケテ醫院藥局ニ關スル職務ニ服ス

第十條　醫院ニ看護長ヲ置ク專任十五人判任トス

看護長ハ上官ノ命ヲ承ケテ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第十一條　農學部ニ附屬農場及附屬演習林ヲ置ク

農場ニ農場長、演習林ニ演習林長ヲ置キ農學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

農場長及演習林長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第十二條　京都帝國大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授、助教授又ハ司書官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

●化學研究所官制

大正十五年十月五日　勅令第三百十三號

朕化學研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

化學研究所官制

第一條　京都帝國大學ニ化學研究所ヲ附置ス

第二條　化學研究所ハ化學ニ關スル特殊事項ノ學理及應用ノ研究ヲ掌ル

第三條　化學研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
所員
助手
書記

第四條　所長ハ京都帝國大學教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ京都帝國大學總長ノ監督ノ下ニ於テ化學研究所ノ事務ヲ掌理ス

第五條　所員ハ帝國大學ノ教授及助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所員ハ所長ノ監督ノ下ニ於テ研究ヲ掌ル

第六條　助手ハ專任三人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ研究ニ從事ス

第七條　書記ハ專任一人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條　帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ講座ヲ擔任セサル教授及所員ニ補セラレ專ラ所務ニ從事スル助教授ハ所屬帝國大學ノ定員外トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●東北帝國大學官制

明治四十三年十二月二十二日　勅令第四百四十七號

改正　明治四四年第四二號、四五年第六五號、第一二二號　大正二年第三六號、第一八一號、三年第一六八號、四年第一一二號、五年第一五九號、第二五九號、六年第一六五號、七年第四一號、第九六號、第二五六號、八年第五五號、第二二九號、九年第三九四號、一〇年第五一號、第八七號、一一年第三六二號、第三九七號、第四八三號、一二年第二四二號、一三年第一五七號、一四年第二三號、第七五號、第二六三號、一五年第一七七號

朕東北帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

東北帝國大學官制

第一條　東北帝國大學ニ左ノ職員ヲ置ク

總長
教授
助教授
事務官
學生監
司書官
助手
書記
司書

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ東北帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第二條ノ二　教授ハ專任百十七人奏任又ハ勅任トス各學部ニ分屬シテ其ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ學部長又ハ醫學部附屬醫院長ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

第二條ノ三　助教授ハ專任八十三人奏任トス各學部ニ分屬シ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外トス

但シ講座ヲ分擔スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　事務官ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ二　司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記錄及閲覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條ノ三　助手ハ專任百三十八人判任トス各學部ニ分屬シ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第五條　書記ハ專任二十八人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第五條ノ二　司書ハ專任五人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　各學部ニ學部長一人ヲ置キ其ノ學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第六條ノ二　理學部ニ附屬臨海實驗所ヲ置ク

臨海實驗所ニ臨海實驗所長ヲ置キ理學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

臨海實驗所長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ臨海實驗所ノ事務ヲ掌理ス

第七條　醫學部ニ附屬醫院ヲ置ク

醫院ニ醫院長ヲ置キ醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第八條　醫院ニ藥局長ヲ置ク專任一人奏任トス

第九條　醫院ニ藥劑手ヲ置ク專任十一人判任トス

藥局長ハ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

藥劑手ハ藥局長ノ指揮ヲ承ケテ醫院藥局ニ關スル職務ニ服ス

第十條　醫院ニ看護長ヲ置ク專任十五人判任トス

看護長ハ上官ノ命ヲ承ケテ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第十一條　東北帝國大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授、助教授又ハ司書官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附　則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

東北帝國大學農科大學官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ東北帝國大學農科大學又ハ附屬大學豫科、土木工學科、水産學科ノ教授、助教授、助手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各東北帝國大學農科大學又ハ附屬大學豫科、土木工學科、水産學科ノ教授、助教授、助手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

前項ノ規定ニ依リ東北帝國大學農科大學附屬大學豫科、土木工學科、水産學科教授ニ任セラレタル者ニ關シテハ高等官官等俸給令第十條第四項ノ適用ニ付前官ノ在職年數ヲ通算ス

附　則（明治四十五年勅令第六十五號）

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ仙臺醫學專門學校又ハ仙臺高等工業學校ノ教授、助教授又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各東北帝國大學附屬醫學專門部、工學專門部ノ教授、助教授又ハ東北帝國大學書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

前項ノ規定ニ依リ東北帝國大學附屬醫學專門部、工學專門部教授ニ任セラレタル者ニ關シテハ高等官官等俸給令第十條第四項ノ適用ニ付前官ノ在職年數ヲ通算ス

附　則（大正十年勅令第五十一號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東北帝國大學工學專門部ノ教授又ハ助教授ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各仙臺高等工業學校ノ教授又ハ助教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ東北帝國大學工學專門部ノ教授又ハ助教授ニシテ休職ノ者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ休職ノ儘各仙臺高等工業學校ノ教授又ハ助教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

前二項ノ規定ニ依リ仙臺高等工業學校教授ニ任セラレタル者ニ關シテハ高等官官等俸給令第十條第三項ノ規定ノ適用ニ付前官ノ在職年數ヲ通算ス

●金屬材料研究所官制

大正十一年八月九日　勅令第三百六十一號

改正　大正一一年第四八四號、一二年第二二五號、一三年第一六五號

朕金屬材料研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

金屬材料研究所官制

第一條　東北帝國大學ニ金屬材料研究所ヲ附置ス

第二條　金屬材料研究所ハ鐵銅其ノ他ノ金屬及合金ニ關スル學理及應用ノ研究ヲ掌ル

第三條　金屬材料研究所ニ左ノ三部ヲ置ク

冶金部
製鋼部
鑄物部

第四條　金屬材料研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
所員
助手
書記

第五條　所長ハ東北帝國大學教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ東北帝國大學總長ノ監督ノ下ニ於テ金屬材料研究所ノ事務ヲ掌理ス

第六條　所員ハ帝國大學ノ教授及助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所員ハ所長ノ監督ノ下ニ於テ研究ヲ掌ル

第七條　助手ハ專任二十四人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ研究ニ從事ス

第八條　書記ハ專任二人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九條　帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ講座ヲ擔任セサル教授及所員ニ補セラレ專ラ所務ニ從事スル助教授ハ所屬帝國大學ノ定員外トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●九州帝國大學官制

明治四十四年三月三十一日　勅令第四十三號

改正　明治四五年第一二三號　大正二年第一八二號、三年第一六九號、四年第二一〇號、五年第二一一號、六年第一六六號、七年第二三〇號、八年第五六號、第三四二號、九年第三四〇號、一〇年第一二〇號、一一年第二九〇號、一二年第二二七號、一三年第一五八號、第二二〇號、一四年第七六號、第一九五號、一五年第一一八號

朕九州帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

九州帝國大學官制

第一條　九州帝國大學ニ左ノ職員ヲ置ク

總長
教授
助教授
事務官
學生監
司書官
助手
書記
司書

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ九州帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第二條ノ二　教授ハ專任百二十九人奏任又ハ勅任トス各學部ニ分屬シテ其ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ學部長又ハ醫學部附屬醫院長ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

第二條ノ三　助教授ハ專任八十二人奏任トス各學部ニ分屬シ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外トス

但シ講座ヲ分擔スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　事務官ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ二　司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記錄及閲覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條ノ三　助手ハ專任百六十二人判任トス各學部ニ分屬シ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第五條　書記ハ專任三十三人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第五條ノ二　司書ハ專任五人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　各學部ニ學部長一人ヲ置キ其ノ學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第七條　醫學部ニ附屬醫院ヲ置ク

醫院ニ醫院長ヲ置キ醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第八條　醫院ニ藥局長ヲ置ク專任一人奏任トス

藥局長ハ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

第九條　醫院ニ藥劑手ヲ置ク專任十一人判任トス

藥劑手ハ藥局長ノ指揮ヲ承ケテ醫院藥局ニ關スル職務ニ服ス

第十條　醫院ニ看護長ヲ置ク專任十五人判任トス

看護長ハ上官ノ命ヲ承ケテ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第十一條　農學部ニ附屬農場及附屬演習林ヲ置ク

農場ニ農場長、演習林ニ演習林長ヲ置ク農學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

農場長及演習林長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第十二條　九州帝國大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置ク、教授、助教授又ハ司書官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

九州帝國大學工科大學官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ九州帝國大學工科大學ノ教授又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各九州帝國大學工科大學ノ教授又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ京都帝國大學福岡醫科大學ノ教授、助教授、附屬醫院藥局長、助手、書記又ハ附屬醫院藥劑手ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各九州帝國大學醫科大學ノ教授、助教授、附屬醫院藥局長、助手、書記又ハ附屬醫院藥劑手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●北海道帝國大學官制

大正七年四月一日　勅令第四十四號

改正　大正七年第二六八號、八年第五七號、第四一六號、九年第一七〇號、第三九六號、一〇年第一一八號、一一年第二五七號、一二年第二四四號、一三年第一五九號、第二二一號、一四年第七七號、第一九七號、一

五年第一七八號

朕北海道帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

北海道帝國大學官制

第一條　北海道帝國大學ニ左ノ職員ヲ置ク

總長
教授
助教授
事務官
學生監
司書官
助手
書記
司書

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ北海道帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第二條ノ二　教授ハ專任八十四人奏任又ハ勅任トス各學部ニ分屬シテ其ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ學部長又ハ醫學部附屬醫院長ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

第二條ノ三　助教授ハ專任七十一人奏任トス各學部ニ分屬シ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外トス但シ講座ヲ分擔スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　事務官ハ專任二人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ二　司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記錄及閲覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條ノ三　助手ハ專任百五十七人判任トス各學部ニ分屬シ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第五條　書記ハ專任三十九人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第五條ノ二　司書ハ專任三人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　各學部ニ學部長一人ヲ置キ其ノ學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第七條　農學部ニ附屬植物園、附屬農場及附屬演習林ヲ置ク

植物園ニ植物園長、農場ニ農場長、演習林ニ演習林長ヲ置キ農學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長、農場長及演習林長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第八條　醫學部ニ附屬醫院ヲ置ク

醫院ニ醫院長ヲ置キ醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第九條　醫院ニ藥局長ヲ置ク專任一人奏任トス

藥局長ハ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

第十條　醫院ニ藥劑手ヲ置ク專任十人判任トス

藥劑手ハ藥局長ノ指揮ヲ承ケ醫院藥局ニ關スル職務ニ服ス

第十一條　醫院ニ看護長ヲ置ク專任十人判任トス

看護長ハ上官ノ命ヲ承ケ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第十二條　北海道帝國大學ニ豫科ヲ置キ教授專任四十一人助教授專任九人ヲ置ク

教授ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

豫科ニ主事及生徒監ヲ置キ豫科教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ總長ノ命ヲ承ケ豫科ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

生徒監ハ主事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ調育ヲ掌ル

第十三條　北海道帝國大學ニ附屬土木專門部及附屬水產專門部ヲ置キ教授專任十六人助教授專任十人ヲ置ク

教授ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

各專門部ニ主事及生徒監ヲ置キ專門部教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ總長ノ命ヲ承ケ各專門部ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

生徒監ハ主事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ調育ヲ掌ル

第十四條　北海道帝國大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置ク教授、助教授又ハ司書官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東北帝國大學農科大學又ハ附屬大學豫科、土木工學科、水產學科ノ教授、助教授、助手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各北海道帝國大學農科大學又ハ北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部ノ教授、助教授、助手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ東北帝國大學農科大學ノ助手又ハ東北帝國大學農科大學附屬水產學科ノ教授ニシテ休職ノ者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ休職ノ儘各北海道帝國大學農科大學ノ助手又ハ北海道帝國大學附屬水產專門部ノ教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

第二項ノ規定ニ依リ北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部教授ニ任セラレタル者ニ關シテハ高等官官等俸給令第十條第五項ノ適用ニ付前官ノ在職年數ヲ通算ス

●東京商科大學官制

大正九年四月一日
勅令第七十一號
改正　大正九年第一八三號、第四一二號、一〇年第三三四號、一一年第二九二號、一二年第二二八號、一四年第七八號、第二九七號、一五年第三〇一號

朕東京商科大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

東京商科大學官制

第一條　東京商科大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學長
教授
助教授
事務官
學生監
助手
書記
司書

第二條　大學長ハ勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ東京商科大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

大學長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　教授ハ專任二十二人奏任又ハ勅任トス學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

第四條　助教授ハ專任五人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第五條　事務官ハ專任一人奏任トス大學長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第六條　學生監ハ一人トス教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學生監ハ大學長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　助手ハ專任五人判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ學術ニ關スル職務ニ服ス

第八條　書記ハ專任十五人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條ノ二　司書ハ專任二人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　大學長ハ必要アル場合ニ於テハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第十條　東京商科大學ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル

教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一　學科課程ニ關スル事項

二　學生ノ試驗ニ關スル事項

三　文部大臣又ハ大學長ノ諮詢シタル事項

第十二條　大學長ハ必要アリト認ムルトキハ助教授又ハ講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十三條　東京商科大學ニ功勞アル者ニハ勅旨ニ依リ東京商科大學名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條　東京商科大學ニ豫科ヲ置ク

豫科ニ教授專任二十三人、助教授專任五人ヲ置ク

教授ハ奏任、助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

豫科ニ主事一人ヲ置キ豫科教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ大學長ノ命ヲ承ケ豫科ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督シ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十五條　東京商科大學ニ附屬商學專門部ヲ置ク

商學專門部ニ教授專任二十二人助教授專任五人ヲ置ク

教授ハ奏任、助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

商學專門部ニ主事一人ヲ置キ商學專門部教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ大學長ノ命ヲ承ケ商學專門部ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督シ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十六條　東京商科大學ニ附屬商業教員養成所ヲ置ク

商業教員養成所ニ主事一人ヲ置キ商學專門部教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ大學長ノ監督ノ下ニ於テ商業教員養成所ノ事務ヲ掌理ス

第十七條　東京商科大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置ク教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ大學長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東京高等商業學校名譽教授タル者ニハ本令施行ノ際ニ限リ勅旨ニ依リ東京商科大學名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

●官立醫科大學官制

大正十一年三月三十一日
勅令第百四十三號
改正　大正一二年第九三號、一三年第九四號、第一二三四號、一四年第七九號、一五年第三〇二號

朕官立醫科大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

官立醫科大學官制

第一條　官立醫科大學ハ左ノ如シ

新潟醫科大學
岡山醫科大學
千葉醫科大學
金澤醫科大學
長崎醫科大學

第二條　官立醫科大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學長
教授
助教授
事務官
學生監
助手
書記
司書

第三條　大學長ハ勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ官立醫科大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

大學長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第四條　教授ハ奏任又ハ勅任トス學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

第五條　助教授ハ奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第六條　事務官ハ奏任トス大學長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第七條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ學術ニ關スル職務ニ服ス

第九條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條ノ二　司書ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第十條　大學長ハ必要アル場合ニ於テハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第十一條　官立醫科大學ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條　大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル

教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一　學科課程ニ關スル事項

二　學生ノ試驗ニ關スル事項

三　學位ニ關スル事項

四　文部大臣又ハ大學長ノ諮詢シタル事項

第十三條　大學長ハ必要アリト認ムルトキハ助教授又ハ講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十四條　官立醫科大學ニ附屬醫院ヲ置ク

附屬醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

醫院長
藥局長
藥劑手
看護長

第十五條　醫院長ハ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學長ノ監督ヲ承ケ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第十六條　藥局長ハ奏任トス醫院長ノ監督ヲ承ケ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

第十七條　藥劑手ハ判任トス藥局長ノ指揮ヲ承ケ醫院藥局ニ關スル職務ニ服ス

第十八條　看護長ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第十九條　千葉醫科大學、金澤醫科大學及長崎醫科大學ニ附屬藥學專門部ヲ置ク

專門部ニ教授及助教授ヲ置ク

教授ハ奏任、助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

專門部ニ主事ヲ置ク專門部教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學長ノ命ヲ承ケ專門部ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督シ生徒ノ調育ヲ掌ル

第二十條　官立醫科大學、附屬醫院及附屬專門部ノ專任職員ノ定員ハ別表ニ依ル

第二十一條　官立醫科大學ニ功勞アリ又ハ學術上效績アル者ニハ勅旨ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

第二十二條　官立醫科大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置ク教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ大學長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

（別表）

官立醫科大學職員定員表

	大學長	教授	助教授	事務官	助手	書記	司書	附屬醫院			附屬專門部	
								藥局長	藥劑手	看護長	教授	助教授
新潟醫科大學	一人	二十四人	二十三人	一人	六十二人	十二人	一人	一人	十人	十人		
岡山醫科大學	一人	二十四人	二十三人	一人	六十二人	十二人	一人	一人	十人	十人		
千葉醫科大學	一人	二十四人	二十三人	一人	六十二人	十二人	一人	一人	十人	十人	七人	四人
金澤醫科大學	一人	二十四人	二十三人	一人	六十二人	十二人	一人	一人	十人	十人	七人	四人
長崎醫科大學	一人	二十四人	二十三人	一人	六十二人	十二人	一人	一人	十人	十人	七人	四人

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ新潟醫學專門學校又ハ岡山醫學專門學校ノ教授又ハ助教授ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各新潟醫科大學附屬醫學專門部又ハ岡山醫科大學附屬醫學專門部ノ教授又ハ助教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ新潟醫學專門學校又ハ岡山醫學專門學校ノ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各新潟醫科大學又ハ岡山醫科大學ノ書記ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●文部省直轄諸學校官制

（明治二十六年八月二十五日勅令第八十六號）

改正　明治三二年第一一七號、三三年第八四號、三四年第二四號、三五年第九八號、三八年第四〇號、第九六號、三九年第四一號、四〇年第二四六號、四一年第六八號、四二年第八六號、四三年第六六號、四五年第六六號

大正三年第四四號、第一二三號、四年第二三五號、八年第一一二號、第四八六號、九年第一五號、第七二號、第一一〇號、第二五一號、第五五一號、一〇年第四九號、第四三二號、第四五六號、一一年第一四二號、第三九一號、第四四一號、一二年第九四號、第五〇一號、一三年第五八號、第一二二號、第二二二號、一四年第六號、第八〇號

朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

文部省直轄諸學校官制

第一條　文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校
廣島高等師範學校
東京女子高等師範學校
奈良女子高等師範學校
盛岡高等農林學校
鹿兒島高等農林學校
上田蠶絲專門學校
東京高等蠶絲學校
京都高等蠶業學校
鳥取高等農業學校
三重高等農林學校
宇都宮高等農林學校
岐阜高等農林學校
宮崎高等農林學校
神戸高等商業學校
長崎高等商業學校
山口高等商業學校
小樽高等商業學校
名古屋高等商業學校
福島高等商業學校
大分高等商業學校
彦根高等商業學校
和歌山高等商業學校
横濱高等商業學校
高松高等商業學校
高岡高等商業學校
第一高等學校
第二高等學校
第三高等學校
第四高等學校
第五高等學校
第六高等學校
第七高等學校造士館
第八高等學校
新潟高等學校
松本高等學校
山口高等學校
松山高等學校
水戸高等學校
山形高等學校
佐賀高等學校
弘前高等學校
松江高等學校
東京高等學校
大阪高等學校
浦和高等學校
福岡高等學校
靜岡高等學校
高知高等學校
姫路高等學校
廣島高等學校
富山藥學專門學校
熊本藥學專門學校
東京高等工業學校
大阪高等工業學校
京都高等工藝學校
名古屋高等工業學校
熊本高等工業學校
米澤高等工業學校
桐生高等工業學校
横濱高等工業學校
廣島高等工業學校
金澤高等工業學校
仙臺高等工業學校
明治專門學校
東京高等工藝學校
神戸高等工業學校
濱松高等工業學校
德島高等工業學校
長岡高等工業學校
福井高等工業學校
山梨高等工業學校
秋田鑛山專門學校
東京高等商船學校
神戸高等商船學校
東京外國語學校
大阪外國語學校
東京美術學校
東京音樂學校
東京盲學校
東京聾啞學校

第二條　高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク

第三條　女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校附屬幼稚園ヲ置ク

第四條　東京高等工業學校ニ工業教員養成所ヲ附設ス

第五條　大阪高等工業學校ニ工業教員養成所ヲ附設ス

第五條ノ二　東京高等工藝學校ニ附屬工藝實修學校ヲ置ク

第六條　文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
教授
生徒監
助教授
書記

第七條　校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條　教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條　生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十一條　第六條ニ掲クル職員ノ外高等師範學校及女子高等師範學校ニ教諭助教諭及訓導ヲ、高等師範學校ニ助手ヲ、女子高等師範學校ニ保姆ヲ置ク

教諭ハ奏任トシ助教諭、訓導、助手及保姆ハ判任トス

教諭及助教諭ハ附屬中學校又ハ附屬高等女學校ノ生徒ノ教育ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

訓導ハ附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

助手ハ教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

保姆ハ附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十二條　第六條ニ掲クル職員ノ外東京高等學校ニ教諭及助教諭ヲ置ク

教諭ハ奏任トシ助教諭ハ判任トス尋常科生徒ノ教育ヲ掌ル

第十三條　削除

第十四條　削除

第十五條　削除

第十六條　東京盲學校及東京聾啞學校ニ教授助教授ヲ置カス教諭助教諭及訓導ヲ置ク教諭ハ奏任トシ助教諭及訓導ハ判任トス

教諭及助教諭ハ教員志望者及中等部生徒ノ教育ヲ掌リ訓導ハ初等部生徒ノ授業ヲ掌ル

第十七條　專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條　文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校東京高等工業學校大阪高等工業學校及東京高等工藝學校ノ教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事教員養成所主事附屬幼稚園主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十九條　文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附　則

第二十條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

附　則（大正九年勅令第二百五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神戸高等商船學校ニハ當分ノ內甲種商船學校ヲ附設ス

附　則（大正十四年勅令第八十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商船學校官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ商船學校ノ校長又ハ教授ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各東京高等商船學校ノ校長又ハ教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ商船學校ノ助教又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各東京高等商船學校ノ助教授又ハ書記ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●文部省直轄諸學校職員定員令

（明治三十五年三月二十八日勅令第九十九號）

改正　明治三六年第五六號、第六九號、第一〇三號、第二三一號、三七年第一四二號、三八年第四〇號、第九七號、三九年第四六號、第一八六號、四〇年第二四七號、四一年第六九號、四二年第八八號、四三年第六七號、四四年第七三號、四五年第一三〇號

大正二年第一八三號、三年第四五號、第一七〇號、四年第二三六號、五年第九四號、第一一四號、第二六四號、六年第六〇號、第一六一號、七年第二八六號、八年第一一三號、第四八七號、九年第一五號、第五六號、第七三號、第一一一號、第一八〇號、第二五二號、第三三九號、第五五二號、一〇年第五〇號、第一七〇號、第二三三號、第四三三號、第四五七號、一一年第二〇四號、第二四二號、第三九二號、第四四二號、一二年第九五號、第一六一號、第二二九號、第三〇一號、第五〇二號、一三年第五九號、第九八號、第一二三號、第一三九號、第二二三號、一四年第七號、第二四號、第八一號、第一四二號、第二一六號、第二六二號、一五年第二四九號

朕文部省直轄諸學校職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

文部省直轄諸學校職員定員令

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

	校長	教授	教諭	助教授	助教諭	訓導	保姆	助手	書記
東京高等師範學校	一人	五十七人	二十一人	十三人	七人	三十一人		三人	十一人
廣島高等師範學校	一人	五十一人	十二人	八人	八人	十九人		二人	八人
東京女子高等師範學校	一人	二十八人	十五人	八人	十六人	二十一人	六人		八人
奈良女子高等師範學校	一人	二十四人	十一人	九人	十六人	十八人	七人	二人	八人
盛岡高等農林學校	一人	二十一人		十四人					七人
鹿兒島高等農林學校	一人	二十人		十三人					七人
上田蠶絲專門學校	一人	十七人		九人					七人
東京高等蠶絲學校	一人	十六人		九人					七人
京都高等蠶業學校	一人	十二人		十人					六人
鳥取高等農業學校	一人	十六人		九人					六人
三重高等農林學校	一人	十八人		十一人					六人
宇都宮高等農林學校	一人	十八人		十一人					六人
岐阜高等農林學校	一人	十八人		十一人					六人
宮崎高等農林學校	一人	十四人		八人					五人
神戸高等商業學校	一人	三十四人		四人					七人
長崎高等商業學校	一人	二十三人		十人					七人
山口高等商業學校	一人	二十三人		七人					七人
小樽高等商業學校	一人	二十二人		六人					七人
名古屋高等商業學校	一人	二十二人		七人					七人
福島高等商業學校	一人	二十人		七人					六人
大分高等商業學校	一人	二十人		七人					六人
彦根高等商業學校	一人	二十人		七人					六人
和歌山高等商業學校	一人	二十人		七人					六人
横濱高等商業學校	一人	二十人		七人					六人
高松高等商業學校	一人	二十人		七人					六人
高岡高等商業學校	一人	十六人		五人					五人
第一高等學校	一人	四十七人		六人					八人
第二高等學校	一人	三十六人		五人					七人
第三高等學校	一人	四十人		五人					七人
第四高等學校	一人	三十六人		三人					七人
第五高等學校	一人	四十人		五人					七人
第六高等學校	一人	三十六人		三人					七人
第七高等學校造士館	一人	三十二人		三人					七人

第八高等學校	一人	三十六人		三人					七人
新潟高等學校	一人	二十五人		三人					六人
松本高等學校	一人	二十五人		三人					六人
山口高等學校	一人	二十五人		三人					六人
松山高等學校	一人	二十五人		三人					六人
水戶高等學校	一人	三十人		四人					六人
山形高等學校	一人	三十人		四人					六人
佐賀高等學校	一人	三十人		四人					六人
弘前高等學校	一人	三十人		四人					六人
松江高等學校	一人	三十人		四人					六人
東京高等學校	一人	二十二人	十一人	三人	七人				七人
大阪高等學校	一人	三十人		四人					六人
浦和高等學校	一人	三十人		四人					六人
福岡高等學校	一人	三十人		四人					六人
靜岡高等學校	一人	三十人		四人					六人
高知高等學校	一人	三十人		四人					六人
姬路高等學校	一人	三十人		四人					六人
廣島高等學校	一人	三十人		四人					六人
富山藥學專門學校	一人	十二人		四人					五人
熊本藥學專門學校	一人	十二人		四人					五人
東京高等工業學校	一人	三十六人		二十八人					九人
大阪高等工業學校	一人	二十九人		二十六人					七人
京都高等工藝學校	一人	十三人		八人					六人
名古屋高等工業學校	一人	二十五人		十二人					七人
熊本高等工業學校	一人	二十一人		十一人					七人
米澤高等工業學校	一人	二十三人		十三人					七人
桐生高等工業學校	一人	十七人		十人					七人
橫濱高等工業學校	一人	二十四人		十二人					七人
廣島高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
金澤高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
仙臺高等工業學校	一人	十七人		九人					六人
明治專門學校	一人	三十一人		十四人					八人
東京高等工藝學校	一人	二十二人		十八人					八人
神戶高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
濱松高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
德島高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
長岡高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
福井高等工業學校	一人	二十人		九人					六人
山梨高等工業學校	一人	十六人		七人					五人
秋田鑛山專門學校	一人	十五人		十人					六人
東京高等商船學校	一人	三十一人		十二人					六人
神戶高等商船學校	一人	三十六人		十五人					六人
東京外國語學校	一人	三十四人		八人					七人
大阪外國語學校	一人	二十三人		六人					六人
東京美術學校	一人	二十九人		十九人					七人
東京音樂學校	一人	十三人		十人					六人
東京盲學校	一人		七人		二人	九人			四人
東京聾啞學校	一人		七人		三人	十人			四人

附　則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年勅令第八十七號ハ之ヲ廢止ス

●文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル件（大正三年六月二十日勅令第百二十四號）

朕文部省直轄諸學校ノ名譽教授ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

文部省直轄諸學校ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ニハ文部大臣ノ奏薦ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時教員養成所官制（明治三十五年三月二十八日勅令第百號　改正　明治三六年第二三二號、三九年第四二號）

朕臨時教員養成所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

臨時教員養成所官制

第一條　臨時教員養成所ハ師範學校、中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　臨時教員養成所ハ文部大臣ノ指定スル帝國大學及直轄諸學校內ニ之ヲ置ク

第三條　臨時教員養成所ハ當該帝國大學總長及直轄諸學校長ヲシテ之ヲ管理セシム

第四條　臨時教員養成所ニ教授及書記ヲ置ク

教授ハ奏任トシ各所ヲ通シ專任六人ヲ以テ定員トス生徒ノ教授ヲ掌ル

書記ハ判任トシ各所ヲ通シ專任三人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

臨時教員養成所管理者ハ講師ヲ囑託シ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第五條　臨時教員養成所ノ名稱ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件（明治二十六年九月十一日勅令第九十六號　改正　大正九年第七四號）

朕帝國大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長、官立大學長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

●維新史料編纂會官制（明治四十四年五月十日勅令第百四十五號　改正　大正二年第一七五號、七年第二五號、一二年第二二二號、一三年第三五七號）

朕維新史料編纂會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

維新史料編纂會官制

第一條　維新史料編纂會ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ維新史料ノ蒐集及編纂ヲ掌ル

第二條　維新史料編纂會ハ總裁一人副總裁一人顧問及委員若干人ヲ以テ組織ス

第三條　總裁副總裁及顧問ハ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス

第四條　委員ハ總裁ノ推薦ニ依リ文部大臣之ヲ奏請シ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　總裁ハ會務ヲ統理ス

副總裁ハ總裁ヲ補佐シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　維新史料編纂會ノ事務ヲ掌理セシムル爲維新史料編纂事務局ヲ置ク

第七條　維新史料編纂事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

維新史料編纂官　專任六人　奏任

維新史料編纂官補　專任六人　判任

書記　專任四人　判任

局長ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

第八條　局長ハ總裁ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

維新史料編纂官ハ上司ノ命ヲ承ケ維新史料ノ蒐集及編纂ヲ擔任ス

維新史料編纂官補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ維新史料ノ蒐集及編纂ニ從事ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●氣象臺官制（大正九年八月二十六日勅令第二百九十四號　改正　大正一〇年第二五六號、一一年第一四一號、第四一二號、一二年第九一號、一三年第二一九號、一四年第二五七號、一五年第一七九號　昭和二年第一七一號）

朕氣象臺官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

氣象臺官制

第一條　氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ氣象ニ關スル事項ヲ攻究シ氣象事業ヲ掌ル

第二條　東京ニ中央氣象臺、神戶ニ海洋氣象臺、茨城縣下ニ高層氣象臺ヲ置ク

第三條　中央氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌リ兼ネテ氣象事業ヲ統轄ス

一　全國氣象ノ調査及報告
二　全國ノ天氣豫報及暴風警報
三　全國地震調査
四　農業氣象ニ關スル調査及研究
五　航空氣象ノ觀測、調査及豫報
六　地磁氣及空中電氣ノ觀測及調査
七　津浪ノ調査及研究
八　一般氣象ニ關スル事項ノ研究
九　氣象器械及地震器械ノ研究、調整、檢定、製作及修理
十　東京地方ノ氣象及地震ノ觀測
十一　東京地方ノ天氣豫報及暴風警報

第四條　海洋氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　海洋氣象及地球磁力ノ觀測及調査竝之カ爲必要ナル天體現象及地動ノ觀測
二　海流、潮汐其ノ他海洋ニ於ケル物理的諸現象ノ觀測及調査
三　天氣圖及磁氣偏角圖ノ發行
四　氣象器械及時辰儀、時計、羅針盤其ノ他ノ航海測器ノ研究、調整及檢定
五　洋上船舶ニ對スル暴風雨警戒

第五條　高層氣象臺ハ高層氣象ノ觀測及調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長

技師　專任二十一人　奏任（內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）

書記　專任十三人　判任

技手　專任九十七人　判任

第七條　臺長ハ技師ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

臺長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ氣象臺ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第八條　技師ハ臺長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條　中央氣象臺ニ附屬測候所及附屬地磁氣觀測所ヲ、海洋氣象臺ニ附屬檢潮所ヲ置ク其ノ位置及名稱ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　附屬測候所及附屬地磁氣觀測所ニ所長ヲ置ク氣象臺技師又ハ氣象臺技手ヲ以テ之ニ充ツ技師ニ在リテハ文部大臣之ヲ補シ技手ニ在リテハ中央氣象臺長之ヲ命ス

附屬測候所長又ハ附屬地磁氣觀測所長ハ中央氣象臺長ノ指揮監督ヲ承ケ附屬測候所又ハ附屬地磁氣觀測所ノ事務ヲ掌ル

第十二條　附屬檢潮所ニ所長ヲ置ク氣象臺技手ノ中ヨリ海洋氣象臺長之ヲ命ス

附屬檢潮所長ハ海洋氣象臺長ノ指揮監督ヲ承ケ附屬檢潮所ノ事務ヲ掌ル

第十三條　中央氣象臺ニ附屬測候技術官養成所ヲ置キ測候技術官又ハ測候技術官タルヘキ者ニ必要ナル學藝技術ヲ授ク

測候技術官養成所ニ主事一人ヲ置ク氣象臺技師ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ中央氣象臺長監督ノ下ニ於テ測候技術官養成所ノ事務ヲ掌ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

中央氣象臺官制及大正七年勅令第三百三十六號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ中央氣象臺ノ技師、技手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各氣象臺ノ技師、技手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ中央氣象臺技手ニシテ休職ノ者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ休職ノ儘氣象臺技手ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●氣象臺職員ニ在支那帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得ルノ件（大正九年八月二十六日勅令第二百九十五號　改正　大正一一年第三四一號、一二年第九二號）

朕氣象臺技手ニ在支那帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、外務、文部大臣副署）

第一條　文部大臣ハ氣象又ハ地磁氣觀測ノ爲氣象臺職員ニ在支那帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得

第二條　在支那帝國領事館附氣象臺職員ニハ在勤手當、加給手當ヲ支給ス其ノ額ハ別表ニ依ル

前項ノ加給手當ハ文部大臣ノ認許ヲ受ケ妻ヲ任地ニ在留セシムル者ニ限リ之ヲ支給ス

第三條　本令手當ノ給與ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年勅令第八十二號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ中央氣象臺技手ニシテ在支那帝國領事館附ヲ命セラレタル者ハ別ニ辭令書ヲ用キス氣象臺技手トシテ在支那帝國領事館附ヲ命セラレタルモノトス

（別表）

	在勤手當年額	加給手當年額
技師	二、五〇〇圓以內	六二五圓以內
書記 技手	一、八〇〇圓以內	四五〇圓以內
雇員	五〇〇圓以內	一二五圓以內

●緯度觀測所官制

（大正九年十月十三日勅令第四百八十二號）

（改正　大正一二年第二二三號）

朕緯度觀測所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

緯度觀測所官制

第一條　緯度觀測所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ緯度變化ノ觀測、計算及之カ研究ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　緯度觀測所ハ之ヲ岩手縣膽澤郡水澤町ニ置ク

第三條　緯度觀測所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任四人　奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
技手　專任七人　判任
書記　專任二人　判任

第四條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

所長ハ觀測ニ關シテハ測地學委員會委員長ノ指揮ヲ承ク

第五條　技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ觀測、計算及之カ研究ヲ掌ル

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ觀測及計算ニ從事ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時緯度觀測所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臨時緯度觀測所ノ技師、技手又ハ書記ノ官ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各緯度觀測所ノ技師、技手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●體育研究所官制

（大正十三年十月二十五日勅令第二百五十號）

（改正　大正一五年第一八五號）

朕體育研究所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

體育研究所官制

第一條　體育研究所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ體育ニ關スル調査研究及指導教授ヲ掌ル

第二條　體育研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任六人　奏任
書記　專任二人　判任
技手　專任六人　判任

前項定員ノ外九人以內ノ無給技手ヲ置クコトヲ得

第三條　所長ハ技師ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ命ヲ承ケ[illegible]務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝國圖書館官制

（明治三十年四月二十七日勅令第百十號）

（改正　明治三一年第二八〇號、三三年第三二五號、三四年第二六號、三九年第四三號、四〇年第一五二號、四三年第六五號、四四年第七四號　大正一〇年第三三五號、一三年第一四五號、一四年第二一二號）

朕帝國圖書館官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

帝國圖書館官制

第一條　帝國圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ內外古今ノ圖書記錄ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條　帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　一人　奏任
司書官　專任二人　奏任
司書　專任十三人　判任
書記　專任四人　判任

第三條　館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　司書官ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書記錄及閱覽ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　司書ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書記錄ノ整理保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條　圖書記錄ノ選定若ハ分類等ニ關シ必要アルトキハ館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ囑託員ヲ置クコトヲ得

第八條　文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ帝國圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附　則

第九條　明治二十四年勅令第百三十八號東京圖書館官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●東京博物館官制

（大正十年六月二十四日勅令第二百八十六號）

（改正　大正一二年第三〇二號、一三年第一四六號、第三六二號）

朕東京博物館官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

東京博物館官制

第一條　東京博物館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ自然科學及其ノ應用ニ關シ社會教育上必要ナル物品ヲ蒐集陳列シテ公衆ノ觀覽ニ供スル所トス

第二條　東京博物館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　奏任
學藝官　專任二人　奏任
學藝官補　專任三人　判任
書記　專任二人　判任

第三條　館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　學藝官ハ館長ノ命ヲ承ケ社會教育上必要ナル物品ノ蒐集、陳列及其ノ研究ヲ掌ル

第五條　學藝官補ハ學藝官ノ事務ヲ助ク

第六條　書記ハ館長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條　文部大臣ハ必要ニ依リ東京博物館ニ評議員ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●測地學委員會官制

（明治三十一年四月二十七日勅令第八十四號）

（改正　明治三三年第三八號　大正九年第一六六號、一二年第三一六號、一三年第三六〇號　昭和二年第一七三號）

朕測地學委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

測地學委員會官制

第一條　測地學委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ萬國測地學協會ニ關スル事務ヲ掌理シ及測地學ニ關スル事項ヲ攻究ス

第二條　測地學委員會ハ測地學ニ關シ主任各省大臣ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ開申スヘク又主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　測地學委員會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第四條　測地學委員會ハ委員長一人幹事一人委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　委員長及委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ幹事ハ委員中ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　臨時必要アルトキハ測地學委員會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　委員長ハ測地學委員會一切ノ事務ヲ總理シ萬國測地學協會ニ對シテ帝國委員ヲ代表ス

第八條　幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條　測地學委員會ニ書記ヲ置ク上司ノ指揮ヲ承ケ議事ヲ筆記シ及庶務ニ從事ス

書記ハ定員二人トシ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　經度觀測ヲ行フ爲測地學委員會ニ左ノ職員ヲ置ク

技師　專任一人　奏任
技手　專任四人　判任

技師ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ觀測ヲ掌ル

技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ觀測ニ從事ス

●理學文書目錄委員會官制

（明治三十三年十二月二十八日勅令第四百十三號）

朕理學文書目錄委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

理學文書目錄委員會官制

第一條　理學文書目錄委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ萬國理學文書目錄委員會ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　理學文書目錄委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一會長　一人
一幹事　一人
一委員

第三條　會長幹事及委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　臨時必要アルトキハ理學文書目錄委員會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ萬國理學文書目錄委員會ニ對シ本會ヲ代表ス

第六條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第七條　委員及臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ理學文書目錄ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　會長幹事及委員ニハ一箇年二百圓以內臨時委員ニハ事ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　理學文書目錄委員會ニ書記二人ヲ置キ文部省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ニハ一箇年五十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●航空評議會官制

（大正十年七月十一日勅令第三百十一號）

（改正　大正一二年第四四〇號）

朕航空評議會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

航空評議會官制

第一條　航空評議會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シ航空機ノ基礎的學理ノ研究ニ關スル重要ノ事項ヲ審議ス

航空評議會ハ航空機ノ基礎的學理ノ研究ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　航空評議會ハ會長一人及評議員二十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ必要アルトキハ臨時評議員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ文部大臣ヲ以テ之ニ充ツ

評議員ハ陸軍次官、海軍次官、文部次官及遞信次官ヲ以テ之ニ充ツルノ外文部大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時評議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル評議員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　航空評議會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　航空評議會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災豫防評議會官制

（大正十四年十一月十四日勅令第三百十二號）

朕震災豫防評議會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

震災豫防評議會官制

第一條　震災豫防評議會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ震災豫防ニ關スル重要ナル事項ヲ審議ス

第二條　震災豫防評議會ハ震災豫防ニ關スル重要ナル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　震災豫防評議會ハ會長一人及評議員三十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　會長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充ツ評議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル評議員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　震災豫防評議會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ評議員又ハ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　震災豫防評議會ニ書記ヲ置ク文部部內判任官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

震災豫防調査會官制ハ之ヲ廢止ス

●學術研究會議官制

（大正九年八月二十六日勅令第二百九十七號）

（改正　大正一二年第二二四號、一三年第三五八號　昭和二年第一七二號）

朕學術研究會議官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

學術研究會議官制

第一條　學術研究會議ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ科學及其ノ應用ニ關シ內外ニ於ケル研究ノ聯絡及統一ヲ圖リ其ノ研究ヲ促進獎勵スルヲ以テ目的トス

第二條　學術研究會議會員ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ學術研究會議ノ推選ニ基キ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條　學術研究會議會員ノ定員ハ百人以內トス

第四條　學術研究會議ニ總務部及數箇ノ學術部ヲ置ク

學術部ノ種類ハ學術研究會議之ヲ定ム

第五條　總務部ハ各學術部ノ部長及副部長並會員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

學術部ハ專攻ノ學科ニ依リ各會員ヲ以テ之ヲ組織ス

前二項ニ規定スル會員ノ部屬ハ會長之ヲ定ム

第六條　學術研究會議ニ會長及副會長各一人、部ニ部長及副部長各一人ヲ置ク

會長及副會長ハ總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選ス

總務部ノ部長ハ會長、副部長ハ副會長ヲ以テ之ニ充ツ

學術部ノ部長及副部長ハ其ノ部ニ屬スル會員中ヨリ之ヲ互選ス

第七條　會長ハ會務ヲ總理シ總會ノ議長ト爲リ學術研究會議ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

部長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部會ノ議長ト爲ル

副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ